

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第290集

上滝榎町北遺跡

— 第1分冊 平安時代～近世・近代編 —

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第9集

2002

日 本 道 路 公 団
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第290集

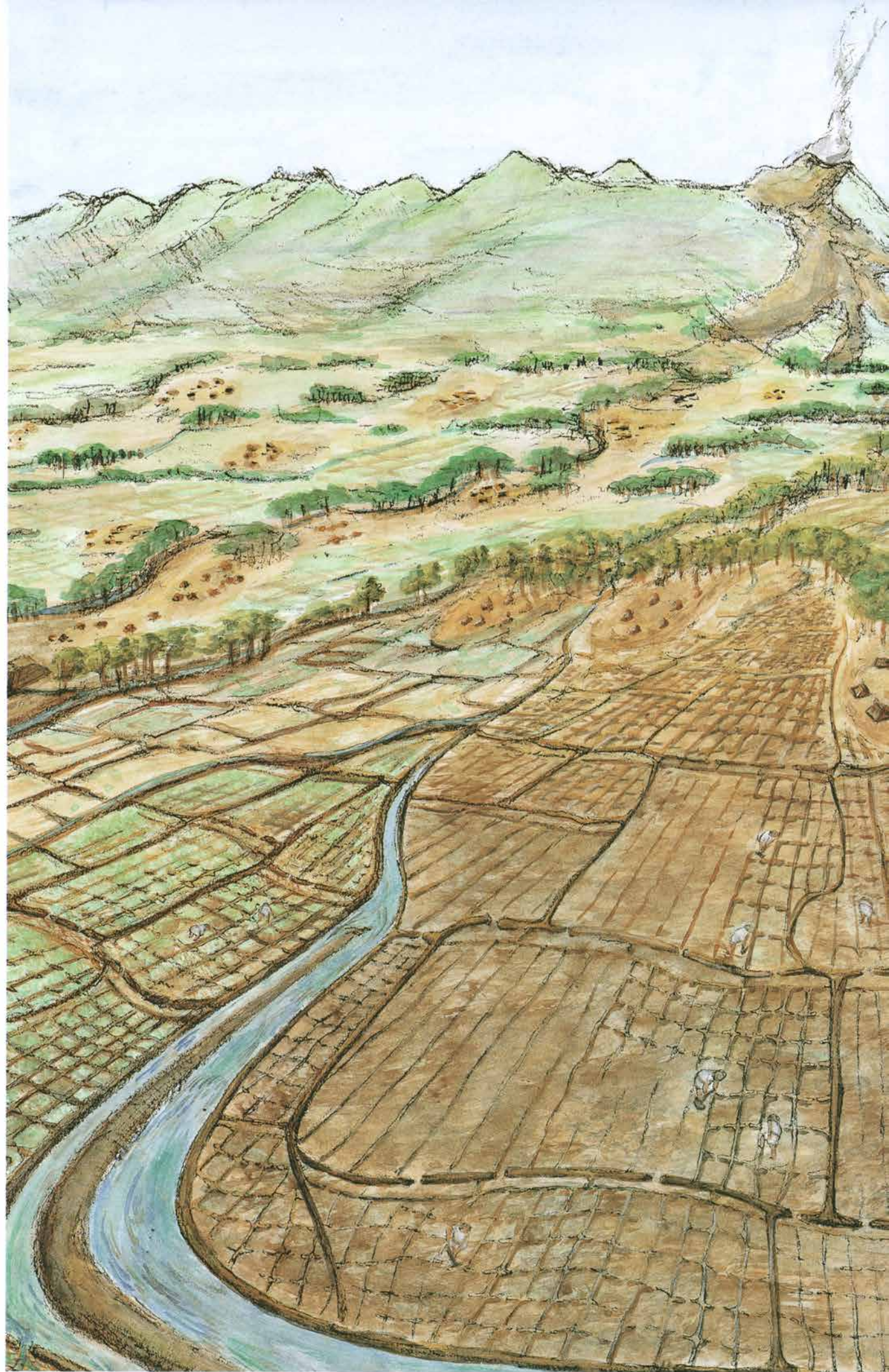
上滝榎町北遺跡

— 第1分冊 平安時代～近世・近代編 —

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第9集

2002

日 本 道 路 公 団
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



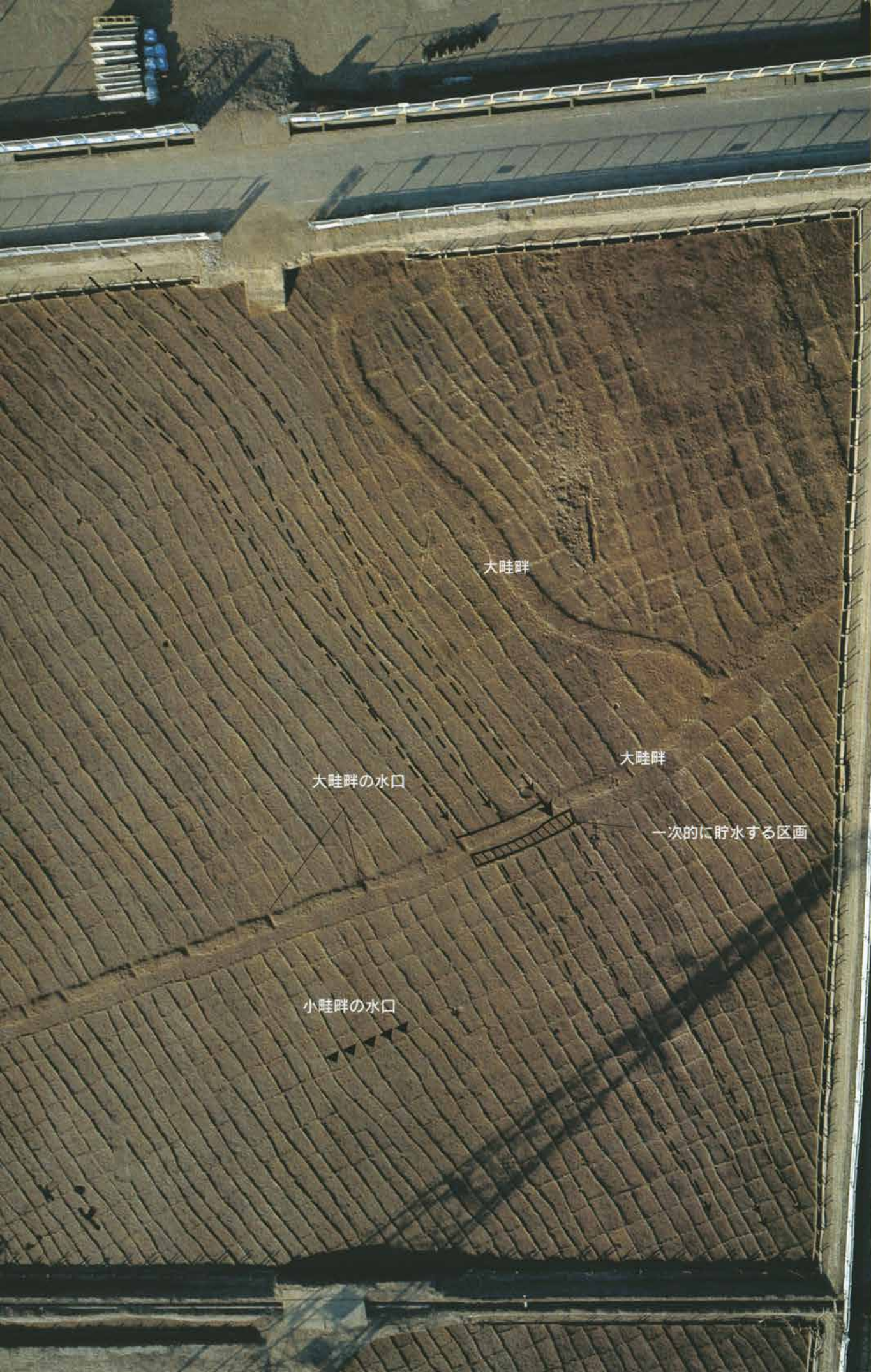
6世紀初頭の榛名山二ツ岳と極小区画水田（制作：青木さおり）



6世紀初頭の極小区画水田と現代の大区画水田（写真奥から手前に流下する 東南から）



6世紀初頭の極小区画水田の列状構造（手前から奥へ流下する。北西から）



6世紀初頭の極小区画水田の灌漑システム（上が北）

序

北関東自動車道は、本県高崎市の関越自動車道から分岐し、茨城県那珂湊にいたる延長約150kmの高速自動車国道であります。その間、群馬・栃木・茨城各県の主要都市及び東北自動車道・常磐自動車道を結び、地域社会の発展に大きな役割を果たすものと期待されております。

この北関東自動車道の高崎～伊勢崎間の約15kmの建設に先立って、平成7年6月から36の遺跡で発掘調査が行われましたが、当事業団ではその内31の遺跡の発掘調査を担当いたしました。また、それらの遺跡の整理作業は平成10年度から実施しており、本書『上滝榎町北遺跡』は、その発掘調査報告書第9集として刊行するものです。

本遺跡は、高崎市上滝町内に所在し、発掘調査は平成7年度から平成9年度まで、整理は平成10年度から実施しました。その結果、古墳時代・平安時代・江戸時代の火山灰に覆われた各時代の水田跡や、古墳時代から平安時代までの住居跡、そしてそれらに伴う数多くの遺物が発見されました。特に水田跡は、中国大陸から我国に伝来した水田稲作の歴史を考える上において、また往時の農業経営・農耕技術の発展過程や土地利用の変遷を考える上においても、極めて貴重な遺跡と考えられます。

本報告書は、北関東自動車道の建設に先立ち発掘調査された他の遺跡とともに、高崎市上滝町周辺地域の歴史のみならず、稲作の歴史を明らかにしていくための貴重な資料になるものと確信しております。

最後になりましたが、日本道路公団東京建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、高崎市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査に携わった担当者、作業員の方々の労をねぎらい序といたします。

平成14年6月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本書は、北関東自動車道建設工事に伴い事前調査された上滝榎町北遺跡(遺跡略号 KT-010)の発掘調査報告書である。本書における報告は、上滝榎町北遺跡から検出された遺構・遺物を対象とする。
2. 上滝榎町北遺跡は、群馬県高崎市上滝町字榎町502-1・2、503、515、516-1・2・3、517-1、530、531、532-1・2、533-2、555-1・2、556-1・2・3、565-1・2・3・4、566、567-1・2・3、568-1・2、569-1・2、638、639、640、641-1・2・3・4・5、642-3・4、643-1、646-1、647-1、648-1、688-1、691-1、952-1、953-2、954-1、978-1番地に所在する。
3. 上滝榎町北遺跡の遺跡名は、大字名—上滝・小字名—榎町北から取った。また、当遺跡に隣接して調査された、主要地方道前橋長瀨線地方特定道路整備事業に伴う遺跡も、名称は『上滝榎町北遺跡・上滝II遺跡』(群埋文2002)である。
4. 事業主体 (財) 日本道路公団(高崎工事事務所)
5. 調査主体 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
6. 調査期間 平成7年6月1日～平成9年7月31日
7. 調査組織 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
事務担当 中村英一・菅野 清・原田恒弘・赤山容造・蜂巢 実・渡辺 健・神保侑史・小淵 淳・中東耕志・笠原秀樹・国定 均・須田朋子・吉田有光・柳岡良宏・岡島伸昌・井上 剛・高橋定義・宮崎忠司・大澤友治
調査担当 飯塚卓二・相京建史・関 晴彦・間庭 稔・小林利夫・友廣哲也・新倉明彦・田村公夫・杉山秀宏・池田政志・小野田孝美・諏訪 晶・橋本 淳・諸田康成・内田敬久・玉橋優子・安藤剛志・飯塚邦守・齋藤英敏
8. 整理主体 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
9. 整理期間 平成10年4月1日～平成14年6月30日
10. 整理組織 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
事務担当 菅野 清・小野字三郎・吉田 豊・赤山容造・渡辺 健・住谷 進・神保侑史・萩原利通・植原恒夫・水田 稔・能登 健・巾 隆之・坂本敏夫・大島信夫・西田健彦・小山建夫・高橋房雄・笠原秀樹・国定 均・井上 剛・須田朋子・吉田有光・柳岡良宏・岡島伸昌・宮崎忠司・片岡徳雄・森下弘美・田中賢一・並木綾子・今井とも子・内山佳子・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・若田 誠・松下次男・吉田 茂・蘇原正義
整理担当Staff
相京建史・齋藤英敏・篠原富子・岸トキ子・下境マサ江・五十嵐由美子・松岡陽子・田中佐恵子・萩原由香・萩原光枝・萩原由美子・立川千栄子
校正担当 飯塚卓二・鹿沼敏子・篠原富子・萩原由美子・大嶋 緑・伊東悦子・根井美智子
11. 写真撮影は、調査時の遺構写真は調査担当者が行い、整理時の遺物写真は佐藤元彦(技師)による。
12. 本書作成の担当は、以下の通りである。
編 集 相京建史・齋藤英敏
本文執筆 中東耕志 (第1章—1) ——第1分冊

檜崎修一郎（第3章-2）——第2分冊

春山秀幸（第4章 I-2）——〃

齋藤英敏（本文その他）

金属器・木器保存処理 関 邦一・土橋まり子・小材浩一・高橋初美・高橋真樹子・高橋節子・田中
のぶ子・田中富子・狩野なつ子

自然科学分析 (株)古環境研究所・(株)パリノ・サーヴェイ

13. 発掘調査・整理作業に当たり、下記の方々にお世話になった。記して感謝の意を表す。

高崎市教育委員会、玉村町教育委員会、飯島静男、宮崎重雄、地元関係者各位

14. 本遺跡の出土遺物及び図面・写真等の資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

1. 挿図に使用したグリッドポイントは、国家座標の南北・東西軸を表す。呼称は東西を前に、南北を後にした。また、方位記号は国家座標上の北を、基準としている。また、通常5桁の座標値を、報告書内では5桁中の下3桁で表示した。座標系は、2002年4月改正以前の日本測地系（国家座標第IX系）である。
2. 遺構断面実測図・等高線に記した数値は標高を表し、単位は「m」を用いた。
3. 遺構名称は各調査面で遺構の種類毎に通し番号をつけ、調査面・番号・種類で呼称した。また、本文中では、調査面毎に報告している。
4. 遺構・遺物実測図の縮尺率は、原則として以下の通りとし、各図にスケールを付した。また遺物実測図では、中軸線の一点破線は回転実測、実線は直接実測を表す。

また、各遺構の主軸方位は、下記の基準で計測した。住居の主軸方位は竈の付設された辺に直交する辺の角度を計測した。竈の検出されなかった住居は、基本的に残存状況の良好な辺を主軸方位とした。竈の主軸方位は、竈の中心軸を計測した。角度は、真北を基準に、東西両方位鋭角側を採用した。

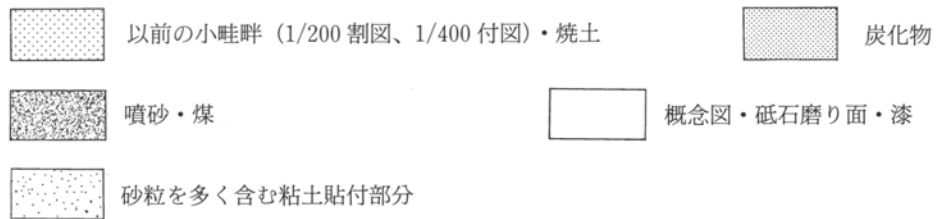
- 遺構 1/20……………火葬墓
 1/40……………井戸・土坑・ピット
 1/60……………住居・掘立柱建物・杭列・落ち込み・耕作痕
 1/80……………灰掻き穴・風倒木痕
 1/150 ………溝（溝の断面図は1/40）
 1/200 ………調査区の割図（水田跡を含む全遺構）
 1/400 ………付図（各調査面の全体図）
- 遺物 1/3……………遺物全般（大きなものは、1/4・1/6あり）
 1/2……………鉄器
 1/1……………古銭・小型石製品
 4/5……………石鏃

5. 各遺構の位置は、5mピッチのグリッドを用いて表した。グリッド名は、南東隅の座標ポイントで表した。但し、小規模でグリッドポイントから外れる遺構は、図面上で位置が明確に捉えられるよう1m単位の国家座標で表すことにした。

6. 本文中でテフラについて略称を用いたが内容は以下の通りである。

略 称	名 称	降 下 年 代
As-A	浅間Aテフラ	1783（天明3）年
As-B	浅間Bテフラ	1108（天仁元）年
Hr-FP	榛名二ツ岳伊香保テフラ	6世紀中葉
Hr-FA	榛名二ツ岳渋川テフラ	6世紀初頭（5世紀後半説あり）
Hr-FA泥流	榛名二ツ岳渋川テフラに伴う泥流	〃
As-C	浅間C軽石	4世紀初頭 or AD300年前後（3世紀後半説あり）

7. 本書の図版に使用したスクリーントーンは、次のことを示す。下記以外は図版ごとに凡例を示す。



8. 土層・土器類の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人 日本色彩研究所 色票監修「新版 標準土色帳」(昭和45年)を使用した。

9. 水田面積の計測は、畦畔の下端で求め、プランリメーターで3回計測し、その平均値を採用した。

10. 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

- 国土地理院 地形図 1:25,000「高崎」「前橋」
- 国土地理院 地形図 1:50,000「高崎」「前橋」
- 国土地理院 地勢図 1:200,000「長野」「宇都宮」
- 高崎市都市計画図 1:2,500「No.33」「No.40」

第1分冊 目次 (平安時代～近世・近代)

口絵

序

例言

凡例

目次

挿図目次

第1章 調査の経過と遺跡の立地

- 1. 発掘調査に至る経緯 …… 3
- 2. 発掘調査の方法 …… 5
- 3. 発掘調査の経過 …… 5
- 4. 遺跡の立地 ……10
- 5. 周辺の遺跡 ……12
- 6. 基本土層 ……17

第2章 遺構と遺物

1. As-A 下面 (近世～近代)

- ……………41
- 概念図・割図 ……43
- (1) 水田跡 ……102
- (2) 溝 ……107
- (3) 耕作痕 ……159
- (4) 灰掻き穴 ……163
- (5) 土坑 ……164
- (6) 井戸 ……168
- (7) 杭列 ……173
- (8) ピット ……176

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

- ……………179
- 概念図・割図 ……181
- (1) 溝 ……244
- (2) 耕作痕 ……339
- (3) 土坑 ……342
- (4) 井戸 ……384
- (5) 中・近世屋敷跡 ……394
- (6) 掘立柱建物 ……398
- (7) 杭列 ……408
- (8) ピット ……410
- (9) 火葬墓 ……442

3. As-B 下面 (平安時代)

- ……………443
- 概念図・割図 ……445
- (1) 水田跡 ……501
- (2) 溝 ……506
- (3) 土坑 ……520
- (4) 耕作痕 ……520
- (5) 足跡列 ……523

挿 図 目 次

第 1 図	北関東自動車道(高崎～伊勢崎)関連遺跡位置図	
第 2 図	上滝榎町北遺跡の位置図	4
第 3 図	上滝榎町北遺跡の調査区	7
第 4 図	グリッド設定図	8
第 5 図	周辺地形分類図	11
第 6 図	周辺遺跡図	13
第 7 図	基本土層	17
第 8 図	各調査区土層柱状図	18
第 9 図	各調査区土層位置図	19
第 10 図	A-1 区土層図(1)	20
第 11 図	A-1 区土層図(2)	21
第 12 図	A-1 区土層図(3)	22
第 13 図	A-2 区土層図(1)	23
第 14 図	A-2 区土層図(2)・A-3 区土層図(1)	24
第 15 図	A-3 区土層図(2)	25
第 16 図	A-3 区土層図(3)	26
第 17 図	A-3 区土層図(4)	27
第 18 図	A-3 区土層図(5)	28
第 19 図	A-3 区土層図(6)	29
第 20 図	A ランプ土層図(1)	30
第 21 図	A ランプ土層図(2)・B 区土層図(1)	31
第 22 図	B 区土層図(2)	32
第 23 図	B 区土層図(3)	33
第 24 図	B 区土層図(4)	34
第 25 図	B 区土層図(5)	35
第 26 図	B 区土層図(6)・C 区土層図(1)	36
第 27 図	D 区土層図・E 区土層図(1)	37
第 28 図	E 区土層図(2)	38
第 29 図	E 区土層図(3)・F 区土層図(1)	39
第 30 図	F 区土層図(2)	40
第 31 図	As-A 下面全体図	43
第 32 図	As-A 下面割図	45
第 33 図	As-A 下面 A-1 区全体図・割図	46
第 34 図	A-1 区 図割-1	47
第 35 図	A-1 区 図割-2	48
第 36 図	A-1 区 図割-3	49
第 37 図	A-1 区 図割-4	50
第 38 図	A-1 区 図割-5	51
第 39 図	A-1 区 図割-6	52
第 40 図	As-A 下面 A-2 区全体図・割図	53
第 41 図	A-2 区 図割-1	54
第 42 図	A-2 区 図割-2	55
第 43 図	A-2 区 図割-3	56
第 44 図	A-2 区 図割-4	57
第 45 図	A-2 区 図割-5	58
第 46 図	A-2 区 図割-6	59
第 47 図	As-A 下面 A-3 区全体図・割図	60
第 48 図	A-3 区 図割-1	61
第 49 図	A-3 区 図割-2	62
第 50 図	A-3 区 図割-3	63
第 51 図	A-3 区 図割-4	64
第 52 図	A-3 区 図割-5	65
第 53 図	A-3 区 図割-6	66
第 54 図	A-3 区 図割-7	67
第 55 図	A-3 区 図割-8	68
第 56 図	A-3 区 図割-9	69
第 57 図	A-3 区 図割-10	70
第 58 図	A-3 区 図割-11	71
第 59 図	A-3 区 図割-12	72
第 60 図	A-3 区 図割-13	73
第 61 図	As-A 下面 A ランプ全体図・割図	74
第 62 図	A ランプ 図割-1	75
第 63 図	A ランプ 図割-2	76
第 64 図	A ランプ 図割-3	77
第 65 図	A ランプ 図割-4	78
第 66 図	A ランプ 図割-5	79
第 67 図	A ランプ 図割-6	80
第 68 図	As-A 下面 B 区全体図・割図	81
第 69 図	B 区 図割-1	82
第 70 図	B 区 図割-2	83
第 71 図	B 区 図割-3	84
第 72 図	B 区 図割-4	85
第 73 図	B 区 図割-5	86
第 74 図	B 区 図割-6	87
第 75 図	As-A 下面 C 区全体図・割図	88
第 76 図	C 区 図割-4	89
第 77 図	C 区 図割-5	90
第 78 図	C 区 図割-6	91
第 79 図	As-A 下面 D 区全体図・割図	92
第 80 図	D 区 図割-1	93
第 81 図	D 区 図割-2	94
第 82 図	D 区 図割-3	95
第 83 図	D 区 図割-5	96
第 84 図	D 区 図割-6	97
第 85 図	As-A 下面 D・E 区中間部～E 区全体図・割図	98
第 86 図	D・E 区中間部～E 区 図割-1	99
第 87 図	D・E 区中間部～E 区 図割-2	100
第 88 図	D・E 区中間部～E 区 図割-3	101
第 89 図	As-A 下面 エレベーション図	105
第 90 図	147号溝出土遺物(1)	109
第 91 図	147号溝出土遺物(2)	110
第 92 図	147号溝出土遺物(3)	111
第 93 図	149号溝出土遺物(1)	111
第 94 図	149号溝出土遺物(2)	112
第 95 図	150号溝出土遺物	112
第 96 図	153号溝出土遺物	113
第 97 図	158号溝出土遺物	114
第 98 図	160号溝出土遺物	114
第 99 図	147・149・150・152・153号溝実測図(1)	115
第100 図	147・149・150・153号溝実測図(2)	117
第101 図	151・154・160・476号溝実測図(1)	118
第102 図	151・154・160・476号溝実測図(2)	119
第103 図	156・157・158・159号溝実測図(1)	119
第104 図	158・159号溝実測図(2)	120
第105 図	146号溝出土遺物	121
第106 図	146・147・477号溝実測図(1)	122
第107 図	146・147・477号溝実測図(2)	123
第108 図	69号溝出土遺物(1)	127
第109 図	69号溝出土遺物(2)	128
第110 図	69号溝出土遺物(3)	129
第111 図	69号溝出土遺物(4)	130
第112 図	69号溝出土遺物(5)	131
第113 図	69号溝出土遺物(6)	132
第114 図	69号溝実測図(1)	133
第115 図	69号溝実測図(2)	135
第116 図	69号溝実測図(3)	136
第117 図	238号溝出土遺物	137
第118 図	236～240・472号溝実測図	138

第119図	241号溝実測図	139
第120図	321号溝実測図	139
第121図	324号溝出土遺物	139
第122図	324・325・473～475号溝実測図	140
第123図	347・348号溝実測図(Aランプ上面)	142
第124図	349・350・354号溝実測図(Aランプ上面)	143
第125図	351号溝実測図(Aランプ上面)	143
第126図	352・353号溝実測図(Aランプ上面)	143
第127図	355号溝出土遺物(Aランプ下面)	144
第128図	356号溝出土遺物(Aランプ下面)	144
第129図	355・356・360号溝実測図(Aランプ下面)	145
第130図	361号溝実測図(Aランプ下面)	145
第131図	365号溝出土遺物(Aランプ下面)	146
第132図	365号溝実測図(Aランプ下面)	146
第133図	68号溝実測図	147
第134図	70号溝出土遺物	147
第135図	70号溝実測図	147
第136図	405号溝実測図	148
第137図	21・22号溝出土遺物	148
第138図	21～23号溝実測図	149
第139図	24・501号溝実測図	151
第140図	26・507・524号溝実測図	153
第141図	34・468・478号溝実測図	155
第142図	23号溝出土遺物	157
第143図	26号溝出土遺物	157
第144図	10号耕作痕実測図	160
第145図	11号耕作痕実測図	161
第146図	12号耕作痕実測図	162
第147図	灰掻き穴実測図	163
第148図	土坑出土遺物	165
第149図	323・363号土坑実測図	165
第150図	364～369号土坑実測図	166
第151図	393～395・397・398号土坑実測図	167
第152図	8号井戸実測図	168
第153図	8号井戸出土遺物(1)	169
第154図	8号井戸出土遺物(2)	170
第155図	9号井戸実測図	170
第156図	9号井戸出土遺物(1)	171
第157図	9号井戸出土遺物(2)	172
第158図	9号井戸出土遺物(3)	173
第159図	8号杭列実測図	174
第160図	9号杭列実測図・出土遺物	174
第161図	10号杭列実測図	175
第162図	11号杭列実測図	175
第163図	12号杭列実測図	175
第164図	13～15号杭列実測図	176
第165図	ピット実測図(1)	177
第166図	ピット実測図(2)	178
第167図	中・近世面全体図	181
第168図	中・近世面割図	183
第169図	中・近世面 A-1区全体図・割図	184
第170図	A-1区 図割-1	185
第171図	A-1区 図割-2	186
第172図	A-1区 図割-3	187
第173図	A-1区 図割-6	188
第174図	中・近世面 A-2区全体図・割図	189
第175図	A-2区 図割-1	175
第176図	A-2区 図割-2	191
第177図	A-2区 図割-3	192
第178図	A-2区 図割-4	193
第179図	A-2区 図割-5	194
第180図	A-2区 図割-6	195
第181図	中・近世面 A-3区全体図・割図	196
第182図	A-3区 図割-1	197

第183図	A-3区 図割-2	198
第184図	A-3区 図割-4	199
第185図	A-3区 図割-5	200
第186図	A-3区 図割-6	201
第187図	A-3区 図割-7	202
第188図	A-3区 図割-8	203
第189図	A-3区 図割-9	204
第190図	A-3区 図割-10	205
第191図	A-3区 図割-10拡大図	206
第192図	A-3区 図割-11	207
第193図	A-3区 図割-12	208
第194図	A-3区 図割-13	209
第195図	中・近世面 Aランプ全体図・割図	210
第196図	Aランプ 図割-1・2	211
第197図	Aランプ 図割-3・4	212
第198図	Aランプ 図割-5・6	213
第199図	中・近世面 B区全体図・割図	214
第200図	B区 図割-1	215
第201図	B区 図割-2	216
第202図	B区 図割-3	217
第203図	B区 図割-4	218
第204図	B区 図割4-拡大図①・②	219
第205図	B区 図割-5	220
第206図	B区 図割5-拡大図①・②・③	221
第207図	B区 図割-6	222
第208図	中・近世面 C区全体図・割図	223
第209図	C区 図割-1	224
第210図	C区 図割-2	225
第211図	C区 図割-3	226
第212図	C区 図割-4	227
第213図	C区 図割-5	228
第214図	C区 図割-6	229
第215図	中・近世面 D区全体図・割図	230
第216図	D区 図割-1	231
第217図	D区 図割-2	232
第218図	D区 図割-4	233
第219図	中・近世面 E区全体図・割図	234
第220図	E区 図割-2	235
第221図	E区 図割-3	236
第222図	E区 図割-4	237
第223図	E区 図割-5	238
第224図	中・近世面 F区全体図・割図	239
第225図	F区 図割-1	240
第226図	F区 図割-2	241
第227図	F区 図割-3	242
第228図	F区 図割-4	243
第229図	209号溝出土遺物	245
第230図	185～189・208・226号溝実測図	247
第231図	204・205・207号溝実測図	249
第232図	206・209・210・225・505号溝実測図(1)	250
第233図	206・209・210・225・505号溝実測図(2)	251
第234図	211・212・214～216号溝実測図(1)	252
第235図	211・212・215号溝実測図(2)	253
第236図	219・220号溝実測図	253
第237図	109号溝出土遺物	254
第238図	105～107・109～112・114～119・198～201・506号溝 実測図	255
第239図	167・168・181～183・197号溝実測図	257
第240図	190～194・202号溝実測図	260
第241図	247・251・256・257・277号溝実測図(1)	264
第242図	247・251・256・257・277号溝実測図(2)	265
第243図	248～250号溝実測図	267
第244図	258・271・272・285・286号溝実測図	269
第245図	264号溝出土遺物	271

第246图	265号溝出土遺物	272	第300图	3~7·12·13·20·143·144号溝実測図	327
第247图	261~270·273·275·287~290·326·338·339·340~343· 494~496号溝実測図(1)	273	第301图	14号溝実測図	329
第248图	261~270·273·275·287~290·326·338·339·340~ 343·494~496号溝実測図(2)	275	第302图	15~17号溝実測図(1)	330
第249图	261~270·273·275·287~290·326·338·339·340~ 343·494~496号溝実測図(3)	276	第303图	15~17号溝実測図(2)	331
第250图	261~270·273·275·287~290·326·338·339·340~ 343·494~496号溝実測図(4)	277	第304图	500·502~504·522号溝実測図	333
第251图	271号溝出土遺物	277	第305图	30号溝出土遺物	335
第252图	264·327·346号溝実測図	278	第306图	521号溝実測図	335
第253图	272·271/272号溝出土遺物(1)	278	第307图	30·31号溝実測図	336
第254图	272·271/272号溝出土遺物(2)	279	第308图	537·538号溝実測図	337
第255图	275号溝出土遺物	279	第309图	13号耕作痕実測図	340
第256图	283号溝出土遺物	280	第310图	17·18号耕作痕実測図	341
第257图	278~283号溝実測図(1)	281	第311图	土坑出土遺物(1)	342
第258图	278~283号溝実測図(2)	282	第312图	土坑出土遺物(2)	343
第259图	289号溝出土遺物	283	第313图	土坑実測図(1)	348
第260图	326号溝出土遺物	284	第314图	土坑実測図(2)	349
第261图	327号溝出土遺物	284	第315图	土坑実測図(3)	350
第262图	329号溝出土遺物	285	第316图	土坑実測図(4)	351
第263图	334号溝出土遺物	286	第317图	土坑実測図(5)	352
第264图	339号溝出土遺物	286	第318图	土坑実測図(6)	353
第265图	329·331·332号溝実測図	287	第319图	土坑実測図(7)	354
第266图	333~337·345·533号溝実測図(1)	288	第320图	土坑実測図(8)	320
第267图	333~337·345·533号溝実測図(2)	289	第321图	土坑実測図(9)	356
第268图	346号溝出土遺物	290	第322图	土坑実測図(10)	357
第269图	413号溝出土遺物	291	第323图	土坑実測図(11)	358
第270图	380~385号溝実測図(1)	292	第324图	土坑実測図(12)	359
第271图	380~385号溝実測図(2)	293	第325图	土坑実測図(13)	360
第272图	380~385号溝実測図(3)	294	第326图	土坑実測図(14)	361
第273图	412·413·415号溝実測図(1)	294	第327图	土坑実測図(15)	362
第274图	413号溝実測図(2)	295	第328图	土坑実測図(16)	363
第275图	362号溝実測図	295	第329图	土坑実測図(17)	364
第276图	366~368号溝実測図	296	第330图	土坑実測図(18)	365
第277图	534·535号溝実測図	297	第331图	土坑実測図(19)	366
第278图	74号溝出土遺物	298	第332图	土坑実測図(20)	367
第279图	71~85·89~96·98~100·134~138·143~145·497· 498·527·528号溝実測図(1)	299	第333图	土坑実測図(21)	368
第280图	71~85·89~96·98~100·134~138·143~145·497· 498·527·528号溝実測図(2)	301	第334图	土坑実測図(22)	369
第281图	71~85·89~96·98~100·134~138·143~145·497· 498·527·528号溝実測図(3)	302	第335图	土坑実測図(23)	370
第282图	71~85·89~96·98~100·134~138·143~145·497· 498·527·528号溝実測図(4)	303	第336图	土坑実測図(24)	371
第283图	84号溝出土遺物	304	第337图	土坑実測図(25)	372
第284图	87号溝出土遺物	305	第338图	土坑実測図(26)	373
第285图	88号溝出土遺物	306	第339图	土坑実測図(27)	374
第286图	91号溝出土遺物	307	第340图	土坑実測図(28)	375
第287图	94号溝出土遺物	307	第341图	土坑実測図(29)	376
第288图	95号溝出土遺物	307	第342图	土坑実測図(30)	377
第289图	96号溝出土遺物	308	第343图	土坑実測図(31)	378
第290图	86~88·101~104·126~133号溝実測図(1)	309	第344图	土坑実測図(32)	379
第291图	86~88·101~104·126~133号溝実測図(2)	311	第345图	土坑実測図(33)	380
第292图	86~88·101~104·126~133号溝実測図(3)	312	第346图	土坑実測図(34)	381
第293图	113号溝出土遺物	313	第347图	土坑実測図(35)	382
第294图	113·120~125·141·142号溝実測図	315	第348图	土坑実測図(36)	383
第295图	5号溝出土遺物	321	第349图	土坑実測図(37)	384
第296图	9号溝出土遺物	322	第350图	7·21号井戸実測図	385
第297图	1·2·8~11·408·409·411·515号溝実測図(1)	323	第351图	4号井戸実測図·出土遺物	385
第298图	1·2·8~11·408·409·411·515号溝実測図(2)	325	第352图	5号井戸出土遺物	386
第299图	13号溝出土遺物	326	第353图	5·6号井戸実測図	387
			第354图	10号井戸出土遺物	388
			第355图	10号井戸実測図·出土遺物	389
			第356图	11·16号井戸実測図	390
			第357图	16号井戸出土遺物	391
			第358图	13号井戸実測図	392
			第359图	1·2号井戸実測図	393
			第360图	17号井戸実測図	393
			第361图	18·19号井戸実測図	394
			第362图	中·近世屋敷跡実測図(1)	395
			第363图	中·近世屋敷跡実測図(2)	397

第364図	8・9号掘立柱建物実測図	399
第365図	10号掘立柱建物実測図	400
第366図	11号掘立柱建物出土遺物	400
第367図	11号掘立柱建物実測図	401
第368図	12号掘立柱建物実測図・出土遺物	401
第369図	13号掘立柱建物実測図	402
第370図	16号掘立柱建物実測図	403
第371図	1号掘立柱建物実測図	404
第372図	2・3号掘立柱建物実測図	405
第373図	4号掘立柱建物実測図	406
第374図	17号掘立柱建物実測図	407
第375図	18号掘立柱建物実測図	407
第376図	19号杭列実測図	408
第377図	20号杭列実測図	408
第378図	21号杭列実測図	409
第379図	22号杭列実測図	409
第380図	23号杭列実測図	409
第381図	26号杭列実測図	410
第382図	27号杭列実測図	410
第383図	ピット出土遺物	411
第384図	ピット実測図(1)	418
第385図	ピット実測図(2)	419
第386図	ピット実測図(3)	420
第387図	ピット実測図(4)	421
第388図	ピット実測図(5)	422
第389図	ピット実測図(6)	423
第390図	ピット実測図(7)	424
第391図	ピット実測図(8)	425
第392図	ピット実測図(9)	426
第393図	ピット実測図(10)	427
第394図	ピット実測図(11)	428
第395図	ピット実測図(12)	429
第396図	ピット実測図(13)	430
第397図	ピット実測図(14)	431
第398図	ピット実測図(15)	432
第399図	ピット実測図(16)	433
第400図	ピット実測図(17)	434
第401図	ピット実測図(18)	435
第402図	ピット実測図(19)	436
第403図	ピット実測図(20)	437
第404図	ピット実測図(21)	438
第405図	ピット実測図(22)	439
第406図	ピット実測図(23)	440
第407図	ピット実測図(24)	441
第408図	1号火葬墓実測図・出土遺物	442
第409図	As-B下面全体図	445
第410図	As-B下面割図	447
第411図	As-B下面 A-1区全体図・割図	448
第412図	A-1区 図割-1	449
第413図	A-1区 図割-2	450
第414図	A-1区 図割-3	451
第415図	A-1区 図割-4	452
第416図	A-1区 図割-5	453
第417図	A-1区 図割-6	454
第418図	As-B下面 A-2区全体図・割図	455
第419図	A-2区 図割-1	456
第420図	A-2区 図割-2	457
第421図	A-2区 図割-3	458
第422図	A-2区 図割-4	459
第423図	A-2区 図割-5	460
第424図	A-2区 図割-6	461
第425図	As-B下面 A-3区全体図・割図	462
第426図	A-3区 図割-1	463
第427図	A-3区 図割-2	464

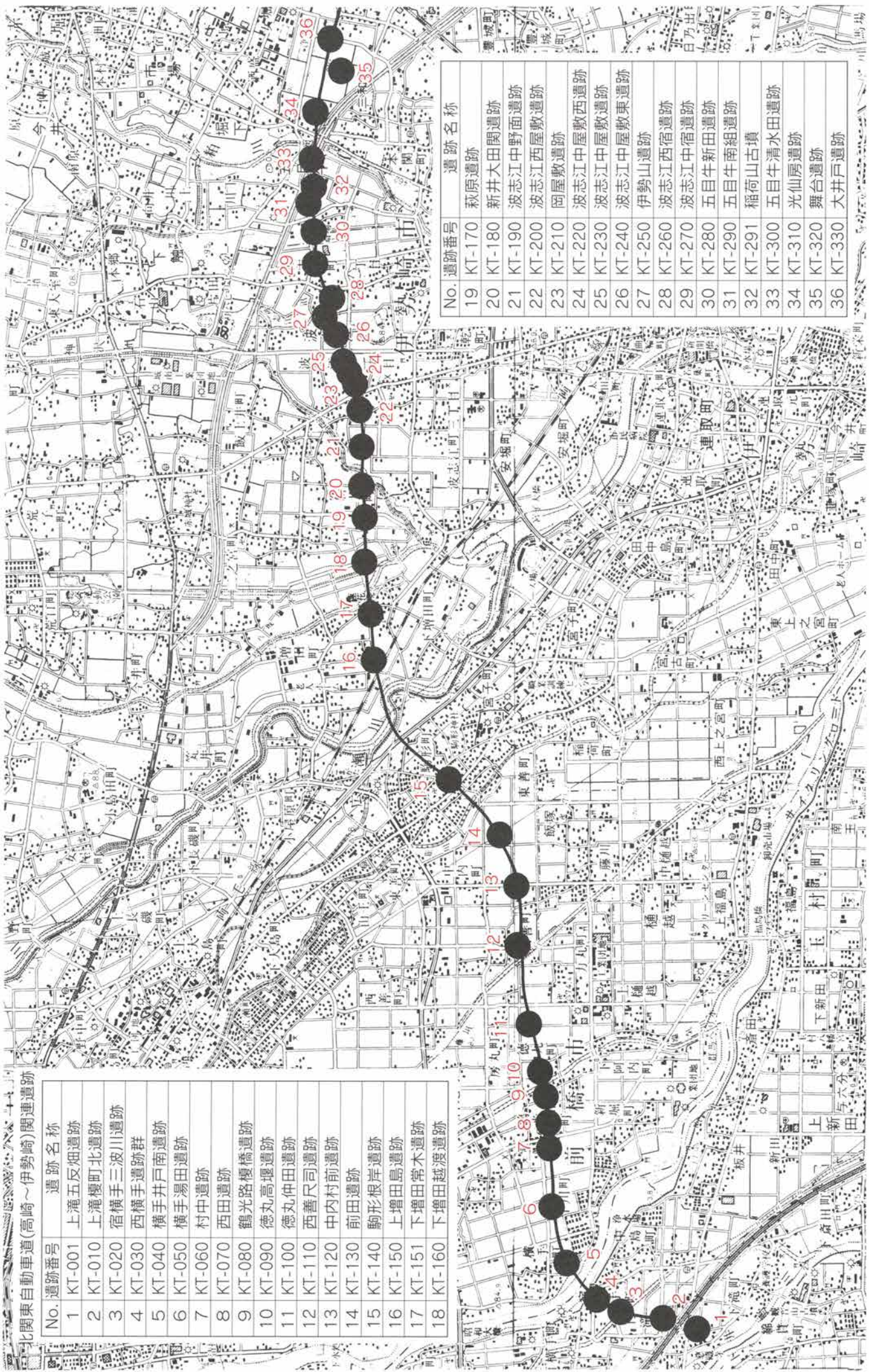
第428図	A-3区 図割-3	465
第429図	A-3区 図割-4	466
第430図	A-3区 図割-5	467
第431図	A-3区 図割-6	468
第432図	A-3区 図割-7	469
第433図	A-3区 図割-8	470
第434図	A-3区 図割-9	471
第435図	A-3区 図割-10	472
第436図	A-3区 図割-11	473
第437図	A-3区 図割-13	474
第438図	As-B下面 Aランプ全体図・割図	475
第439図	Aランプ 図割-1・2	476
第440図	Aランプ 図割-4・6	477
第441図	As-B下面 B区全体図・割図	478
第442図	B区 図割-1	479
第443図	B区 図割-2	480
第444図	B区 図割-3	481
第445図	As-B下面 C区全体図・割図	482
第446図	C区 図割-4	483
第447図	As-B下面 D区全体図・割図	484
第448図	D区 図割-1	485
第449図	D区 図割-2	486
第450図	D区 図割-6	487
第451図	D区 図割-4	488
第452図	D区 図割-5	489
第453図	As-B下面 E区全体図・割図	490
第454図	E区 図割-1	491
第455図	E区 図割-2	492
第456図	E区 図割-3	493
第457図	E区 図割-4	494
第458図	E区 図割-5	495
第459図	As-B下面 F区全体図・割図	496
第460図	F区 図割-1	497
第461図	F区 図割-2	498
第462図	F区 図割-3	499
第463図	F区 図割-4	500
第464図	As-B下面 エレベーション図	503
第465図	213・224号溝実測図	507
第466図	217・218号溝実測図	508
第467図	221～223号溝実測図	508
第468図	536号溝実測図	509
第469図	169・170・493号溝実測図	511
第470図	184号溝実測図	512
第471図	196号溝実測図	513
第472図	414号溝実測図	515
第473図	255・330号溝実測図	516
第474図	358号溝実測図	517
第475図	363・364号溝実測図	518
第476図	499号溝実測図	519
第477図	土坑実測図	520
第478図	14号耕作痕実測図	521
第479図	1号足跡列実測図	523

付 図

- 付図1 As-A下面 全体図(1:400)
- 付図2 中・近世面 全体図(1:400)
- 付図3 As-B下面 全体図(1:400)
- 付図4 Hr-FA下面 全体図(1:400)
- 付図5 As-C混土層上面 全体図(1:400)
- 付図6 As-C混土層下面 全体図(1:400)
- 付図7 古墳時代以前面 全体図(1:400)

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)関連遺跡

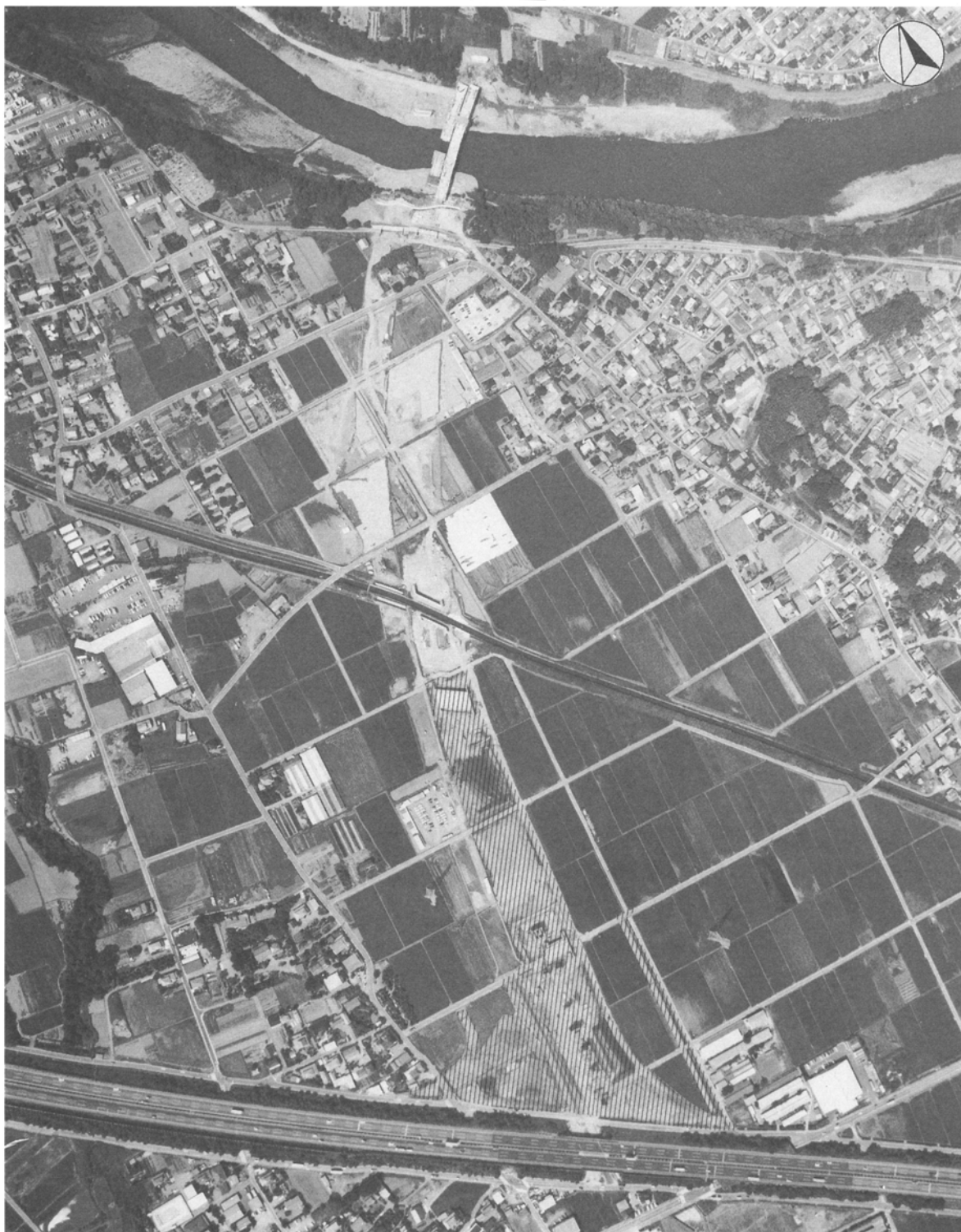
No. 遺跡番号	遺跡名称
1	KT-001 上滝五反畑遺跡
2	KT-010 上滝樓町北遺跡
3	KT-020 宿横手三波川遺跡
4	KT-030 西横手遺跡群
5	KT-040 横手井戸南遺跡
6	KT-050 横手湯田遺跡
7	KT-060 村中遺跡
8	KT-070 西田遺跡
9	KT-080 鶴光路榎橋遺跡
10	KT-090 徳丸高堰遺跡
11	KT-100 徳丸仲田遺跡
12	KT-110 西善尺司遺跡
13	KT-120 中内村前遺跡
14	KT-130 前田遺跡
15	KT-140 駒形根岸遺跡
16	KT-150 上増田島遺跡
17	KT-151 下増田常木遺跡
18	KT-160 下増田越渡遺跡



No. 遺跡番号	遺跡名称
19	KT-170 萩原遺跡
20	KT-180 新井大田関遺跡
21	KT-190 波志江中野面遺跡
22	KT-200 波志江西屋敷遺跡
23	KT-210 岡屋敷遺跡
24	KT-220 波志江中屋敷西遺跡
25	KT-230 波志江中屋敷遺跡
26	KT-240 波志江中屋敷東遺跡
27	KT-250 伊勢山遺跡
28	KT-260 波志江西宿遺跡
29	KT-270 波志江中宿遺跡
30	KT-280 五目牛新田遺跡
31	KT-290 五目牛南組遺跡
32	KT-291 稻荷山古墳
33	KT-300 五目牛清水田遺跡
34	KT-310 光仙房遺跡
35	KT-320 舞台遺跡
36	KT-330 大井戸遺跡

第1図 北関東自動車道(高崎～伊勢崎)関連遺跡位置図
 国土地理院地形図 1:50,000 「高崎」「前橋」使用

第1章 調査の経過 と遺跡の立地



関越自動車道から東へ分岐する北関東自動車道（中央を横切る滝川と関越道の間が、上滝榎町北遺跡）

1. 発掘調査に至る経緯

上滝榎町北遺跡は、北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査に関連して最初に着手された遺跡である。本事業全体に係わる事前計画調整の経過を記述しておきたい。

【事業地の埋蔵文化財の取扱い協議の経過】

平成3年12月10日に県教育委員会文化財保護課（現・文化課）は、北関東自動車道関連文化財実態調査（第1次伊勢崎市・赤堀町）の結果を、県土木部北関東自動車道対策室へ回答する。平成4年3月9日北関東自動車道関連文化財実態調査（第2次高崎市・前橋市）県土木部北関東自動車道対策室へ回答する。引き続き平成5年11月29日に日本道路公団高崎工事事務所調査課長から県教育委員会文化財保護課へ、北関東自動車道事業の概要説明がおこなわれた。平成6年4月20日に道路公団東京第二建設局（現・東京建設局）管理課長、高崎工事事務所工事長等から、北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査についての依頼があった。次に、同年5月31日に道路公団東京第二建設局長より、県教育委員会教育長に北関東自動車道（高崎～伊勢崎）の埋蔵文化財包蔵地に係わる埋蔵文化財包蔵地分布調査の依頼がおこなわれ、その結果は平成7年2月22日に回答された。

【事業概要】

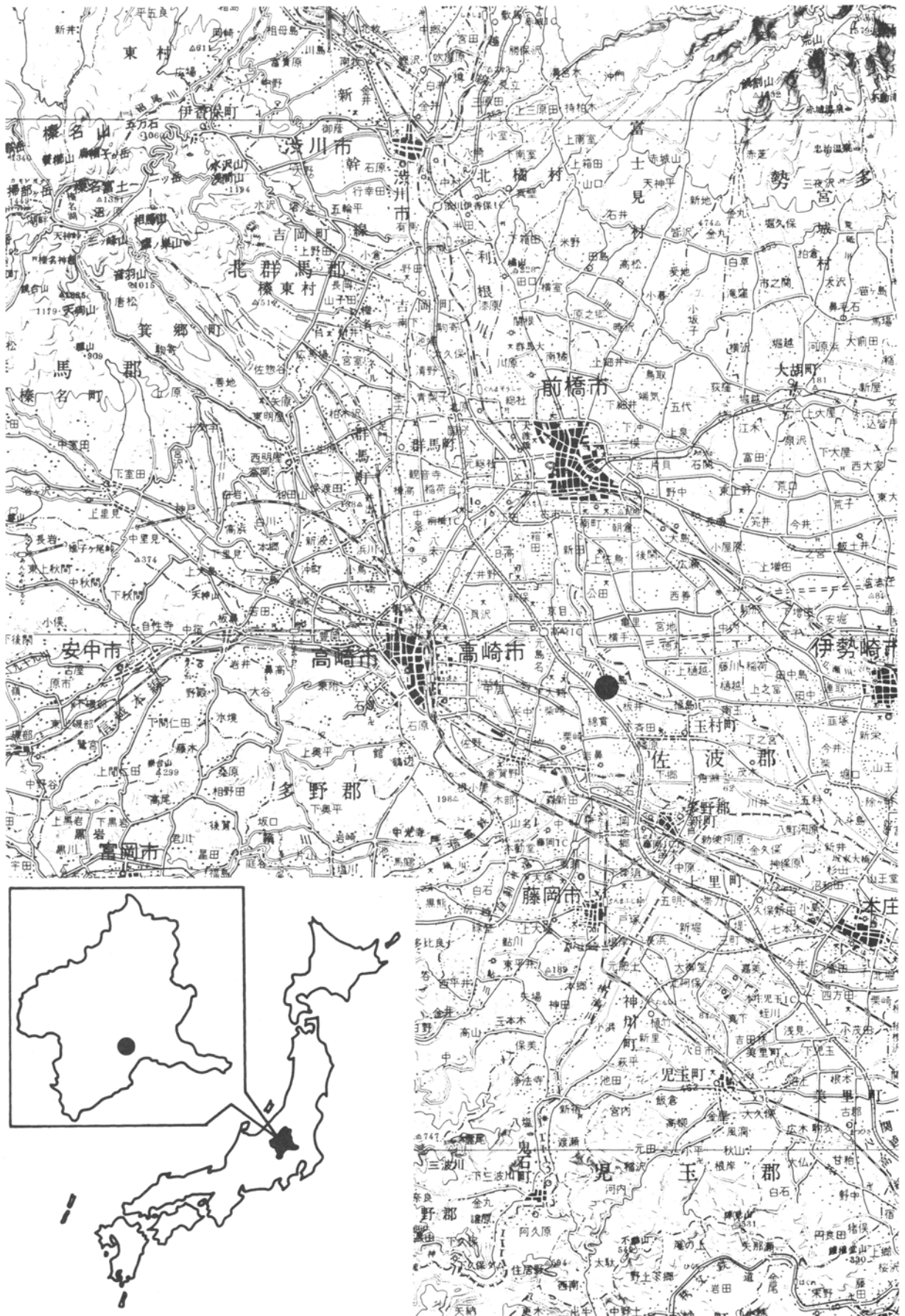
- ・事業名称 北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査事業
- ・発掘調査対象総表面積 656,584㎡ 発掘対象地総延べ面積 1,762,300㎡
- ・工事予定区間は高崎市上滝町（高崎ジャンクション）から伊勢崎市三和町（伊勢崎インターチェンジ）延べ距離14.9km区間であり、そのうちの約8割の区域が埋蔵文化財発掘調査対象地となっている。
- ・発掘調査対象遺跡数 本線関連35遺跡と工事用道路1遺跡の計36遺跡
- ・事業期間 発掘調査：平成7年6月から平成12年6月・整理作業：平成10年4月から平成17年3月

【発掘調査実施に向けての調整経過】

平成7年4月末から5月末に、北関東自動車道建設事業の施行に伴う埋蔵文化財包蔵地の取扱い協議がなされ、群馬県教育委員会意見に基づき文化庁次長より道路公団に対し、埋蔵文化財の取扱いについての回答がなされた。また、平成7年4月26日に北関東自動車道調整会議（公団・県教委）が開催され、高崎地区の用地買収状況の説明と、6月から7月頃に試掘調査も含めた調査着手依頼があった。引き続き同年5月25日に調整会議（公団・県教委・事業団）が開催され、高崎地区の用地買収は85%終了し、6月から7月頃の小麦収穫後に調査を開始することが可能であるという判断が示された。

この調整会議を受け、平成7年6月1日に道路公団東京第二建設局と群馬県教育委員会との間で委託契約が締結され、北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査事業が開始される。更に、同日群馬県教育委員会と当事業団との間で委託契約が締結された。本時点で用地買収が比較的進捗していた、高崎市上滝地区から発掘調査を開始することが決定された。同年6月に高崎市上滝榎町北遺跡の確認調査をおこない、古墳時代と平安時代の水田跡を検出した。なお、6月12日に道路公団と県教育委員会・本事業団は、高崎市上滝・宿横手地区へ埋蔵文化財発掘調査についての説明会をおこなった。

- ・上滝榎町北遺跡 表面積42,324㎡・延べ面積191,669㎡（工事キロ程：STA0+00～STA5+70）



第2図 上滝榎町北遺跡の位置図

国土地理院地勢図 1:200,000 「長野」「宇都宮」使用

2. 発掘調査の方法

- (1) 表土掘削には、調査の効率化を図るため、掘削機械を利用した。
- (2) グリッドの設定には、日本平面直角座標（国家座標）を基準に、5 m方眼を設定した。
100mピッチ杭をX・Y軸の座標値を全桁で表示した。その他の並杭は、下3桁のX-Y軸の座標値で表示した。グリッドの名称は、南東隅を起点とし、下3桁のX-Y軸の座標値で表現した。また、調査区は便宜的に、南から北に向かって、A-1～F区の名称を付した。
- (3) 遺構名称は各調査面ごとに、種別ごとに通し番号を付した。遺物の取り上げに際しては、遺構単位、グリッド単位を基本とした。
- (4) 遺物の注記は遺跡略号（KT-010）・調査面・遺構名またはグリッド名を書き込んだ。
- (5) 遺構の測量は、空中写真測量と地上測量を併用し、1/20・1/40・1/100・1/200縮尺図を作成した。
- (6) 作成された遺構実測図には、遺跡名・遺跡略号・実測図名・縮尺・実測者名・レベル高・ベンチマークの高さ・作成年月日を記入し、1枚ごとに通し番号を付し、台帳を作成した。
- (7) 写真撮影には、6×6または6×7によるモノクロネガと、カラーライドの撮影を業者に委託した。また、主に個別の遺構に関しては6×6且つ35mmのモノクロとリバーサルフィルムを使用して、調査研究員が撮影した。
撮影対象に応じて、高所作業車を使用し、またヘリコプター（ラジコンも含む）による写真撮影を行った。撮影データは、カードに記入した。カードは撮影対象を撮影する前に撮影した。
- (8) 撮影したフィルムは現像処理し、モノクロはベタ焼きを行った。ベタ焼きはネガ検索台帳に調査面、遺構ごとに貼り付け、撮影対象・撮影方向・撮影日・フィルム番号を記録した。リバーサルフィルムは、コマごとに遺跡名・遺跡略号・撮影対象・撮影方向・撮影日を記入し、通し番号を付し、台帳を作成した。
- (9) 本遺跡の調査では、自然科学分析を行い、分析結果を第3章に掲載した。自然科学分析は、おもにテフラ分析とプラントオパール分析である。
- (10) 本遺跡は、前橋台地上の後背湿地に位置し、現在でも水田地帯にあるため、出水・湧水が予想されていた。周辺からの止水対策として、幅60～70cmの溝を掘削し、その溝内に杭を2 mごとに設置し、その杭間を横板で補強する工事を、全面的に実施した。そして、各調査区隅に排水ポンプを電気によって稼働させ、騒音対策も図った。また、調査区からの泥水を、直接に用水路へ流すことを避けるため、簡便な濾過装置も設置した。

3. 発掘調査の経過

平成7年度に調査開始が行われた、北関東自動車道建設にあたり最初に着手した本遺跡は、上滝遺跡に隣接する事で、上滝遺跡の範囲に入る可能性があることから、調査の対象地とされていた。調査開始時に範囲確認調査による遺構の広がりや深度、及び水田地帯であるため安全対策上の観点から湧水状況の判断等把握するために、用地問題の解決した部分からボーリングとトレンチ調査によって全体像を掴むことにした。

水田地帯の真ん中で在ることや、季節的に水田耕作期であるため、湧水の覚悟はしていたものの、ボーリ

第1章 調査の経過と遺跡の立地

ング開始段階から多くの湧水があり、止水工事を行うことにより遺跡内に周辺の地下水が流れ込まないようにする必要があった。このため、路線内の外郭に溝を掘り、外部からの水をくみ取り、遺跡内に水の進入をさせない方法をとることとした。このため、排水用の水中ポンプを設置するためには、昼夜問わず排水をする必要があることから、止水工事に伴う電気工事などを行った。排水により側溝に流す水が、周辺の耕作中の水田に入っても影響がないように、泥水は沈澱させてから排水するよう心がけた。また、遺跡地は通学路にあたることや、耕作者の安全を確保するためにフェンス等で仕切った。範囲確認調査の結果、遺構の広がりには路線内全面に渡り、複数の遺構面が重複して存在することが判明した。このため40,000㎡を越える調査地区は、工事工程や安全対策施設の設置上の合理的な方法として、8区画に大きく区分した。本遺跡は、関越自動車道との分岐点高崎ジャンクションにあたるため、関越自動車道に沿って東南から西北にA-1～A-3区、A-2区～北へB～F区へと、現有道路・水路によって区分した。ただし、調査の記録を取る上では、国家座標をグリッドポイントに組み込み1区画5mのグリッドとし、X座標を前に、Y座標を後に表すこととした。発掘調査による排土は、路線内にストックする方法で必要に応じて他の場所へ移動することとした。前半の調査は、大区画を3ヶ所（C・D・E区）同時に調査した。その内1区画を重機による表土掘削、2区画目を作業員による調査、他1区画を測量・実測区として、上面から1面ごとにローテーションを組んで調査を行った。調査期間の後半では、日本道路公団高崎工事事務所から、工事場所と期間の計画が具体的に示され、構造物建設を優先に工事を行うこととなり、工程に合わせる形で調査の進捗を計った。A-1・2、B区の東側の市道である現道に、埋設管切り回しや迂回路使用等による拡張のため、調査の追加があった。A-3区では用地買収が一部遅れ、工事工程とすりあわせるため調査地区を細かく区切り、調査をすることとなった。調査を進めている段階で、問題点や工事工程の変更などが起こったときは、その都度、群馬県教育委員会文化財保護課の調整により、道路公団と(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団とが、現地に於いて具体的な場所等を確認、協議をして調査に取り組むこととした。

発掘現場周辺は、西に上滝町の集落が関越自動車道を挟んで東西に広がりがあり、東には中島町、北には宿横手町があり、遺跡地の周辺にはこれらの集落に居住する人々によって、広大な耕作地での農業が営まれている。また近接地に滝川小学校・高南中学校がある。通学路内に遺跡地があるため、掘削箇所や残土処理場・現場事務所での器材の保管管理や衛生面等に注意をし、現場出入へのダンプカーなどの重機や作業員の通勤経路として、遺跡周辺の交通事情の変化をきたすことから安全対策を行った。地域住民に対しては、調査の協力をお願いした。

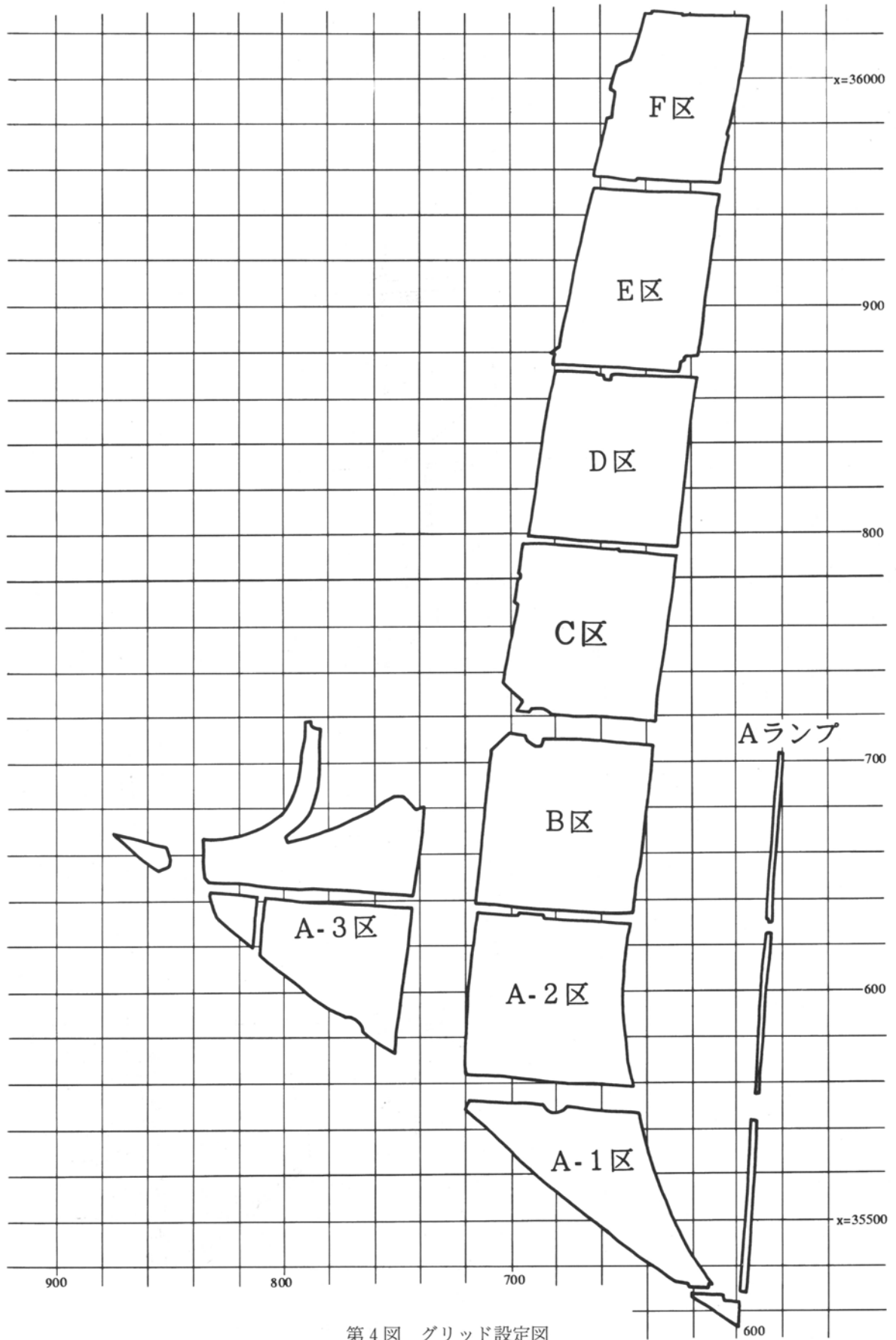
地元区長さんをはじめ周辺地区の方々から、農地借地・止水工事などの面において、ご助言をいただくことができ、発掘調査を順調に進めることが出来た事に対して感謝申し上げたい。

具体的な発掘調査は、平成7年6月から始まり、まず調査区としてはC・D区より掘削が開始された。まず全体的な調査はC区から行われたが、送電線鉄塔部を残して調査を行った。この時点において、As-A軽石層の残存が悪く、部分的に検出されたのみであった。このC・D区において、As-B下水田（1,108年）・Hr-FA下水田（6世紀初頭）の検出が始まるのと時を同じくして、平成7年10月半ばから、B区の表土掘削も同時進行の形で行われた。また、各区画面積が大きく作業時排土のため、ベルトコンベアーを搬入して、作業の効率化を図った。さらに11月からは、E・F区の調査も開始された。12月には、E区においてもHr-FA下水田が検出された。平成8年1月には、F区においてもHr-FA下水田が調査され、ほぼC～F区まで古墳時代後期のHr-FA下水田が広がっていることがわかった。平成8年2月からは、E区微高地部分の調査も始められ、またA区の試掘も行われた。さらに、B区As-A関連面の調査も開始された。



第3図 上滝榎町北遺跡の調査区

高崎市都市計画図 1 : 2,500 [No.27] [No.34] 使用



第4図 グリッド設定図

3. 発掘調査の経過

平成7年度における調査は、As-A関連面までの調査がB区、最終面までの調査がC区(鉄塔部除く)・D区・E区(微高地除く)・F区である。

平成8年度の調査は、関越自動車道に接するA-1区・A-2区・A-3区・Aランプ・B区・C区鉄塔部分・E区微高地部分を実施した。4月当初は、A-1・2・3区、B区、E区(微高地)の調査を行った。A区全体はAs-A関連面からの調査を、その他の面は前年度担当調査員からの引継ぎをして、継続する面の調査を行った。この年、調査面としてはHr-FA下水田跡(6世紀初頭)面から、牛と思われる偶蹄類の蹄跡が、Aランプから見つかった。しかし、堆積状況が不鮮明なこともあり、且つ面的に掘り下げた後に検出されたので、Hr-FA下面のものと言い切れない部分もある。この偶蹄類の蹄跡は、隣を調査した県道前橋・長瀬バイパスの上滝榎町北遺跡でもA区のHr-FA下面から検出されている。この年の調査は、最終面まで調査終了した区が、A-1区・A-2区・Aランプ・B区・C区鉄塔部・E区微高地である。A-3区は、西部分で微高地が検出され、住居跡等は無いものの調査が難航したため、一部調査終了に至らなかった。

この年に、ベルトコンベアーを使用せずに、バックホーを使用しながら遺構面を検出していく方法に次第に切り替わっていった。前半期までの、一区画の表土掘削をすべて終えてから、ベルトコンベアーを設置する方法だと、①時間的ロスが大きいこと、②遺構面が乾いてしまい調査時に遺構を峻別できにくくなること、③経費的には計算上あまり変わらないこと、等の理由が想定されたからである。つまり、作業員の土捨て場として後方20～30mほどの位置に、常にバックホーを待機させておき、作業の進捗状況に合わせてバックホーも表土掘削しながら後退していく、という方法に切り替えた。この方法だと、土を捨てる作業員とバックホーの位置が接近するという危険性が高まるというデメリットはあるが、上記の①～③の事項を合わせ考えると、妥当な方法であると判断した。

平成9年度の調査は、A-3区の前古墳時代面を調査した。溝などが検出され、撤収作業などを合わせて9月30日をもって発掘調査を終了した。

【発掘調査及び整理作業の経過】

平成7(1995)年度

- 6月 試掘・ボーリング調査、水路側溝掘削。
- 7月 C区表土掘削開始。
- 8月 安全フェンス取り付け、C区As-B下水田検出。
- 9月 D区As-B下水田検出。C区Hr-FA下水田検出。
- 10月 E区As-B下水田検出。D区Hr-FA下水田検出。
- 11月 道路公団起工式。F区As-B下水田検出。D区Hr-FA下水田流水調査。
- 12月 E区微高地調査開始、Hr-FA下水田検出。D区地割れ跡調査。C区古墳時代の大溝検出。
- 1月 E区微高地で住居跡検出。F区Hr-FA下水田検出。E区As-C混土層下水田検出。
- 2月 B区表土掘削開始、As-A下面検出。E・F区除雪作業。F区As-C軽石層下水田検出。
- 3月 F区トレンチ調査、埋め戻し。B区中・近世面調査開始。

平成8(1996)年度

- 4月 A-1区As-A下面調査開始。A-2区As-A下面検出。B区中・近世面、As-B下水田跡調査。E区微高地調査継続。
- 5月 A-1区・A-2区・B区・E区微高地を併行して調査。B区Hr-FA下水田検出。A-2区As-B下水田調査開始。
- 6月 E区微高地トレンチ調査、埋め戻し。A-1区As-B下水田検出。A-3区表土掘削開始。
- 7月 B区As-C混土上面調査、As-C混土下面調査。
- 8月 A-1区Hr-FA下水田検出。A-2区Hr-FA下水田検出。B区トレンチ調査。

第1章 調査の経過と遺跡の立地

- 9月 B区埋め戻し。A-3区As-B下水田検出。
- 10月 A-1・A-2区古墳時代以前面。A-3区Hr-FA下水田検出。
- 11月 Aランプ表土剥ぎ。
- 2月 A-3区Hr-FA下水田馬蹄跡検出。C区鉄塔部調査。
- 3月 A-3区As-C混土上・下面、古墳時代以前面調査。

平成9（1997）年度

- 4～8月 A-3区As-C下面・古墳時代以前面調査。図面整理。
- 9月 調査終了。

平成10（1998）年度

図面整理、トレース作業。

平成11（1999）年度

遺物接合・復元・実測、図面整理・トレース作業。

平成12（2000）年度

遺物実測、図面整理・トレース作業。

平成13（2001）年度

レイアウト・版下作成、トレース作業。

平成14（2002）年度

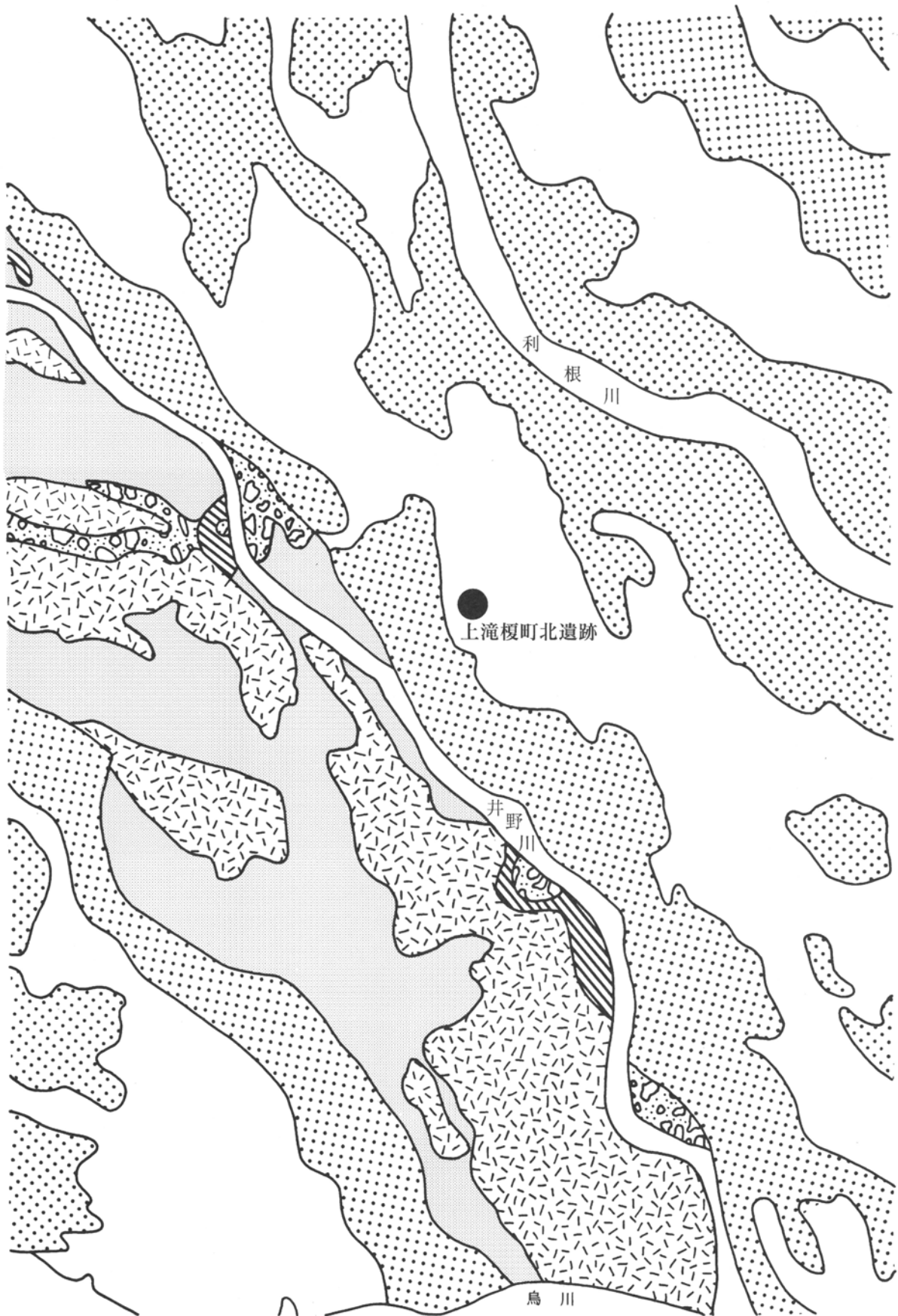
レイアウト・版下作成。







4. 遺跡の立地

上滝榎町北遺跡のある群馬県高崎市は、関東平野の北西部にあり、群馬県南部に位置する。北東に赤城山、北西に榛名山を望む、利根川流域に広がる沖積平野から榛名山東南麓にかけての地域である。高崎市の地形は、関東平野の一角である低平な台地と沖積低地、及び丘陵地からなる。市の北部から西部にかけて丘陵地で、中央部から東部にかけて前橋台地と呼ばれる低平な台地が広がる。また、市の北西から南東に烏川が流れ、南部を簗川が、東北部から南東部を井野川が流れ烏川に注ぐ。それぞれの河川の流域には、沖積地が形成されている。前橋台地は、およそ2万年前の浅間山起源の泥流堆積物によって形成されている。扇状地礫層の上に前橋泥流堆積物が厚く堆積し、傾斜の緩い平坦な地形を形成している。赤城山や榛名山から流れ出す大小の河川によって、前橋台地は開析され、現在の地形が形成された。

高崎市は、中山道・三国街道が通り、古くから陸上・水上交通の要所として発達してきた。現在も鉄道では、市街地の中央にJR高崎駅があり、高崎線・両毛線・上越線・信越線の起点となり、且つ上越・長野（北陸）両新幹線の停車駅にもなっている。道路は、国道17号線（旧中山道）が南東から北西へ走っている。上滝榎町北遺跡の所在する上滝町は、市街地中央部からやや東に位置するため、必ずしも交通の要所とは言えない。しかし、江戸時代初期に天狗岩用水（現在の滝川）が開削され、高崎地域の生産域として開けた土地であった。

上滝榎町北遺跡は上滝町の南部、高崎市の市街地から東に約6キロほどの、前橋台地上の後背湿地に位置する。東は利根川が、西は井野川がそれぞれ北西から南東に流下しており、周辺の地形も両河川と同様に、概ね北西から南東に向かって低くなっている。遺跡の標高は77～79mである。遺跡の西から南は前橋台地上の微高地である。現在、遺跡周辺は水田地帯で、西側の微高地は住宅地・畑地となっている。遺跡の南を、県道高崎・伊勢崎線、関越自動車道が東西に走る。上滝榎町北遺跡は、関越自動車道と北関東自動車道が分かれる分岐点（ジャンクション）である。



- | | | |
|--|---|---|
|  前橋・伊勢崎台地上の微高地 |  河成段丘(後背湿地: 完新世) |  井野川泥流堆積面 |
|  前橋・伊勢崎台地上の後背湿地 |  河成段丘(旧中洲: 完新世) |  広瀬川低地帯の後背湿地 (As-B降灰後) |

第5図 周辺地形分類図 (1:25,000)

「群馬県史通史編1」より作成

5. 周辺の遺跡

縄文時代の遺跡は少ないが、井野川流域の段丘上で比較的多く確認されている。八幡原A遺跡(34)で、前期の住居跡1軒、元島名遺跡(12)で後期の土坑、万相寺遺跡(14)で中期以降の遺構・遺物が確認されている。

弥生時代の遺跡は、井野川左岸で鈴ノ宮遺跡(13)・元島名遺跡、右岸で高崎情報団地遺跡(15)・万相寺遺跡で中～後期の遺構・遺物が確認されている。鈴ノ宮遺跡では、後期の住居跡26軒・方形周溝墓7基・甕棺墓1基が確認されている。元島名遺跡では住居跡、万相寺遺跡では後期の住居跡12軒が確認されている。すぐ南の高崎情報団地遺跡では、方形周溝墓や住居跡が調査された。

古墳時代の遺跡は、縄文・弥生時代に比して、飛躍的に増加する。それに伴って、烏川・井野川流域に古墳が集中し、現在までのところ前期の遺跡は井野川流域に調査例が多い。

古墳時代前期の遺跡として、まず井野川左岸の元島名將軍塚古墳(46)は、全長90mの前方後方墳で、後方部東側裾部から底部穿孔の二重口縁壺が出土しており、前橋八幡山古墳と同じく、群馬県における前期古墳の一つである。明治時代に後方部で粘土槨が発見され、獣形鏡・碧玉製石釧・鉄刀等が副葬品として出土している。墳丘は2段に築造され、葺石はもたない。その元島名將軍塚古墳の東にある上滝遺跡(3)からは、住居跡が検出されている。また、元島名將軍塚古墳の北西(井野川上流左岸)に位置する鈴ノ宮遺跡では、住居跡や前方後方形周溝墓が確認されている。対岸の高崎情報団地遺跡では、この時期の集落が確認されている。その南の柴崎町にある蟹沢古墳(51)からは、「正始元年」銘三角縁神獣鏡他3面の鏡が出土したといわれるが、すでに削平されており墳形や規模等は不明な点が多い。蟹沢古墳の南に位置する矢中村東遺跡(26)では、方形周溝墓2基、矢中村東B遺跡(27)では、前方後方形周溝墓1基と方形周溝墓2基、村東C遺跡(28)では、方形周溝墓10基と円形周溝墓1基が確認されている。このように、古墳時代前期になって井野川流域が大規模に開発されていった様子がわかる。また、土器の様相が東海系土器群へと変化することや、集落が激増することから、東海からの集団的入植も想定されている。そして、飛躍的に増大したであろう水田等の生産域を背景として、前期古墳も造成されていったと考えられる。

古墳時代中期の遺跡には、烏川左岸の倉賀野浅間山古墳、井野川右岸の普賢寺裏古墳(49)、不動山古墳(50)、岩鼻二子山古墳などの前方後円墳がある。高崎情報団地遺跡で確認された4基の帆立貝式古墳も、この時期のものである。倉賀野浅間山古墳は、烏川左岸浸食崖から約800m東にある2段築造で全長174m、群馬県内で2番目の規模を誇る。中期には井野川水系よりも、倉賀野浅間山古墳をようする烏川水系のほうが勢力があったようで、5世紀代に全長123mの大鶴巻古墳、全長87.5mの小鶴巻古墳等が造成されている。5世紀代に同規模の大前方後円墳が出現した地域は、他に群馬県東部の太田周辺地域のみであり、上野地域を2分する大勢力の一翼を担っていたと考えられている。

古墳時代後期になると、井野川右岸の高崎情報団地遺跡(15)、中大類金井遺跡(16)、中大類金井分遺跡(17)、下大類遺跡(21)、綿貫遺跡(25)等で集落が確認されている。後期の古墳では、綿貫町にある綿貫観音山古墳(48)が有名である。烏川と井野川の合流点から井野川を2kmさかのぼった右岸台地上に位置する。全長97.2mで、三人童女・巫女・楽人・貴人・武人等の人物埴輪が出土している。また、出土品中で銅製水瓶は中国山西省北齊時代墓の明器(水瓶)と類似し、鏡1面は百濟武寧王陵出土の鏡と同型鏡と確認されており、被葬者が中央と密接な関係をもちつつ、上毛野地域に強固な政治組織を形成していたことをうか

第1章 調査の経過と遺跡の立地

がわせる。

古墳時代の生産域や集落域の調査例が、近年急激に増加している。県道前橋・長瀬線の上滝榎町北遺跡でも同様であるが、当上滝榎町北遺跡では、As-C混土を耕作土とした水田跡が検出されているが、はっきりとしたAs-C軽石純層下の水田跡は検出できなかった。As-C軽石にパックされた水田跡は、未だ調査例が少ないと言わざるを得ない。当地域の井野川流域は、As-C軽石降下(4世紀初頭)前後から、大規模に開発されていったようである。

奈良・平安時代の遺跡は、本遺跡の西隣に位置する上滝遺跡(3)で集落が調査されており、その生産域として本遺跡のAs-B下水田跡が考えられる。その他の集落遺跡には、下大類遺跡(21)、中大類金井分遺跡(17)、柴崎熊野前遺跡(22)、綿貫遺跡(25)等があげられる。As-B下水田は、広範囲に検出されており、古墳時代前期以降だんだんと開発されていく地域の様子をうかがうことができる。

中・近世の遺跡には、大小の城館跡・天狗岩用水(滝川)、As-A下水田跡等があげられる。特に当遺跡と宿横手三波川遺跡(5)を南北に分ける滝川は、江戸時代初期に開削された用水堀である。天狗岩用水は、秋山越中守長朝によって慶長7(1,602)年から着工して、同9年に完成した。その時の用水は越中堀とよばれ、群馬郡大久保村(吉岡町)付近の利根川から取水し、利根川右岸を南下して上滝村(高崎市上滝町)付近で井野川に注ぐまでの20kmであった。さらに、幕府代官頭の伊奈備前守忠次によって、慶長10(1,605)年から同15年までの間に那波郡沼之上村(玉村町)まで延長された。この用水路は、伊奈氏にちなんで代官堀・備前堀とよばれている。これら一連の開削時に、資材調達等の面で活躍したのが、戦国期以来の地侍層である江原源左衛門重久である。その江原源左衛門重久の屋敷が、江原屋敷である。これら一連の越中堀・代官堀(現 滝川)の開削によって新たに開発された水田面積は、群馬・那波両郡72ヶ村で、1,836町3反1畝10歩におよんだ。本遺跡南西にある慈眼寺(61)には、江原源左衛門重久の墓が今も残っている。

(参考文献)

1. 『角川日本地名辞典 10群馬県』 角川書店 1978。
2. 『群馬県百科事典』 上毛新聞社 1979。
3. 『群馬県史 通史編1』 1990。
4. 『群馬県史 通史編5』 1991。
5. 『柴崎熊野前遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998。
6. 『群馬県遺跡大辞典』 上毛新聞社 1999。
7. 『上滝五反畑遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999。
8. 『上滝榎町北遺跡・上滝II遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002。
9. 『宿横手三波川遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000。
10. 『西横手遺跡群』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000。

周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	調査年次・報告書等
1	上滝榎町北遺跡	高崎市上滝町	本遺跡。(県道前橋・長瀬線部分を含む)	本書 団：調査1996～99 報告2002
2	上滝五反畑遺跡	高崎市上滝町	近世の水田・溝。中世の溝・土坑。古代の水田・溝。 古墳時代の水田・土坑・溝。	団：調査1997 報告1999
3	上滝遺跡	高崎市上滝町	古墳時代前期・後期・奈良時代の竪穴住居・土坑。 中世の館の堀・溝・掘立柱建物等。(上滝中屋敷)	団：調査1975・78 報告1981
4	上滝II遺跡	高崎市上滝町	古墳時代の水田。中近世の遺構。	団：調査1999 報告2002
5	宿横手三波川遺跡	高崎市宿横手町	古墳時代のHr-FA・Hr-FP下水田。平安時代のAs-B 下水田。中世掘立柱建物・土坑・畠。近世の畠・溝・ 灰掻き穴。	団：調査1996～98 報告2001
6	西横手遺跡群	高崎市宿横手町	古墳時代のHr-FA下・Hr-FP下水田。奈良・平安時 代の竪穴住居・土坑・溝。中世の館の堀。	団：調査1996～98 報告2001
7	西横手遺跡群 I	高崎市西横手町	古墳時代の周溝墓。Hr-FA下水田。平安時代のAs-B 水田。中世の畠・備前堀。	市：調査1988 報告1989
8	西横手遺跡群 II	高崎市萩原町	古墳時代前期の方形周溝墓。Hr-FA下水田・大型水 路。	市：調査1989 報告1990
9	下滝天水遺跡	高崎市下滝町	古墳時代の館周堀。古墳～奈良・平安時代集落跡(含 上滝分)。	団：調査1999～2000
10	綿貫小林前遺跡	高崎市綿貫町		団：調査2000～01
11	元島名B遺跡	高崎市元島名町	中世の掘立柱建物・元島名城関連の堀・溝等。板碑 等出土。	県：調査1976 団：報告1977
12	元島名遺跡	高崎市元島名町	弥生・古墳時代前期の竪穴住居。中世の掘立柱建物・ 井戸等。	市：調査1978 報告1979
13	鈴ノ宮遺跡	高崎市矢島町 元島名町	弥生時代の竪穴住居・方形周溝墓・甕棺墓。古墳時 代前期の竪穴住居・方形周溝墓・古墳・土坑。奈良・平 安時代の竪穴住居。中世の堀。	市：調査1977 報告1978
14	万相寺遺跡	高崎市宿大類町	縄文時代の竪穴住居。弥生時代の竪穴住居。古墳時 代前期の竪穴住居。古墳二基。奈良・平安時代の竪 穴住居。As-B下水田。	市：調査1984 報告1985
15	高崎情報団地遺跡	高崎市宿大類町	弥生時代の竪穴住居・方形周溝墓。古墳時代の竪穴 住居・帆立貝式古墳4基を含む円墳30基。奈良時代の 東山道。平安時代の竪穴住居・As-B下水田・溝。 中世の館の堀。(塚ノ越屋敷)	市：調査1992～94 報告1997
16	中大類金井遺跡	高崎市中大類町	古墳時代後期の竪穴住居。平安時代の土坑。	市：調査1988 報告1989
17	中大類金井分遺跡	高崎市中大類町	古墳時代後期・奈良時代の竪穴住居。	市：調査1991 報告1992
18	殿谷戸・旭・富士塚C・ 隼人・吹手・峰岸遺跡	高崎市柴崎町 南大類町	古墳時代の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居。 中世の掘立柱建物・溝。	市：調査1987 報告1988
19	東原・富士塚・富士塚前 B遺跡	高崎市柴崎町	平安時代のAs-B下水田・水路・南北の基準畦畔。	市：調査1984 報告1985
20	村間・富士塚前A遺跡	高崎市柴崎町 下大類町	平安時代のAs-B下水田・水路・土坑。南北の基準畦 畔。東西の大型水路。	市：調査1983 報告1984
21	下大類遺跡	高崎市大類町 柴崎町	古墳時代の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居20 数軒・井戸。銅製八稜鏡等出土。	市：調査1978
22	柴崎熊野前遺跡	高崎市柴崎町	古墳時代の自然流路より、前期・中期の土器片・ガ ラス製品・石製品及び木製品。平安時代のAs-B下水 田・住居。	団：調査1996 報告1998
23	砂内遺跡	高崎市柴崎町	古墳時代の円墳3基。土師器壺・須恵器大甕破片・ 埴輪破片出土。	市：調査1985 報告1986
24	下村北遺跡	高崎市矢中町	平安時代のAs-B下水田。中世の館跡。(堀・掘立柱 建物・井戸・溝)	
25	綿貫遺跡	高崎市綿貫町 台新田町	古墳時代前期・後期の竪穴住居・周溝墓。観音山古 墳の外堀。奈良時代の竪穴住居。平安時代の竪穴住 居・瓦葺建物。	市：調査1983 報告1985
26	矢中村東遺跡	高崎市矢中町	古墳時代前期の前方後方周溝墓・円形周溝墓等。平 安時代のAs-B下水田・水利遺構等。銅製古印「物部 私印」等出土。	市：調査1983 報告1984
27	矢中村東B遺跡	高崎市矢中町	古墳時代前期の前方周溝墓。平安時代のAs-B下水 田・水利遺構・大型水路。	市：調査1984 報告1985
28	村東C遺跡	高崎市矢中町	古墳時代前期の方形周溝墓10基・円形周溝墓1基。 中世の館の堀。(道場屋敷)	市：調査1986～87 報告1988
29	中里前遺跡	高崎市倉賀野町	古墳時代後期・奈良・平安時代の竪穴住居。中世の 火葬土坑。	市：調査1995 報告1996
30	滝川C遺跡	高崎市上滝町	古墳時代前期の土坑。	県：調査1974
31	滝川B遺跡	高崎市上滝町	平安時代As-B下水田の可能性。	団：報告1987
32	下斉田滝川A遺跡	高崎市斉田町	縄文時代の石器。方形周溝墓1基。古墳時代初頭・ 奈良・平安時代の集落。As-B下水田の可能性。	

第1章 調査の経過と遺跡の立地

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	調査年次・報告書等
33	八幡原B遺跡	高崎市八幡原町	中世環濠遺構・井戸・柱穴列。	県：調査1974
34	八幡原A遺跡	高崎市八幡原町	縄文時代前期の住居。中・近世の溝。平安時代のAs-B下水田。近世As-A下降後の復旧耕地。	団：報告1981
35	上滝社宮司東遺跡	高崎市上滝町	古墳時代前期の土坑。平安時代のAs-B下水田。	市：調査1989 報告1990
36	上滝齊田北遺跡	高崎市上滝町	古墳時代のHr-FA下水田。平安時代のAs-B下水田。	市：調査1989 報告1990
37	下滝高井遺跡	高崎市下滝町	溝・土坑。古墳時代前期の土器。	市：調査1989 報告1990
38	下滝赤城遺跡	高崎市下滝町	古墳時代後期の住居。中世土坑。	市：調査1989 報告1990
39	東条里遺跡	高崎市倉賀野町	平安時代のAs-B下水田。	
40	横手井戸南遺跡	前橋市横手町	近世As-A泥流埋設土坑。中世洪水層下水田。平安時代のAs-B下水田。	団：調査1998～99 『年報』18
41	横手湯田遺跡	前橋市横手町	近世As-A泥流埋設土坑。近世洪水層下水田。中世の洪水層下水田・屋敷跡。平安時代のAs-B下水田。古墳時代のHr-FP下水田・Hr-FA下水田・住居・方形周溝墓。	団：調査1996～98 『年報』16～18
42	村中遺跡	前橋市鶴光路町	中世屋敷の堀・掘立柱建物。平安時代のAs-B下水田。古墳時代のAs-C混土下水田。	団：調査1998～99
43	横手早稲田遺跡	前橋市横手町	中世の洪水層下水田。平安時代のAs-B下水田。古墳時代のHr-FA・Hr-FP下水田。古墳時代前期の住居。	団：調査1998 『年報』18
44	横手宮田遺跡	前橋市横手町	古墳時代のAs-C混土下水田・Hr-FA下水田。平安時代のAs-B下水田。中世洪水層下水田。	団：調査1996 『年報』16
45	亀里平塚遺跡	前橋市亀里町	古墳時代のHr-FA下水田。平安時代のAs-B下水田。中世の洪水層下水田。	団：調査1998～99 『年報』17・18
46	元島名将軍塚古墳	高崎市元島名町	前方後方墳。粘土郭内より鏡・石釧・刀等出土。周堀内より壺等出土。	市：調査1980 報告1981
47	御伊勢山古墳	高崎市下滝町	全長30m高さ3.5mの前方後円墳。横穴式両袖型石室。複室。	群大史学研究室調査
48	綿貫観音山古墳	高崎市綿貫町	全長101m高さ9.4mの前方後円墳。横穴式石室。	県：保存修理報告 1981
49	普賢寺裏古墳	高崎市綿貫町	全長71m高さ6.6mの前方後円墳。竪穴式石室。葺石。	県：『群馬県遺跡台帳』
50	不動山古墳	高崎市綿貫町	全長94m高さ10.1mの前方後円墳。竪穴式石室。葺石。二段構成。	県：『群馬県遺跡台帳』
51	蟹沢古墳	高崎市柴崎町	古墳時代前期の古墳。正始元年陳是作四神四獣鏡・獸文帯三神三獣鏡・製内行花文鏡2面（計4面）・鉄斧・槍等出土。	墳丘削平に抛り古墳の形・位置不明
52	浅間山古墳	高崎市柴崎町	径30m高さ5mほどの円墳。鏡・勾玉・大刀等出土。横穴式石室。（?）	県：『群馬県遺跡台帳』
53	飯玉古墳	高崎市栗崎町	前方後円墳。横穴式石室。刀剣・勾玉・金環出土。	県：『群馬県遺跡台帳』

番号	中世城館名	所在地	立地	存続期間	築・在城者名	遺構・遺物等	備考
54	島野環濠遺構群	高崎市島野町	平地	16世紀	阿久沢氏	堀	
55	元島名城	高崎市元島名町	平地	15世紀 16世紀	島名伊豆守 長井豊前守政実	堀・戸口・根小屋・板	1976・78年一部発掘調査
56	元島名内出	高崎市元島名町	崖端	16世紀	阿久沢氏	堀・土居・戸口	
57	降照屋敷	高崎市中大類町	崖端	16世紀	高井氏	堀・土橋	
58	新居屋敷	高崎市横手町	平地		新居喜左衛門		
59	江原屋敷	高崎市上滝町	平地	16世紀末	江原重安・重久	堀・土居・郭	
60	上滝中屋敷	高崎市上滝町	平地	南北朝期		堀・壺・茶碗・播り鉢等の陶磁器	1980年発掘調査
61	慈眼寺	高崎市下滝町	崖端	室町時代		堀	
62	中島内出	高崎市中島町	平地	16世紀	田口兵庫業祐	土居・板碑	
63	下滝館	高崎市下滝町	平地	文明9年	足利成氏 大井田氏	堀・土居・戸口・井戸・別郭	文明9年成氏7ヶ月間仮御所 近世天田氏住
64	八幡山館	高崎市下滝町	平地	室町時代		堀	
65	堀米屋敷	高崎市倉賀野町	崖端	16世紀	堀米氏		堀米氏墓地：宝塔等
66	大類寄居	高崎市柴崎町	平地		柴崎地衆	堀・土居・戸口	近年破壊
67	大下屋敷	高崎市柴崎町	崖端	16世紀	田口吉真	2重堀・土居・櫓台	


6. 基本土層


上滝榎町北遺跡は、平成7年度から平成9年度までの3ケ年にわたって発掘調査が行われたが、下記の柱状図は、それらの調査時において得られた知見をもとに作成したものである。As-A軽石（1,783年）の純層は確認できていない。As-A降下以後の、復旧行為により鋤込まれたと考えられる薄いAs-A軽石の堆積が、耕作痕から検出できる程度であった。

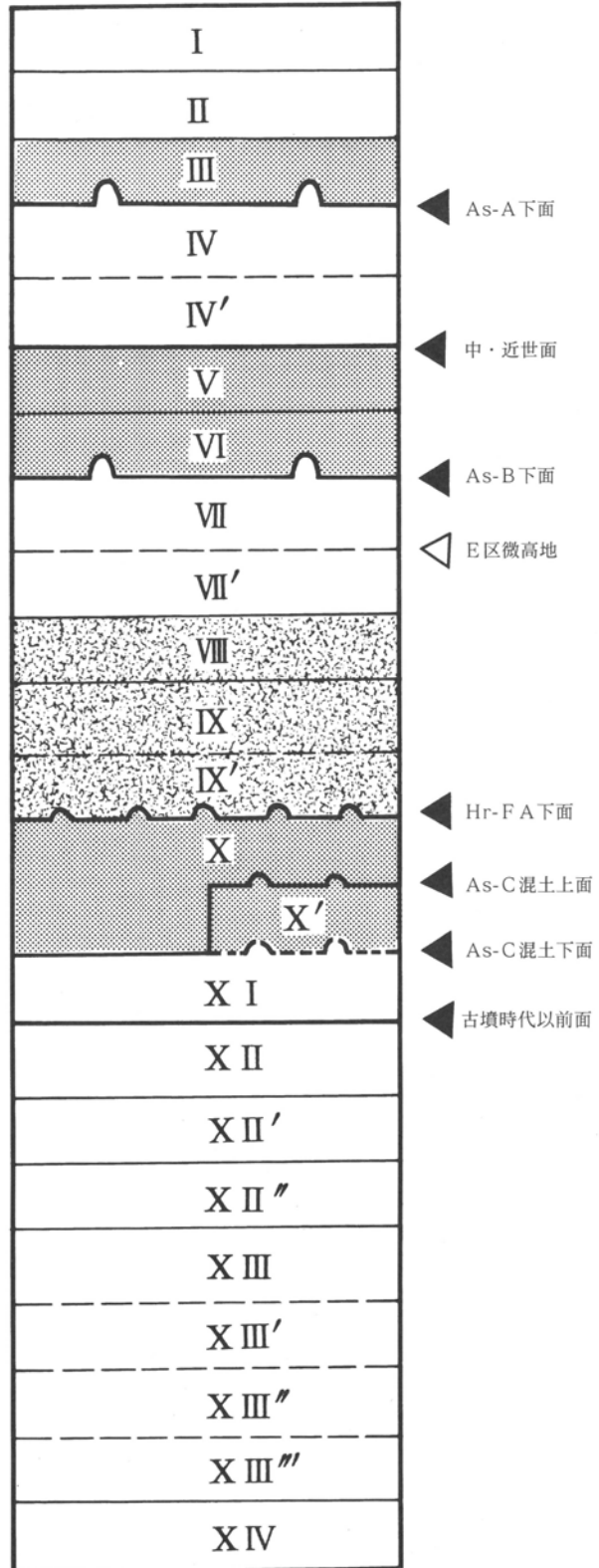
それに対して、As-B軽石層（1,108年）・Hr-FA層（6世紀初頭）は、ほぼ純層と思われる厚い土層が確認できた。その下層からは、As-B下水田・Hr-FA下水田が良好な状態で検出された。

柱状図

- I 黒褐色土 表土。
- II 赤褐色土 表土、現代水田床土。
- III 暗褐色土 As-A軽石を多量に含む。
- IV // As-A下水田耕作土、粘性あり、鉄分含む。
- IV' // 中世遺構検出面。
- V // As-B軽石混土層。
- VI // As-B軽石層。
- VII // As-B下水田耕作土、粘性あり、鉄分含む。
- VII' 暗灰褐色土 粘性あり。E区微高地遺構検出面。
- VIII 黄褐色土 Hr-FA泥流堆積層。
- IX 黄褐色土 Hr-FA泥流堆積層、部分的にピンク色の火山灰含む。
- IX' 黄褐色土 IXに近似する。
- X 黒褐色土 Hr-FA下水田耕作土。粘性あり。As-C軽石僅かに混入。
- X' 黒褐色土 As-C混土層上面水田耕作土。
- XI 黒褐色土 As-C混土層下面疑似畦畔検出面。
- XII 灰色土 シルト。古墳時代以前面検出。
- XII' 灰色土 シルト。古墳時代以前面検出。
- XII'' 灰色土 シルト。古墳時代以前面検出。
- XIII 灰色土 シルト、粘性強い。黒色粘土ブロック含む。
- XIII' 灰色土 シルト。
- XIII'' 灰色土 シルト、小礫を含む。
- XIII''' 灰色土 シルト、礫を多く含む。
- XIV 褐灰色土 前橋泥流層。砂礫土。

 浅間山の噴火に伴うテフラ層
(As-A軽石、As-B軽石、As-C軽石)

 榛名山の噴火に伴うテフラ層
(Hr-FA層、Hr-FP層)

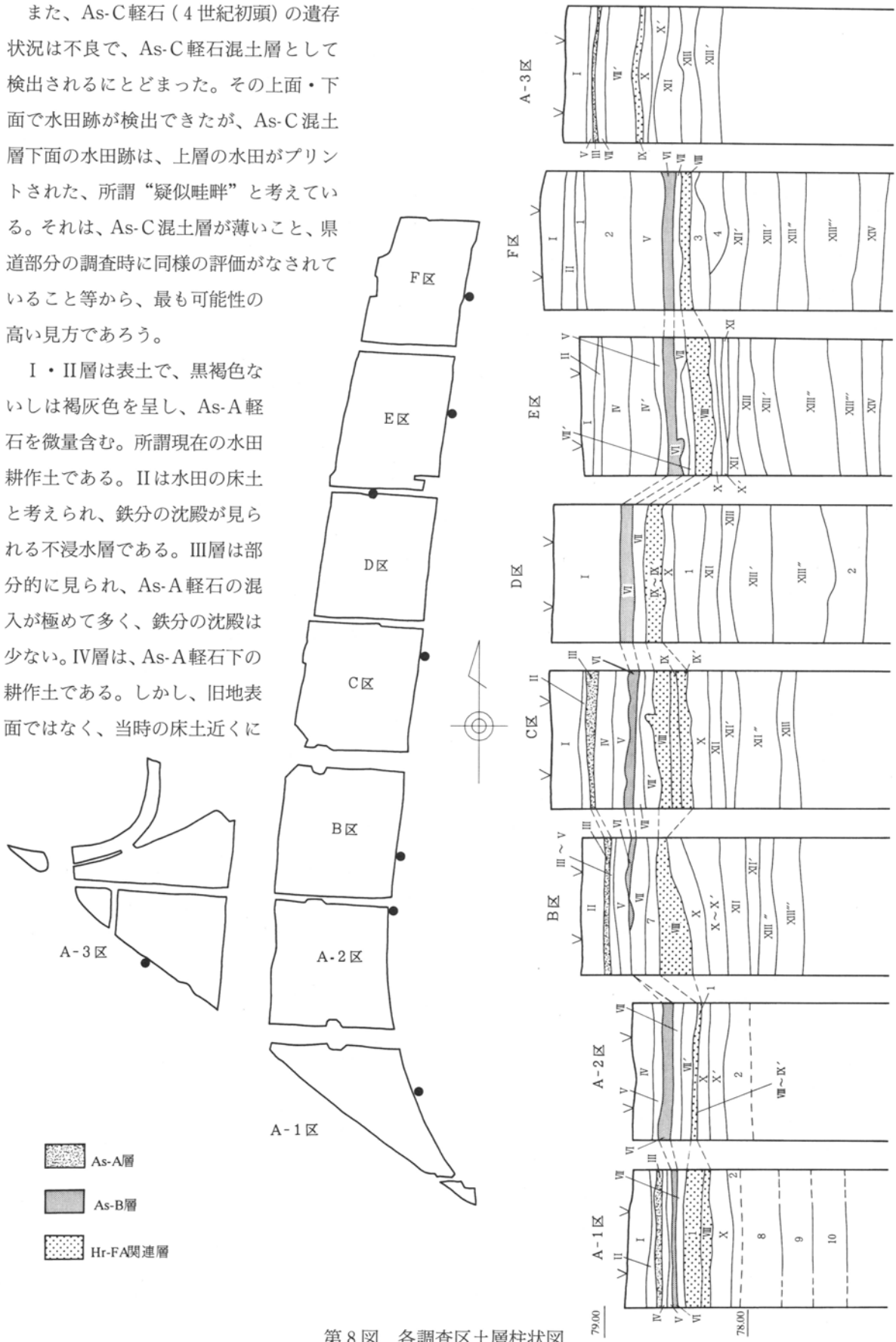


第7図 基本土層

第1章 調査の経過と遺跡の立地

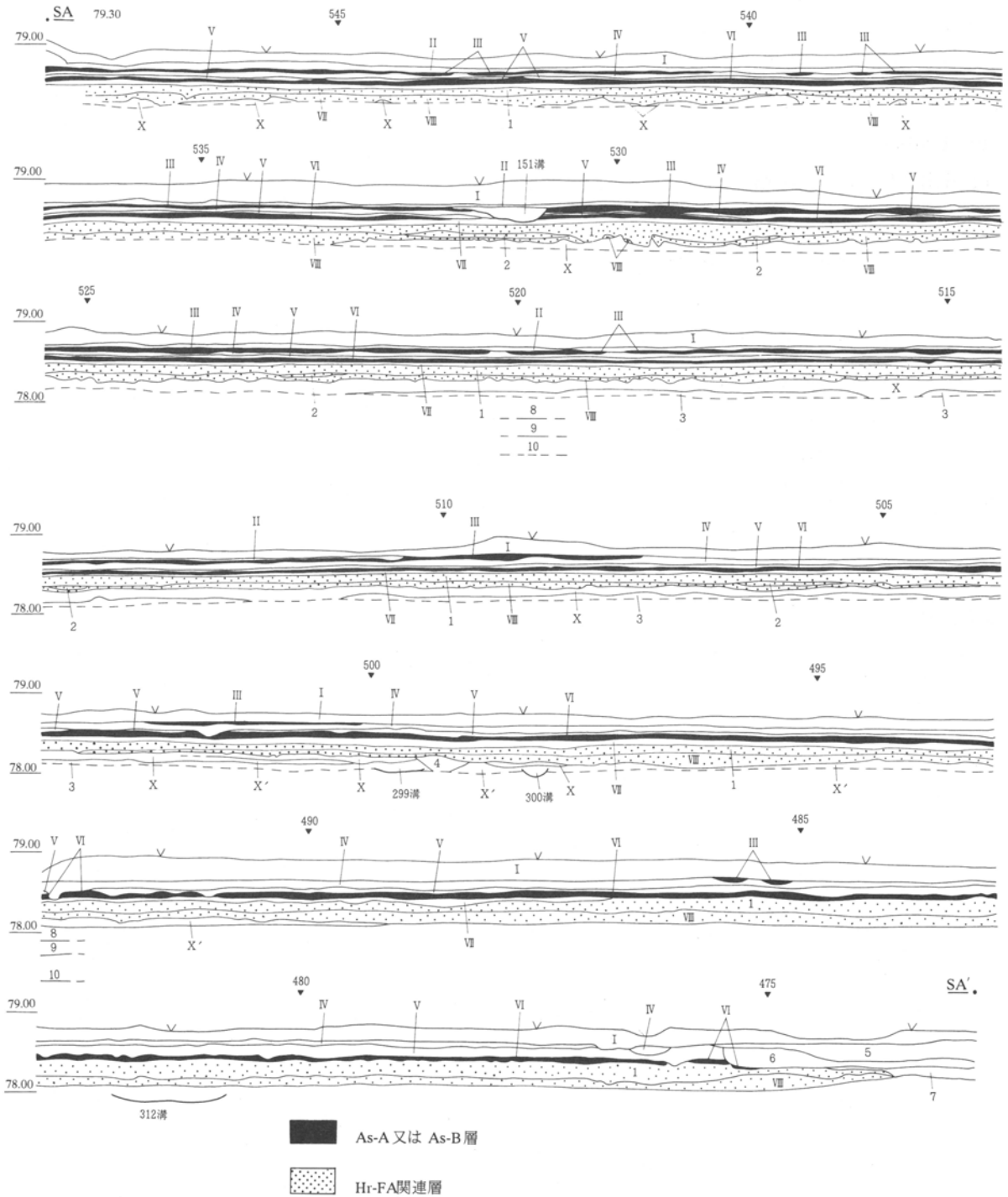
また、As-C軽石（4世紀初頭）の遺存状況は不良で、As-C軽石混土層として検出されるにとどまった。その上面・下面で水田跡が検出できたが、As-C混土層下面の水田跡は、上層の水田がプリントされた、所謂“疑似畦畔”と考えている。それは、As-C混土層が薄いこと、県道部分の調査時に同様の評価がなされていること等から、最も可能性の高い見方であろう。

I・II層は表土で、黒褐色ないしは褐灰色を呈し、As-A軽石を微量含む。所謂現在の水田耕作土である。IIは水田の床土と考えられ、鉄分の沈殿が見られる不浸水層である。III層は部分的に見られ、As-A軽石の混入が極めて多く、鉄分の沈殿は少ない。IV層は、As-A軽石下の耕作土である。しかし、旧地表面ではなく、当時の床土近くに



第8図 各調査区土層柱状図

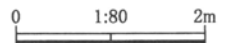
A-1区



SA(表土～古墳以前)

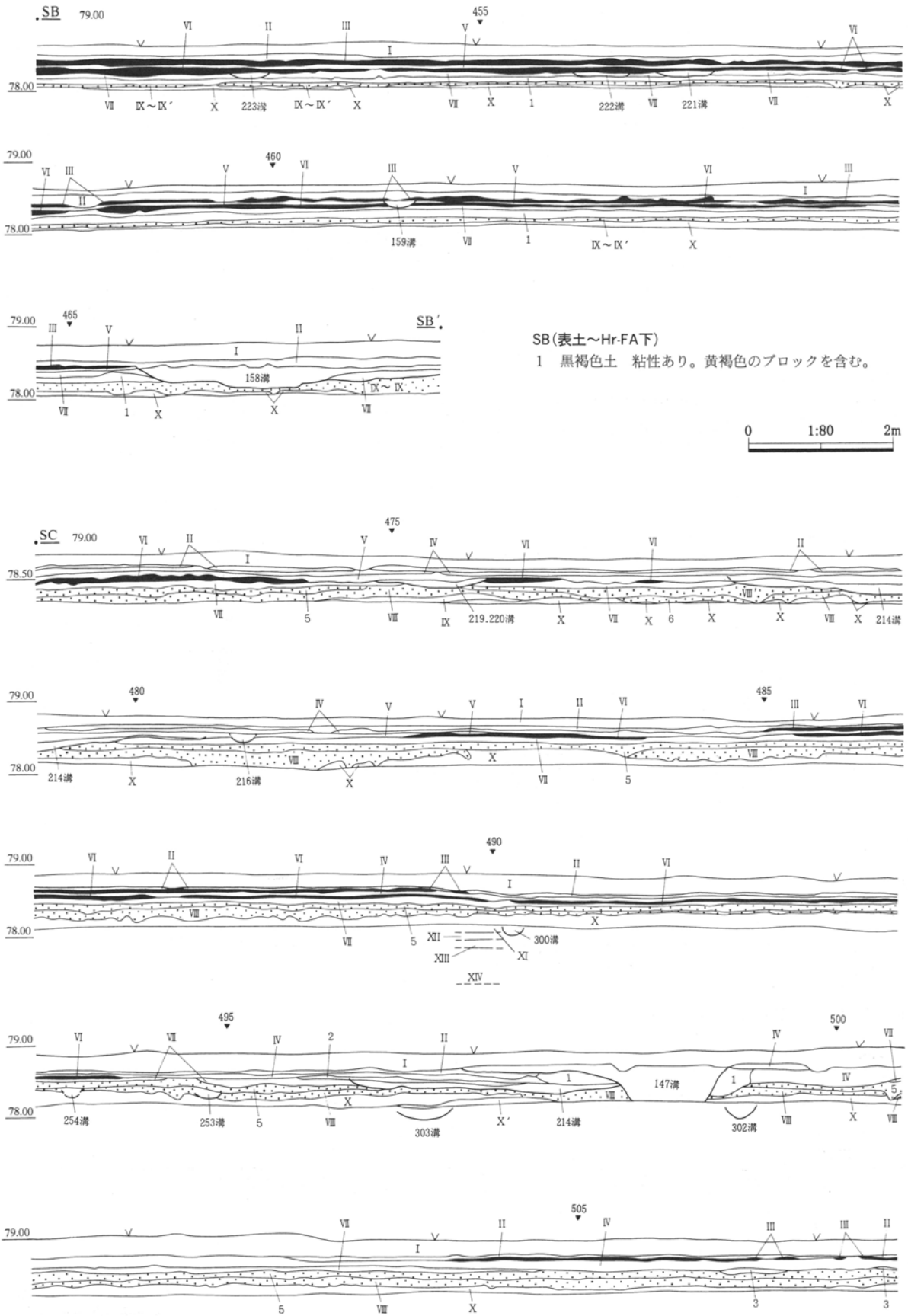
- 1 灰黄褐色土 粘性あり。シルト質。洪水層。
- 2 にぶい黄橙色土 1層とVIII層の混土。
- 3 暗褐色土 粘性あり。しまり良い。As-C混土。
- 4 灰黄褐色土 VIII層とX層の混土。
- 5 暗褐色土 粘性弱い。As-Aを上部にAs-Bを下部に斑状に含む。

- 6 褐灰色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 7 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 8 黄灰白色土
- 9 灰白色シルト質土
- 10 灰白色粘質土



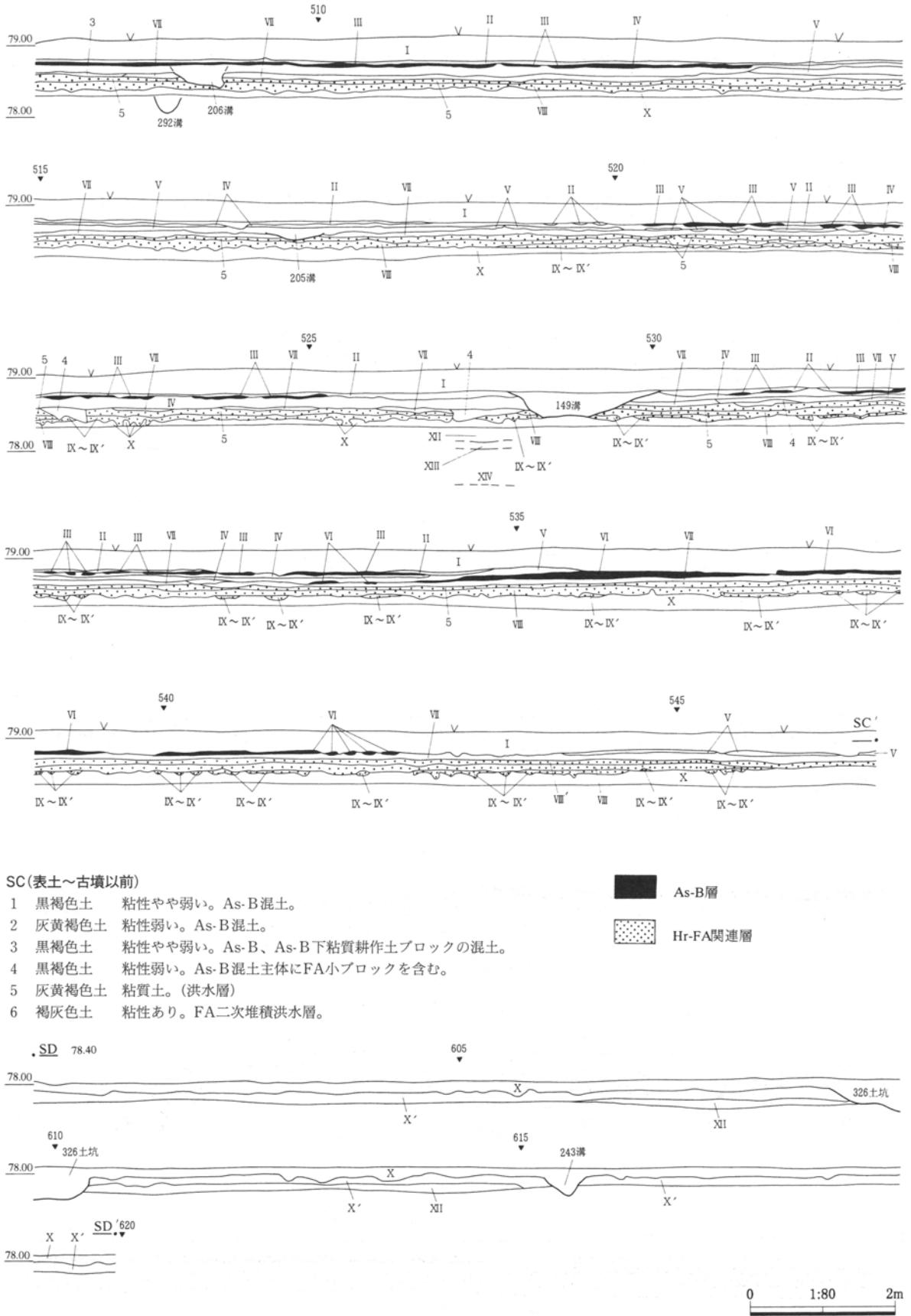
第10図 A-1区土層図(1)

6. 基本土層



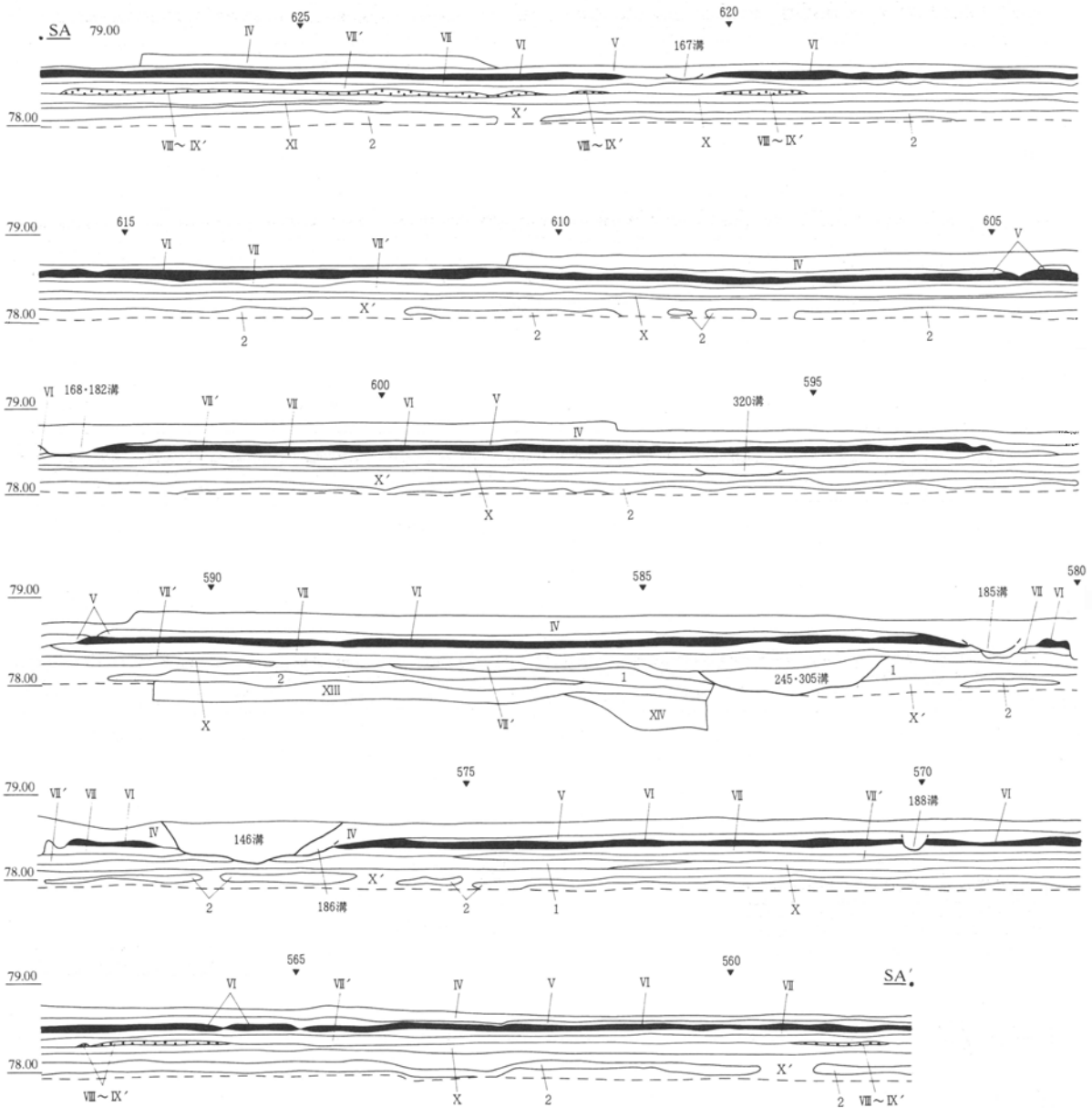
第11図 A-1区土層図(2)

第1章 調査の経過と遺跡の立地



第12図 A-1区土層図(3)

A-2区

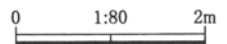
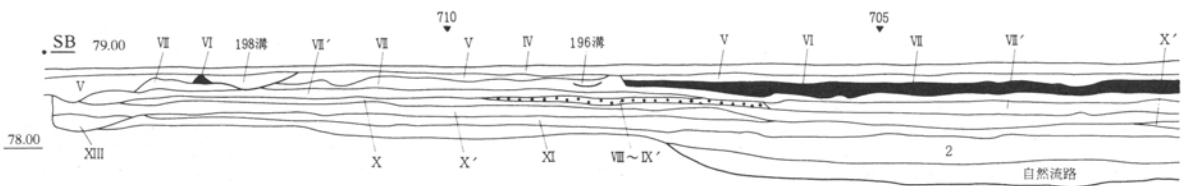


SA (As-A 下~古墳以前)

- 1 灰黄褐色土 粘性あり。酸化鉄分の斑点あり。
- 2 褐灰色土 粘性あり。酸化鉄分の斑点あり。

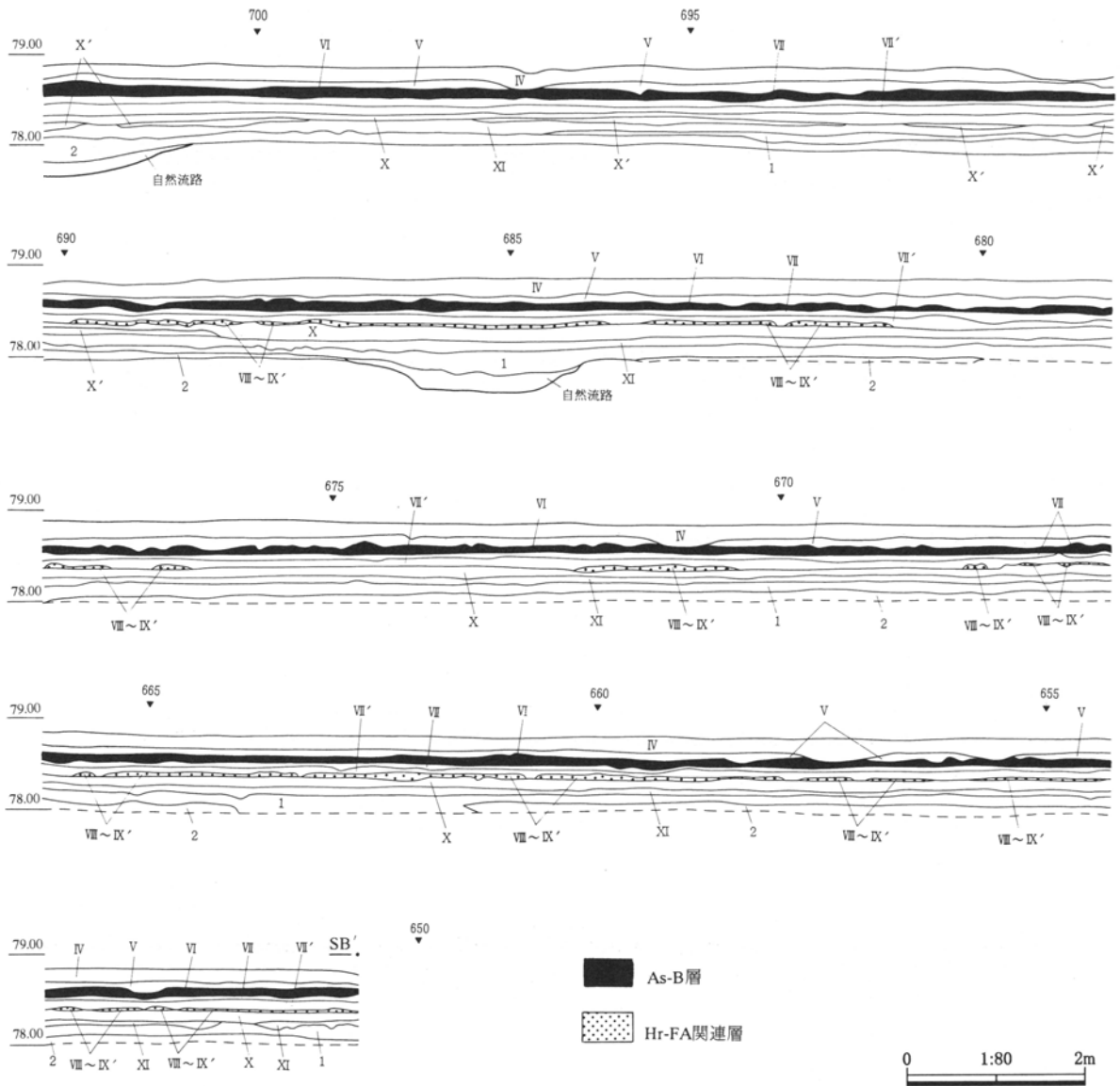
SB (As-A 下~古墳以前)

- 1 にぶい黄褐色土 粘性あり。酸化鉄分の斑点あり。
- 2 褐灰色土 粘性あり。酸化鉄分の斑点あり。

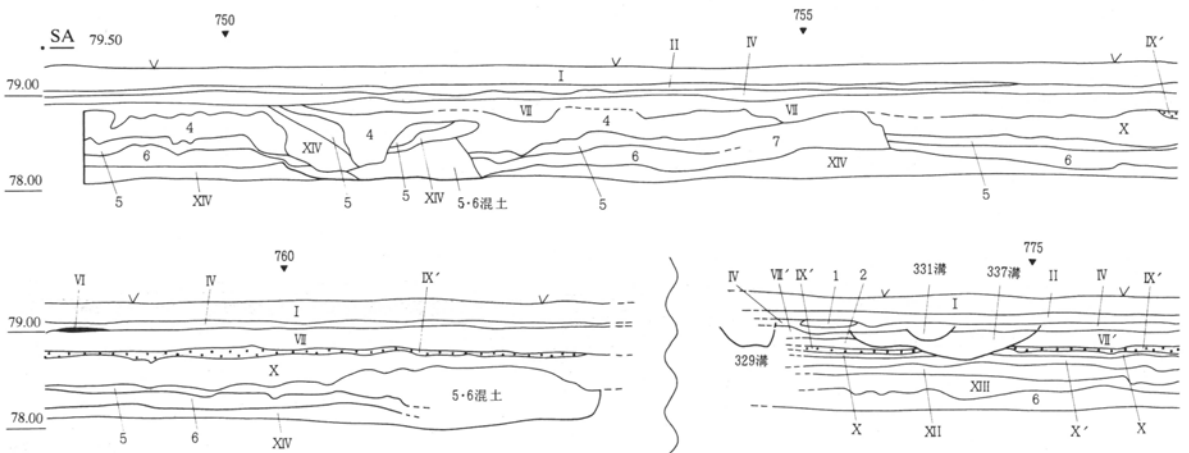


第13図 A-2区土層図(1)

第1章 調査の経過と遺跡の立地

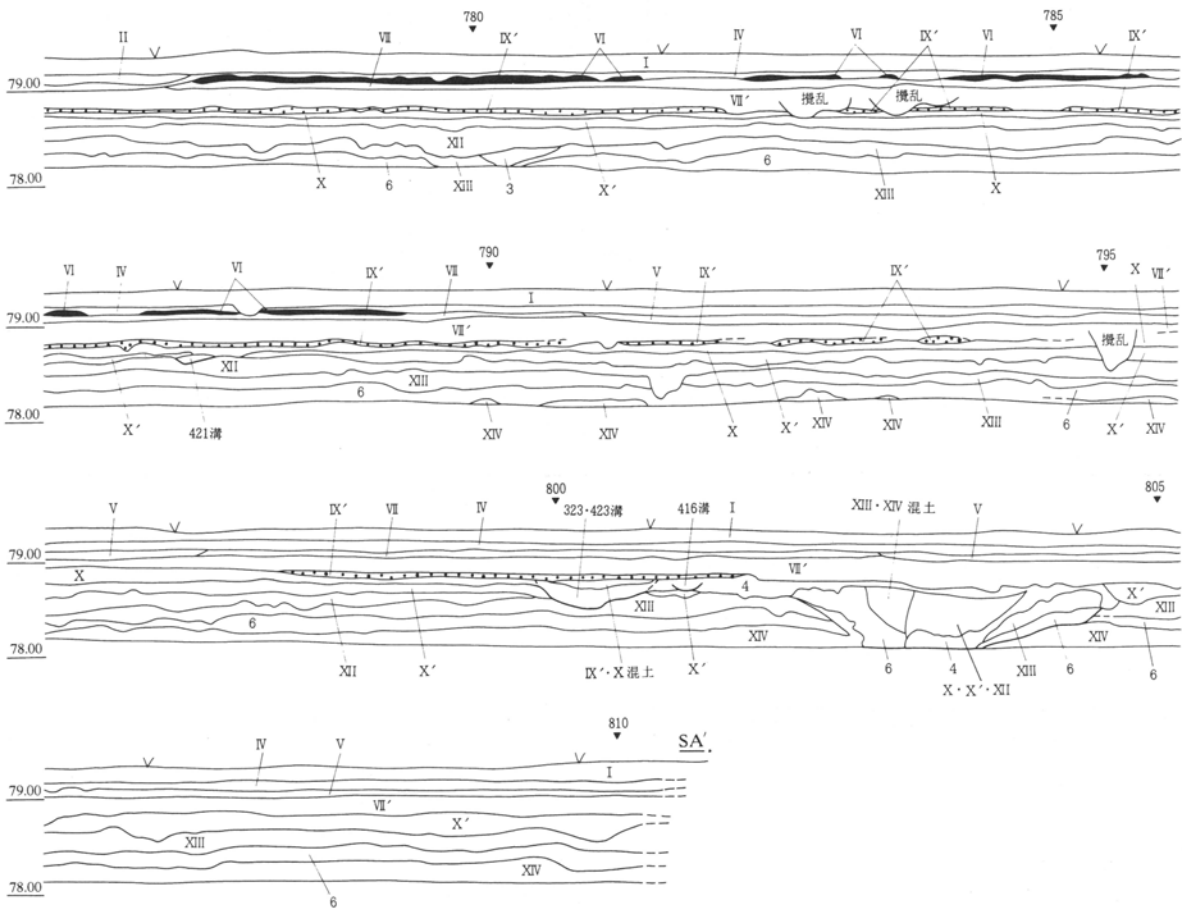


A-3区



第14図 A-2区土層図(2)・A-3区土層図(1)

6. 基本土層

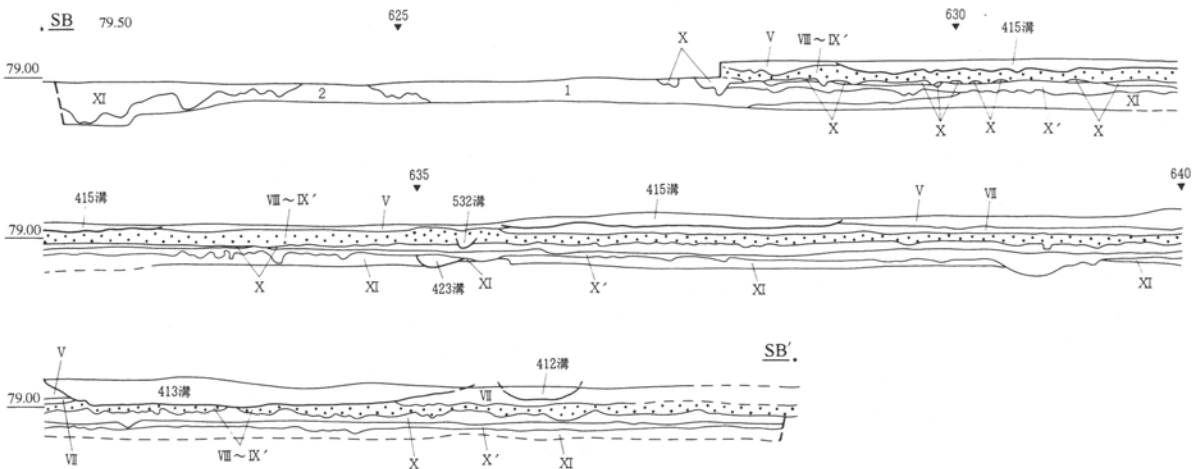


SA (表土～古墳以前)

- 1 褐灰色土 As-A混土。II層との間に間層がある。
- 2 褐灰色土 粘質土。FAブロックを含む。
- 3 黒褐色土 粘質土。
- 4 黒色土 粘性あり。南東部の微高地部分。
- 5 明黄褐色土 微高地部分縁辺部ににじんだローム。
- 6 褐灰色土 砂質土。
- 7 におい黄褐色土 5・6層が混在し、鉄分を多量に含む。

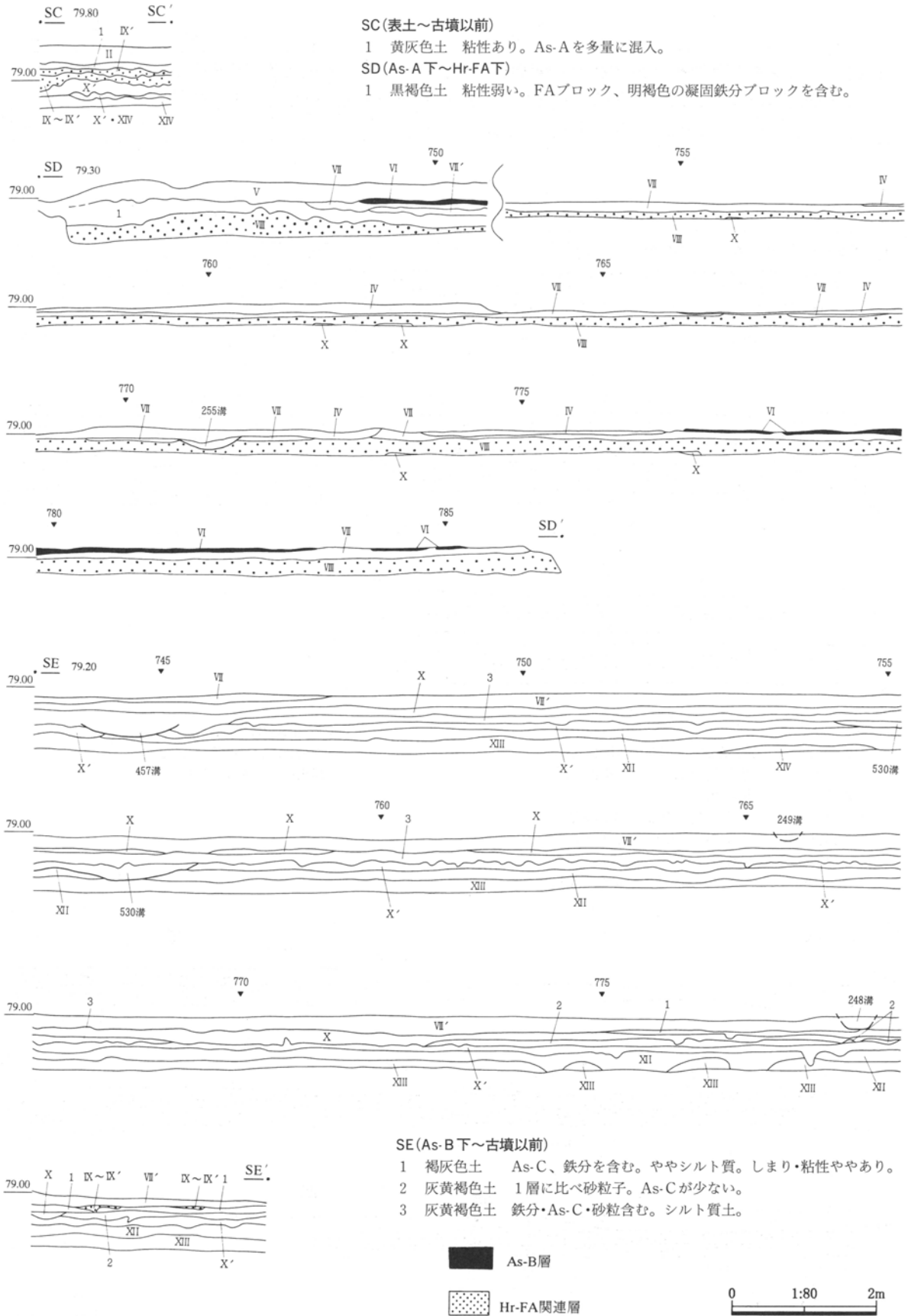
SB (中・近世～古墳以前)

- 1 黒褐色土 白色鉱粒含む。
- 2 黒褐色土 鉄分を含む。



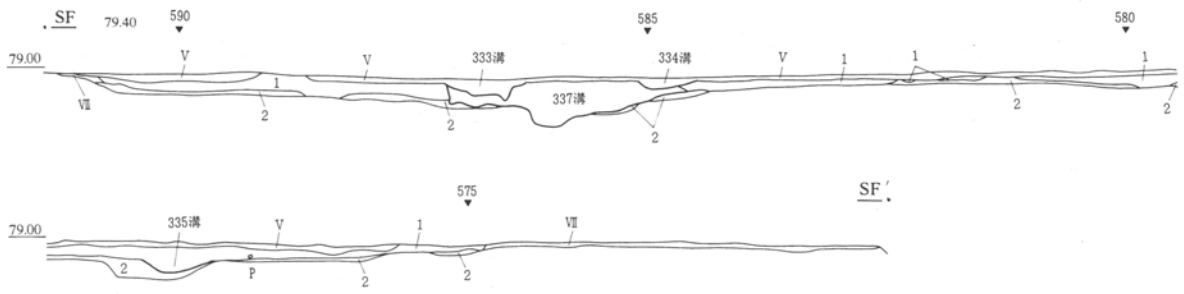
第15図 A-3区土層図(2)

第1章 調査の経過と遺跡の立地



第16図 A-3区土層図(3)

6. 基本土層

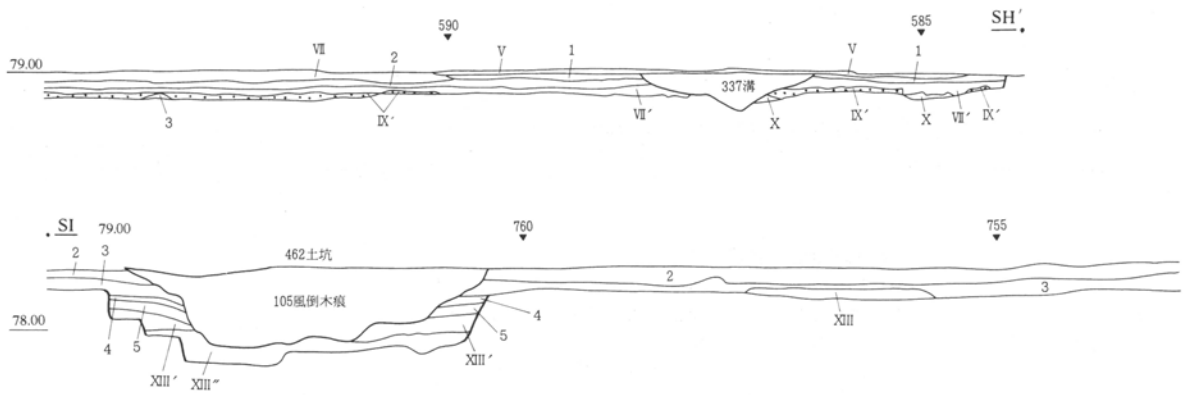
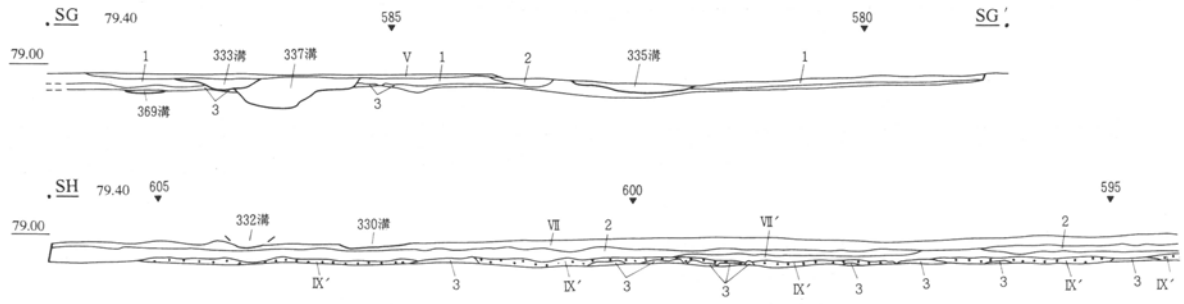


SF (中・近世～As-B下)

- 1 灰黄褐色土 As-Bを若干含む。しまりあり。黄褐色土を含む。
- 2 黒色土 台地部分に見えてくる黒土。鉄分を含む。

SG (中・近世～As-B下)

- 1 灰黄褐色土 As-Bを若干含む。しまりあり。黄褐色土を含む。
- 2 灰黄褐色土 2層に比べAs-Bの混入少ない。黄色味が強い。
- 3 黒色土 台地部分に見えてくる黒土。鉄分を含む。



SH (As-B～Hr-FA下)

- 1 灰黄褐色土 As-Bを若干含む。しまりあり。黄褐色土を含む。
- 2 灰黄褐色土 黄褐色土を混入。しまりあり。
- 3 FA下水田耕作面畦

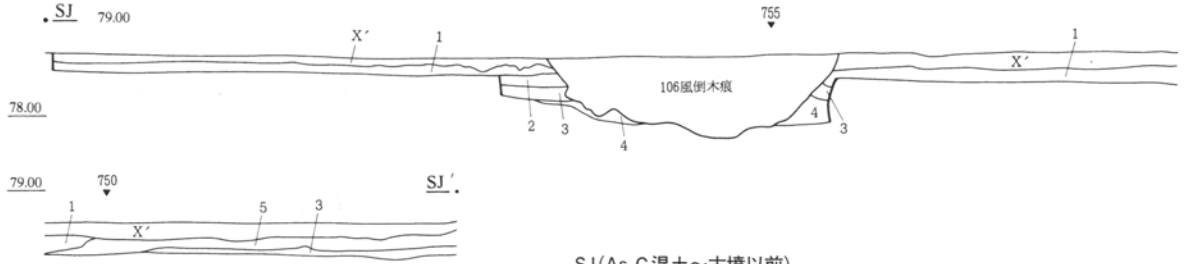
SI (As-C混土～古墳以前)

- 1 明赤褐色土 鉄分の凝固あり。硬い。全的に明褐色。
- 2 灰黄褐色土 粘質土。
- 3 灰黄褐色土 粘質土。色調1層よりやや明るい。
- 4 淡黄色土 粘質土。
- 5 褐色土 砂質土。



第17図 A-3区土層図(4)

第1章 調査の経過と遺跡の立地

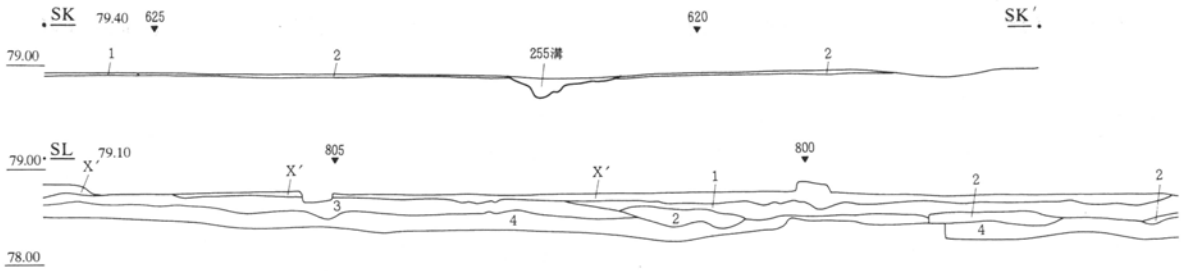


SJ (As-C混土～古墳以前)

- 1 灰黄褐色土 As-C痕粘質土。
- 2 淡黄色土 粘質土。
- 3 褐灰色土 粘質土。しまりあり。
- 4 灰白色土 粘質土。
- 5 にぶい黄褐色土 粘性弱い。しまりあり。凝固鉄分を多量に含む。

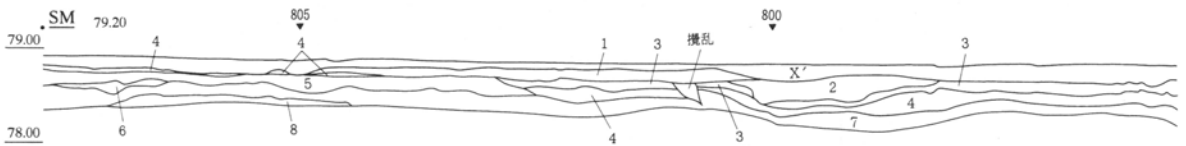
SK (中・近世)

- 1 褐色土 As-B混土。
- 2 褐色土 As-B混土。FA、黒色土ブロックを含む。



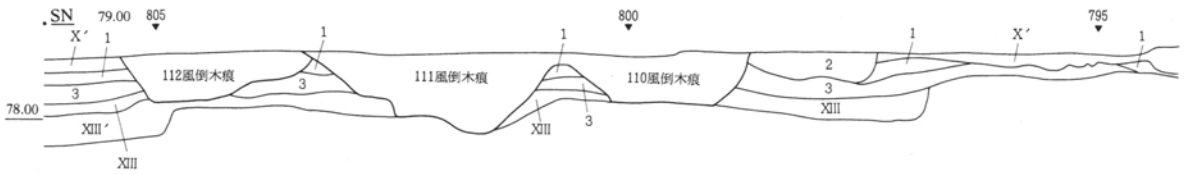
SL (As-C混土～古墳以前)

- 1 灰黄褐色土 粘質土。
- 2 褐灰色土 粘質土。
- 3 明黄褐色土 凝固鉄分を含むローム。
- 4 褐灰色土 砂質土。



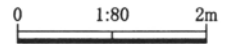
SM (As-C混土～古墳以前)

- 1 黒色土 黒色土に灰白色シルト質土が多量に混入。
- 2 黒褐色土 XI層に近似。X'層よりも白色鉱粒を少量混入。
- 3 灰黄褐色土 粘質土。
- 4 褐灰色土 やや砂質土を含む粘質土。
- 5 明黄褐色土 凝固鉄分を含むローム。(台地縁辺部のにじんだロームである)
- 6 明赤褐色土 5層中の特に凝固鉄分の多い部分。
- 7 褐灰色土 砂質土。
- 8 灰白色土 粘質土。



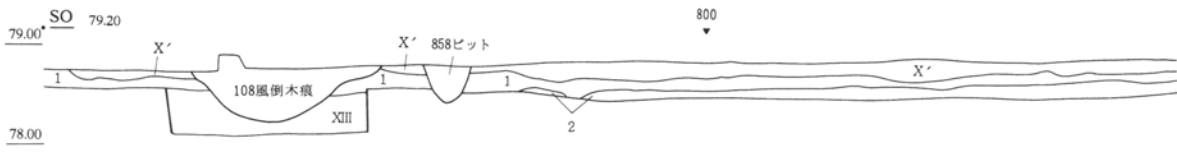
SN (As-C混土～古墳以前)

- 1 灰黄褐色土 粘質土。
- 2 黒褐色土 黒褐色土主体。ロームブロック、凝固鉄分を含む。
- 3 褐灰色土 砂質土。



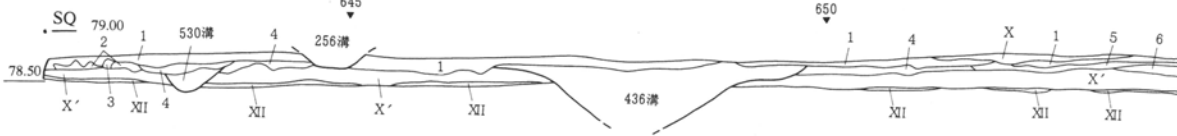
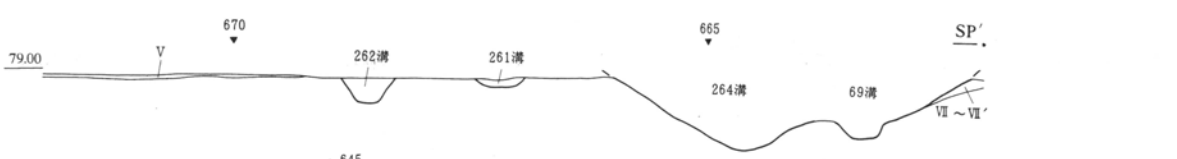
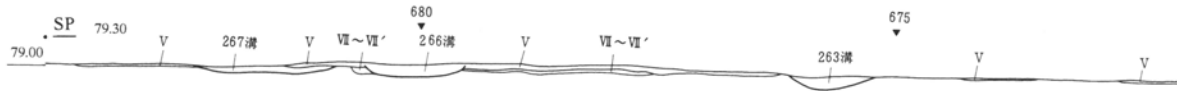
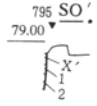
第18図 A-3区土層図(5)

6. 基本土層



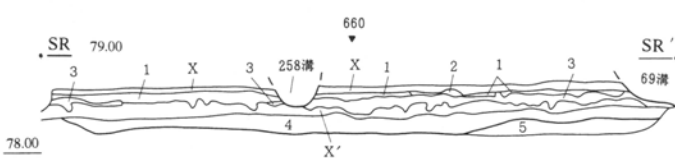
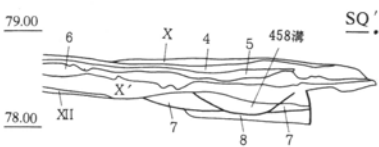
SO (As-C混土～古墳以前)

- 1 にぶい黄褐色土 粘質土。所々酸化鉄分の凝固したものを多量に含む。
- 2 褐灰色土 砂質土。



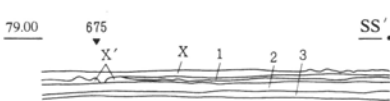
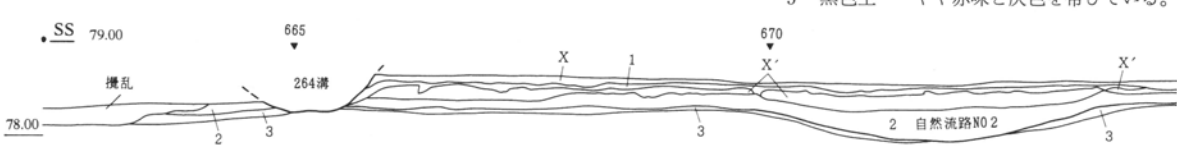
SQ (Hr-FA下～古墳以前)

- 1 黄白色土 シルト質土。白色鈣粒を含む。
- 2 黄褐色土 砂質土。白色軽石を含む。
- 3 黄灰色土 シルト質と砂層の混土層。
- 4 暗灰褐色土 やや粘性あり。酸化鉄分の斑状あり。
- 5 黄色シルト質土
- 6 褐色土 砂質土。粒子大きい軽石を含む。
- 7 黒色土 酸化鉄分を僅かに含む。
- 8 灰褐色土 砂質土。



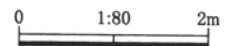
SR (Hr-FA下～古墳以前)

- 1 黄白色土 シルト。白色鈣物を含む。
- 2 黄褐色土 砂質土。白色鈣粒を含む。
- 3 褐色土 砂質土。粗粒軽石を含む。
- 4 黒色土 酸化鉄分を僅かに含む。
- 5 黒色土 やや赤味と灰色を帯びている。



SS (Hr-FA下～古墳以前)

- 1 黄褐色土 砂質土。白色鈣粒を含む。僅かに酸化鉄分を含む。
- 2 黒色土 酸化鉄分を僅かに含む。
- 3 黒色土 やや赤味と灰色を帯びている。



第19図 A-3区土層図(6)

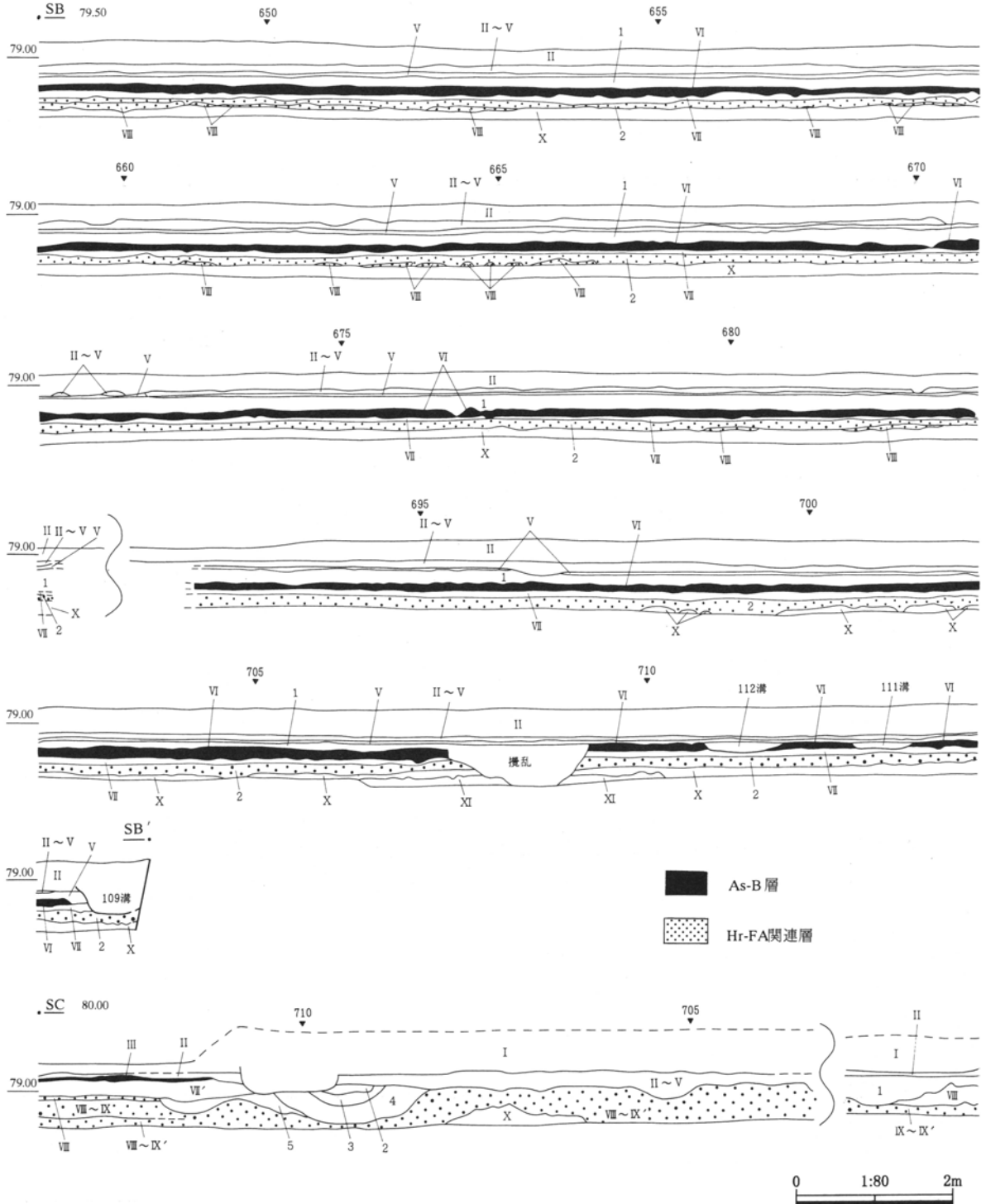
第1章 調査の経過と遺跡の立地

SA(表土~As-C混土)

- 1 におい黄褐色土 粘性あり。酸化鉄分の斑点あり。
- 2 におい黄褐色土 As-Bを含む。酸化鉄分の斑点あり。
- 3 褐色土 As-Aを多量に含む。酸化鉄分の斑点あり。
- 4 におい黄褐色土 粘性のある土主体。As-Bを多量に含む。
- 5 におい黄褐色土 粘性弱い。FAブロック、As-B混入。
- 6 褐灰色土 やや粘性あり。FAブロックを混入。
- 7 明黄褐色土 粘性弱い。軽石粒を斑状に含む。

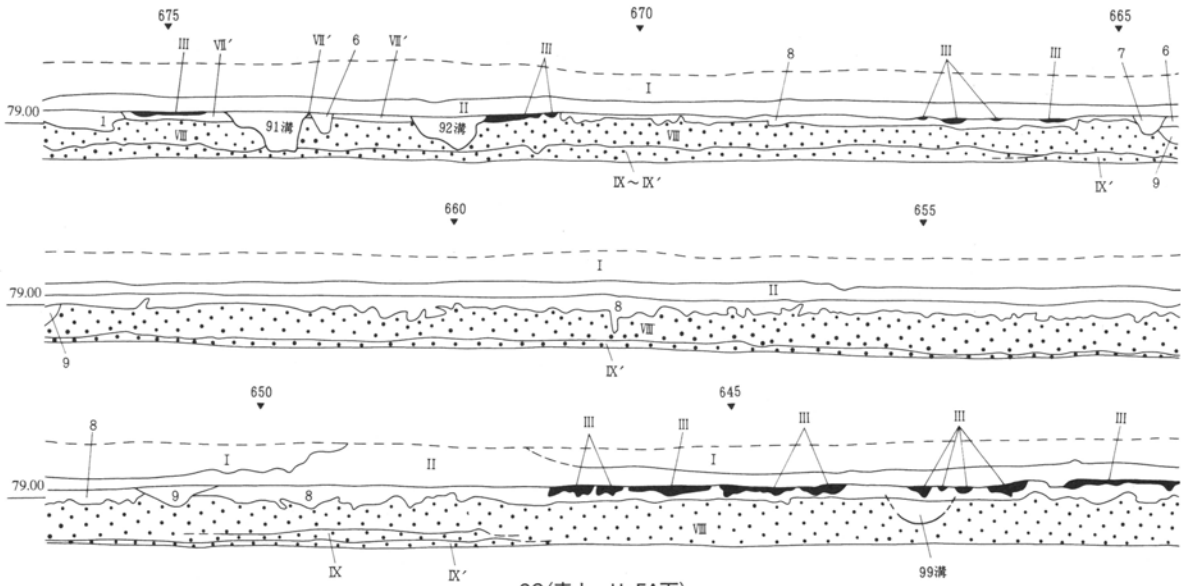
SB(表土~As-C混土)

- 1 におい黄褐色土 As-Bを含む。酸化鉄分の斑点あり。
- 2 明黄褐色土 粘性弱い。軽石粒を斑状に含む。



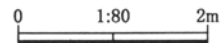
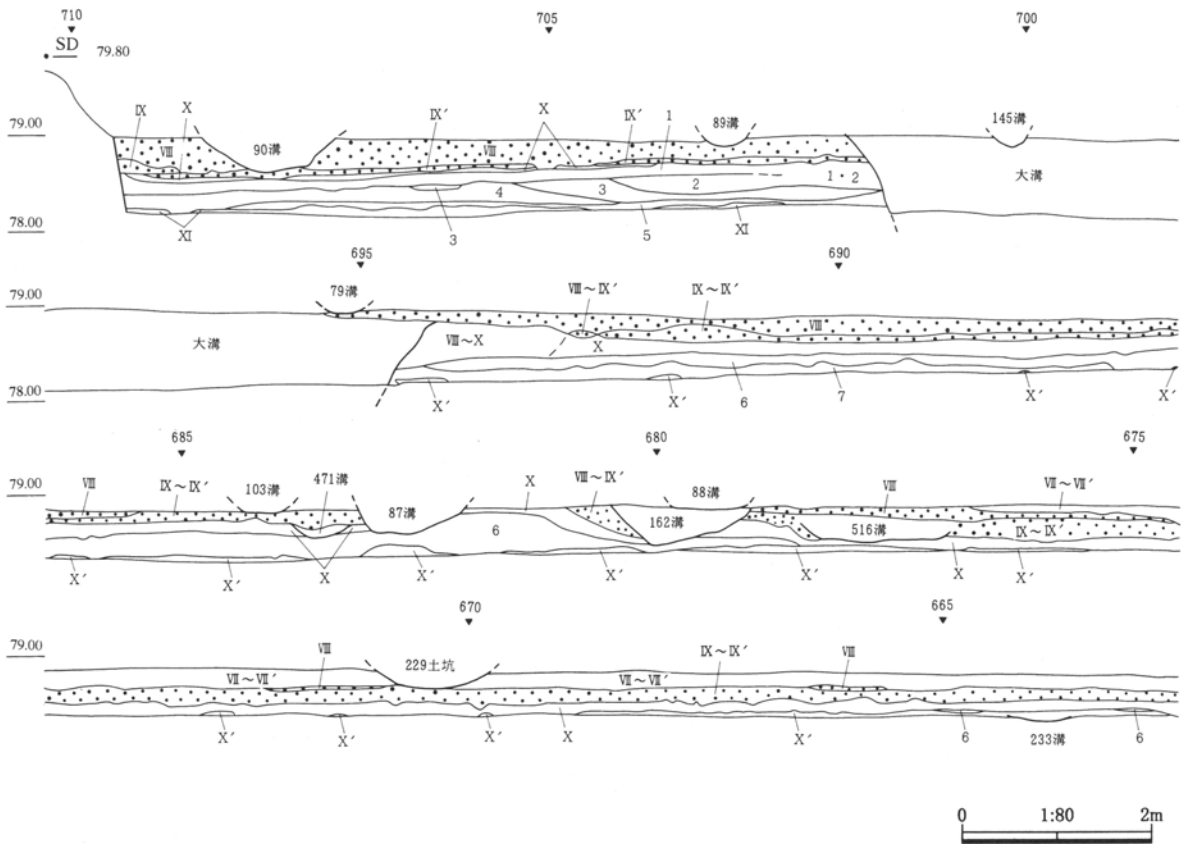
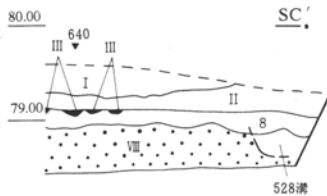
第22図 B区土層図(2)

6. 基本土層



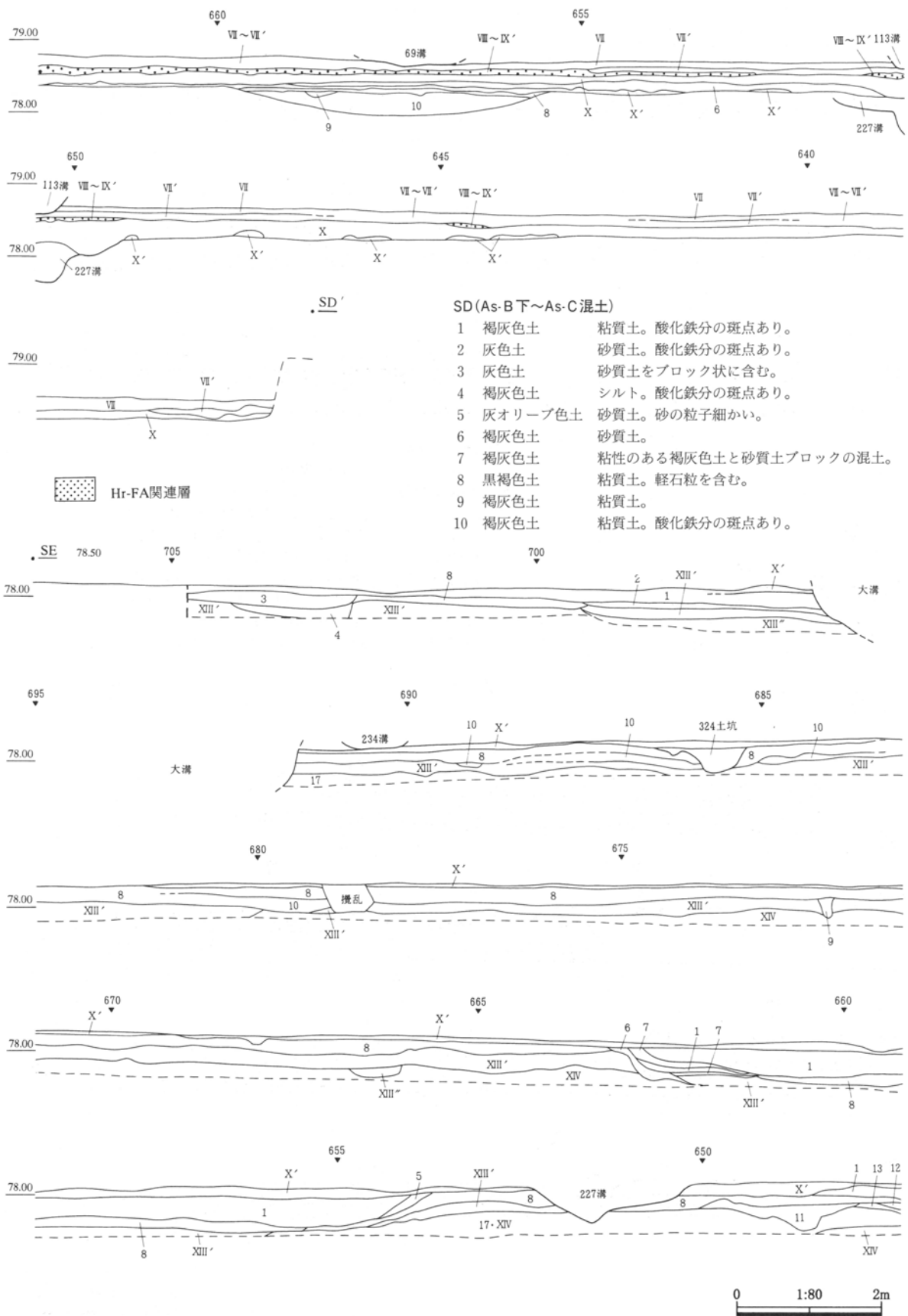
SC(表土~Hr-FA下)

- 1 灰黄褐色土 砂質土。礫混入。
- 2 にぶい黄褐色土 粘性弱い。砂質土を主体に4層土のブロックを混入。
- 3 灰色土 粘性あり。白色鈳粒を斑点状に多量に含む。
- 4 褐灰色土 粘性のある褐灰色土主体。白色鈳粒を混入。
- 5 灰黄褐色土 粘性あり。酸化鉄分を斑状に含む。白色鈳粒を混入。
- 6 褐灰色土 粘性弱い。As-B、白色鈳粒を斑点状に含む。
- 7 にぶい黄褐色土 As-B、褐灰色粘質土ブロックを含む。
- 8 褐灰色土 As-Bを多量に含む。
- 9 褐灰色土 粘性あり。As-Bを斑点状に含む。



第23図 B区土層図(3)

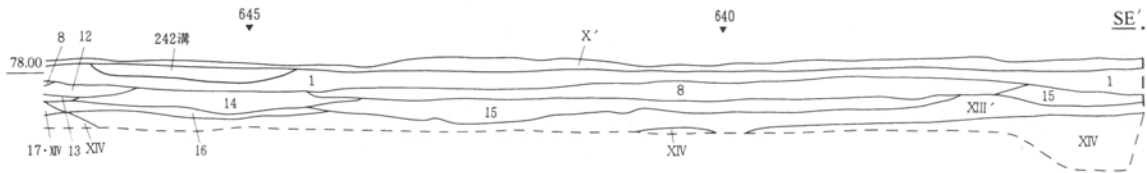
第1章 調査の経過と遺跡の立地



第24図 B区土層図(4)

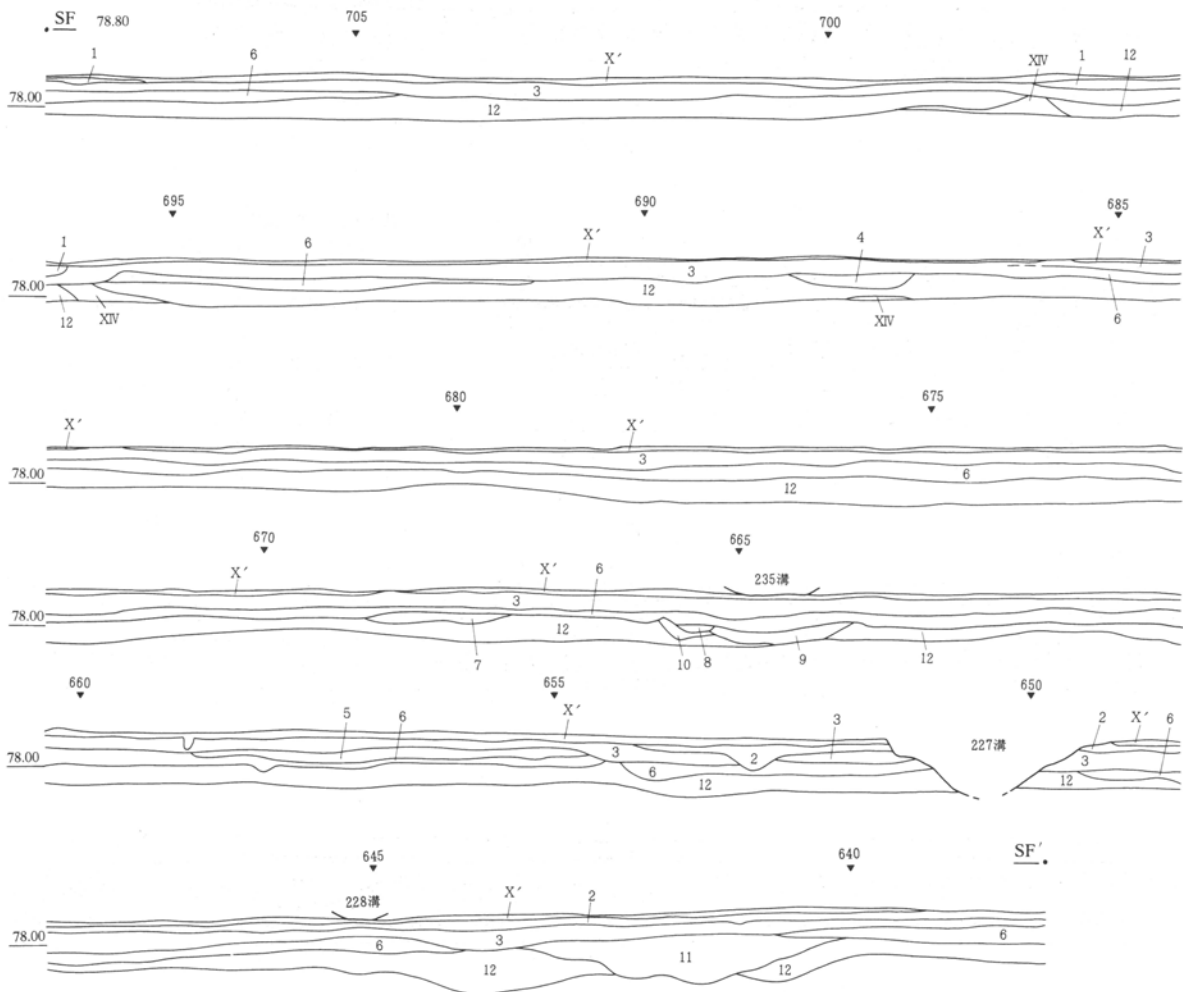
6. 基本土層

SE'



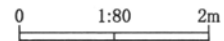
SE (As-C混土～古墳以前)

- | | | | |
|--------|------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒色土 | 粘性強い。酸化鉄分の斑点あり。 | 9 褐灰色土 | 粘性あり。酸化鉄分の斑点あり。 |
| 2 褐灰色土 | シルト層。黒色粘質土小ブロックを多量に含む。 | 10 褐灰色土 | 粘性あり。砂質土を多量に混入。 |
| 3 褐灰色土 | 粘質土主体に砂質土を混入。 | 11 黒褐色土 | 粘性弱い。砂質土。 |
| 4 褐灰色土 | 粘質土。 | 12 褐灰色土 | 14層に近似。黄褐色小ブロックを含む。 |
| 5 灰色土 | 粘質土。 | 13 褐灰色土 | 砂質土。 |
| 6 褐灰色土 | 粘性あり。白色鈹粒、黄褐色鈹粒を含む。 | 14 褐灰色土 | 粘性強い。黒色粘質土ブロックを含む。 |
| 7 黒褐色土 | 粘性あり。白色鈹粒を含む。 | 15 褐灰色土 | 粘性強い。シルト層。 |
| 8 褐灰色土 | 粘性強い。砂質土と黒色粘質土の混土。 | 16 褐灰色土 | 粘性あり。細砂層。 |
| | | 17 灰白色土 | XIV層主体に褐色小ブロックを多量に含む。 |



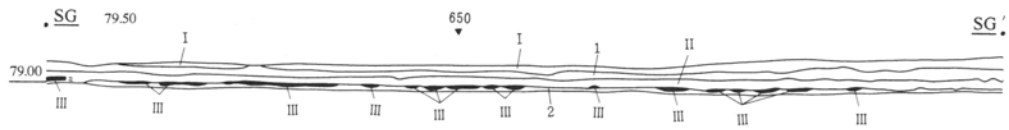
SF (As-C混土～古墳以前)

- | | | | |
|---------|-----------------------|---------|----------------------|
| 1 黒褐色土 | 粘質土主体に砂質土をブロック状に混入。 | 7 灰黄褐色土 | 粘質土。酸化鉄分の斑点あり。 |
| 2 暗灰色土 | 粘質土。 | 8 褐灰色土 | 粘質土。白色鈹粒を若干混入。 |
| 3 黒褐色土 | 粘質土主体。酸化鉄分の斑点あり。 | 9 灰色土 | 粘質土。 |
| 4 黒褐色土 | 粘質土。酸化鉄分をブロック状に多量に含む。 | 10 黒褐色土 | 粘質土。12層に近似。 |
| 5 灰黄褐色土 | 粘質土主体に白色鈹粒、砂質土を含む。 | 11 黒色土 | 粘質土。砂質土の小ブロックを下部に混入。 |
| 6 褐灰色土 | 砂質土。 | 12 褐灰色土 | 砂質土。酸化鉄分の斑点あり。 |



第25図 B区土層図(5)

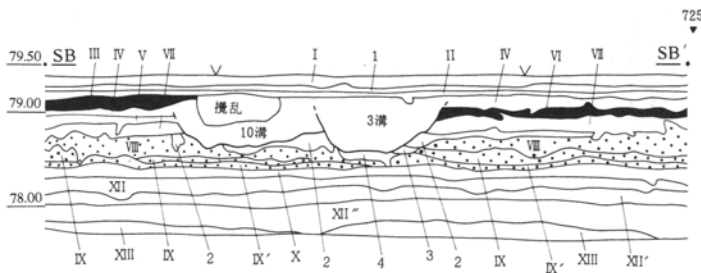
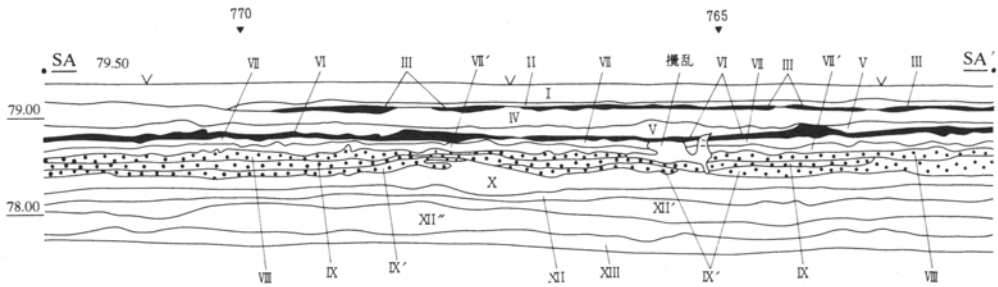
第1章 調査の経過と遺跡の立地



SG(表土~As-A下)

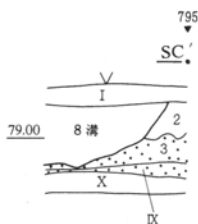
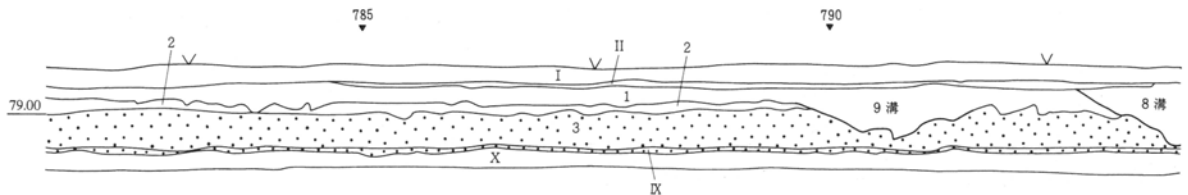
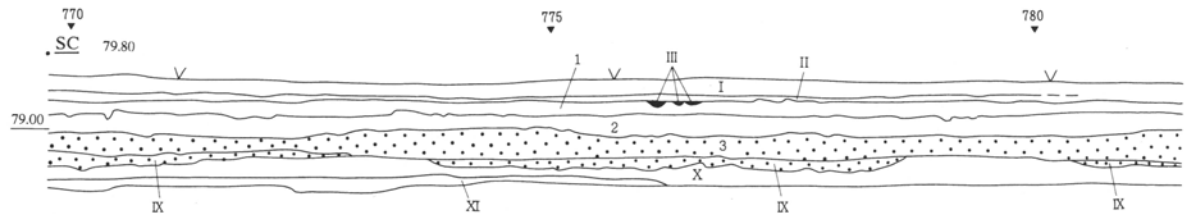
- 1 黒褐色土 柔らかく、あまり発泡のよくない軽石を含む。
- 2 褐色土 しまりがよく細かい。粘性やや強く、鉄分の沈着が多い。

C区



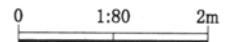
SB(表土~古墳以前)

- 1 明褐色土 鉄分の凝固ブロック、白色鉍粒を含む。
- 2 暗灰褐色土 FAブロックを多量に混入。
- 3 暗褐色土 As-B下耕作土ブロック・As-Bを含む。
- 4 黒褐色土 As-Bを含む。As-B下耕作土・FAブロックを多量に含む。



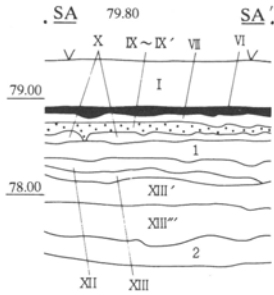
SC(表土~As-C混土)

- 1 黒褐色土 上層にIII層が混入。FP粒を含む。砂質。
- 2 黄褐色土 FP粒を含む。崩れやすい。細砂質土。
- 3 黄褐色土 FA層。ラミナ状に堆積しているが、間にIX層がユニットで堆積。



第26図 B区土層図(6)・C区土層図(1)

D区



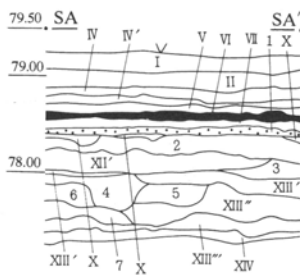
SA(表土～古墳以前)

- 1 明褐色土 砂質土。黒褐色土のブロック、鉄分を含む。
- 2 明褐色土 シルト質土。鉄分の凝固ブロックを含む。下位に行くにつれ礫が多く、また大きくなってくる。粘性ややあり。

As-B層

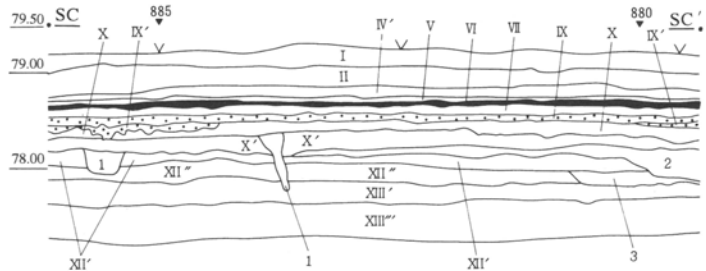
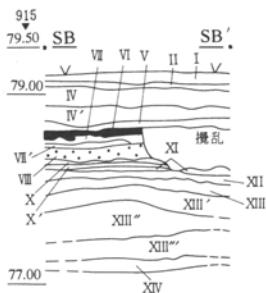
Hr-FA 関連層

E区



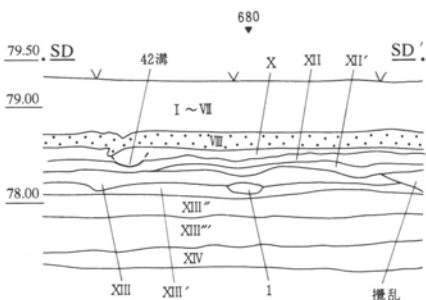
SA(表土～古墳以前)

- 1 灰黄褐色土 粘性あり。鉄分を含む。白色鉱粒を微量に含む。
- 2 黄褐色土 XII層主体。鉄分を多量に含む。やや粘性あり。白色鉱粒を微量に含む。
- 3 黄灰色土 黄灰シルトを均一に含む。粘性あり。鉄分含む。
- 4 灰オリーブ色土 灰白色シルト主体。XIII'よりも粒径大。オリーブ色の砂礫混入。粘性あり。鉄分を含む。
- 5 灰白色土 シルト質。XIII'層に似るが、黒灰色粘土を斑状に含まない層。鉄分含む。
- 6 灰オリーブ色土 粘質土。XIII'層に、前橋泥流層に含まれる砂礫を含有する層。鉄分を含む。
- 7 灰オリーブ黒色土 シルト層にXIV層の黄砂礫、黒灰粘土を含む。



SC(表土～古墳以前)

- 1 黒褐色土 XII層のシルトを全く含まない。粘性あり。白色鉱粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 XII層の灰白色シルトを含まない。鉄分、白色鉱粒を含む。
- 3 オリーブ褐色土 XII'層と近似。XIII'層の混合をより強く受けている。粒径大。

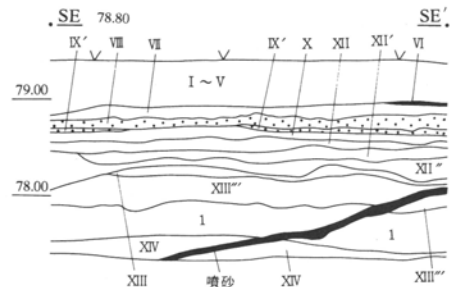


SD(表土～古墳以前)

- 1 褐灰色土 砂質とシルト質の混土。凝固鉄分を斑状に含む。白色・黄色・明黄褐色のパミスを含む。しまり弱く、粘性あり。

SE(表土～古墳以前)

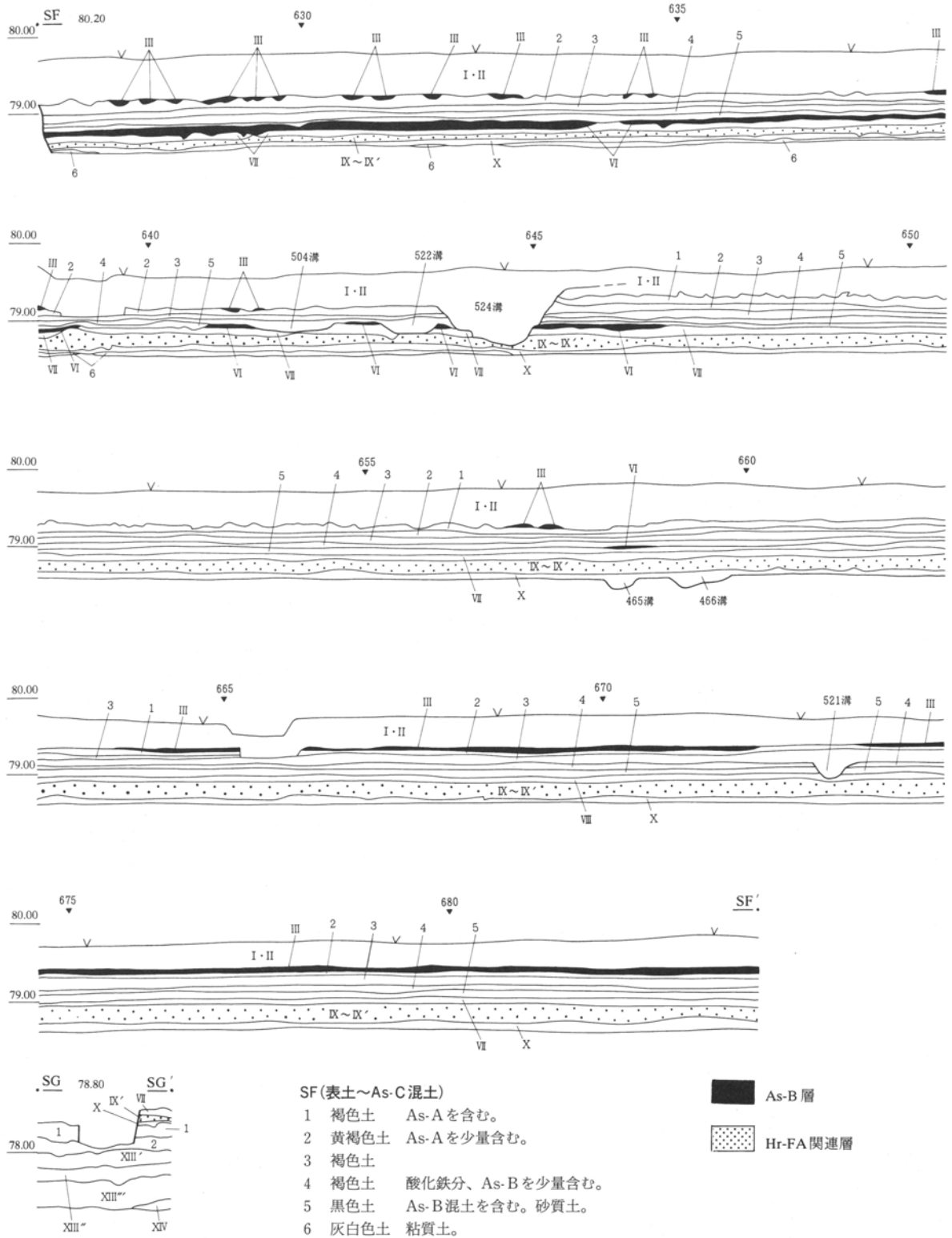
- 1 灰白色土 シルト質土。XIII'層と近似。凝固鉄分を斑状に多量に含む。礫を含む。



0 1:80 2m

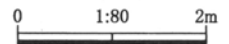
第27図 D区土層図・E区土層図(1)

第1章 調査の経過と遺跡の立地

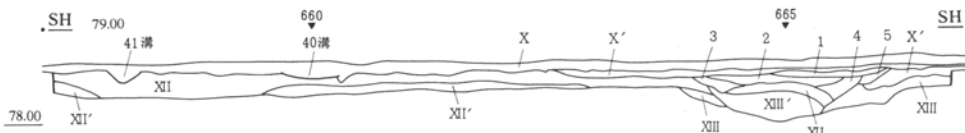


SG (As-B下~古墳以前)

- 1 黄褐色土 XII層主体。鉄分を多量に含む。やや粘性あり。白色鉱粒を微量に含む。
- 2 黄褐色土 XII層よりも鉄分を多量に含む。灰白色・黄色シルトを斑状に混入。やや粘性あり。

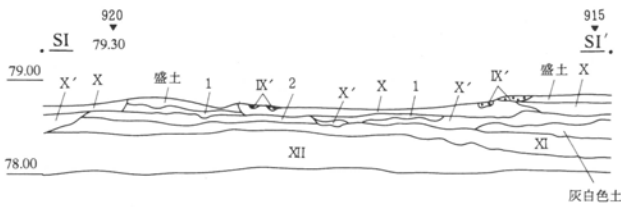


第28図 E区土層図(2)



SH (Hr-FA下～古墳以前)

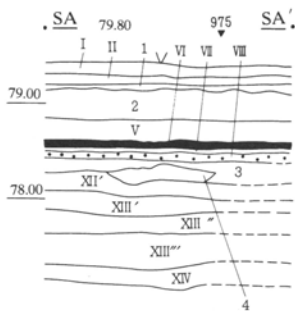
- 1 黄灰色土 凝固鉄分を斑状に含む。As-Cを若干含む。X・XII層の混土。やや粘性あり、しまりあり。
- 2 黄灰色土 XII層主体。FA下水田耕作土のブロックを含んでいる。
- 3 黒褐色土 シルト質土。凝固鉄分を斑状に含む。上部はX'層が混入。
- 4 暗灰黄色土 砂質土。粒径大。粘性ほとんどない。凝固鉄分を斑状に含む。
- 5 褐灰色土 砂質土。凝固鉄分を斑状に含む。As-Cを若干含む。



SI (Hr-FA下～古墳以前)

- 1 灰黄色土 川砂が混入。砂質土。
- 2 黒褐色土 しまり固い。礫混入。

F区

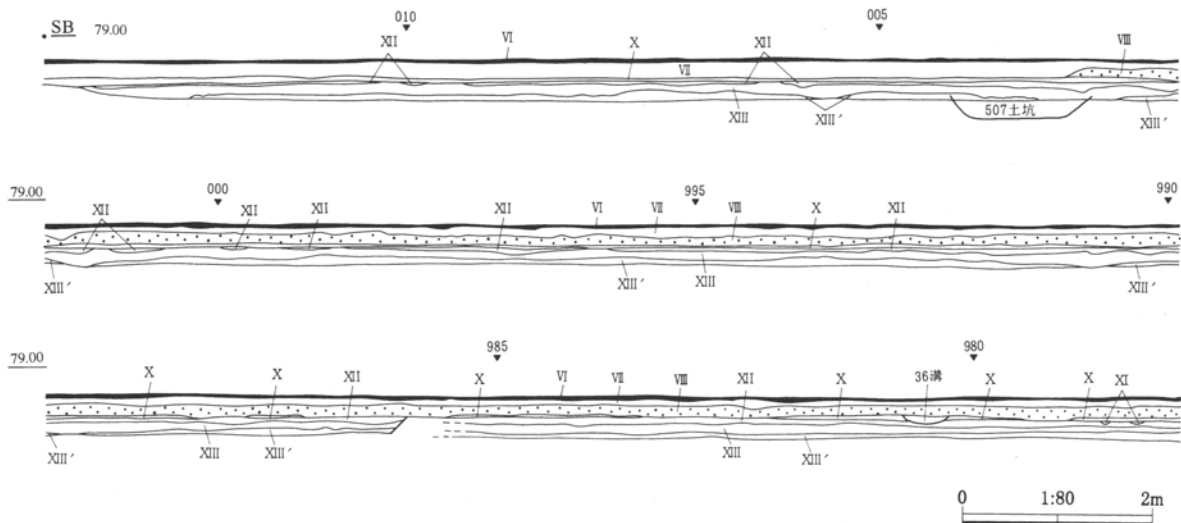


SA (表土～古墳以前)

- 1 黒褐色土 As-AをII層より多量に含む。
- 2 にぶい黄褐色土 粘性なし。鉄分を含む。
- 3 褐色土 明褐色の鉄分の沈着が強い。
- 4 灰褐色土 粘性の強い白黄色シルトを少量含む。鉄分の沈着がある。

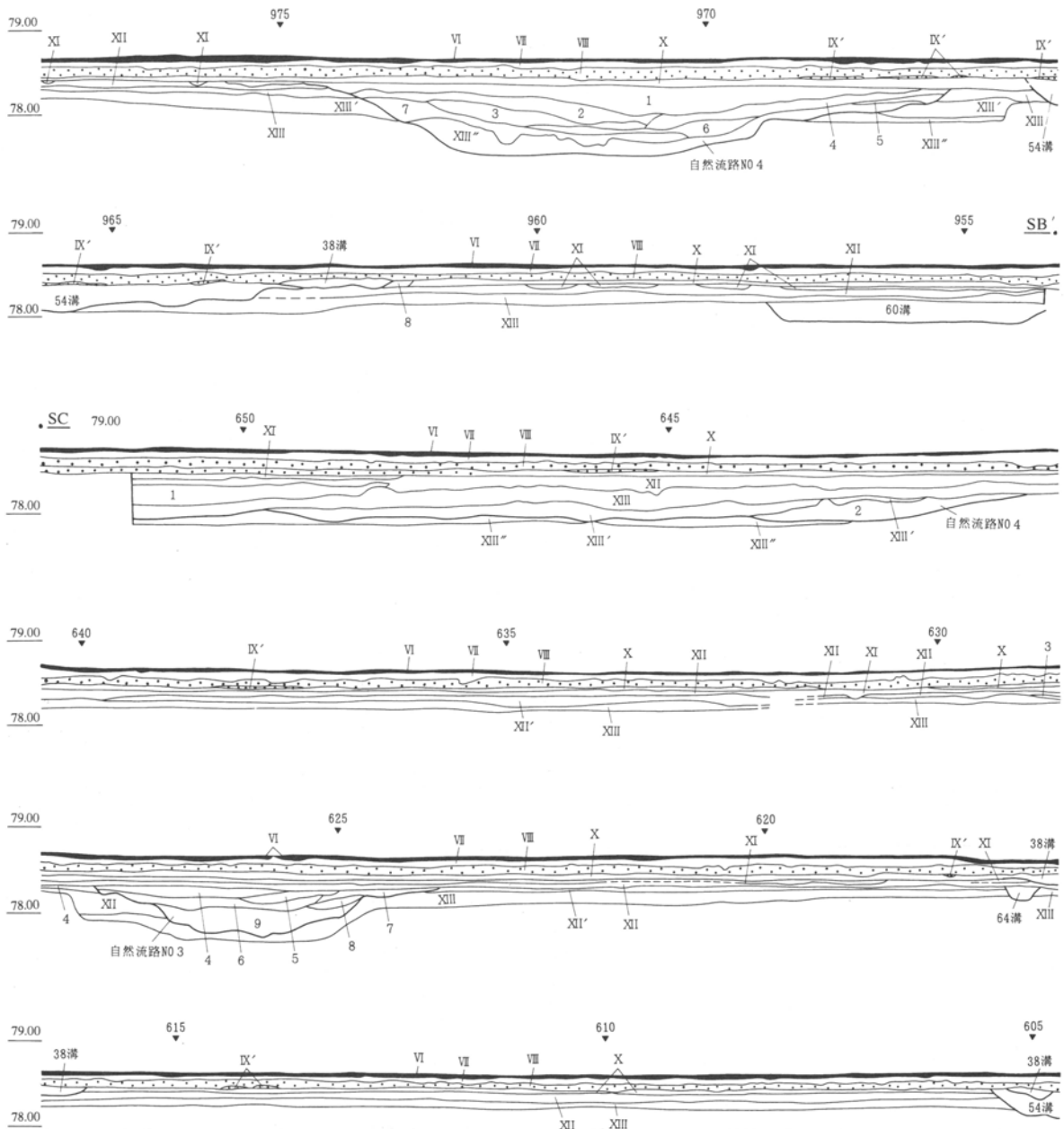
SB (As-B下～古墳以前)

- 1 黒色土 粘性強い泥炭層に近い土層。
- 2 褐灰色土 シルト質土。XIII層土を混入。
- 3 褐灰色土 シルト質土。XIII層土を多量に混入。
- 4 褐灰色土 シルト質土。XIII層土を少量混入。
- 5 褐灰色土 シルト質土。XIII層土を多量に混入。
- 6 褐灰色土 黒色粘質土が混入。シルト質土。
- 7 褐灰色土 シルト質土。XIII・XIII層土を混入。
- 8 褐灰色土 砂質土。やや粘性あり。鉄分を含む。



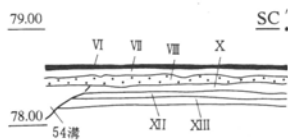
第29図 E区土層図(3)・F区土層図(1)

第1章 調査の経過と遺跡の立地

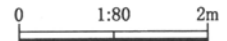


SC (As-B 下～古墳以前)

- 1 黒褐色土 粘質土。XIII'層土を一部混入。
- 2 黒褐色土 XIII層に近い土層。やや黒色味を混入。
- 3 黒褐色土 シルト質土。XIII層土を多量に混入。
- 4 黒褐色土 粘質土主体。しまりやや弱い。
- 5 褐灰色土 シルト質土。XIII層土、白色鉱粒を多量に混入。
- 6 黒褐色土 粘質土。シルト質土を混入。しまりやや弱い。
- 7 黒褐色土 粘質土。シルト質土、XIII層土を混入。
- 8 黒褐色土 シルト質土。XIII層土を混入。
- 9 黒褐色土 シルト質土。XIII・XIII'層土を混入。



- As-B 層
- Hr-FA 関連層



第30図 F区土層図(2)

第2章 遺構と遺物

天明3（1,783）年の浅間山の大噴火で、土地は荒廃した。それでも人々は、自らの生活を続けた。

甚大な自然災害に遭遇し、それを克服していった先人の姿が、見えてくる。



今も噴煙を上げる浅間山

As-A 下面について

As-A軽石層は、天明3(1,783)年に降下した、浅間山の噴火に伴う軽石層である。As-A下面の調査で検出された遺構は、水田跡と溝56条、耕作痕3、土坑13基、井戸2基、灰掻き穴1、杭列8、ピット20基である。

高崎市上滝町(旧上滝村)は、東は滝川、西は井野川によって挟まれた地域にある。滝川は、もともと天狗岩用水といわれ、吉岡町付近の利根川から取水し、高崎市上滝町あたりまでを潤したのが始まりである。天狗岩用水は、江戸時代初期の慶長年間(1,602~04年)に、総社城主秋元長朝によって掘削された用水である。さらに慶長15(1,610)年、上滝町から佐波郡玉村町の烏川までを、幕府代官の伊奈備前守忠次が、当地の江原源左衛門重久の協力を得て新田開発を行ったおり、天狗岩用水から水を引き代官堀として完成させた。これによって、現在の滝川が形成されたのである。逆に考えれば、江戸時代初期頃のこの付近において、水田化された土地は、現在よりもかなり少なかったことが推測できよう。当遺跡からは、古墳~平安時代の水田跡も検出されているから、江戸時代初期に従来の灌漑用水量の不足を補い、更なる耕地拡張をするために水量確保が行われたことになる。その用水工事に携わったのが、権力者側からは秋元長朝や伊奈備前守忠次であり、民間側では江原源左衛門重久であった。

群馬県は火山災害の多い土地柄であり、広域テフラ層で旧地表面がパックされていることから、容易に当時の居住域・生産域のあった旧地表面を検出できる特色を持っている。このAs-A下水田跡では、はっきりと畦畔が確認でき、畦畔で区切られた水田跡や、災害後の復旧行為に関わると思われる農具痕のわかるものもある。当遺跡で検出されているこの耕作痕(農具痕)は、As-A降下後にエンガ等を使用した、耕地復旧行為の痕跡との理解がなされている(『上滝五反畑遺跡』1999、『上滝榎町北遺跡・上滝II遺跡』2002他)。

一般的にAs-A下水田跡は、天明3(1,783)年の、浅間山の噴火に伴い降下したAs-A軽石層にパックされた、江戸時代後期の水田跡である。しかし、当遺跡のAs-A下水田跡の場合、①As-A軽石層が薄く、且つ遺存状態が悪く、純層として捉えられないこと、②灰掻き穴があること、③農具痕埋土に、As-A軽石が集中して含まれること、④農具痕は旧地表ではないと考えられること等から、天明3年の噴火によってパックされたままの旧地表面ではないことが想定される。つまり、As-A軽石降下後、水田を復旧しようとした時間的経過が、当該遺構から窺えるのである。このことから、当遺跡の水田跡はAs-A軽石降下後に、若干の時間が経過した時期(噴火直後ではない、若干新しい時期)における、床土に近い層位(旧耕作面よりも下層)で確認された遺構群であると考えられる。

溝は、水田に伴うと考えられるものと、水田より新しい時期のものが混在する。土坑・ピット・杭列は、水田跡より新しい時期の所産であろう。B区から、As-A降下に伴う水田復旧作業のものと思われる灰掻き穴が検出されている。

以下、A-1区・A-2区・A-3区・Aランプ・B区・C区・D区・E区・F区の順に、且つ水田跡・溝・耕作痕・灰掻き穴・土坑・井戸・杭列・ピットの順に報告する。

(参考文献)

- 『群馬県史 通史編5』 1991。
- 『上滝五反畑遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999。
- 『西横手遺跡群』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001。
- 『宿横手三波川遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001。
- 『上滝榎町北遺跡・上滝II遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002。



第31図 As-A下面全体図

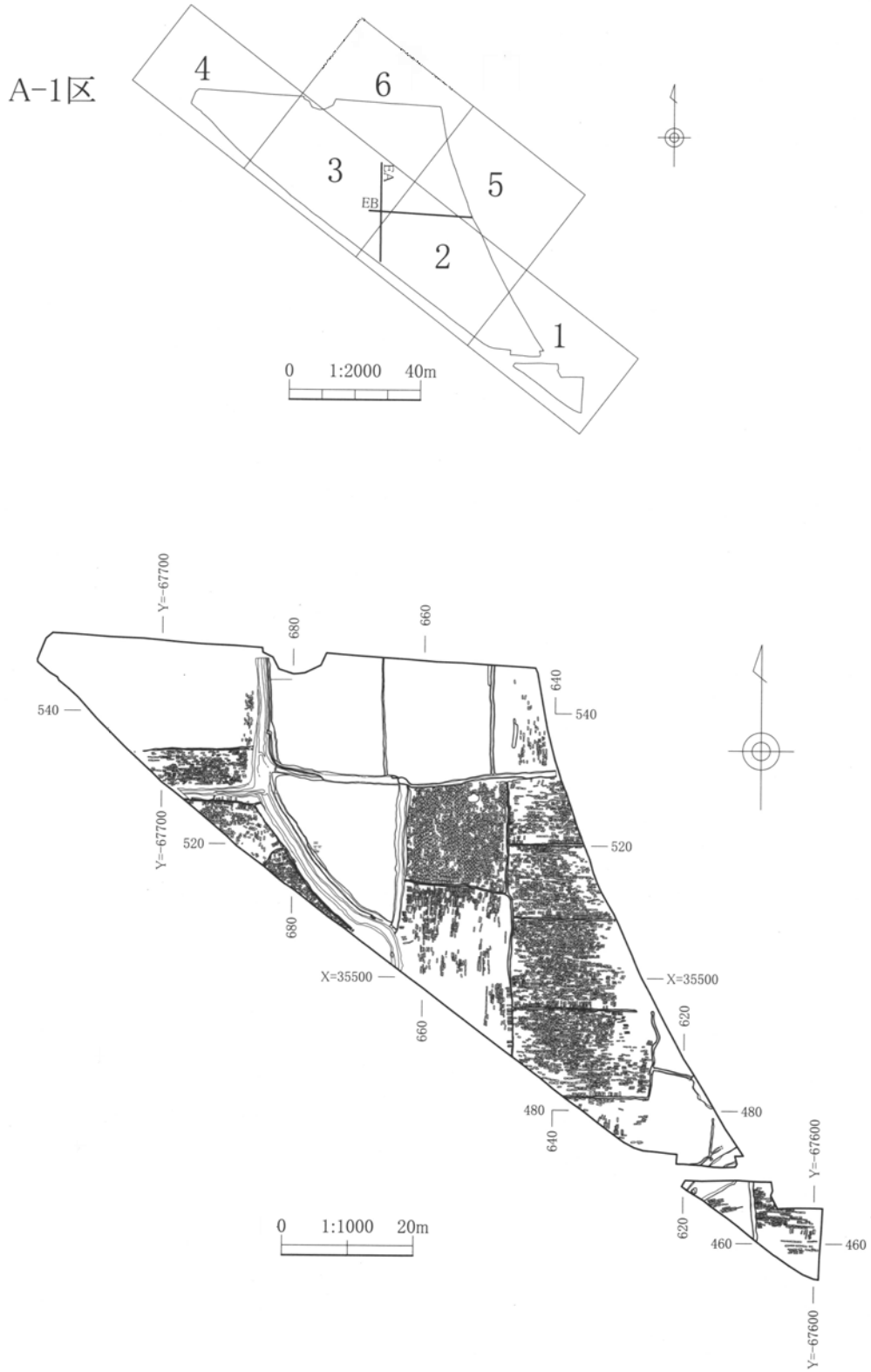
割図について

北関東自動車道建設に伴う上滝榎町北遺跡は、南北約600m、東西約300mほどの遺跡である。このため、調査区をいくつかの割図として設定し、全調査区を見ることが出来るようにした。A-1区～F区の順、且つ割図の1から順に報告する。

また、Aランプには、1頁に左右2本の実測図が描かれている。これは、平行して調査したものではなく、As-A軽石に絡んだ水田跡が、上下2面確認されたことによる。上下2面の内、上面（新しい面）を右側、下面（古い面）を左側に設定した。また、数字のないワクは、その部分に遺構がないことを示しており、割図を作成していないことを示している。

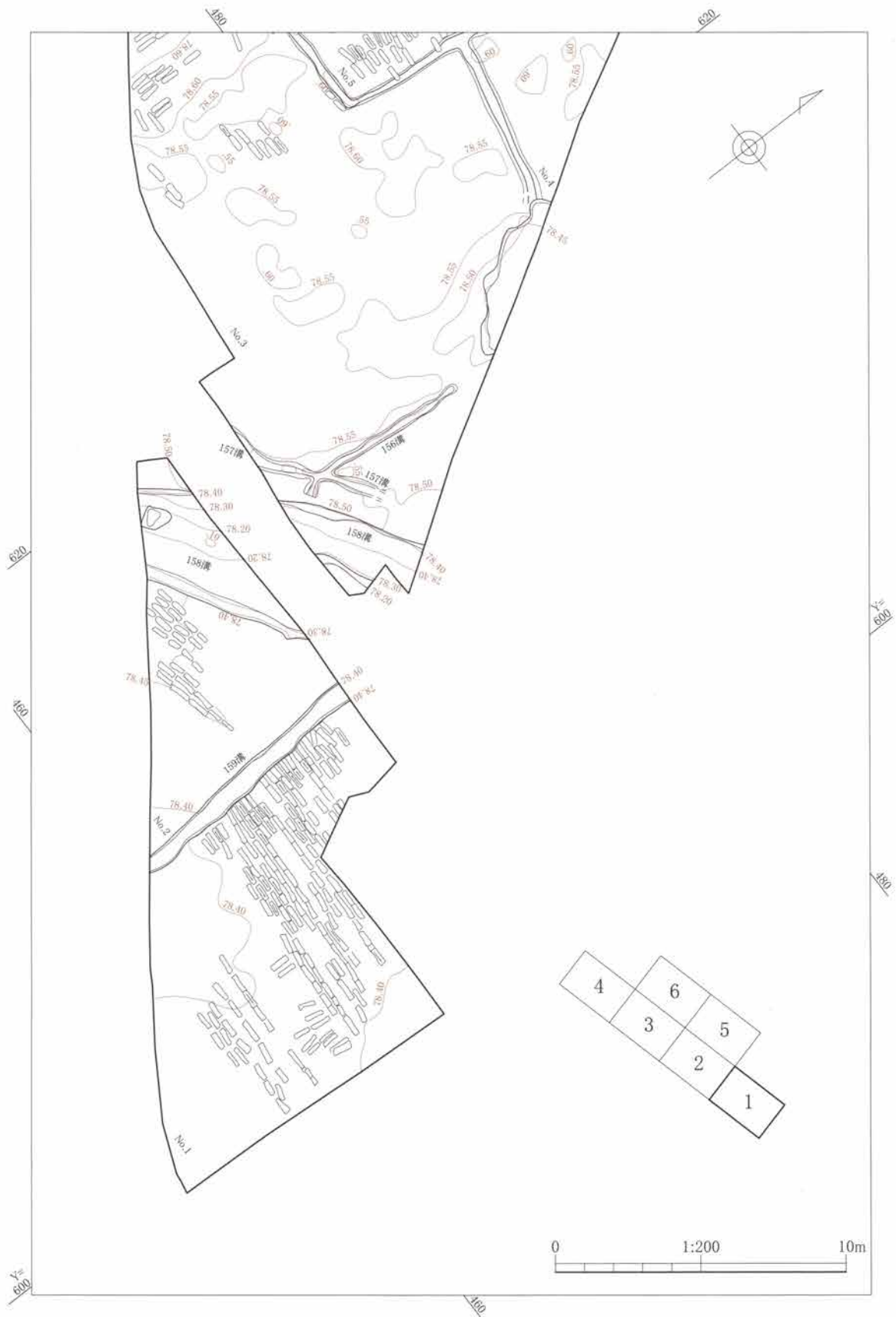


第32図 As-A下面割図



第33図 As-A下面 A-1区全体図・割図

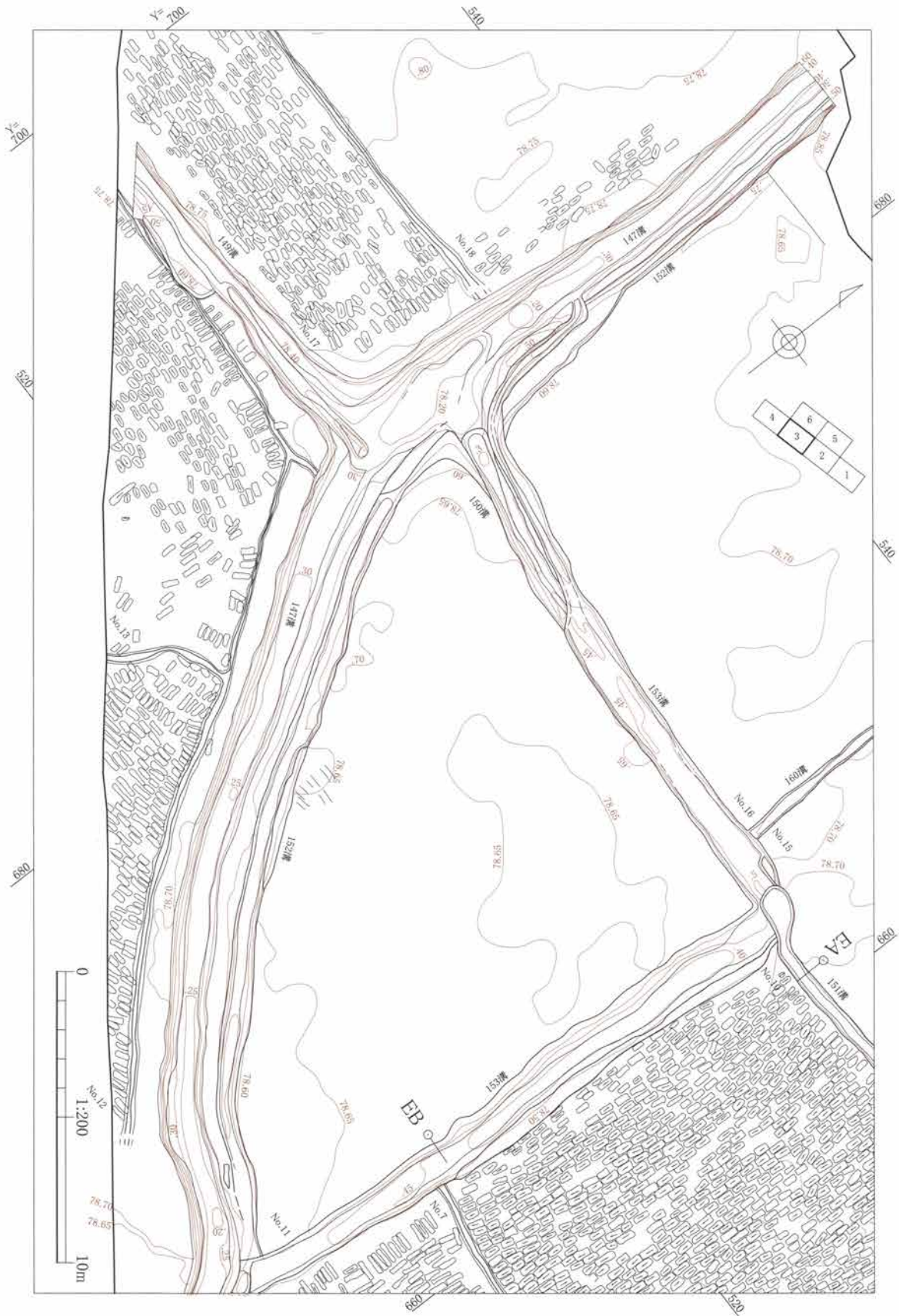
1. As-A下面 (近世~近代)



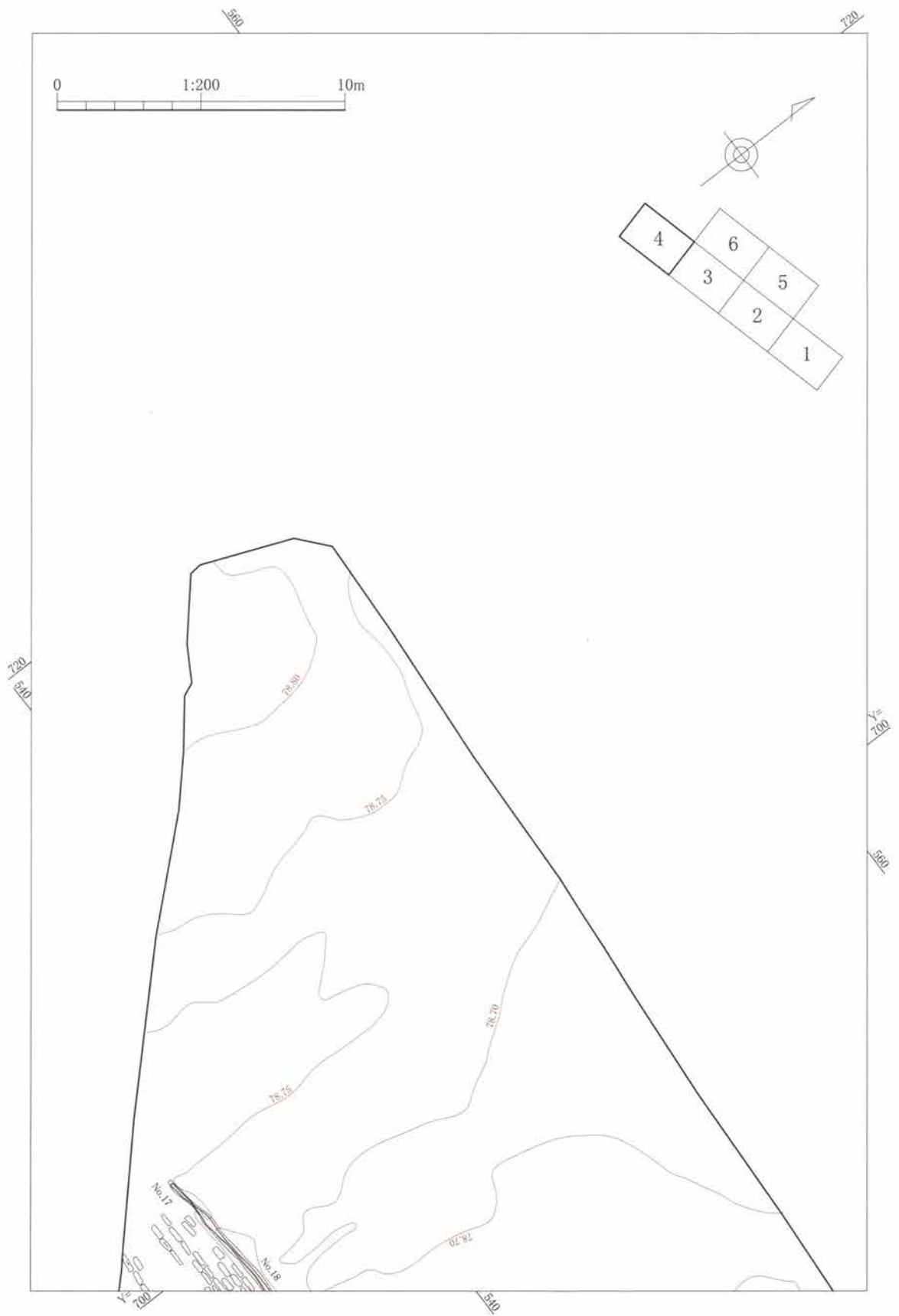
第34図 A-1区 図割-1



第35図 A-1区 図割-2

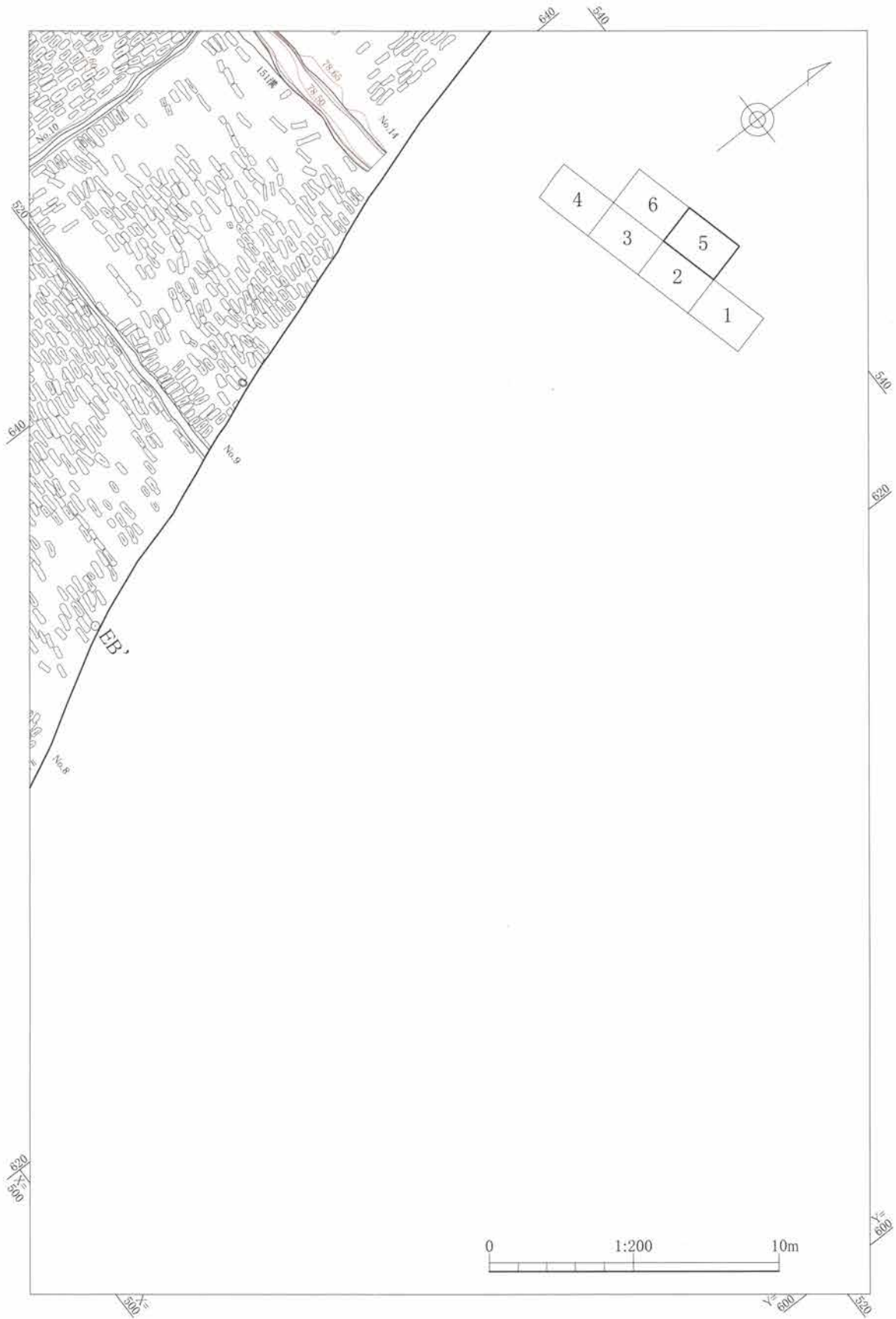


第36図 A-1区 図割-3

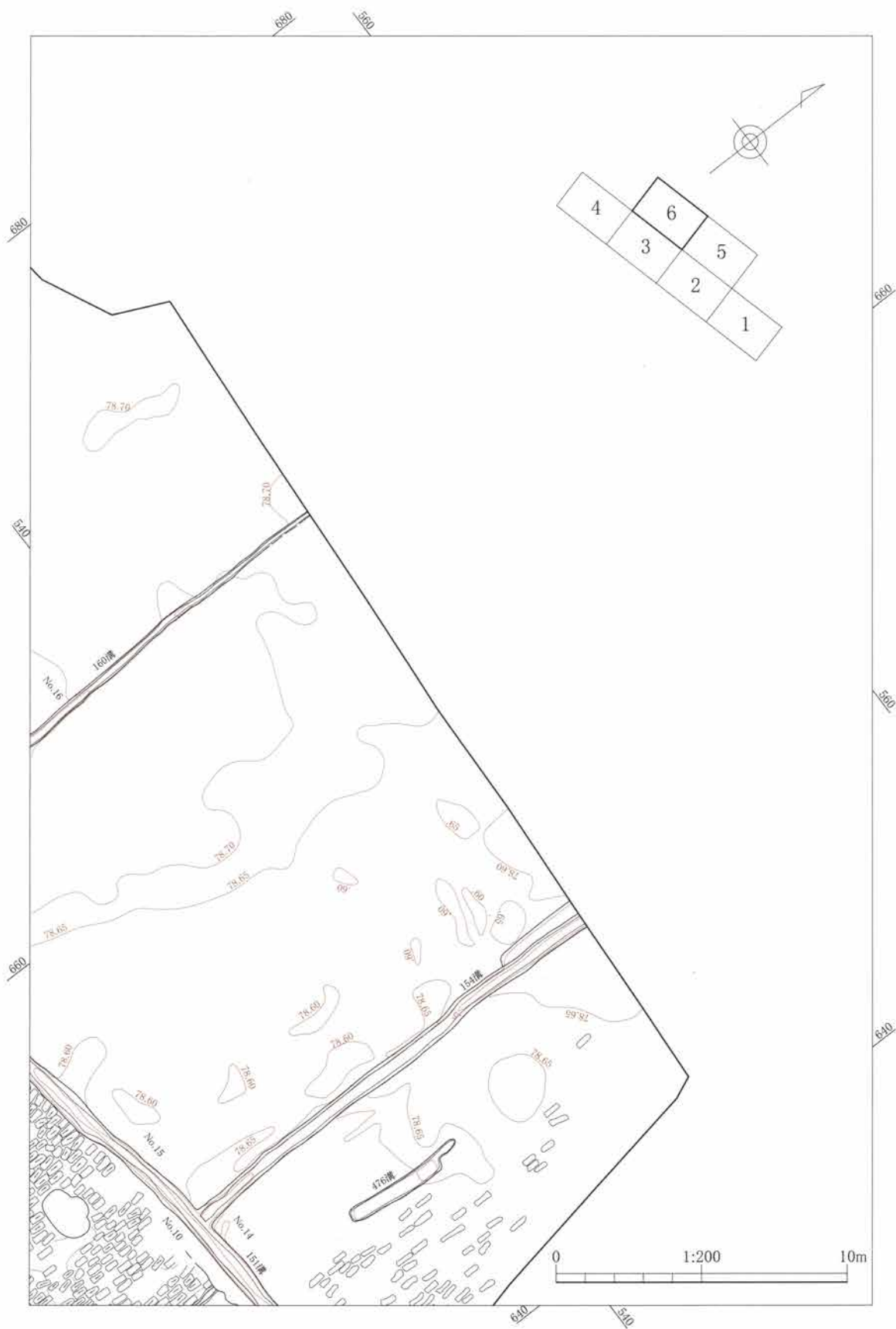


第37図 A-1区 図割-4

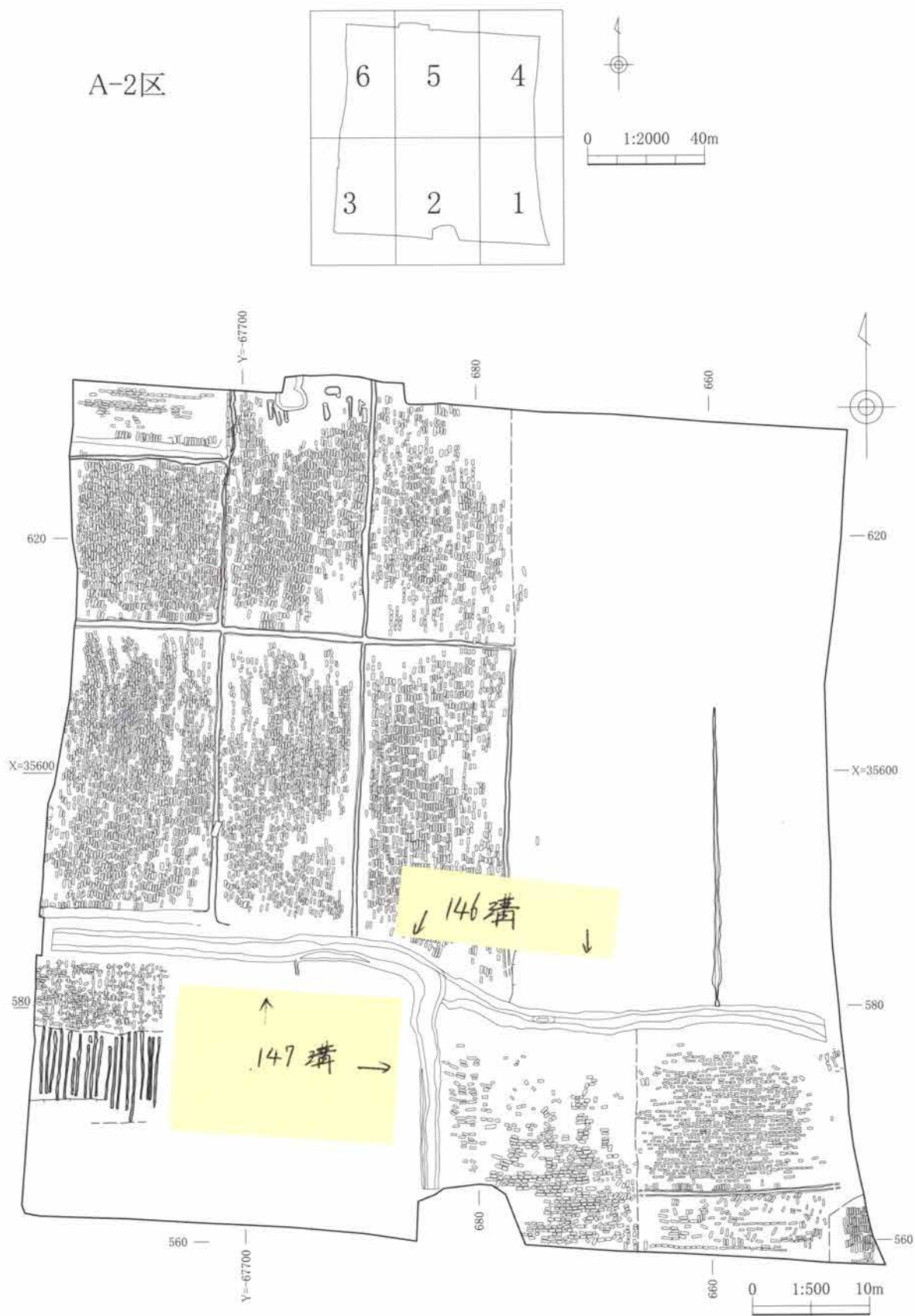
1. As-A下面 (近世～近代)



第38図 A-1区 図割-5



第39図 A-1区 図割-6

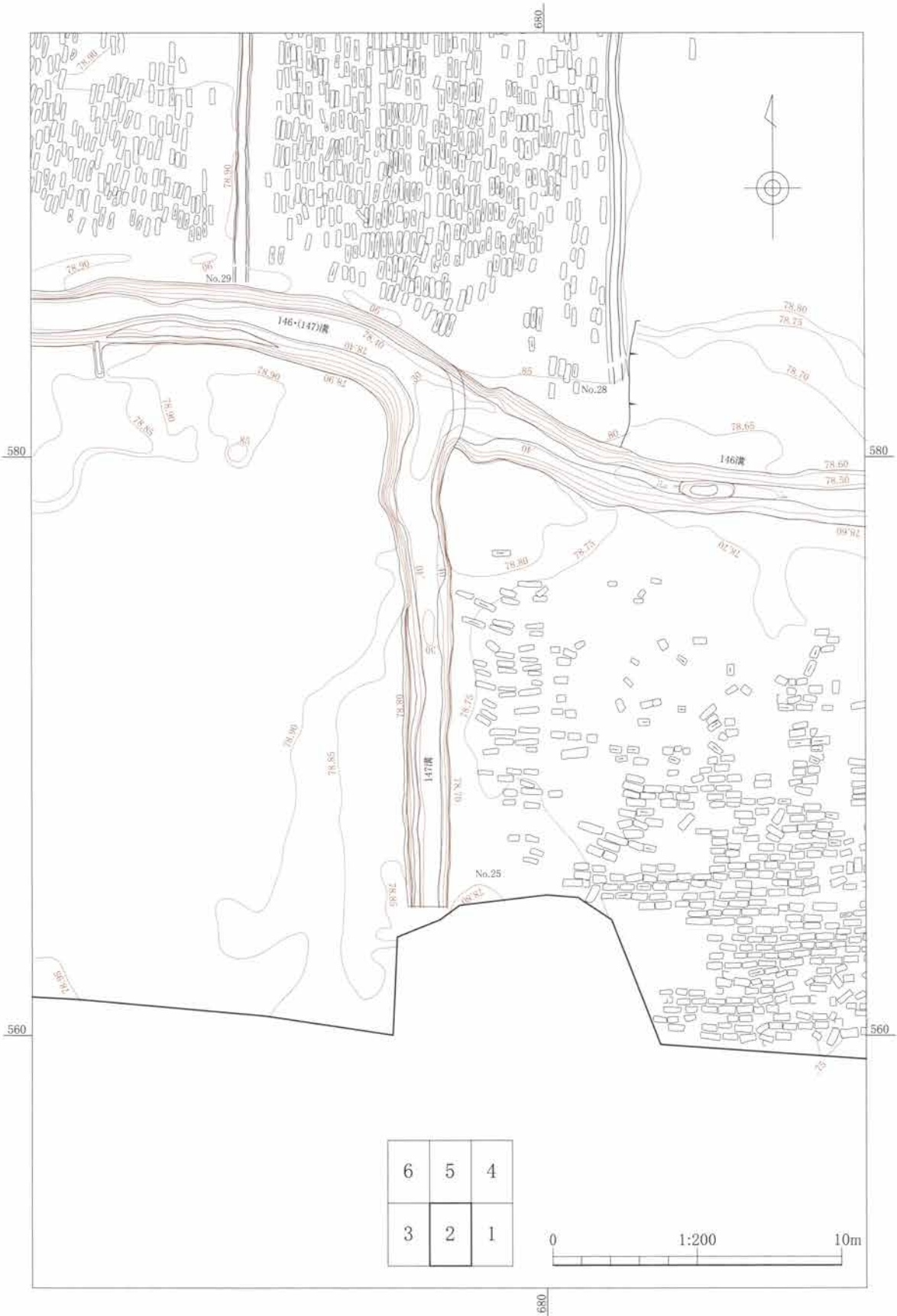


第40図 As-A下面 A-2区全体図・割図

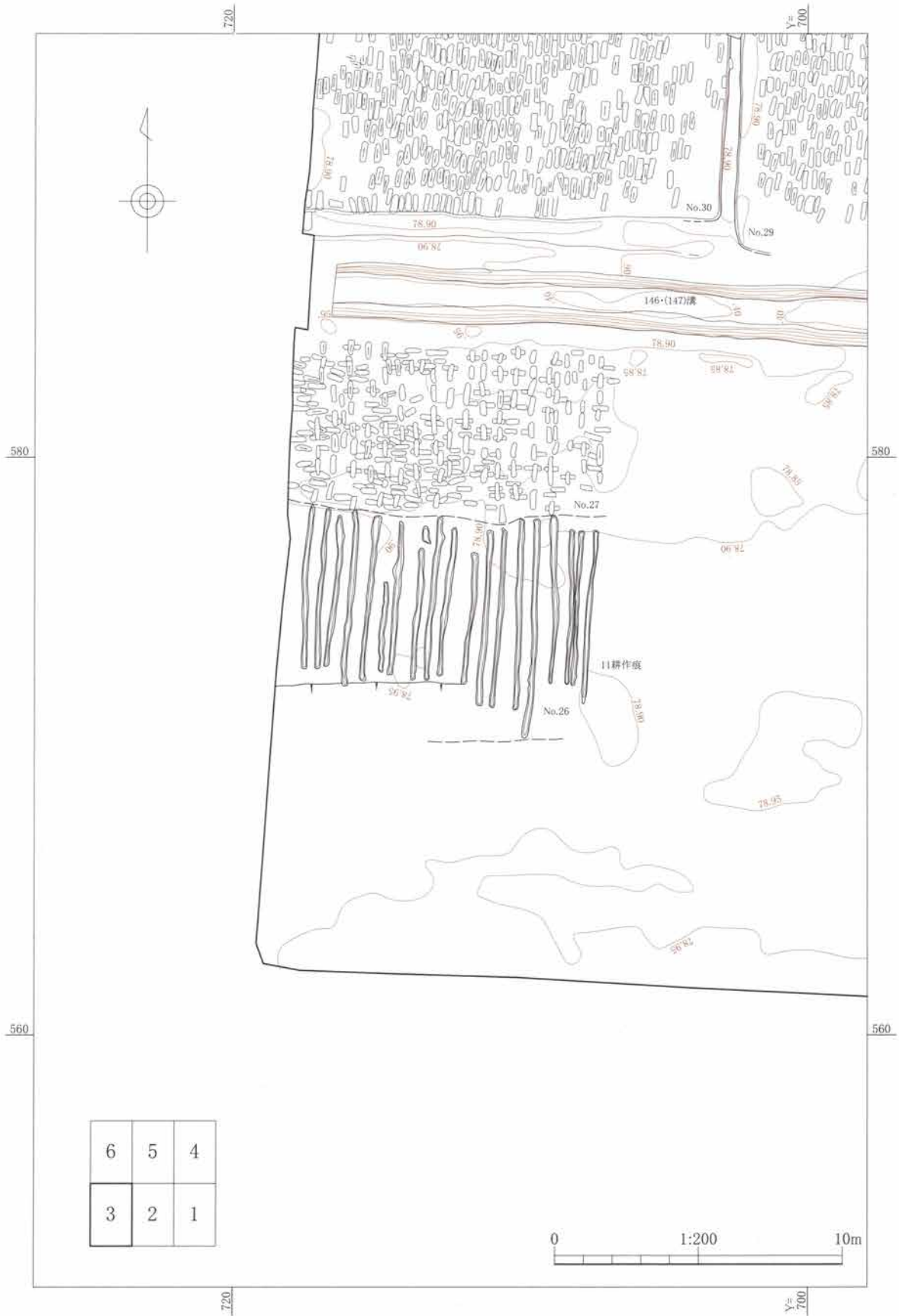


第41図 A-2区 図割-1

1. As-A下面 (近世~近代)



第42図 A-2区 図割-2

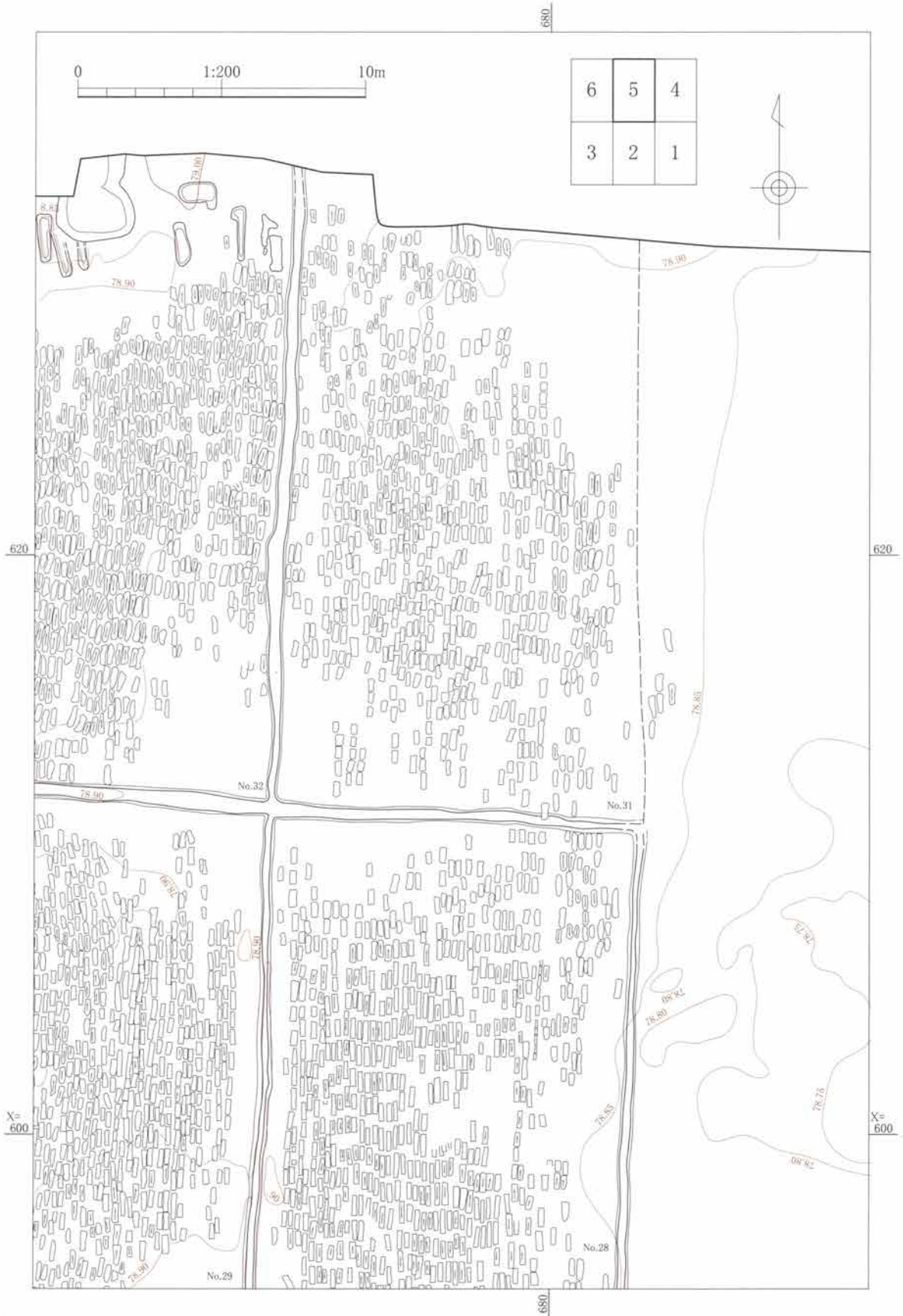


第43図 A-2区 図割-3

1. As-A下面 (近世~近代)

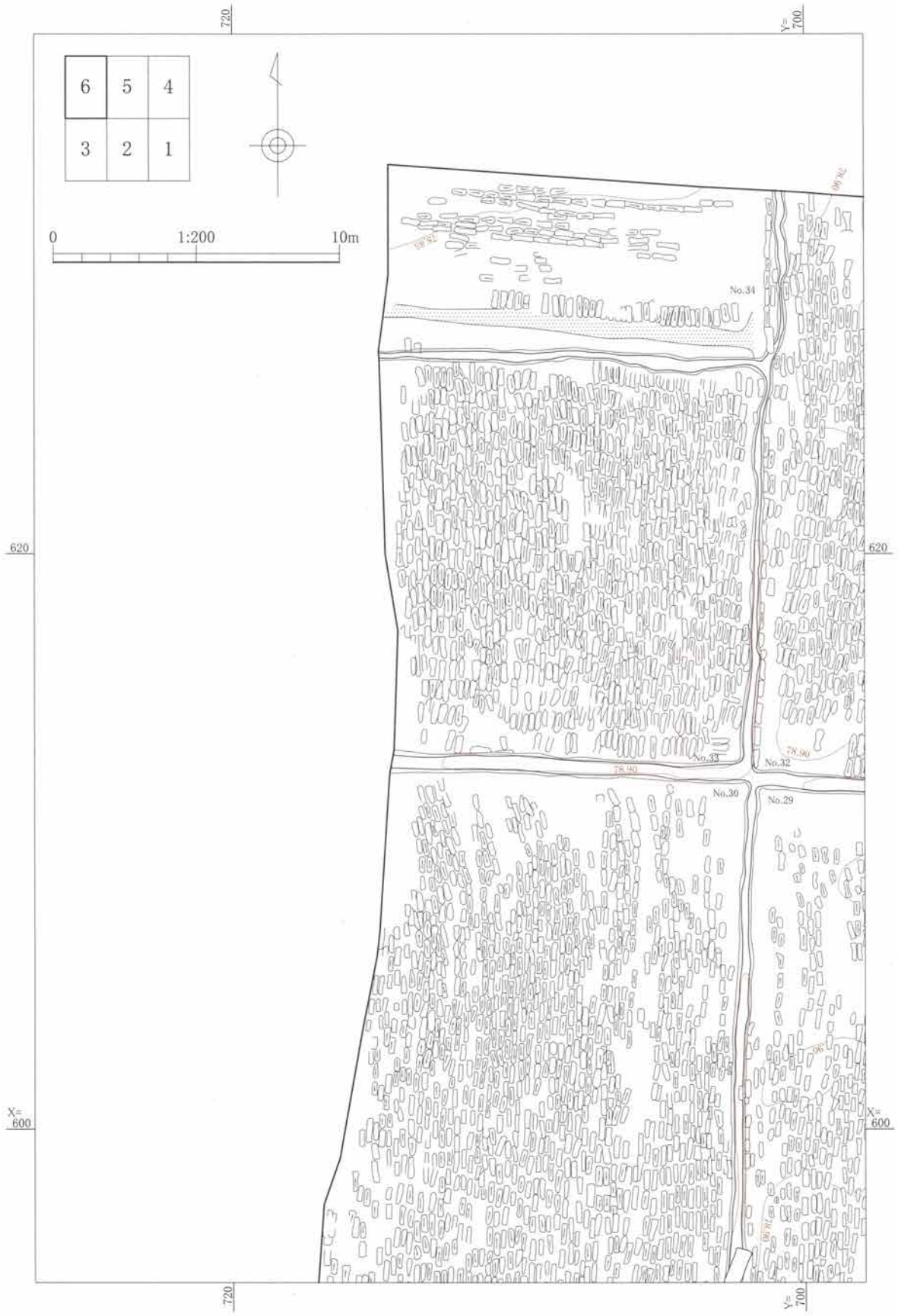


第44図 A-2区 図割-4

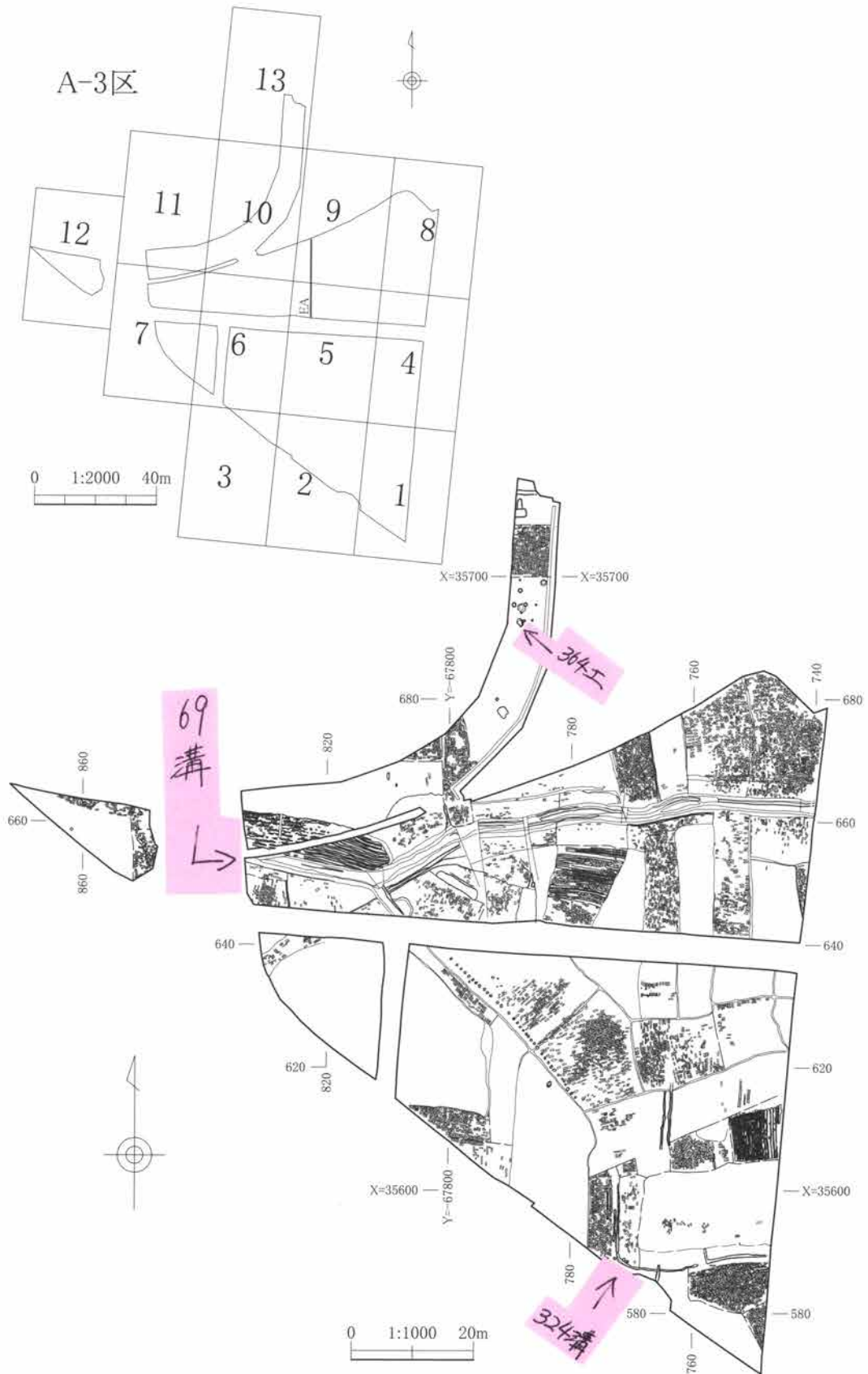


第45図 A-2区 図割-5

1. As-A下面 (近世~近代)



第46図 A-2区 図割-6

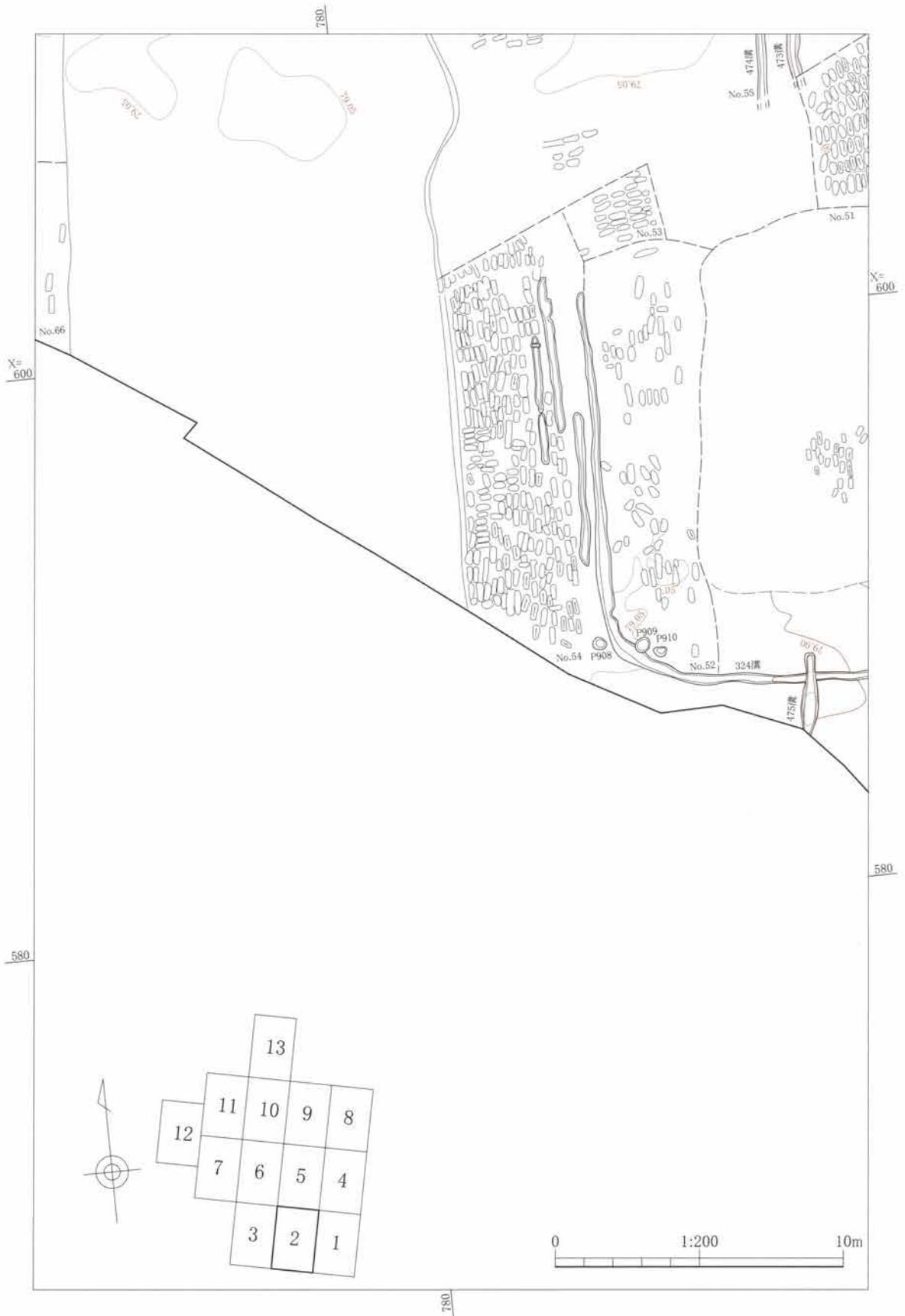


第47図 As-A下面 A-3区全体図・割図

1. As-A下面 (近世~近代)

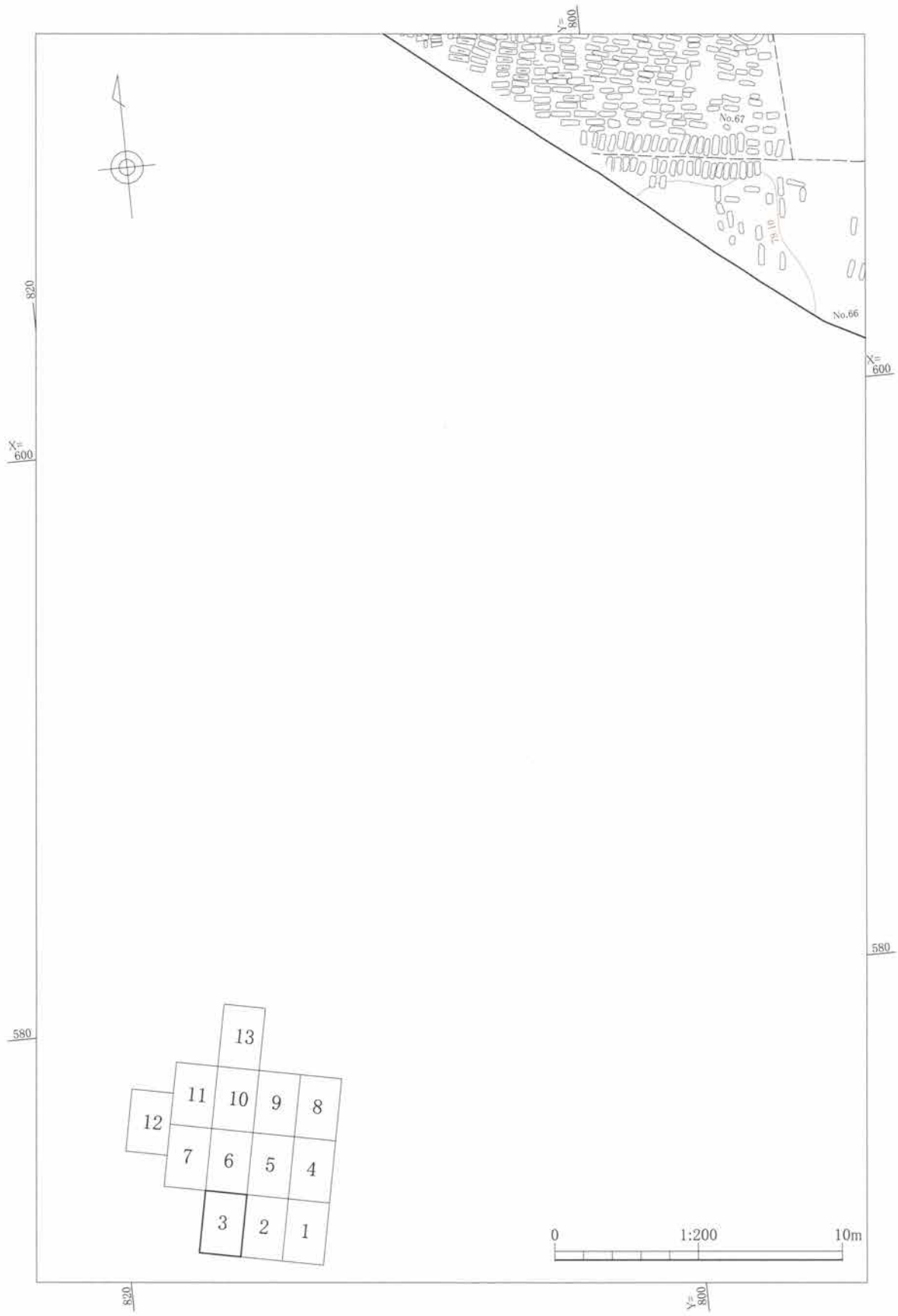


第48図 A-3区 図割-1

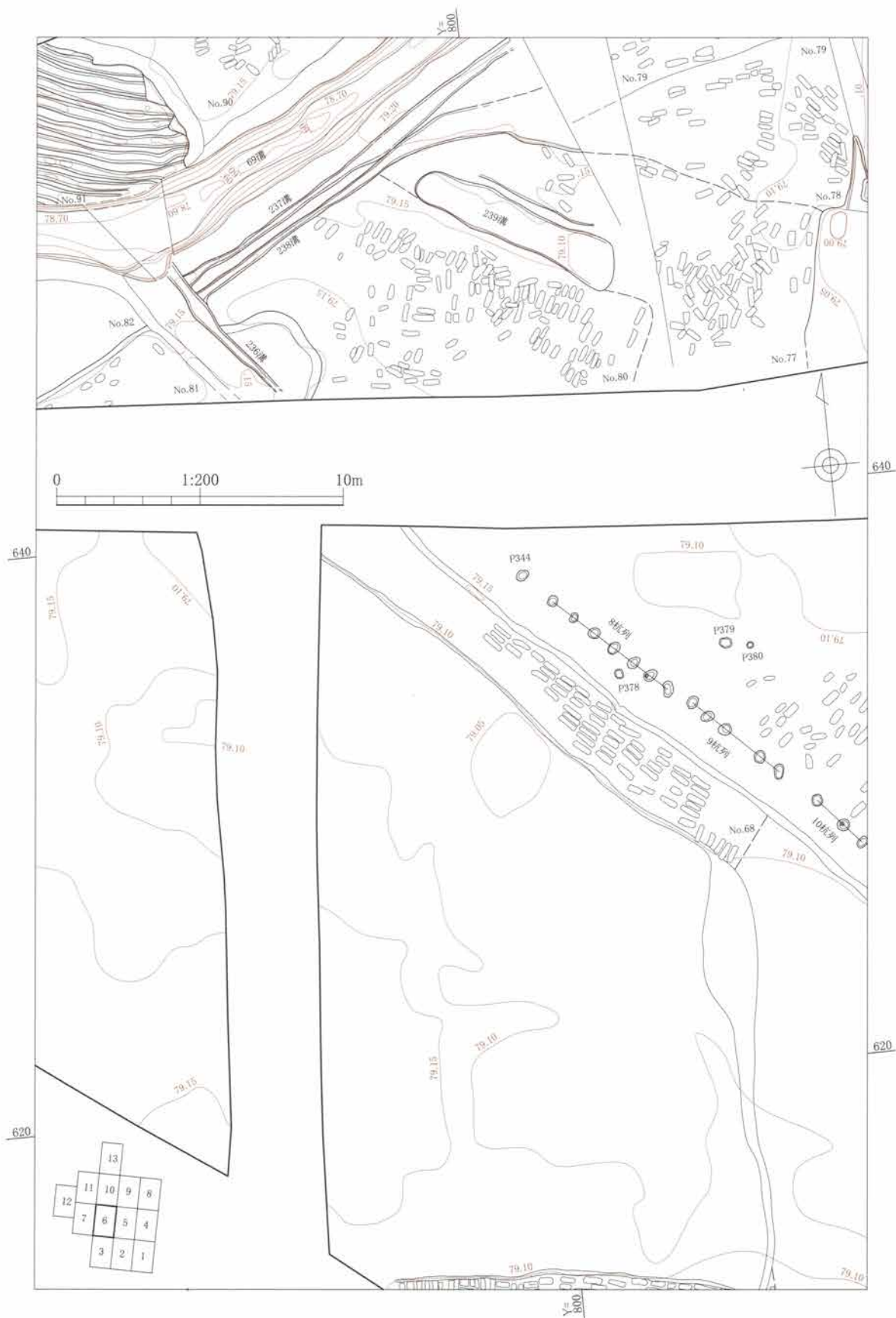


第49図 A-3区 図割-2

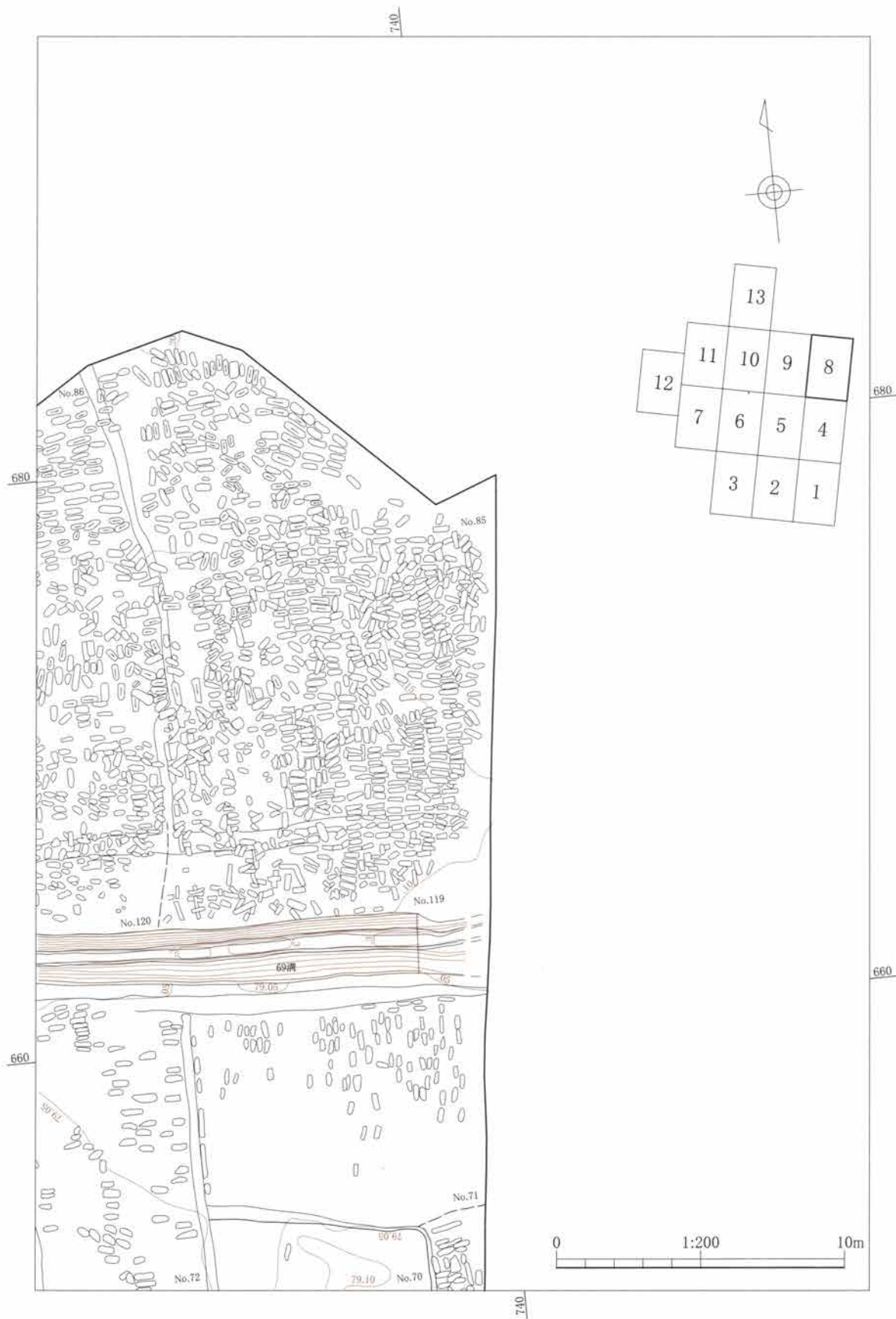
1. As-A下面 (近世~近代)



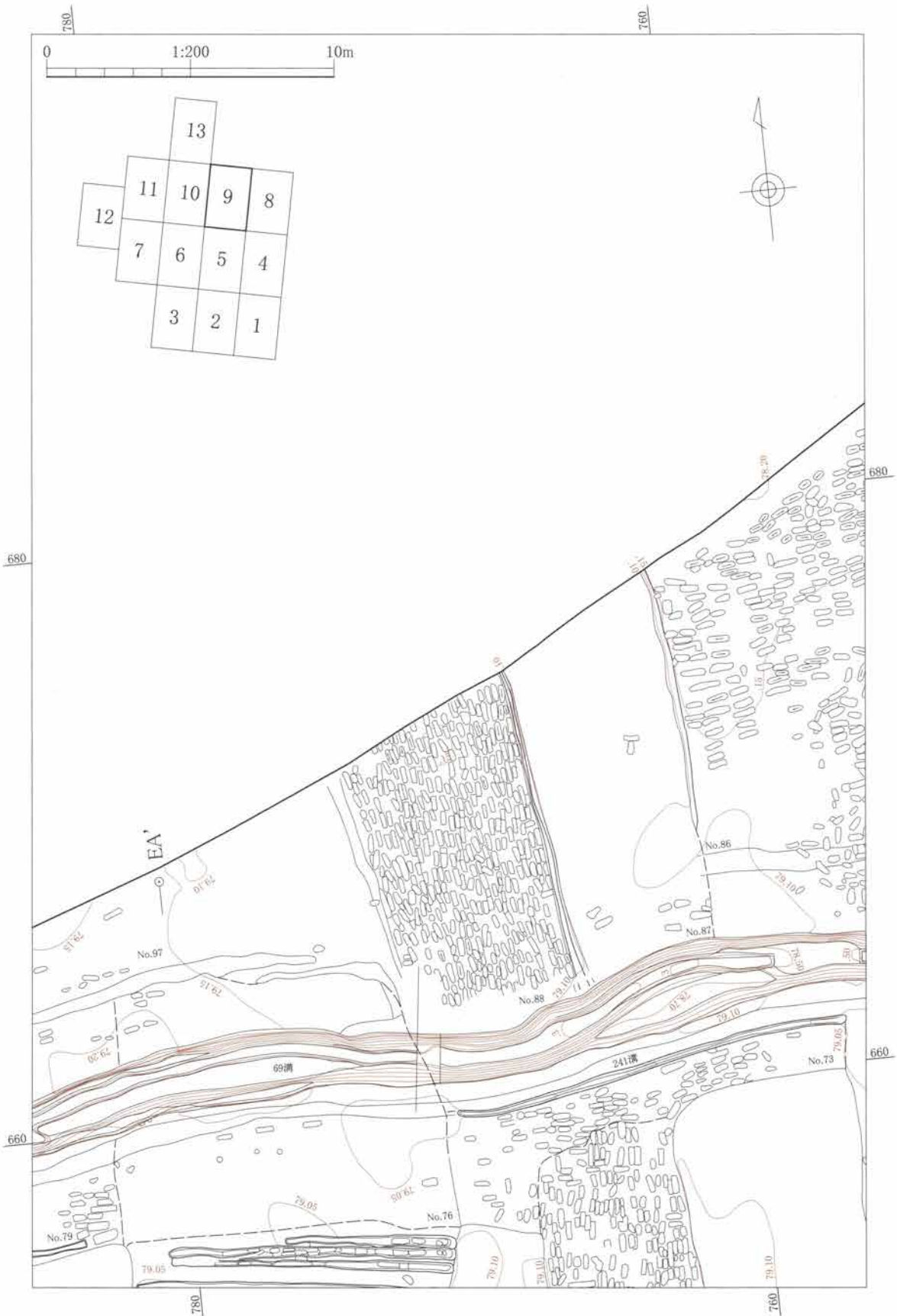
第50図 A-3区 図割-3



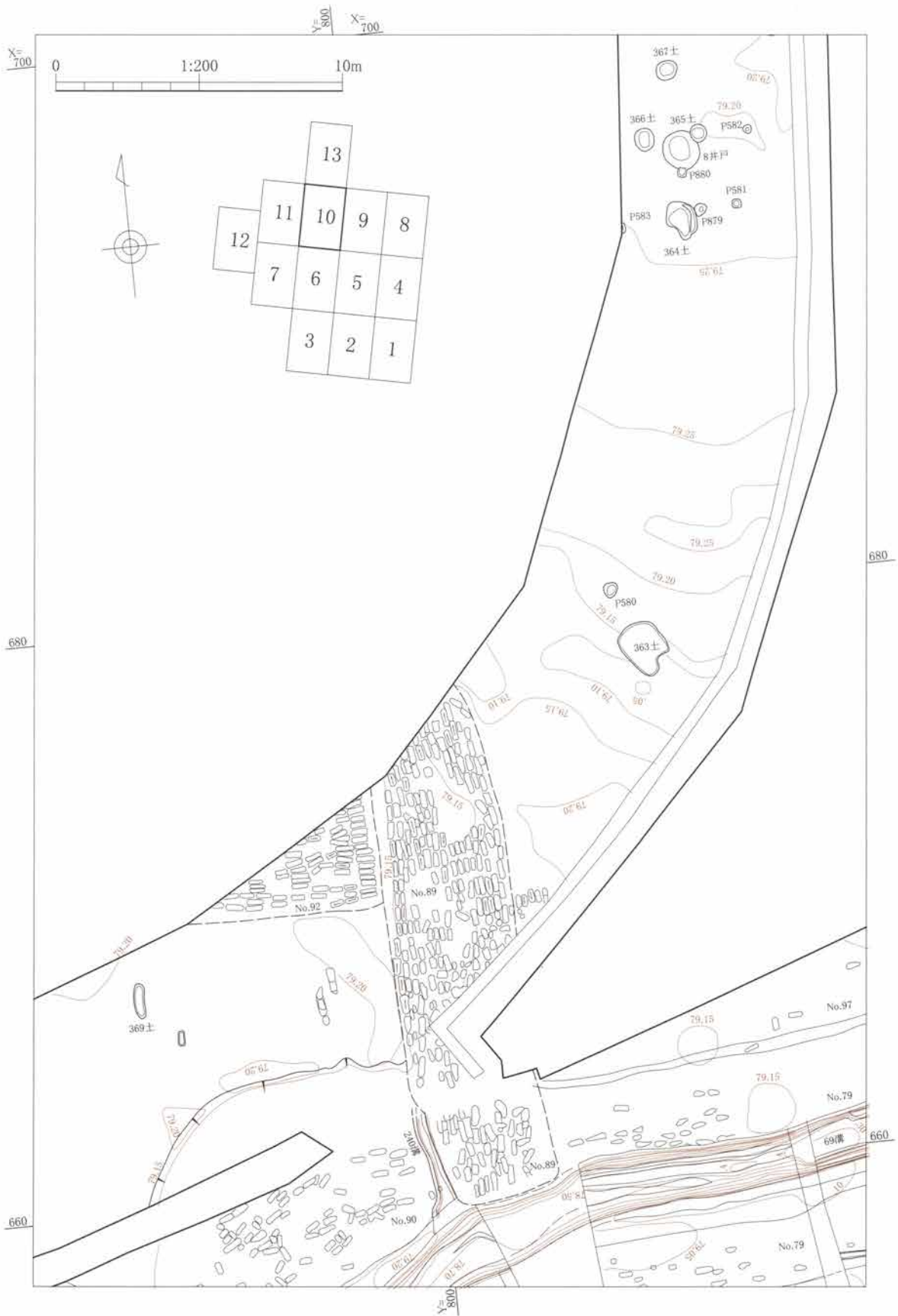
第53図 A-3区 図割-6



第55図 A-3区 図割-8

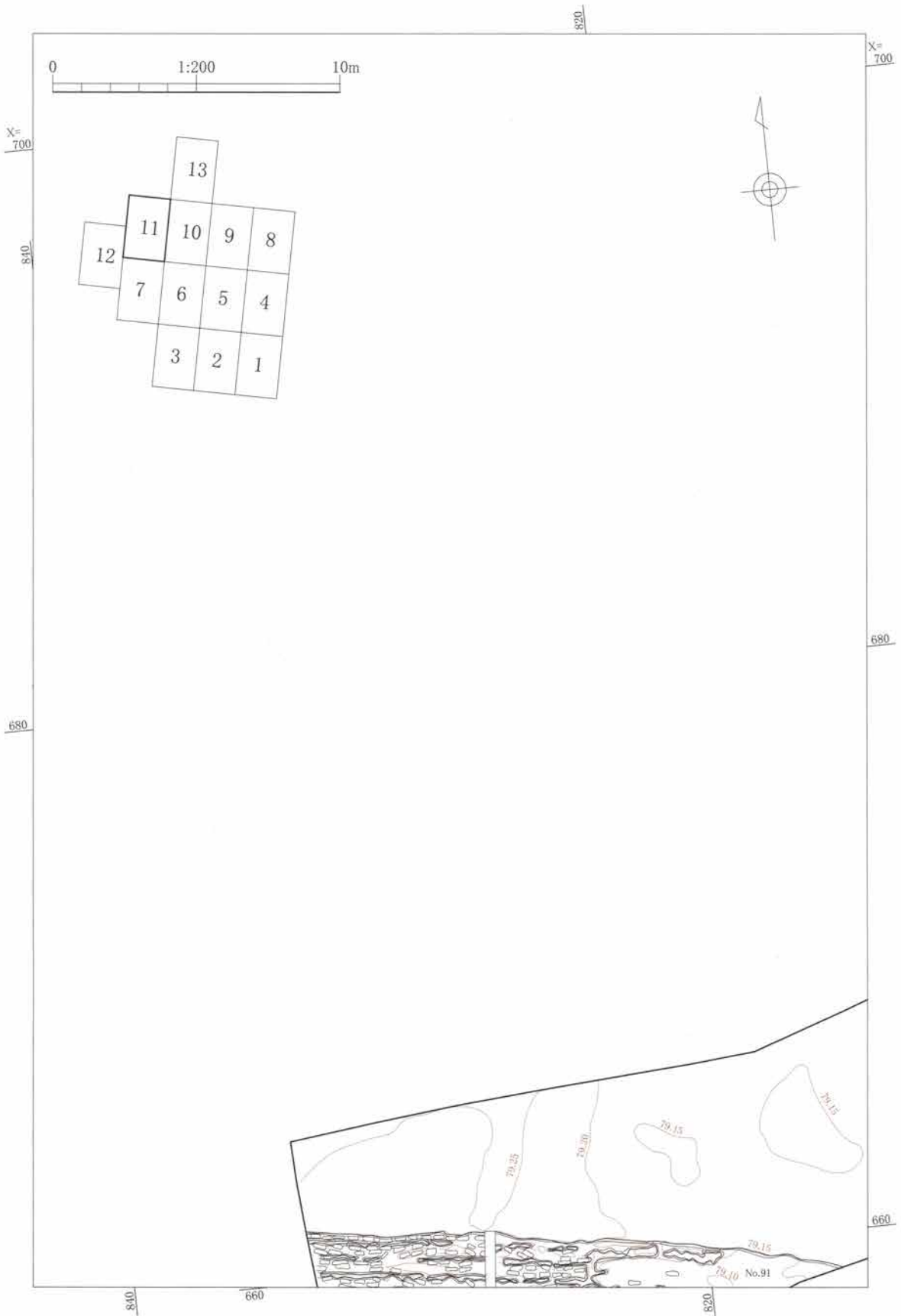


第56図 A-3区 図割-9

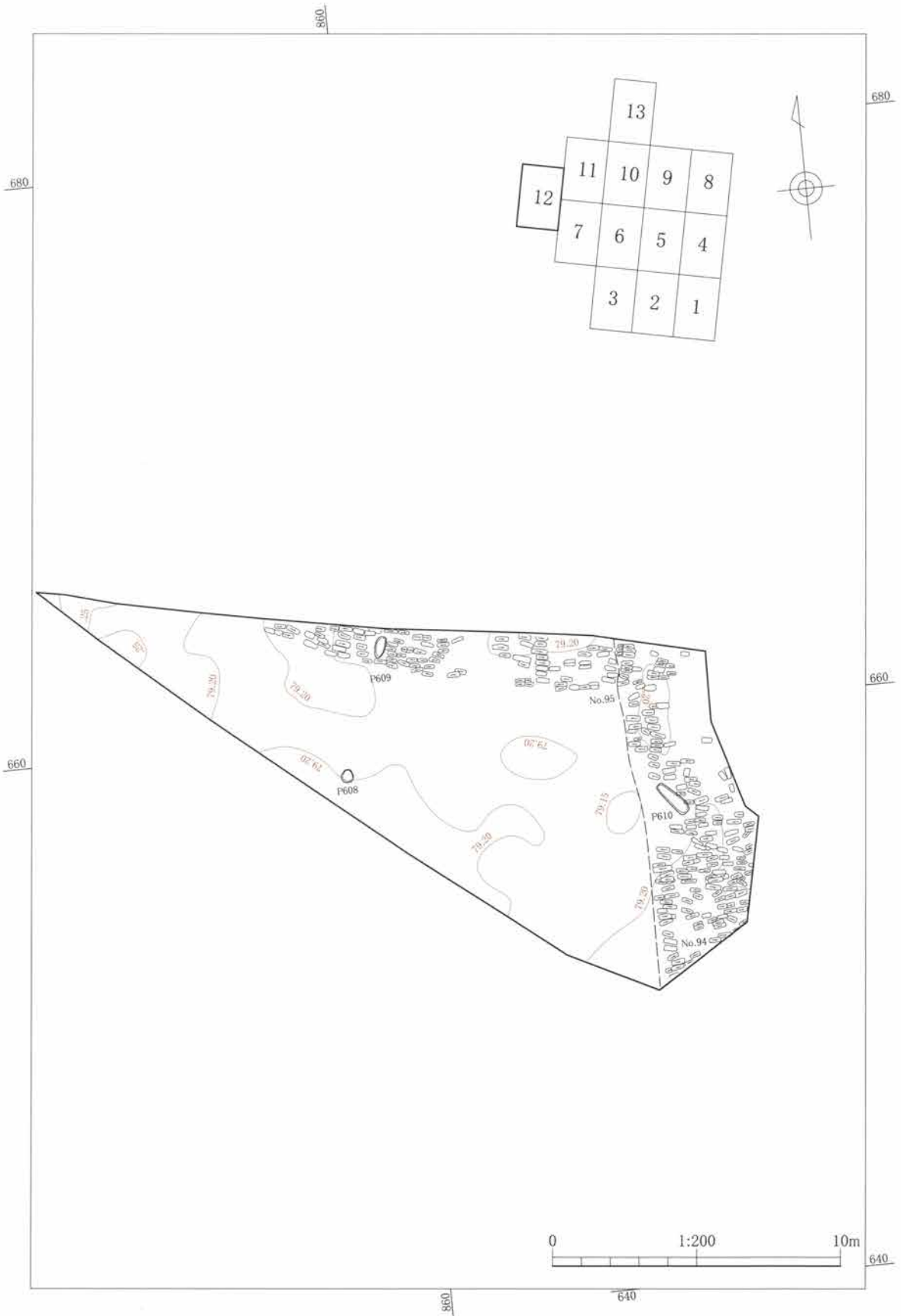


第57図 A-3区 図割-10

1. As-A下面 (近世~近代)

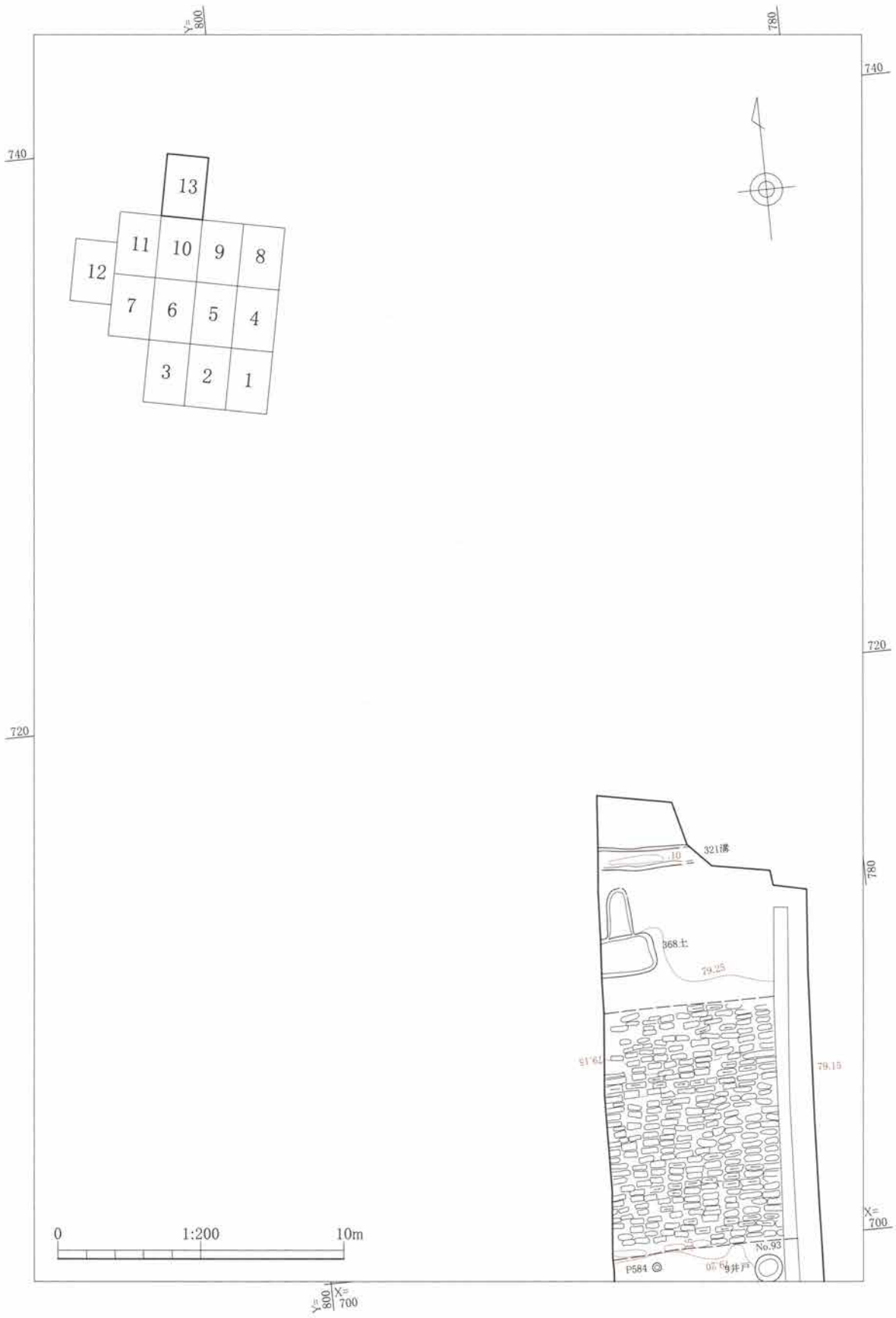


第58図 A-3区 図割-11

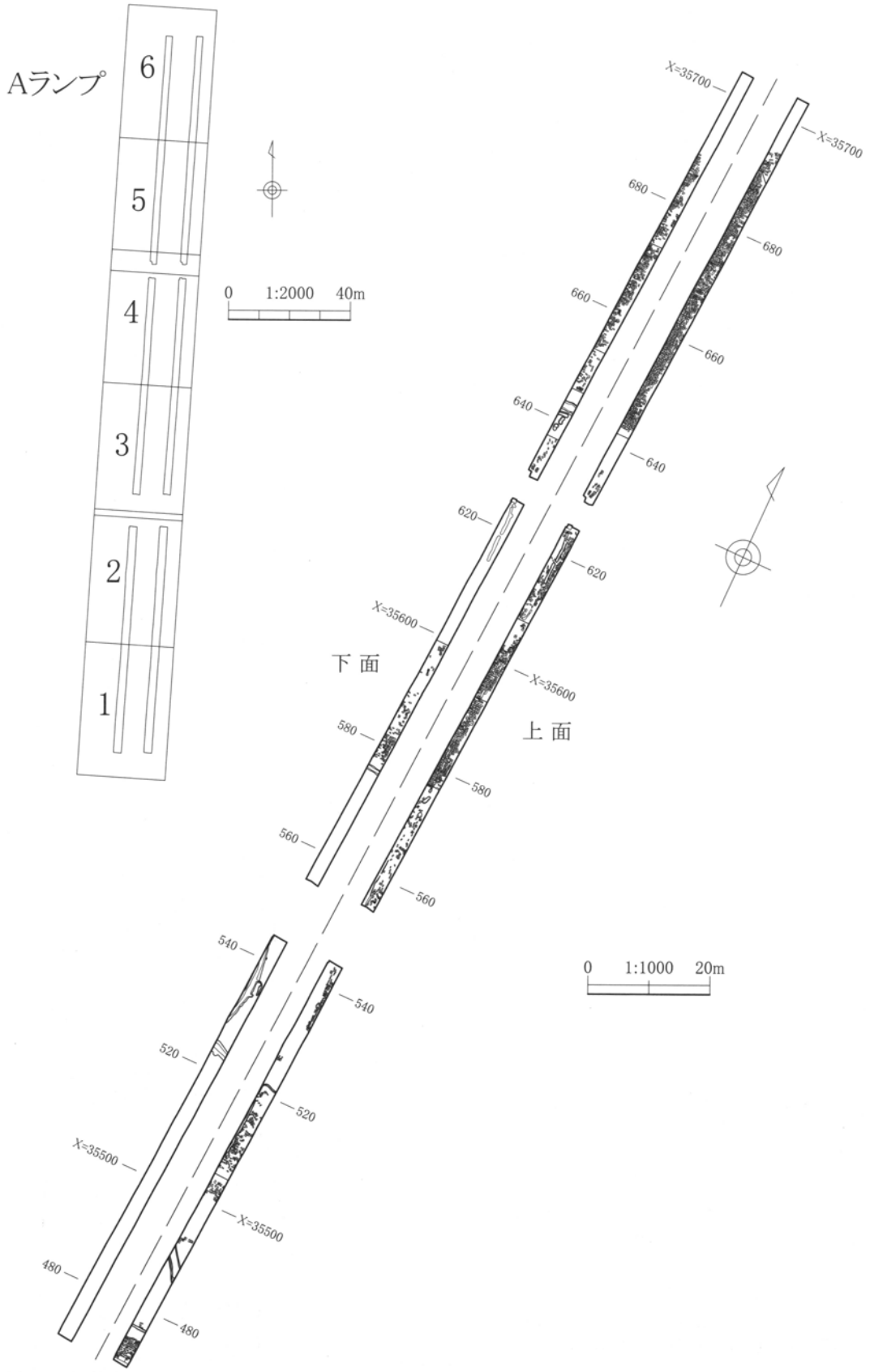


第59図 A-3区 図割-12

1. As-A下面 (近世~近代)

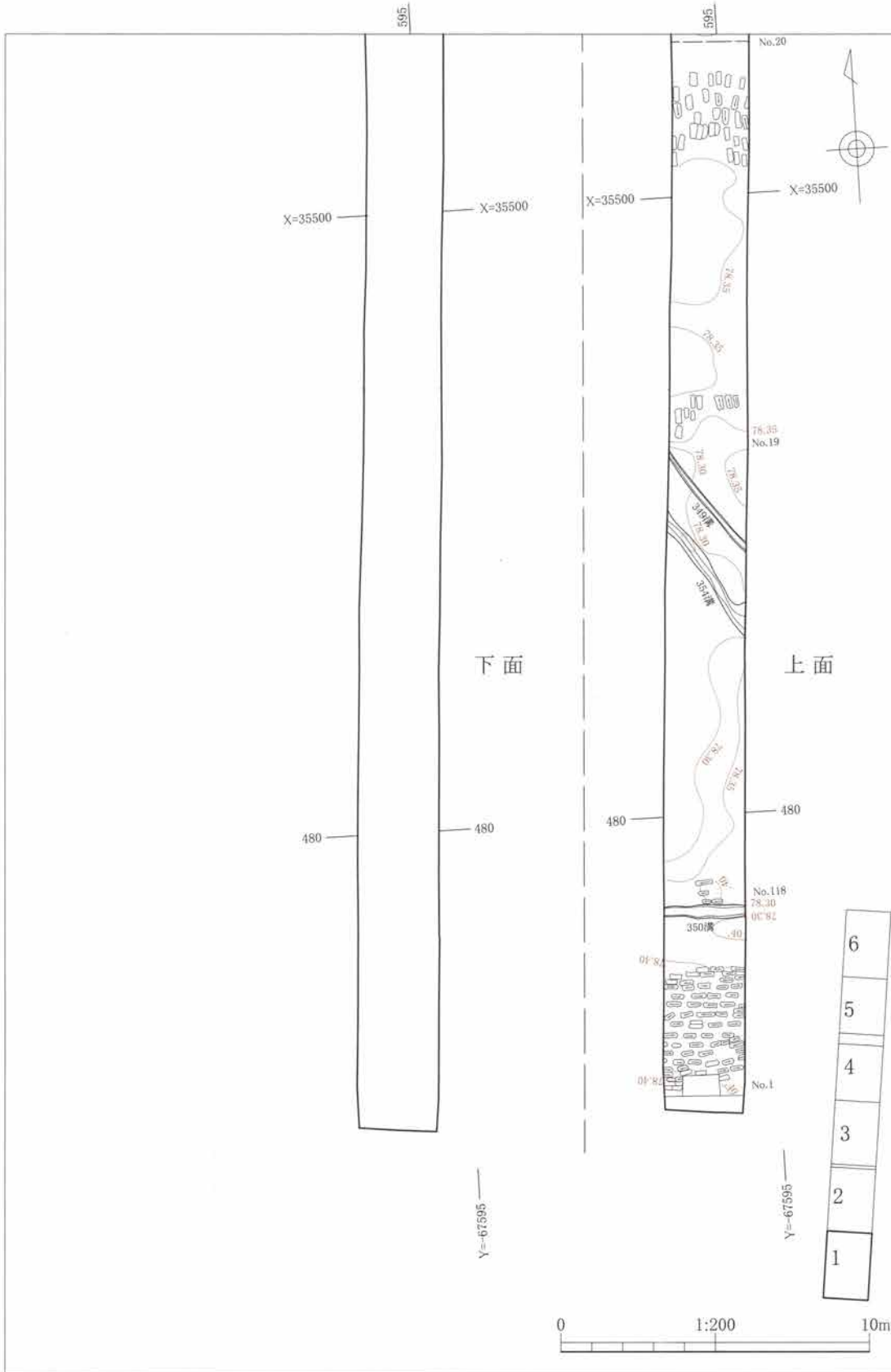


第60図 A-3区 図割-13

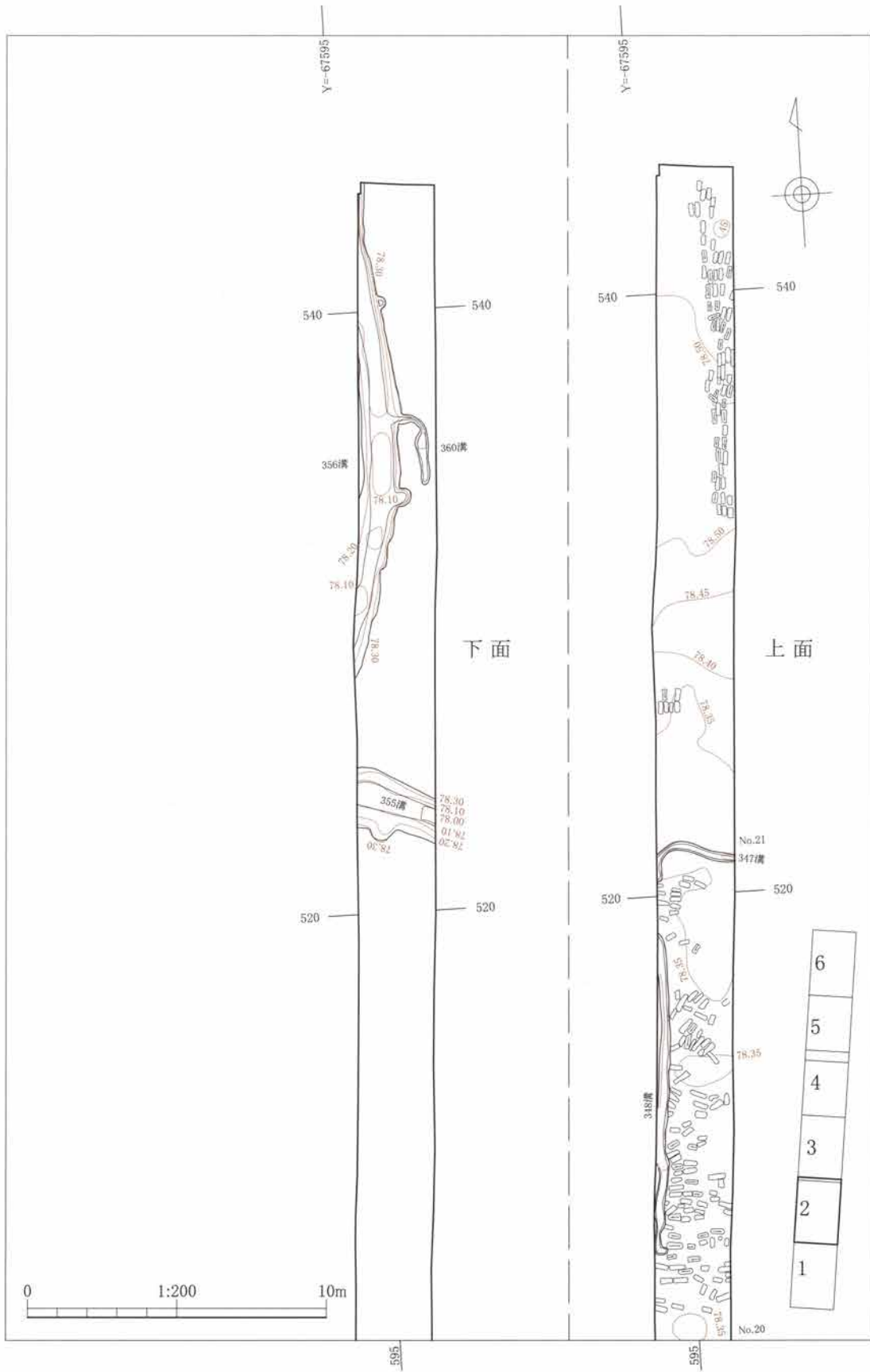


第61図 As-A下面 Aランプ全体図・割図

1. As-A下面 (近世~近代)

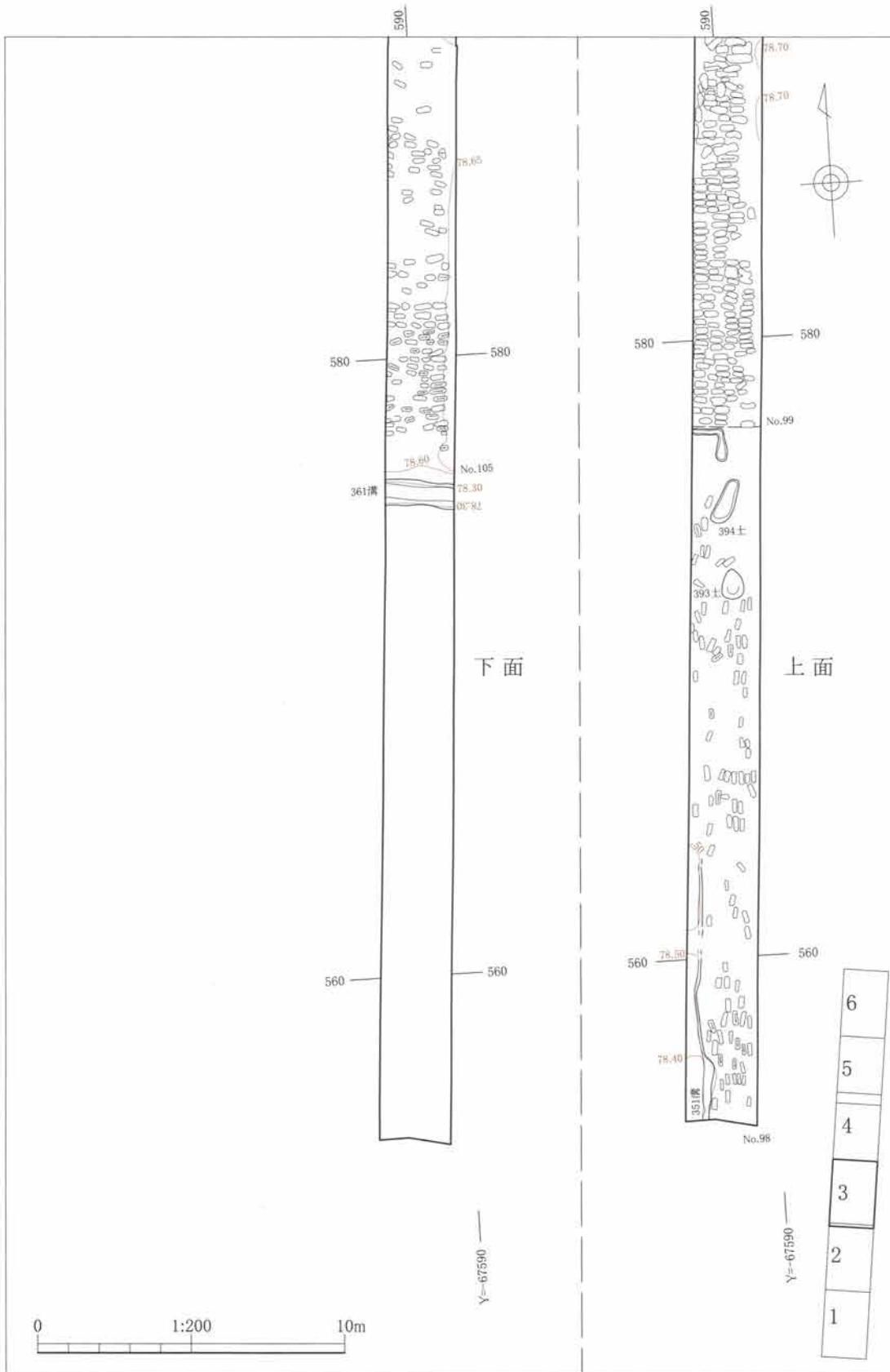


第62図 Aランプ 図割-1

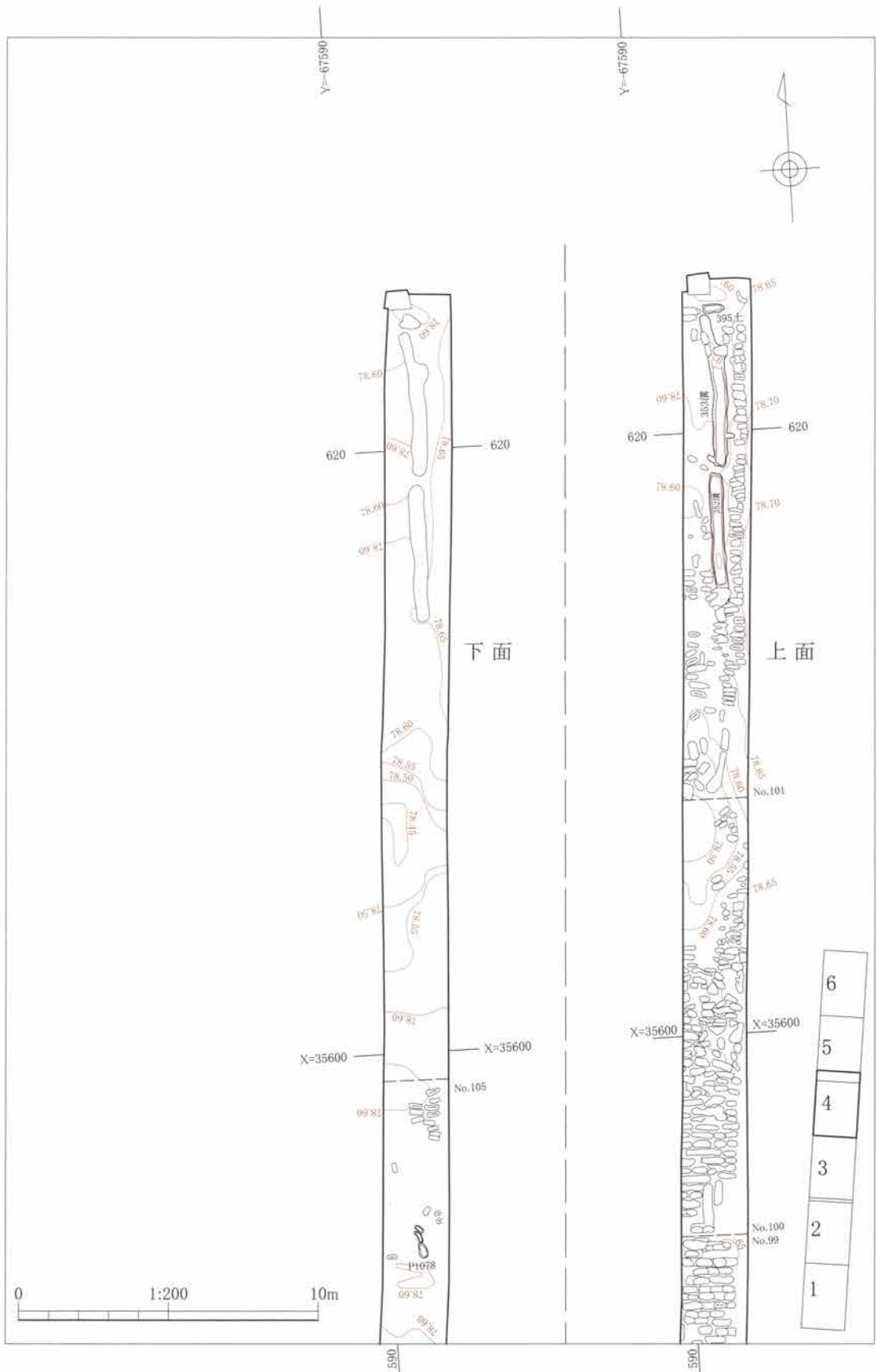


第63図 Aランプ 図割-2

1. As-A下面 (近世~近代)

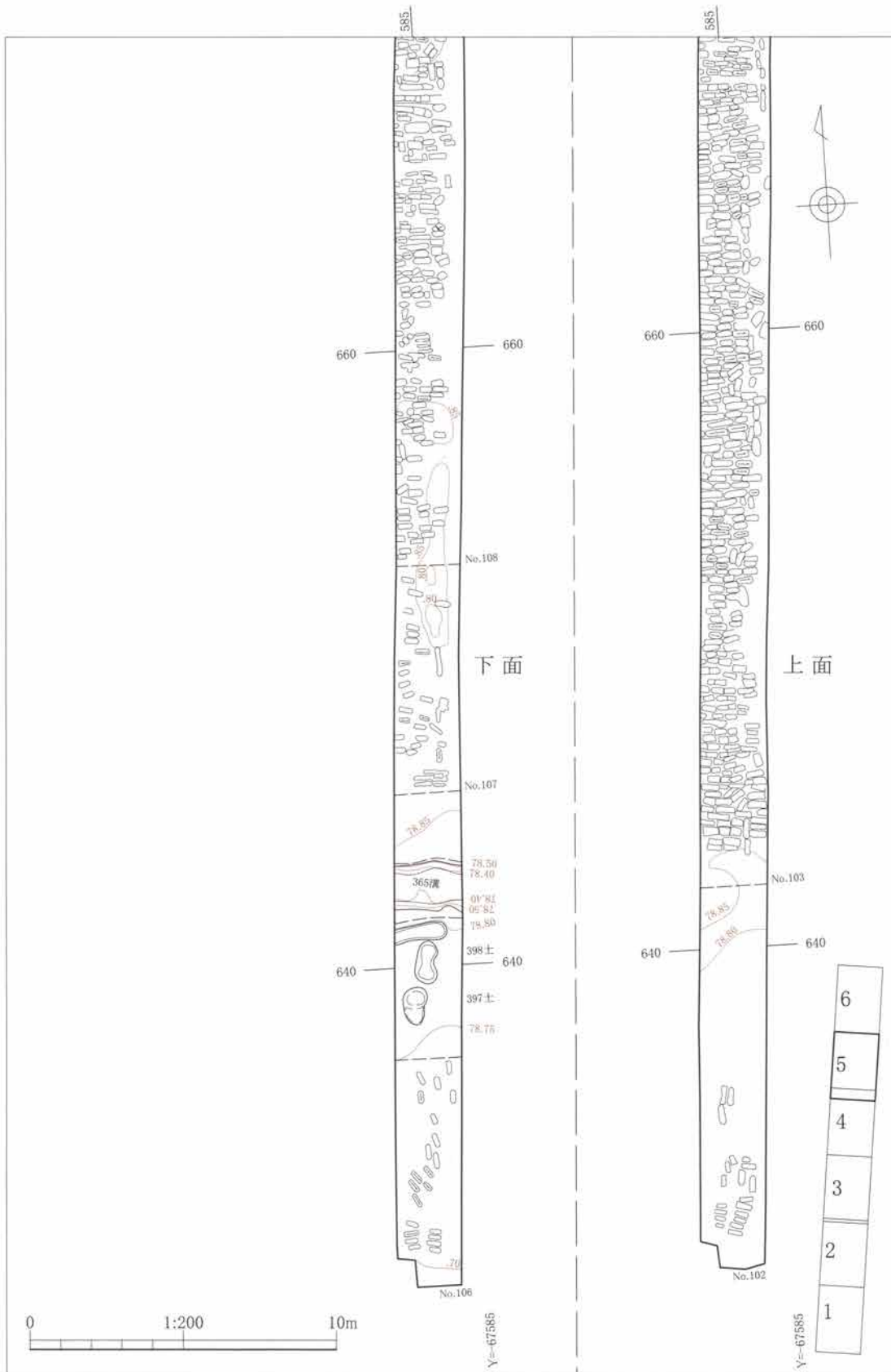


第64図 Aランプ 図割-3

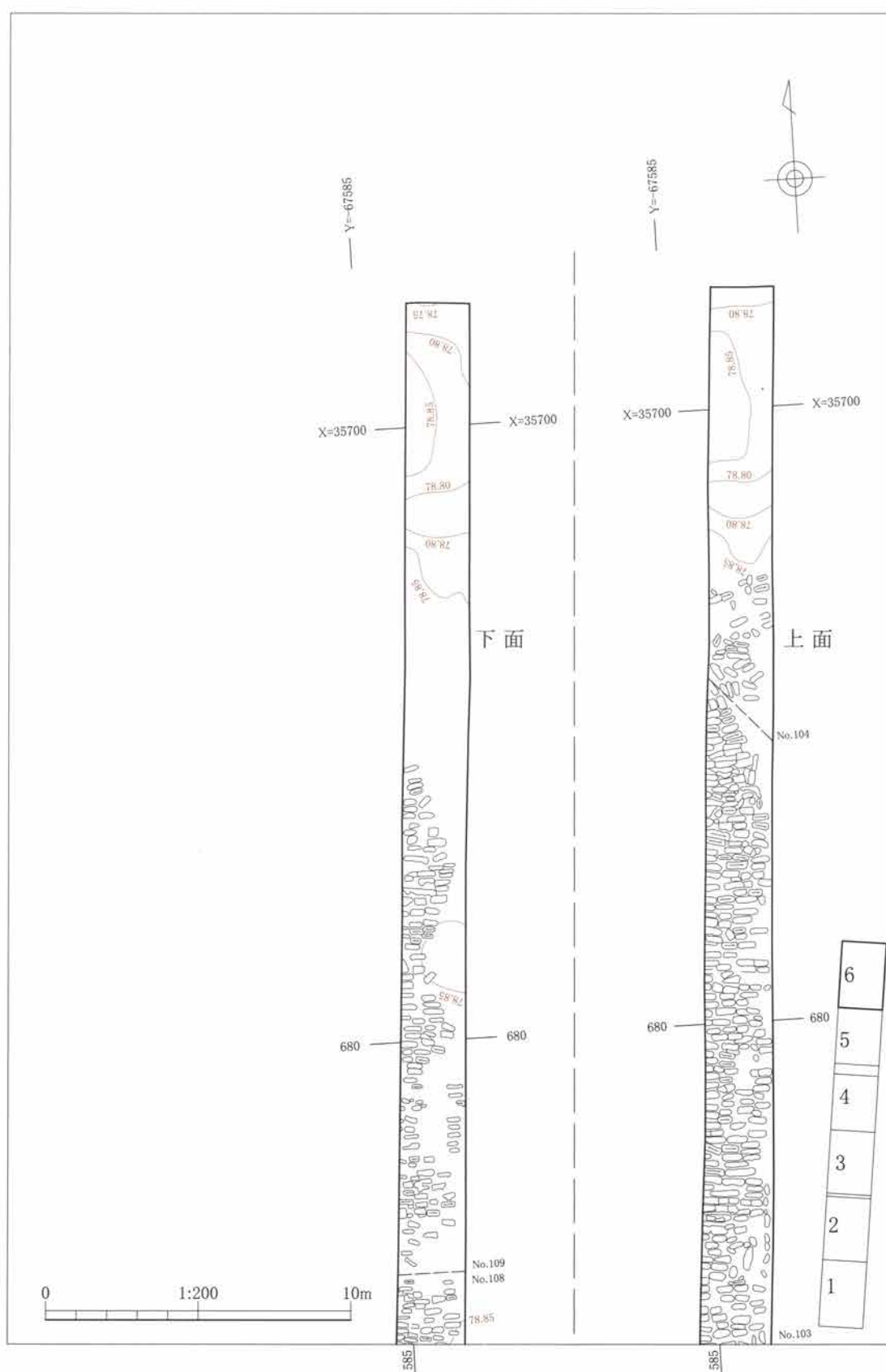


第65図 Aランプ 図割-4

1. As-A 下面 (近世～近代)

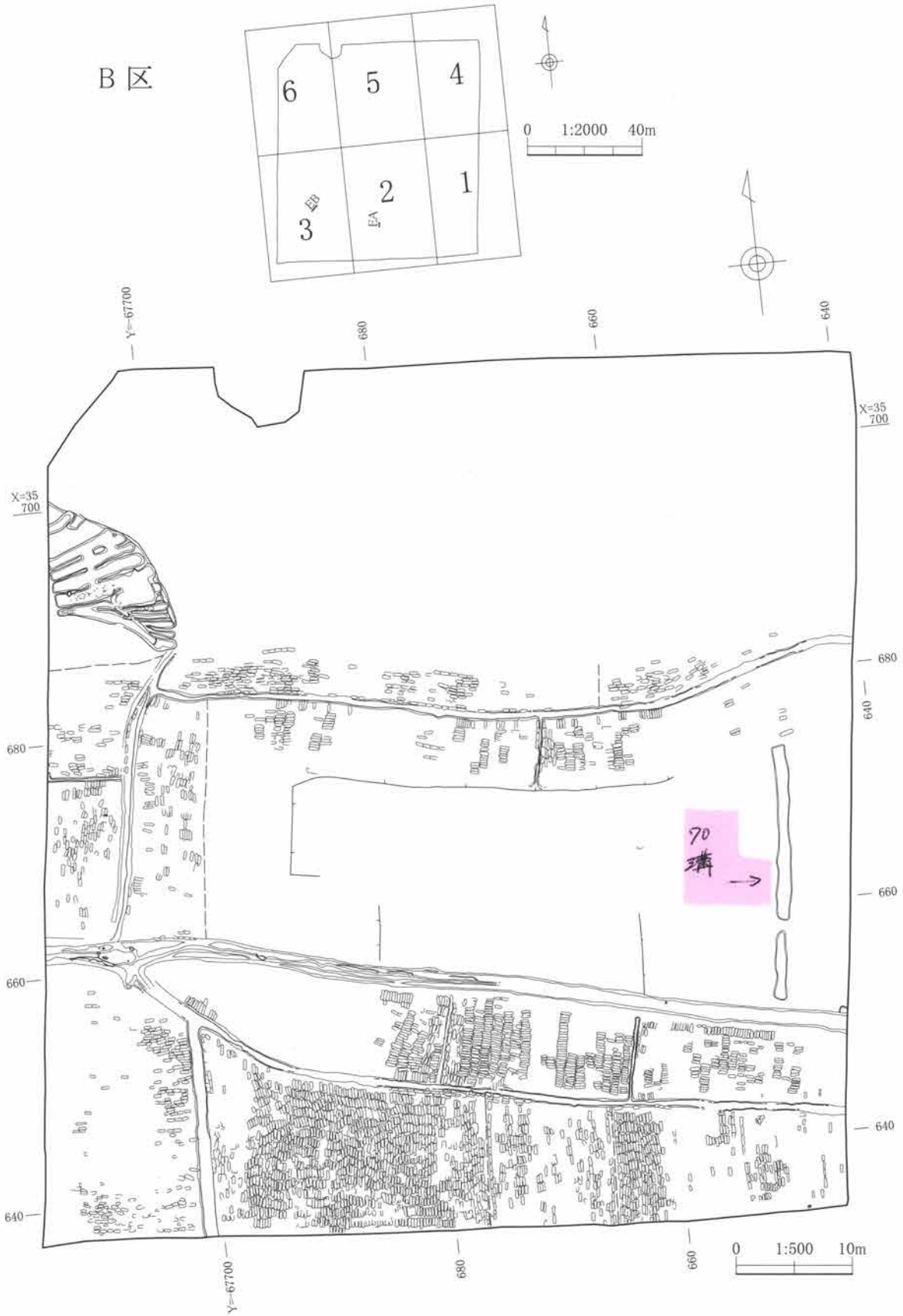


第66図 Aランプ 図割-5

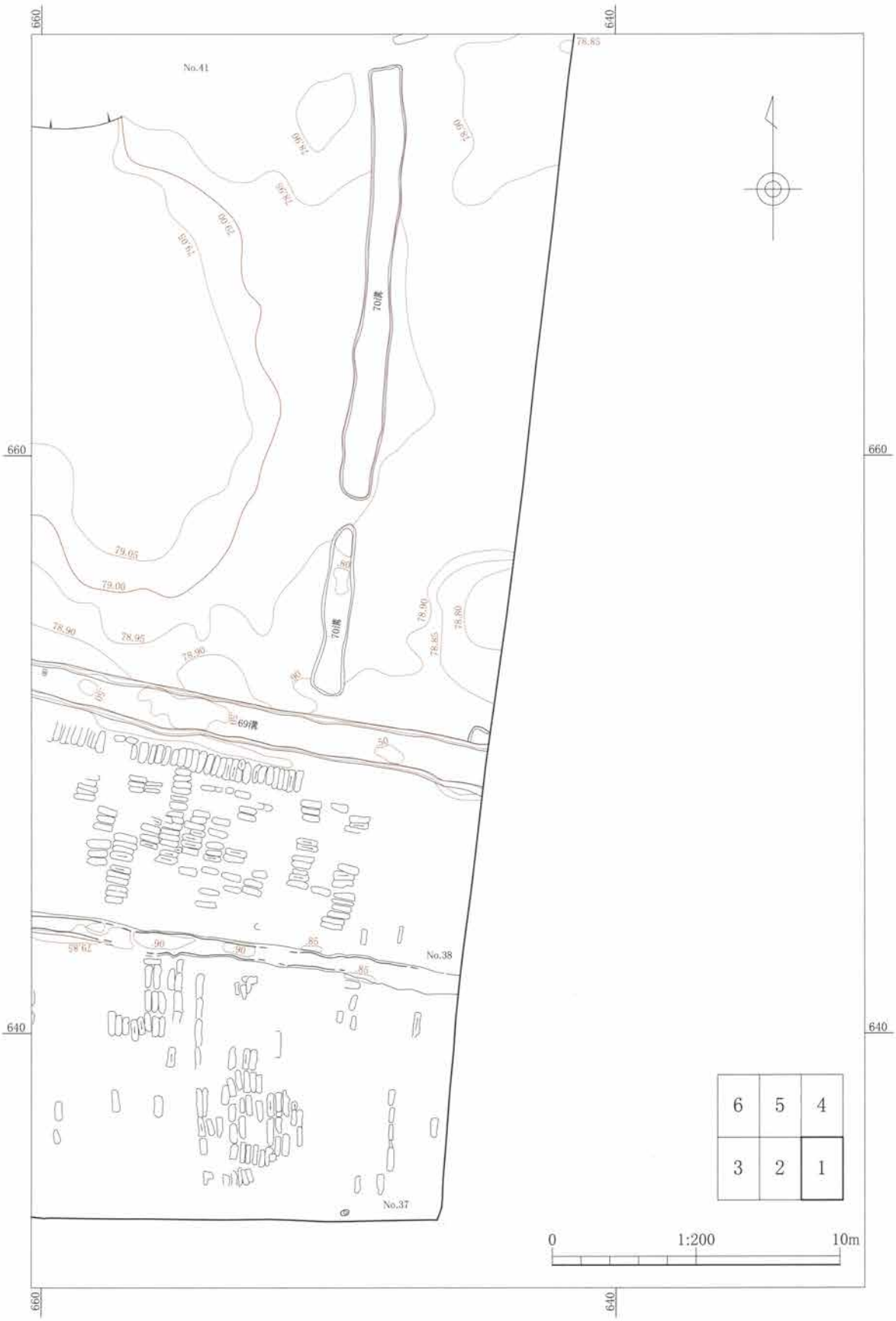


第67図 Aランプ 図割-6

1. As-A下面 (近世~近代)

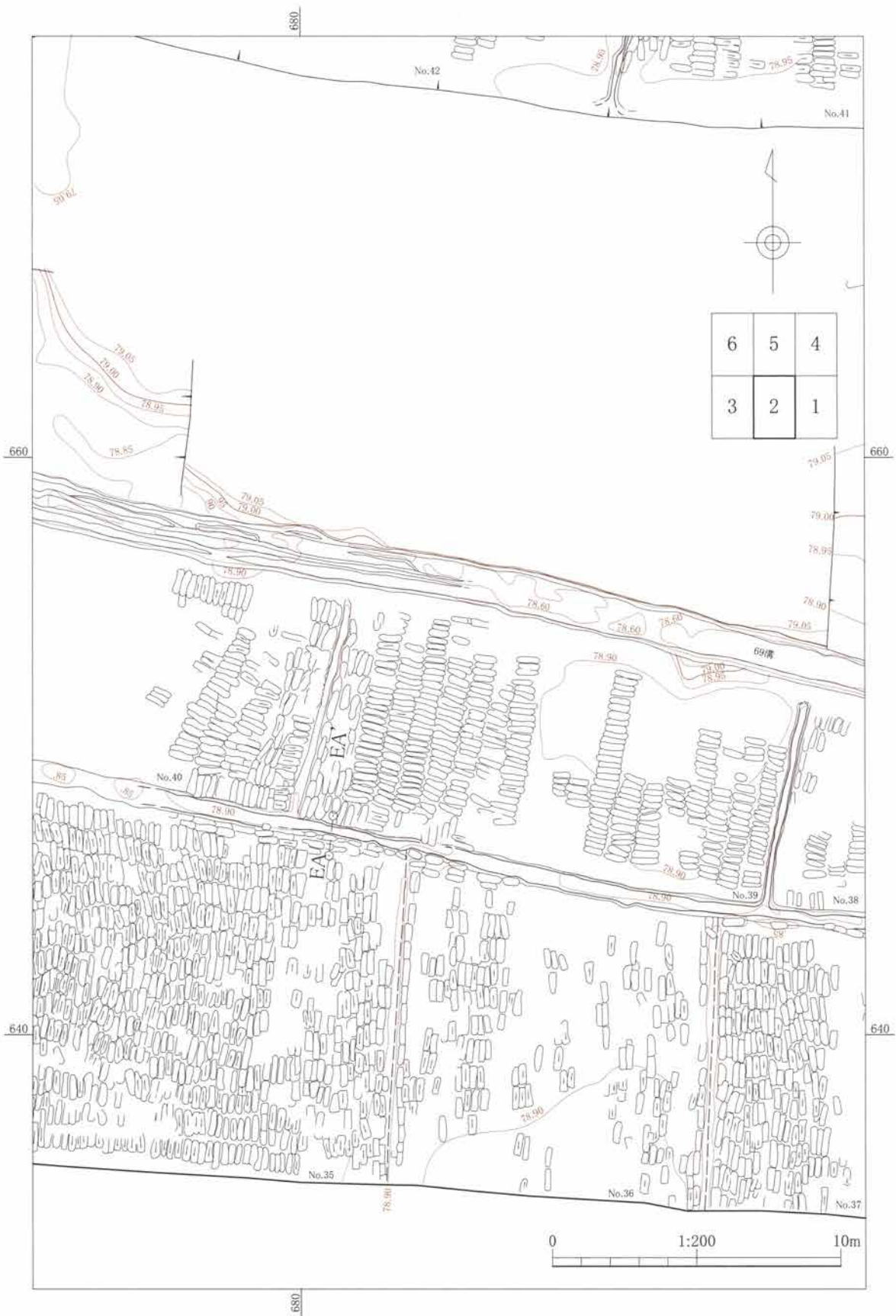


第68図 As-A下面 B区全体図・割図



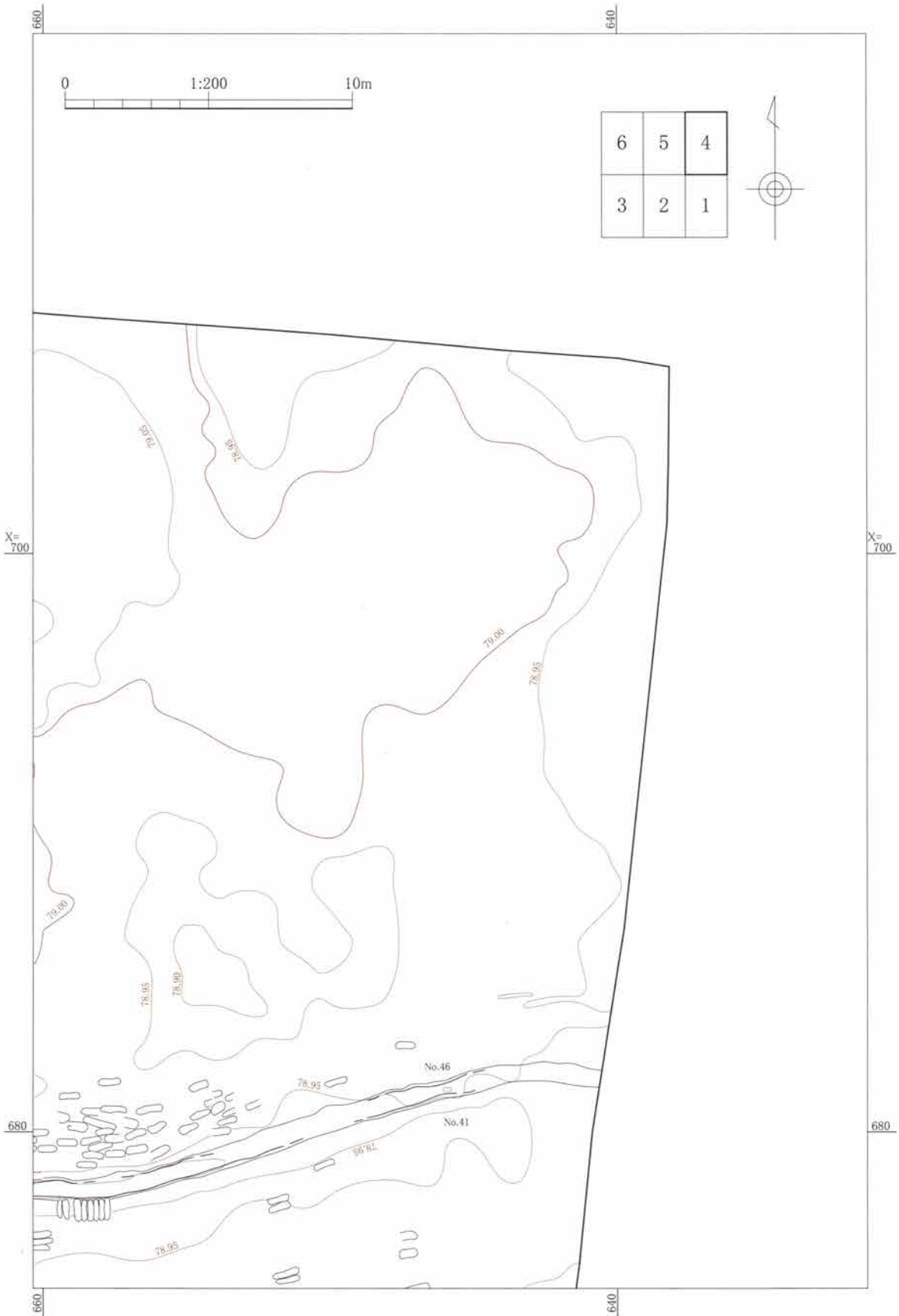
第69図 B区 図割-1

1. As-A下面 (近世~近代)

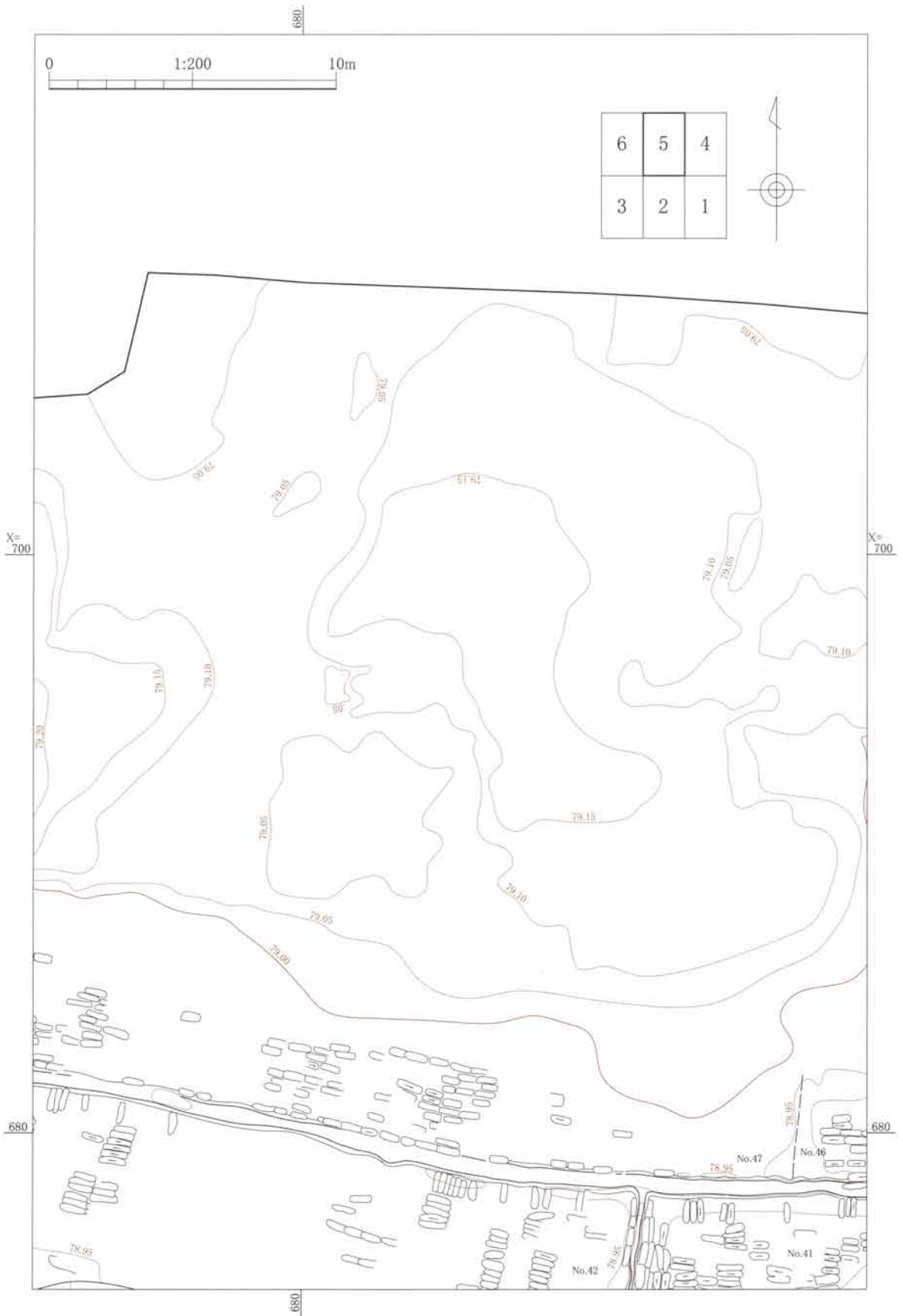


第70図 B区 図割-2

1. As-A下面 (近世~近代)

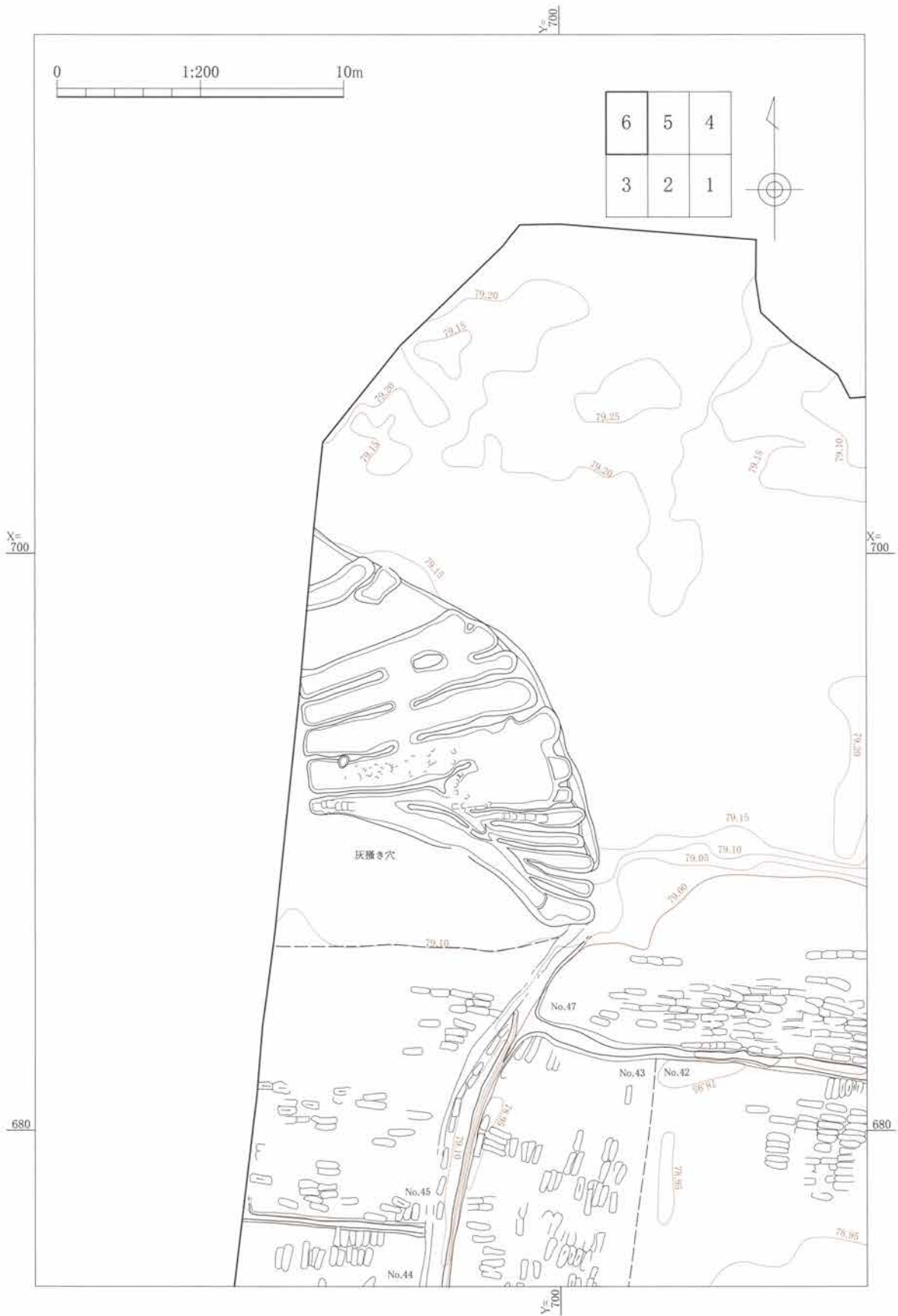


第72図 B区 図割-4

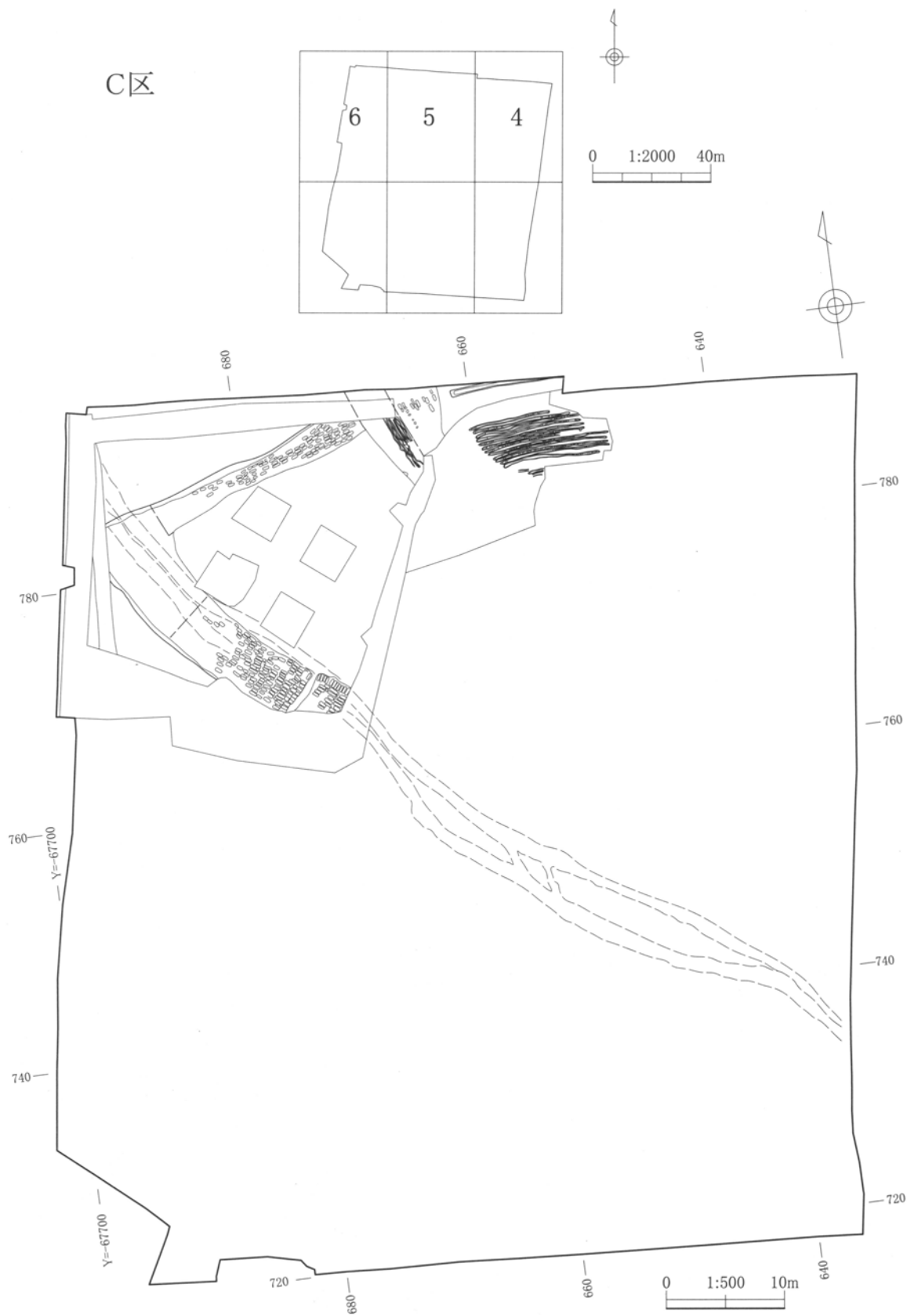


第73図 B区 図割-5

1. As-A下面 (近世~近代)

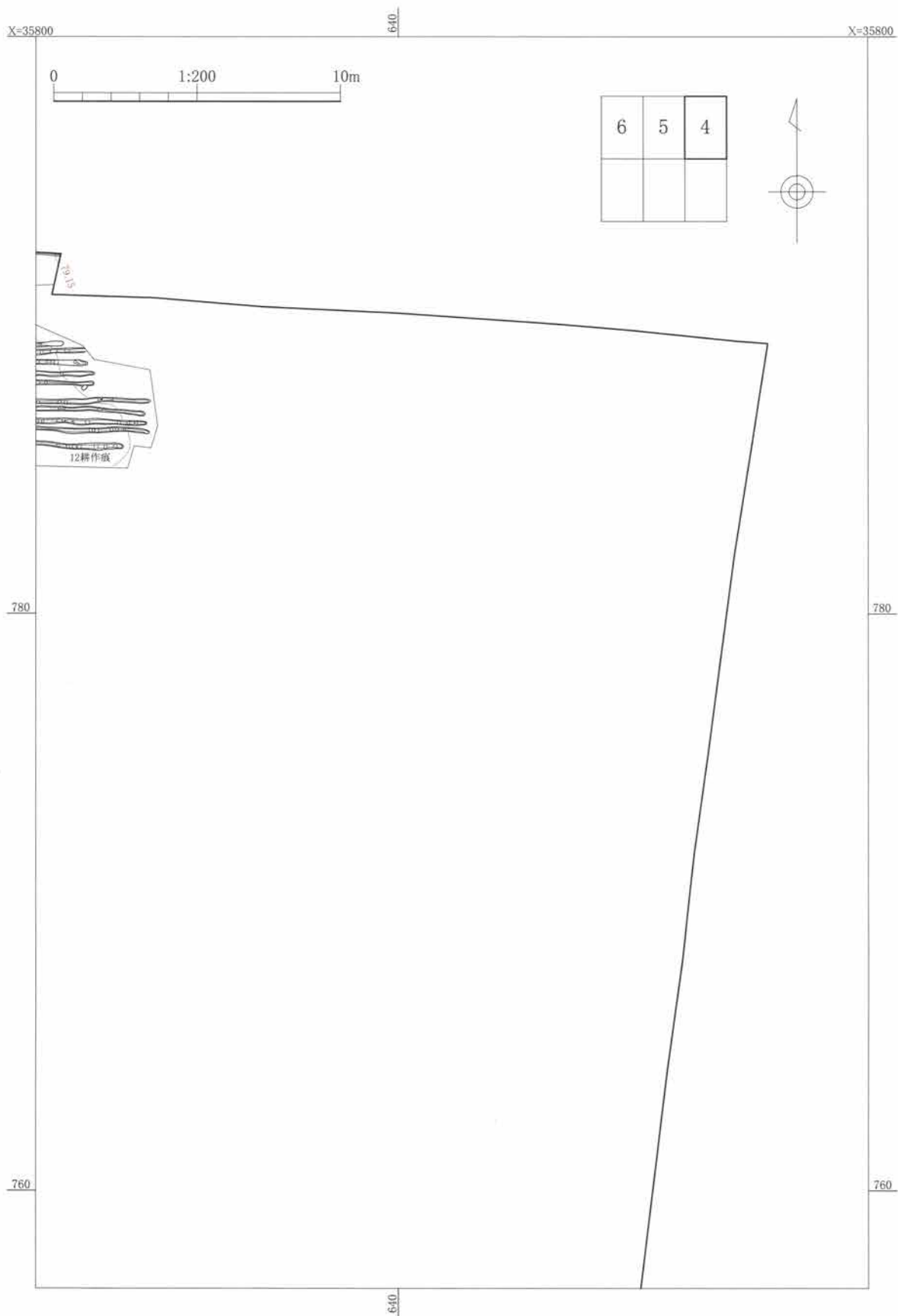


第74図 B区 図割-6



第75図 As-A下面 C区全体図・割図

1. As-A下面 (近世~近代)

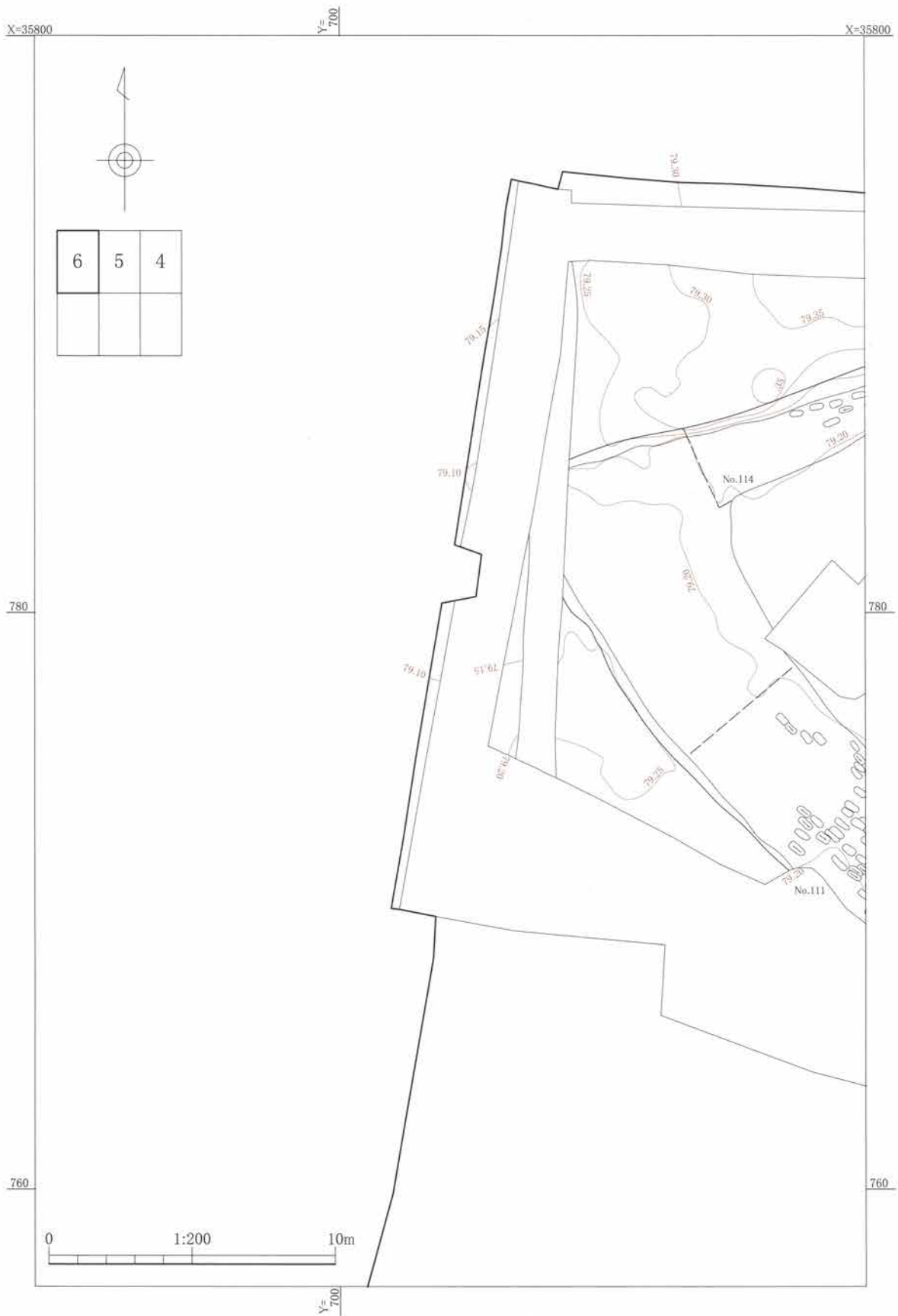


第76図 C区 図割-4

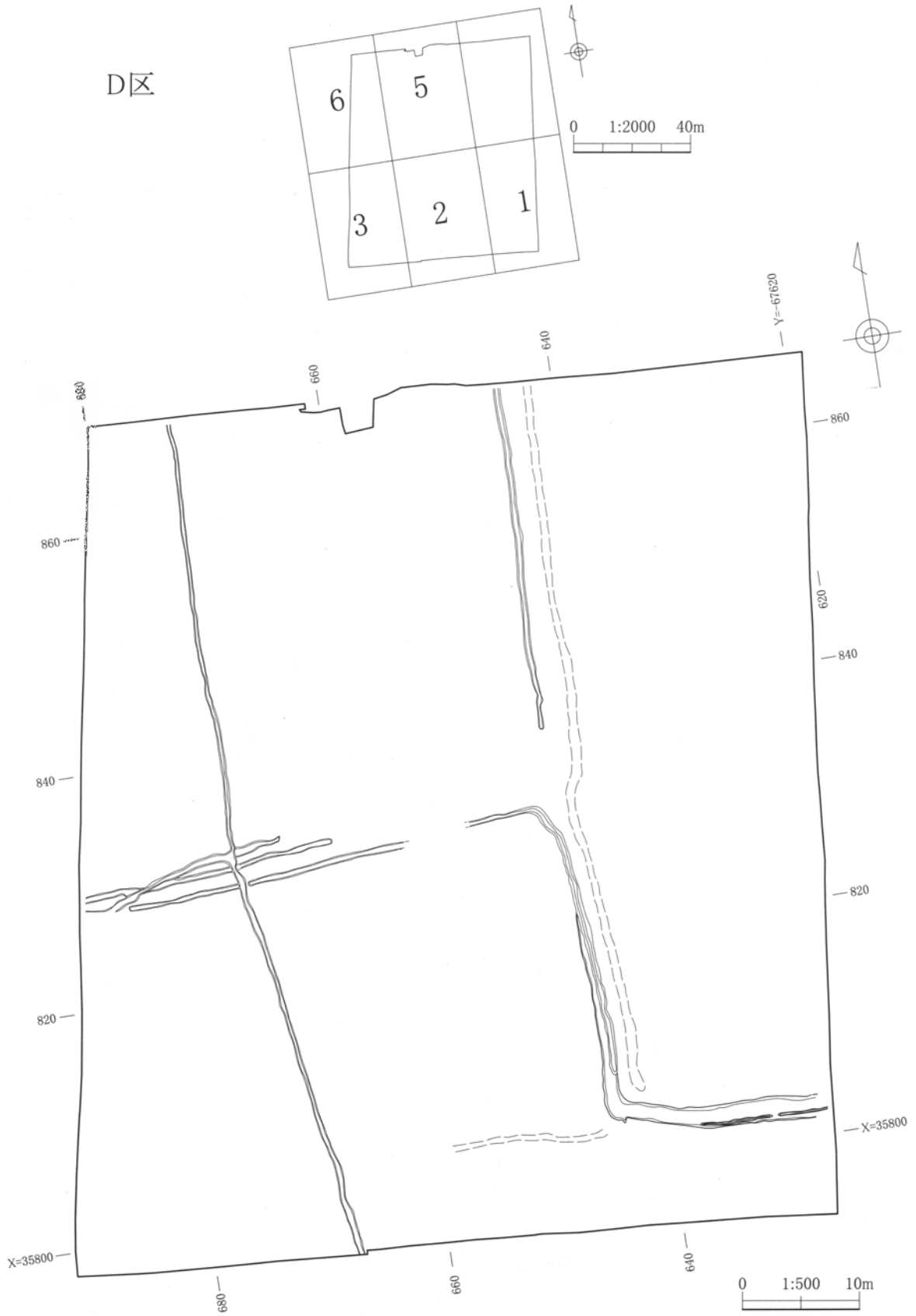


第77図 C区 図割-5

1. As-A下面 (近世~近代)

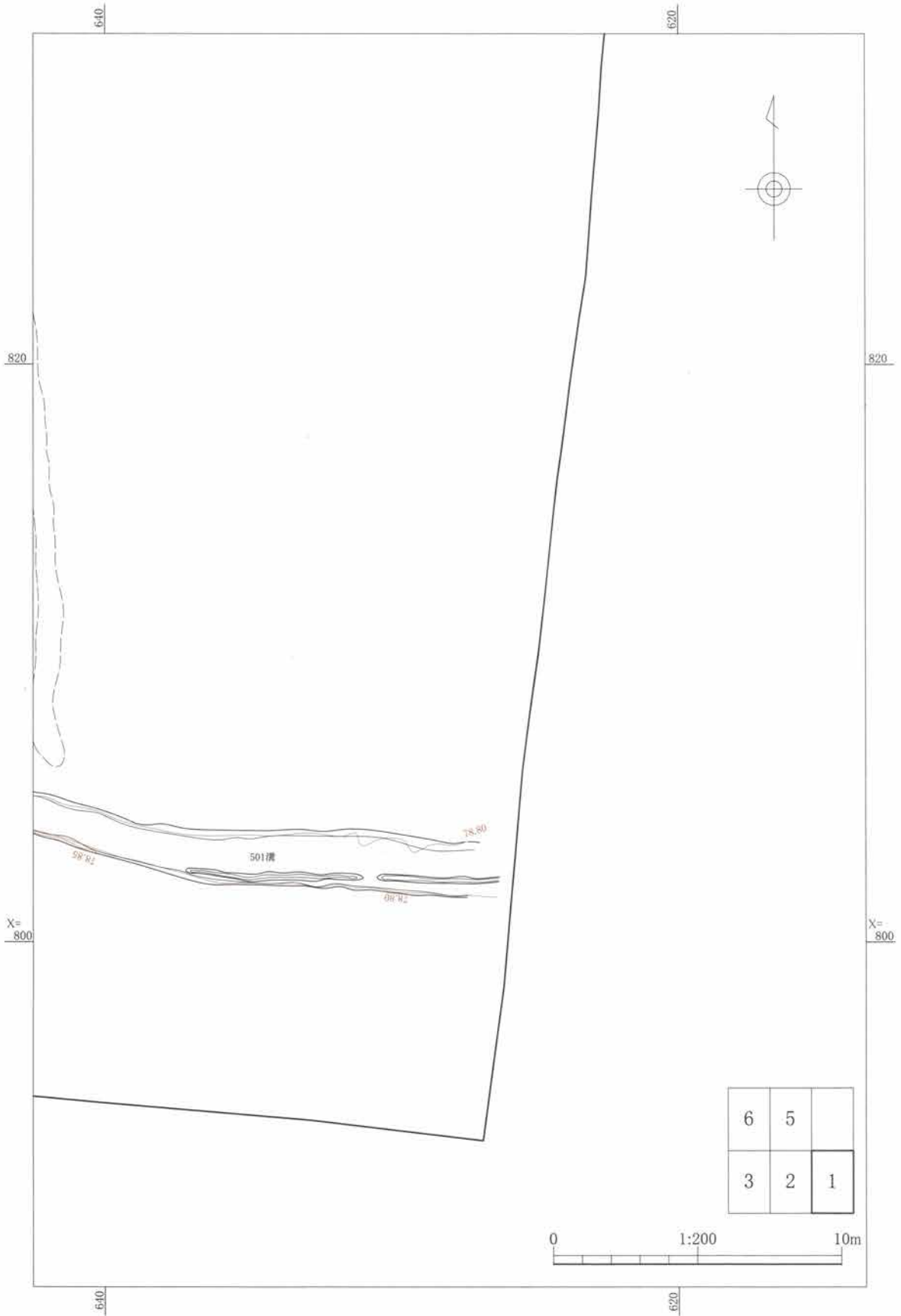


第78図 C区 図割-6

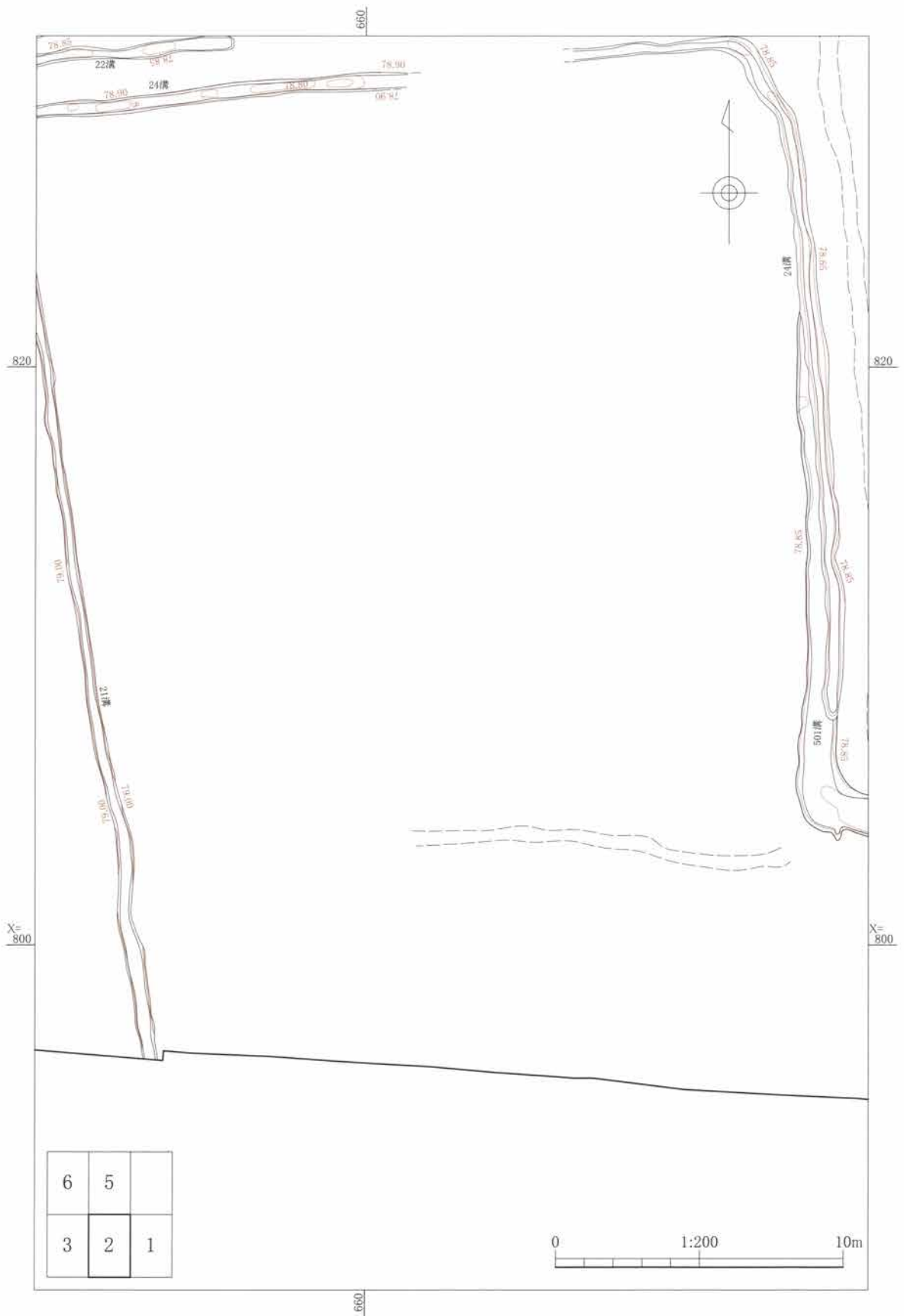


第79図 As-A下面 D区全体図・割図

1. As-A下面 (近世~近代)

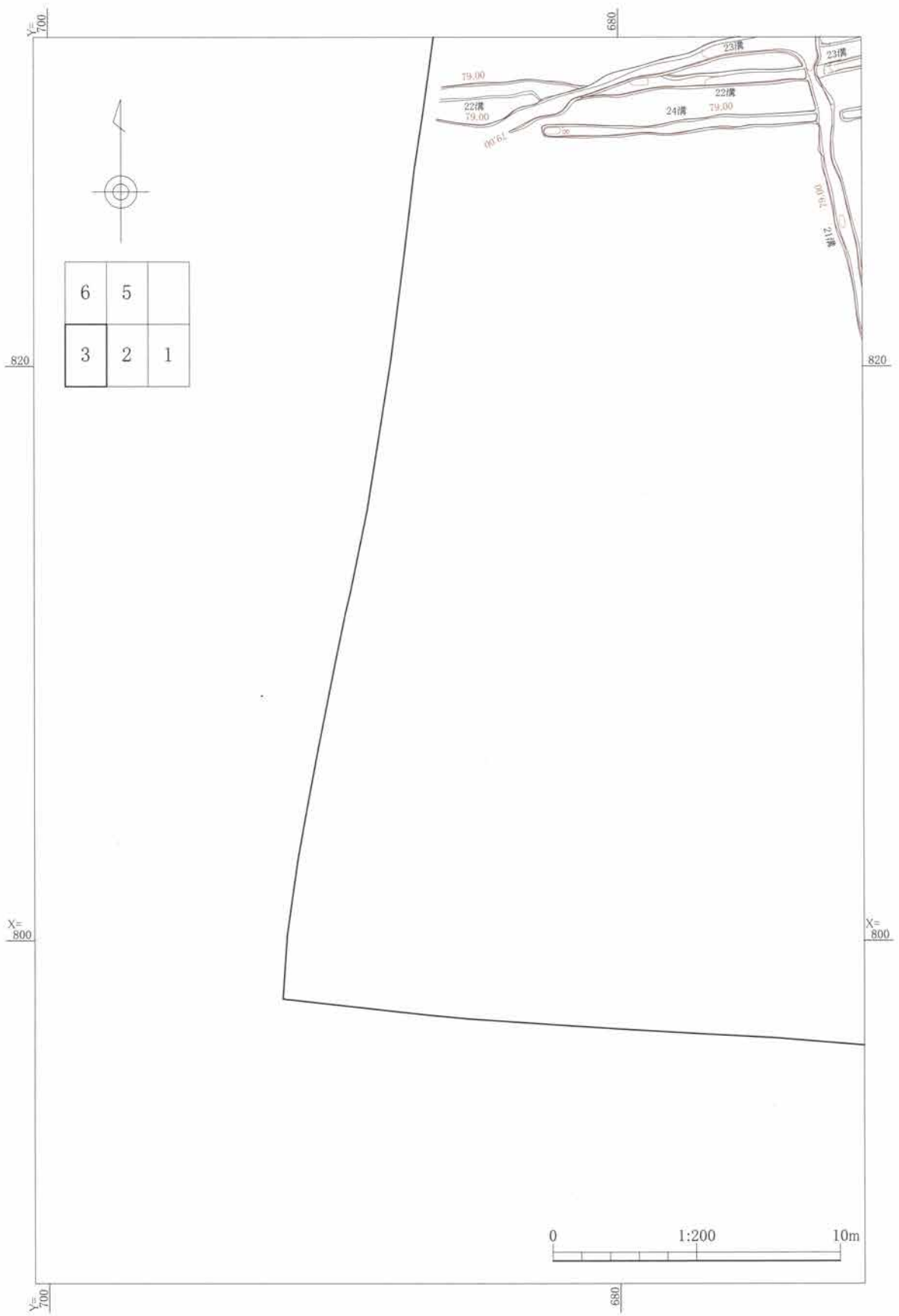


第80図 D区 図割-1

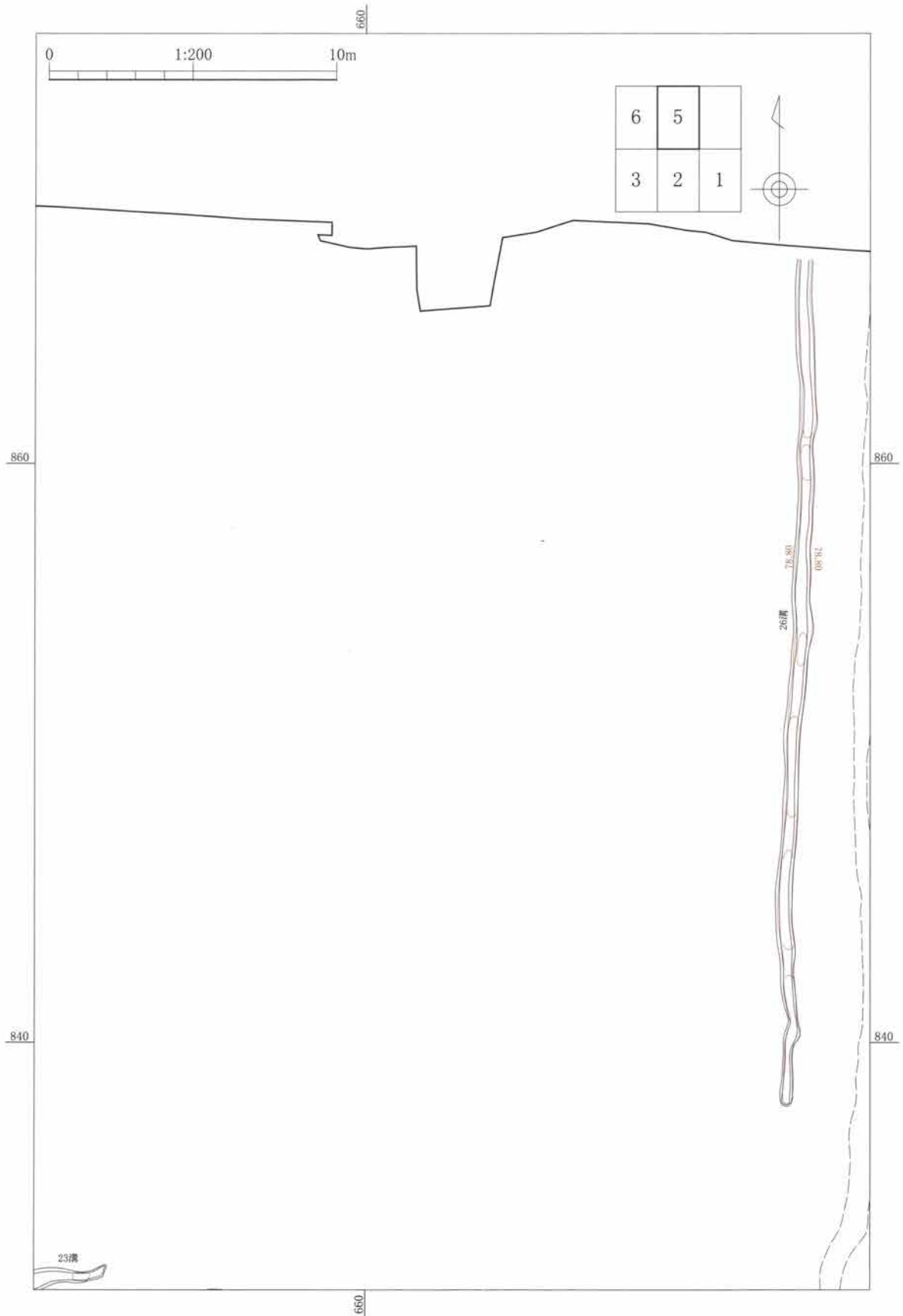


第81図 D区 図割-2

1. As-A下面 (近世~近代)

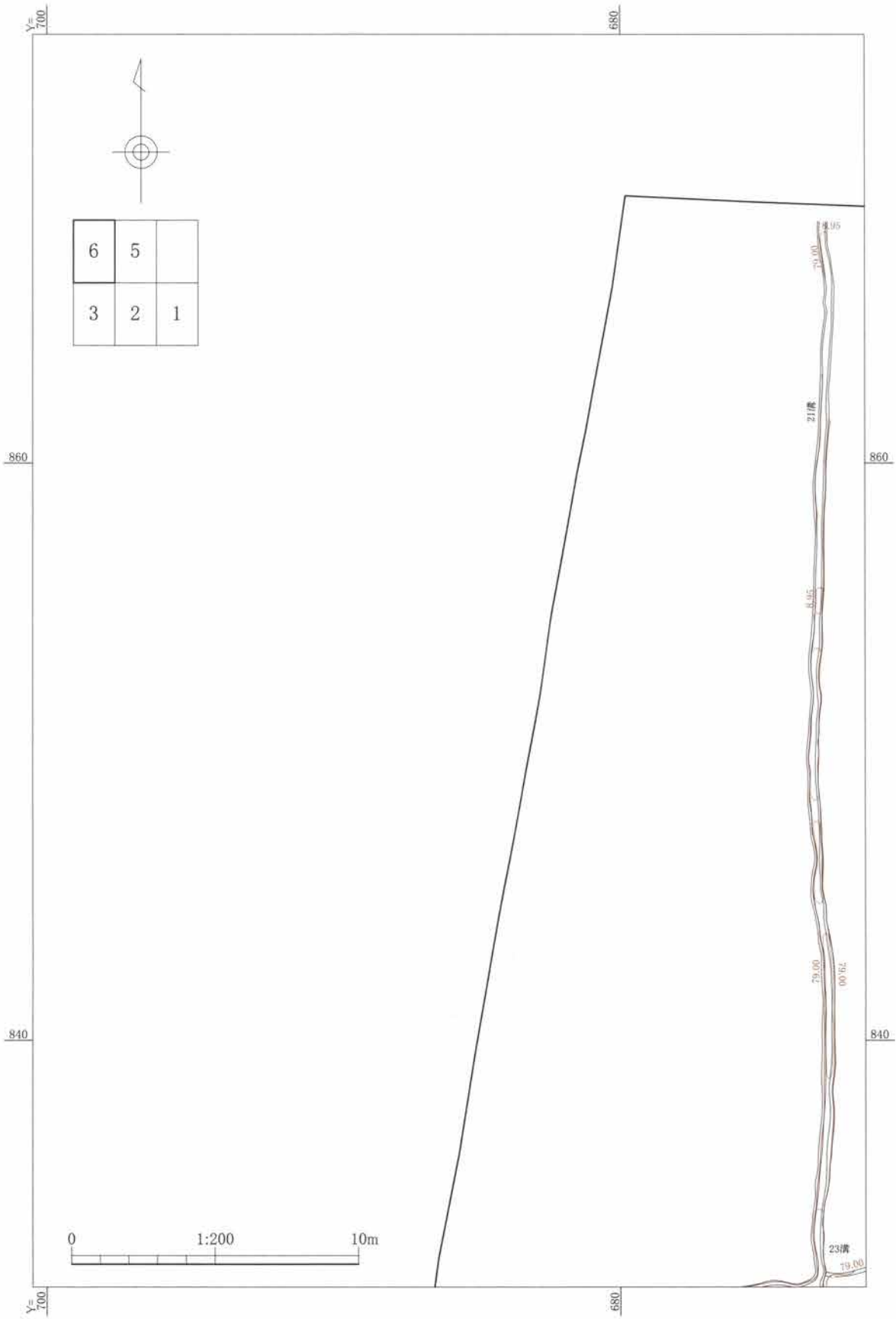


第82図 D区 図割-3

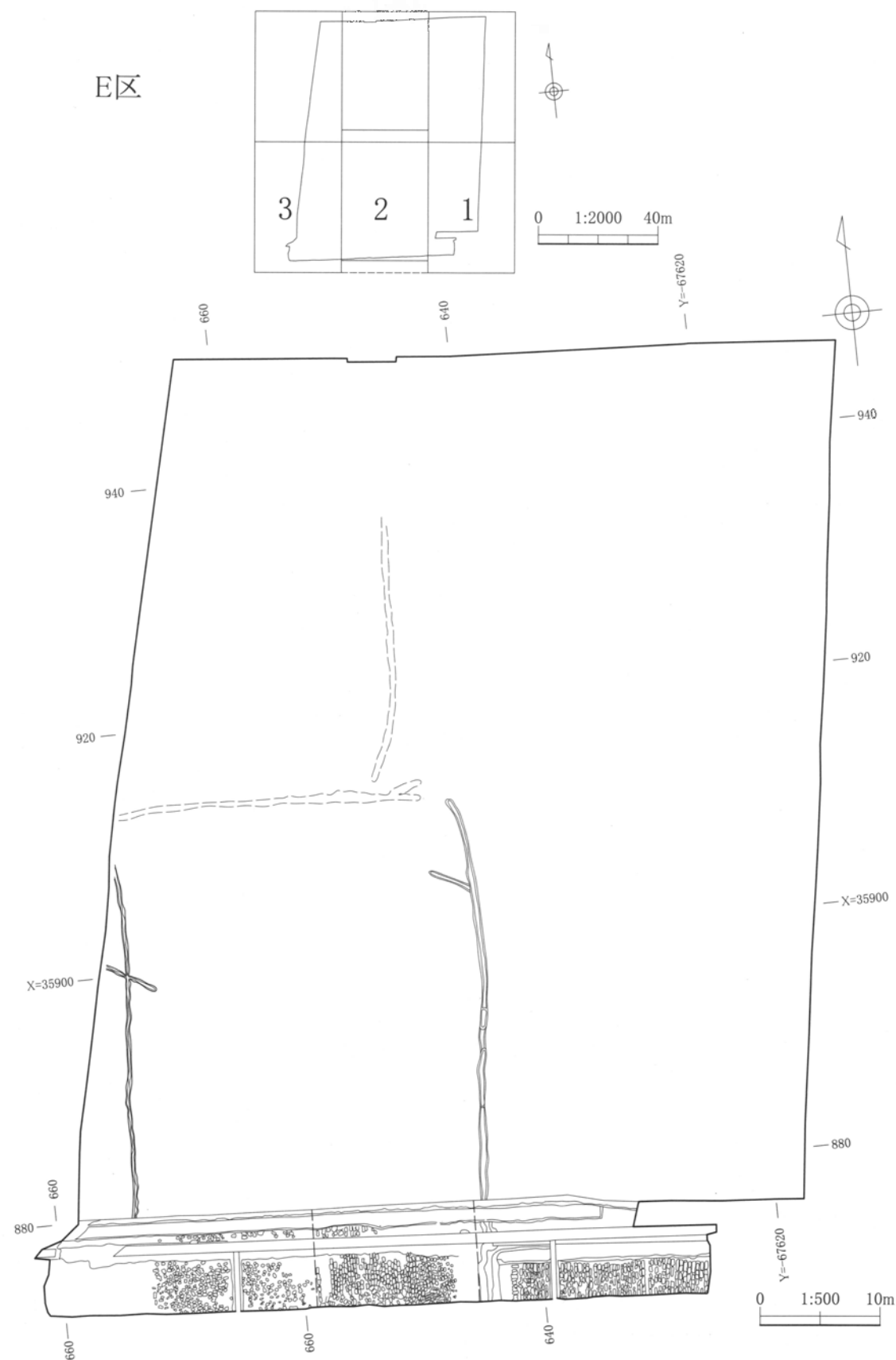


第83図 D区 図割-5

1. As-A下面 (近世~近代)

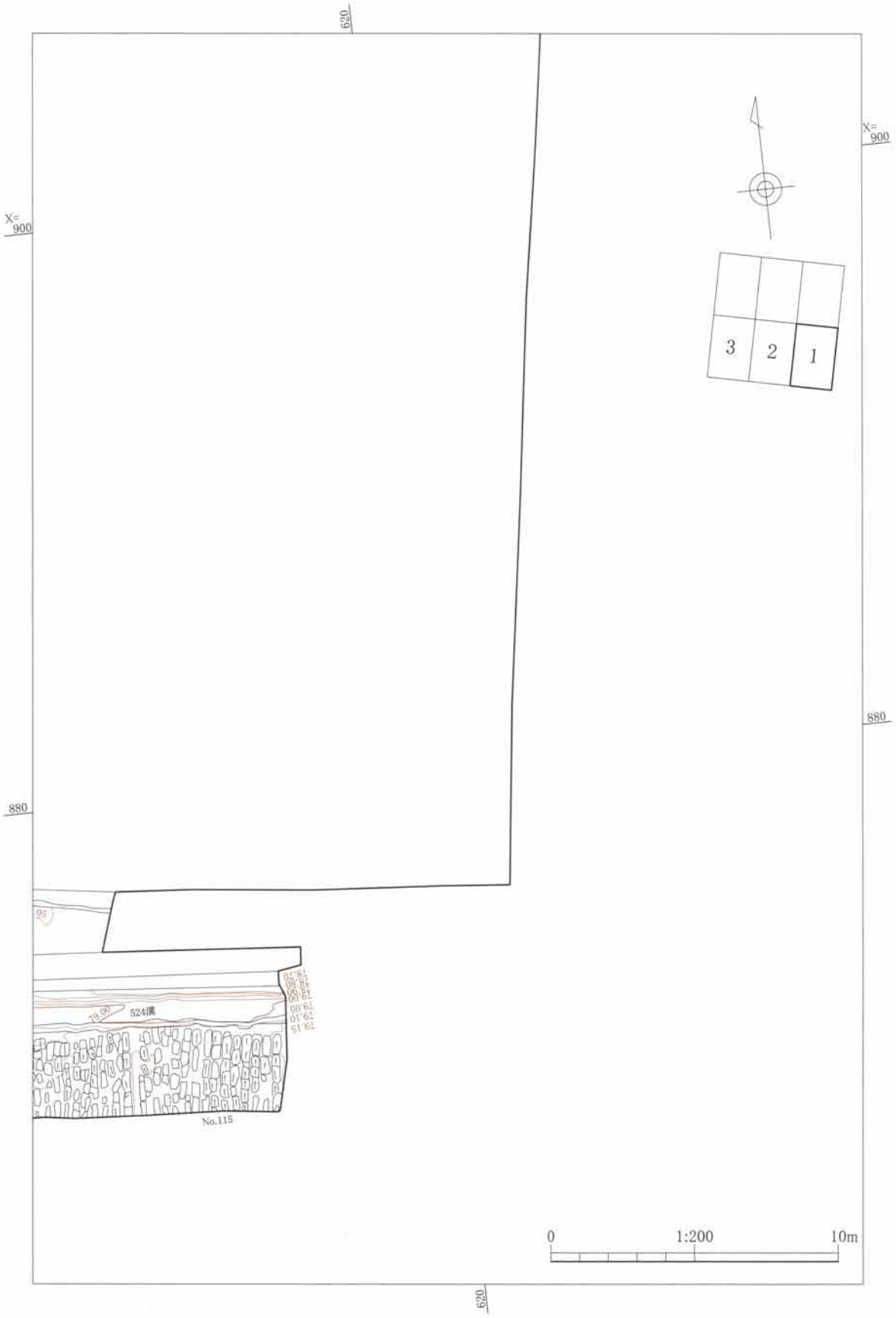


第84図 D区 図割-6

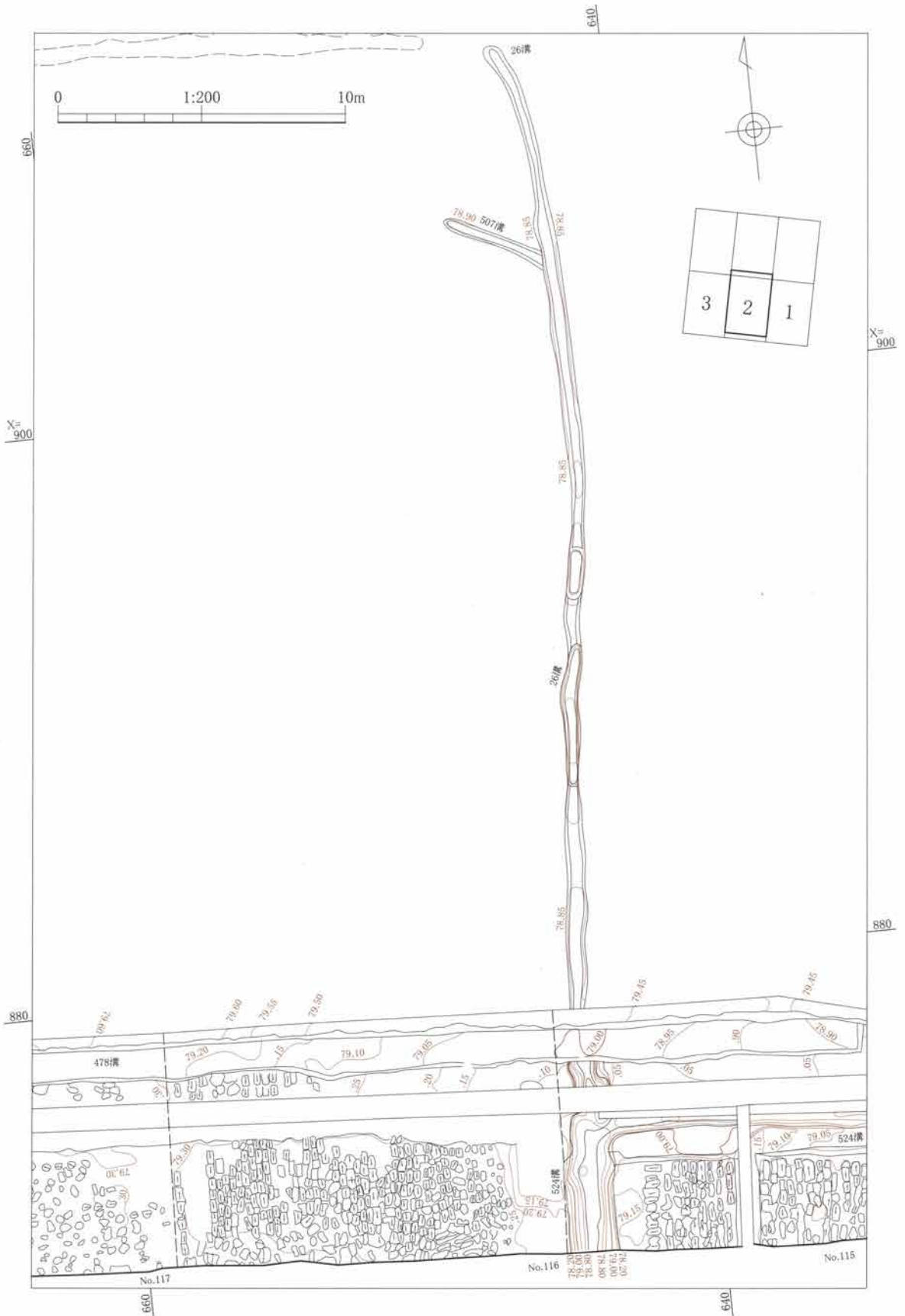


第85図 As-A下面 D・E区中間部～E区全体図・割図

1. As-A下面 (近世~近代)

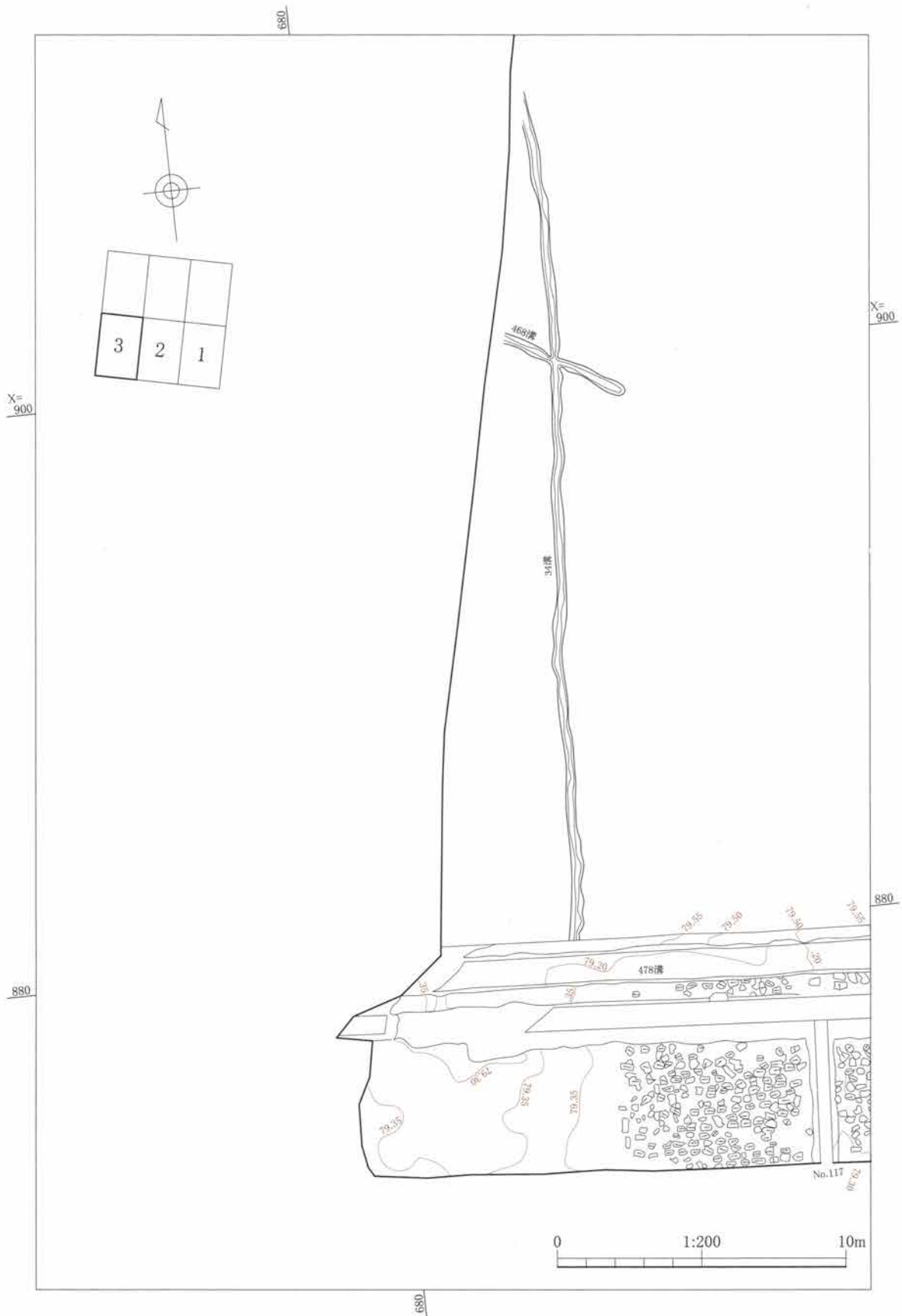


第86図 D・E区中間部~E区 図割-1



第87図 D・E区中間部～E区 図割-2

1. As-A下面 (近世～近代)



第88図 D・E区中間部～E区 図割-3

(1) 水田跡

概要

As-A下水田跡は、江戸時代後期の所産と考えられるが、As-A軽石の一次堆積層下の水田跡ではない。つまり、天明3(1,783)年当時の地表面としての水田跡ではない。当遺跡のAs-A下水田跡の場合、

- ①As-A軽石層が薄く、ほとんどがAs-A混土層であり、純層として捉えられない。
- ②灰掻き穴が、同様にAs-A混土層下から検出される。
- ③農具痕埋土に、As-A軽石が集中して含まれる。
- ④農具痕は旧地表ではなく、水田床土に近い耕作土の基底部であると考えられる。

という4点から、天明3年の噴火によってパックされたままの、旧地表面ではないことが想定できる。つまり、As-A軽石降下後、水田を復旧しようとした時間的経過が、遺構から窺えるのである。このことから、水田跡はAs-A軽石降下後に、若干の時間の経過を経た時期(噴火時よりも新しい時期)の、床土に近い層位(旧耕作面よりも深い層位)で確認された遺構と考えられる。

Aランプでは、耕作痕面が、上下2面で検出されている。つまり、As-A軽石が上下2面に分かれているということである。また、耕作痕の大きさについても、規模の大小があり、一概に特定の農具による痕跡とも考えられない。農民それぞれによって、エンガ(柄鋤)やテンガ(手鋤)など、それぞれの農具を使っていた可能性を考えておく必要がある。

以下、A-1～F区の順に、各調査区毎に報告する。

A-1区の水田跡(第33～39図、PL-1)

上滝榎町北遺跡の地形は、大きくは利根川と井野川に挟まれた後背湿地であり、北西から南東に向けて標高が低くなっている。そのため、灌漑用水の流れも基本的には、北西から南東方向へ流下していく構造となっている。

A-1区水田跡では、水田18枚が確認できた。前記のように、この水田跡はAs-A軽石直下のものではなく、軽石降下以後の復旧痕が見られることから、若干の時間的経過を感じさせる。また、確認面是水田跡の床土近くであり、覆土として掘削した土層が旧耕土であろう。旧耕土は、As-A軽石を斑点状に含む赤褐色土である。旧耕土層を取り払うことによって検出できたのが、この水田跡である。

畦畔の規模は、幅14～62cm、高さ0～5cmで、特に大小の差は認められない。ほぼ全域で農具痕が検出されたが、No4・11・15・16の4枚の水田跡からは、農具痕を検出することができなかった。東西方向の畦畔が9条、南北方向の畦畔が3条ほど検出されている。水田面積の測れる区画で、232～273m²である。人の足跡や牛馬の蹄跡は、検出されなかった。畦畔は、ほぼ東西南北に直交するように造成されており、意識的な畦畔の配置を感じることができる。しかし、A-1区南西部には、溝に沿って北西から南東へ斜めに設定された畦畔もあり、東西南北を意識しながらも、地形の現状に沿った合理的・現実的な土地管理をしている様子が読みとれる。

農具痕は、長さ40～50cm・幅20cm前後の比較的大きな耕作痕と、長さ30～40cm・幅10～20cm前後の比較的

1. As-A下面（近世～近代）

小さな耕作痕が検出されている。この耕作痕が天明3年時の復旧跡だとすれば、耕作痕が検出できなかった区画は、復旧時の掘り込みが浅かった所であろう。また、耕作痕には、幅の広いものと狭いものが確認される。従来、エンガ（柄鋤）による復旧行為が議論されているが、テンガ（手鋤）による復旧も考えておく必要がある。

A-2区の水田跡（第40～46図、PL-8・9）

A-2区水田跡では、水田12枚が確認できた。A-1区と同様に、確認面は当時の床土近くである。覆土として掘削した土層が、旧耕土である。旧耕土（覆土）は、As-A軽石を斑点状に含む赤褐色土である。旧耕土層を取り払うことによって面的に検出できた。

畦畔の規模は20～40cm、高さ1～8cmで、特に大小の差は認められない。ほぼ全域で農具痕が検出されたが、146溝北東側からは、農具痕を検出することができなかった。

農具痕は、長さ40～50cm・幅20cm前後の比較的大きな耕作痕と、長さ30～40cm・幅10～20cm前後の比較的小さな耕作痕が検出されている。

畦畔の規模は、幅19～113cm、高さ0～5cmほどである。東西畦畔が4条、南北畦畔が3条確認されている。水田面積は、285～329㎡である。A-2区中央部から北西にかけての地域で、東西南北にほぼ直交する畦畔が確認されている。その畦畔によって、ほぼ同規模に水田が区画されている様子が窺える。畦畔内の水田面からは、おびただしい数量の農具痕が検出された。人の足跡や牛馬の蹄跡は検出されなかった。

A-3区の水田跡（第47～60図、PL-11・12）

A-3区水田跡では、水田52枚が確認できた。A-1・2区と同様に、確認面は当時の床土近くである。覆土として掘削した土層が、旧耕土であろう。旧耕土（覆土）は、As-A軽石を斑点状に含む赤褐色土である。旧耕土層を取り払うことによって面的に検出できた。

畦畔の規模は4～50cm、高さ0～11cmで、特に大小の差は認められない。ほぼ全域で農具痕が検出されたが、約半数の水田跡からは、農具痕を検出することができなかった。

農具痕は、長さ30～50cm・幅20cm前後の比較的大きな耕作痕と、長さ30～40cm・幅10～20cm前後の比較的小さな耕作痕が検出されている。A-3区東部で検出された10耕作痕は、遺存状況が良好であった。従来、耕作痕を残した農具としては、エンガが考えられている（『上滝五反畑遺跡』1999）。

畦畔の規模は、幅4～50cm、高さ0～11cmほどである。東西畦畔が5条、南北畦畔が16条確認されている。A-3区の畦畔は、A-1・2区の畦畔と異なり、東西南北ではなくやや斜めに設定されており、地形の状況に即した土地管理をしていたことが窺える。現在でもA-3区の西隣は集落であることから、その微高地縁辺部の傾斜に即して、合理的・現実的な水田を造成していたことがわかる。

水田面積は、区画外までを含む水田跡がほとんどであり計測不能であるが、小さいもので30㎡ほど、大きいもので320㎡ほどである。人の足跡や牛馬の蹄跡は、検出されなかった。

10耕作痕の詳細については、耕作痕の項を参照（P-159・160）。

A ランプの水田跡 (第61～67図、PL-20)

A ランプ水田跡では、畦畔・溝の遺存状況が不良なため同じ耕作痕の集合単位で分けた結果、水田16枚が確認できた。A ランプでは、As-A下面として、上下2面が検出された。第1面(上面)で11枚の水田跡を、第2面(下面)で5枚の水田跡を検出した。他のA区と同様に、確認面は当時の床土近くである。覆土として掘削した土層が、旧耕土である。旧耕土(覆土)は、As-A軽石を斑点状に含む赤褐色土である。旧耕土層を取り払うことによって面的に検出できた。

水田の遺存状況は全体的には不良で、畦畔は検出できなかった。しかし、ほぼ全域で農具痕が検出されている。特に、北側のA-2区・B区平行部分で、より多くの農具痕を検出することができた。農具痕は、長さ40～50cm・幅20cm前後の比較的大きな耕作痕と、長さ30～40cm・幅10～20cm前後の比較的小きな耕作痕が、それぞれ検出されている。

As-A下面として、A-2区・B区平行部分で、上下2面が確認されている。どちらも耕作痕を伴っている。調査時は、As-A軽石層を鍵層として表土を剥ぐのであるが、なぜAs-A軽石の集中する層が、2層にわたって確認できたのかは不明である。As-Aの集中する層位が、2層に分かれるということは、天明3年(1,783)のAs-A軽石降下直後の復旧活動とともに、その後もう一度何かしらの農作業をしていたことを示している。その行動が、洪水など自然災害後の活動に伴うものなのか、平時の農作業の痕跡なのかは、これから考えていかねばならない課題である。

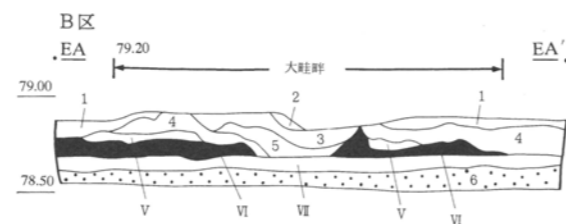
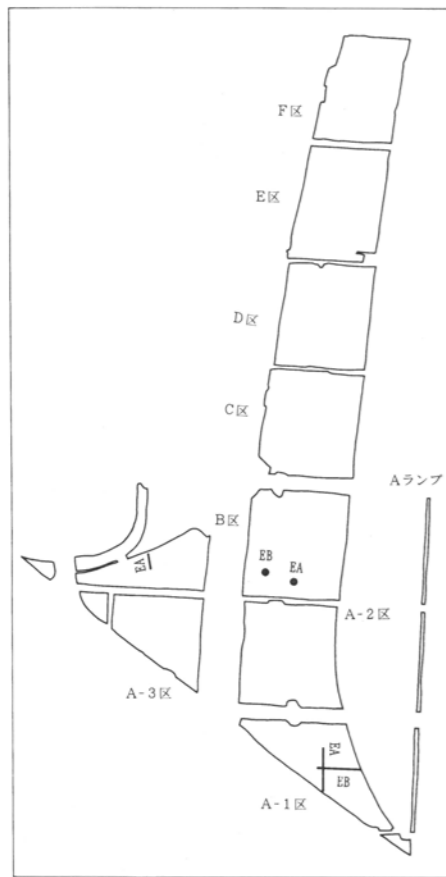
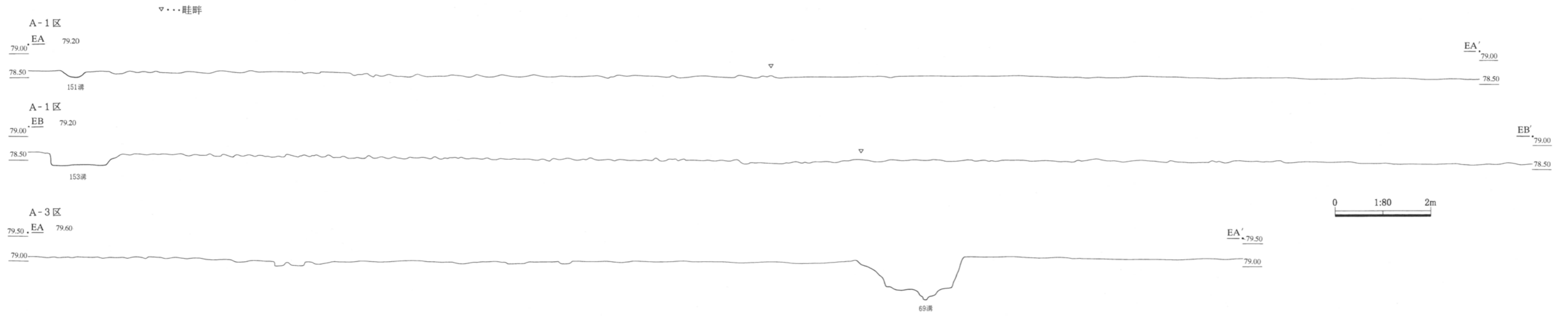
B 区の水田跡 (第68～74図、PL-25)

B区水田跡では、水田14枚が確認できた。A区と同様に、確認面は当時の床土近くである。覆土として掘削した土層が、旧耕土である。旧耕土(覆土)は、As-A軽石を斑点状に含む赤褐色土である。旧耕土層を取り払うことによって面的に検出できた。

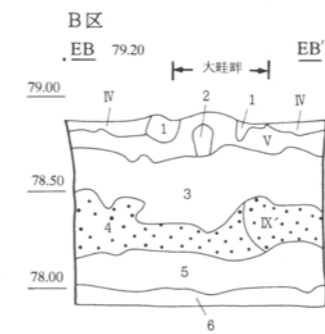
畦畔の規模は、幅21～135cm・高さ0～14cmである。東西畦畔が4条、南北畦畔が3条確認されている。比較的広い南北方向の畦畔が西南部で検出されており、A-2区につながるものと考えられる。幅が1m前後あり、農道をも兼ねた大畦畔としての機能が想定される。水田面積は、132～172㎡である。B区南半部で、方位はややずれるが、東西南北にほぼ直交する畦畔が確認されている。B区中央部を、69溝が西から東へ流下しており、溝と平行するように東西畦畔が造られている。水田面からは、エンガやテンガの痕と思われる農具痕が検出されている。北半部は遺存状況が不良であり、畦畔や農具痕は検出されなかった。人の足跡や牛馬の蹄跡は、検出されなかった。

C 区の水田跡 (第75～78図、PL-26)

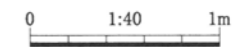
C区水田跡は、北西部から水田5枚が確認できた。C区は、平成7年度(1,995)から調査されたが、当初As-A下面は確認されていなかった。しかし、調査を行っていく間に、As-A軽石が僅かながら層位として確認されていったため、B区の調査からAs-A下面として捉えられるようになっていった経緯がある。そこで、C区で検出された北西部のAs-A下面は、鉄塔があったため、調査開始時には調査できなかった部分であり、平成8年度(1,996)の調査で検出できたものである。北西部でAs-A下面が検出されたことにより、C区全



- E A**
- 1 褐色土 As-Aを少量含む。
 - 2 褐色土 基本土層V層に近似。砂質。As-Aを少量含む。
 - 3 褐色土 As-B混入。基本土層IX'・X層土がブロック状に混入。
 - 4 黄灰色土 FA混入。3・5層土をブロック状に混入。
 - 5 黒褐色土 やや攪乱あり。基本土層IX'層土を含む。
 - 6 灰褐色土 粘性強い。



- E B**
- 1 褐色土 しまりあり。As-Aを若干含む。
 - 2 褐色土 やや砂質。As-Aを多量に含む。
 - 3 褐色土 2層に近似。As-Aがより多い。
 - 4 灰褐色土 砂質。2・3層に近似。As-Aを含む。
 - 5 黄褐色土 As-Aを僅かに含む。砂質土。
 - 6 黄灰色土 粘性あり。シルト質。酸化鉄分斑状にあり。



第89図 As-A下面 エレベーション図

体でもAs-A下面があった可能性は高い。

A区と同様に、確認面は当時の床土近くである。覆土として掘削した土層が、旧耕土である。旧耕土(覆土)は、As-A軽石を斑点状に含む赤褐色土である。旧耕土層を取り払うことによって面的に検出できた。

畦畔の規模は、幅12～45cm・高さ0～5cmである。南北畦畔のみ、1条確認されている。水田面からは、エンガやテングの痕と思われる農具痕が検出されている。人の足跡や牛馬の蹄跡は、検出されなかった。

D・E区中間部の水田跡 (第85～88図、PL-28)

D・E区はC区と同様に、平成7年度(1,995)から調査されたが、当初はAs-A下面は確認されていなかった。しかし、調査を行っていく間に、As-A軽石が僅かながらも層位として確認されていったため、B区の調査からAs-A下面として捉えられるようになった経緯がある。そこで、D・E区中間部で検出されたAs-A下面は、道路部分として調査開始時には調査できなかった部分であり、平成8年度(1,996)の調査で検出できたものである。C区でも、またD・E区中間部でもAs-A下面が検出されたことにより、D・E区全体でもAs-A下面があった可能性は高いと考えている。

D・E区中間部では、水田跡3枚が検出できた。A区と同様に、確認面は当時の床土近くである。覆土として掘削した土層が、旧耕土である。旧耕土(覆土)は、As-A軽石を斑点状に含む赤褐色土である。旧耕土層を取り払うことによって面的に検出できた。

はっきりとした畦畔は、検出されなかった。水田面からは、エンガやテングの痕と思われる農具痕が検出されている。人の足跡や牛馬の蹄跡は、検出されなかった。

(2) 溝

概 要

As-A下面から検出できた溝は、全部で56条である。水田跡に伴うと考えられる溝がほとんどである。地形との関係から溝の水の流れは、大まかには北西から南東方向に流下するものが多い。これは、当地域を挟むように流れている利根川と井野川の両河川が、ともに北西から南東方向に流下していることと関係する。遺跡内の微細な地形の起伏や、また区画に影響されて、異なる流れを示す溝も検出されているが、この地域を理解する上では、やはり大きくは北西から南東へ地形が傾斜していることを意識して考えておくことが必要であろう。

また、戦国時代から当地域に居住していた甲斐武田氏と縁のある江原氏との関係も、考えておく必要がある。1,600年代初めに、天狗岩用水・代官堀として上流の利根川より玉村までの間に、用水がひかれた。この事業を地域豪族としてバックアップしたのが江原源左衛門重久であり、その時期に耕地化・水田化された土地も多かったはずである。そのような、近世における歴史的背景を理解した上で、As-A関連面の溝を見ていくことにより、より深く地域社会を理解することが可能となろう。以下、調査区毎に報告するが、AランプではAs-A下面が上下2面検出されており、上面・下面という説明をつけていくことにする。

A-1 区の溝

147号溝 (第90~92・99・100・106・107図、PL-2~4)

位置 500—660、505—660~670、510—670・675、515—675、520—675・680、525—680・685、530~580—680・685、585—685、580・585—690~715グリッド

走向 西→南東 規模 幅0.95~2.94m、深さ0.37~0.64m、調査長121.82m

形状 底の断面が若干丸い。 調査所見 A-2 区内で146溝から分岐しているが、土層の堆積状況から147溝が新しく水を引き入れるために、146溝から分かれて造られたと考えられる。また、A-1 区中央部で、149・150・152・153溝と再び合流・分岐している。そのすべてが、147溝と関連した用水路として考えられる。147溝と、東西方向の溝である150・153溝との合流点に於いて、杭列が検出されている。これは、147溝の用水を、その杭列によって堰き止めて水位を上げ、水を150・153溝方向(東)へ流そうとした堰である。堰は、西から合流する149溝との合流点よりも、1mほど上流に設置されている。

遺物 1は陶器菊皿の口縁~体部片。口径15.0cm。黄瀬戸。美濃産で、17世紀。

2は陶器酒杯の口~底部片。口径7.6cm、底径3.6cm、器高3.5cm。内面と外面上半に飴釉を施す。瀬戸・美濃産で、18世紀前。3は陶器碗の口~底部片。口径9.0cm、底径4.0cm、器高5.5cm。口縁部外面と内面は灰釉、外面下部は鉄釉を施す(掛分け釉)。灰釉部分に貫入が見られる。瀬戸・美濃産で、19世紀。4は陶器片口鉢の口縁~体部片。口径18cm。灰釉施釉。瀬戸・美濃産で、19世紀。5は灯明皿の口縁片。口径11.0cm。錆釉を施す。底部釉ハギ。瀬戸・美濃産で、19世紀。6は陶器徳利の体~底部片。底径10.8cm。外面錆釉を施す。志戸呂産で、18世紀。7は陶器大鉢の口縁~体部片。口径28.2cm。象嵌(釘掘)、全体に透明釉を施釉。唐津産で、18世紀。

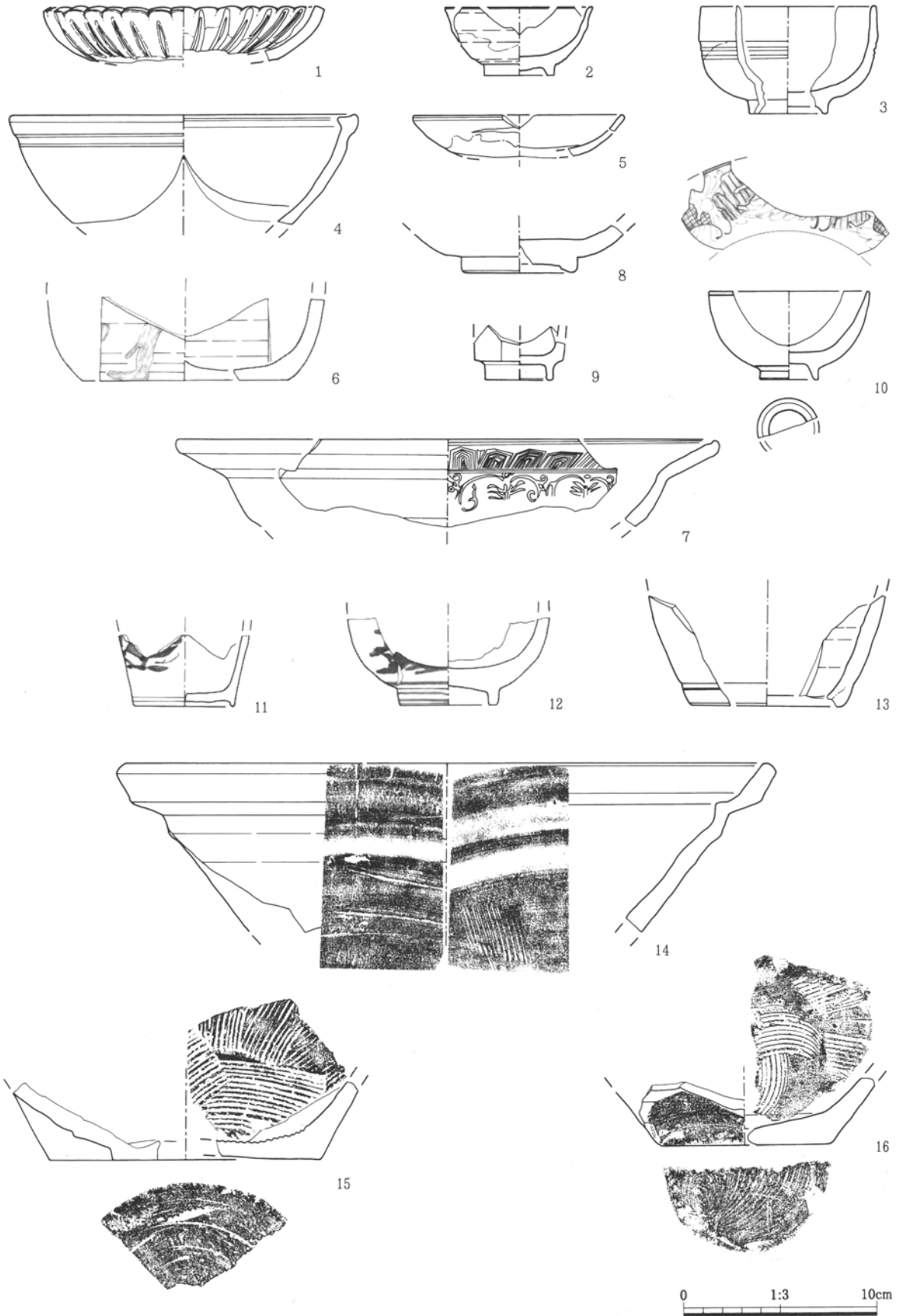
8は青磁碗の底部片。底径6.0cm。高台内部は無釉。中国龍泉窯系。13~14世紀。9は磁器小型猪口の体~底部片。底径3.6cm。白色粘土に透明釉を施す。瀬戸・美濃産で、1801年以降。10は磁器碗の口~底部片。口径8.0cm、底径3.1cm、器高4.2cm。コバルト銅版絵付。瀬戸・美濃、近代。11は磁器猪口の体~底部片。底径5.2cm。呉須絵の草花文。肥前産で、18世紀。12は磁器碗の体~底部片。口径10.4cm、底径5.2cm。陶胎染付。波佐見産で、18世紀。13は磁器徳利の体~底部片。底径7.6cm。生地の悪い磁器。内面無釉。19世紀。14~17は陶器搦鉢。錆釉施釉。瀬戸・美濃産で、14・15は18世紀中以降、16は18世紀、17は19世紀前。18は軟質陶器の鉢か。口縁~体部片。外面口縁下に刻印がある。

19は焙烙。在地産で、近世後期か。20は砥石。砥沢石。3面使用されているが、残る一面は破損。長さ4.3cm、巾3.1cm、厚み2.7cm。21は宝篋印塔の笠部。縦横29.3×29.6cm、器高16.1cm、重さ10,500g。

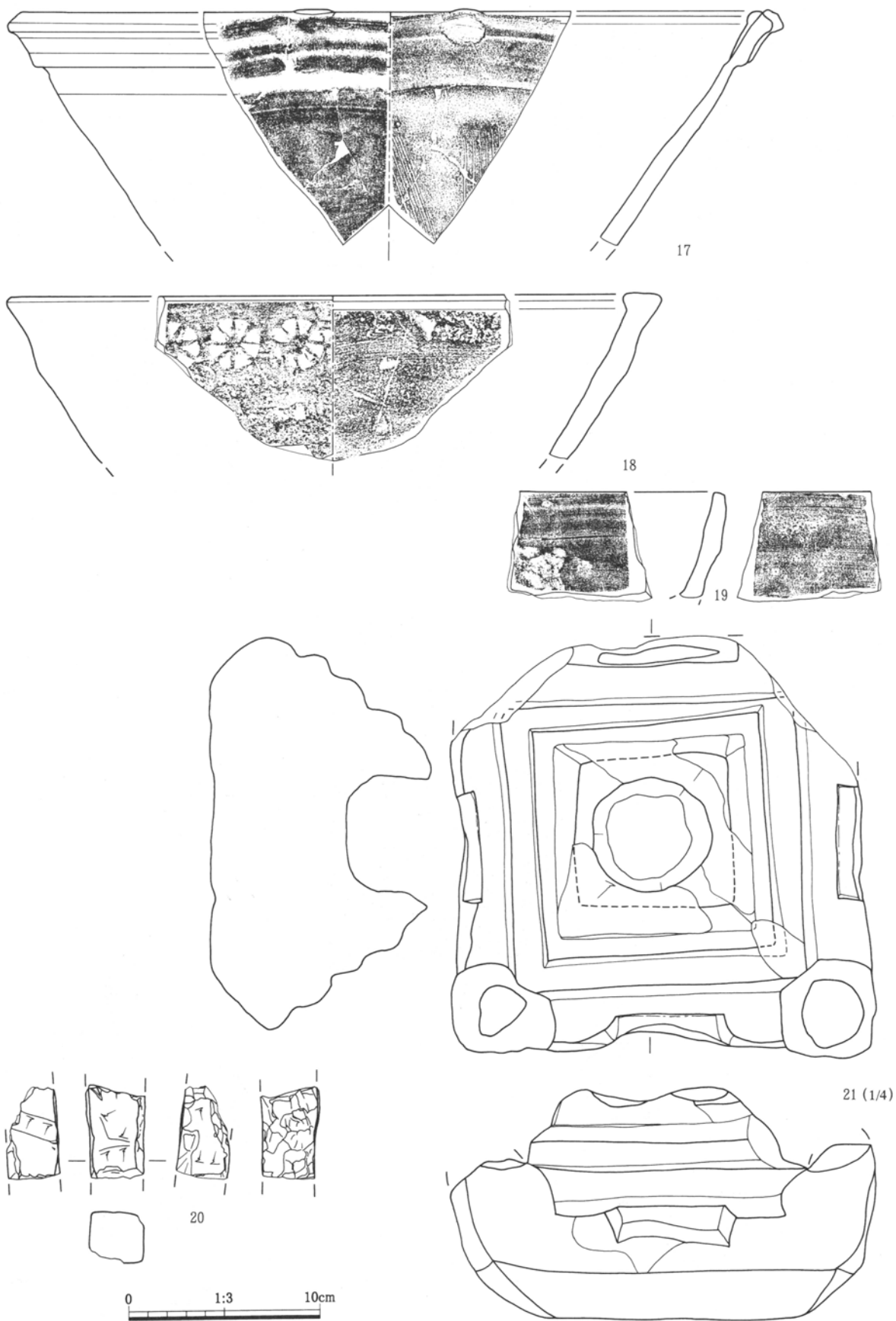
22は煙管の雁首。銅製品。長さ4.0cm、厚さ0.8cm。肩に段をもつ。17世紀。23・24は煙管の吸口。23は長さ3.8cm、幅0.7cmで、肩に段をもつ。17世紀。24は長さ4.8cm、幅0.9cm。22の雁首と23の吸口は、同一個体であった可能性もある。25・26は鉄製品。25は全長4.5cm、厚さ0.5cm。26は長さ10.2cm、巾2.7cm、厚さ0.3cm。ともに用途不明。

27~29は古銭。27は「開元通寶」で、径2.3cm。28は「□永□□」か。摩耗著しく遺存状態不良。29は径2.3cm。摩耗著しく、判読不明。

1. As-A下面 (近世~近代)

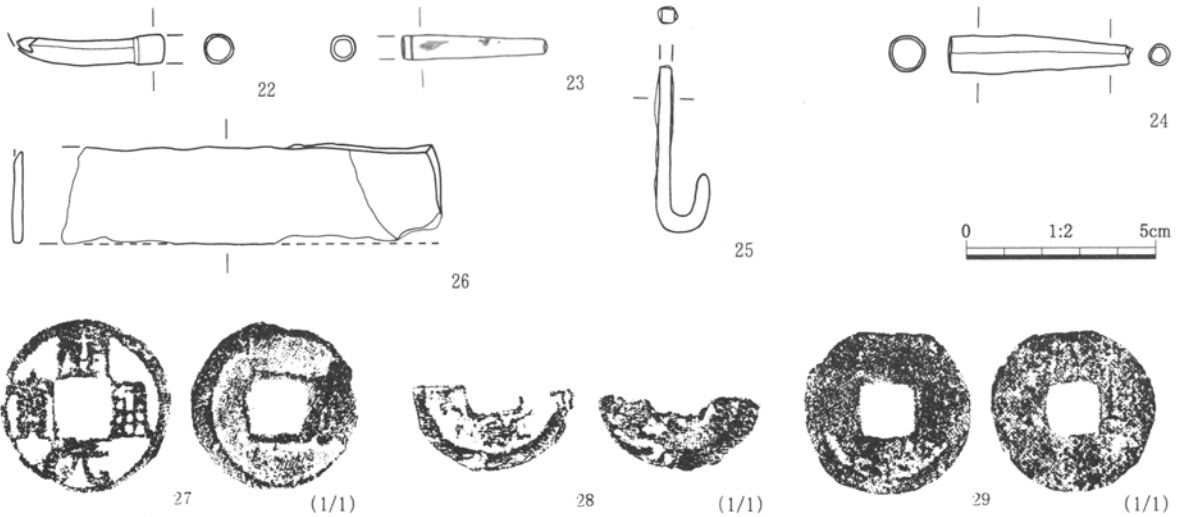


第90図 147号溝出土遺物(1)



第91図 147号溝出土遺物(2)

1. As-A下面 (近世~近代)

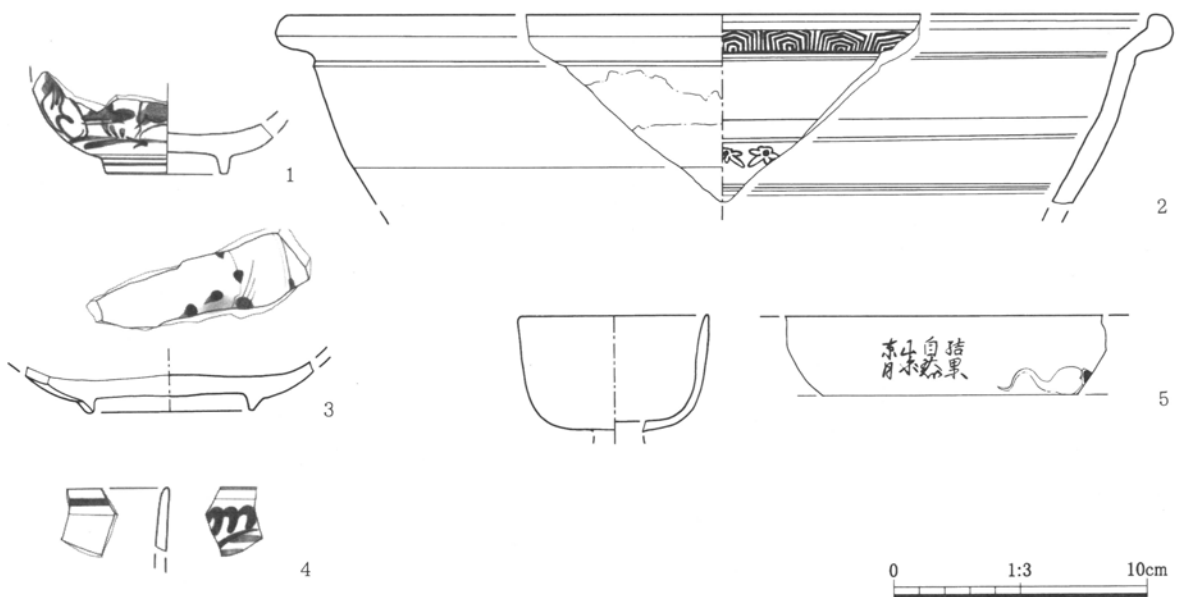


第92図 147号溝出土遺物(3)

149号溝 (第93・94・99・100図、PL-2・5)

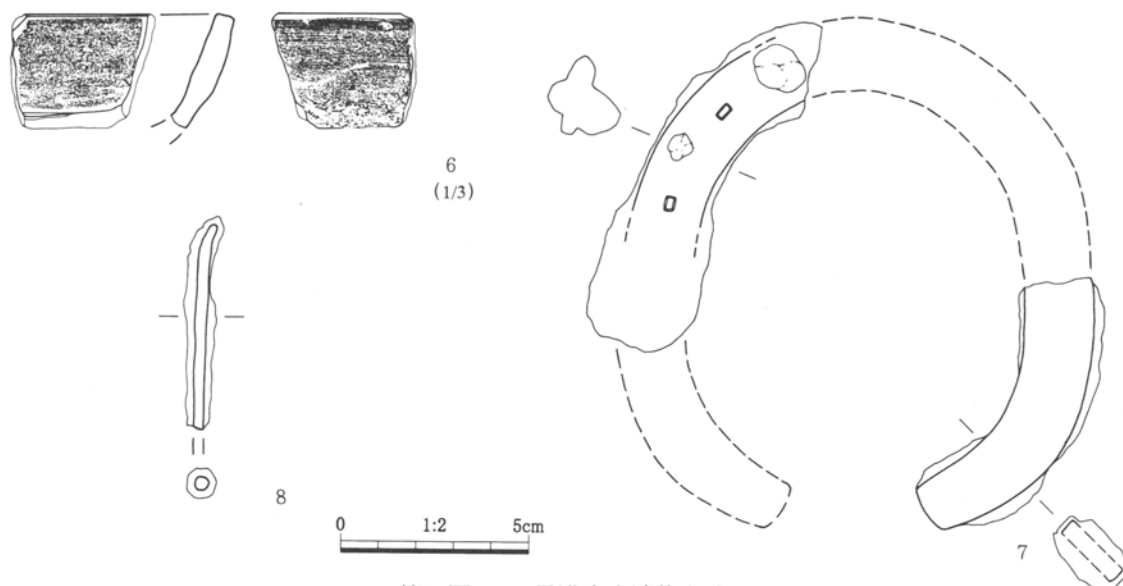
位置 525-680~695グリッド

走向 西→東 規模 幅0.92~1.90m、深さ0.29~0.39m、調査長11.30m 形状 階段状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の北西部に位置する、東西方向の溝である。北から流下してくる147溝と、同時期に使われていた溝と考えられる。 遺物 1は陶器碗の体~底部片。底径4.8cm。丁寧な陶胎染付。17末~18世紀前か。2は陶器大鉢の口縁片。口径35.6cm。白土の象嵌、いわゆる三島手。産地は唐津で、18世紀。3は磁器皿の底部片。呉須絵を施す。肥前産。4は磁器碗の口縁片。呉須絵を施す。産地は瀬戸・美濃で、19世紀前~中。5は磁器湯呑の口~底部片。口径7.6cm。表面縦書で「結果 自然 朱 京目」と上絵付してある。また不明の赤い金絵付あり、近世。6は焙烙(軟質陶器)の口縁~体部片。在地産、江戸時代。7は蹄鉄。巾1.8cm、厚さ0.6cm。8は鉄製品。長さ5.6cm、厚さ0.8cm。用途不明。



第93図 149号溝出土遺物(1)

第2章 遺構と遺物



第94図 149号溝出土遺物(2)

150号溝 (第95・99・100図、PL-5)

位置 525・530—680グリッド 走向 西→東 規模 幅0.74~0.88m、深さ0.28~0.32m、調査長7.50m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の中央部に位置する、東西の溝である。

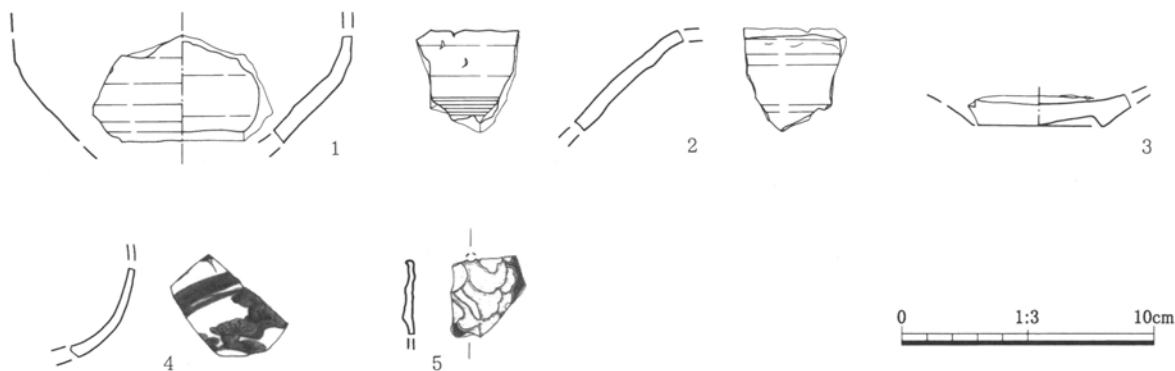
遺物 1は天目茶碗の体部片。内外面に鉄釉を施す。産地は瀬戸・美濃で、17世紀。

2は陶器の朝顔型鉢。黄瀬戸か。瀬戸・美濃産で、17世紀。

3は陶器小鉢の底部片。底径5.0cm。内面鉄釉を施す。呉器手。産地は瀬戸・美濃で、18世紀。

4は磁器碗の体部片。呉須絵で松を描く。肥前産で、18世紀前~中。

5は磁器水滴の破片。産地は肥前で、19世紀か。



第95図 150号溝出土遺物

151号溝 (第101・102図、PL-6)

位置 530—635~645、525・530—650、525—655、525・530—660グリッド 走向 西→東 規模 幅0.46~0.90m、深さ0.12~0.18m、調査長24.33m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区中央部やや北に位置する。小規模の溝であるが、147溝からひいた用水を、各区画に均等にふりわける用途の小溝であろう。遺構としては153溝と別の遺構として扱ったが、関連する溝であろう。

遺物 なし

152号溝（第99図、PL-2・3）

位置 505・510—665・670、515・520—670～680、525—680、525～545—680グリッド

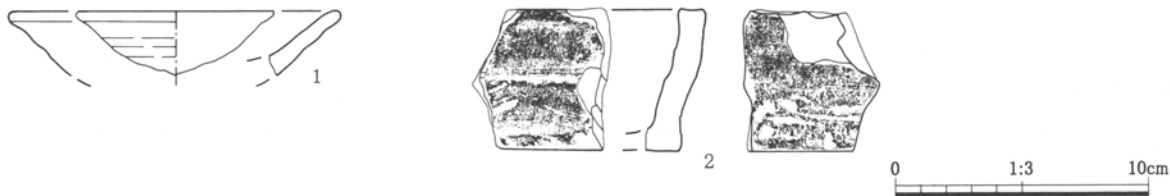
走向 北→東南 規模 幅0.58～0.97m、深さ0.20～0.25m、調査長26.32m 形状 丸底状の断面を呈するが、147・150溝に切られており、全体的な断面は不明確。 調査所見 147溝と平行に存在する。150溝に切られており、150溝よりは古い溝である。また埋土下層にはAs-A軽石を含まない。以上のような状況から判断すると、147溝が近世に掘削される前に、同じ場所を流れていた小規模の溝と考えられる。つまり、中世にまず152溝が掘削され、この地域の水田を潤した。その152溝が、近世になって更なる大規模化をめざし再掘削されたものが、147溝ということになろう。近世初頭に、遺跡周辺では天狗岩用水が開削された歴史的事実があり、またその開削に活躍した江原氏の屋敷跡が当遺跡西側に隣接して今も存在している。このことから152溝は江原氏以前の溝、147溝は江原氏によって開発された溝との想像も不可能ではないが、状況証拠に乏しい。 遺物 なし

153号溝（第96・99・100図、PL-5・6）

位置 525—600～675、505～525—660、530—660グリッド 走向 大きくは北から南に流れるが、区画に左右され147溝と150溝合流地点から西から東へ流下し、その後再び南に向かって流下している。 規模 幅0.37～2.01m、深さ0.13～0.30m、調査長45.50m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区中央部やや北に位置する。小規模の溝であるが、147溝からひいた用水を、各区画にふりわける用途の小溝として考えたいが、147溝と平行して流れている部分もあり、その性格が鮮明につかめない。遺構としては151溝と別の遺構として扱ったが、ほぼ同時期の溝と考えられる。

遺物 1は陶器皿の口縁片。口径13.2cm。灰釉を施す。産地は瀬戸・美濃。

2は焙烙（軟質陶器）。江戸時代でも古い時期か。



第96図 153号溝出土遺物

154号溝（第101・102図、PL-7）

位置 530～545—645グリッド 走向 北→南 規模 幅0.48～0.57m、深さ0.15～0.17m、調査長16.36m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区北東隅に位置する。小規模の溝であり、用水を各区画にふりわける用途の小溝であろう。 遺物 なし

156号溝（第103図、PL-7）

位置 470・475—615グリッド 走向 北→南 規模 幅0.20～0.45m、深さ0.02～0.06m、調査長6.44m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 A-1区東南隅に位置する。小規模の溝であり、区画内の水を均等に配分するため、補助的に造成された溝であろう。

遺物 なし

第2章 遺構と遺物

157号溝 (第103図、PL-7)

位置 470—610・615グリッド 走向 北東→南西 規模 幅0.46～0.90m、深さ0.12～0.18m、調査長24.33m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区東南隅に位置する。小規模の溝であり、区画内の水を均等に配分するために、補助的・臨時的に造成された溝であろう。

遺物 なし

158号溝 (第97・103・104図、PL-7)

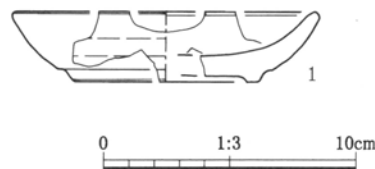
位置 470—610・615、465—610・615グリッド

走向 北東→南西

規模 幅0.29～0.52m、深さ0.04～0.06m、調査長4.60m

形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 A-1区南東隅に位置する。小規模の溝であり、区画内の水を均等に配分するための水みち的な意味を持つ、補助的・臨時的に造成された溝であろう。 遺物 1は陶器皿の口～底部片。口径12.0cm、底径7.2cm、器高2.7cm。長石釉を施す。産地は瀬戸・美濃で、17世紀。



第97図 158号溝出土遺物

159号溝 (第103・104図、PL-7)

位置 460・465—605グリッド 走向 北→南 規模 幅0.47～0.75m、深さ0.04～0.10m、調査長9.17m

形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 A-1区東南隅に位置する。遺存状況は不良であるが、規模等から臨時・補助的な溝ではなく、恒常的に設置されている小規模の用水路と考えられる。

遺物 なし

160号溝 (第98・101・102図、PL-8)

位置 530～545—665グリッド

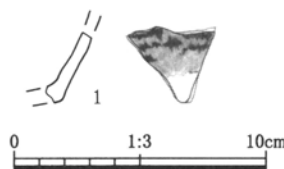
走向 北→南

規模 幅0.17～0.51m、深さ0.03～0.07m、調査長17.92m

形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 A-1区中央北に位置する。小規模の溝であるが、遺存状況は不良である。区画内に水を均等に配分するための小溝であろう。その規模から、常設の水路とは考えにくく、補助的・臨時的にもうけられた溝と思われる。

遺物 1は陶器。器種不明。外面飴釉を施し、内面は無釉。産地は瀬戸・美濃で、江戸時代と思われる。

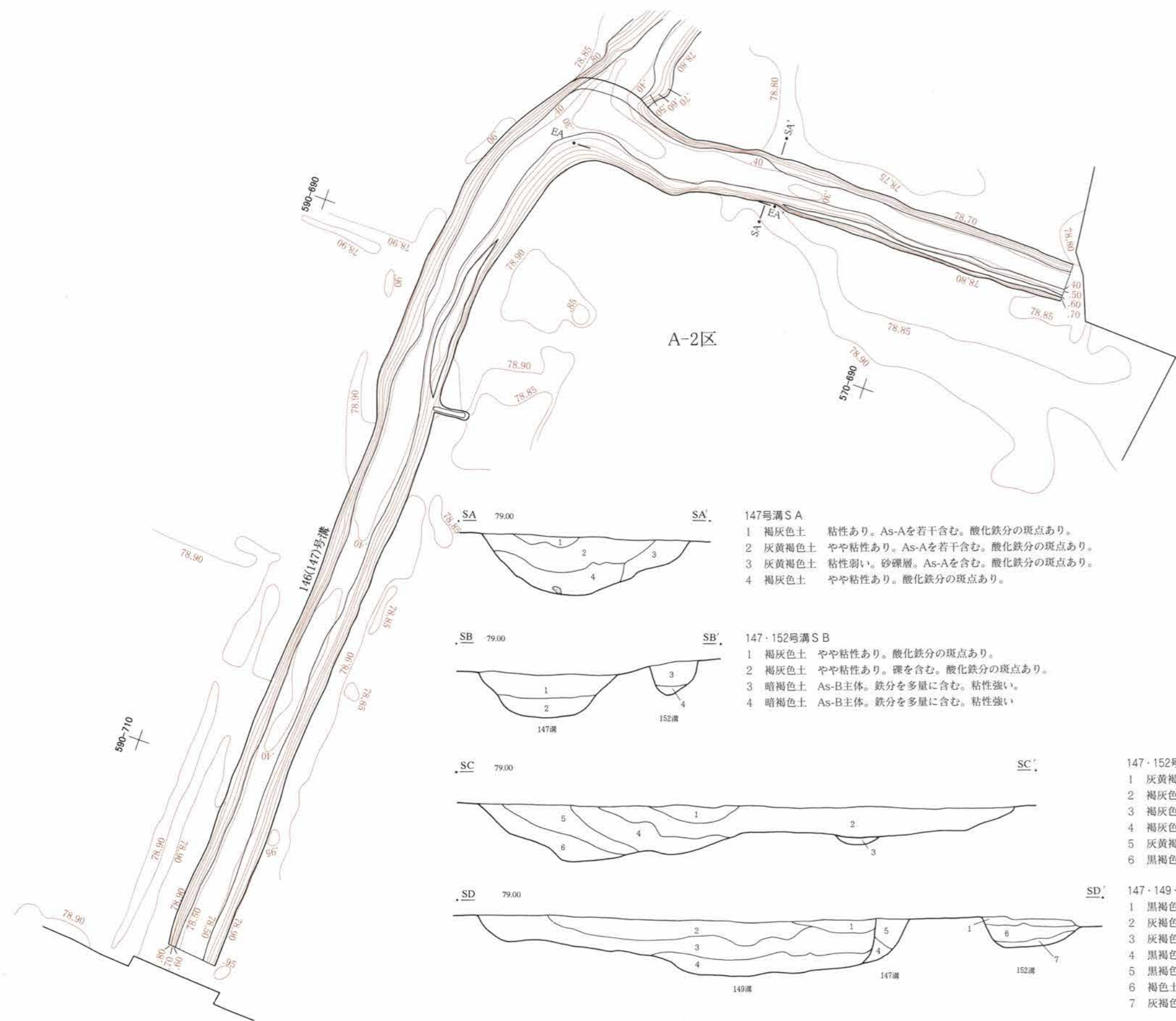


第98図 160号溝出土遺物

476号溝 (第101・102図)

位置 530・535—645グリッド 走向 北→南 規模 幅0.24～0.58m、深さ0.02～0.05m、調査長4.44m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区中央北に位置する。その性格は不明である。

遺物 なし



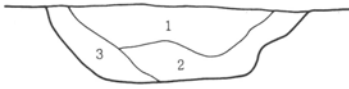
道路



第99図 147・149・150・152・153号溝実測図(1)

1. As-A下面 (近世～近代)

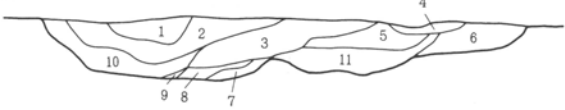
SF 78.90 SF'



147号溝SF

- 1 灰褐色土 As-Aを若干含む。鉄分の斑点を多量に含む。粘性強い。
- 2 灰褐色土 As-Aを若干含む。鉄分の斑点を多量に含む。粘性強い。
- 3 黒褐色土 As-Bを部分的に含む。粘性弱い。

SG 78.90 SG'



149号溝SG

- 1 褐灰色土 As-Aを若干含む。粘性やや弱い。
- 2 褐灰色土 As-Aを若干含む。1層より粘性弱い。
- 3 灰黄褐色土 As-Aを斑点状に含む。
- 4 黒褐色土 As-Aを多量に含む。
- 5 褐灰色土 酸化鉄分の斑点あり。
- 6 にぶい黄褐色土 粘性やや弱い。酸化鉄分の斑点あり。
- 7 黒褐色土 砂質土。
- 8 褐灰色土 砂質土。As-Aを多量に含む。
- 9 にぶい黄褐色土 粘質土。FAブロックを含む。
- 10 黒褐色土 粘質土。
- 11 褐灰色土 5層に近似。酸化鉄分が少ない。

SH 78.90 SH'



150・153号溝SH

- 1 灰黄褐色土 やや粘性あり。As-Aを含む。酸化鉄分の斑点あり。
- 2 褐灰色土 酸化鉄分の斑点あり。As-Aを少量含む。
- 3 黒褐色土 やや粘性あり。As-Aを含まない。

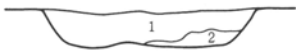
SI 78.80 SI'



153号溝SI

- 1 褐灰色土 酸化鉄分の斑点あり。As-Aを少量含む。

SJ 78.90 SJ'



153号溝SJ

- 1 褐灰色土 As-Aを多量に含む。粘性弱い。
- 2 赤褐色土 鉄分を多量に含む。粘性弱い。

SK 78.90 SK'



153号溝SK

- 1 褐灰色土 As-Aを多量に含む。粘性弱い。
- 2 赤褐色土 鉄分を多量に含む。粘性弱い。

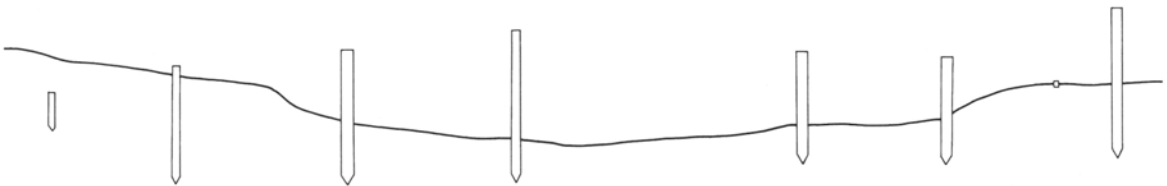
SL 78.90 SL'



153号溝SL

- 1 暗褐色土 鉄分を多量に含む。粘性弱い。As-Aを少量含む。
- 2 赤褐色土 鉄分を多量に含む。粘性弱い。

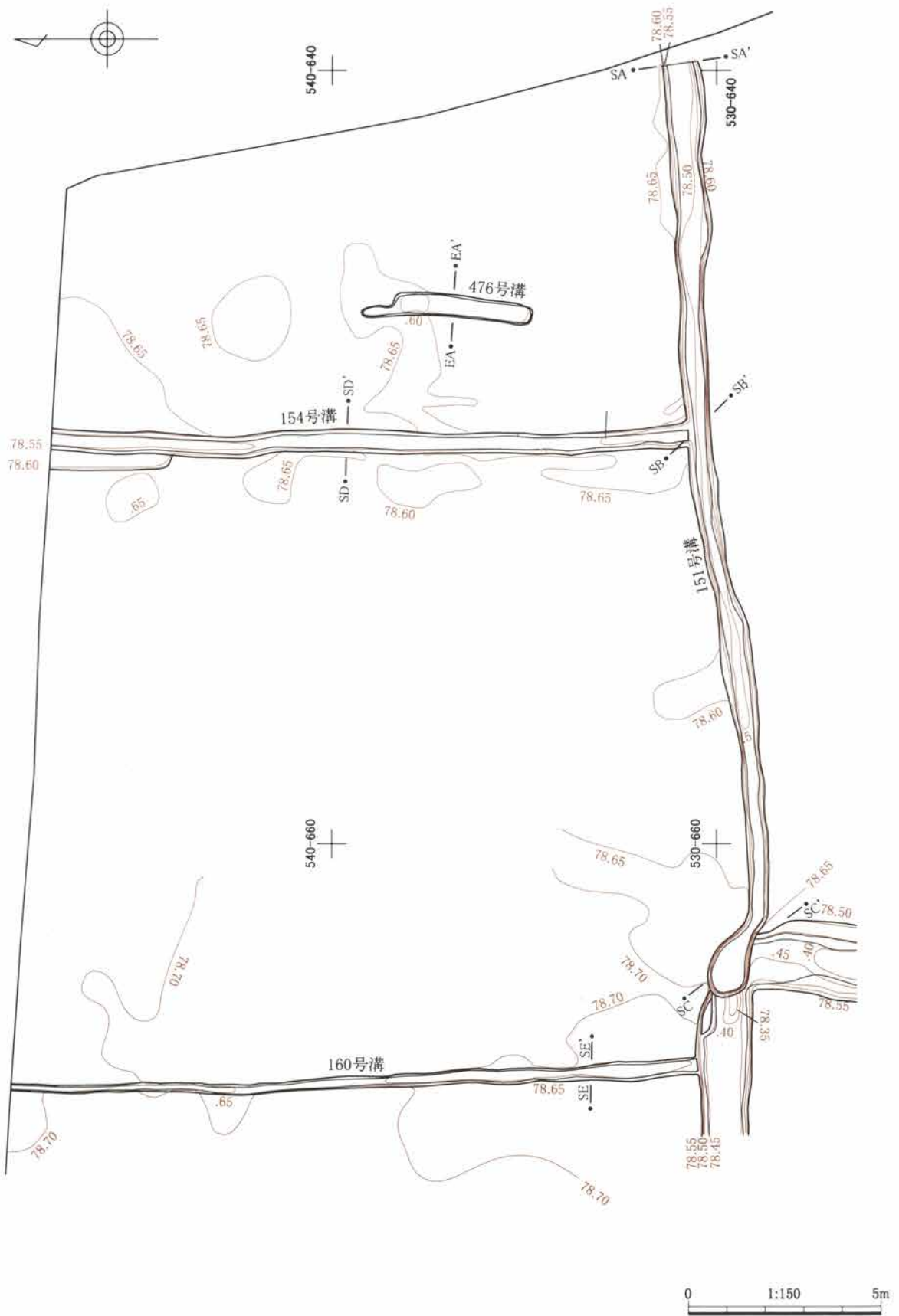
EA 79.20



147号溝杭列出土状況

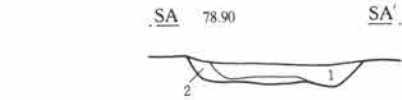
第100図 147・149・150・153号溝実測図(2)

0 1:40 1m



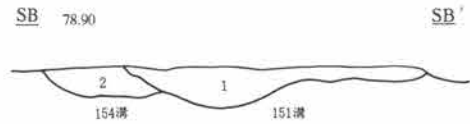
第101図 151・154・160・476号溝実測図(1)

1. As-A下面 (近世～近代)



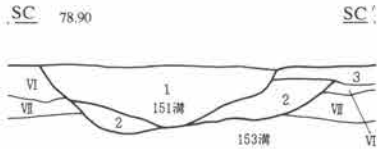
151号溝SA

- 1 褐灰色土 As-Aを多量に含む。粘性弱い。
- 2 赤褐色土 鉄分を多量に含む。粘性弱い。



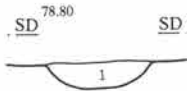
151・154号溝SB

- 1 褐灰色土 As-Aを多量に含む。粘性弱い。
- 2 暗褐色土 粘性強い暗褐色土を含む。



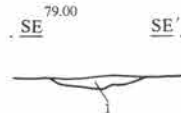
151・153号溝SC

- 1 褐灰色土 As-Aを多量に含む。粘性弱い。
- 2 赤褐色土 鉄分を多量に含む。粘性弱い。
- 3 黒褐色土 鉄分を多量に含む。粘性弱い。As-Aを少量含む。



154号溝SD

- 1 暗褐色土 粘性の強い暗褐色土を含む。

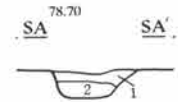
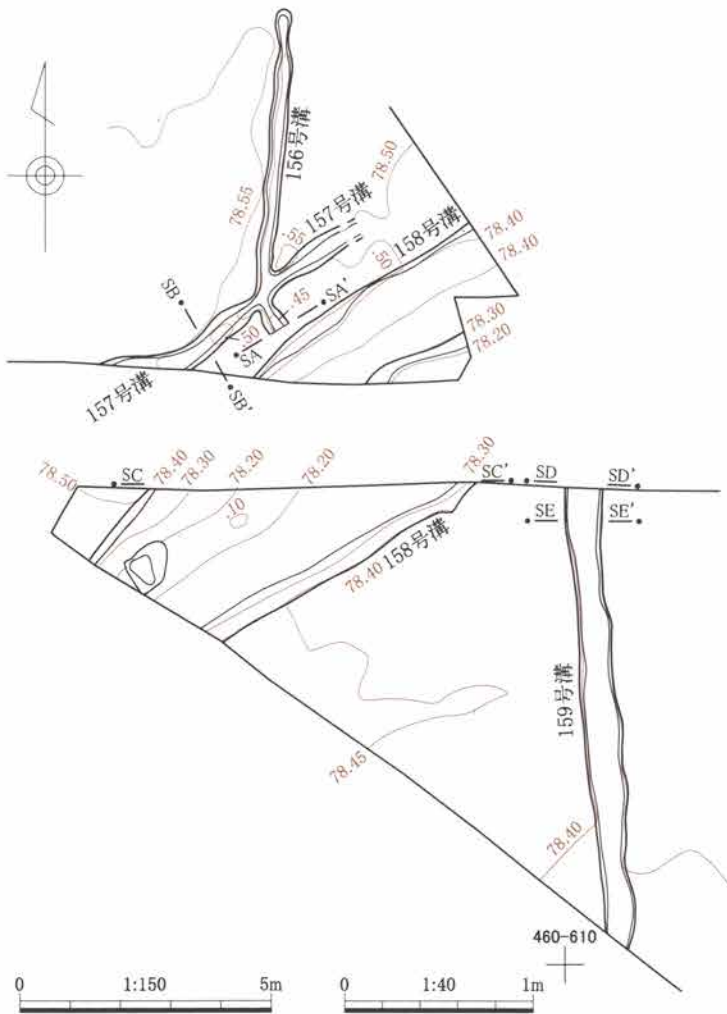


160号溝SE

- 1 褐灰色土 やや粘性あり。As-Aを含む。

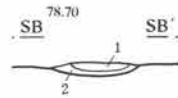


第102図 151・154・160・476号溝実測図(2)



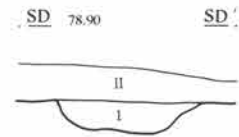
156号溝SA

- 1 黒褐色土 表土からの溝。粘性弱い。
- 2 赤褐色土 鉄分を多量に含む。粘性弱い。



157号溝SB

- 1 黒褐色土 表土からの溝。粘性弱い。
- 2 赤褐色土 鉄分を多量に含む。粘性弱い。



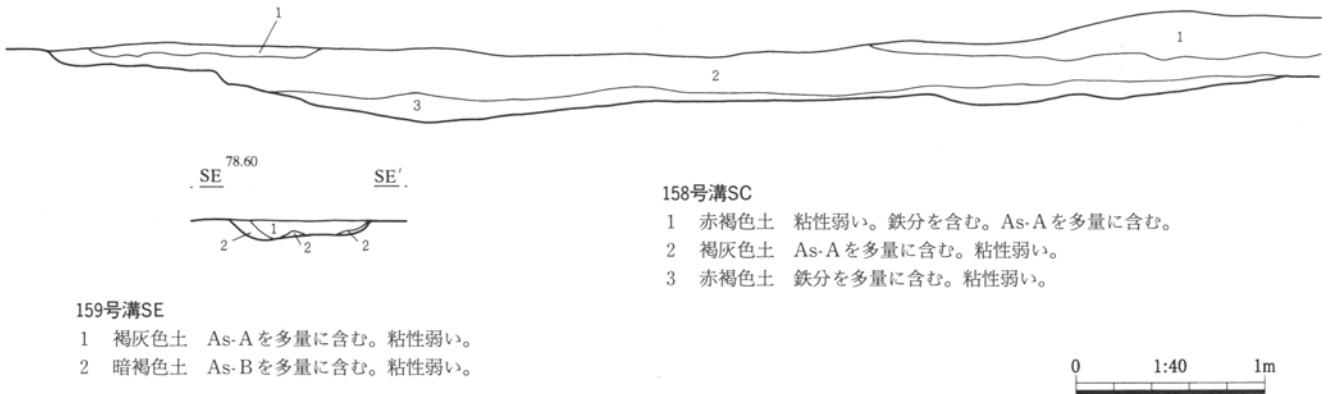
159号溝SD

- 1 褐灰色土 As-Aを多量に含む。粘性弱い。

第103図 156・157・158・159号溝実測図(1)

SC 78.90

SC'



158号溝SC

- 1 赤褐色土 粘性弱い。鉄分を含む。As-Aを多量に含む。
- 2 褐灰色土 As-Aを多量に含む。粘性弱い。
- 3 赤褐色土 鉄分を多量に含む。粘性弱い。

159号溝SE

- 1 褐灰色土 As-Aを多量に含む。粘性弱い。
- 2 暗褐色土 As-Bを多量に含む。粘性弱い。

第104図 158・159号溝実測図(2)

A-2区の溝

146号溝 (第105～107図、PL-9・10)

位置 575—650～670、575・580—675・680、580・585—685～715グリッド 走向 西→東

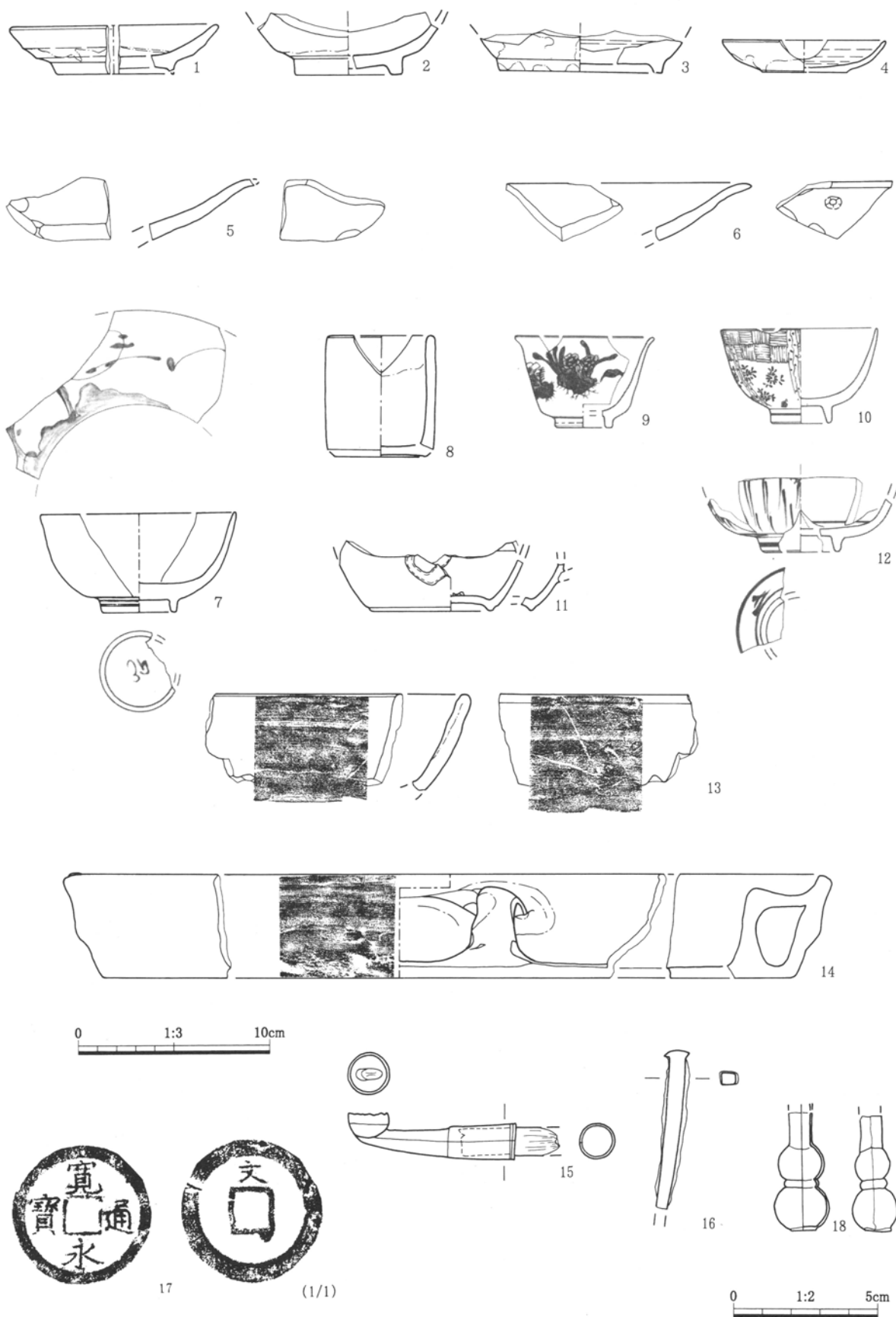
規模 幅1.40～2.46m、深さ0.35～0.63m、調査長67.50m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 A-2区中央部やや南の、東西方向の溝である。規模が大きく周辺の耕地を潤した、主要な用水路であろう。中央付近で147溝と分岐している。江戸時代から近代まで使用されていた溝であり、断面観察では、147溝のほうが埋没が新しい。ほぼ同時期に使用していた溝であると考えられる。

また、遺物5・6は肥前波佐見産の青磁皿である。この時期の波佐見は、主に輸出用の需要が多い。その青磁が当遺跡で出土したことは、大きな意味があろう。つまり、波佐見産の青磁を買う(使える)人物が、上滝地区にいたことになるからである。上滝地区では、まず豪農であった江原氏が想定されることになる。いずれにしても、江戸時代の群馬県高崎にも、質は落ちるかもしれないが、波佐見産の輸出用と考えられる時期の遺物が、いくらかは流入していたことは事実となった。

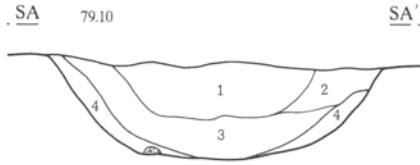
遺物 1は陶器小皿の口～底部破片。口径10.8cm、底径6.0cm、器高2.5cm。灰釉施釉。瀬戸・美濃産、17世紀。2は天目茶碗の体～底部破片。底径5.6cm。飴釉を施釉。産地は瀬戸・美濃で、17世紀末～18世紀。3は陶器徳利の底部片。底径8.4cm。オリーブ釉施釉、釉の残存不良。瀬戸・美濃産で、18世紀。4は灯明皿の体～底部片。口径8.4cm、底径4.3cm、器高1.65cm。錆釉。志戸呂産、19世紀。5・6は青磁皿の口縁～体部破片。波佐見産の17世紀後半。7は磁器碗の口～底部破片。口径10.2cm、底径4.0cm、器高5.1cm。雪輪梅樹文を施す。裏銘は崩大明年製。波佐見産、18世紀。8は青磁火入れ(又は灰おとし)。口径5.6cm、底径4.6cm、器高6.25cm。口縁を除き内面無釉。近世か。9は磁器碗の口～底部片。口径7.3cm、底径3.0cm。器高4.7cm。コバルト銅板絵付。瀬戸・美濃産、近代。10は磁器碗。口径8.2cm、底径3.2cm、器高4.9cm。外面スタンプ花文を施す。瀬戸・美濃産で、大正時代。11は磁器急須の体～底部破片。底径6.4cm。近代。12は磁器碗の体～底部破片。底径4.2cm。コバルト施文。産地は瀬戸・美濃で、近代。13・14は焙烙(軟質陶器)。在地産で、江戸時代。15は煙管(銅製品)の雁首。全長7.4cm(雁首5.8cm)。羅字が3cmほど残存。16は鉄釘。全長5.5cm、巾0.5cm。断面方形を呈す。17は「寛永通寶」で新寛永、径2.4cm。18は硝子製品。型作りで、二つのものを合わせて作成。用途不明、近代。

1. As-A下面 (近世~近代)



第105図 146号溝出土遺物

第2章 遺構と遺物



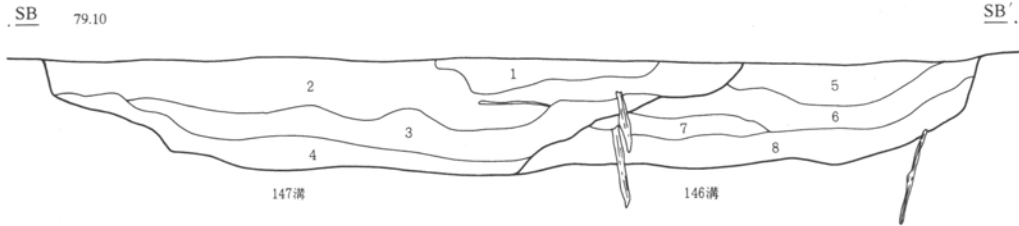
146号溝SA

- 1 灰黄褐色土 やや粘性あり。酸化鉄分の斑点あり。
- 2 灰黄褐色土 やや粘性あり。As-Aを斑点状に含む。
- 3 褐灰色土 やや粘性あり。As-Aを若干含む。
- 4 灰黄褐色土 粘性やや弱い。砂質土をブロック状に含む。



146号溝SC

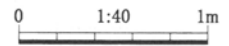
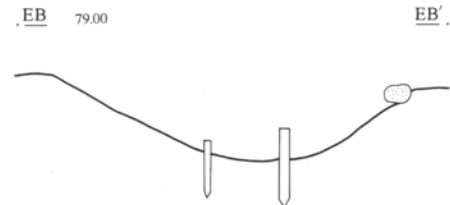
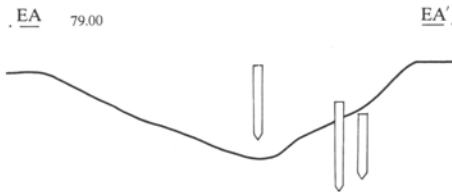
- 1 灰黄褐色土 やや粘性あり。酸化鉄分の斑点あり。
- 2 黒褐色土 As-A混土。粘性弱い。



146・147号溝SB

- 1 灰黄褐色土 やや粘性あり。酸化鉄分の斑点あり。
 - 2 褐灰色土 やや粘性あり。酸化鉄分の斑点あり。
 - 3 黄灰色土 やや粘性あり。酸化鉄分の斑点あり。
 - 4 褐灰色土 やや粘性のある土層主体。砂礫をブロック状に含む。
 - 5 灰黄褐色土 1層に近似。
 - 6 褐灰色土 2層に近似。
 - 7 灰黄褐色土 やや粘性のある土層主体。As-Aを少量含む。
 - 8 褐灰色土 やや粘性のある土層主体。As-Aを多量に含む。
- (5・6層は1・2層と同じだが溝が違う。)

146号溝杭列出土状況



第106図 146・147・477号溝実測図(1)

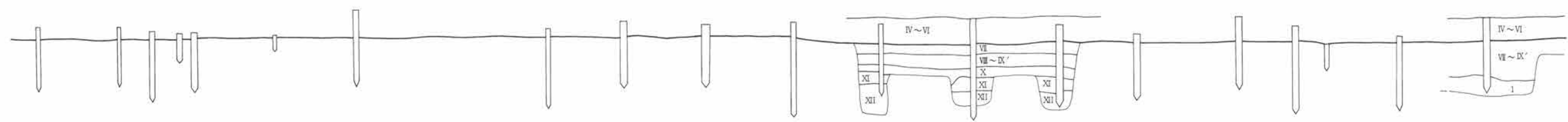
477号溝 (第106・107図)

位置 580～605—655グリッド 走向 北→南 規模 幅0.14～0.76m、深さ0.06～0.15m、調査長25.44m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区東部に、南北に走る。小規模の溝であり、区画内における小規模な排水溝としての性格が考えられる。146溝に注いでいる。

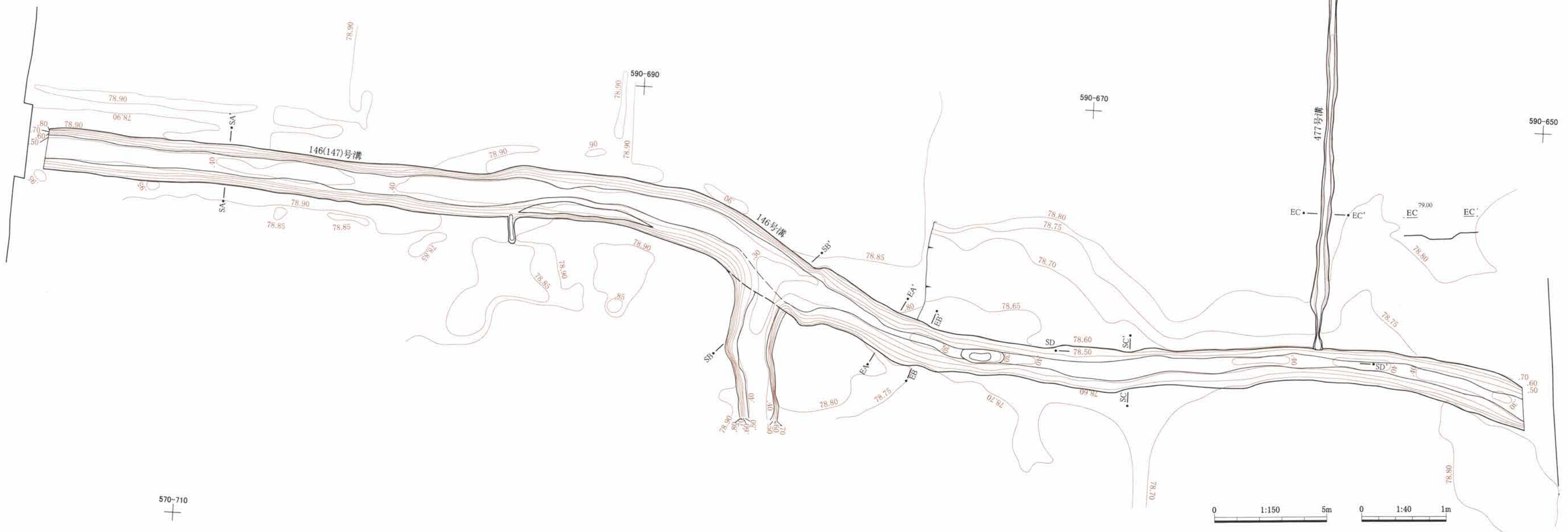
遺物 なし

SD 79.00

SD'



146号溝 S D
 1 褐灰色土 粘性あり。凝固鉄分あり。FA水田耕作土。



第107図 146・147・477号溝実測図(2)

A-3区の溝

69号溝 (第108～116図、PL-13～17)

位置 645・650—640～650、650—655～660、650・655—665・670、665—675～685、655・660—670～705、660—710～775、655・660—780～790、655—795、650・665—800・805、645・650—810、650—815～830グリッド
 走向 西→東 規模 幅1.60～2.78m、深さ0.89～0.56m、調査長97.00m 形状 段掘り状を呈す。
 調査所見 A-3区中央部～B区中央部やや南にある、東西方向の溝である。大規模の溝であり、遺物から16世紀ころの遺構と考えられ、近世以降における屋敷の周堀として位置づけられる。69溝内には、杭列がA-3区・B区ともに多量に検出されている。溝の底部に設置された杭と、流れと平行に斜面中位に列状に設置された杭列がある。溝底部に設置された杭は、密集して設置されており、堰に利用された杭であることが考えられる。また、溝の斜面中位に、溝に沿って等間隔で設置された杭列は、溝の補強材・埋没防止等の理由で設置されたことが想定される。

遺物 1は天目茶碗の底部破片。底径4.6cmで、産地は瀬戸・美濃、17世紀。

2は天目茶碗の口縁部破片。口径10.4cm。飴釉を施す。産地は瀬戸・美濃で、18世紀初。

3は陶器碗。口径11.0cm、底径5.0cm。掛分け施釉。口縁部は藁釉を施釉しているが、融解度が低い。産地は瀬戸・美濃で、18世紀中。

4は陶器碗。口縁部に灰釉、外面下半部に鉄釉の掛分け。下半部に塗り残しが、刷毛目状に残る。産地は瀬戸・美濃で、18世紀末～19世紀。

5は陶器碗の体～底部破片。底径4.4cm。表面掛分け、内面灰釉の腰鏝碗。瀬戸・美濃産で、19世紀。

6は陶器碗の底部破片。底径4.6cm。呉器手碗。産地は肥前で、18世紀前～中。

7は陶器碗の底部破片。呉器手碗。産地は肥前で、18世紀前～中。

8は陶器碗の底部破片。底径5.0cm。呉器手碗。肥前産で、18世紀前～中。

9は陶器碗の底部破片。底径5.6cm。肥前産で、18世紀前～中。

10は陶器碗の体部破片。外面下半は白化粧土の塗り残し部分が刷毛目状に残る。肥前産で、18世紀中。

11は陶器碗3/4。底径は4.3cmで、内外面刷毛目。産地は肥前で、18世紀中。

12は陶器碗の体～底部破片。陶胎染付。産地は波佐見で、18世紀。

13は陶器碗の体～底部破片。底径5.2cm。陶胎染付。波佐見産で、18世紀。

14は陶器碗の口縁部破片。口径10.4cm。陶胎染付。産地は波佐見で、18世紀。

15は陶器皿の口～底部破片。口径11.0cm、底径4.8cm。付高台で、灰釉を施す。瀬戸・美濃産で、17世紀。

16は陶器小皿の口縁部破片。口径10.0cm。灰釉を施す。産地は美濃で、16世紀。

17・18は灯明受皿。鏝釉を施す。外面は、釉をぬぐい取る。瀬戸・美濃産で、19世紀。

19は陶器皿の底部破片。鏝釉を施釉し、呉器手風の付高台わき以下は、釉をぬぐい取る。産地は瀬戸・美濃で、17世紀か。

20は陶器小型片口。底径6.0cm。見込みに目痕が3ヶ所残る。産地は瀬戸・美濃で、18世紀。

21は陶器香炉の体～底部破片。陰刻半菊文を施し、外面体部は飴釉を施釉。外面下部と内面は無釉。足が欠損している。産地は瀬戸・美濃で、18世紀初～中。

22は陶器火入(香炉)か。体～底部破片。底径6.0cm。陶胎染付。波佐見産と思われる。

23は陶器鉢の体～底部破片。底径8.2cm。灰釉を施釉し、貫入が入る。外面下部無釉。見込みに目痕が残る。

第2章 遺構と遺物

瀬戸・美濃産で、19世紀。

- 24は陶器鉢の体～底部破片。底径10.0cm。象嵌を施し、透明釉。見込みに目痕が残る。唐津産で18世紀。
- 25は陶器行平鍋の口縁部破片。口縁部以外、鉄釉を施す。外面飛び鉋を施す。19世紀。
- 26は土瓶の口縁～体部破片。口径8.6cm。鉄釉上に、灰釉をかける（灰釉流し）。在地の、19世紀。
- 27は土瓶の体部破片。錆釉光沢有り。彫文を施す。体部下半に煤付着。在地の、19世紀。
- 28は陶器土瓶の底部破片。底径7.4cm。外面底部以外錆釉を施す。外面煤付着。
- 29は常滑壺の口縁部破片。口径11.8cm。中世。
- 30は陶器花器の口縁部破片。口径20.0cm。錆釉を施す。18世紀以降。
- 31は陶器大鉢の口縁部破片。口径20.0cm。透明釉又は長石釉を施す。産地は瀬戸・美濃で、17世紀前。
- 32は陶器徳利。口径2.7cm。灰釉系の透明釉を施釉。鉄絵文字。美濃産で、大正時代。
- 33は磁器碗の体～底部片。底径4.0cm。雪輪梅樹文を施し、裏銘は崩大明年製。肥前産で、18世紀後。
- 34は磁器碗の口～底部破片。口径9.4cm、底径3.3cm。肥前産で、18世紀後。
- 35は磁器碗の口縁～体部破片。口径10.4cm。肥前産で、18世紀。
- 36は磁器碗。口径10.0cm、底径4.2cm。雪輪梅樹文を施す。裏銘は崩大明年製。波佐見産、18世紀後。
- 37は磁器碗の体～底部破片。底径3.0cm。見込みに五弁花文。内外面に貫入。18世紀末～19世紀初。
- 38は磁器碗の体～底部破片。底径4.0cm。呉須絵を施す。19世紀。
- 39は磁器飯茶碗の口縁～体部破片。口径11.2cm。型紙摺絵。窓絵に鉢植えしてある蘇鉄文。明治時代。
- 40は磁器碗の体～底部片。底径3.8cm。コバルト施文。産地は瀬戸・美濃で、大正時代。
- 41は磁器飯茶碗。口径11.6cm、底径4.0cm。型紙摺絵。窓絵は交互に鷹の羽と三ツ巴文。明治時代。
- 42は磁器筒型湯呑。口径8.0cm、底径4.0cm。見込みに五弁花文。外面菊花散し。肥前産1780～1810年。
- 43は磁器湯呑。口径8.0cm、底径3.5cm。銅版絵付。明治以降。
- 44は磁器湯呑。口径8.0cm、底径3.0cm。コバルト雷文。産地は瀬戸・美濃で、大正時代。
- 45は磁器湯呑。口径8.0cm、底径3.0cm。ゴム印による、唐草に梅花文。大正時代。
- 46は磁器皿の口～底部破片。口径13.6cm、底径7.6cm。肥前産。
- 47は磁器皿の口～底部破片。口径14.0cm、底径7.0cm。器高5.1cm。雪輪梅花文を施し、見込みは蛇の目釉剥ぎ。波佐見産で、18世紀後。
- 48は磁器深皿の口縁～体部破片。口径16.0cm。外面唐草。産地は瀬戸・美濃、近代。
- 49は磁器皿の体～底部破片。底径7.6cm。型紙摺絵。内面に梅花文の窓絵があり、柿の木に鳥。明治時代。
- 50は磁器の油壺か。底径6.0cm。産地は肥前と思われる。
- 51は磁器爛徳利の底部破片。底径6.6cm。外面に透明釉を施釉。瀬戸・美濃産で、近代。
- 52は磁器水滴。縦6.6cm、横4.5cm、高さ2.1cm。上面に唐草文、中央に梅花文。近代。
- 53は磁器蓋。口径10.4cm。緑釉を施す。近代。
- 54～61は陶器挿鉢の口縁～底部片。54は口径32.0cm。丹波産で、17世紀。55は丹波系。近世。56は口径32.4cm。堺産か。57は口径28.0cm。肥前写し。近代。58は錆釉を施す。瀬戸・美濃の大窯製品で、16世紀。59は底径13.0cm。錆釉を施す。産地は瀬戸・美濃で、19世紀。60は口径35.4cm。鉄釉を施す。産地は瀬戸・美濃で、18世紀中。61は底径14.0cm。堺または明石産か。時期は、18～19世紀。
- 62～68は軟質陶器で、62～66は焙烙、67は鉢、68は火鉢の胴部破片。69は軒丸瓦。70は土管（近世）。
- 71～74は砥石。71は流紋岩で、167g。72～74は砥沢石。72は105g、73は117g、74は103g。75は板碑の

1. As-A下面 (近世~近代)

破片 (緑色片岩)、80g。76はビーズ玉 (ガラス製)、時期不明。

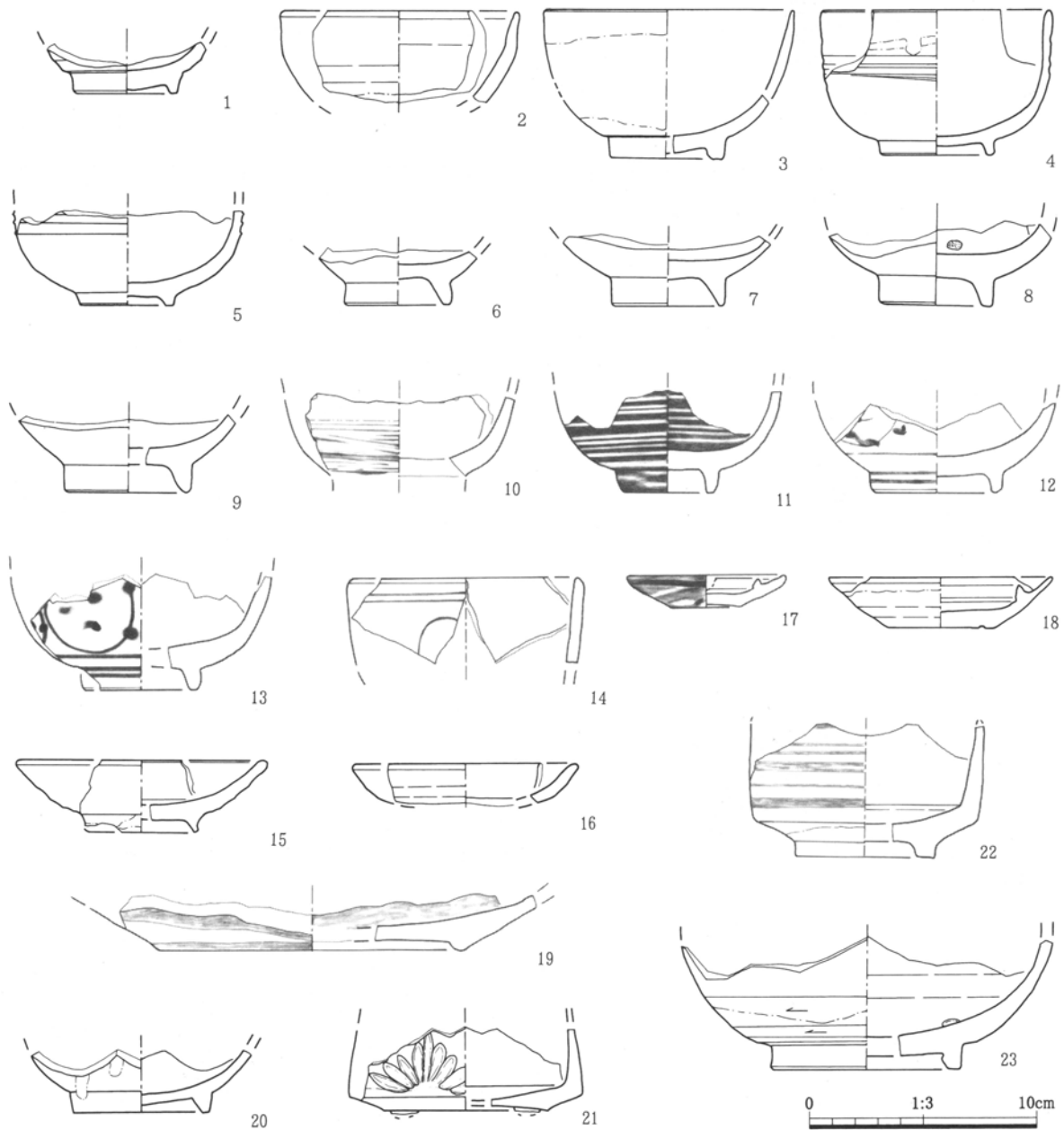
78・79は煙管雁首 (銅)。78は、長さ4.0cm巾0.65cm厚さ0.9cm。79は長さ3.8cm巾1.2cm厚さ0.8cm。

80は鉄製品 (鉄釘か)。長さ7.6cm、用途不明。

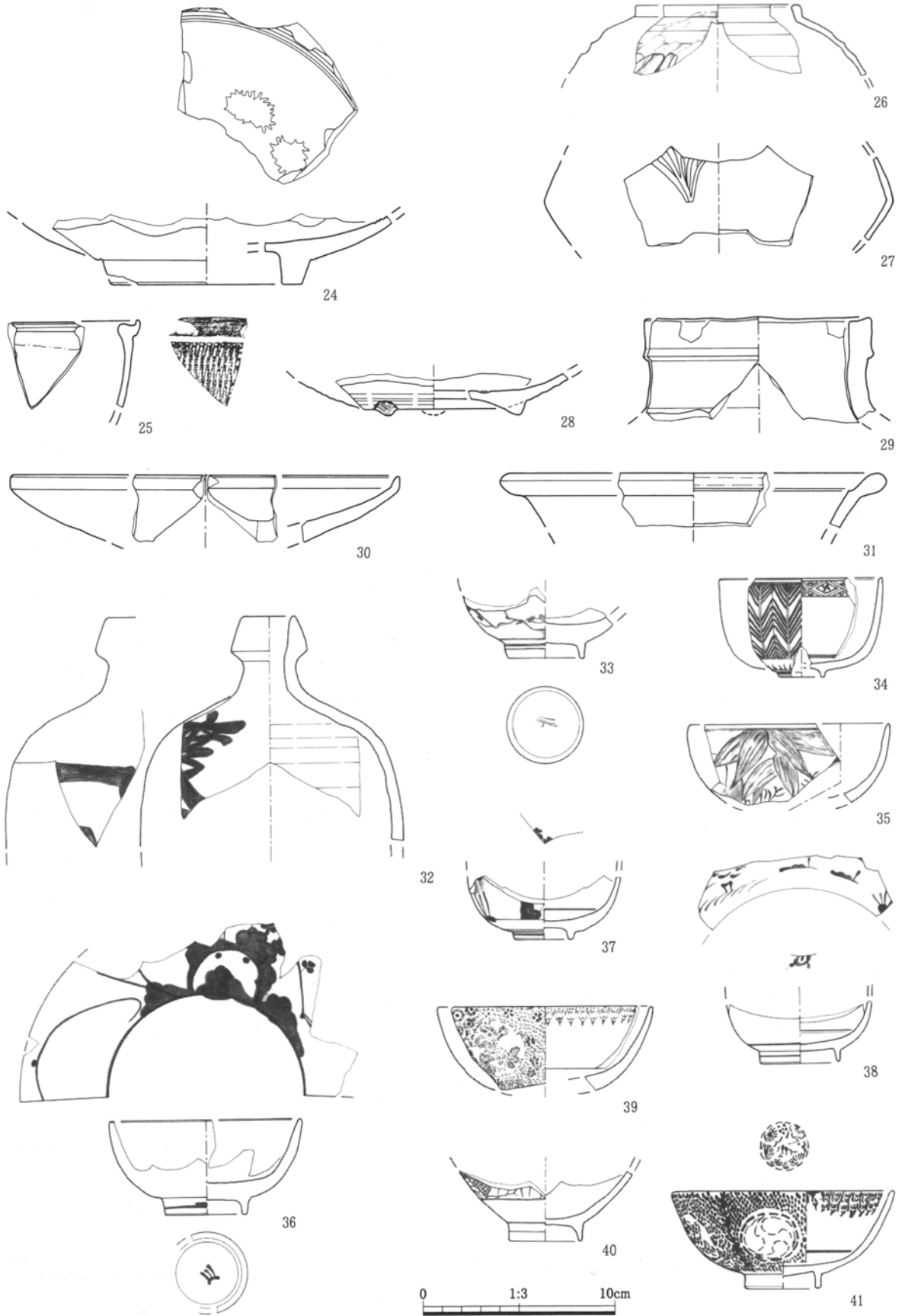
81は「寛永通寶」で、径2.4cm。

82は銅片、用途不明。この他、土師器片・須恵器片・陶器片などが出土している。83は石けり (ガラス製)、近代。77は石臼 (粗粒輝石安山岩) の上臼。径32cm、高さ12cm、重さ3,937g。

また、馬歯が出土している (P-1,016参照)。

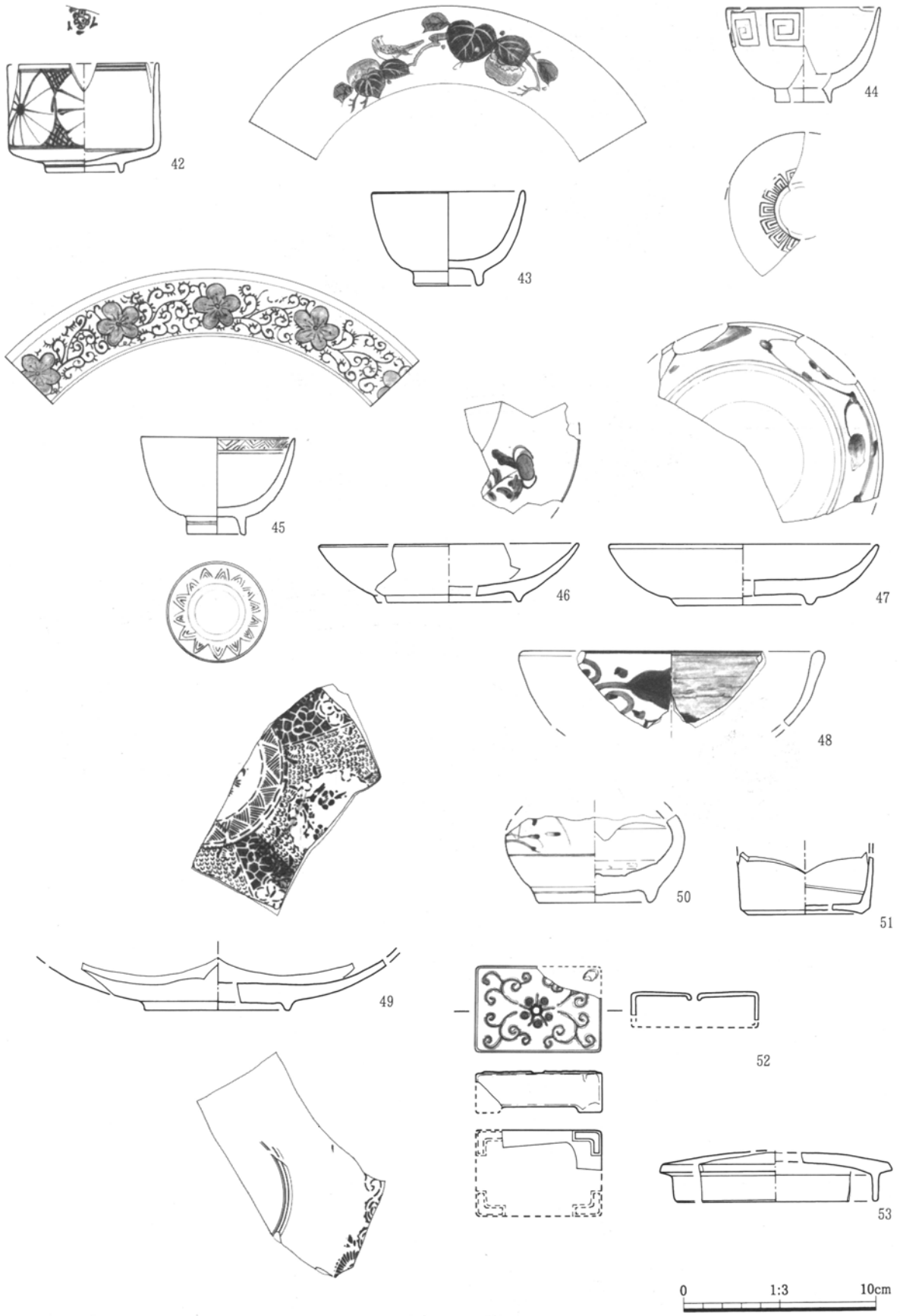


第108図 69号溝出土遺物(1)

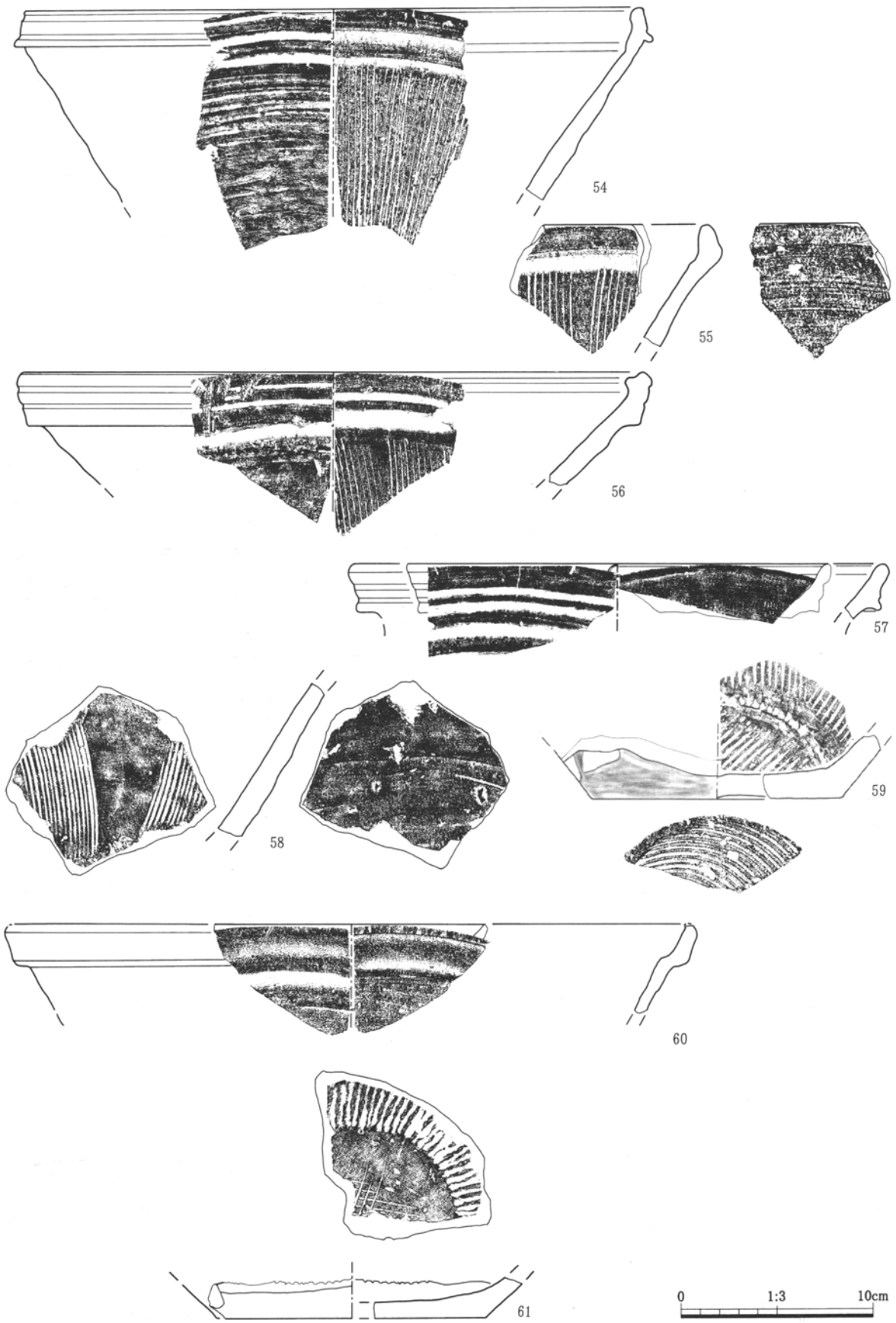


第109図 69号溝出土遺物(2)

1. As-A下面 (近世~近代)

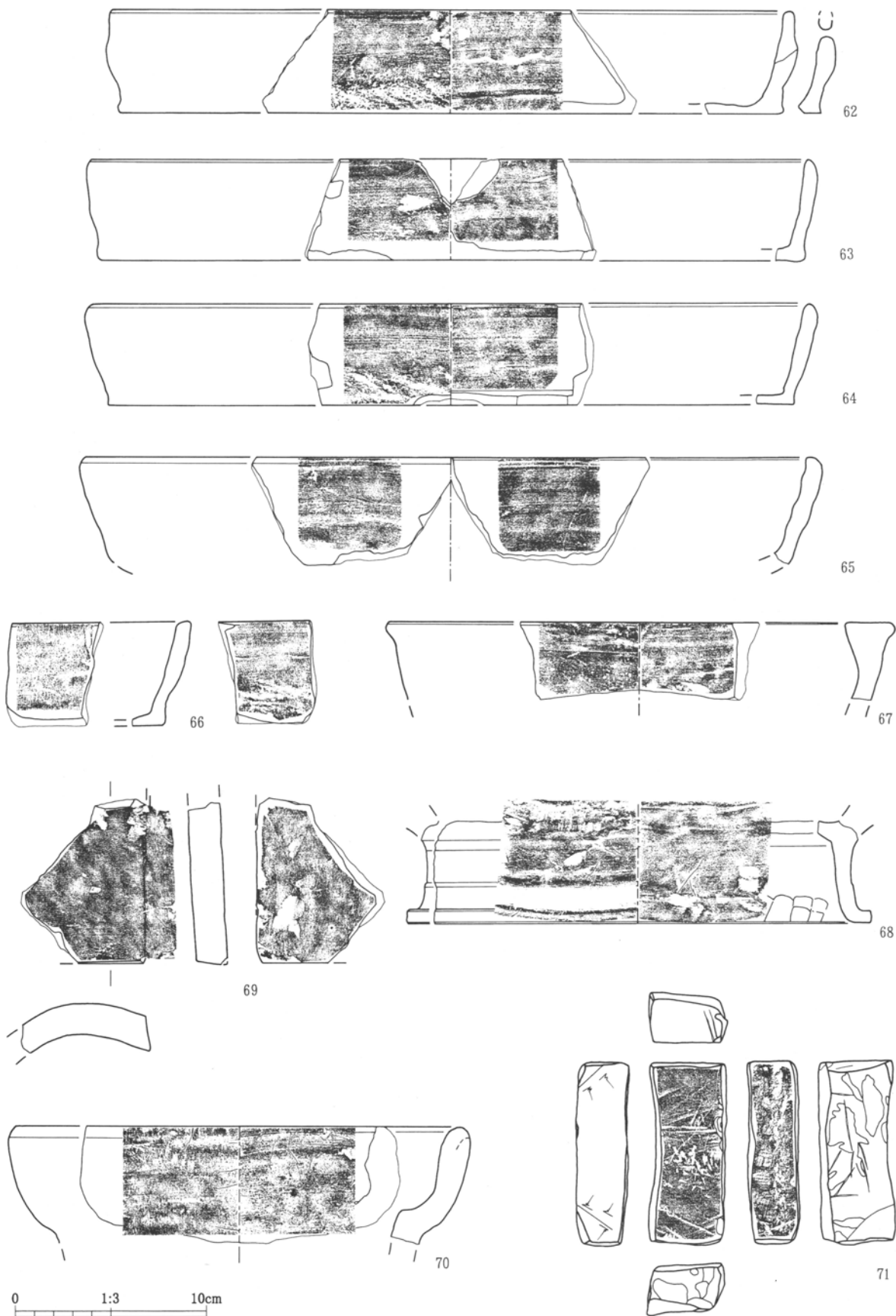


第110図 69号溝出土遺物(3)

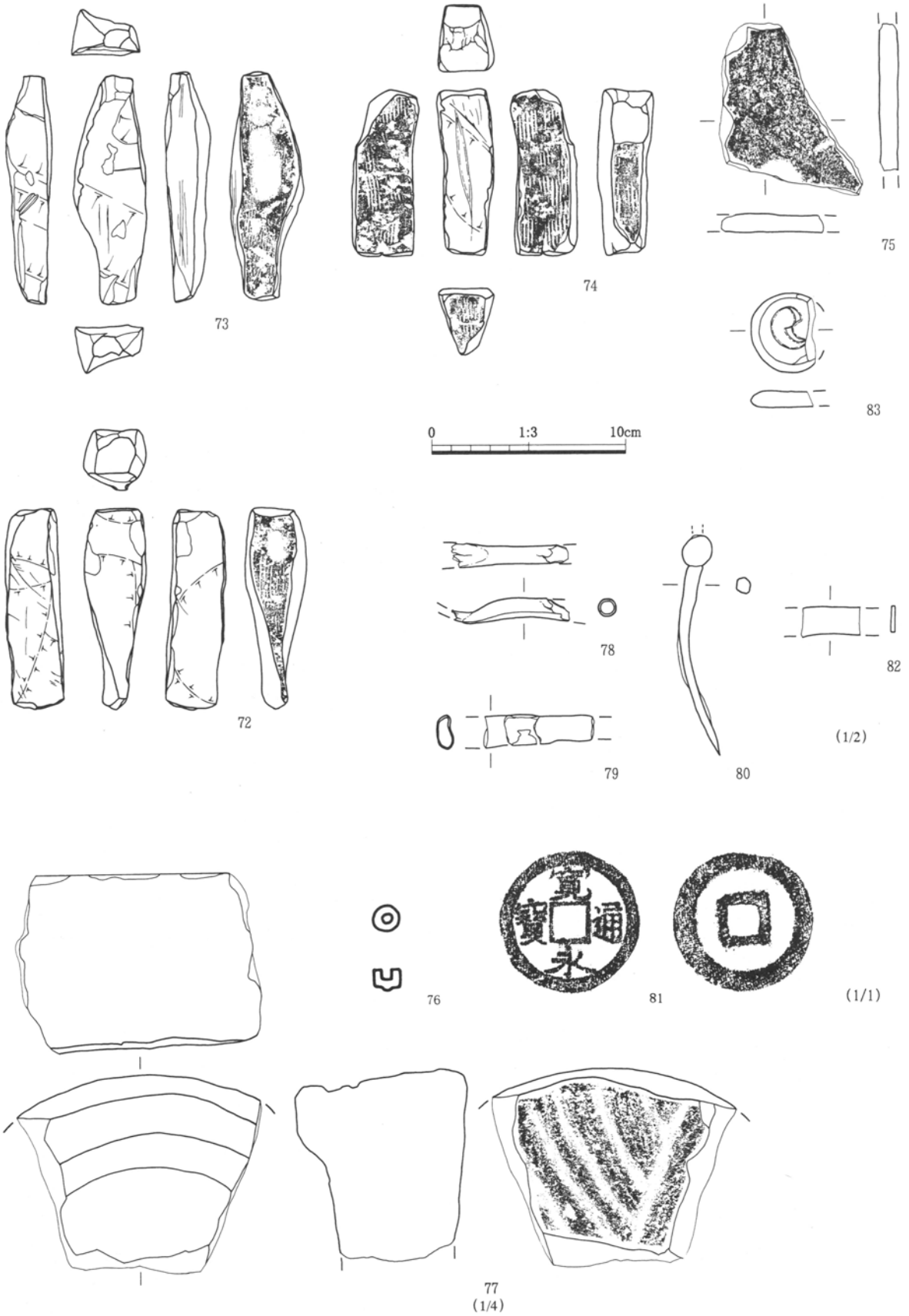


第111図 69号溝出土遺物(4)

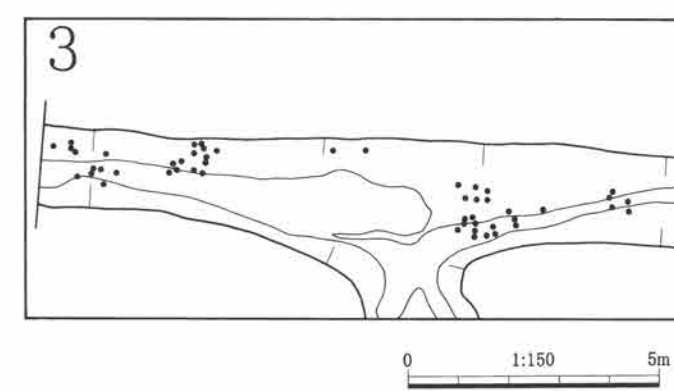
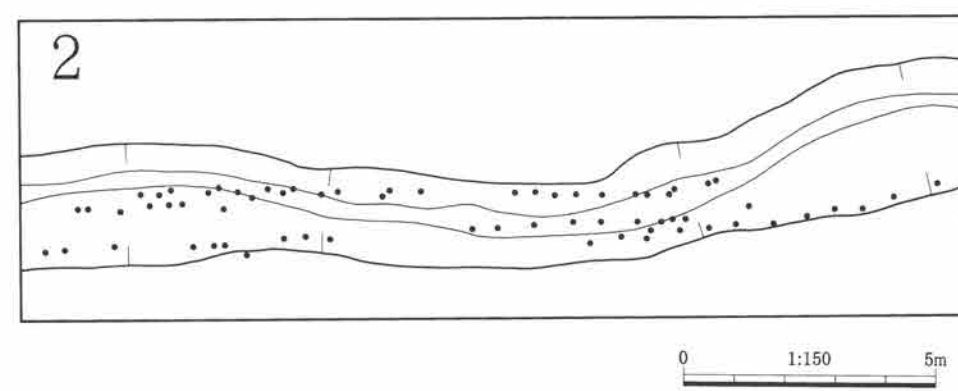
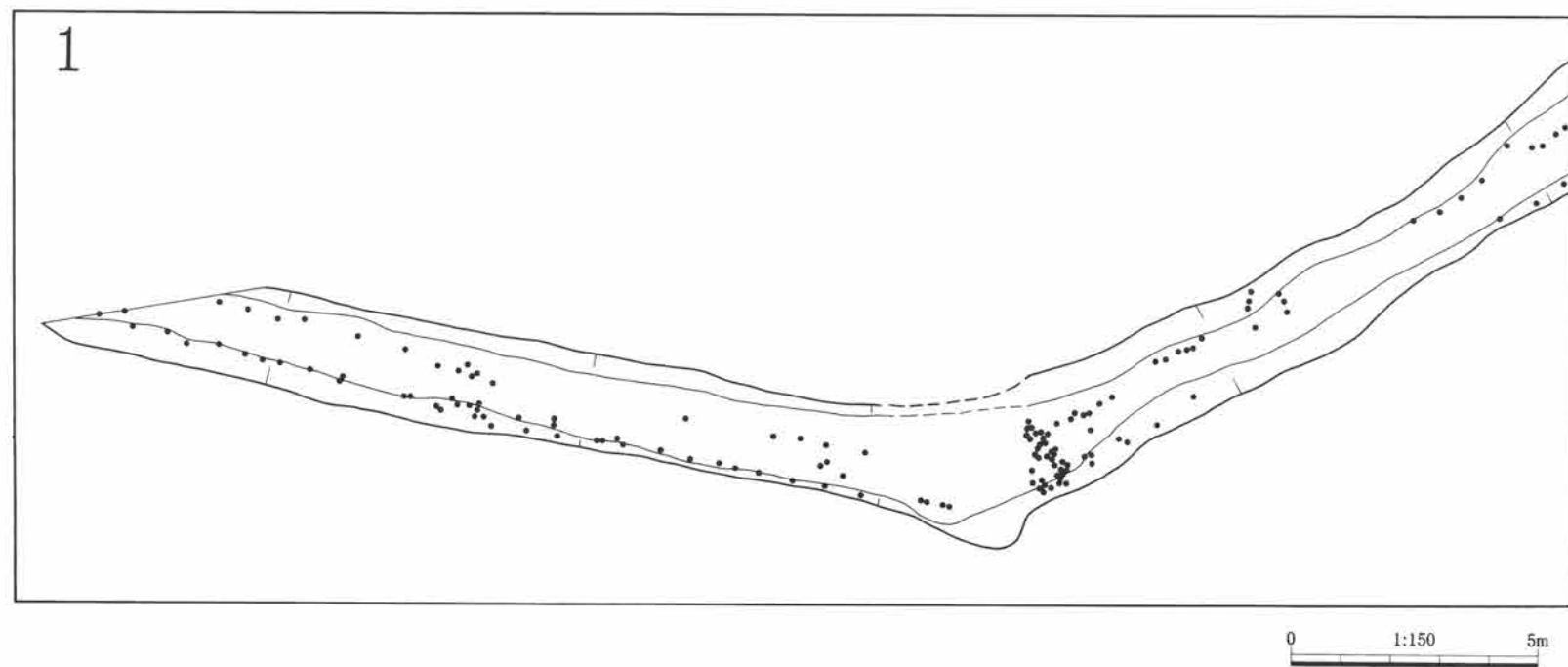
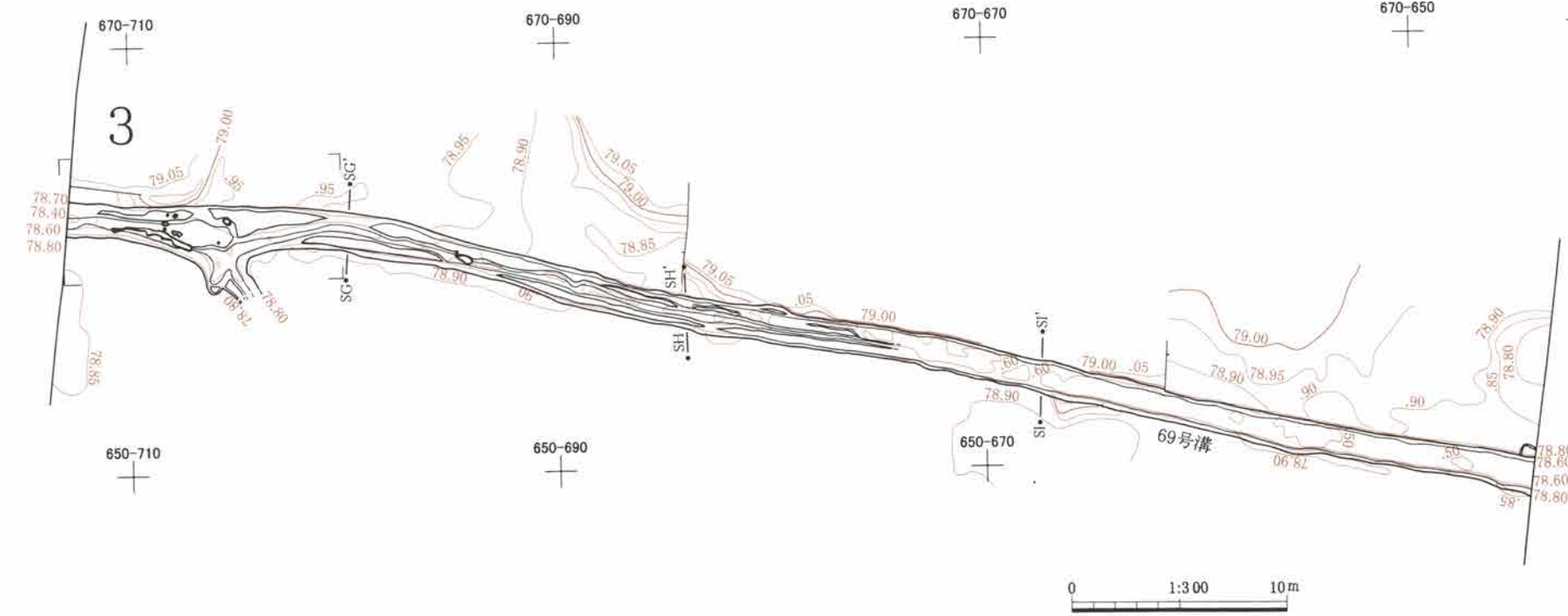
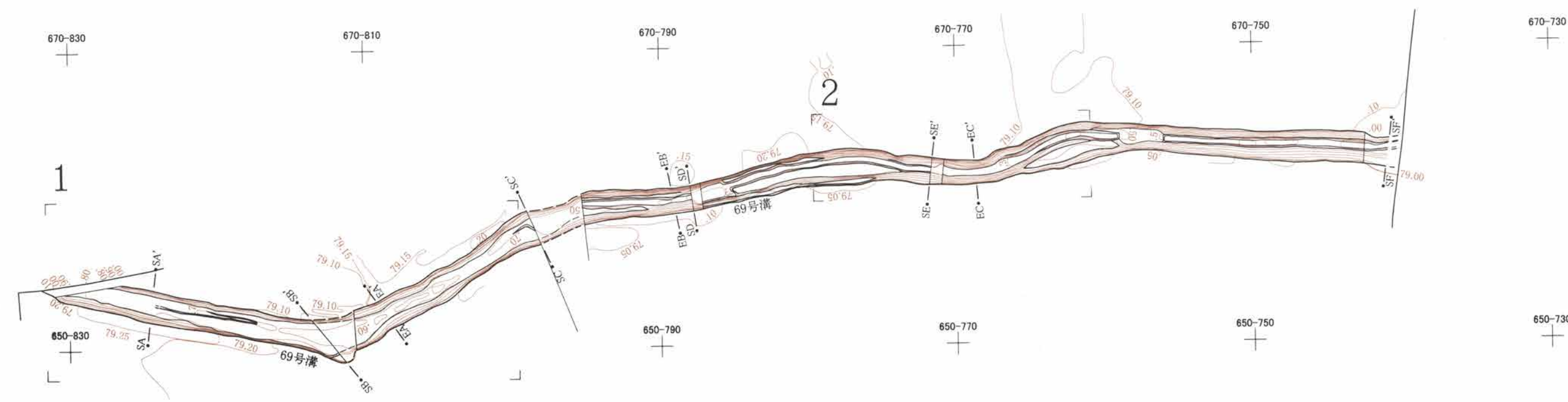
1. As-A下面 (近世~近代)



第112図 69号溝出土遺物(5)



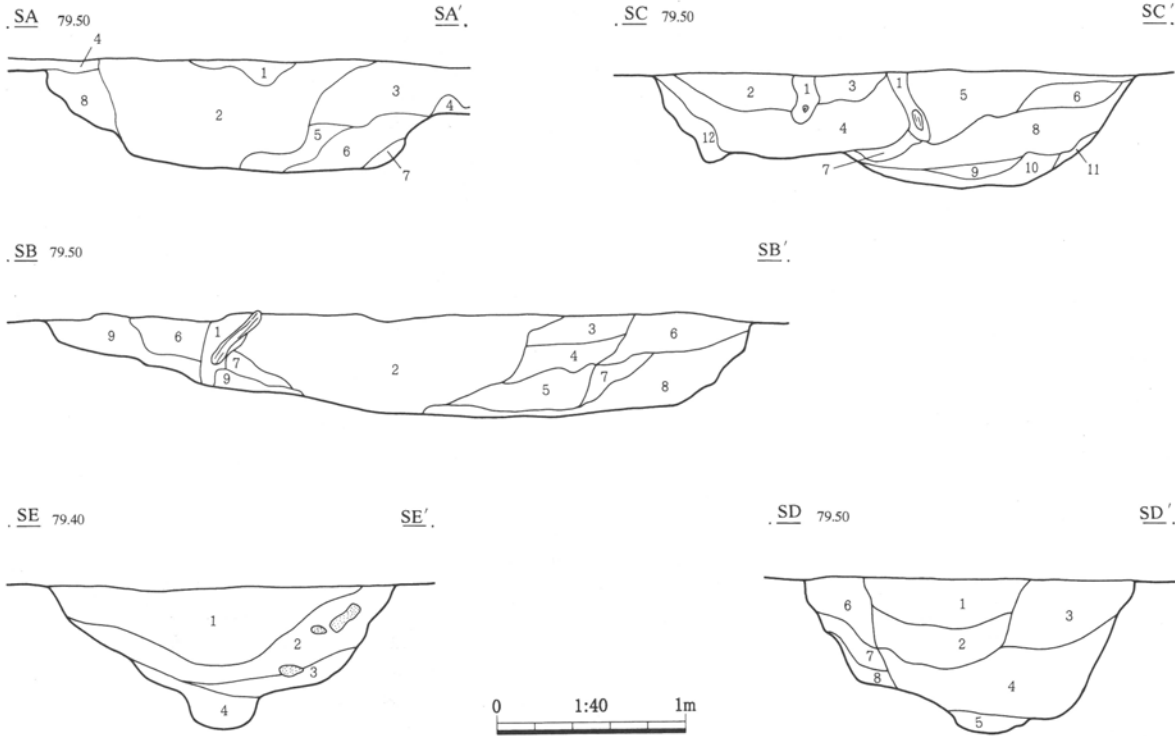
第113図 69号溝出土遺物(6)



●は杭

第114図 69号溝実測図(1)

1. As-A下面 (近世～近代)



69号溝SA

- 1 灰色土 シルト質土。As-Aを含む。
- 2 灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。淡黄色の砂を含む。
- 3 黄灰色土 やや粗いシルト質土。酸化鉄分の斑点あり。
- 4 明黄褐色土 シルト質土。As-Aを極少量含む。
- 5 黄灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。粘性あり。
- 6 褐灰色土 シルト質土。粘性あり。
- 7 褐灰色土 粘質土。
- 8 黒褐色土 シルト質土主体にAs-B、褐色土ブロックを含む。

69号溝SB

- 1 灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。しまりなし。木材を含む。
- 2 灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。淡黄色の砂を含む。
- 3 灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。As-Aを僅かに含む。
- 4 灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。粘性あり。
- 5 灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。粘性あり。
- 6 黄灰色土 やや粗いシルト質土。酸化鉄分の斑点あり。As-Aを斑状に含む。
- 7 黄灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。As-Aを僅かに含む。やや粘性あり。
- 8 褐灰色土 シルト質土。粘性あり。
- 9 黒褐色土 As-B主体。褐色土ブロックを斑状に含む。

69号溝SC

- 1 灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。しまりなし。木材を含む。
- 2 灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。
- 3 灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。淡黄色の砂を含む。
- 4 黄灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。黄褐色の砂を帯状に含む。
- 5 黄灰色土 やや粗いシルト質土。酸化鉄分の斑点あり。As-Aを斑状に含む。
- 6 黄灰色土 5層に近似するが、As-Aを少量含む。
- 7 黄灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。粘性あり。木材との関連が粗い。
- 8 黄灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。粘性あり。
- 9 褐灰色土 褐色粘質土、FAブロックを含む。粘性あり。
- 10 褐灰色土 黒褐色砂を帯状に堆積し、褐色粘質土、FAブロックを含む。砂質土。
- 11 黒褐色土 砂質土。FAブロックを含む。
- 12 黒褐色土 As-B混土。砂粒を多量に含む。

69号溝SD

- 1 灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。As-Aを含む。
- 2 黄灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。
- 3 黄灰色土 やや粗いシルト質土。酸化鉄分の斑点あり。As-Aを斑状に含む。
- 4 黄灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。粘性あり。
- 5 黄褐色土 砂質土。
- 6 明黄褐色土 シルト質土。As-Aを含む。
- 7 黒褐色土 As-Bを密に、As-Aを含む。
- 8 黒褐色土 FAブロックを含む。

69号溝SE

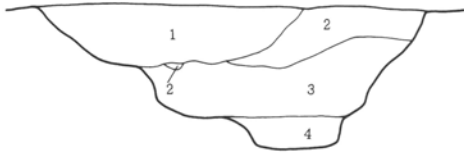
- 1 灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。As-A、砂粒を含む。
- 2 黄灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。淡黄砂をブロックで混入。As-A・礫を含む。
- 3 黄灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。
- 4 黄灰色土 シルト質土。粘性あり。As-B・FA粒、黒色粘質土のブロックを含む。

第115図 69号溝実測図(2)

第2章 遺構と遺物

SF 79.40

SF'

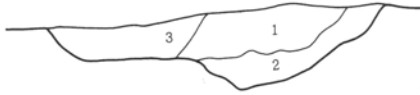


69号溝SF

- 1 灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。
- 2 黄灰色土 やや粗いシルト質土。As-Aを斑状に含む。
- 3 黄灰色土 シルト質土。酸化鉄分の斑点あり。
- 4 黄灰色土 砂質土。酸化鉄分の斑点あり。

SG 79.30

SG'

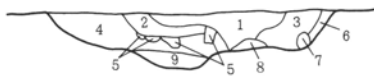


69号溝SG

- 1 灰褐色土 As-AとAs-Bを多量に含む。
- 2 灰褐色土 シルト質。しまり弱く柔らかい。鉄分の沈着少しあり。
- 3 黒褐色土 2層に似るが、As-Aを含む。

SH 79.10

SH'

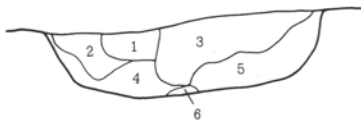


69号溝SH

- 1 黒褐色土 As-A多く含みざらつく。
- 2 黒褐色土 1層より細かく、鉄分の沈着多い。As-Aを多量に含む。
- 3 黒褐色土 鉄分の沈着僅かにあり。As-Aを少量含む。
- 4 黒褐色土 3層に近似。As-Aをほとんど含まない。
- 5 黒褐色土 As-A・As-B混土。
- 6 黒褐色土 3層に近似。砂質土を多量に含む。
- 7 黄褐色土 FAブロックを混入。
- 8 黒褐色土 しまり強い。白色鉱粒を少量含む。
- 9 黒褐色土 4層よりも粗くざらついている。As-Aを含まない。

SI 79.30

SI'

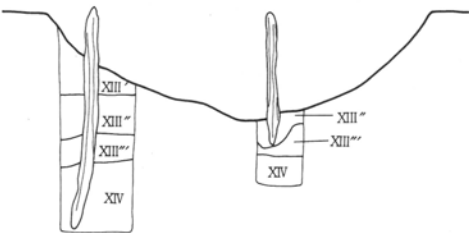


69号溝SI

- 1 黒褐色土 As-Aを僅かに含む。シルト質。粘性弱い。
- 2 黒褐色土 1層に近似。鉄分の沈着が斑状に含む。
- 3 黒褐色土 As-Aを含む。
- 4 黒褐色土 1層に近似。下部にAs-Bブロックを含む。
- 5 黒褐色土 1、2、4層に比べ粗く、鉄分の沈着が僅かである。
- 6 黄褐色土 ローム状で弱い粘質。

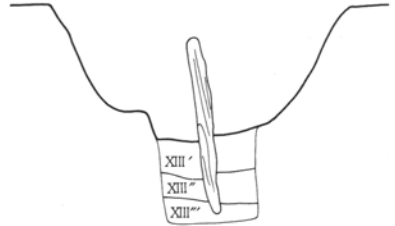
EA 79.40

EA'



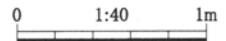
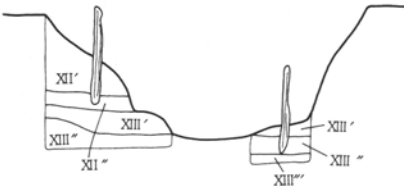
EC 79.30

EC'



EB 79.30

EB'



第116図 69号溝実測図(3)

1. As-A下面（近世～近代）

236号溝（第118図、PL-18）

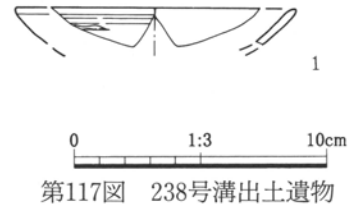
位置 645—805・810グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.22～0.60m、深さ0.06～0.10m、調査長5.88m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の西に位置する。小規模の溝であるが、69溝からひいた用水を、各区画にふりわける用途の小溝であろう。237・238溝と接しており、同じ用途の一群の溝と考えられる。237・238溝との新旧関係は不明である。 遺物 なし

237号溝（第118図、PL-18）

位置 655—795、650・655—800、650—805、645—805グリッド 走向 北東→南西
規模 幅0.17～0.56m、深さ0.06～0.16m、調査長14.43m 形状 丸底状の断面を呈する。
調査所見 A-3区の西に位置する。小規模の溝であるが、69溝からひいた用水を、各区画にふりわける用途の小溝であろう。236溝との新旧関係は不明である。平行している238溝との新旧関係は、土層から237溝のほうが若干新しいと考えられる。 遺物 なし

238号溝（第117・118図、PL-18）

位置 650—795～805、645—805グリッド
走向 北東→南西
規模 幅0.21～0.96m、深さ0.05～0.12m、調査長14.05m
形状 丸底状の断面を呈する。



調査所見 A-3区の西に位置する。小規模の溝であるが、69溝からひいた用水を、各区画にふりわける用途の小溝であろう。平行して237溝があるが、土層から238溝のほうが若干古いと考えられる。236溝との新旧関係は不明である。

遺物 1は灯明皿（陶器）の口縁片。口径11.0cm。錆釉を施す。産地は瀬戸・美濃で、19世紀か。

239号溝（第118図、PL-18）

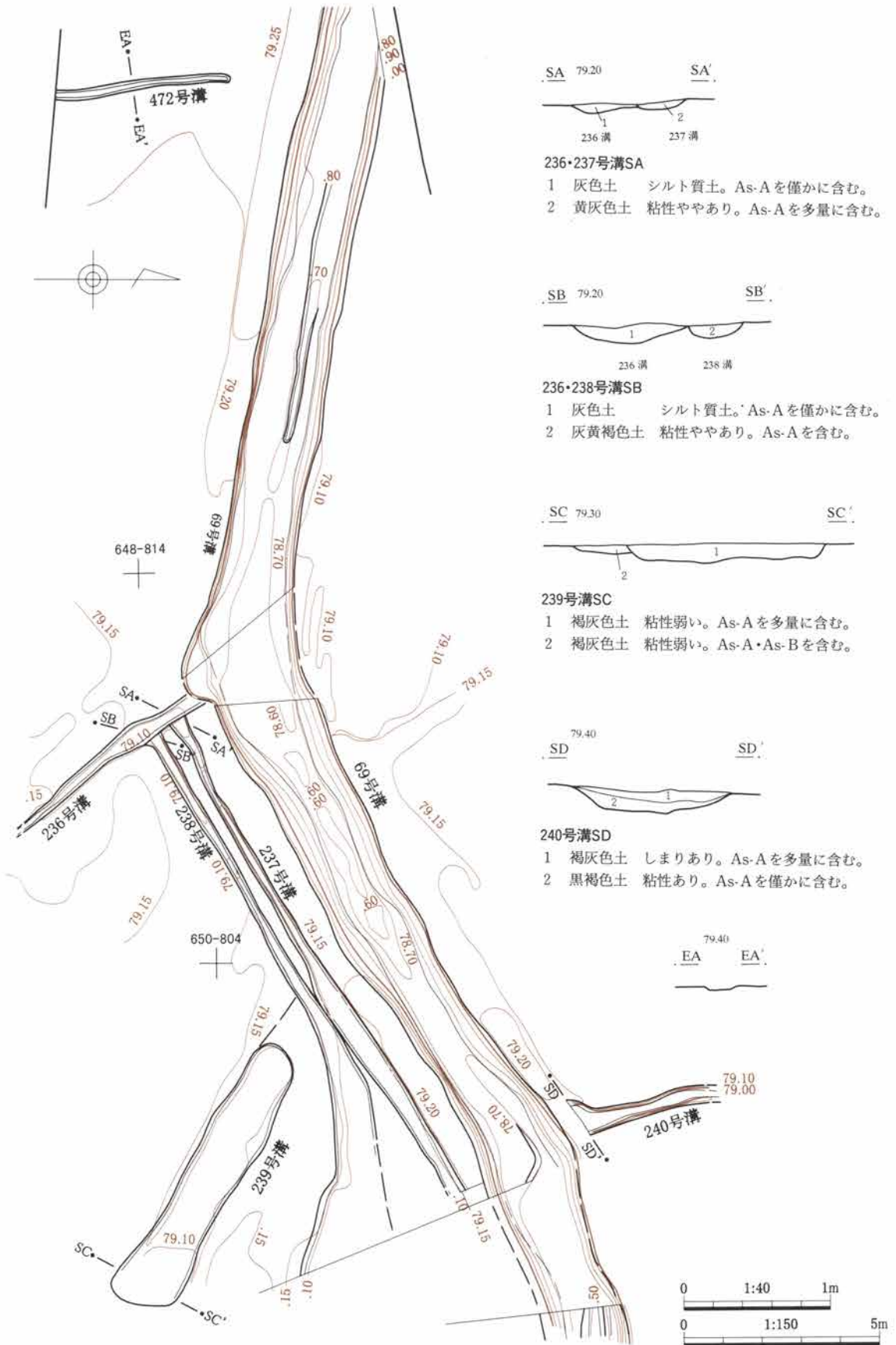
位置 645・650—795・800グリッド 走向 北西→南東 規模 幅1.20～1.54m、深さ0.02～0.04m、調査長7.47m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の中央やや北西よりに位置する。幅が広く浅い溝である。その性格は不明である。 遺物 なし

240号溝（第118図、PL-19）

位置 655・660—795・800グリッド 走向 北→南 規模 幅0.39～0.72m、深さ0.10～0.11m、調査長3.45m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北西に位置する。小規模の溝であるが、上流の田からの用水を、69溝へ流し込む排水用の小溝であろう。 遺物 なし

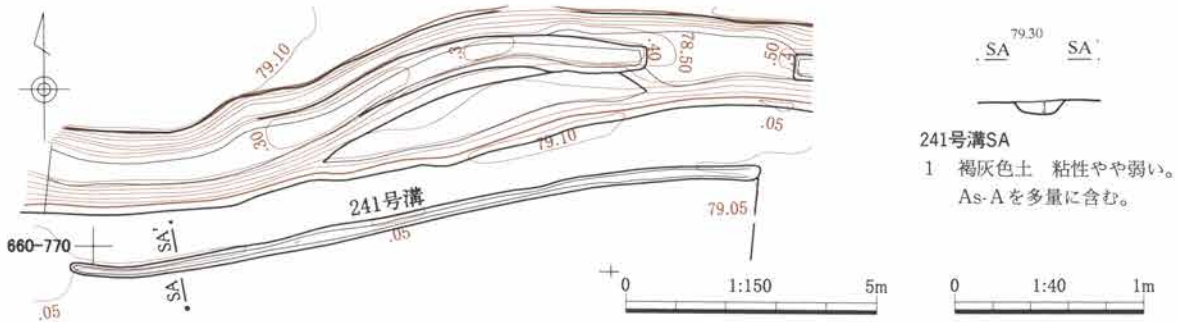
241号溝（第119図、PL-19）

位置 660—755・760、655・660—765グリッド 走向 西→東 規模 幅0.20～0.35m、深さ0.05～0.10m、調査長13.85m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北に位置する。小規模の溝であるが、69溝から引いた用水を各区画にふりわける用途の小溝であると思われる。 遺物 なし



第118図 236～240・472号溝実測図

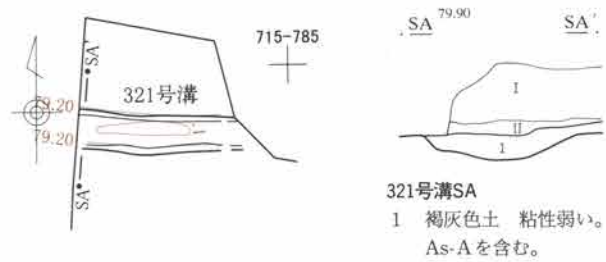
1. As-A下面 (近世～近代)



第119図 241号溝実測図

321号溝 (第120図、PL-19)

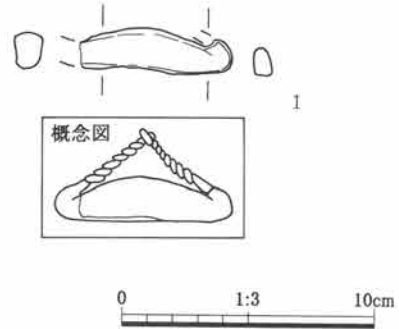
位置 710—785グリッド 走向 西→東
 規模 幅0.80m、深さ0.14～0.18m、調査長2.92m 形状 丸底状の断面を呈する。
 調査所見 A-3区の最北に位置する。耕作に関連する溝と思われるが、詳細不明。
 遺物 なし



第120図 321号溝実測図

324号溝 (第121・122図、PL-19)

位置 585—760～770、585～600—770グリッド
 走向 北→東 規模 幅0.15～0.60m、深さ0.01～0.11m、調査長25.64m 形状 丸底状の断面を呈する。
 調査所見 A-3区の南に位置する。小規模の溝であり、区画の中央部をL字状に北から東へ流下する。475溝との新旧関係、325溝との新旧関係はともに不明である。
 遺物 1は残存している形態から、火打ち金と思われる。横4.0cm、縦1.25cm、厚さ0.7cm。



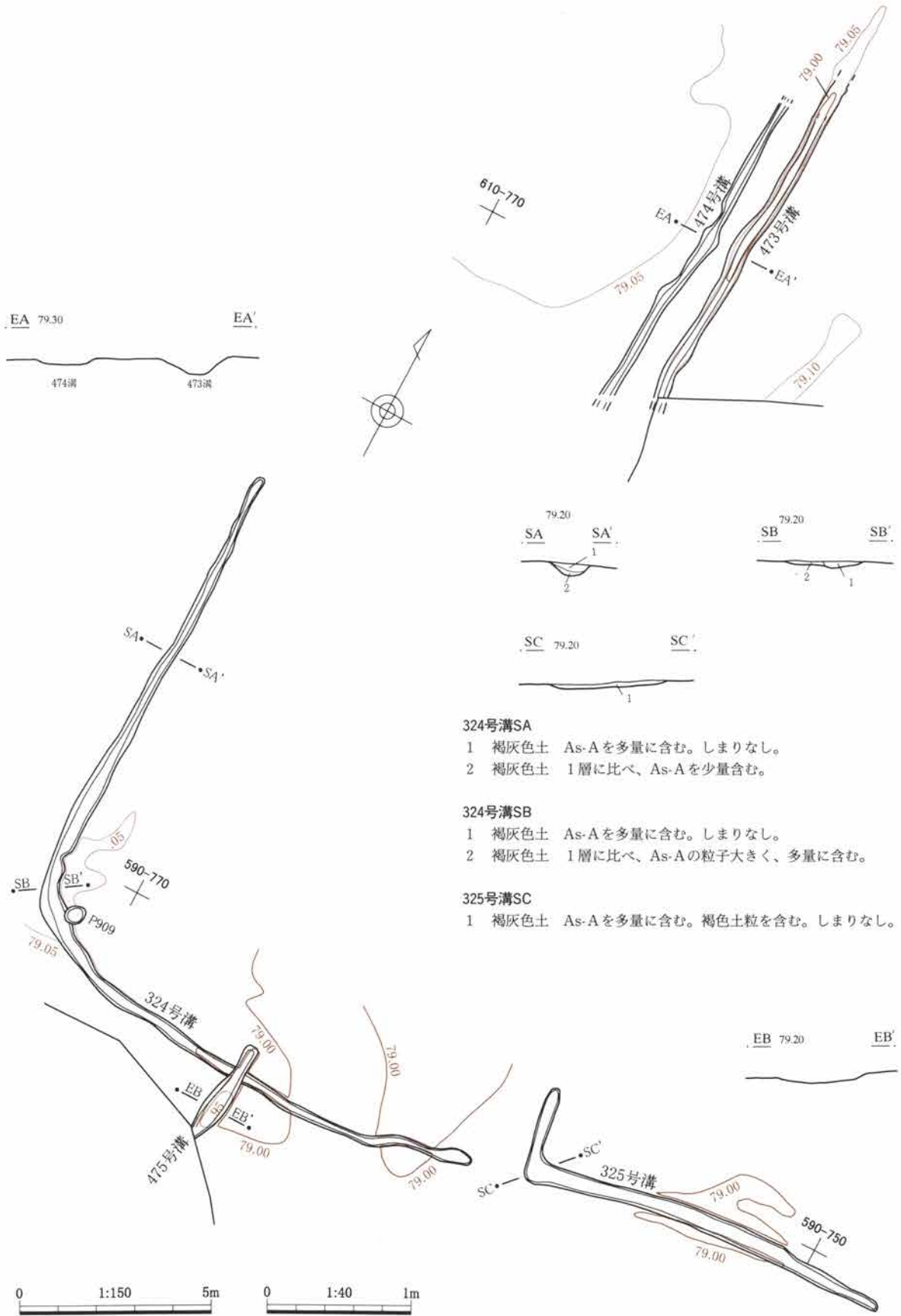
第121図 324号溝出土遺物

325号溝 (第122図、PL-20)

位置 585—745～755、590—755グリッド 走向 北→東 規模 幅0.26～0.53m、深さ0.03m、調査長11.78m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の南に位置する。小規模の溝であり、区画の中央部をL字状に北から東へ流下する。324溝と同様、区画内の水回しを均等・円滑にするための、緊急処置として設けられた溝と考えたい。324溝との新旧関係は不明である。 遺物 なし

472号溝 (第118図)

位置 645・650—825グリッド 走向 北→南 規模 幅0.18～0.30m、深さ0.02～0.04m、調査長4.52m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の西端に位置する。小規模の溝であり、区画内の水回しを均等・円滑にするための溝であろう。 遺物 なし



第122図 324・325・473～475号溝実測図

473号溝 (第122図)

位置 605～615—760グリッド 走向 北→南 規模 幅0.32～0.50m、深さ0.05～0.11m、調査長9.56m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の東南に位置する。小規模の溝であり、区画内の水回しを均等・円滑にするための溝であろう。 遺物 なし

474号溝 (第122図)

位置 605・610—760・765グリッド 走向 北→南 規模 幅0.18～0.45m、深さ0.01～0.03m、調査長8.95m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の東南に位置する。小規模の溝であり、区画内の水回しを均等・円滑にするための溝であろう。473溝との新旧関係は不明である。 遺物 なし

475号溝 (第122図、PL-19)

位置 585—765グリッド 走向 北→南 規模 幅0.32～0.60m、深さ0.02～0.09m、調査長2.80m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の南に位置する。小規模の溝であり、324溝と交差している。新旧関係は不明である。 遺物 なし

Aランプの溝

上 面

347号溝 (第123図、PL-21)

位置 520—590・595グリッド 走向 西→東 規模 幅0.30m、深さ0.05～0.14m、調査長3.28m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 Aランプ (A-1区平行部・上面) の中央やや北に位置する。小規模の溝であり、西から東に流下する。西端部が南から流下している可能性が考えられ、348溝と同じ溝である可能性もある。小規模の溝であり、区画内の水回しを均等・円滑にするために設けられた溝であろう。 遺物 なし

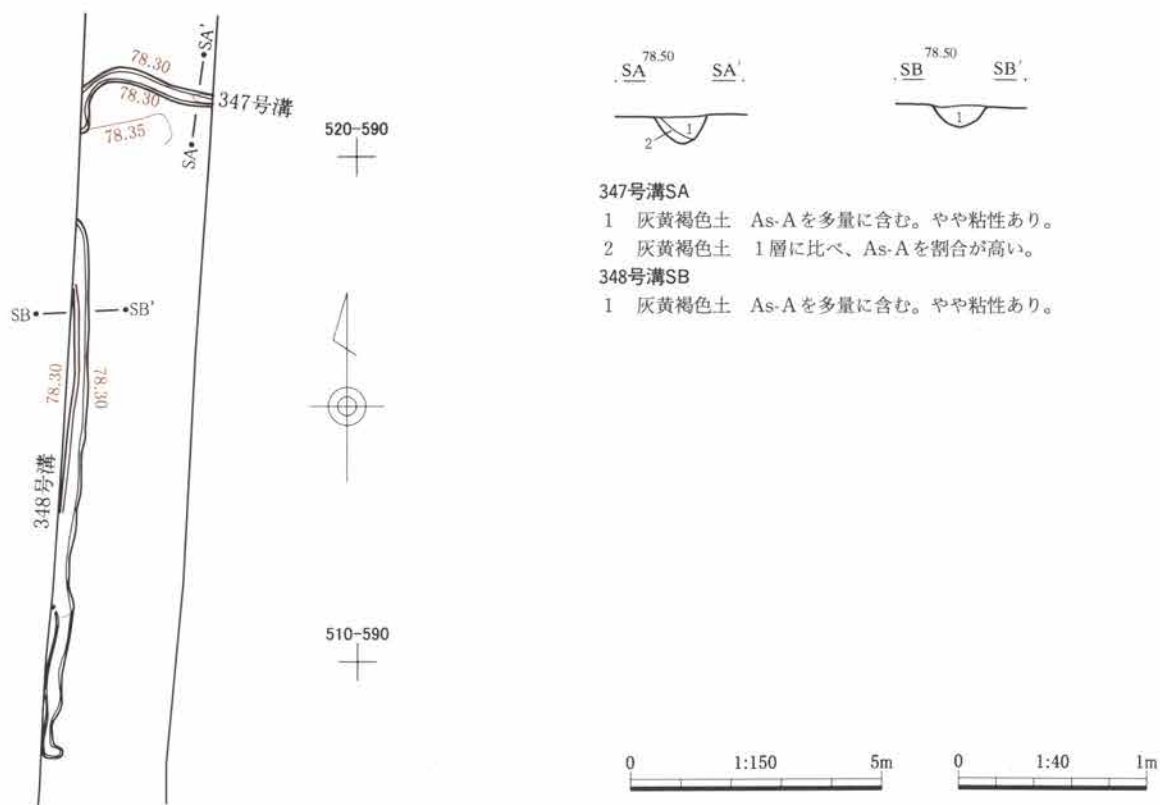
348号溝 (第123図、PL-21)

位置 505～515—595グリッド 走向 北→南
 規模 幅0.37m、深さ0.09～0.12m、調査長10.06m 形状 丸底状の断面を呈する。
 調査所見 Aランプ (A-1区平行部・上面) の中央に位置する。小規模の溝であるが、347溝と接続している可能性が考えられる。小規模の溝であり、区画内の水回しを均等・円滑にするための溝であろう。 遺物 なし

349号溝 (第124図、PL-21)

位置 485・490—595グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.12～0.22m、深さ0.05～0.08m、調査長4.00m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 Aランプ (A-1区平行部・上面) の南端に位置する。小規模の溝であるが、354溝と平行して南東へ流下する。小規模の溝であり、区画内の水回しを均等・円滑にするための溝であろう。 遺物 なし

第2章 遺構と遺物



第123図 347・348号溝実測図(Aランプ上面)

350号溝 (第124図、PL-21)

位置 475—595グリッド 走向 西→東 規模 幅0.32~0.46m、深さ0.17m、調査長2.63m

形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 Aランプ(A-1区平行部・上面)の南端に位置する。小規模の溝であるが、347溝と接続している可能性が考えられる。小規模の溝であり、区画内の水回しを均等・円滑にするための溝であろう。 遺物 なし

351号溝 (第125図、PL-22)

位置 550~560—590グリッド 走向 北→南

規模 幅0.32+~0.89+m、深さ0.05~0.12m、調査長8.05m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 Aランプ(A-2区平行部・上面)の南端に位置する。耕作痕内を北から南に流下しており、区画内の水回しを均等・円滑にするための溝であろう。 遺物 なし

352号溝 (第126図、PL-22)

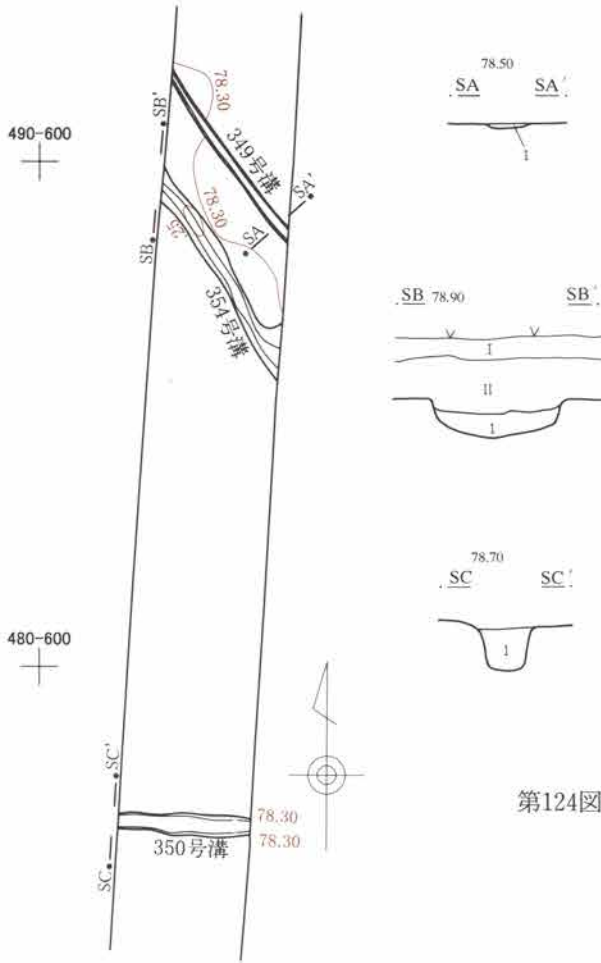
位置 610・615—585グリッド 走向 北→南

規模 幅0.38~0.50m、深さ0.10~0.13m、調査長4.52m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 Aランプ(A-2区平行部・上面)の北端に位置する。小規模の溝であるが、353溝と接続している可能性が考えられる。小規模の溝であり、区画内の水回しを均等・円滑にするための溝であろう。

遺物 なし

1. As-A下面 (近世～近代)



349号溝SA

1 におい黄褐色土 As-Aを多量に含む。しまりなし。鉄分の影響かやや赤味おびる。

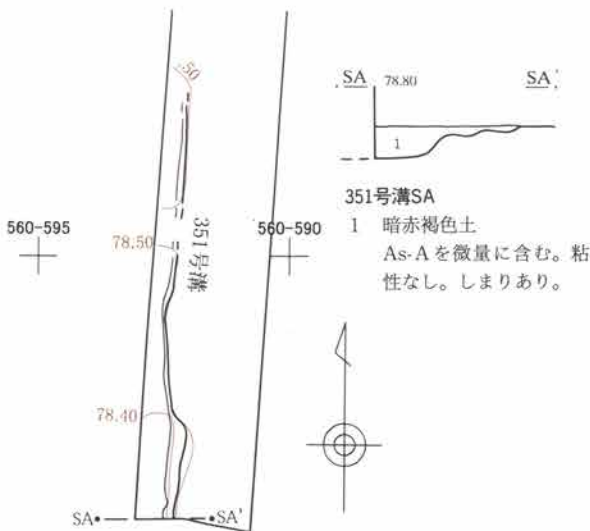
354号溝SB

1 褐灰色土 やや粘性あり。As-Aを含む。

350号溝SC

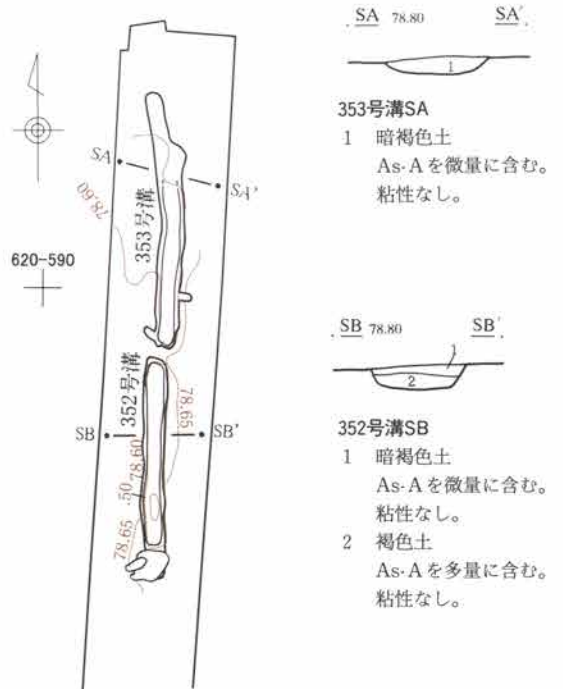
1 灰黄褐色土 As-Aを含む。しまりあり。

第124図 349・350・354号溝実測図(Aランプ上面)



351号溝SA

1 暗赤褐色土 As-Aを微量に含む。粘性なし。しまりあり。

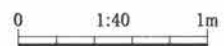
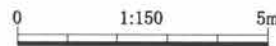


353号溝SA

1 暗褐色土 As-Aを微量に含む。粘性なし。

352号溝SB

1 暗褐色土 As-Aを微量に含む。粘性なし。
2 褐色土 As-Aを多量に含む。粘性なし。



第125図 351号溝実測図(Aランプ上面)

第126図 352・353号溝実測図(Aランプ上面)

353号溝 (第126図、PL-22)

位置 615・620—585グリッド 走向 北→南 規模 幅0.42～0.48m、深さ0.09～0.11m、調査長5.13m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 Aランプ (A-2区平行部・上面) の北端に位置する。小規模の溝であるが、352溝と接続している可能性が考えられる。小規模の溝であり、区画内の水回しを均等・円滑にするための溝であろう。 遺物 なし

354号溝 (第124図、PL-22)

位置 485—595グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.29～0.43m、深さ0.05m、調査長4.16m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 Aランプ (A-1区平行部・上面) の南に位置する。小規模の溝であるが、354溝と平行して南東に流下する。小規模の溝であり、区画内の水回しを均等・円滑にするための溝であろう。 遺物 なし

下面

355号溝 (第127・129図、PL-23)

位置 520—590・595グリッド 走向 西→南東 規模 幅1.37～2.00m、深さ0.28～0.32m、調査長2.65m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 Aランプ (A-1区平行部・下面) の北に位置する。大規模の溝であり、主要な用水路としての性格を持つと思われる。 遺物 1は磁器碗の体～底部片。底径4.8cm。染付。波佐見産で、18世紀前～中。2は焙烙。内面に耳が剥がれた痕跡あり。



第127図 355号溝出土遺物(Aランプ下面)

356号溝 (第128・129図、PL-23)

位置 525—590・595、530～540—590
 グリッド 走向 北→南
 規模 幅1.37m、深さ0.16～0.26m、
 調査長12.00m

形状 不定形の断面を呈する。

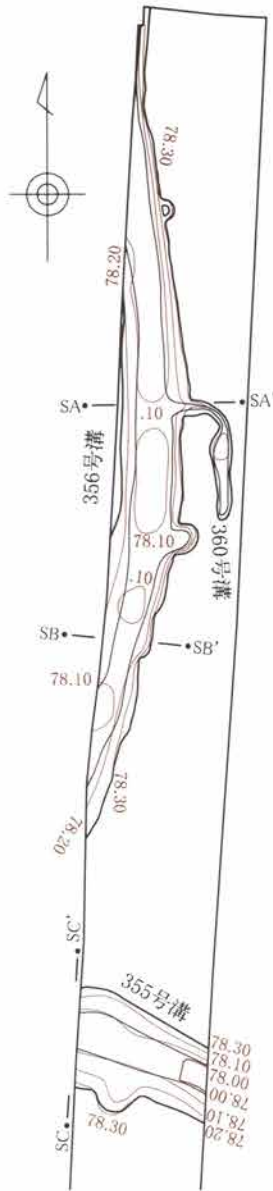
調査所見 Aランプ (A-1区平行部・



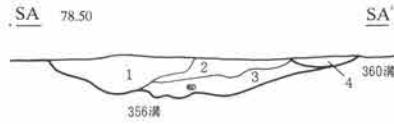
第128図 356号溝出土遺物(Aランプ下面)

下面) の北よりに位置する。中規模の溝であり、恒常的に用排水路として使用されていたものであろう。東側の360溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期に存在した溝と思われる。 遺物 1は天目茶碗の底部片。底径4.6cm。産地は瀬戸・美濃で、17世紀。2は灰釉陶器の口縁～体部片。口径13.5cm。底部施釉なし。産地は瀬戸・美濃、17世紀後半。

1. As-A下面 (近世~近代)

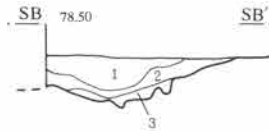


540-590



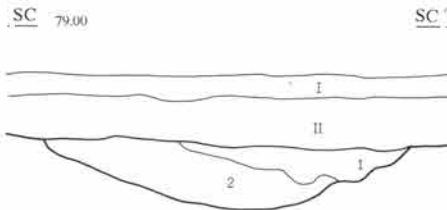
356・360号溝SA

- 1 褐灰色土 粘性やや弱い。粗いシルト質土。
- 2 褐灰色土 粘性弱い。As-Aを多量に含む。
- 3 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 4 灰黄褐色土 粘性やや弱い。白色鉱粒を含む。



356号溝SB

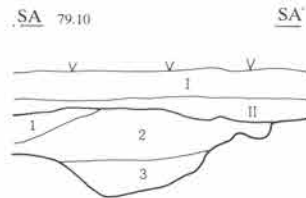
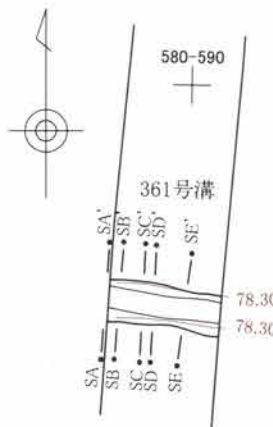
- 1 褐灰色土 粘性やや弱い。粗いシルト質土。
- 2 褐灰色土 粘性弱い。As-Aを多量に含む。
- 3 褐灰色土 粘性あり。黒褐色小ブロックを含む。



355号溝SC

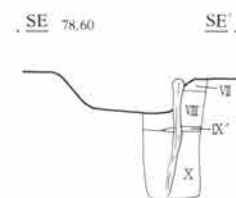
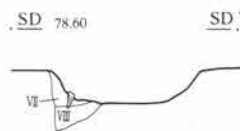
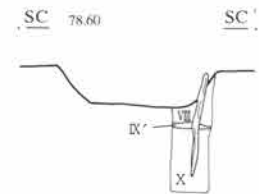
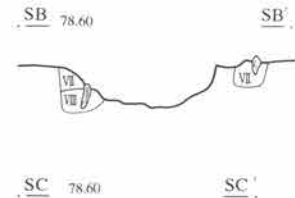
- 1 褐灰色土 粗いシルト質土。粘性やや弱い。
- 2 褐灰色土 As-Bを含む。粘性やや弱い。しまりなし。

第129図 355・356・360号溝実測図(Aランプ下面)



361号溝SA

- 1 褐灰色土 黒色土粘質ブロック、黄褐色ブロック、褐灰色土の混土。
- 2 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Aを斑状に含む。
- 3 灰褐色土 シルト質土。As-Aを含む。



0 1:150 5m

0 1:40 1m

第130図 361号溝実測図(Aランプ下面)

第2章 遺構と遺物

360号溝 (第129図、PL-23)

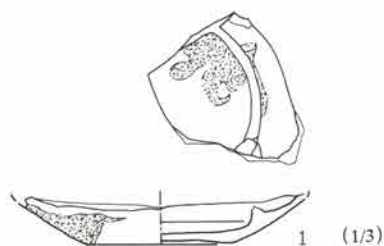
位置 530・535—590グリッド 走向 西→南 規模 幅0.14~0.42m、深さ0.03m、調査長2.72m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 Aランプ (A-1区平行部・下面) の北よりに位置する。小規模の溝であるが、356溝とほぼ同時期の所産と考えられ、356溝から用水を導引するための溝と思われる。
遺物 なし

361号溝 (第130図、PL-24)

位置 575—585・590グリッド 走向 西→東 規模 幅0.82m、深さ0.16~0.20m、調査長2.24m
形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 Aランプ (A-2区平行部・下面) の南よりに位置する。小規模の溝であり、区画内の水回しを均等・円滑にするための溝であろう。
遺物 護岸用の杭が出土している。

365号溝 (第131・132図、PL-24)

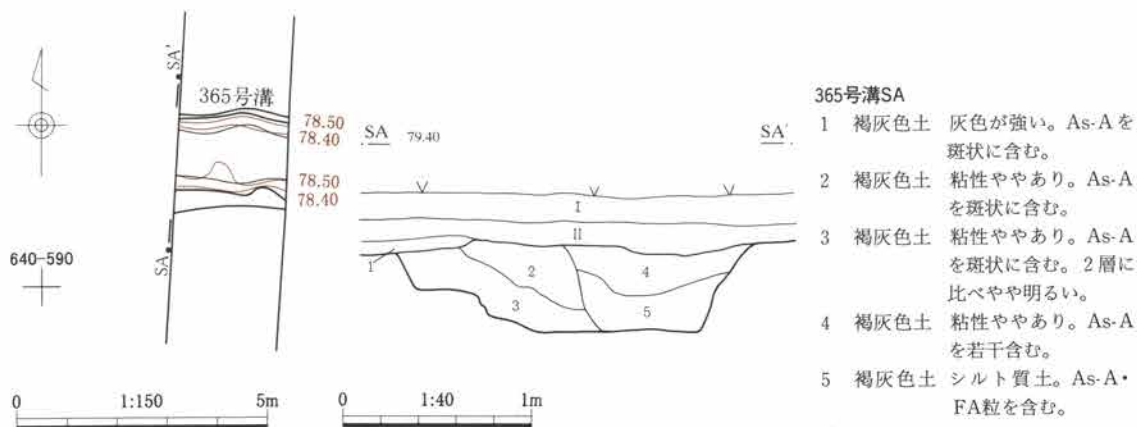
位置 640—585グリッド
走向 西→東
規模 幅1.33m、深さ0.09~0.18m、調査長2.26m
形状 不定形の断面を呈する。



第131図 365号溝出土遺物(Aランプ下面)

調査所見 Aランプ (B区平行部・下面) の南よりに位置する。幅は広いが浅い溝である。B区からの69溝と同一の溝である可能性が想定される。

遺物 1は灯明受皿の口~底部片。内面口縁部錆釉を施す。内外面煤付着。志戸呂産で、19世紀。



第132図 365号溝実測図(Aランプ下面)

B区の溝

68号溝 (第133図)

位置 655—700・705グリッド 走向 北→南 規模 幅1.10~2.60m、深さ0.05~0.30m、調査長2.23m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の西に位置する。69溝からの引水口としての性格が予想できるが、詳細は不明。 遺物 なし

1. As-A下面 (近世～近代)

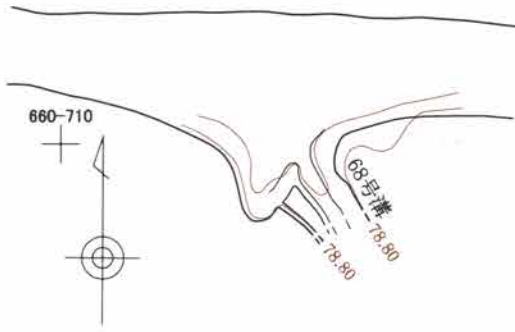
70号溝 (第134・135図、PL-25)

位置 650-645・650、655-670-645グリッド

走向 北→南 規模 幅0.80~1.40m、深さ0.08~0.13m、調査長21.78m 形状 台形状の断面を呈する。

調査所見 B区の東に位置する。小規模の溝で、69溝への排水路としての性格が予想できる。

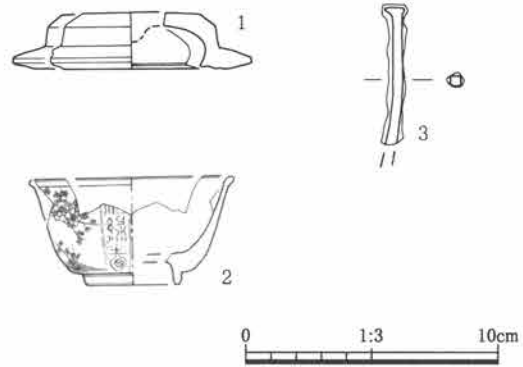
遺物 1は陶器蓋で、鉄釉を施す。19世紀。2は磁器の口反小型湯呑の口～底部破片。口径8.0cm、底径3.8cm、高さ4.2cm。酸化クロムの銅版転写で、梅文を施す。産地は瀬戸・美濃で、明治21年以降。3は棒状鉄製品。残長3.7cm、巾0.4cm。用途不明。



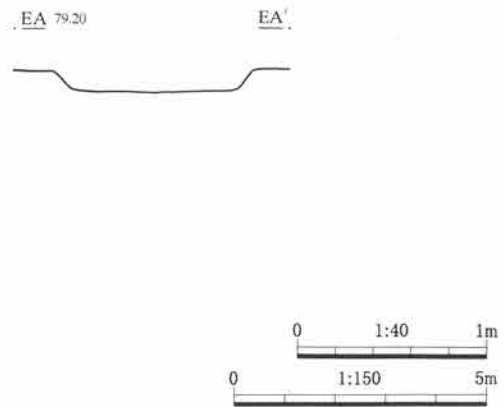
第133図 68号溝実測図



第135図 70号溝実測図



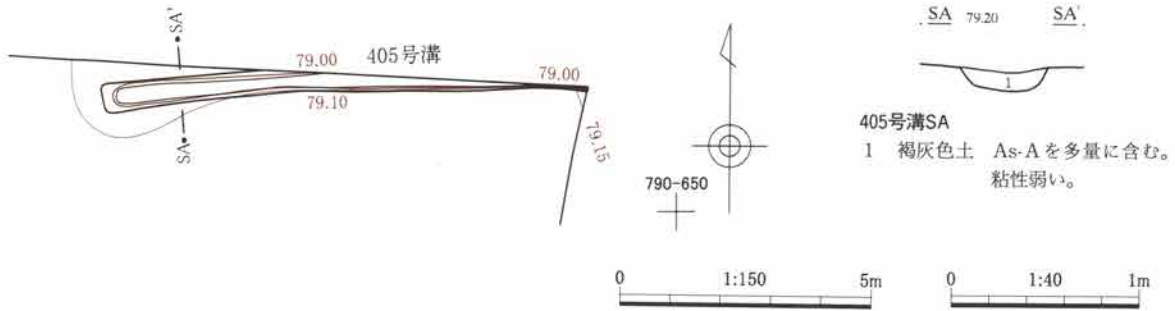
第134図 70号溝出土遺物



C区の溝

405号溝 (第136図、PL-26)

位置 790—650・660グリッド **走向** 東→西 **規模** 幅0.54m、深さ0.15~0.19m、調査長9.60m
形状 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** A-1区中央部やや北に位置する。小規模の溝であるが、147溝からひいた用水を、各区画にふりわける用途の小溝であろう。遺構としては、153溝と別の遺構として扱ったが、関連する溝であることに間違いはない。 **遺物** なし



第136図 405号溝実測図

D区の溝

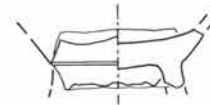
21号溝 (第137・138図、PL-26・27)

位置 795~805—665、810—665・670、815~865—670グリッド **走向** 北→南

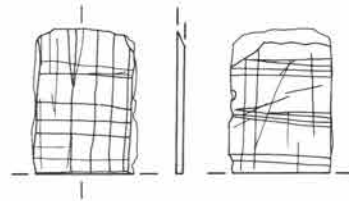
規模 幅0.26~0.68m、深さ0.03~0.13m、調査長72.40m **形状** 丸底状の断面を呈する。

調査所見 D区の西に位置する。22~24溝との新旧関係は不明。

遺物 1は陶器碗の底部破片。透明釉で、貫入あり。産地は肥前で18世紀。2は石板。明治~昭和。



21溝-1



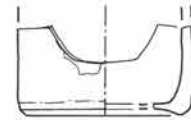
21溝-2

22号溝 (第137・138図、PL-26・27)

位置 830—660・665、825・830—670~685グリッド **走向** 西→東 **規模** 幅0.32~0.67m、深さ0.10~0.21m、調査長21.68m **形状** 台形状の断面を呈する。

調査所見 D区の西に位置する。23溝よりも古いと考えられる。

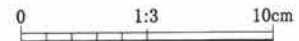
遺物 1は爛徳利の胴~底部破片。底径は6.8cm。外面に白濁釉、内面に鉄釉を施す。産地は瀬戸・美濃で、19世紀。2は磁器皿の口縁部破片。口径は15.0cmほどである。酸化コバルト手描花文を施す。近代。



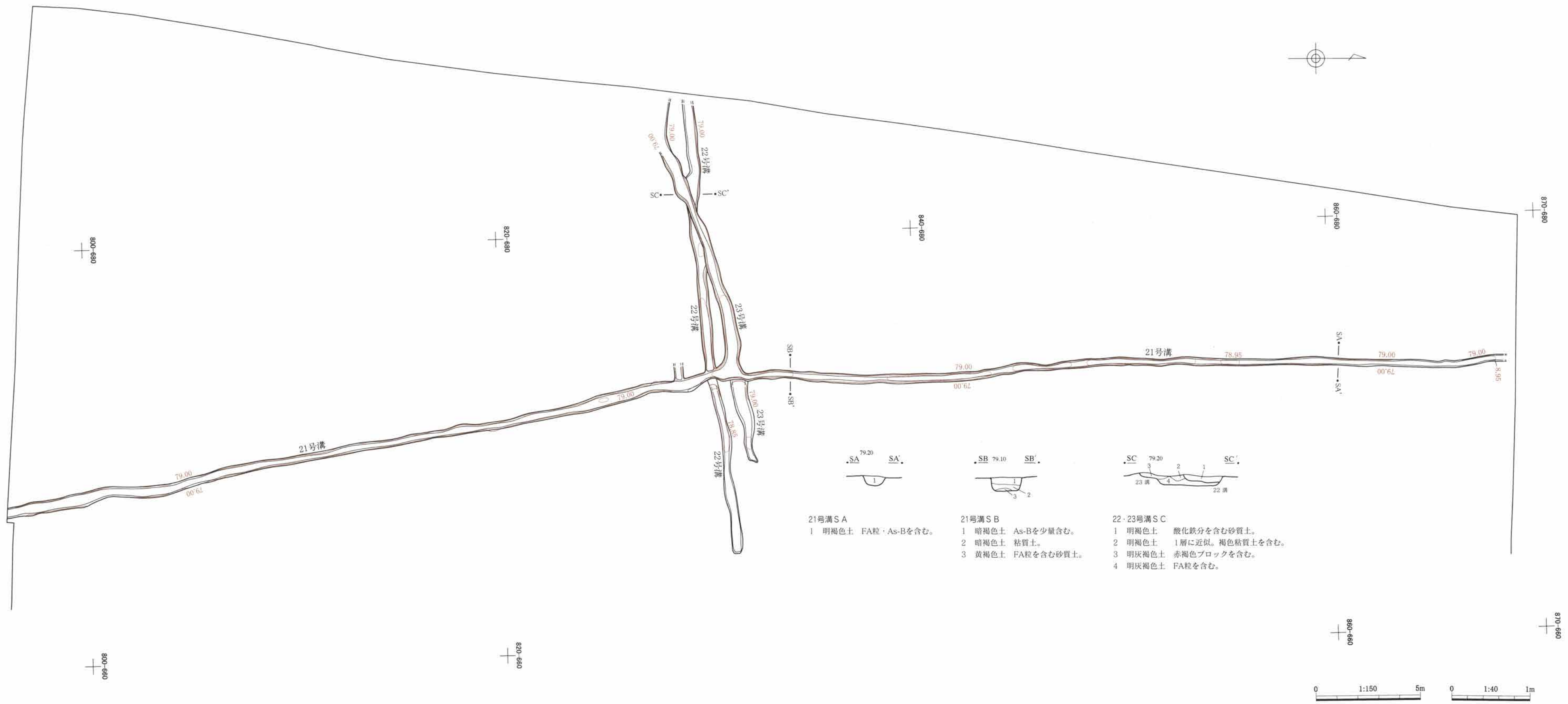
22溝-1



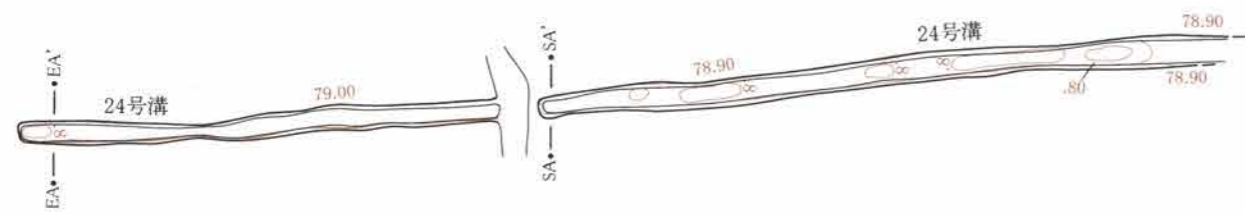
22溝-2



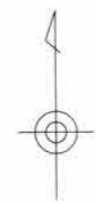
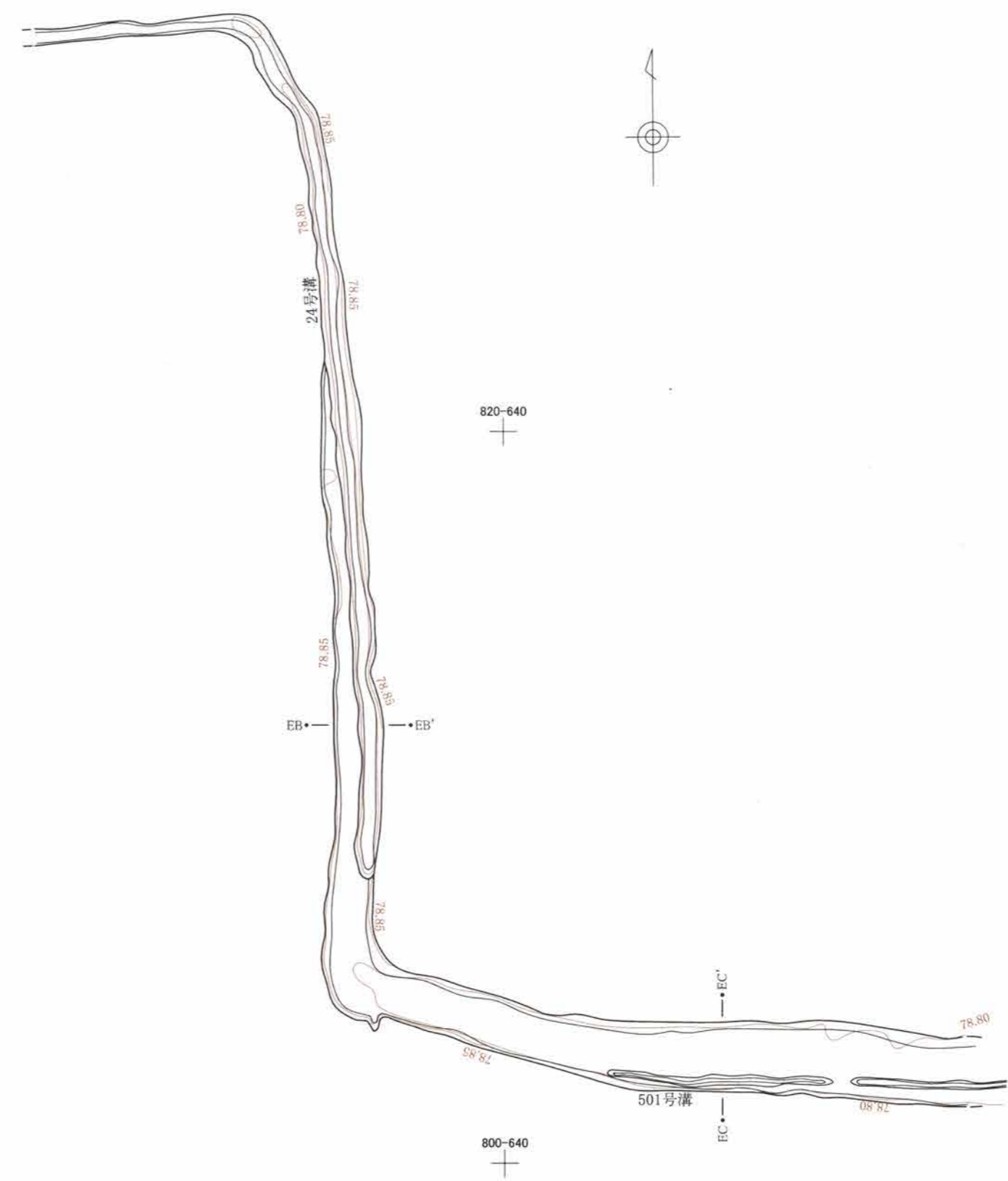
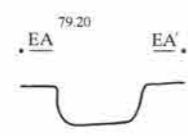
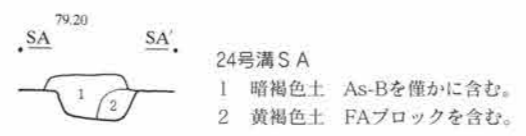
第137図 21・22号溝出土遺物



第138図 21～23号溝実測図



820-680



820-640

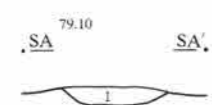
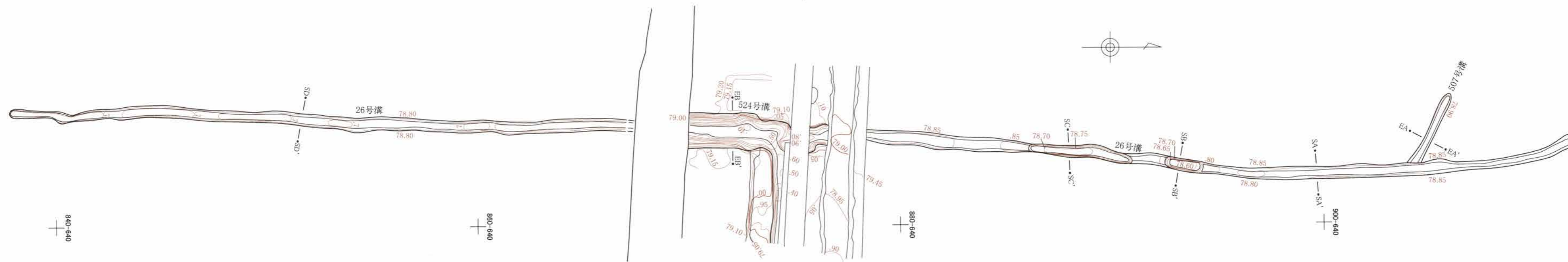
820-620

800-640

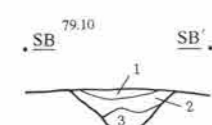
800-620



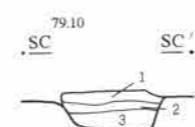
第139図 24・501号溝実測図



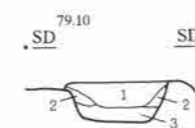
26号溝 S A
1 灰白色土 白色鉱粒を少量含む。



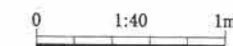
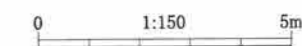
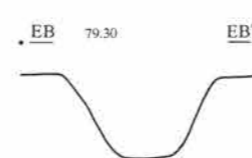
26号溝 S B
1 灰白色土 白色鉱粒を少量含む。
2 灰褐色土 As-B水田耕土。鉄分粒を少量含む。
3 灰褐色土 2層とFAとの漸移層。FA粒を多量に含む。



26号溝 S C
1 灰白色土 白色鉱粒を少量含む。
2 灰褐色土 As-B水田耕土。鉄分粒を少量含む。3層を僅かに含む。
3 灰褐色土 2層とFAとの漸移層。FA粒を多量に含む。



26号溝 S D
1 暗褐色土 FAブロックを含む。
2 黒褐色土 粘質土。
3 黄褐色土 FA粒を含む。



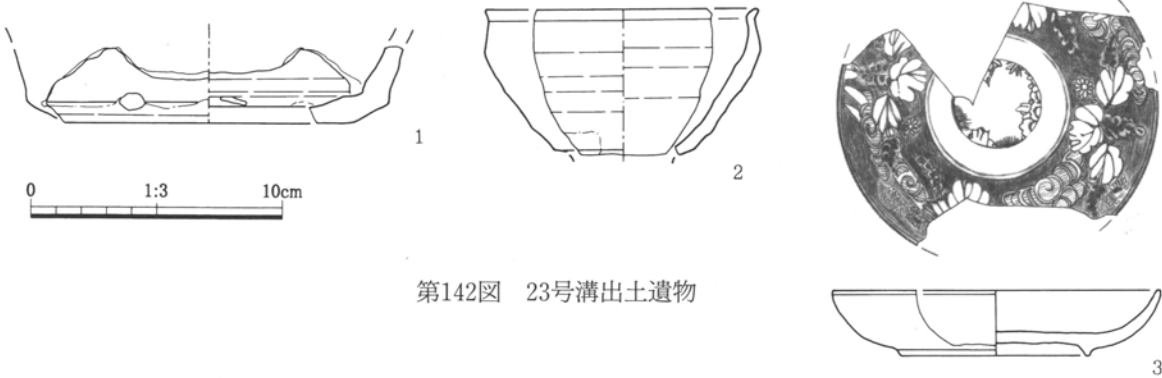
第140図 26・507・524号溝実測図



第141图 34·468·478号沟实测图

23号溝 (第138・142図、PL-26・27)

位置 830—665～675、825・830—675・680グリッド 走向 西→東 規模 幅0.32～0.77m、深さ0.07～0.23m、調査長18.00m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 D区の西に位置する。22溝より新しいと考えられる。 遺物 1は腰徳利(陶器)の底部破片。底径は約11.5cm。外面に鉄釉を施す。産地は瀬戸・美濃で、18世紀。2は天目茶碗(陶器)の口縁～胴部破片。口径は約11.0cm。轆轤成形で、産地は瀬戸・美濃で、17世紀。3は磁器皿2/3。口径12.9cm、底径7.4cm。酸化コバルト銅版絵付、口錆。産地は瀬戸・美濃で、近代。



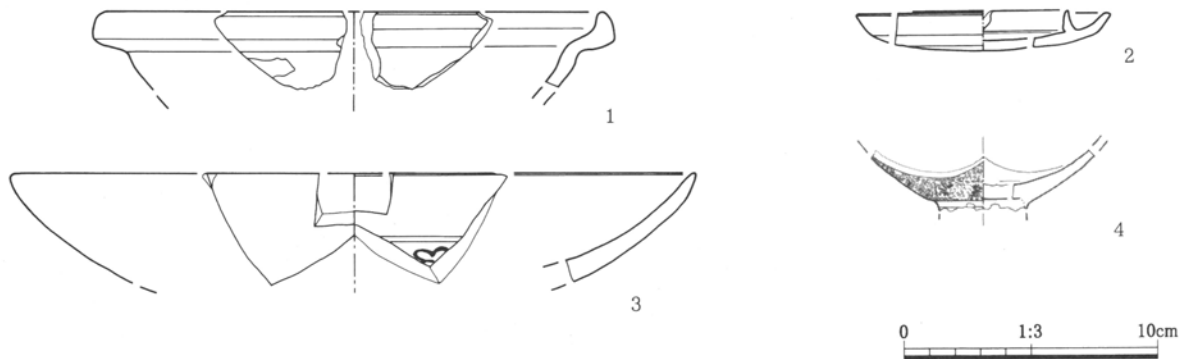
第142図 23号溝出土遺物

24号溝 (第139図、PL-27)

位置 805～825—640、830—645・650、825・830—660・665、825—665～680グリッド 走向 西→東 規模 幅0.28～0.80m、深さ0.02～0.19m、調査長59.43m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 D区の西に位置する。D区をL字状に2度流れを変えながら、西から東へ流下する。21・501溝との新旧関係は不明。 遺物 なし

26号溝 (第140・143図、PL-27)

位置 835～865—640・645、865～910—640グリッド 走向 北→南 規模 幅0.28～0.76m、深さ0.01～0.22m、調査長74.80m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 D区の中央やや北よりに位置し、E区から南へ流下する溝である。D・E区中間部分の524溝と、同時期の溝と考えられる。 遺物 1は小型播鉢(陶器)の口縁部破片。口径約20.6cmで、鉄釉を施す。産地は瀬戸・美濃で、18世紀。2は灯明受皿(陶器)。口径10.0cmで、内外面に鉄釉を施し、外面は釉をぬぐい取る。産地は瀬戸・美濃で、19世紀。3は青磁染付皿の口縁部破片。口径約27.0cm。産地は肥前で、17世紀。4は磁器碗の底部破片。コバルト型紙摺絵、近代。



第143図 26号溝出土遺物

第2章 遺構と遺物

501号溝 (第139図)

位置 800～820—640グリッド 走向 北→東 規模 幅1.25～2.80m、深さ0.03～0.11m、調査長35.02m 形状 浅い丸底状の断面を呈する。 調査所見 D区の東に位置する。24溝との新旧関係は不明。 遺物 なし

E区の溝

34号溝 (第141図、PL-28)

位置 875～905—670グリッド 走向 北→南 規模 幅0.21～0.35m、深さ0.01～0.11m、調査長29.12m 形状 浅い丸底状の断面を呈する。 調査所見 E区の西に位置する。D区21溝と同じ溝と考えられる。468溝との新旧関係は不明。 遺物 なし

468号溝 (第141図、PL-28)

位置 895—665・670、900—670グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.27～0.42m、深さ0.02～0.10m、調査長4.62m 形状 浅い丸底状の断面を呈する。 調査所見 E区の西に位置する。34溝との新旧関係は不明。 遺物 なし

478号溝 (第141図、PL-28)

位置 875—630～675グリッド 走向 西→東 規模 幅1.12～1.65m、深さ0.26～0.51m、調査長48.16m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 E区の南端に位置する。26・34溝よりも新しいと思われる。 遺物 なし

507号溝 (第140図)

位置 900・905—640・645グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.38～0.42m、深さ0.02～0.05m、調査長3.70m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 E区の中央部に位置する。26溝との新旧関係は不明。 遺物 なし

524号溝 (第140図、PL-28)

位置 870—625～635、865～875—640・645グリッド 走向 北→南、西→東 規模 幅1.28m、深さ0.14～0.34m、調査長22.50m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 E区の南端に位置する。水田に伴う水路としての溝で、874—644グリッド付近で、南方向と東方向へ分岐して流下する。 遺物 なし

(3) 耕作痕

概要

As-A下面では、A-2・A-3・C区から耕作痕が検出された。近世における上滝地区は、天狗岩用水から引水した代官堀によって、水田化された土地が多くなったことは、周知の事実である。また秋から次年の田植えまでは、麦・菜種・レンゲ等の栽培が行われ、二毛作が採用されていたことも想定される。しかし、当遺跡において標高差に大差がない中で、畝としてのみ用いられていた耕地と、水田としても利用されていた耕地とを分けるのは至難の業である。

そこで、ここで耕作痕として報告したのは、

- ①発掘調査現場における理解を重視する。
- ②耕作痕の検出された地区の標高が若干高い。
- ③平行した畝間状の遺構。

という三つの理由からである。夏期は水田として利用していた可能性は十分に考えられる。例えば、10耕作痕は、A-3区の遺構であるが、それよりも高位の調査区からも溝が検出されていることから、10耕作痕にも引水できる状況にあったことが想定できる。このようなことを考えれば、耕作痕の存在は、埋没時に畝であったことを実証することはできても、常に畝として利用されていた確証とはならない。その意味で、①微高地にある居住域②その周辺にあると思われる畝③さらにその周辺の水田域という、大まかな理解が必要であろう。以下、番号順に報告する。

10号耕作痕 計測表 (A-3区)

サク規模計測表

No.	上幅(cm)	下幅(cm)
A	29	18
B	30	17
C	43	37
D	29	18
E	57	44
F	37	28
G	42	31
H	25	15
I	27	17
J	28	—
K	20	12
L	24	14
M	25	16
N	14	10
O	22	12
P	37	22
Q	28	18
R	22	15
S	33	22
T	41	32
U	30	26
平均	30.6	21.2

サクG内部の耕作痕計測表

No.	上幅(cm)	下幅(cm)
G-1	48	14
2	33	13
3	38	13
4	44	12
5	42	11
6	38	12
7	50	14
8	59	12
9	38	12
10	40	13
11	40	12
12	38	13
13	49	15
14	61	13
15	49	13
16	38	12
17	49	13
18	48	13
19	44	16
20	42	12
21	28	11
22	38	14
23	39	14
平均	43.7	12.91

サクT内部の耕作痕計測表

No.	上幅(cm)	下幅(cm)
T-1	35	11
2	58	12
3	42	11
4	49	11
5	46	12
6	32	11
7	38	10
8	43	11
9	54	12
10	58	13
11	38	12
12	55	12
13	40	11
14	26	10
15	40	12
16	56	11
17	30	11
18	43	13
19	40	10
20	48	12
21	29	8
22	46	12
23	56	12
24	50	16
25	45	9
26	36	9
27	48	12
平均	43.74	11.33

第2章 遺構と遺物

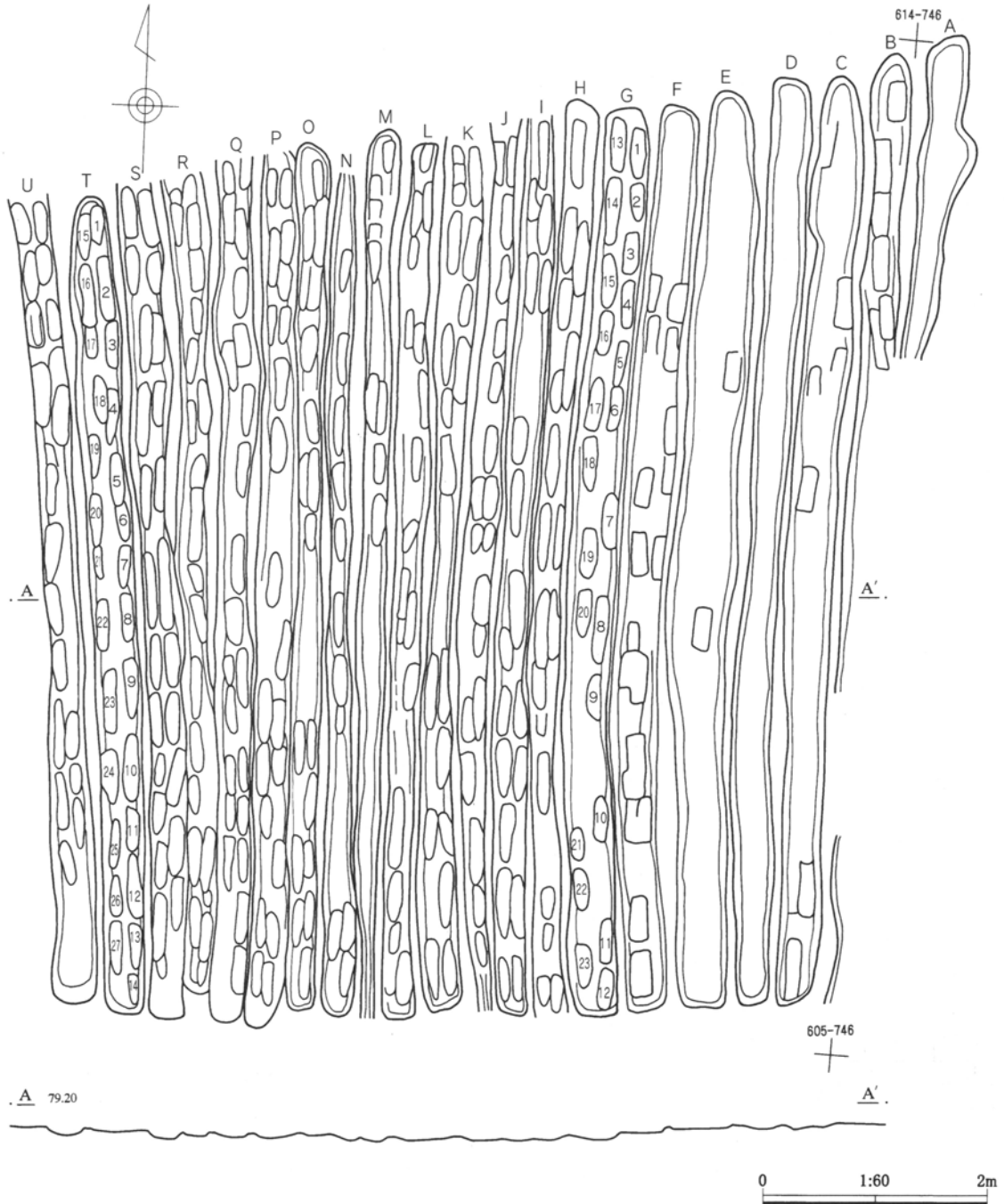
10号耕作痕 (第144図、PL-29)

位置 600~610-745・750グリッド (A-3区) サクの走向 N-13°-W

全体規模 長さ8.98m、幅8.58m、深さ0.01~0.1m 工具痕の幅 幅12cm前後

調査所見 ほぼ南北方向のサクが、21列検出された。またサク1列中に、2列の耕作痕が平行して存在する。耕作痕の規模は、前頁表の通りである。平均値を見てみると、G列では縦長43.7cm・横幅12.91cm、T列では縦長43.74cm・横幅11.33cmである。調査時から、この耕作痕については、エンガであるとの予想がなされていた。しかし、エンガに断定せずに、それ以外の農耕具(手鋤など)の可能性も考えておく必要がある。

遺物 なし



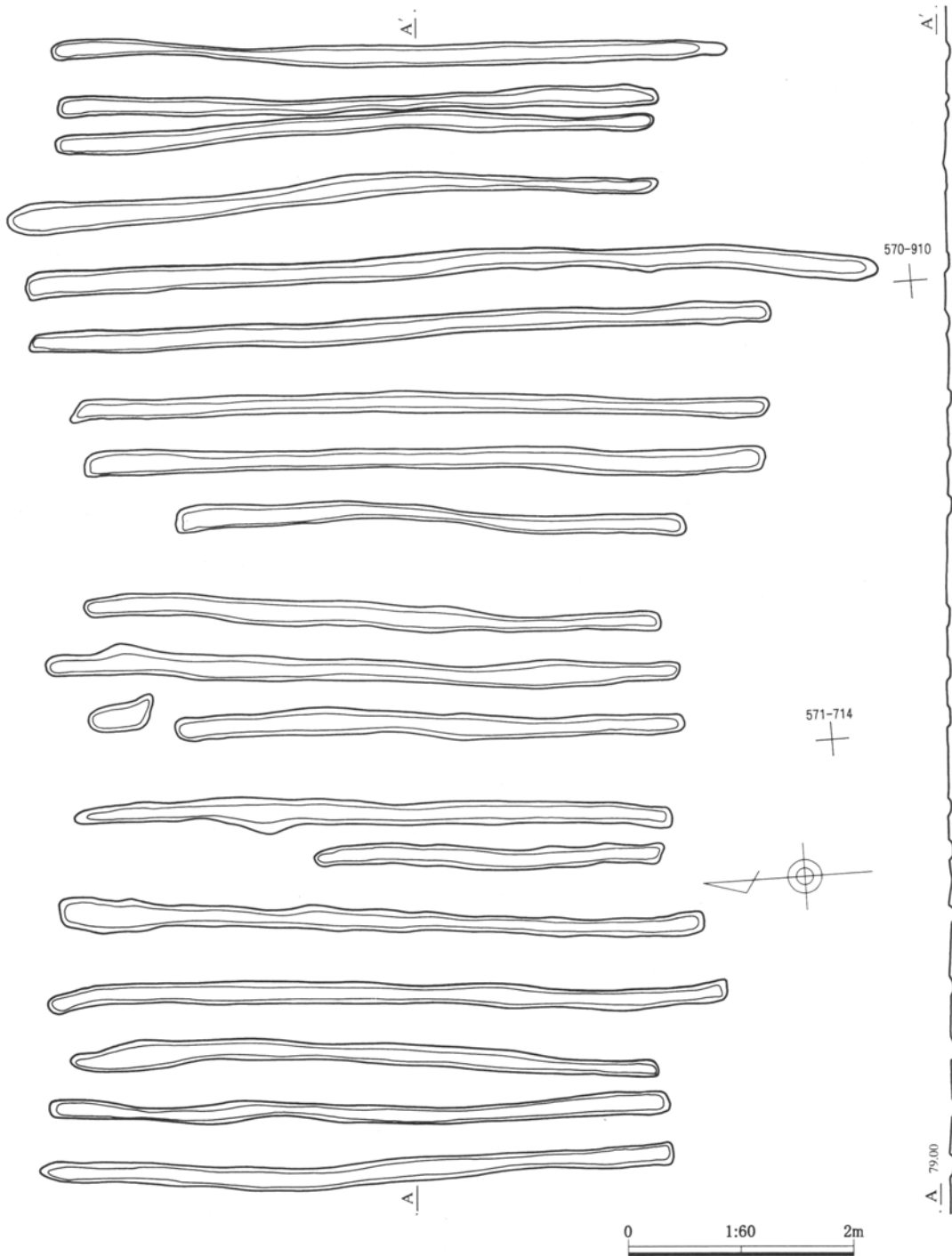
第144図 10号耕作痕実測図

11号耕作痕 (第145図、PL-29)

位置 570・575-705~715グリッド (A-2区) サクの走向 N 全体規模 長さ7.7m、幅10.3m

サク規模 長さ0.55~7.58m、幅0.10~0.30m、深さ0.01~0.04m 工具痕の幅 なし

調査所見 A-2区南西部で検出された、サク状の遺構である。20列のサクが検出された。As-A軽石降下以後の、耕作痕である。工具痕は、検出されなかった。 遺物 なし



第145図 11号耕作痕実測図



第146図 12号耕作痕実測図

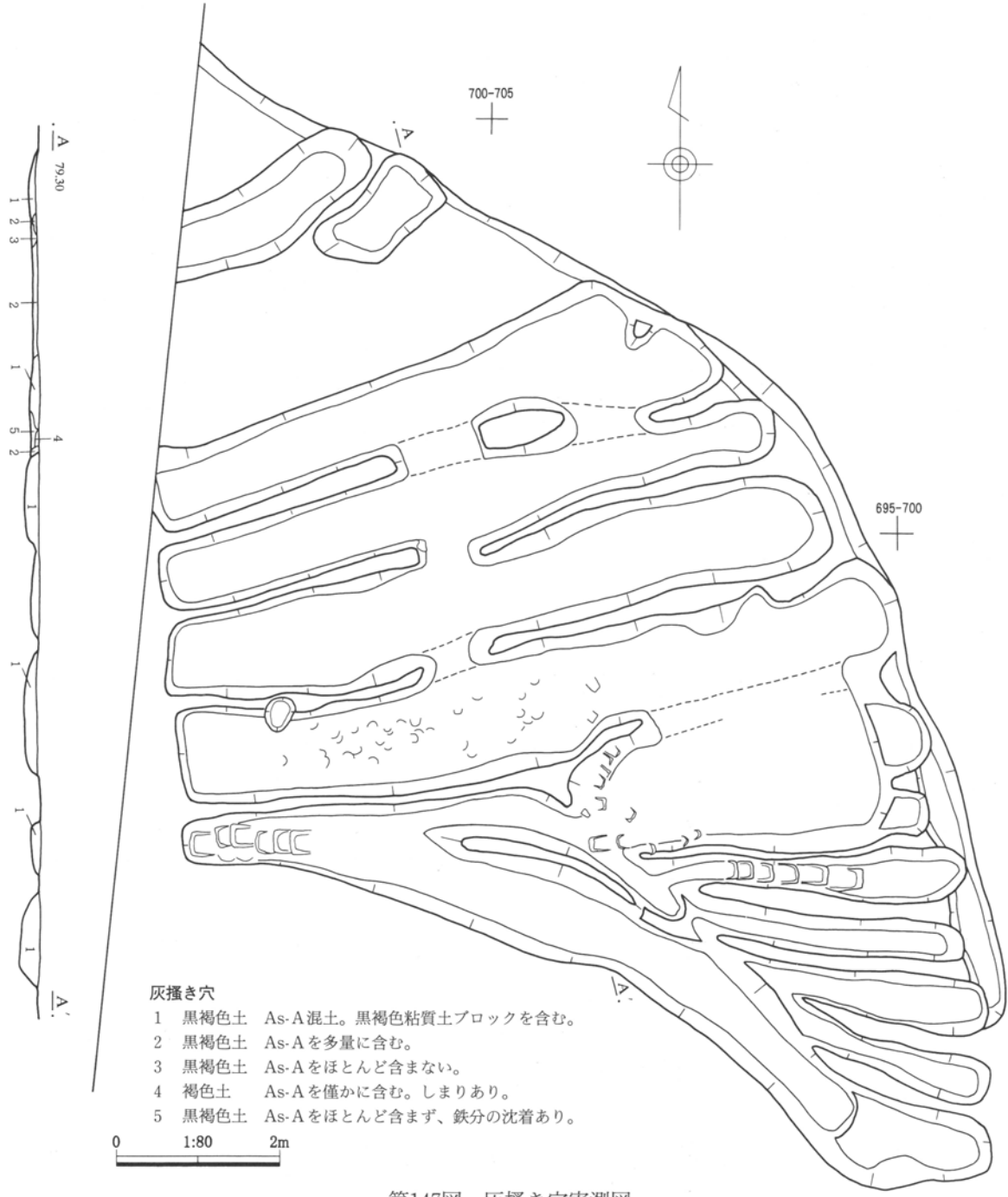
12号耕作痕 (第146図、PL-30)

位置 785-645~660グリッド (C区) サクの走向 N-40°-W 全体規模 長さ11.45m、幅5.32m
 サク規模 長さ0.90~10.28m、幅0.10~0.32m、深さ0.01~0.19m 工具痕の幅 幅7~16cm
 調査所見 C区北端中央部で検出された、サク状の遺構である。15本のサクが検出された。As-A軽石降下以後の、耕作痕である。連続した工具痕は、手鋤による耕作の痕と想定される。 遺物 なし

(4) 灰掻き穴

概要

天明3 (1,783) 年4～7月の浅間山の大噴火によって、群馬県地域は甚大な災害に見舞われた。降り積もる火山噴出物とともに、吾妻川流域やそれが合流した利根川流域では洪水によっても、甚大な被害を受けた。火山テフラの堆積は、軽井沢で60～90cm、松井田で30～90cm、高崎で15～45cm、前橋で15～20cm、埼玉県の



第147図 灰掻き穴実測図

第2章 遺構と遺物

熊谷で3～5cmであったという。当時の群馬県では、天明3年秋から激しい飢饉に襲われた。秋になると、ほとんどの農民が野山で山野草を採って食料としたが、碓氷郡・利根郡・吾妻郡等では、餓死する人が出たことも記録されている。

当遺跡にも15～45cmほどの、As-Aテフラが降下したことになるが、その火山灰を1ヶ所に集めて、耕地の復旧を図った痕跡が、「灰塚」とか「灰掻き穴」として、発掘調査で検出できる。当遺跡で検出できたのはAs-A軽石充填土坑（＝灰掻き穴）で、

- ①はじめに穴を掘って、土を出す。
- ②その中に火山灰を入れ、穴をふさぐ。
- ③その上を、はじめに掘り出した土で覆い、耕地を復旧する。

という工程で、災害復旧を行ったことが考えられる。天明3年以後の飢饉の影響が大きいのか、宝暦6(1,756)年から天明6(1,786)年の間に、群馬県内の人口は5万7千人減少している。餓死者も、相当数あったと考えられる。そのような荒廃した状況の中で、自らの耕地を復旧して、力強く生き抜いていった人々もいた。そのような人々の、耕地復旧に挑んだ姿の名残りが、B区の灰掻き穴と考えられよう。

(参考文献) 『—第52回企画展—天明の浅間焼け』群馬県立博物館 1991。

灰掻き穴 (第147図、PL-31)

位置 785—645～660グリッド (B区) サクの走向 N—40°—W 規模 長さ0.9～10.3m、幅1.0～3.4m、深さ0.01～0.34m 工具痕の幅 幅7～16cm 調査所見 B区北端中央部で検出された、サク状の遺構である。As-A軽石降下以後の、耕作痕である。連続した工具痕は、手鋤による耕作の痕と想定される。天明3(1,783)年のAs-A降下以後、上滝地区の人々が、火山灰によって荒廃した耕地を、復旧していたことの確証である。 遺物 なし

(5) 土 坑

概要 (第149～151図、PL-32～35)

土坑は、A-3区とAランプから、計13基が検出された。土坑の性格については、慎重を期さねばならないが、そのほとんどが水田にともなうものではないと考えられる。では、何のための土坑なのかとなると、性格不明と言わざるを得ない。取水口の付近にあるものは、取水施設に伴うものとの理解も可能であるが、断定はできない。

また、報告は計測表とした。遺物・遺構は、それぞれ分割し、区順に遺物・実測図を掲載した。以下、A-3区・Aランプの順に報告する。

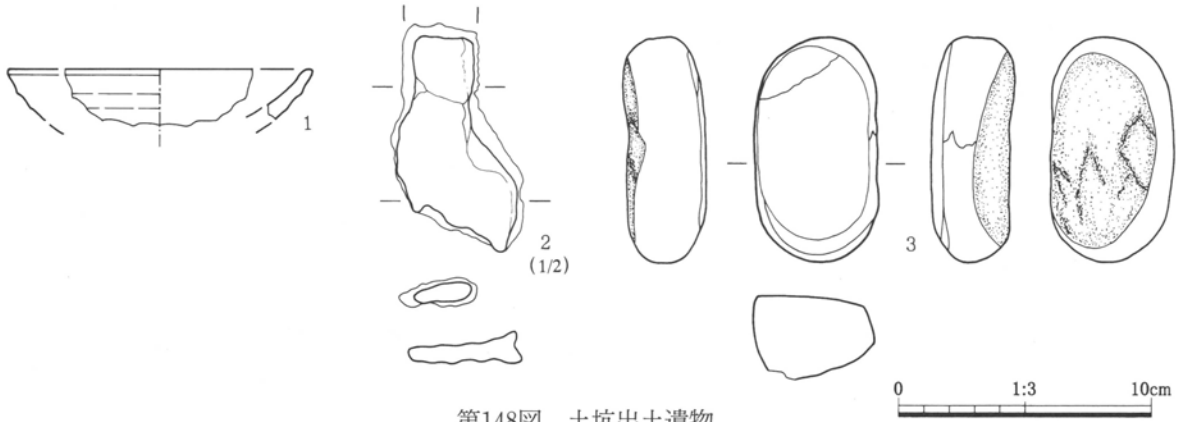
A-3区の土坑出土遺物 (第148図、PL-32)

1は363土坑から出土した小皿(陶器)の口縁片。轆轤成形で、内外面には長石釉がかけられ、貫入が見られる。産地は美濃で、17世紀である。

1. As-A下面 (近世～近代)

2は364土坑から出土した、用途不明の鉄製品である。縦6.0cm、横3.5cm、厚さ0.80cm。

3は366土坑から出土した砥石 (榛名山ニツ岳軽石)。325g。



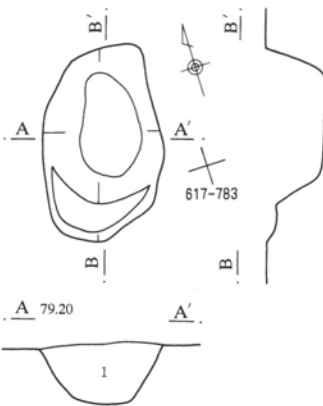
第148図 土坑出土遺物

土坑一覽表

土坑番号	調査区	位置(グリッド)	長軸方向	平面形状	規模(cm)			遺物番号	備考
					長軸	短軸	深さ		
323	A - 3	615-780	N-20°-E	楕円形	102	63	33		
363	〃	675-790	N-36°-W	隅丸方形	174	142	8	1	
364	〃	690-785	N-24°-W	楕円形	131	106	76	2	P-879より古い
365	〃	695-785	N-18°-W	円形	61	56	45		8井戸より新しい
366	〃	690・695-785・790	N-3°-W	楕円形	64	79	44	3	
367	〃	695-785	N-21°-E	円形	69	67	13		
368	〃	705・710-785	N-21°-E	不整形	306	194	24		
369	〃	665-805・810	N-2°-W	楕円形	120	38	8		
393	Aランプ	570-590	N-2°-W	隅丸長方形	132	61	68		
394	〃	570・575-590	N-27°-E	楕円形	151	54	13		
395	〃	620-585	N-90°-E	〃	71	27	11		
397	〃	635-585	N-3°-E	円形	78	69	37		
398	〃	635・640-585	N-15°-E	楕円形	130	71	37		

A-3区

323号土坑



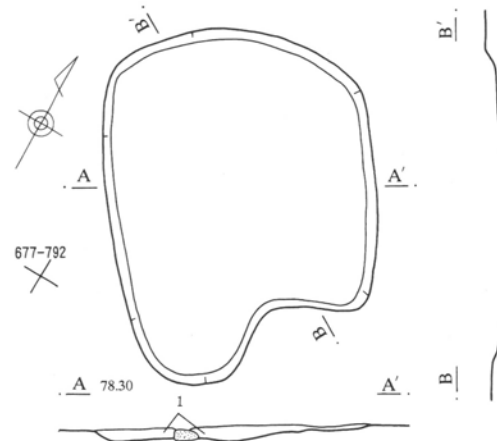
323号土坑

1 褐灰色土
As-Aを多量に含む。
粘性弱い。

363号土坑

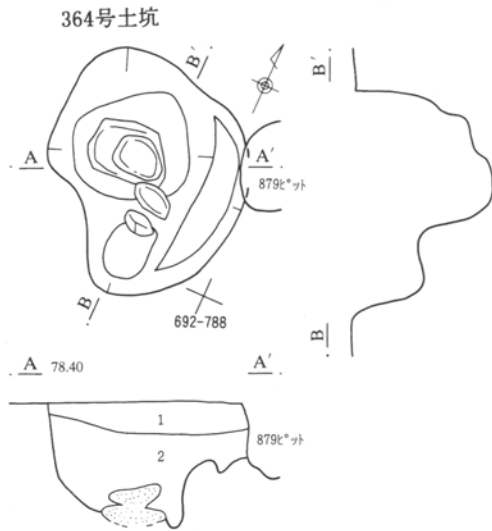
1 灰白色土
粘質土。As-A混土を
含む。

363号土坑

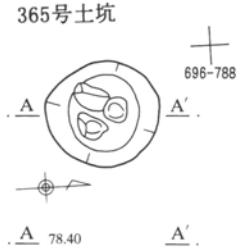


第149図 323・363号土坑実測図

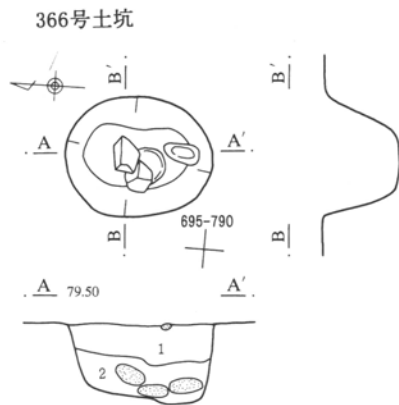
第2章 遺構と遺物



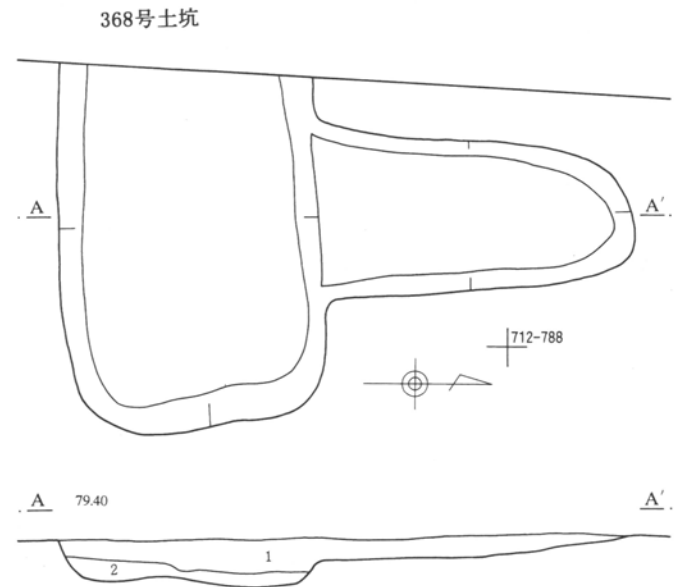
- 364号土坑
- 1 褐灰色土 粘性ややあり。As-A・白色粘質土ブロックを含む。
 - 2 黒褐色土 粘性ややあり。FA・灰白色粘質土ブロックを含む。



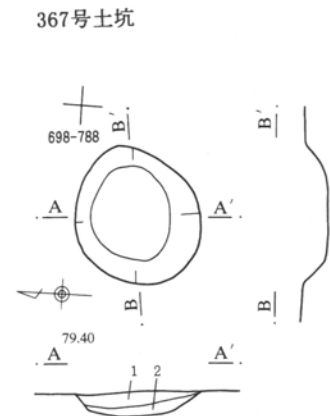
- 365号土坑
- 1 褐灰色土 粘性ややあり。FAブロックを含む。
 - 2 灰黄褐色土 粘性ややあり。FA粒を含む。



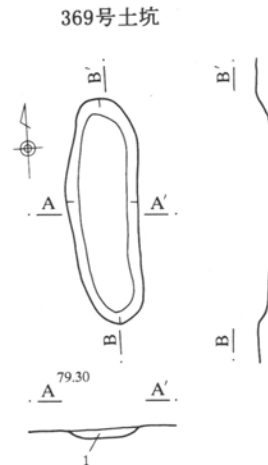
- 366号土坑
- 1 褐灰色土 粘性弱い。As-B混土。FA粒を含む。
 - 2 灰黄褐色土 粘性弱い。FAブロックを含む。



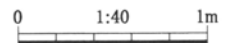
- 368号土坑
- 1 褐灰色土 FA粒・黒色粘質土ブロック・As-Aを含む。
 - 2 褐灰色土 FA粒・黒色粘質土ブロックを含む。



- 367号土坑
- 1 褐灰色土 粘性弱い。砂質土。
 - 2 にぶい黄褐色土 粘性弱い。褐灰土色ブロックを含む。



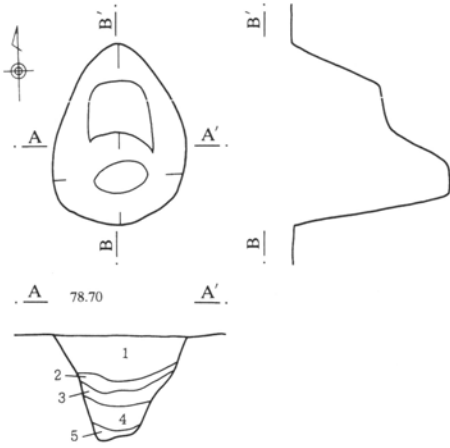
- 369号土坑
- 1 褐灰色土 やや粘性あり。As-Aを含む。



第150図 364~369号土坑実測図

Aランブ

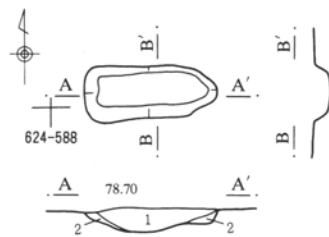
393号土坑



393号土坑

- 1 灰褐色土 黄褐色がブロック状に含む。黒色土粒を微量に含む。粘性があり、しまり弱い。
- 2 灰褐色土 黒色土粒を多量に含む。粘性・しまりあり。
- 3 灰褐色土 黒色土粒を微量に含む。鉄分を含む。粘性あり。
- 4 灰黄褐色土 鉄分を微量に含む。粘性あり。しまりなし。
- 5 黄褐色土 赤色土粒を微量に含む。粘性あり。しまりなし。

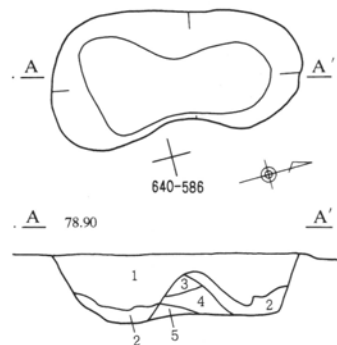
395号土坑



395号土坑

- 1 褐色土 As-Aを多量に含む。粘性なし。しまり強い。
- 2 暗褐色土 鉄分を多量に含む。粘性・しまりなし。

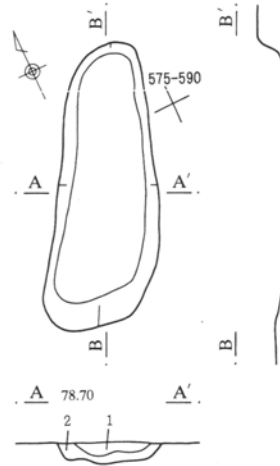
398号土坑



398号土坑

- 1 灰褐色土 粘性弱い。砂質土を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 黄褐色土と1層の混土。
- 3 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Aを含む。
- 4 黒褐色土 粘性あり。しまっている。
- 5 黒褐色土 粘性あり。黄褐色小ブロック含む。

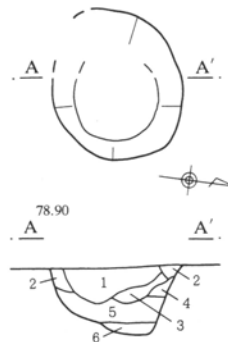
394号土坑



394号土坑

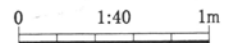
- 1 暗褐色土 鉄分を含む。As-Aを微量に含む。粘性なし。しまりあり。
- 2 褐色土 As-Aを多量に含む。粘性なし。しまり強い。

397号土坑



397号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 粘性弱い。褐灰色土ブロックを含む。
- 2 褐灰色土 粘性弱い。As-Aを含む。
- 3 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Aを含む。
- 4 2層に近似。
- 5 灰黄褐色土 粘性弱い。黄褐色土ブロック含む。
- 6 にぶい黄褐色土 粘性弱い。FAブロック含む。



第151図 393~395・397・398号土坑実測図

(6) 井戸

概要

As-A下面では、A-3区から2基の井戸が検出された。いずれも素掘りの井戸で、石組みや木枠はない。平面形態は円形で、断面は円筒状を呈する。埋土からは、石礫や遺物が集中して出土しており、人為的に埋められたことが想定される。埋土にAs-Aの一次堆積層がないことから、As-A軽石降下後に埋没したと考えられる。また、付近の土坑・ピットに、井戸施設の一部と考えられそうなものもある。

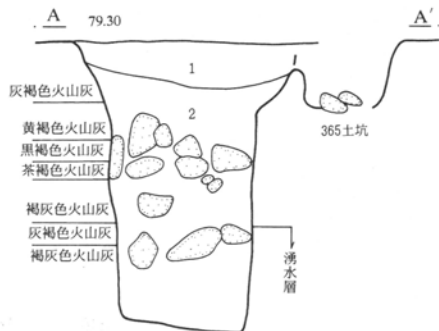
A-3区の井戸

8号井戸 (第152～154図、PL-35・36)

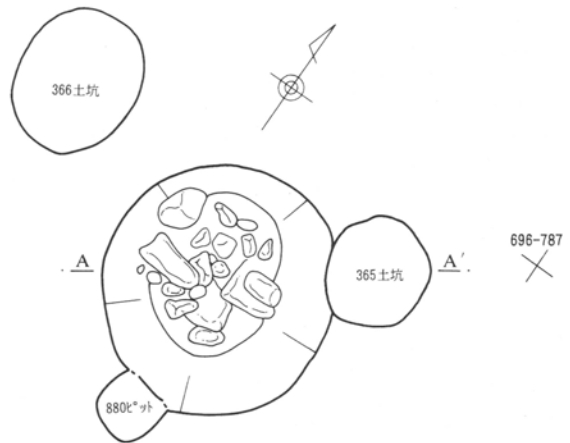
位置 690—785グリッド 長軸方位 N—75°—E 規模 長軸134cm、短軸124cm、深さ153cm 重複 なし 形状 円形

調査所見 人頭大～拳大の礫が、埋没土中から出土している。石組みを持たない素掘りの井戸である。井戸のまわりに、365・366土坑があり、且つ井戸南部に880ピットがある。この3つの穴が、井戸の上屋施設の痕跡の可能性も考えられる。とくに、365・366土坑の埋没土からは、礫が出土しており、井戸と様相を同じくする。鑿井時期は、水田跡より新しいと考えられる。湧水層は、確認面から80cmほど下層である。水量はにじみ出る程度であった。

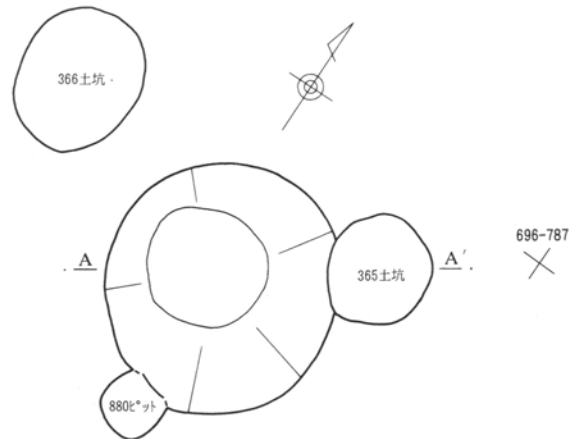
遺物 1は加工石材(軽石)、砥石、2,624g。2は上臼(牛伏砂岩)、5,938g。3は加工石材(粗粒輝石安山岩)、7,200g。用途不明。



遺物出土状況

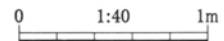


平面図



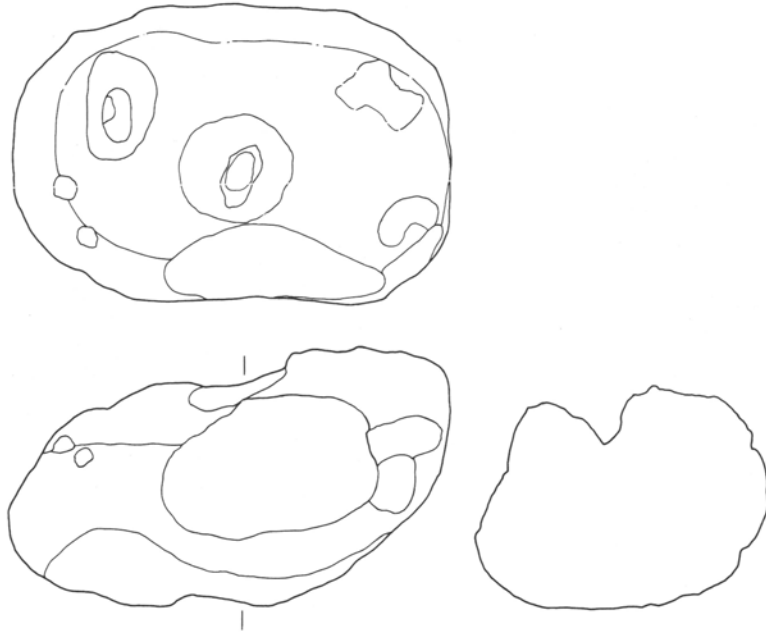
8号井戸

- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。FA粒を含む。
- 2 褐灰色土 粘性弱い。FAを粒含む。

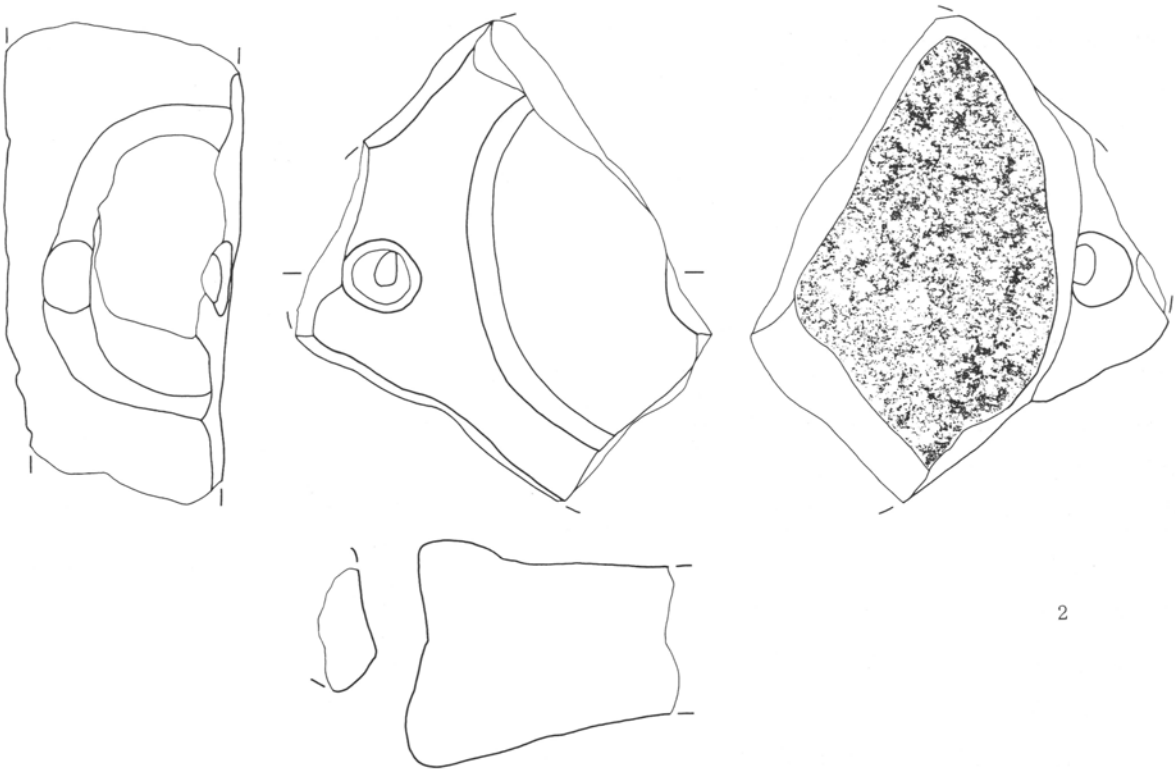


第152図 8号井戸実測図

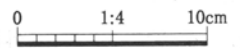
1. As-A下面 (近世~近代)



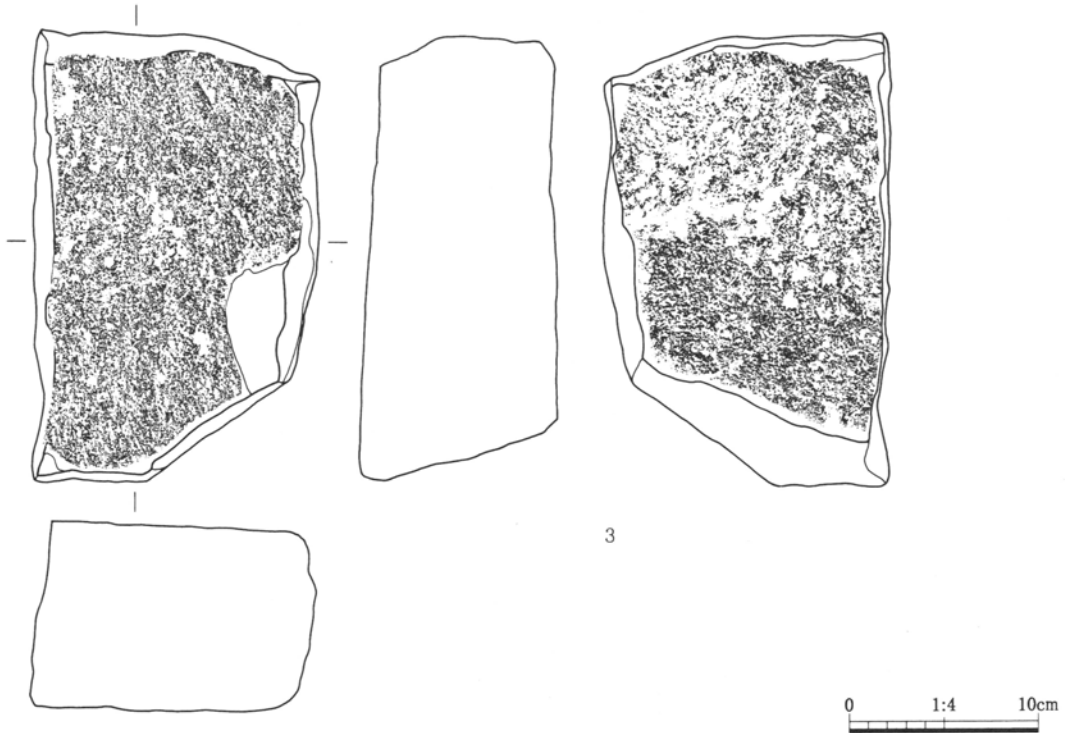
1



2



第153図 8号井戸出土遺物(1)



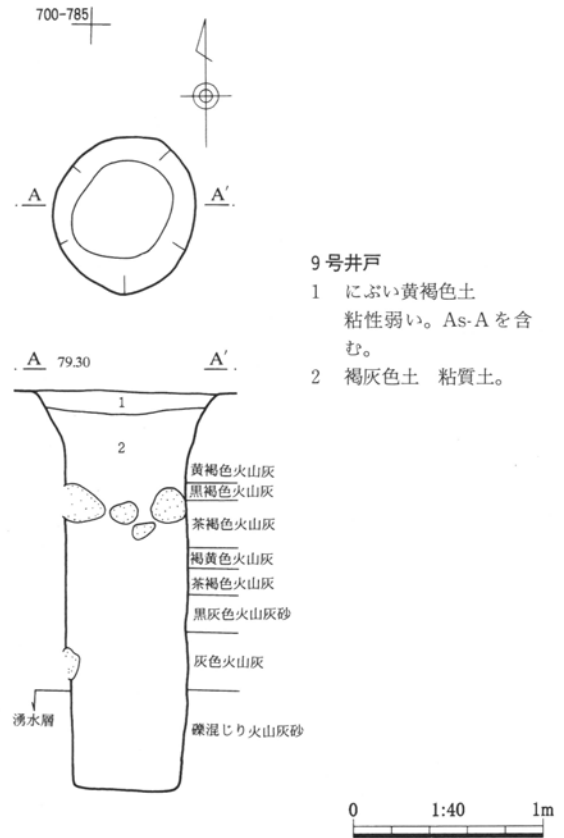
第154図 8号井戸出土遺物(2)

9号井戸 (第155~158図、PL-36・37)

位置 695-785グリッド 長軸方位 N-62°-E 規模 長軸100cm、短軸95cm、深さ220cm 重複 なし 形状 円形

調査所見 人頭大~拳大の礫が、埋没土中から出土している。石組みを持たない素掘りの井戸である。上屋等の施設の有無については不明である。鑿井時期は、水田跡よりも新しいと思われる。湧水層は、確認面から100cmほど下層の礫混じりの砂層である。水量は、井壁よりにじみ出る程度であった。遺物 1は陶器碗の体~底部片。飴釉を施す。見込に灰による斑状の変色部あり。産地は瀬戸・美濃で、18世紀中以前。2は磁器碗の体~底部片。雪輪梅樹文。波佐見産で、18世紀前~中。

3~5は焙烙。3は口径39.1cm、底径35.5cm、器高5.6cm。外面煤附着、2つの補修孔が見られる。4は器高5.6cm。外面に指頭痕あり。5は内面に耳が剥がれた痕跡あり。



9号井戸

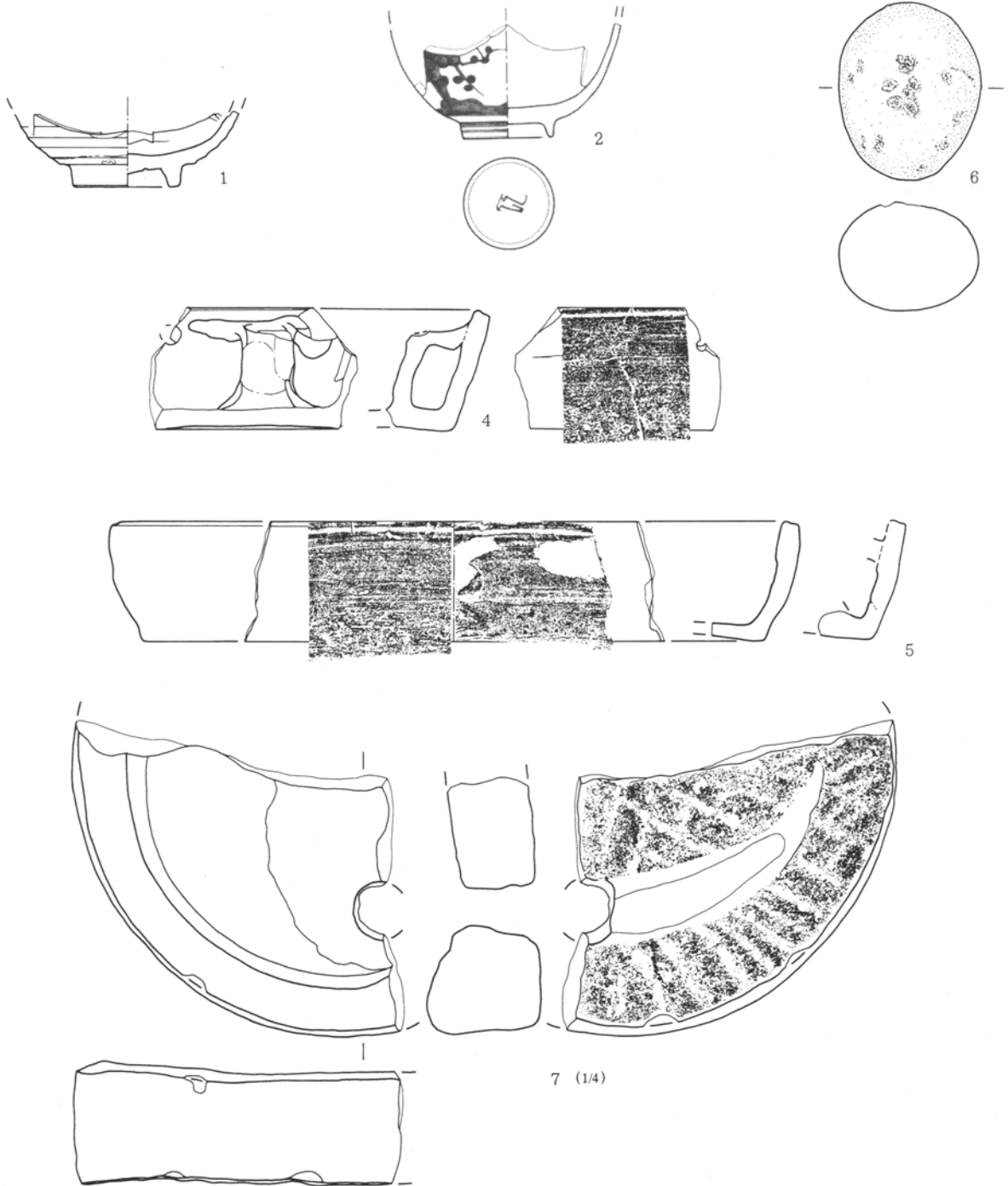
- 1 におい黄褐色土 粘性弱い。As-Aを含む。
- 2 褐灰色土 粘質土。

第155図 9号井戸実測図

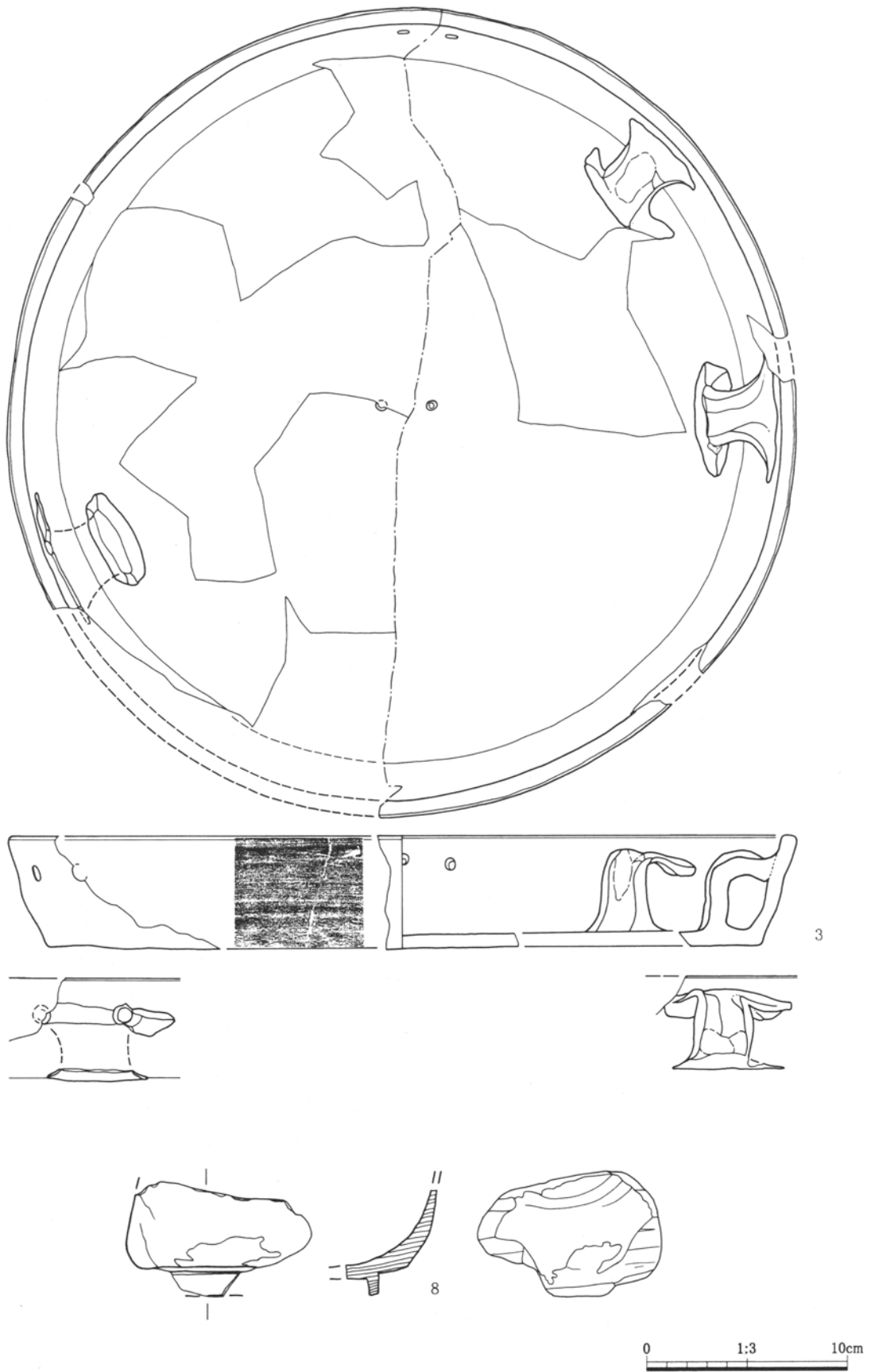
1. As-A下面 (近世～近代)

6は変質安山岩製の凹石。縦8.2cm、横6.1cm、高さ5.0cm、366g。7は牛伏砂岩製の石臼(上臼)。重さ3,338g。

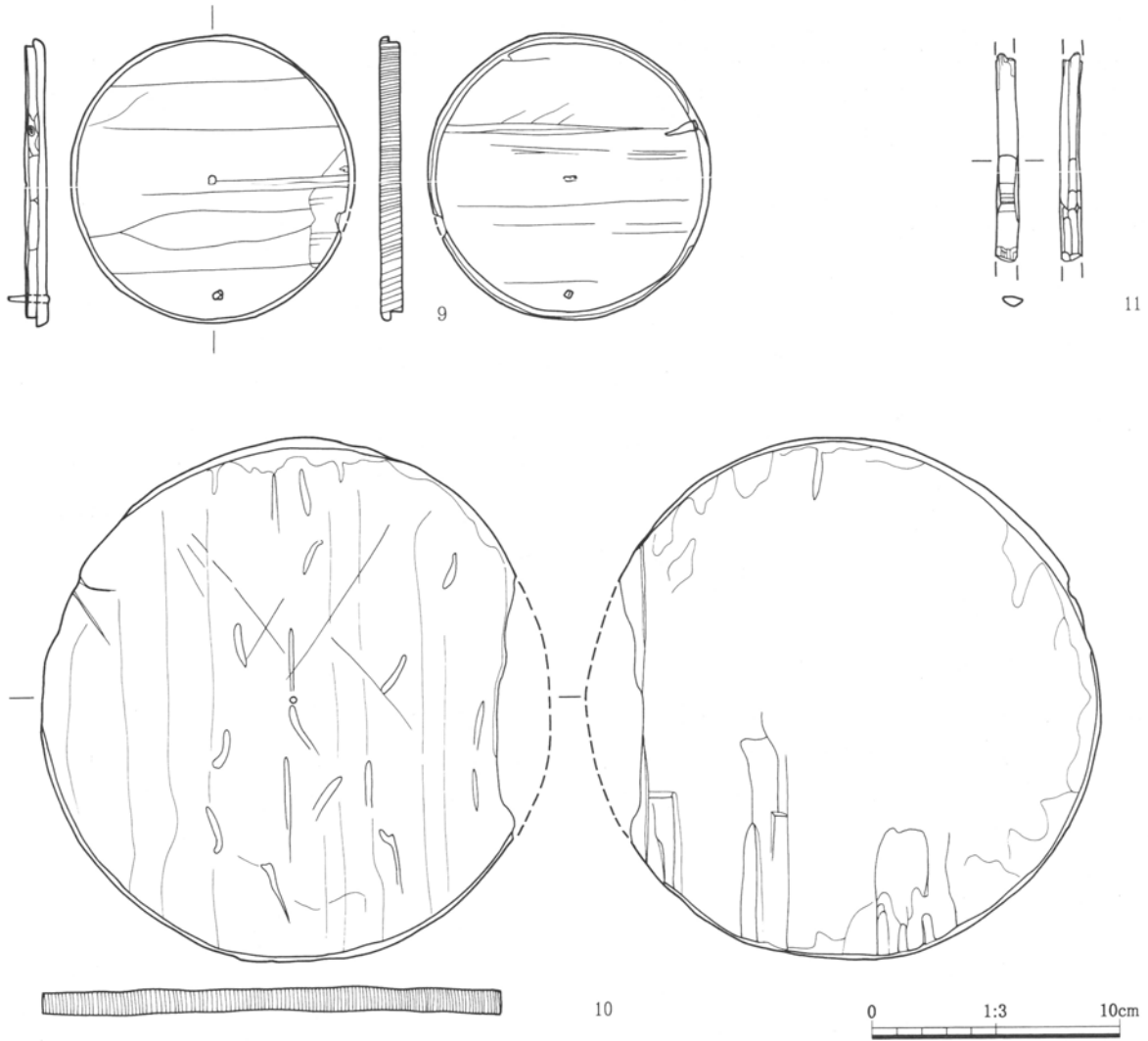
8～11は木器。8は漆碗の体～底部片。内外面に漆が塗られている。9は、ヒノキを用いた柄杓の底板。直径11.6cm、厚さ0.9cmで、横板をうける切り込みが見られる。10は桶底板、材はヒノキ。直径21.0cm、厚さ1.0cmで一部欠損。11は竹製品。長さ8.4cm、幅0.9cm、厚さ0.5cm。加工痕が見られ、篋状を呈すが、用途不明。



第156図 9号井戸出土遺物(1)



第157図 9号井戸出土遺物(2)



第158図 9号井戸出土遺物(3)

(7) 杭 列

概 要

As-A下面で、杭列は8基検出されている。これらはいずれもA-3区南半部で、北西から南東にきれいに並んで検出されており、近代の溝または畦畔に伴う新しい遺構と思われる。はっきりとした遺構は検出できなかったが、杭列に沿うように低平な畦畔が検出されており、畦畔に沿った補強・安全対策などの機能が考えられる。全ての杭列が、一連の同じ性格をもった、同時期の遺構であろう。ここでは、調査時の関係で、8～15杭列に分けて報告した。

8号杭列 (第159図、PL-37・38)

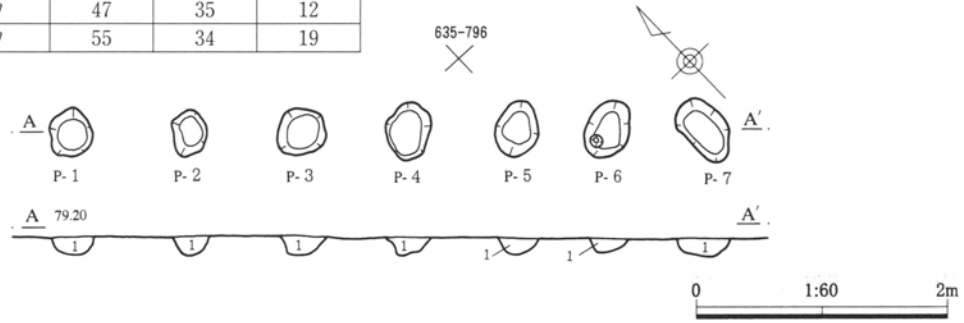
位置 630—790・795、635—795グリッド 調査所見 A-3区中央部に位置する。ほぼ等間隔に並ぶ。35～60cmほどの等間隔に直列する。 遺物 なし

杭穴

ピット番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	円形	36	35	20
P-2	楕円形	34	25	16
P-3	円形	39	38	15
P-4	楕円形	47	36	16
P-5	//	43	36	15
P-6	//	47	35	12
P-7	//	55	34	19

8号杭列

1 褐灰色土 やや粘性ある褐灰土主体に、にぶい黄褐色小ブロックを含む。As-Aを含む。



第159図 8号杭列実測図

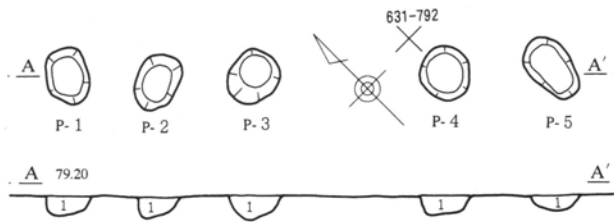
9号杭列 (第160図、PL-37~39)

位置 625・630—790グリッド 調査所見 A-3区中央部に位置する。ほぼ等間隔に並ぶ。35~110cmほどの間隔で直列する。 遺物 1は陶器皿の体~底部片。P-3から出土。灰釉を施す。いわゆる御深井、木瓜型の皿。鉄釉が無いことから比較的新しい時期と思われる。瀬戸・美濃で、17~18世紀。

杭穴

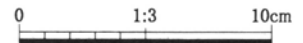
ピット番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	楕円形	46	32	14
P-2	//	46	33	15
P-3	円形	45	40	16
P-4	//	42	40	19
P-5	楕円形	52	31	16

概念図



9号杭列

1 褐灰色土 やや粘性ある褐灰土主体に、にぶい黄褐色小ブロックを含む。As-Aを含む。



第160図 9号杭列実測図・出土遺物

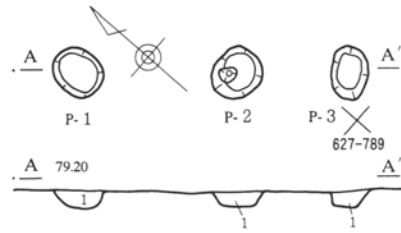
10号杭列 (第161図、PL-37・39)

位置 625—785・790グリッド 調査所見 A-3区中央部に位置する。ほぼ等間隔に並ぶ。53~85cmほどの等間隔に直列する。 遺物 P-2から、磁器片1点出土。

1. As-A下面 (近世～近代)

杭穴

ピット番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	円形	40	36	16
P-2	〃	40	40	20
P-3	楕円形	40	28	16



10号杭列

1 褐灰色土 やや粘性ある褐灰土主体に、にぶい黄褐色小ブロックを含む。As-Aを含む。

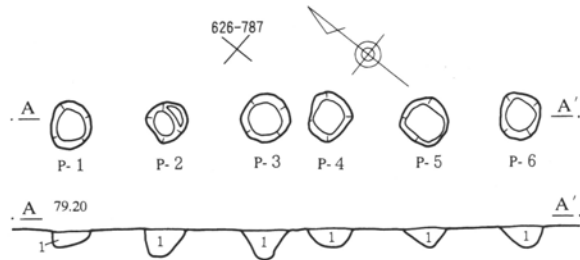
第161図 10号杭列実測図

11号杭列 (第162図、PL-37・39・40)

位置 620・625-785グリッド 調査所見 A-3区中央部に位置する。ほぼ等間隔に並ぶ。15~40cmほどの等間隔に直列する。 遺物 なし

杭穴

ピット番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	不整形	38	30	14
P-2	円形	31	30	24
P-3	〃	39	39	14
P-4	〃	39	35	13
P-5	〃	36	36	16
P-6	〃	36	33	13



11号杭列

1 褐灰色土 やや粘性ある褐灰土主体に、にぶい黄褐色小ブロックを含む。As-Aを含む。

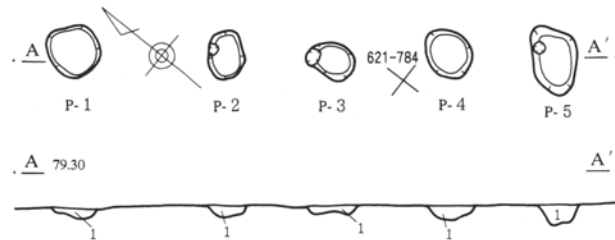
第162図 11号杭列実測図

12号杭列 (第163図、PL-37・40)

位置 615・620-780・785グリッド 調査所見 A-3区中央部に位置する。ほぼ等間隔に並ぶ。35~60cmほどの等間隔に直列する。 遺物 なし

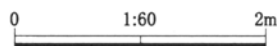
杭穴

ピット番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	円形	42	41	8
P-2	楕円形	38	28	10
P-3	〃	36	28	9
P-4	円形	38	34	16
P-5	楕円形	52	34	17



12号杭列

1 褐灰色土 やや粘性ある褐灰土主体に、にぶい黄褐色小ブロックを含む。As-Aを含む。



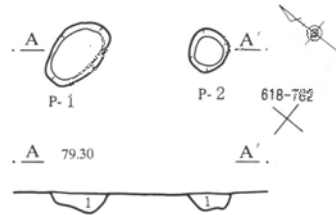
第163図 12号杭列実測図

13号杭列 (第164図、PL-37・40)

位置 615—780グリッド 遺物 なし

杭穴

ピット番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	楕円形	60	39	18
P-2	円形	34	32	13



13号杭列

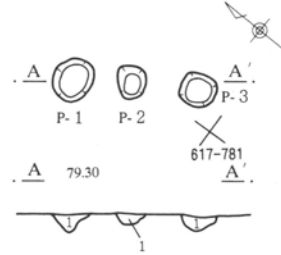
1 褐灰色土 やや粘性あり。As-Aを含む。

14号杭列 (第164図、PL-37・41)

位置 615—780グリッド 遺物 なし

杭穴

ピット番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	円形	35	31	16
P-2	〃	26	24	9
P-3	〃	28	26	10



14号杭列

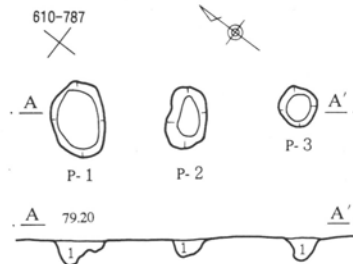
1 褐灰色土 やや粘性あり。As-Aを含む。

15号杭列 (第164図、PL-37・41)

位置 615—775・780グリッド 遺物 なし

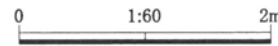
杭穴

ピット番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	楕円形	59	42	12
P-2	不整形	47	32	18
P-3	円形	29	28	16



15号杭列

1 褐灰色土 やや粘性あり。As-Aを含む。



第164図 13～15号杭列実測図

(8) ピット

概要 (第165・166図、PL-41・42)

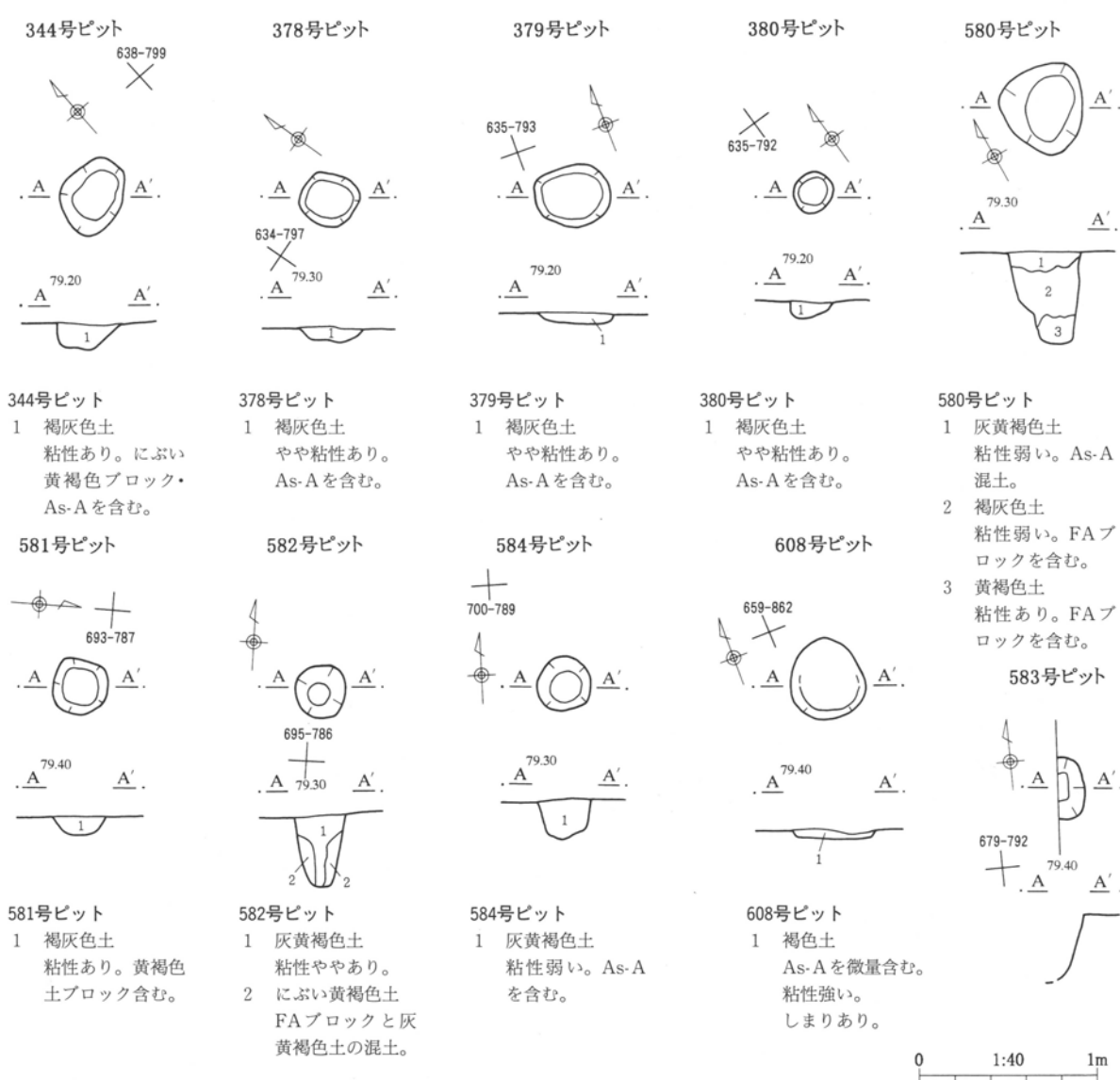
As-A下面におけるピットは、A-3区・Aランプからのみ検出された。総数は、20基である。すべてのピットが独立しており、遺構の性格は不明である。

P-847・848は、413溝より新しいピットである。またP-880は、8井戸に接するが、上屋構造物にともなうものなのかどうか、またその新旧は不明である。P-910は、324溝と重複しているが、324溝との新旧関係は不明である。

また、計測値で(+)マークが入っているものは、調査区外にまで遺構が延びており、全体の形状が不明な場合である。また、(-)は計測不能を示している。以下、一覧表によって報告する。

ピット一覧表

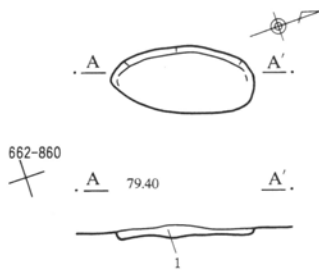
番号	調査区	グリッド	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備	考
344	A - 3	635-795	楕円形	45	36	15		
378	〃	630-795	円形	34	30	8		
379	〃	630-790	楕円形	44	37	6		
380	〃	630-790	円形	23	22	10		
580	〃	675-680-790	〃	52	47	52		
581	〃	690-785	〃	34	32	10		
582	〃	695-785	〃	31	29	41		
583	〃	690-790	〃	35	14+	80		
584	〃	695-785	〃	31	30	21		
608	〃	655-860	〃	45	41	5		
609	〃	660-855-860	楕円形	76	36	7		
610	〃	655-850	〃	137	42	8		
847	〃	640-820	不整形	37	22	24	413溝より新しい	
848	〃	640-820	〃	43	36	28	413溝より新しい	
879	〃	690-785	円形	50	46	41		
880	〃	690-785	〃	21	20	34	8井戸と新旧不明	
908	〃	585-770	〃	46	41	20		
909	〃	585-770	〃	56	44	51		
910	〃	585-770	不整形	43	31	37	324溝と新旧不明	
1078	Aランプ	590-585	楕円形	50	26	—		



第165図 ピット実測図(1)

第2章 遺構と遺物

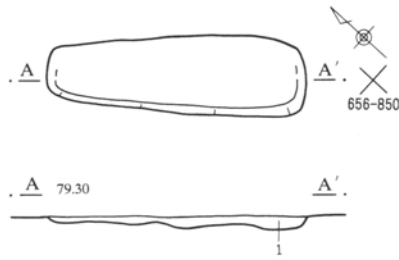
609号ピット



609号ピット

- 1 黒褐色土
As-Aを多量に含む。粘性なし。
しまりあり。

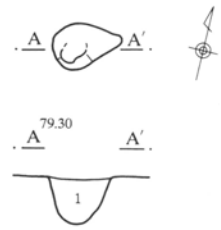
610号ピット



610号ピット

- 1 褐灰色土
しまり・粘性ややあり。

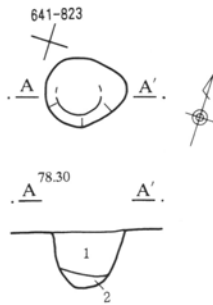
847号ピット



847号ピット

- 1 暗褐色土
As-Bを多量に含む。
粘性なし。

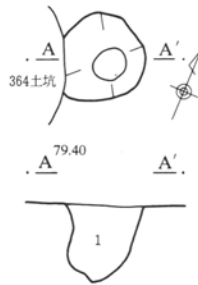
848号ピット



848号ピット

- 1 黒褐色土
As-Bを多量に含む。粘性なし。
2 暗褐色土
FAブロック含む。

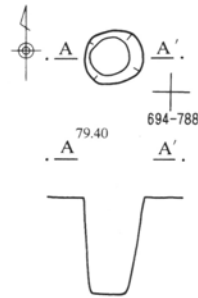
879号ピット



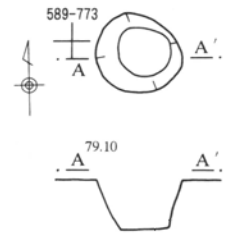
879号ピット

- 1 灰黄褐色土
粘性ややあり。黒褐色粘質土・FAブロックを含む。

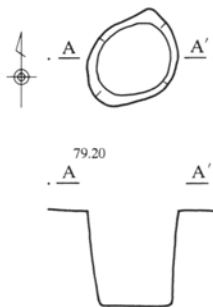
880号ピット



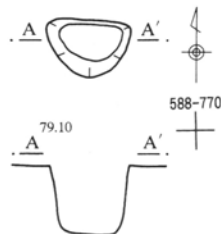
908号ピット



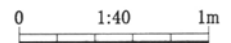
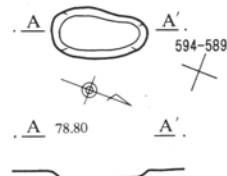
909号ピット



910号ピット



1078号ピット



第166図 ピット実測図(2)

二重の堀に囲まれ、掘立柱建物・井戸が密集する屋敷跡。A-3区の北側部分は、中・近世の豪族屋敷だった。その周辺には、溝が縦横に走る。

鎌倉時代～江戸時代前半の上滝町を物語る。



堀が巡る屋敷跡 (右下は、6世紀初頭の極小区画水田)

中・近世面について

中・近世面は、As-A下面とAs-B下面の間の洪水層下から検出された。遺構は、溝221条、耕作痕3、土坑264基、井戸14基、屋敷跡1、掘立柱建物13基、杭列7基、ピット489基、火葬墓1基である。

高崎市上滝町(旧上滝村)は、東は滝川、西は井野川によって挟まれた地域にある。中世においては、滝川(天狗岩用水)は開削されていなかった。古墳時代以降、この地域は主に水田化されていた。しかし、水位の低い微高地は、畠地として利用されていたことが推察できる。古墳～平安時代の水田跡が検出されているから、中世段階の洪水等によって標高が高くなってしまい、従来の灌漑用水の水位では、潤せなくなってしまった耕地部分もできたと考えられる。

上記の想像を裏付けるかのような、自然科学分析結果が出ている。自然科学分析によると、E区の中世と考えられる土層中(As-B層直上層)からは、6000個/g以上のプラント・オパールが検出されており、江戸時代に滝川(天狗岩用水)が開削される以前から、水田化されていたことは想定できる。しかし、同様に分析したA-1・F区では、プラントオパールの検出が少なく、水田としての想定はしにくい。A-1区は、古墳時代には水田化されていたことがわかっている。それは、6世紀の極小区画水田が、A-1区からも検出されていることから確認できる。これらのことから、中世の上滝地区では、水田を志向しながらも、度重なる自然災害による土砂の堆積によって、水田に水を回すことが不可能となり、畠地等に変化してしまった場所もあったと考えられよう。当遺跡地内において、調査区によってプラントオパールの密度が異なることや、土坑・ピットの検出状況等から、時代的に異なった耕地の利用をしていたことが予想される。

そのような耕地利用の状況下で、より広い耕地を水田化するために開削されたものが、近世初頭における天狗岩用水(代官堀)であったと考えられる。そこには、水田を志向した昔の人々の考えを、垣間見ることができるのではないだろうか。もちろん畠でしか栽培できない作物もあり、全ての土地の水田化を目指した、というように過大評価することは避けなければならないが、それでも水田志向の方向は、認めなければならないように思われる。

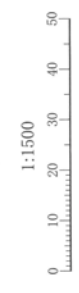
今回の調査では、残念ながら畦畔や水口等の、一連の中世段階の水田跡は検出できなかったが、この地域が中世において、いくらかの畠地も含みながらも水田化されていたことは、ほぼ間違いないと思われる。天狗岩用水(代官堀)を開削する近世初頭以前、As-A下面に比べて水田は少なかったと思われるが、それでもできるところは、水田化されていたに違いない。

また、この時期の屋敷跡が、当遺跡と県道前橋・長瀬線に伴う発掘調査部分にまたがって検出されている。中世のある時期、この地域の有力者が、この屋敷に住んでいたと思われる。屋敷は、土層から水の流れが確認できる溝によって囲まれており、そこから枝分かれた溝が、当該地域の水田を潤していたものと考えられよう。

以下、A-1区・A-2区・A-3区・Aランプ・B区・C区・D区・E区・F区の順に、且つ水田跡・溝・耕作痕・土坑・井戸・屋敷跡・掘立柱建物・杭列・ピット・火葬墓の順に報告する。



中・近世面



第167図 中・近世面全体図

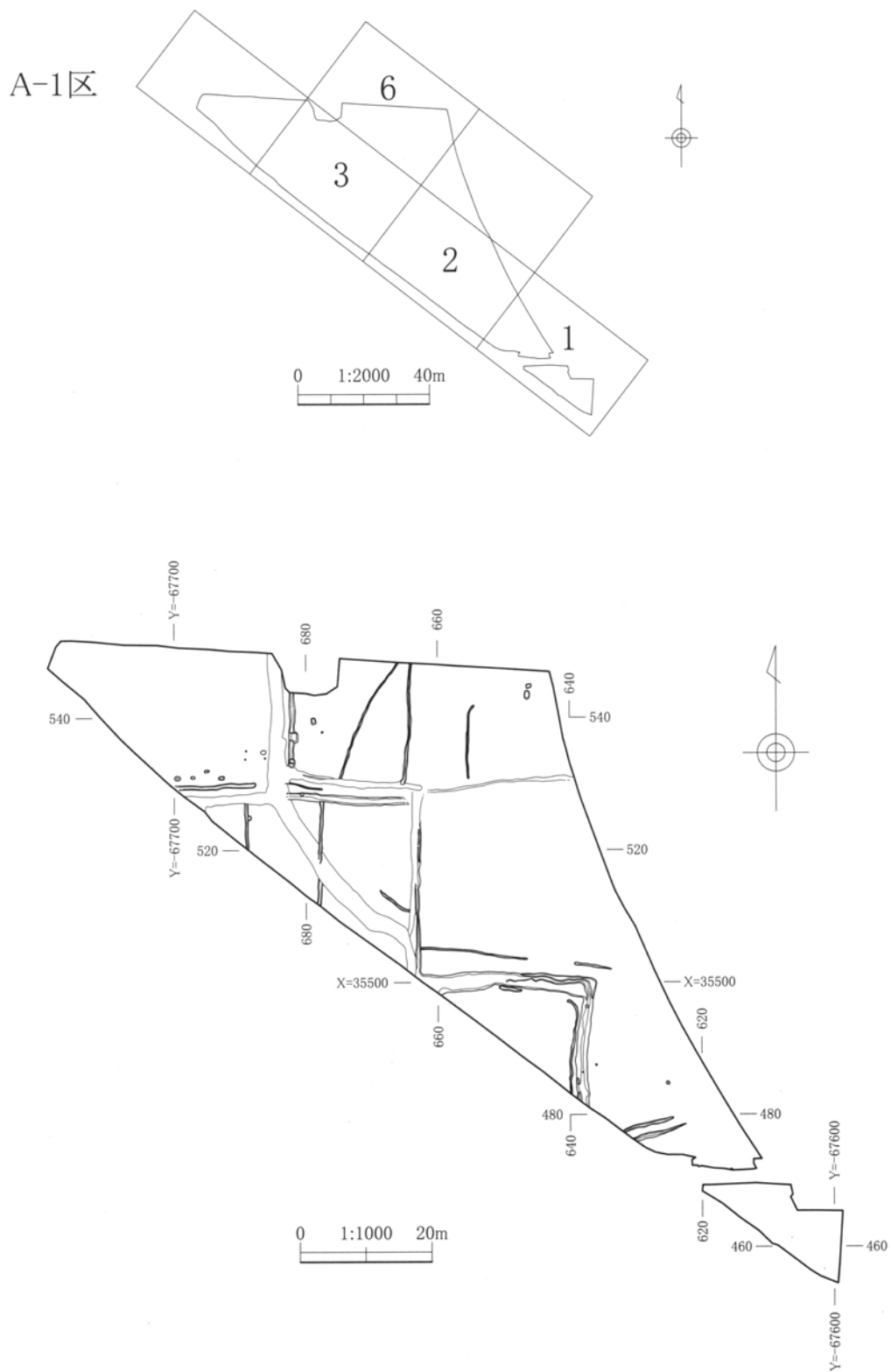
割図について

北関東自動車道建設に伴う上滝榎町北遺跡は、南北約600m、東西約300mほどの遺跡である。このため、調査区をいくつかの割図として設定し、全調査区を見ることが出来るようにした。A-1区～F区の順、且つ割付図の1から順に報告する。

また、数字のないワクは、その部分に遺構がないことを示しており、割図を作成していないことを示している。

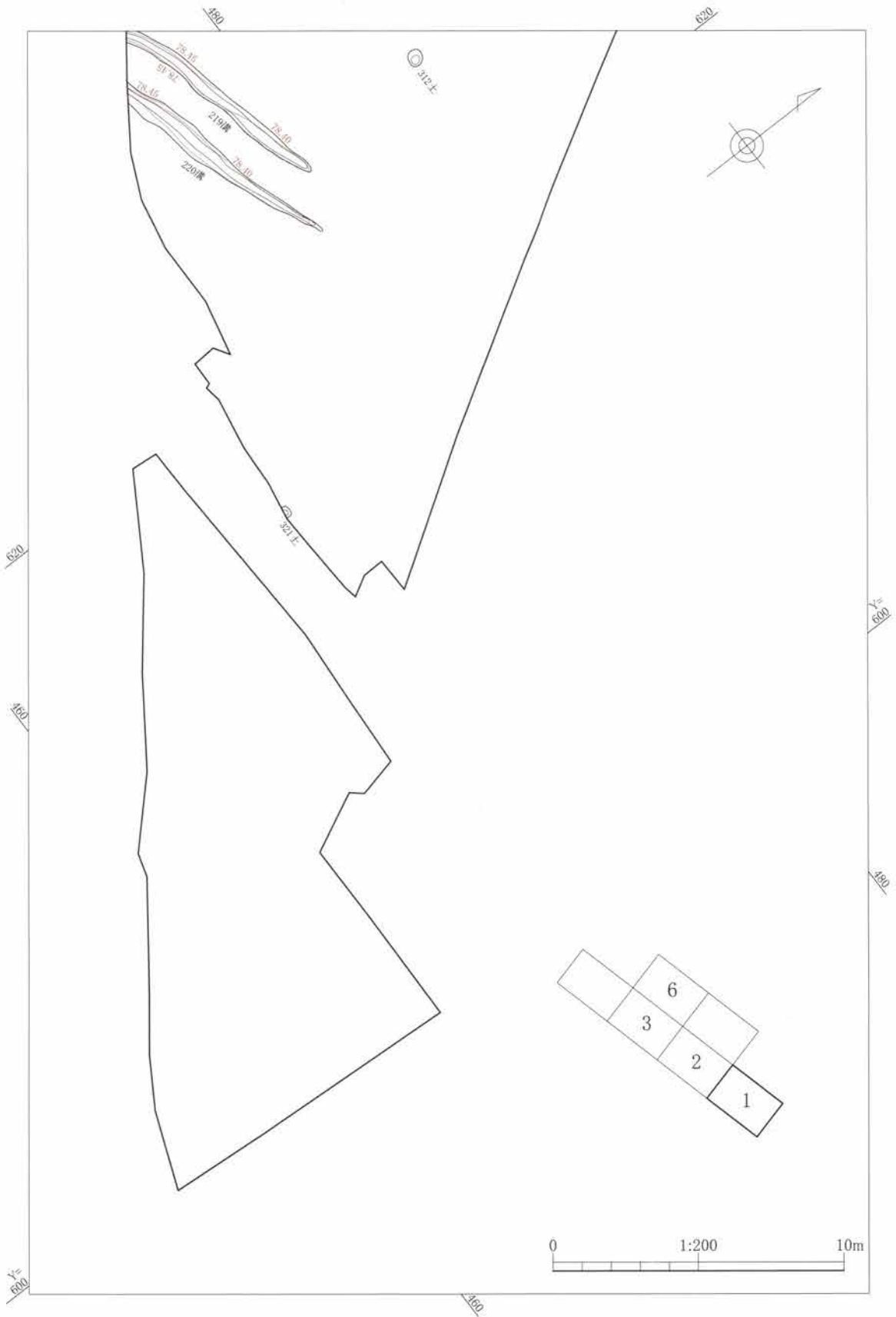


第168図 中・近世面割図

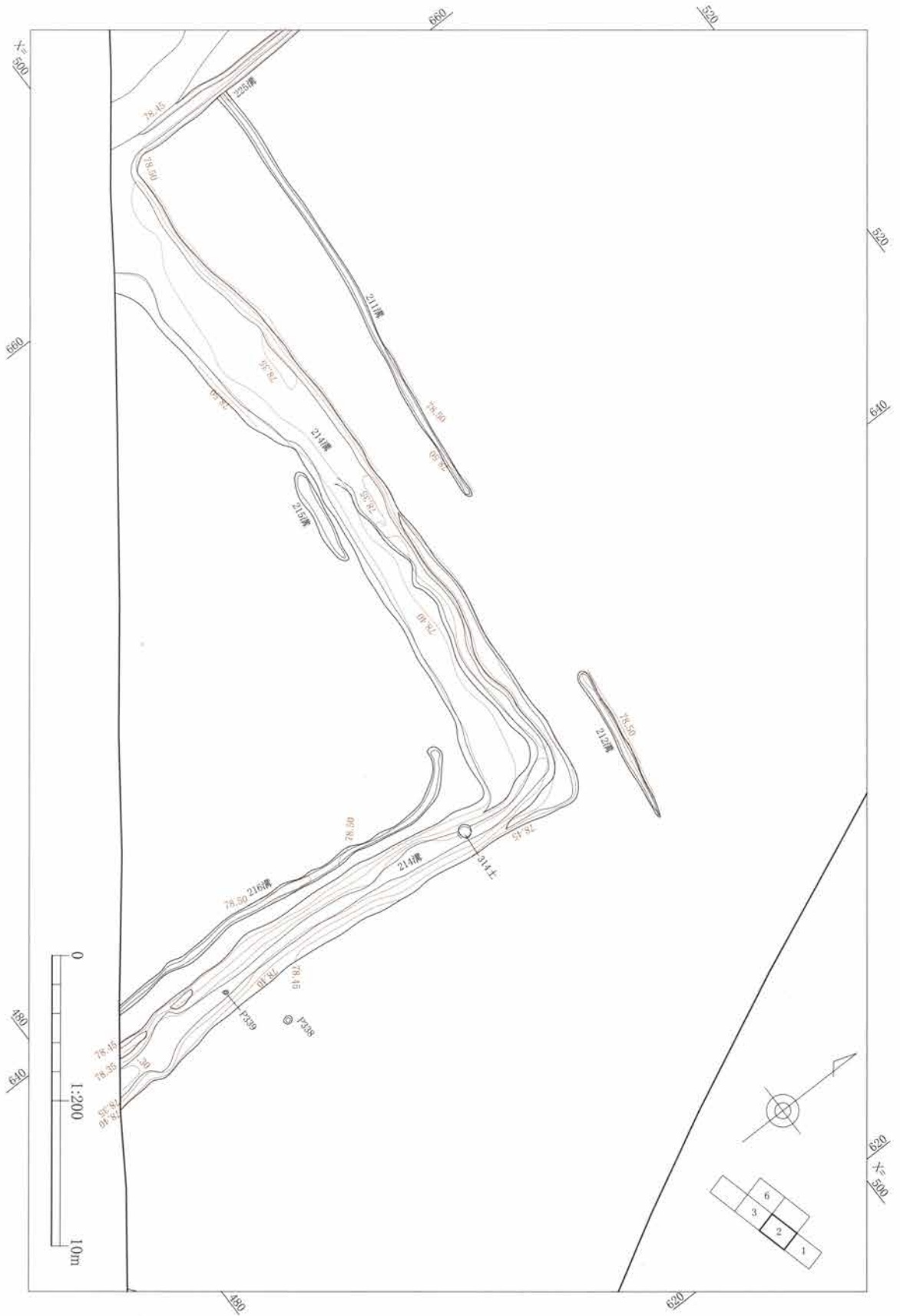


第169図 中・近世面 A-1区全体図・割図

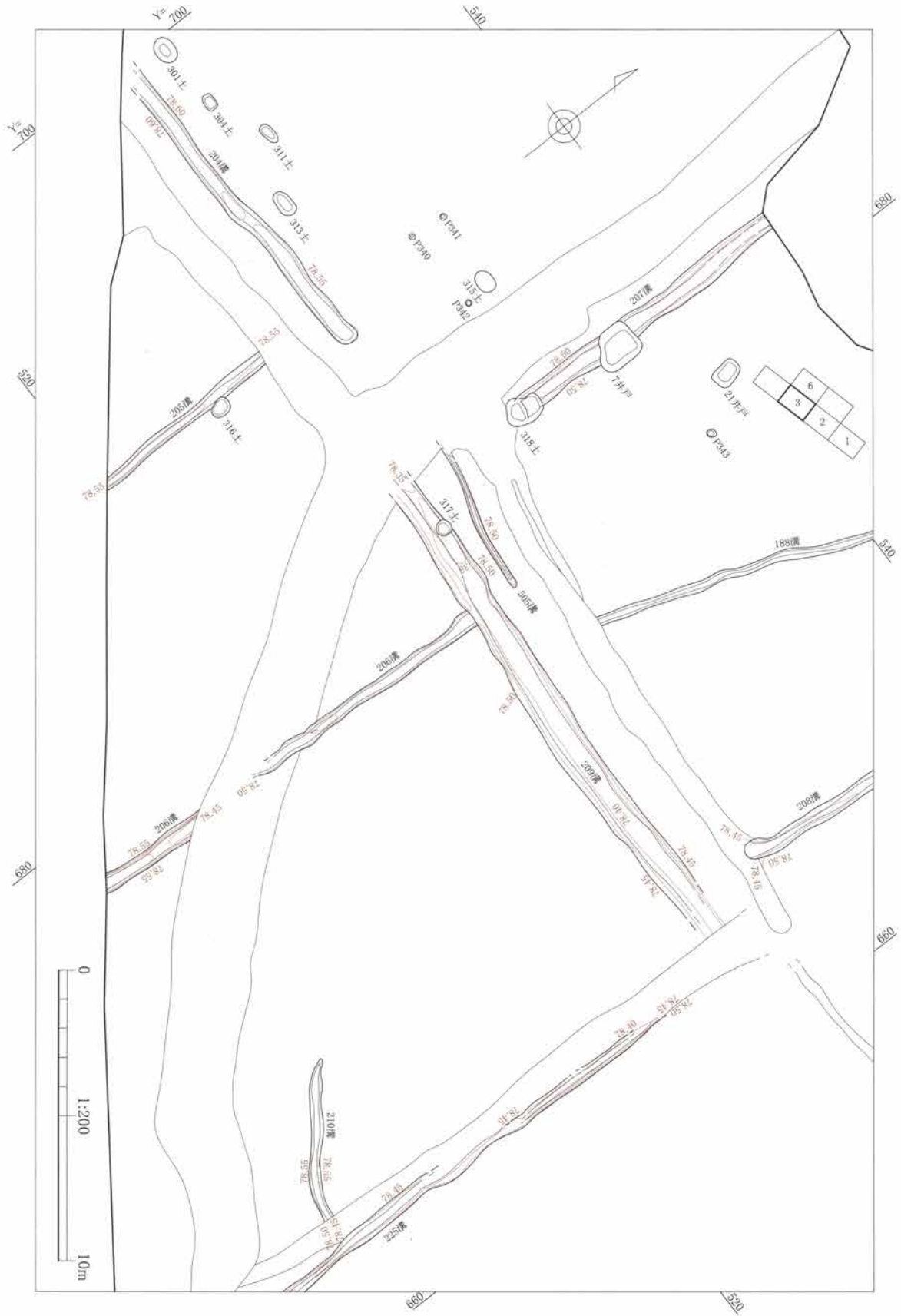
2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）



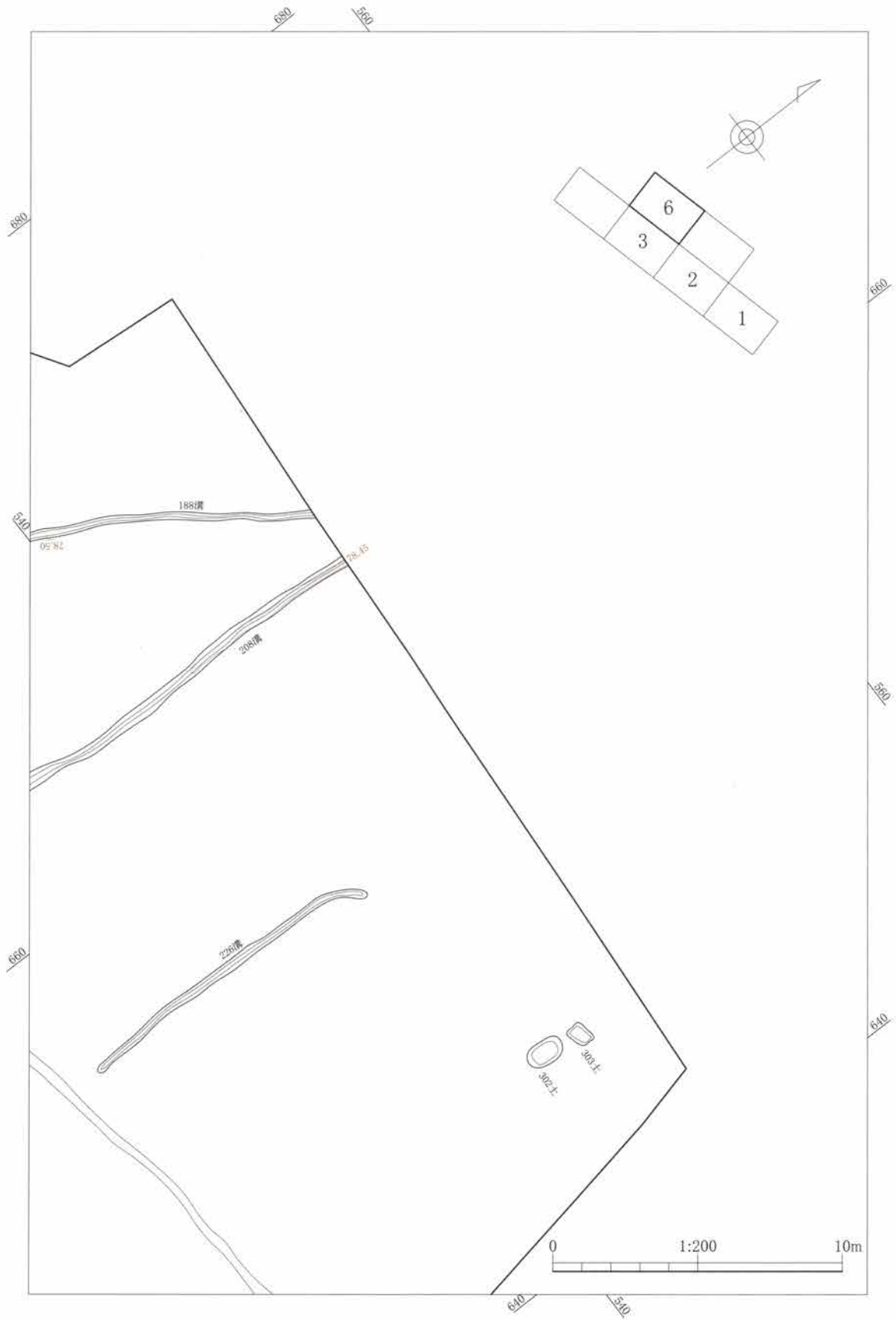
第170図 A-1区 図割-1



第171図 A-1区 図割-2

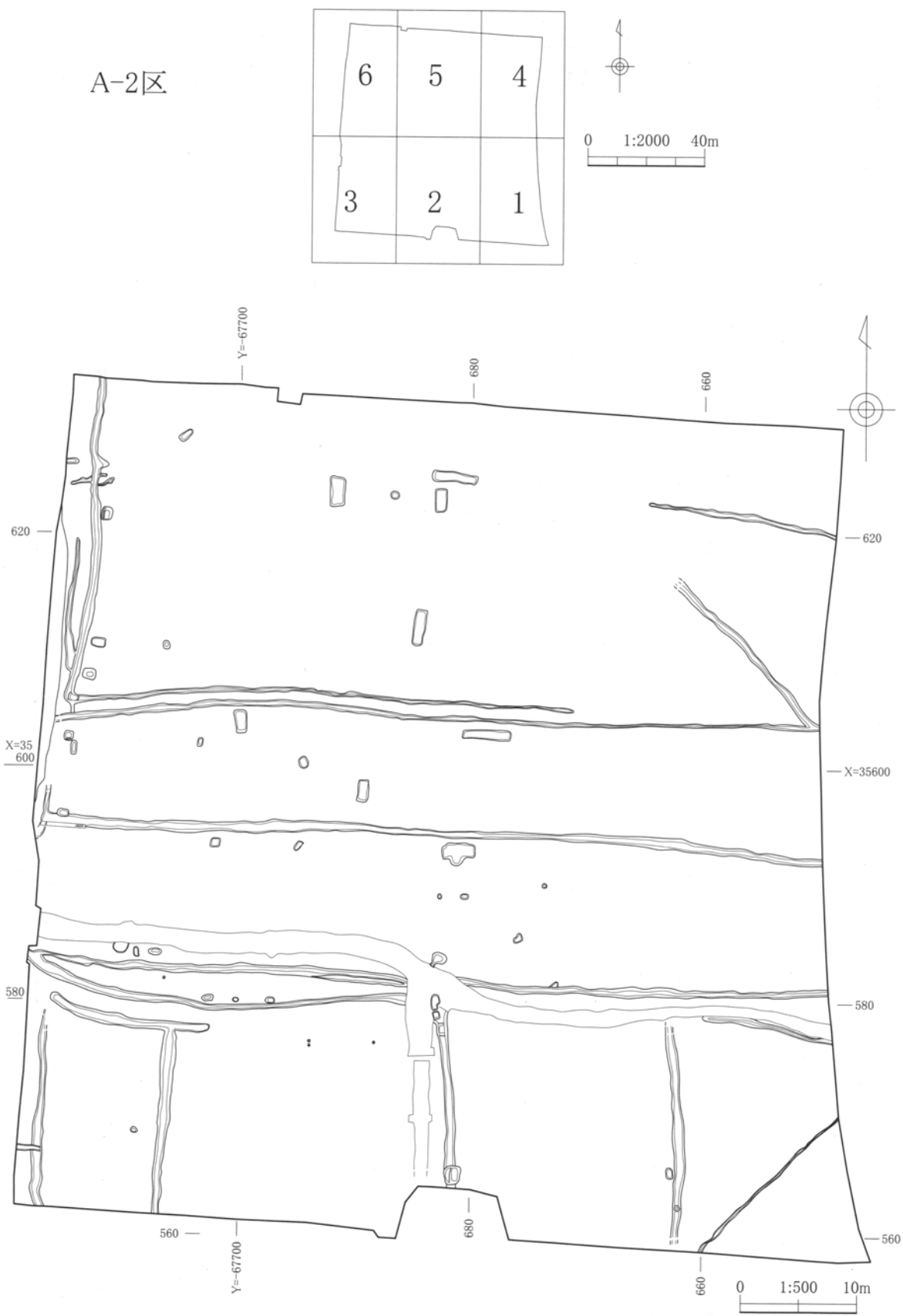


第172図 A-1区 図割-3

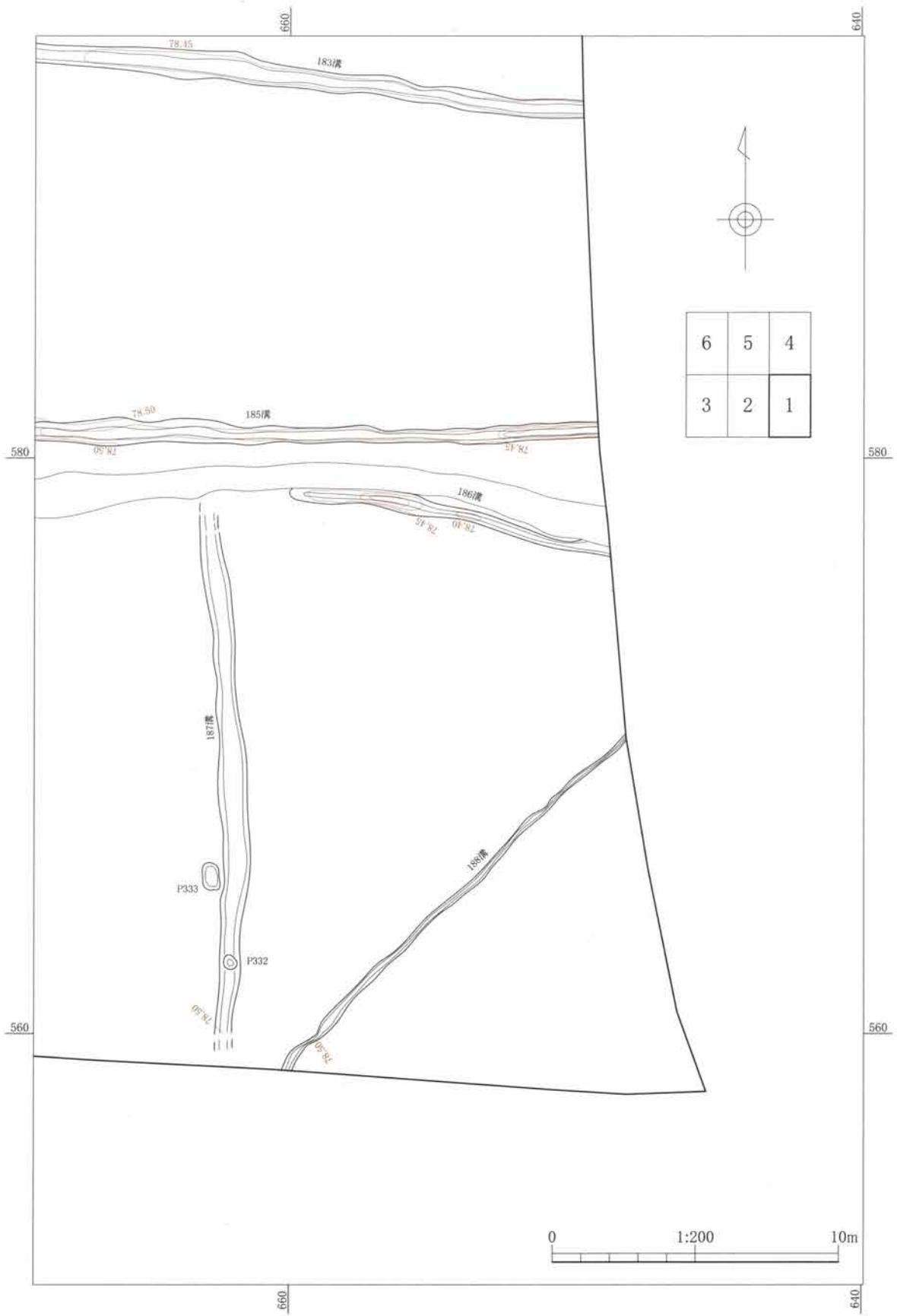


第173図 A-1区 図割-6

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

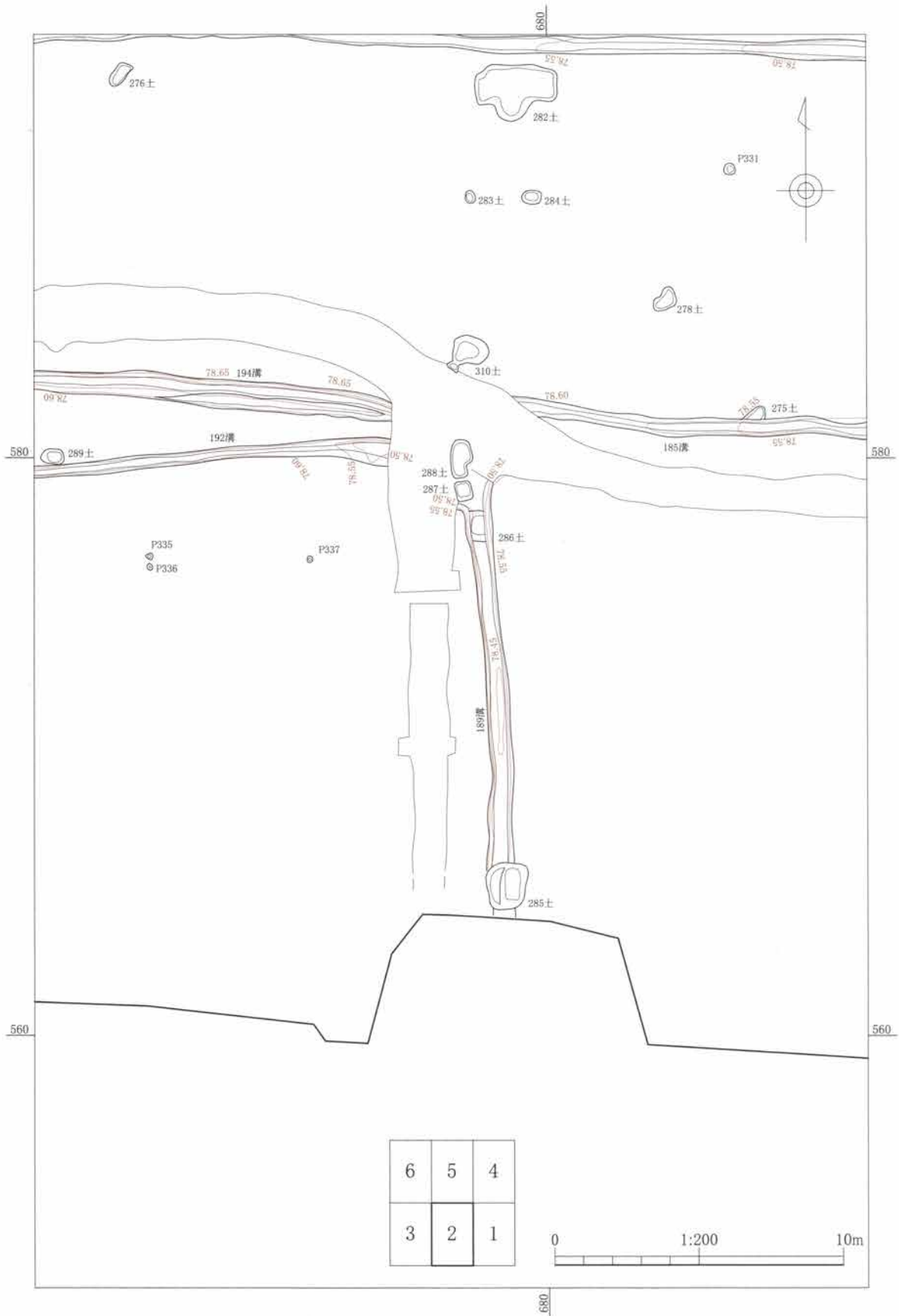


第174図 中・近世面 A-2区全体図・割図

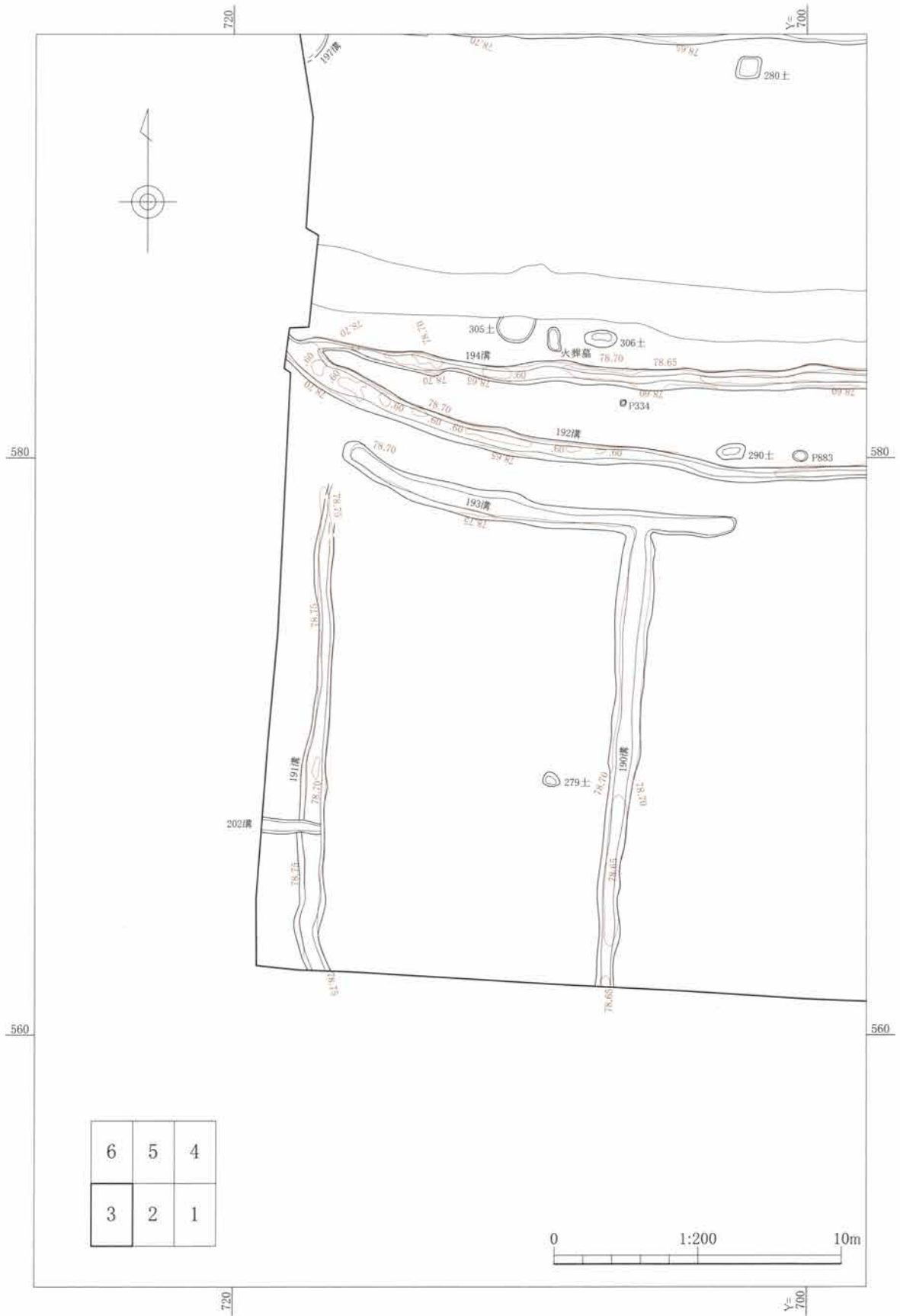


第175図 A-2区 図割-1

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

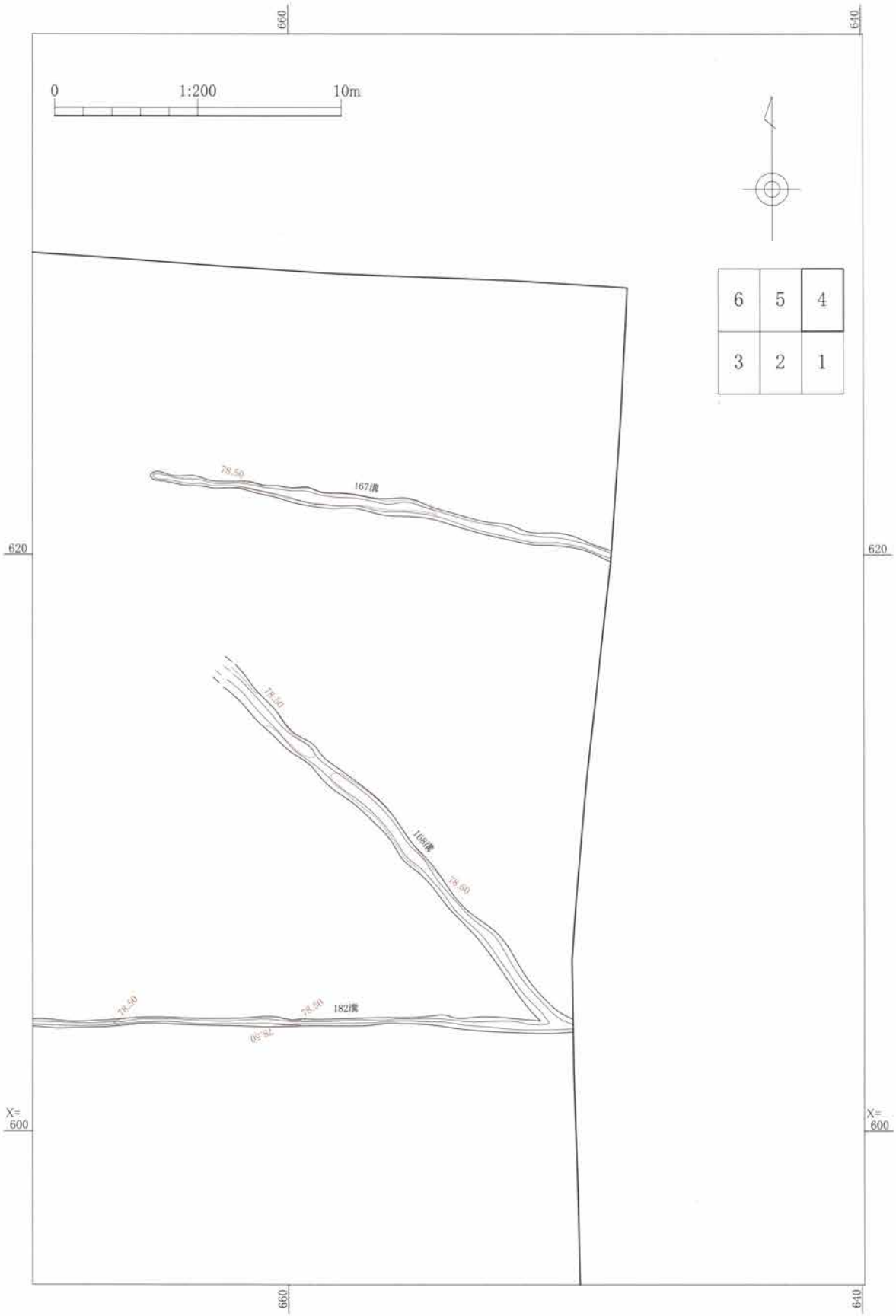


第176図 A-2区 図割-2

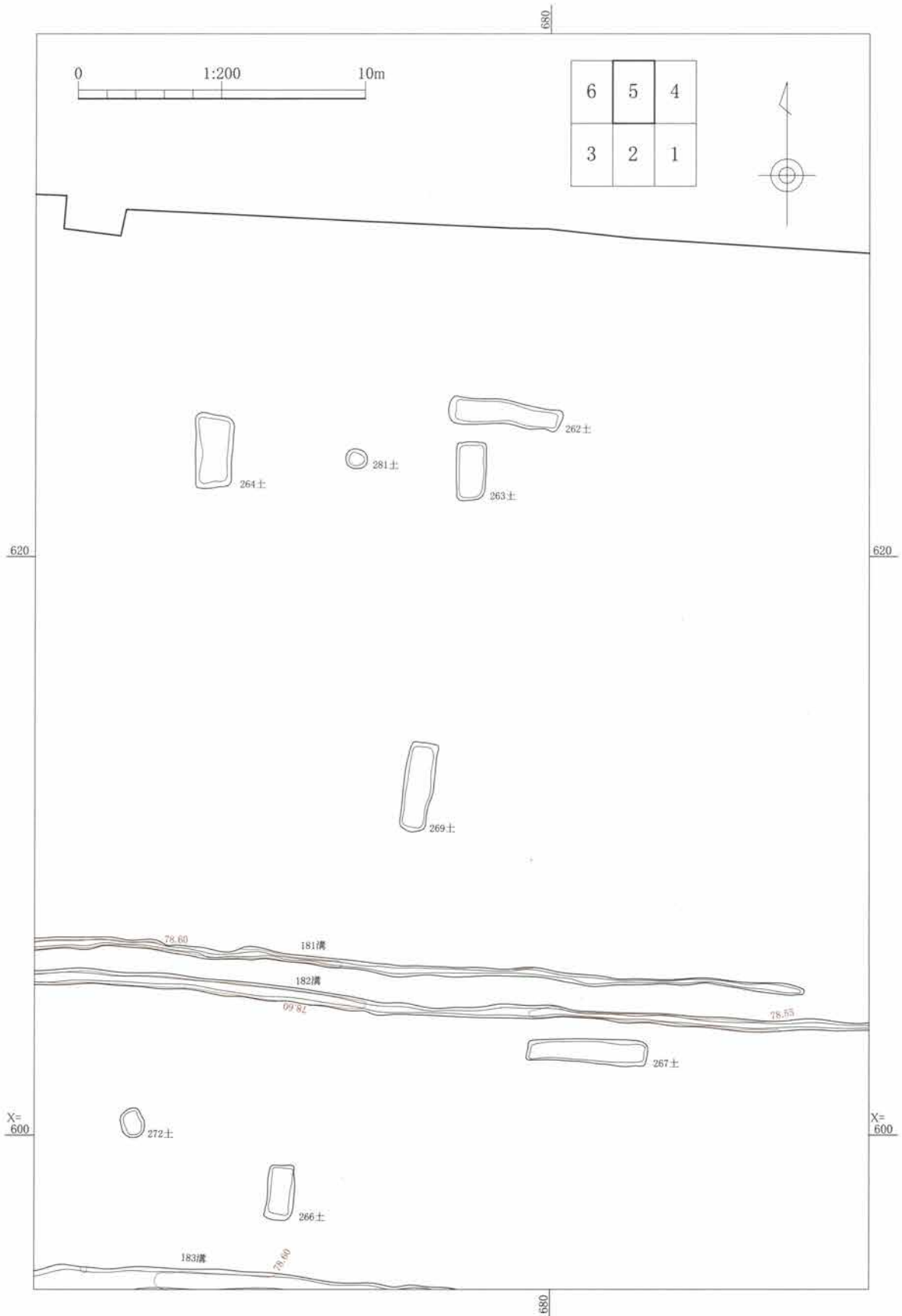


第177図 A-2区 図割-3

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

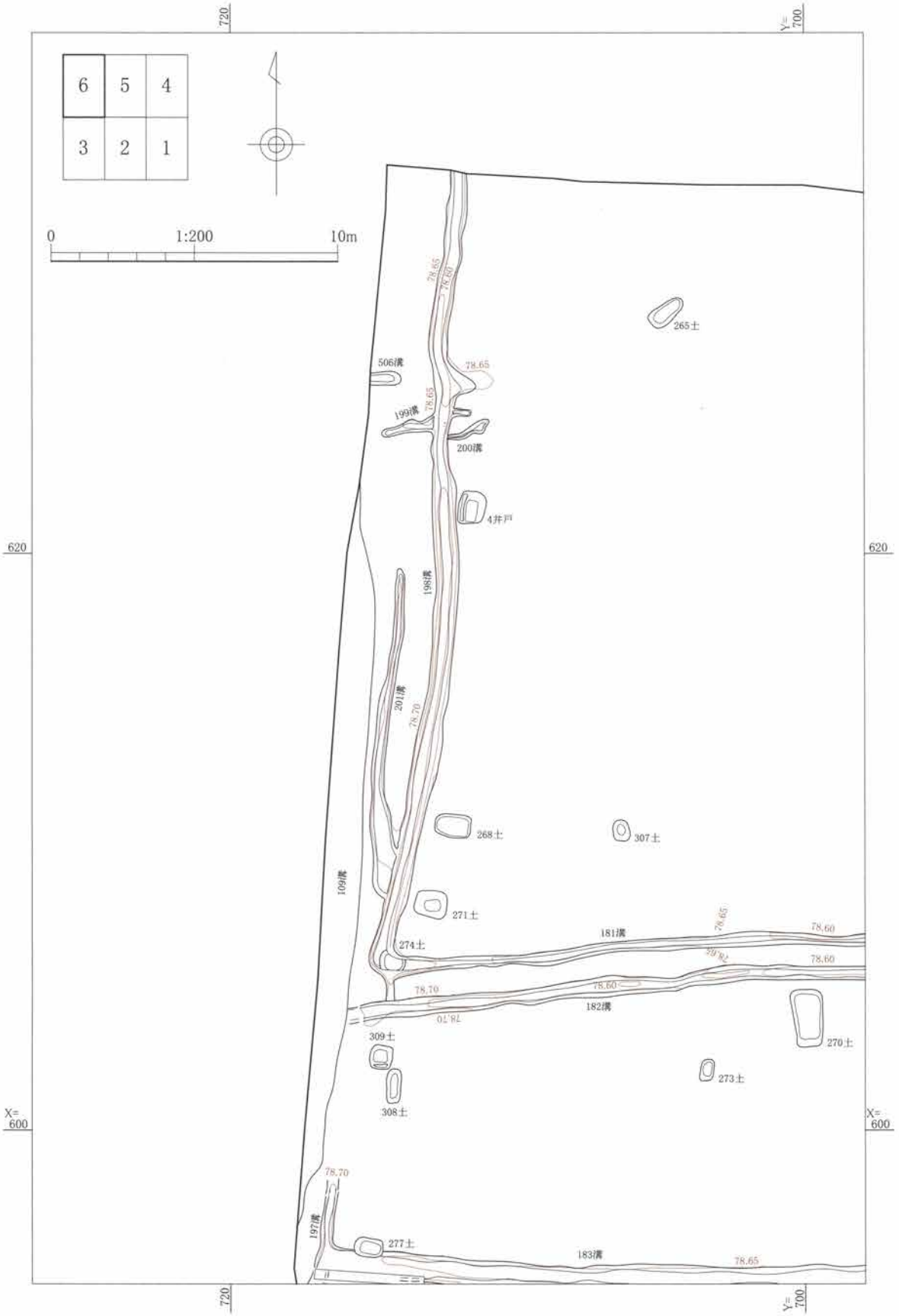


第178図 A-2区 図割-4

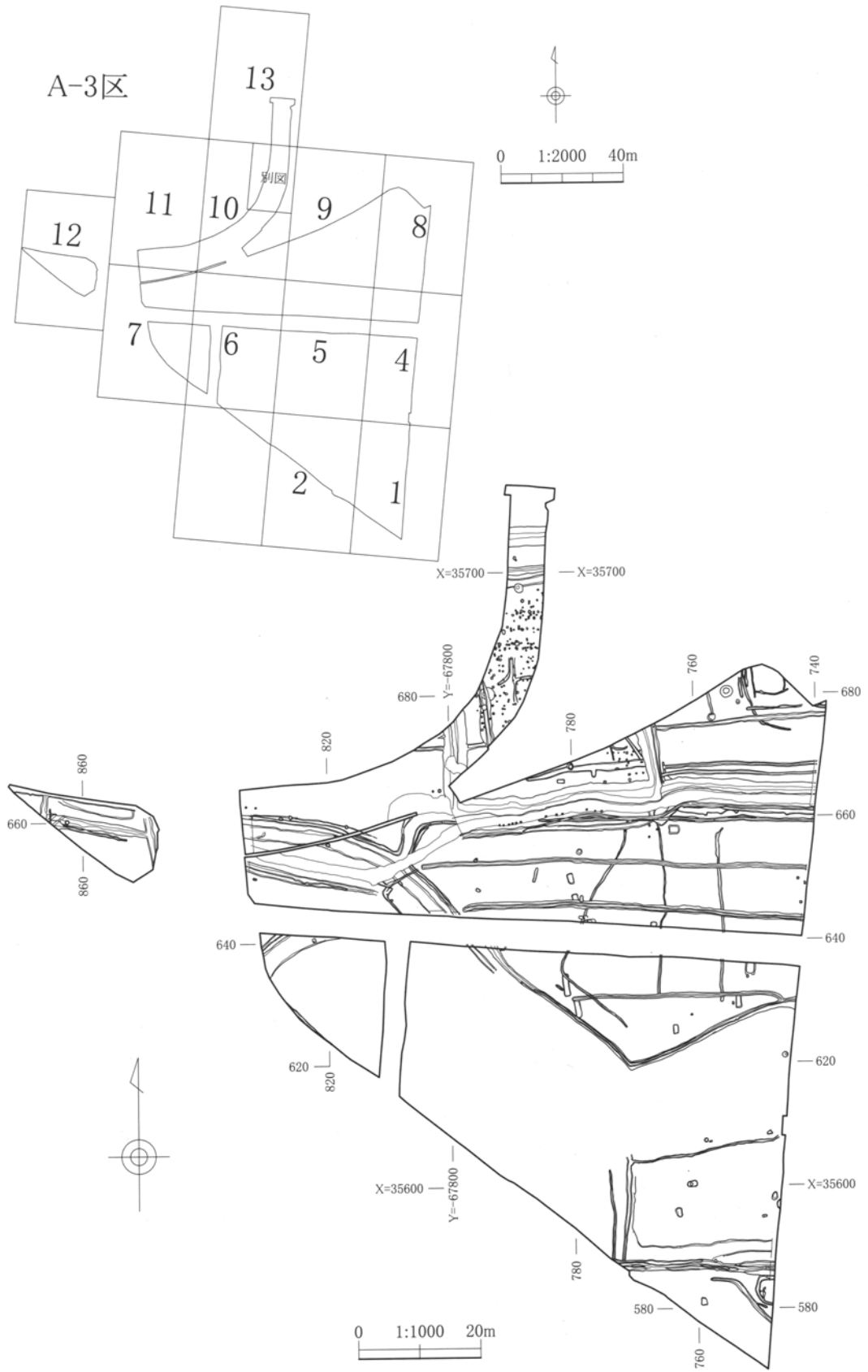


第179図 A-2区 図割-5

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

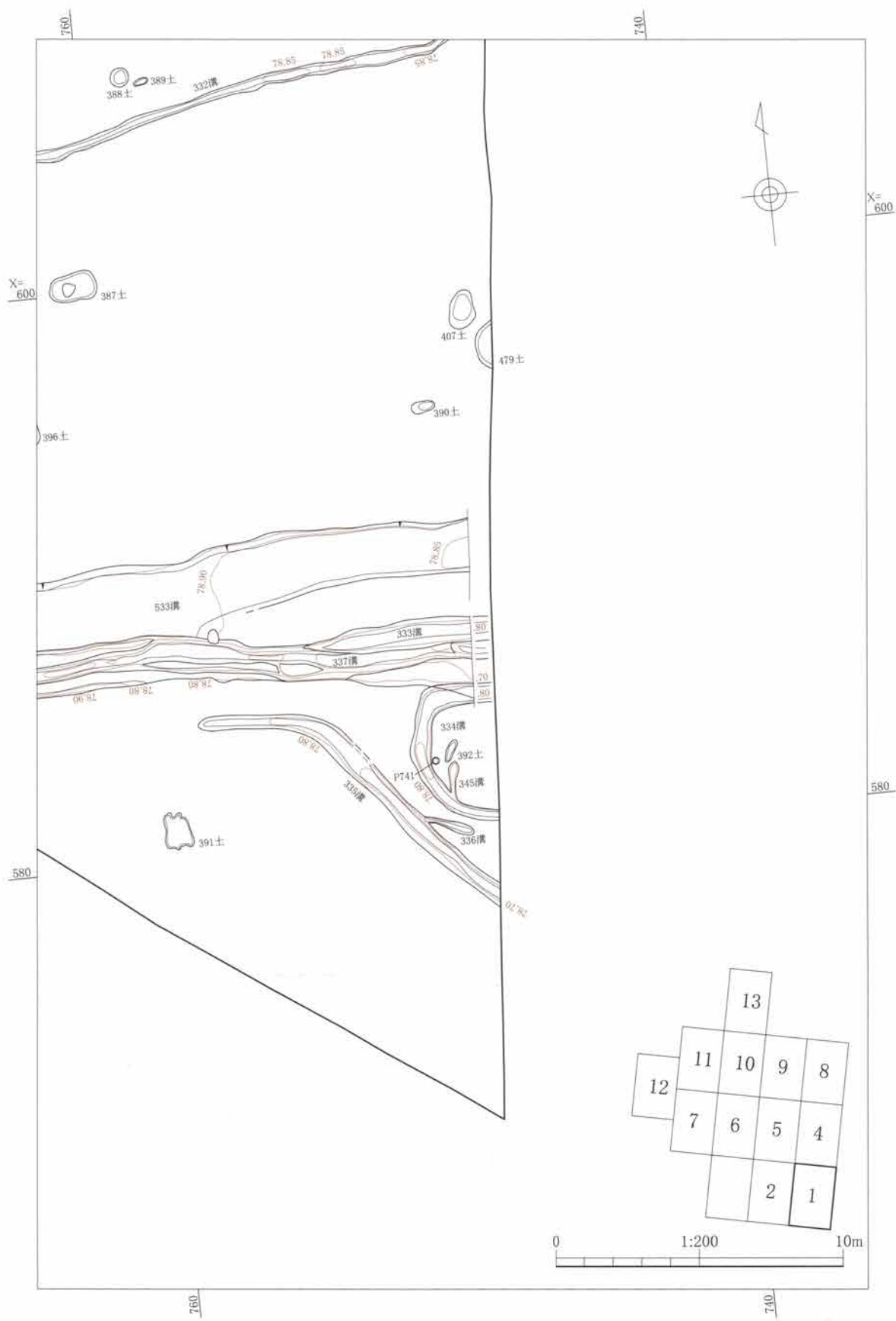


第180図 A-2区 図割-6



第181図 中・近世面 A-3区全体図・割図

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

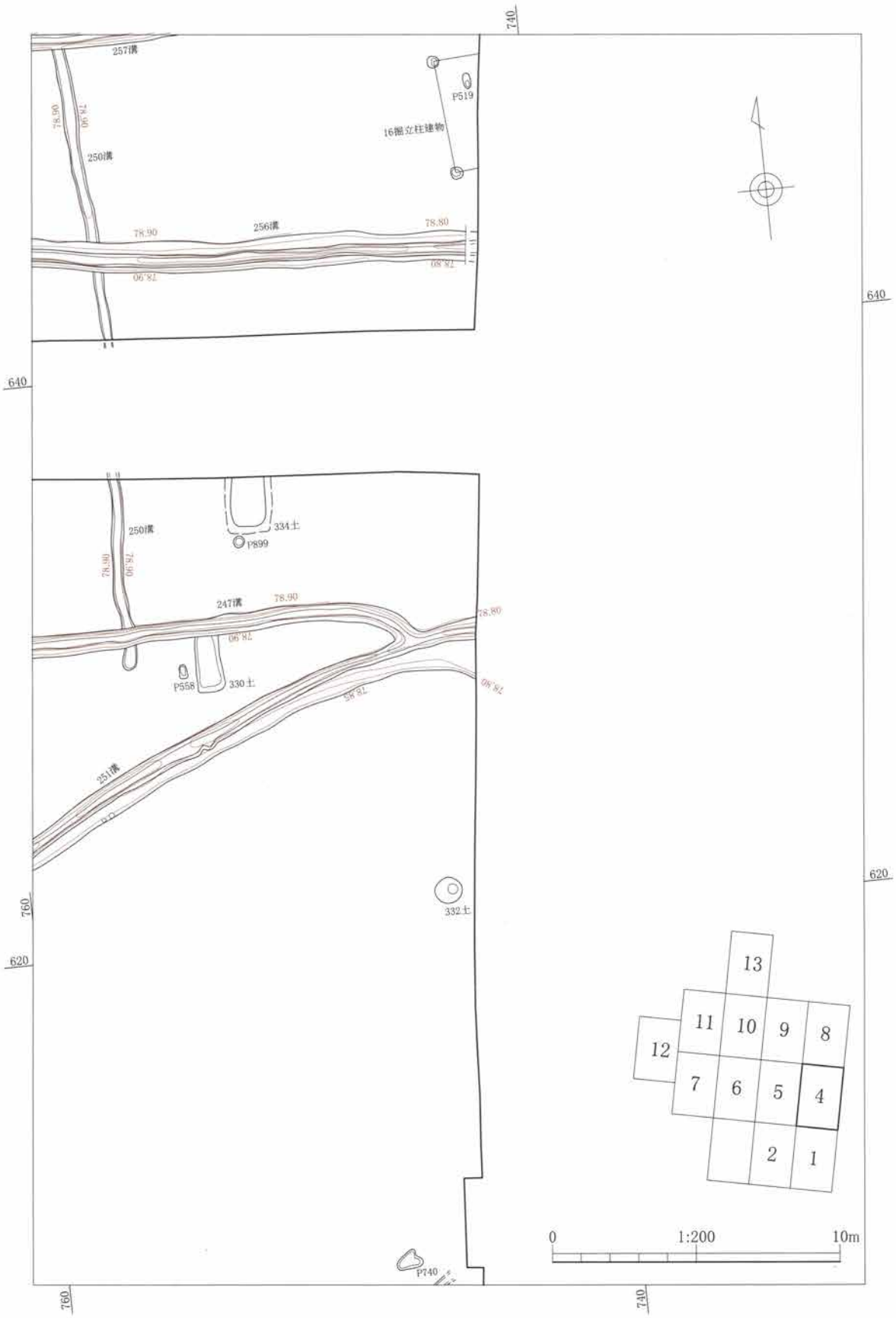


第182図 A-3区 図割-1

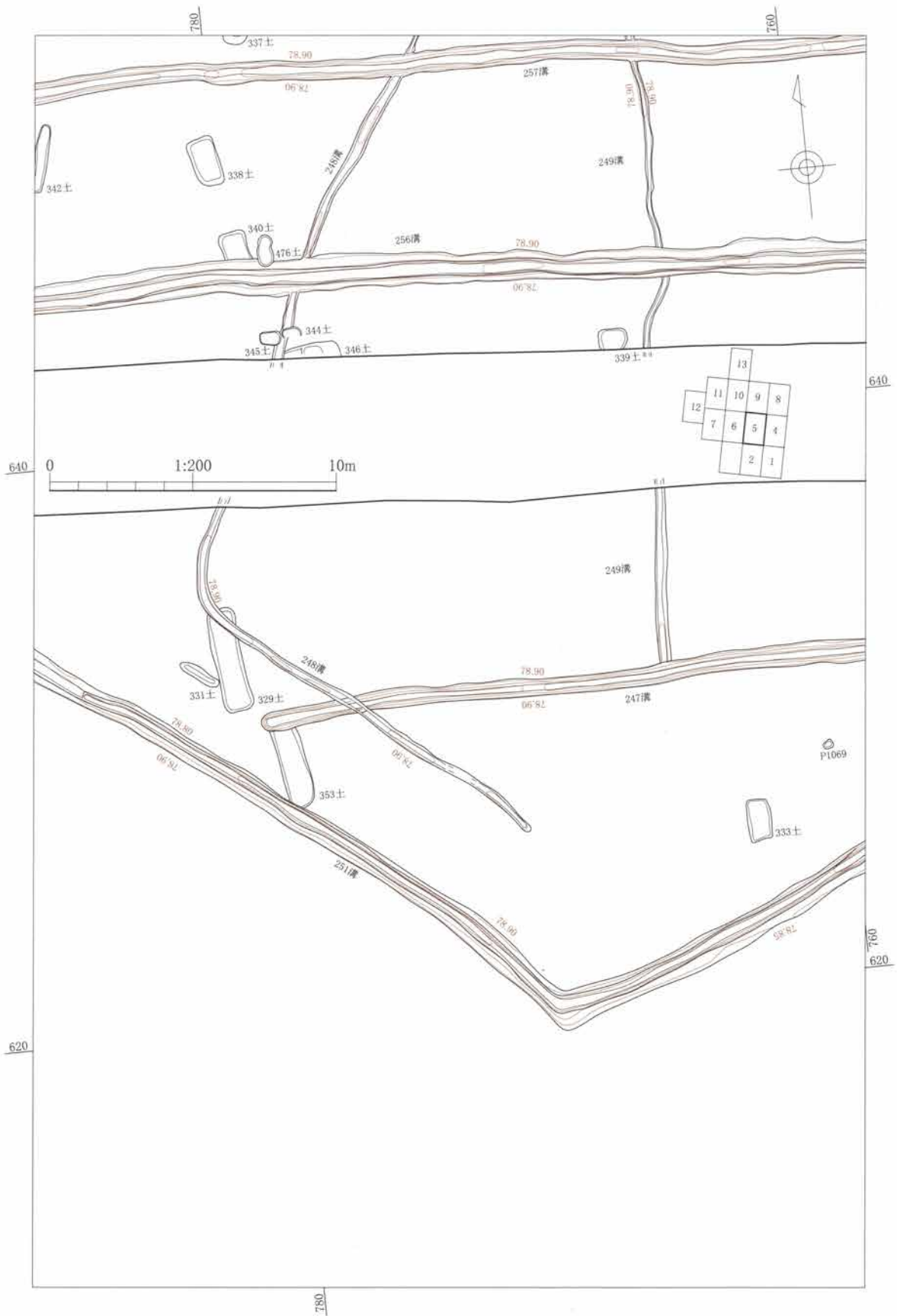


第183図 A-3区 図割-2

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

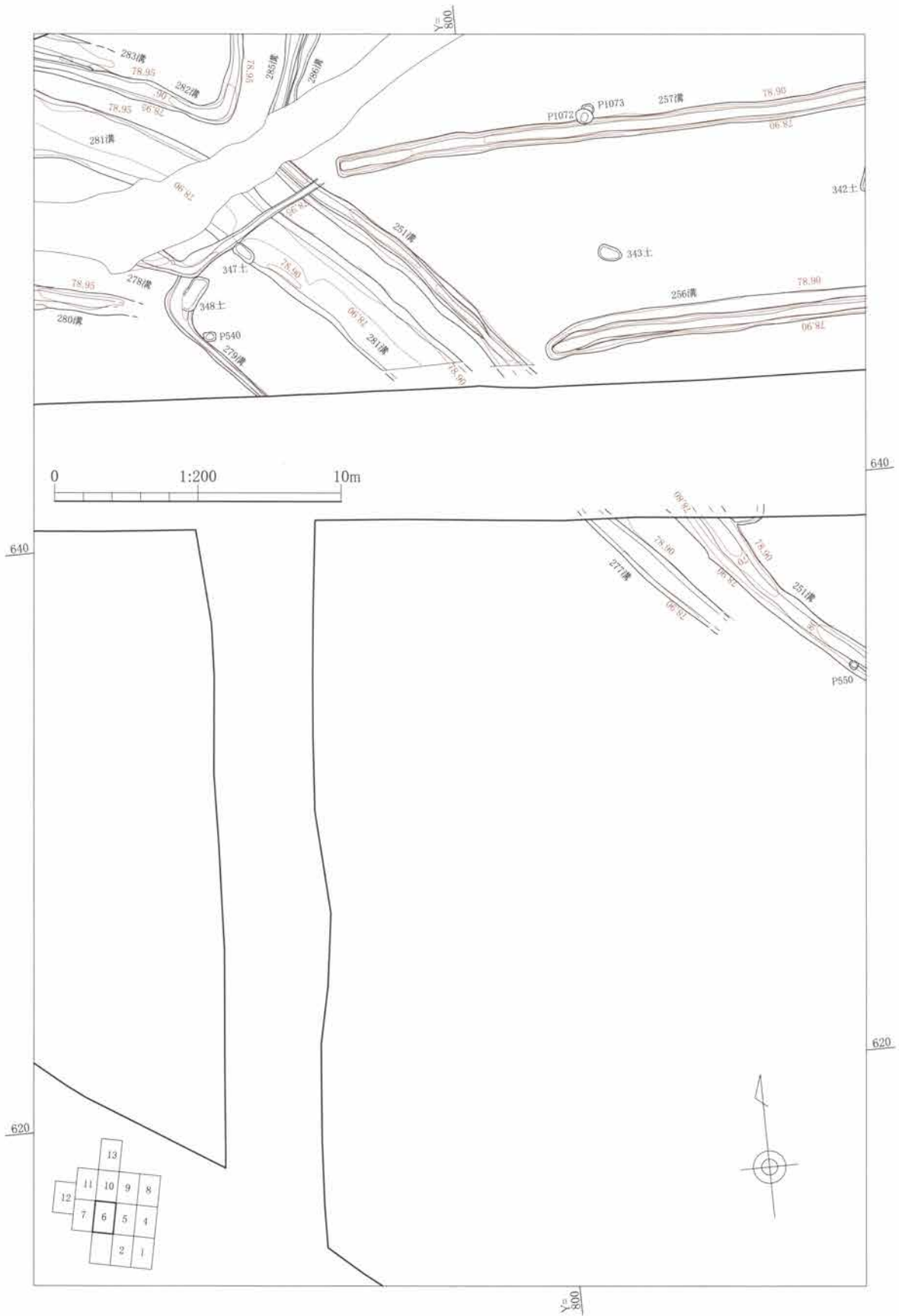


第184図 A-3区 図割-4

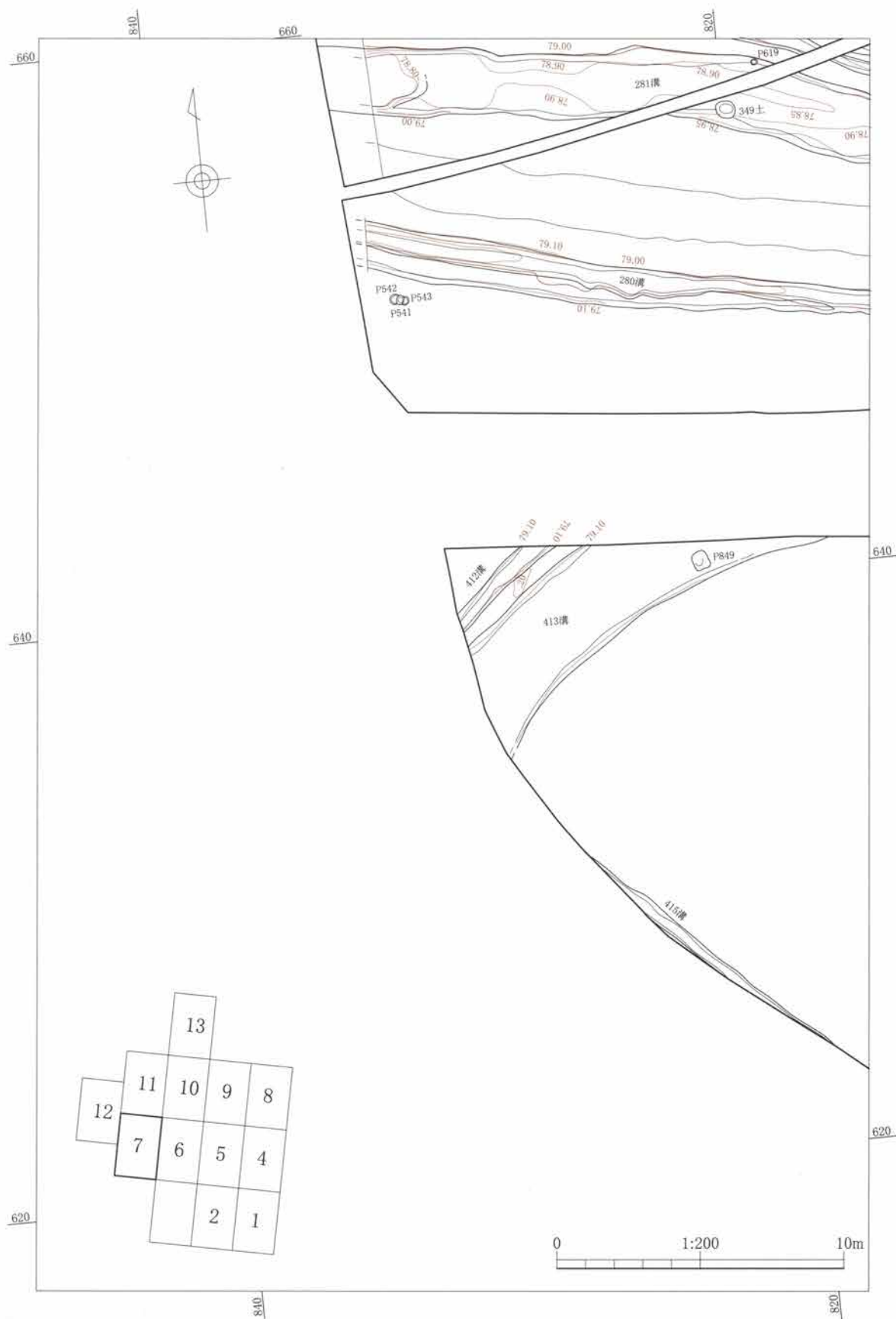


第185図 A-3区 図割-5

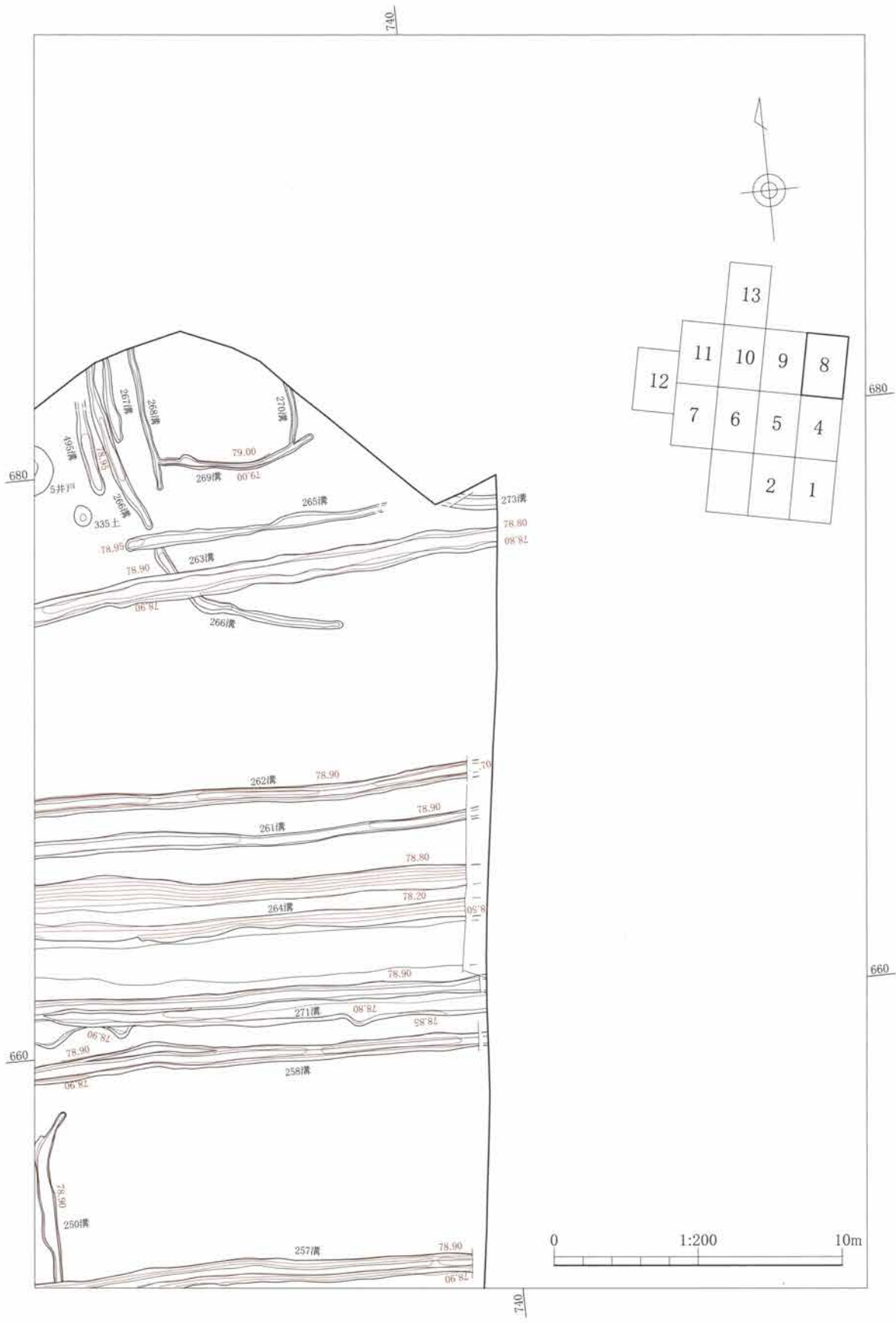
2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



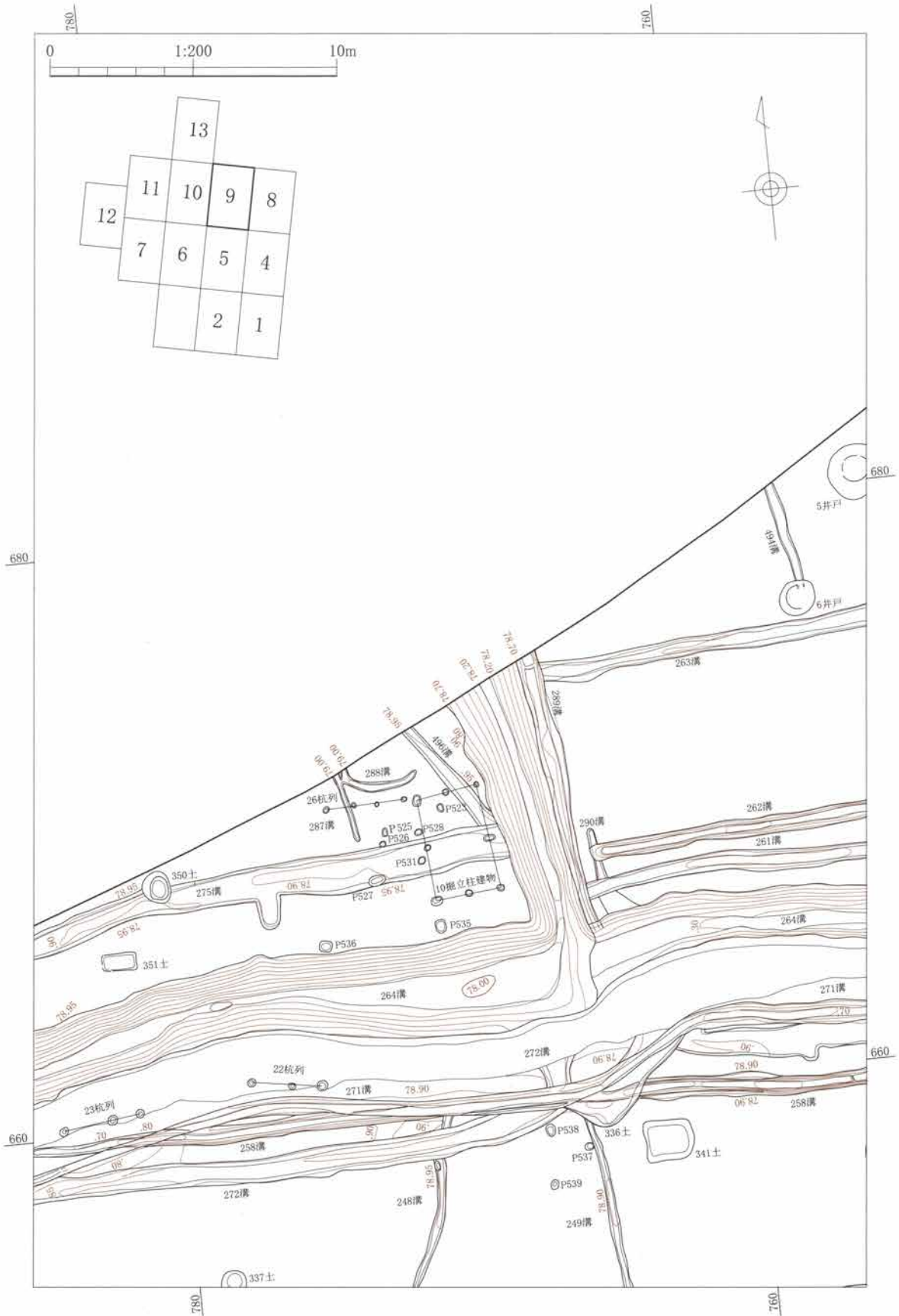
第186図 A-3区 図割-6



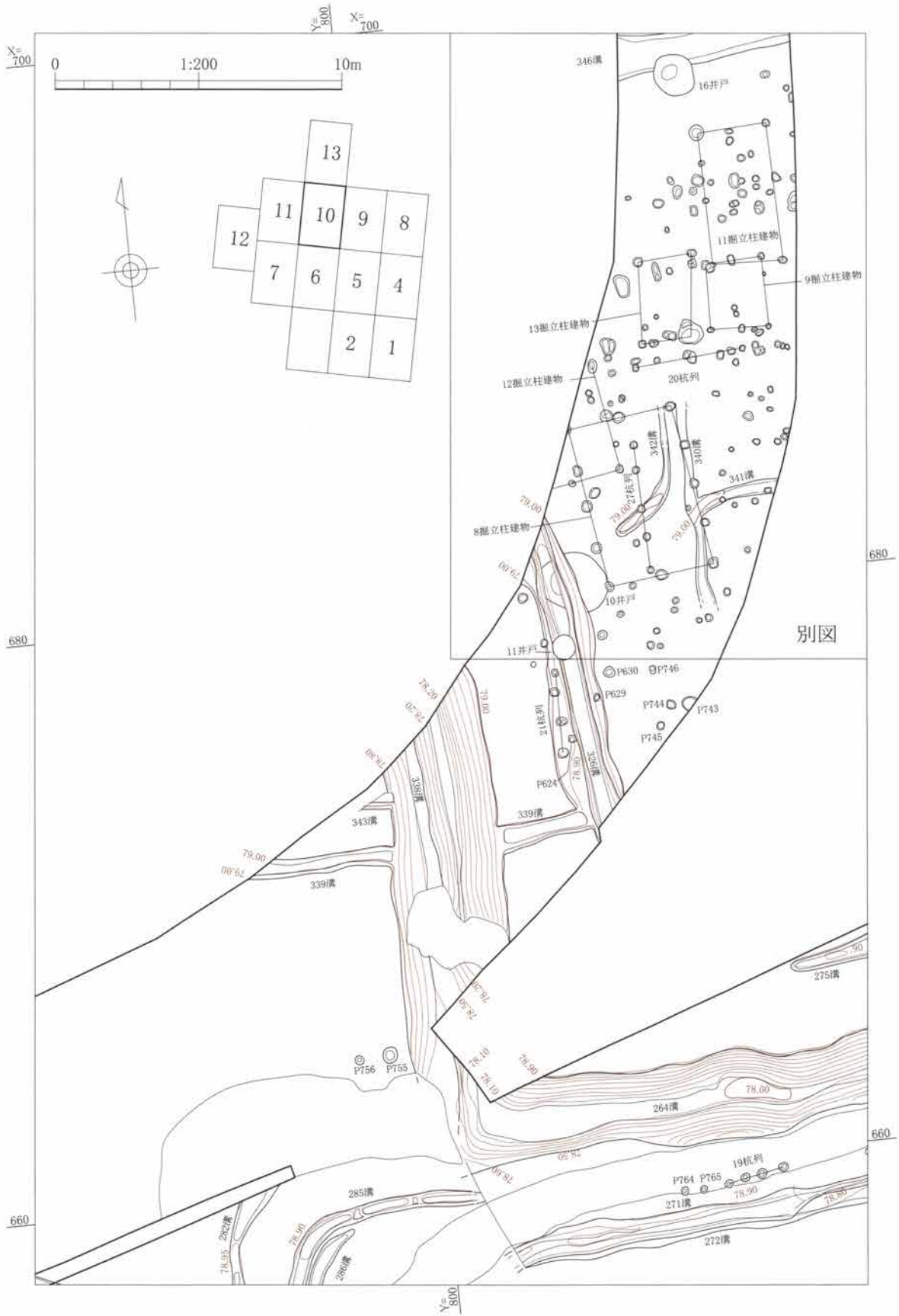
第187図 A-3区 図割-7



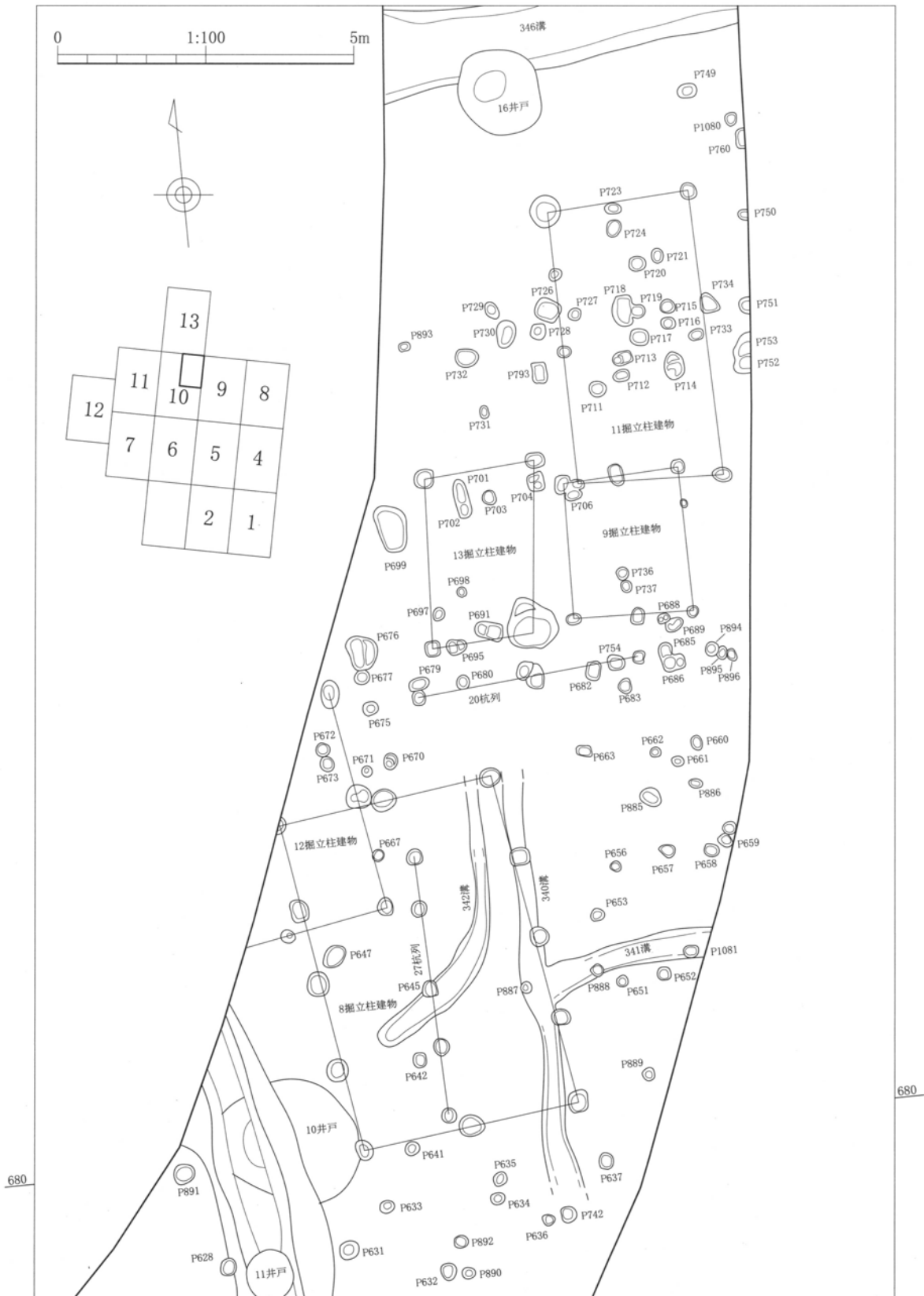
第188図 A-3区 図割-8



第189図 A-3区 図割-9

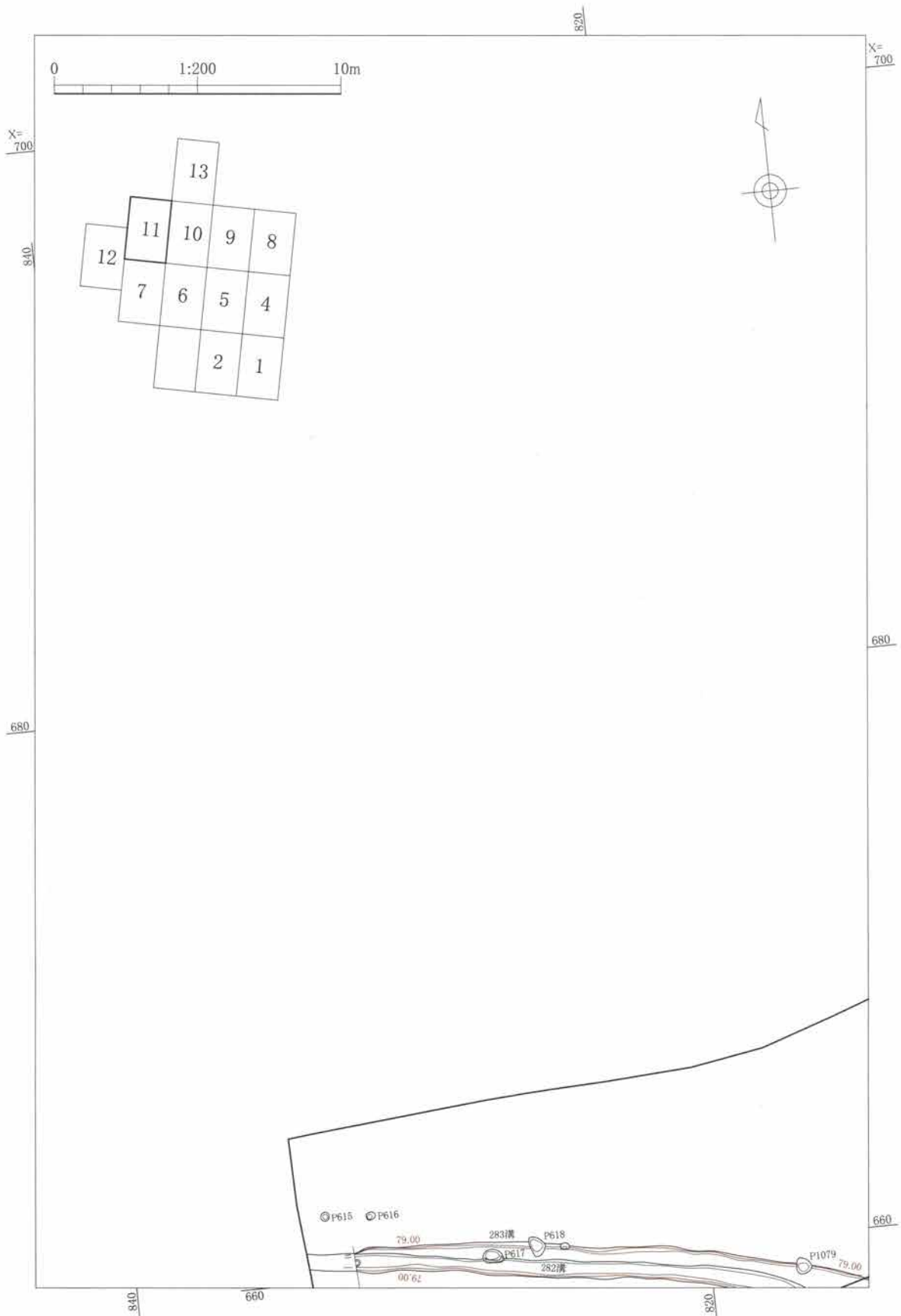


第190図 A-3区 図割-10

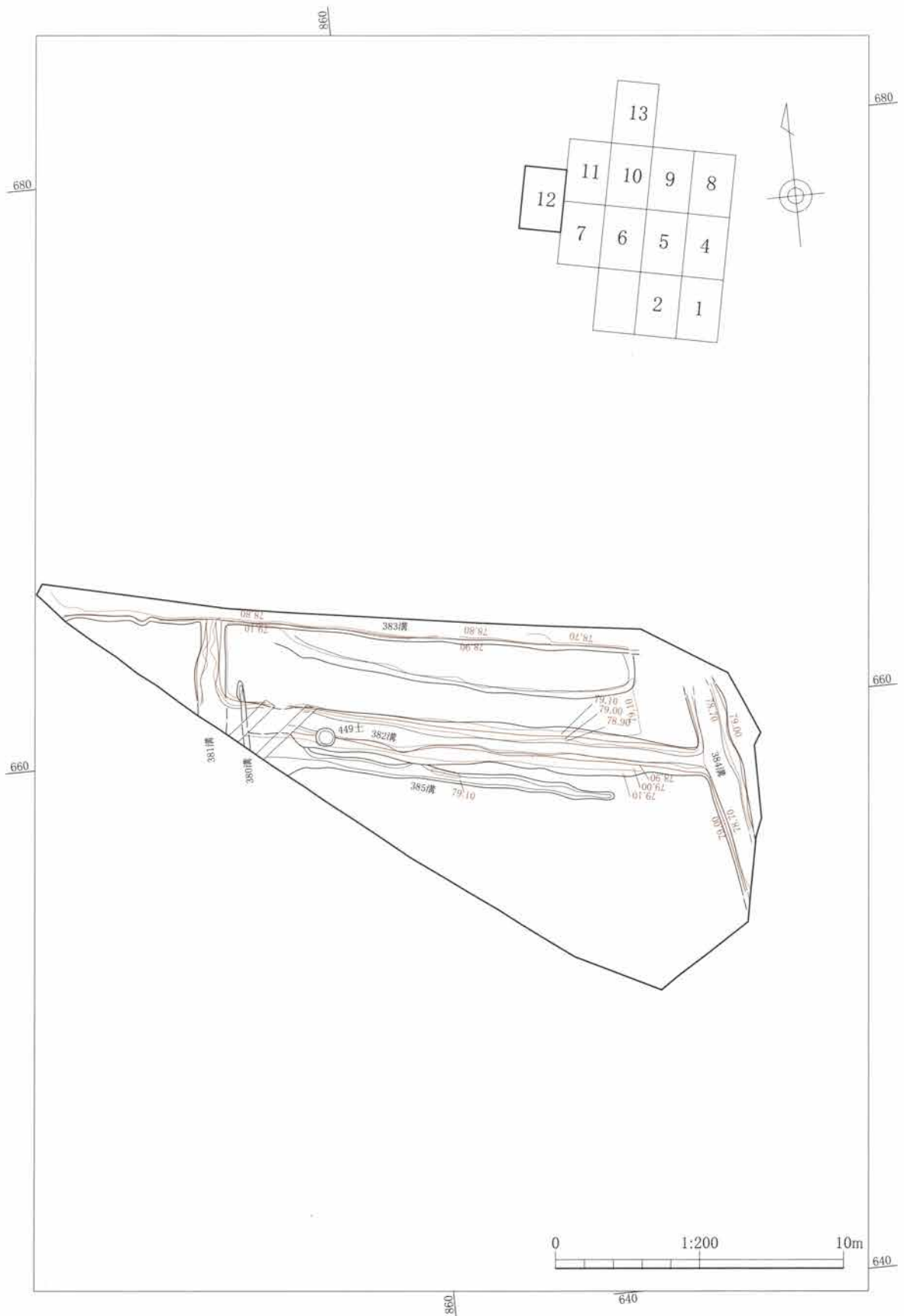


第191図 A-3区 図割-10拡大図

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

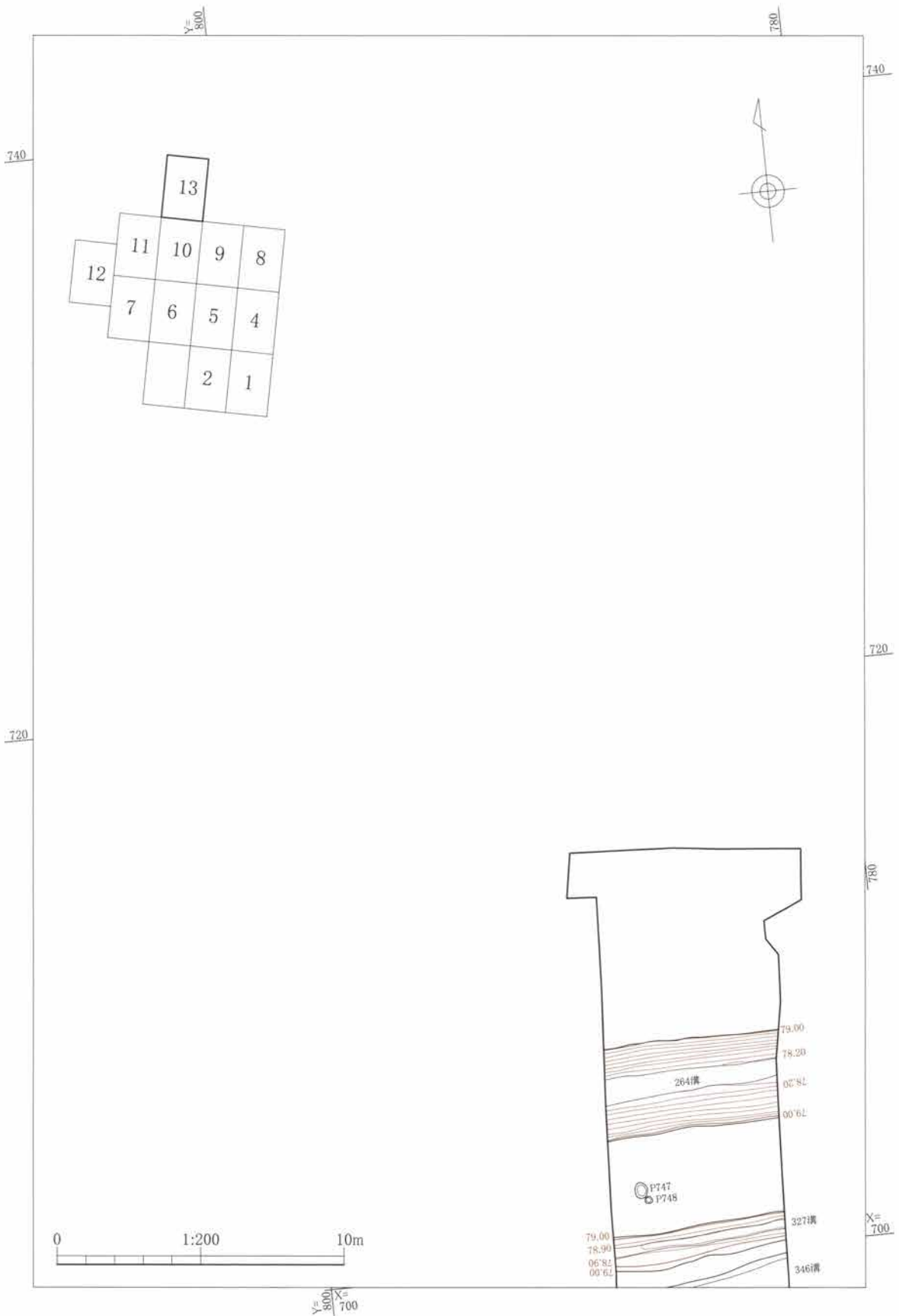


第192図 A-3区 図割-11

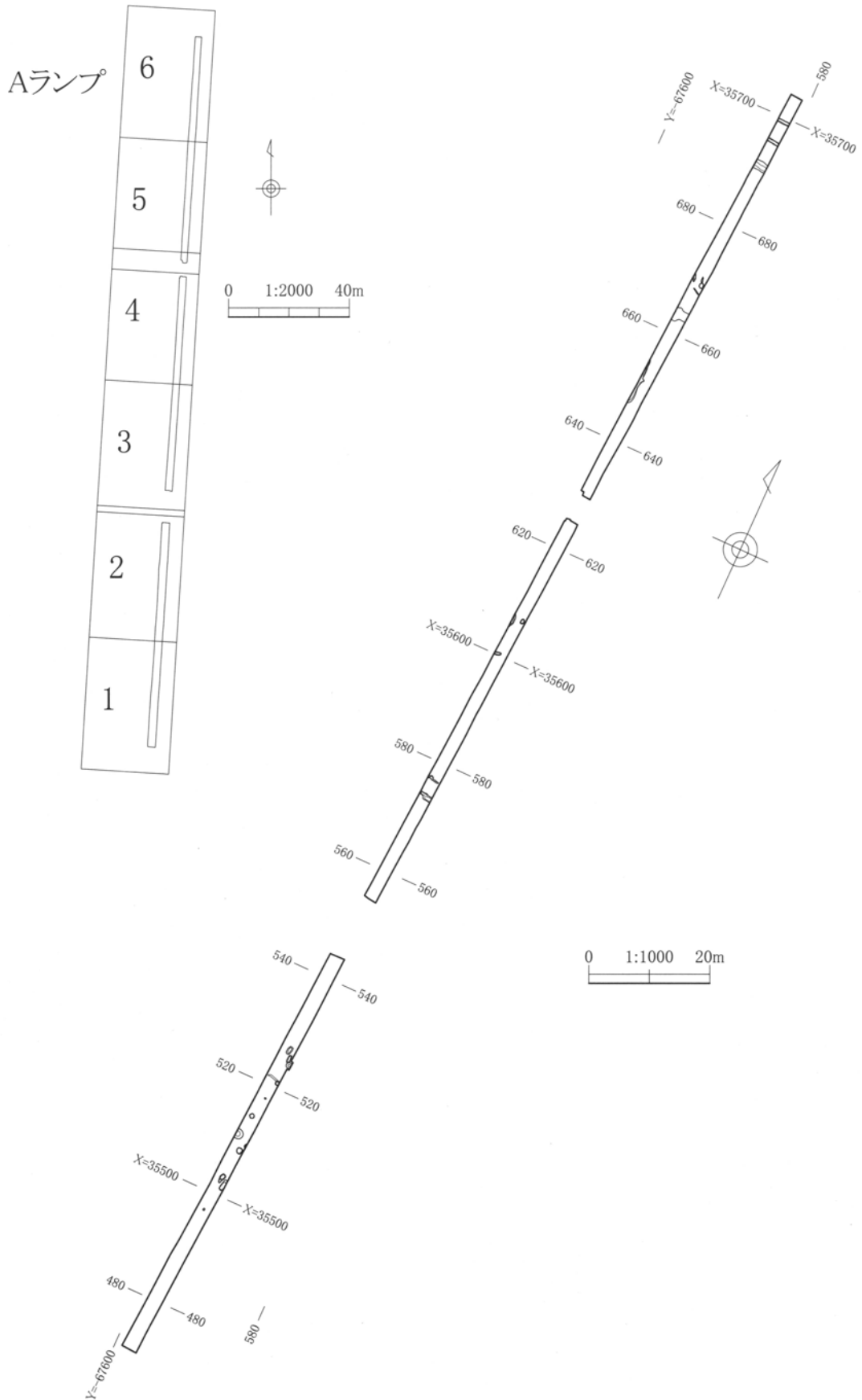


第193図 A-3区 図割-12

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

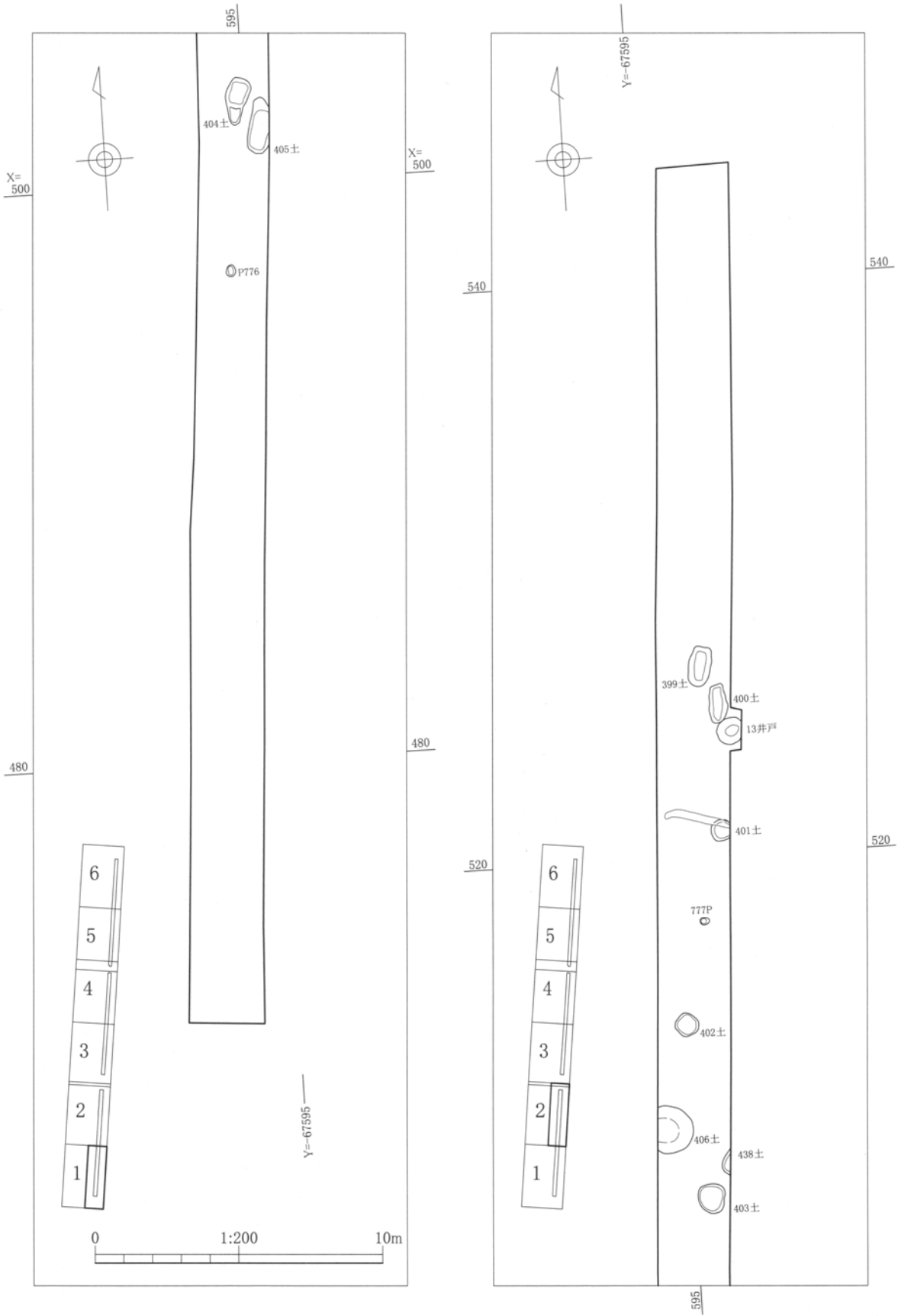


第194図 A-3区 図割-13

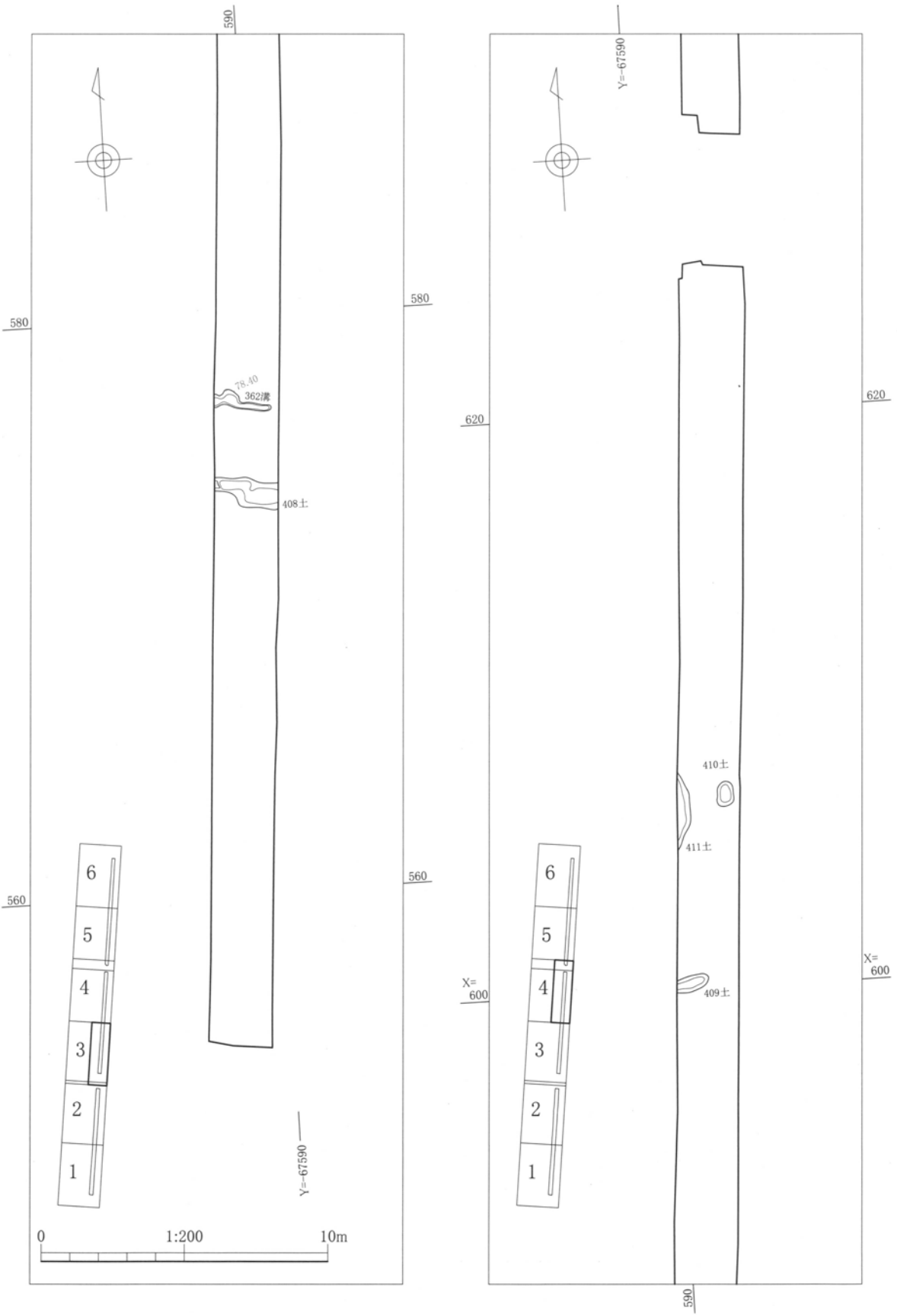


第195図 中・近世面 Aランプ全体図・割図

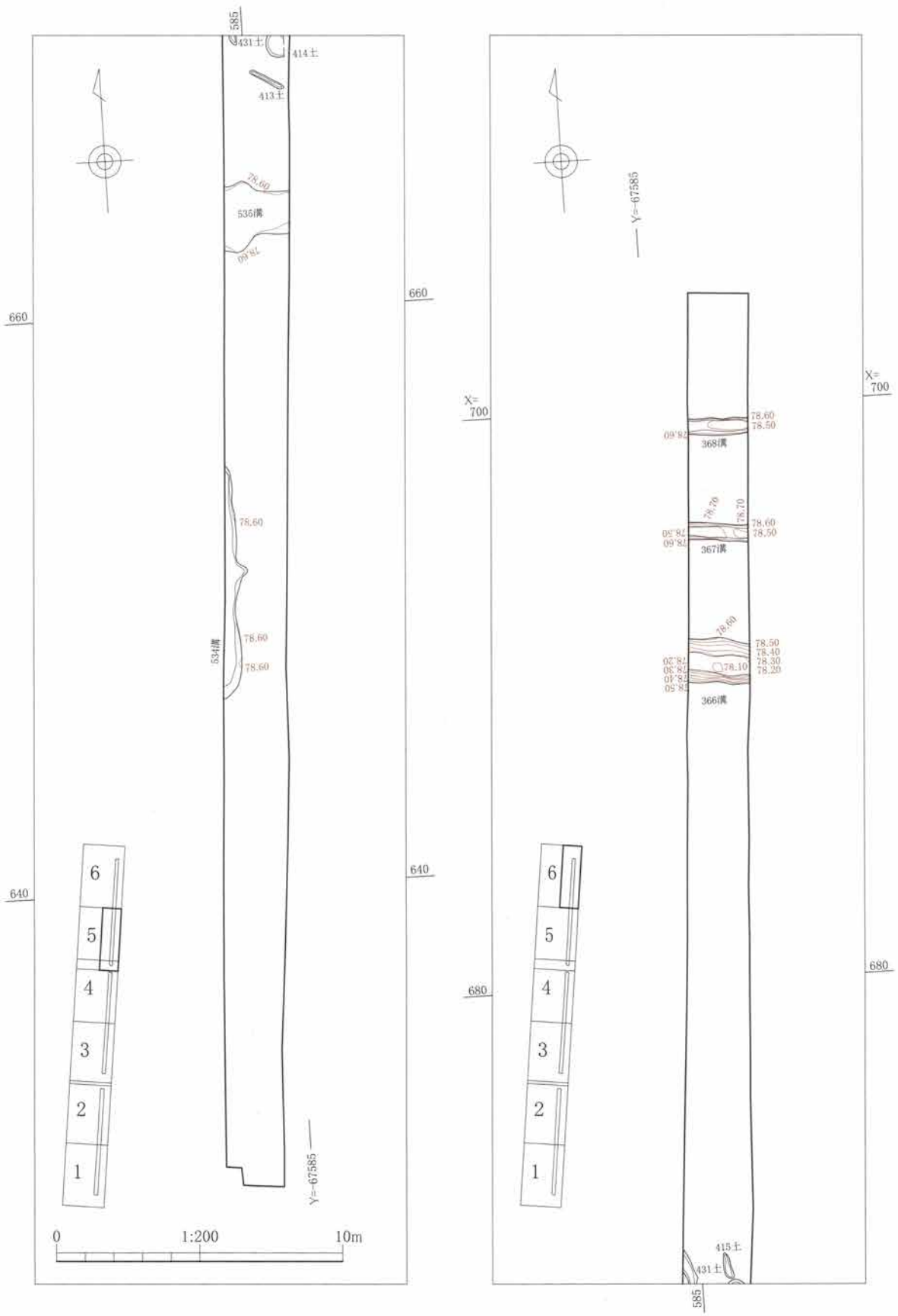
2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



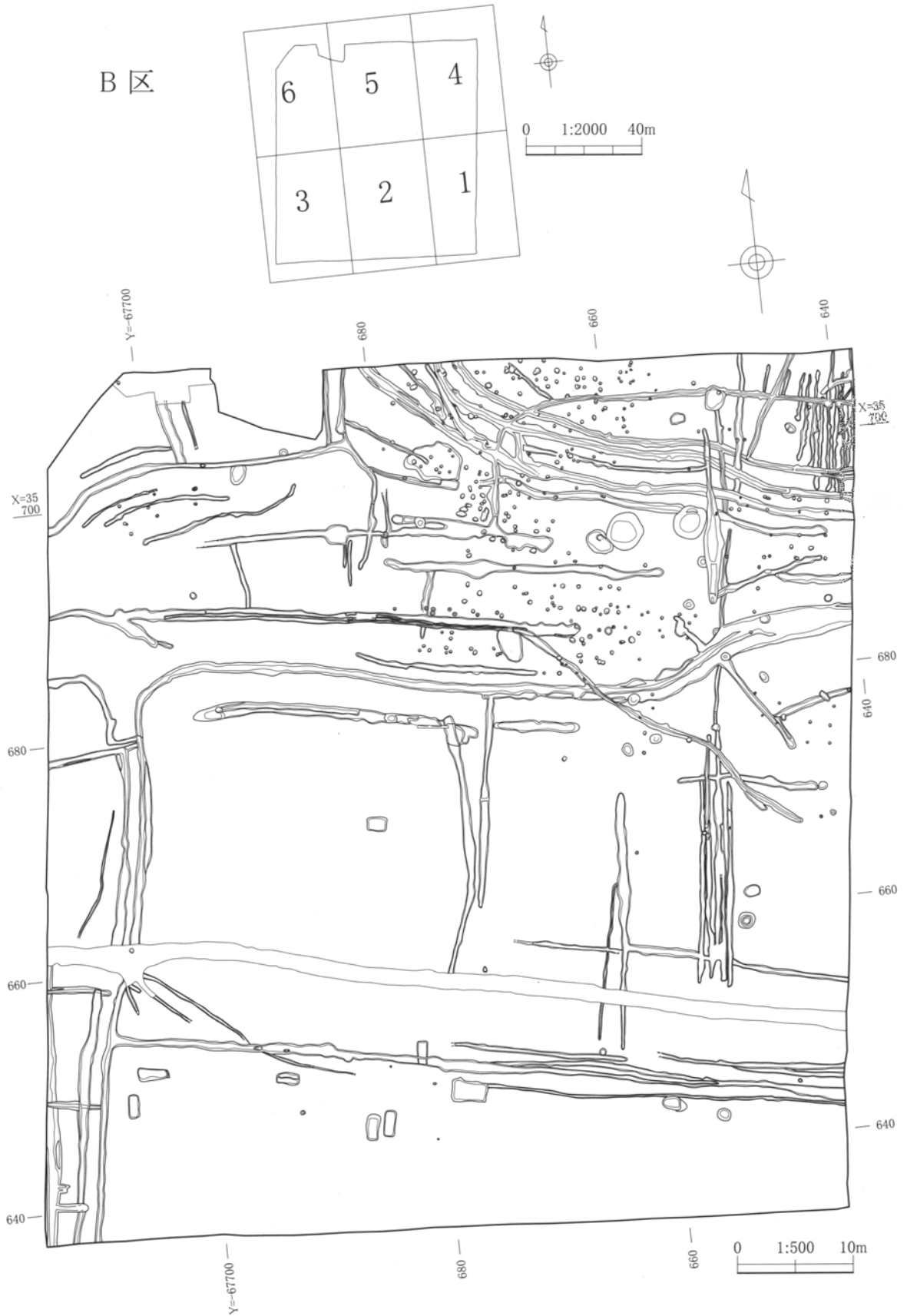
第196図 Aランプ 図割-1・2



第197図 Aランプ 図割-3・4



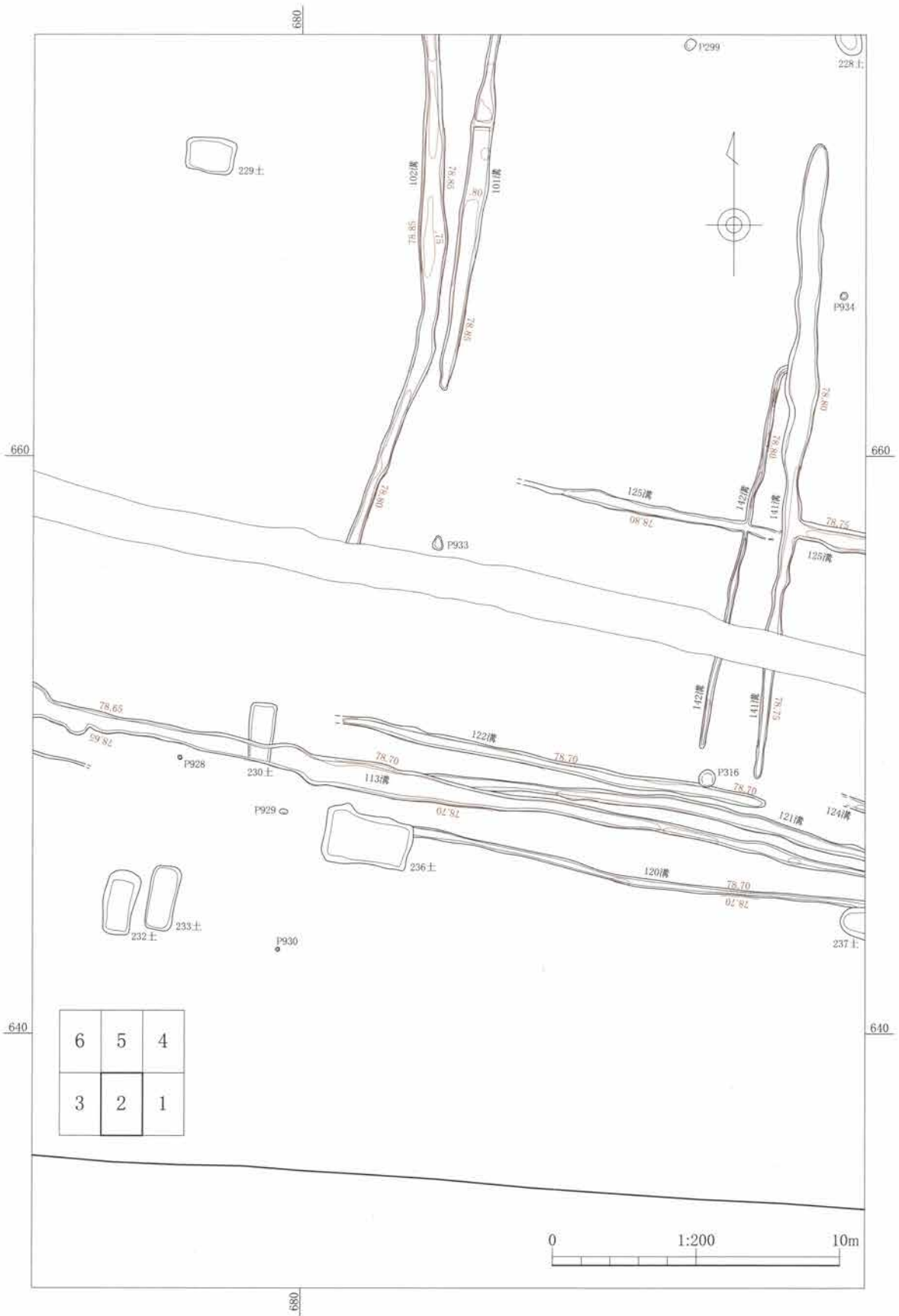
第198図 Aランプ 図割-5・6



第199図 中・近世面 B区全体図・割図

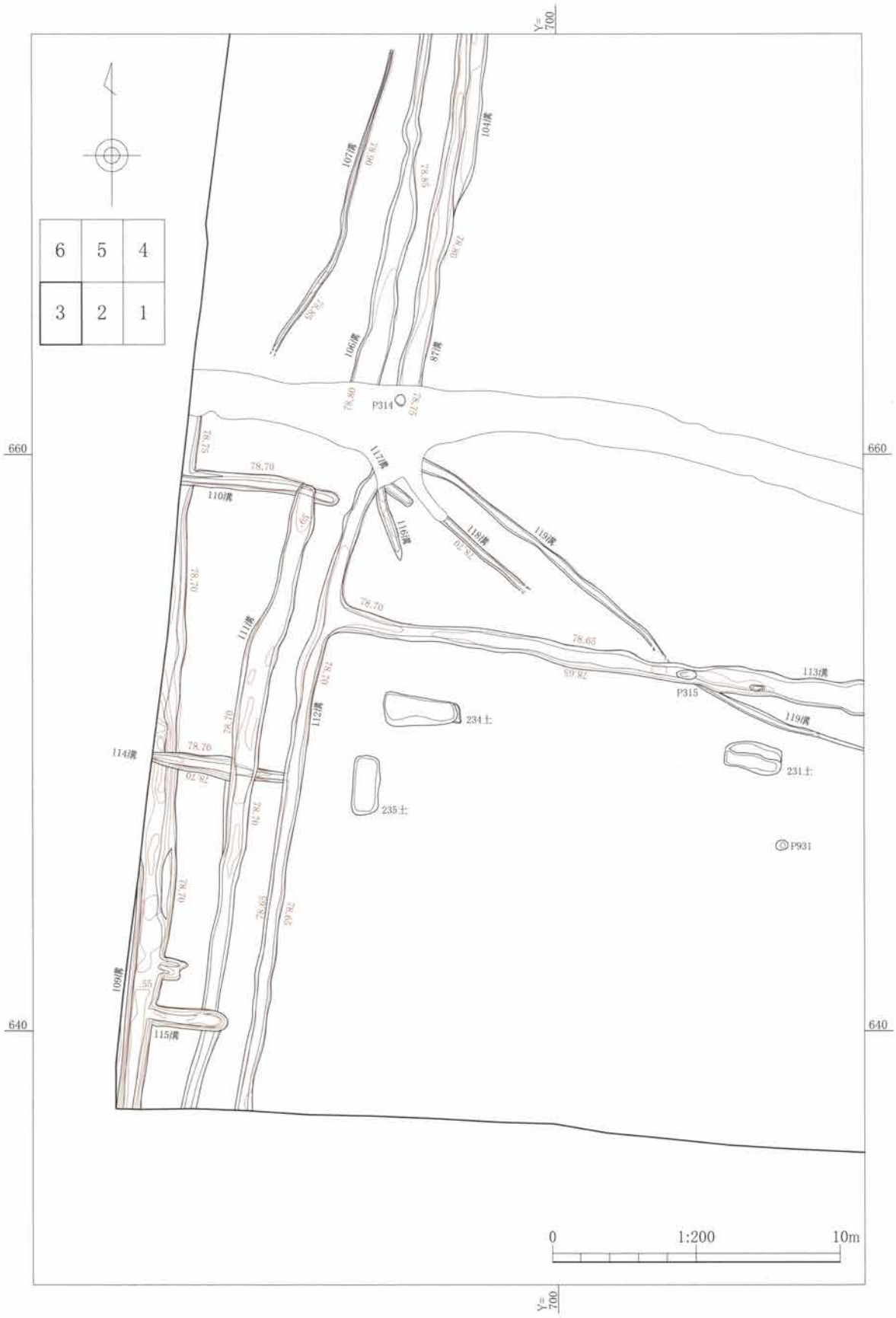


第200図 B区 図割-1

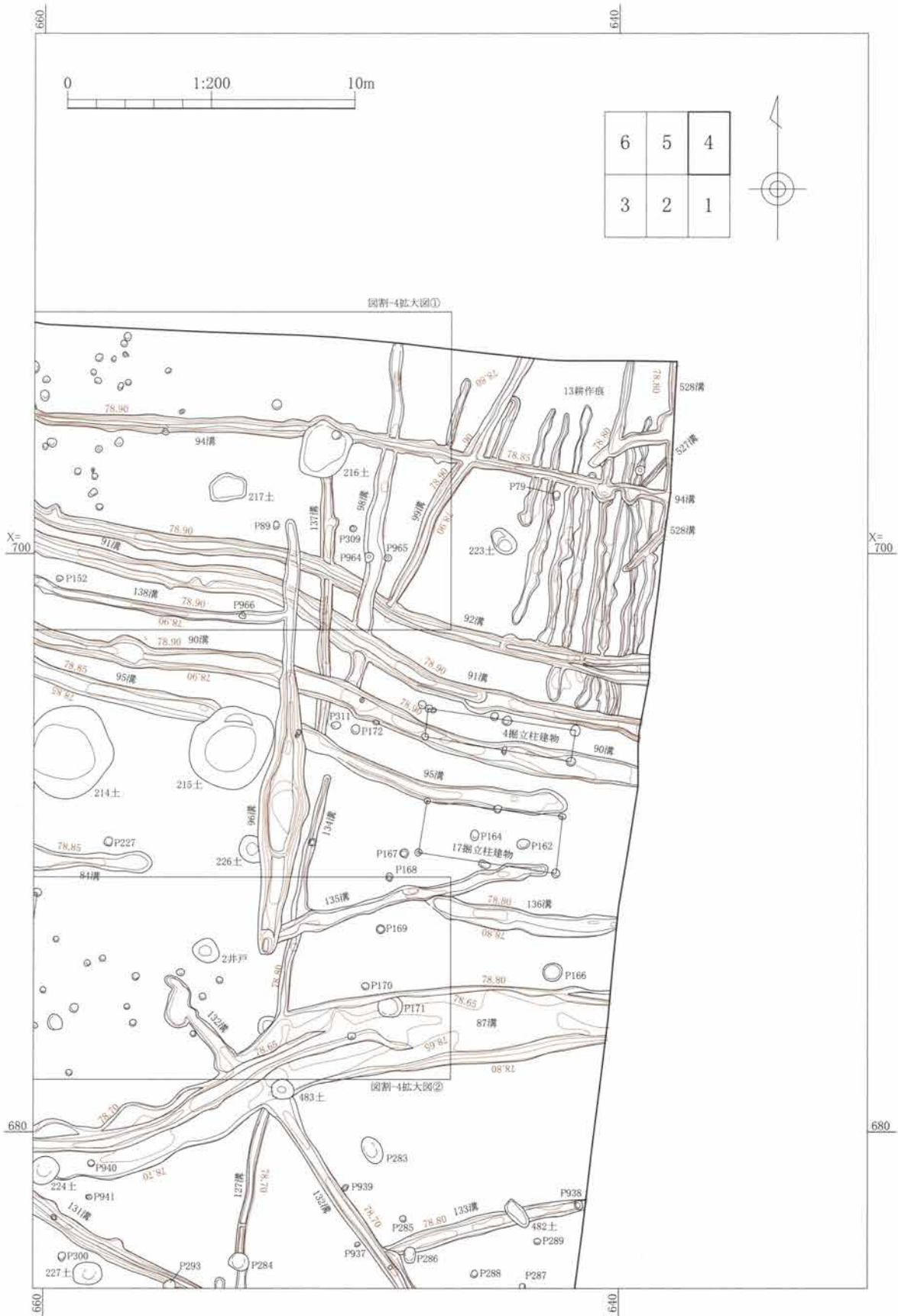


第201図 B区 図割-2

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

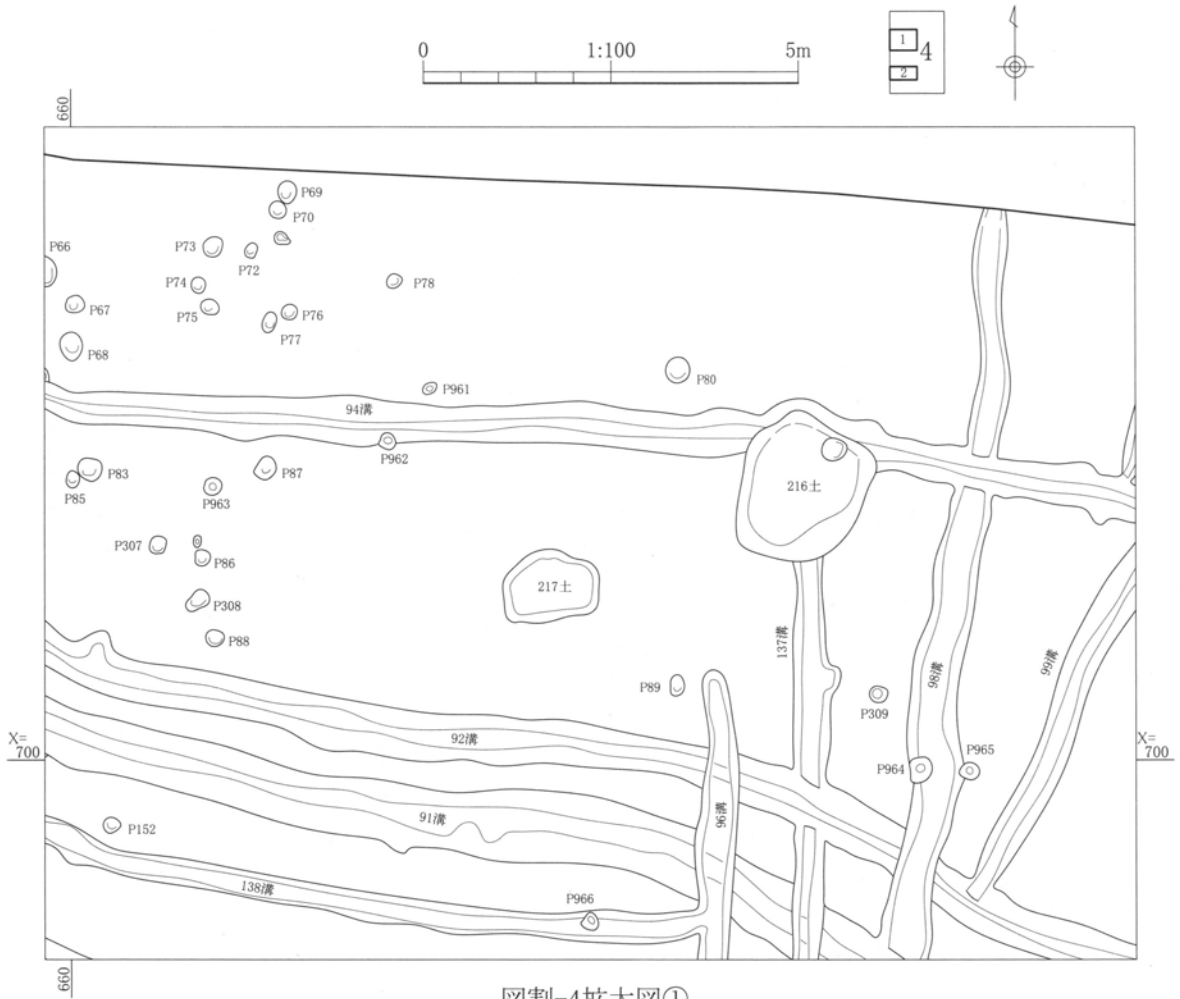


第202図 B区 図割-3

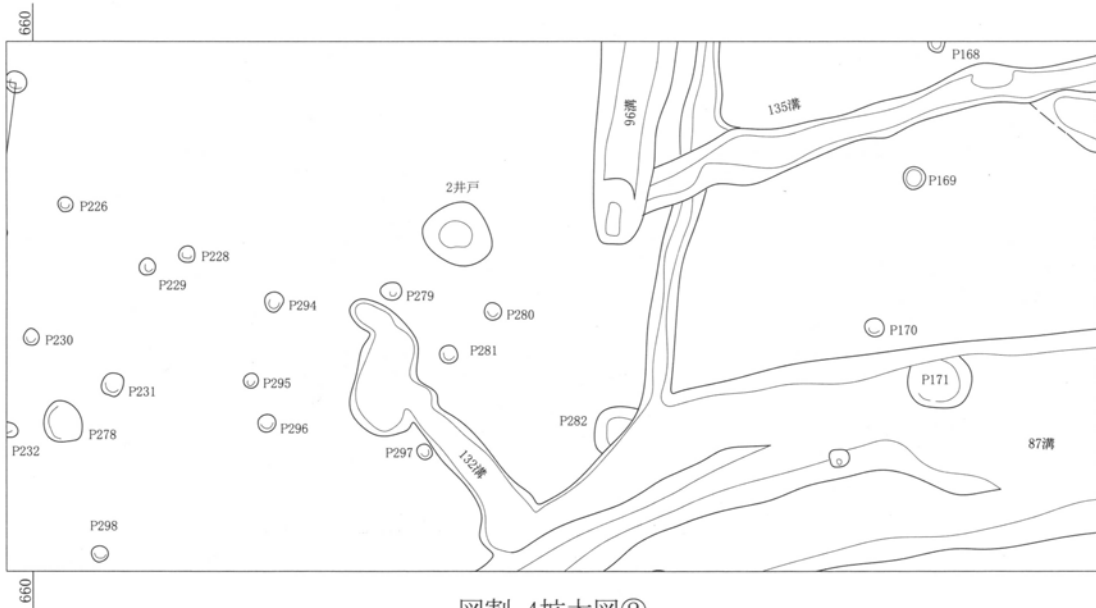


第203図 B区 図割-4

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

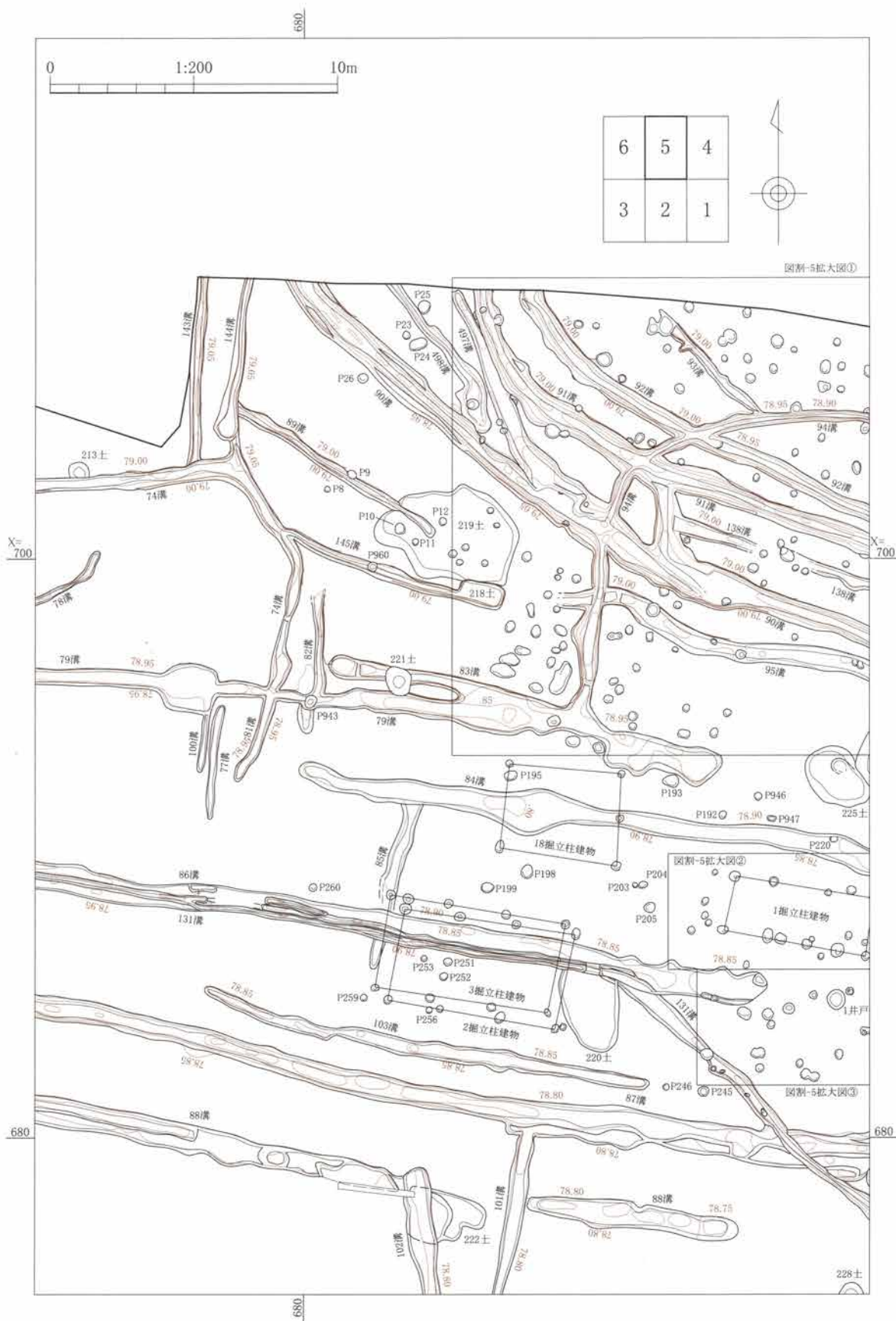


図割-4拡大図①



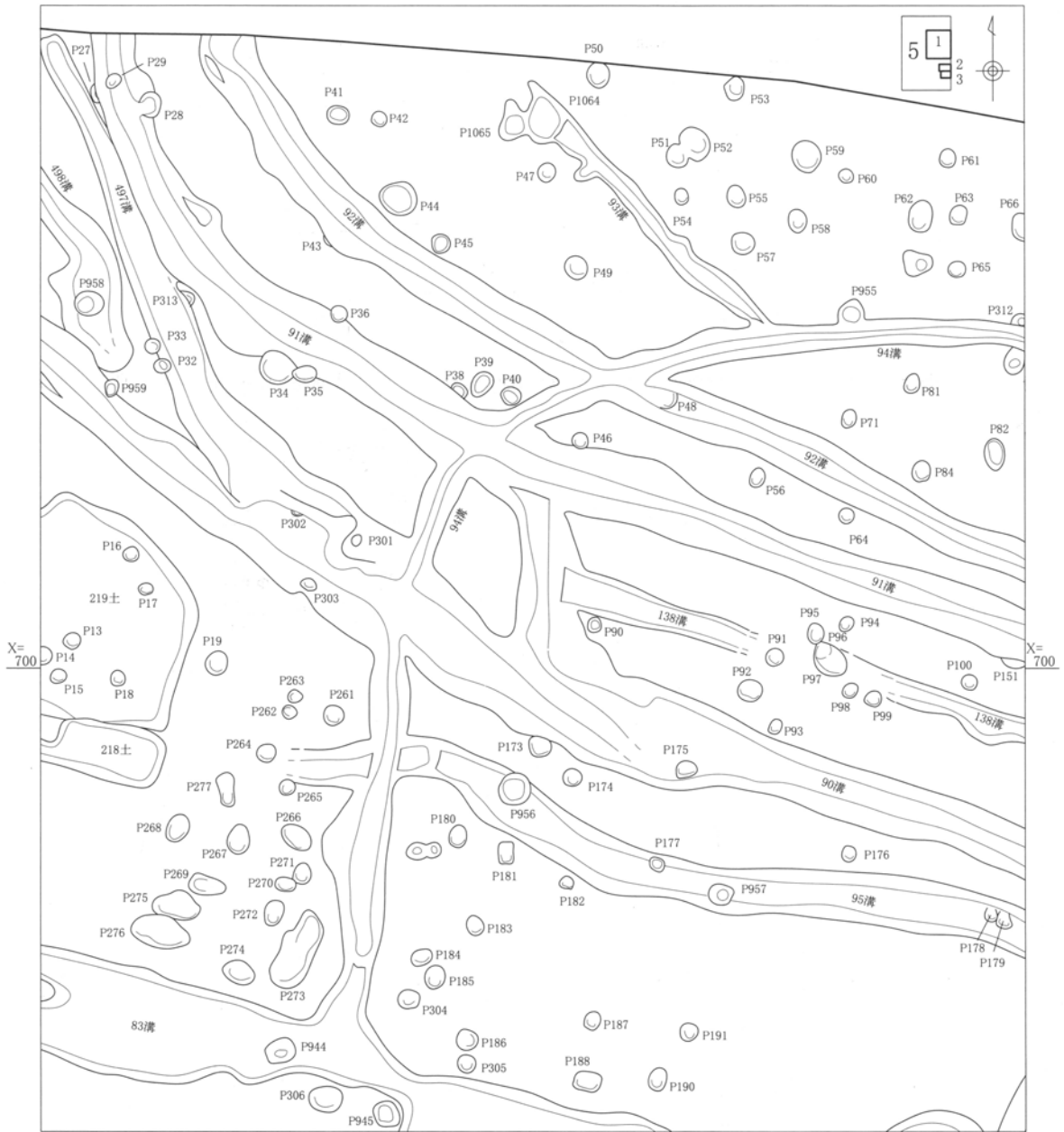
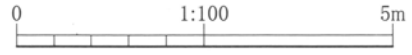
図割-4拡大図②

第204図 B区 図割4-拡大図①・②

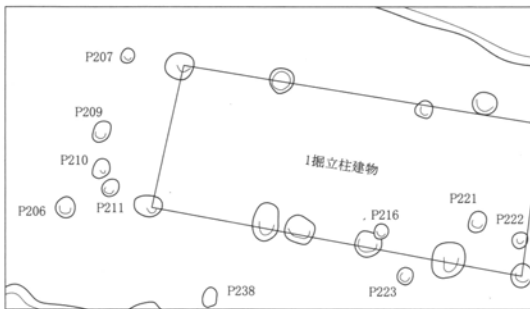


第205図 B区 図割-5

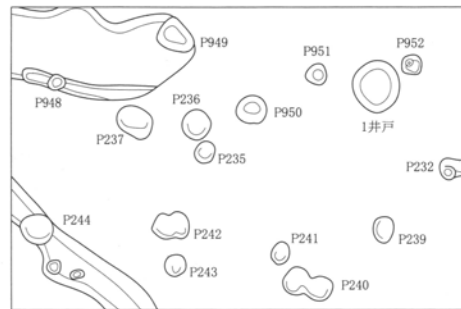
2. 中・近世面 (鎌倉時代~近世)



図割-5拡大図①



図割-5拡大図②



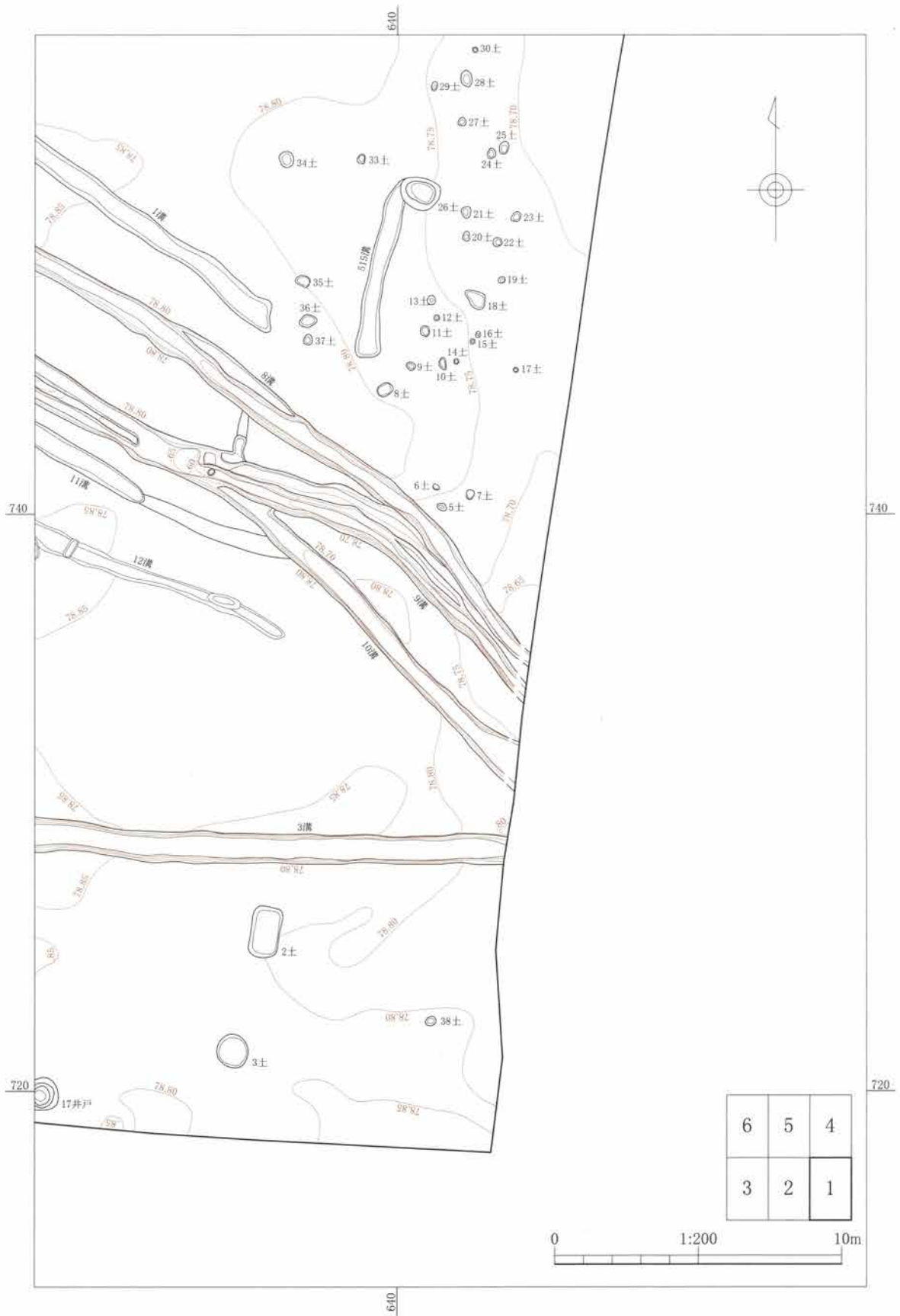
図割-5拡大図③

第206図 B区 図割5-拡大図①・②・③

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

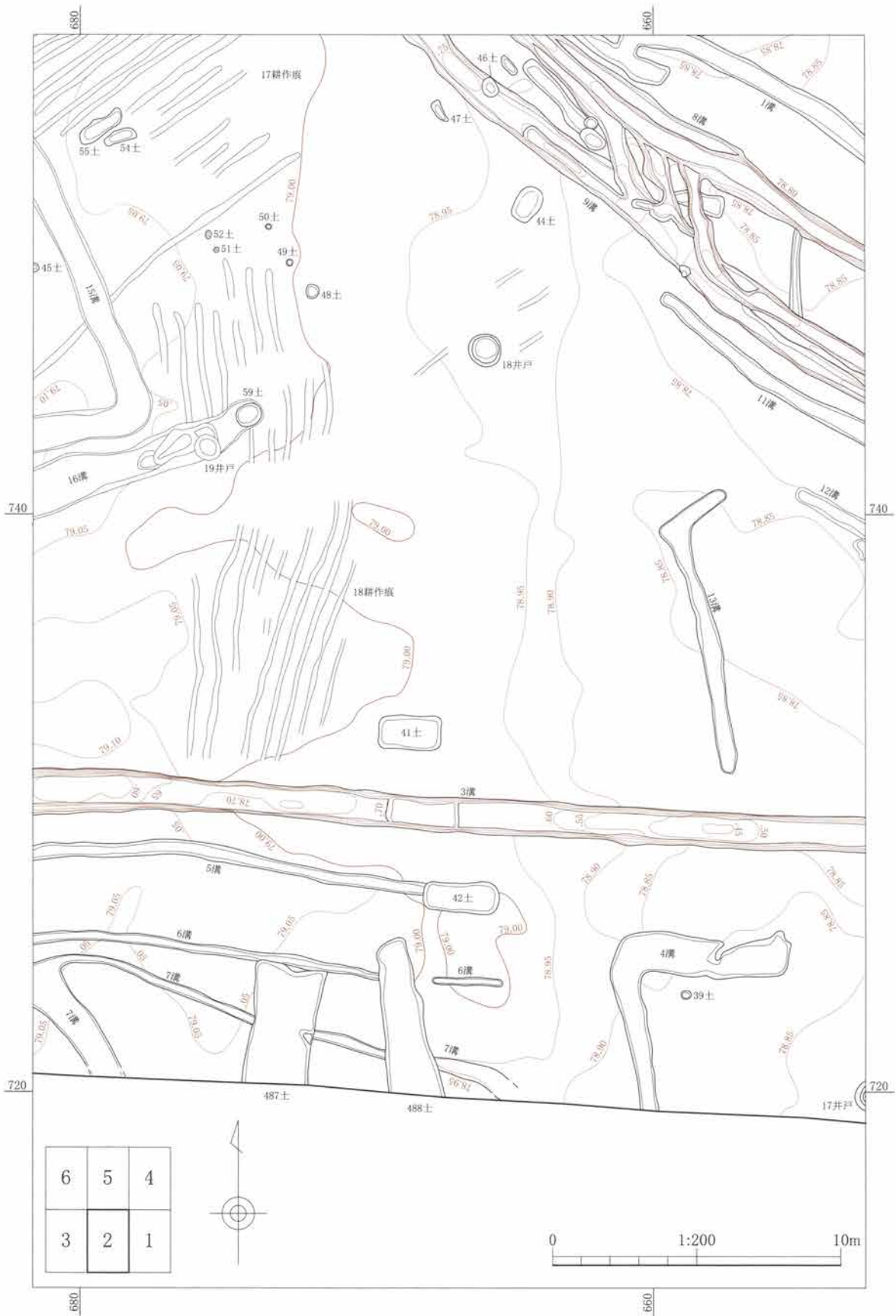


第208図 中・近世面 C区全体図・割図

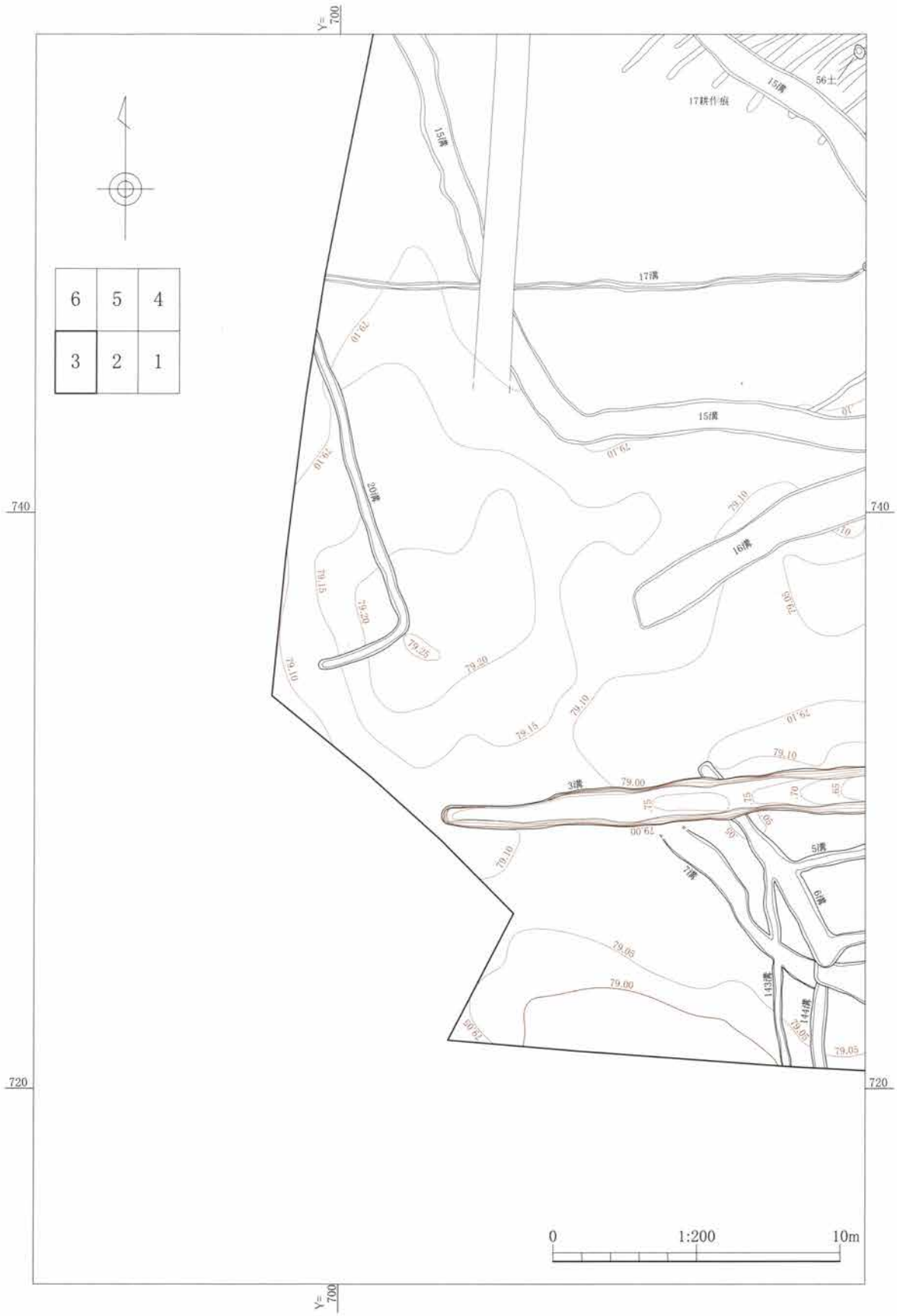


第209図 C区 図割-1

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

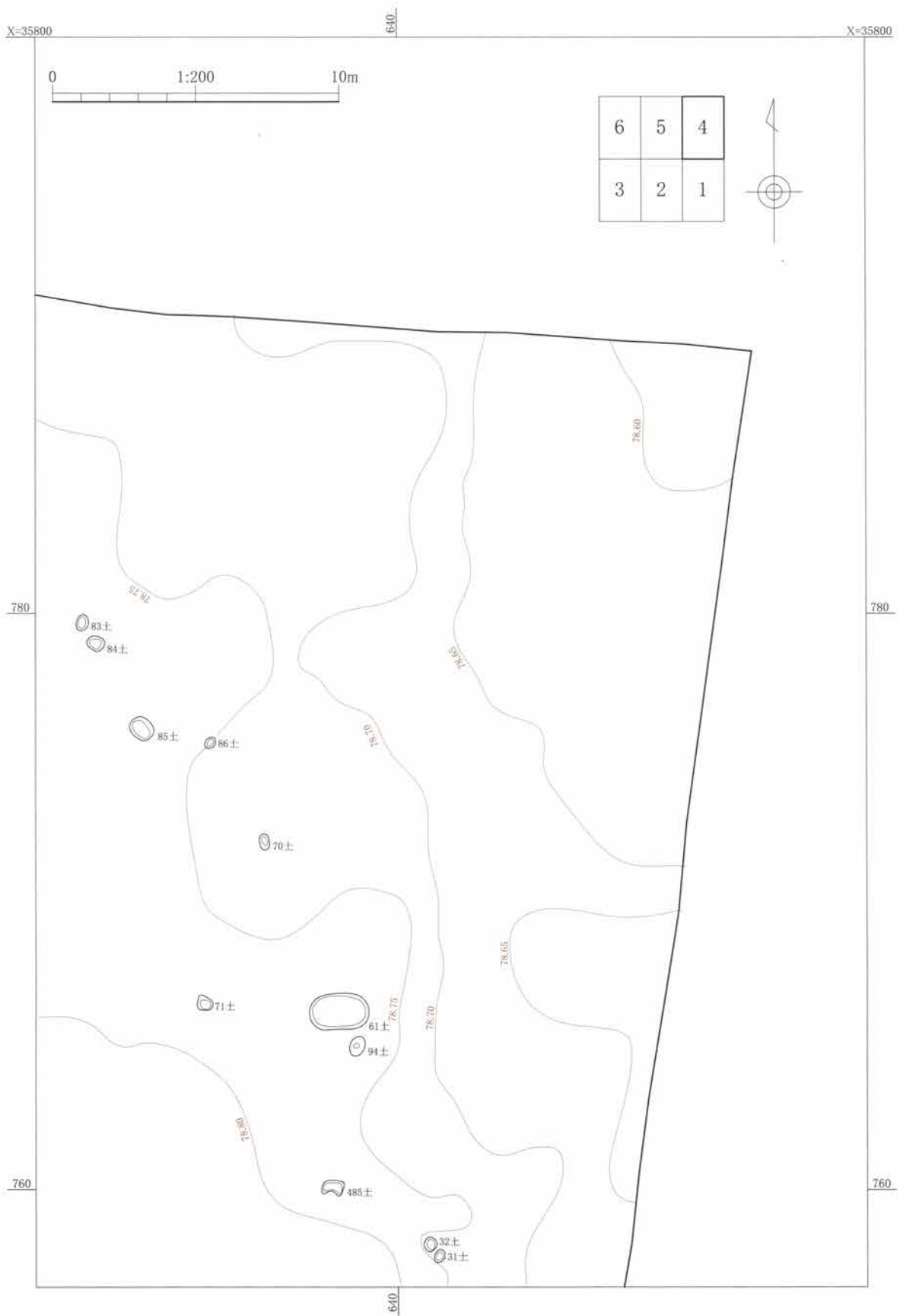


第210図 C区 図割-2



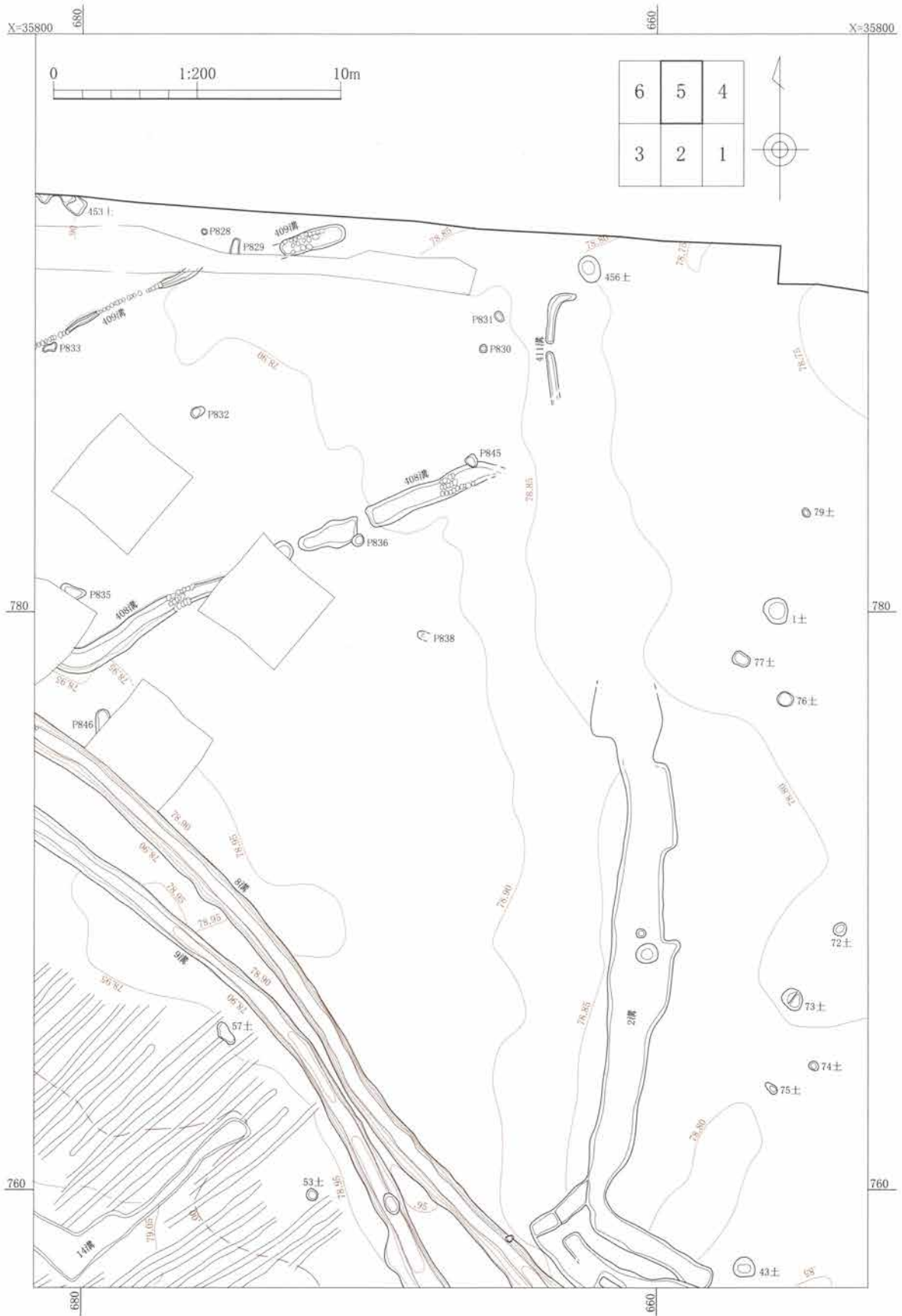
第211図 C区 図割-3

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

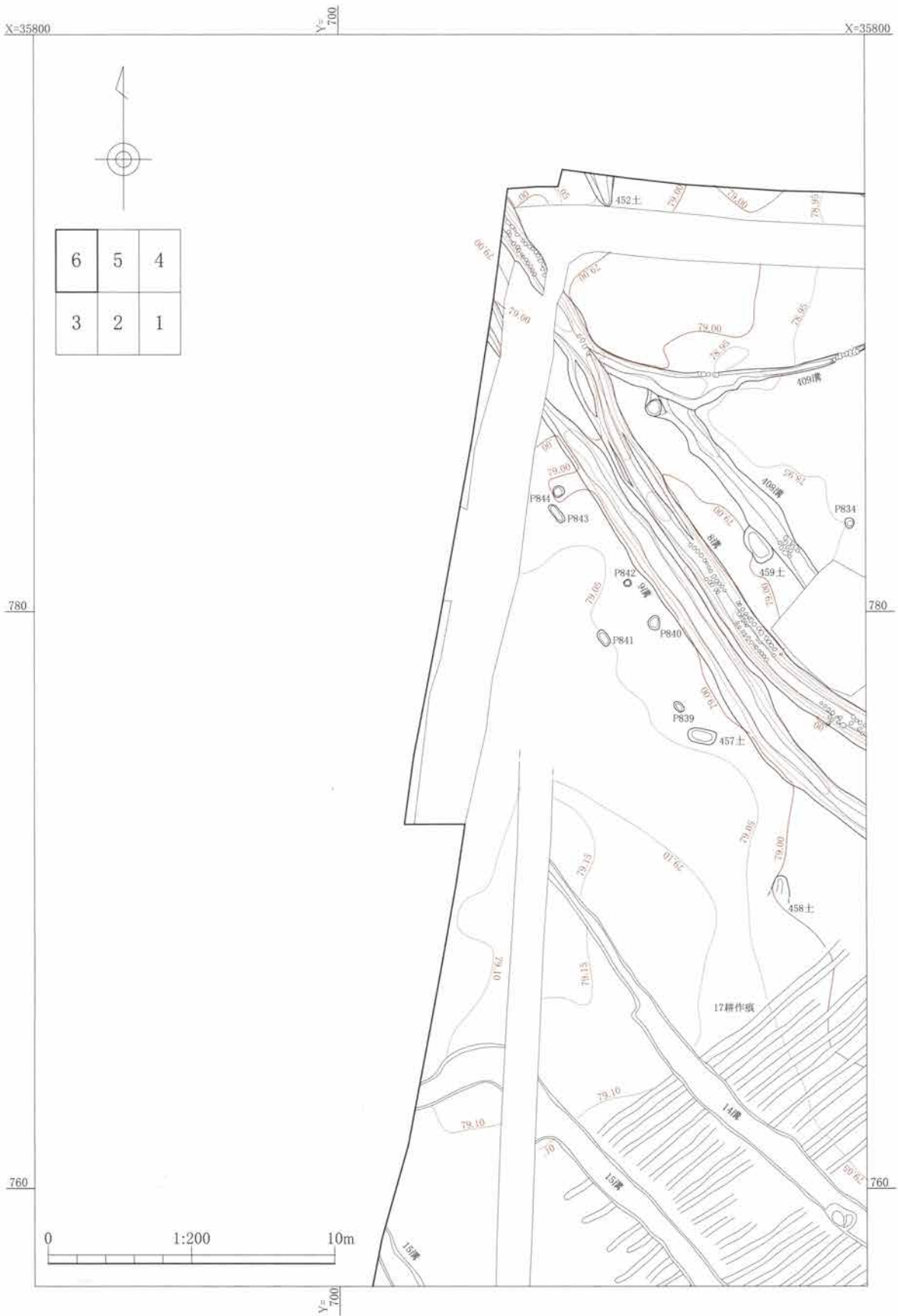


第212図 C区 図割-4

第2章 遺構と遺物



2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

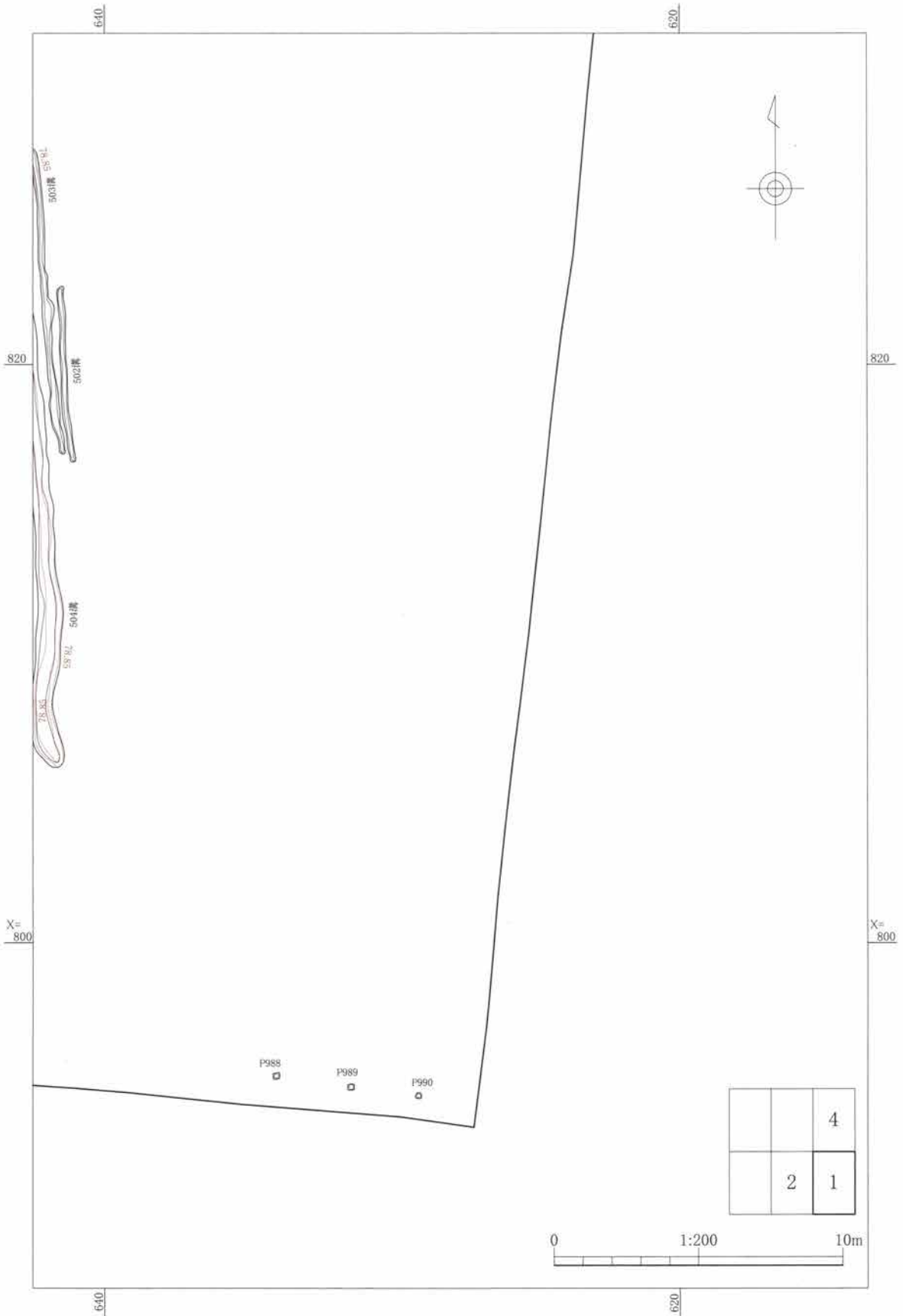


第214図 C区 図割-6

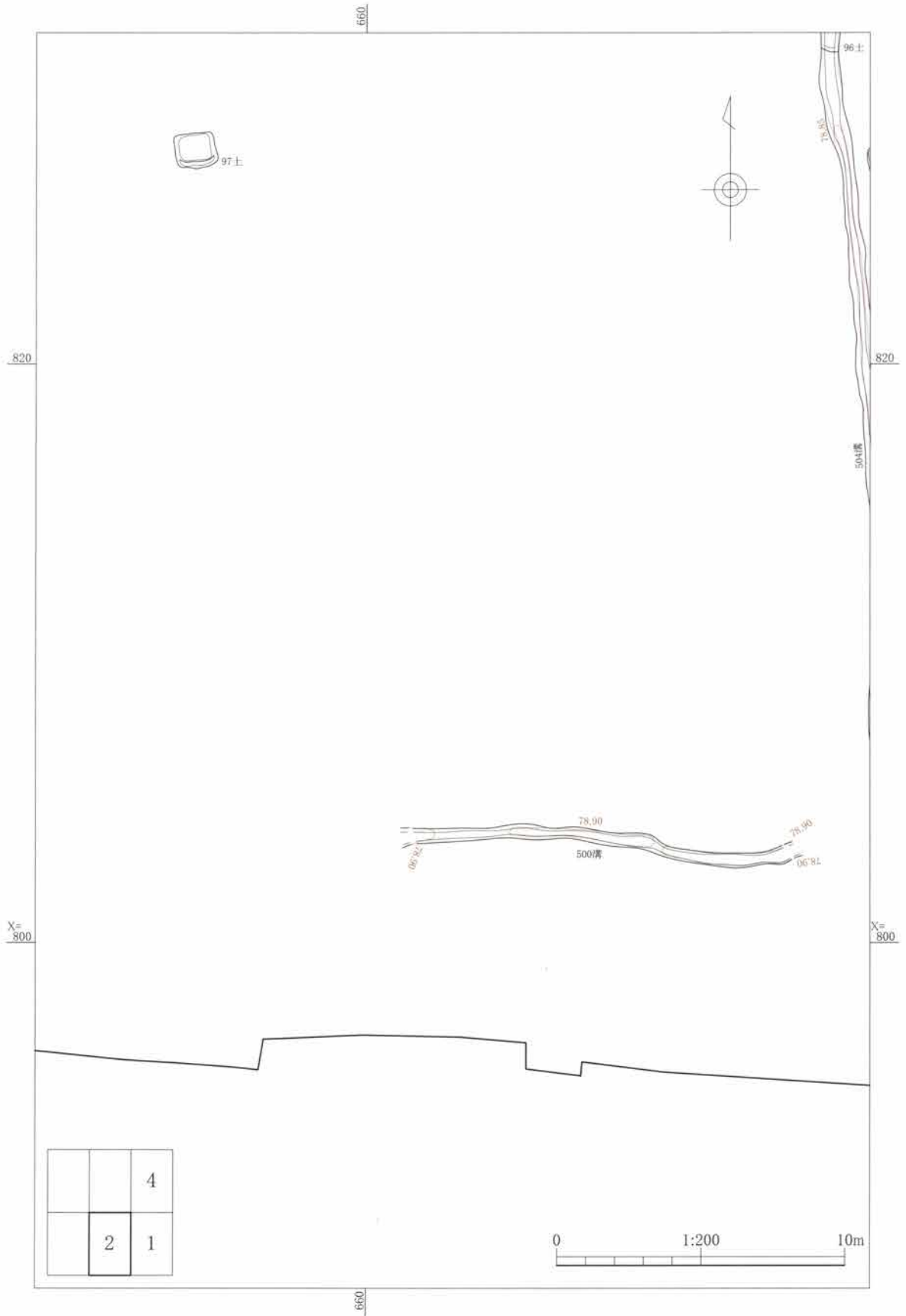


第215図 中・近世面 D区全体図・割図

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

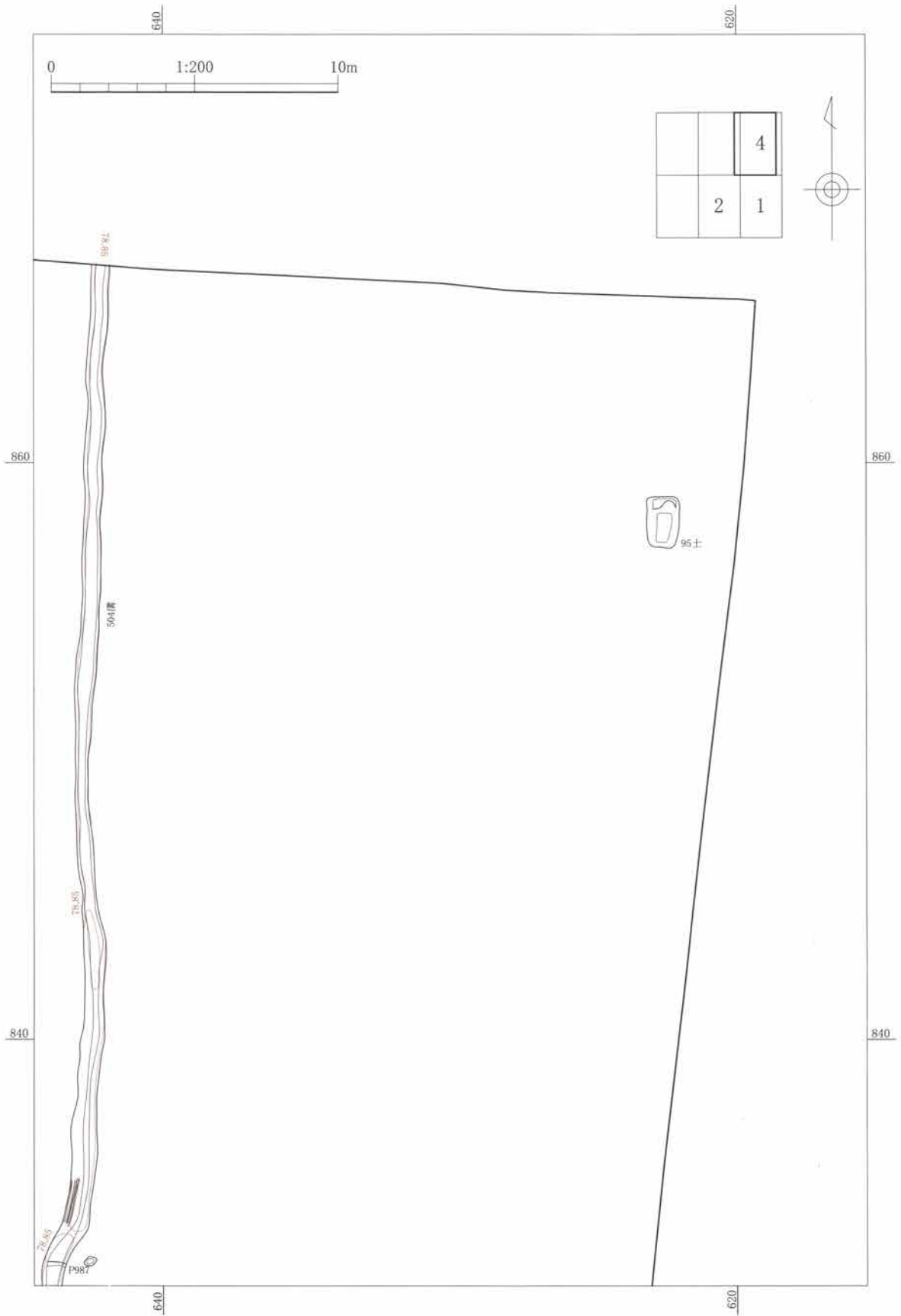


第216図 D区 図割-1

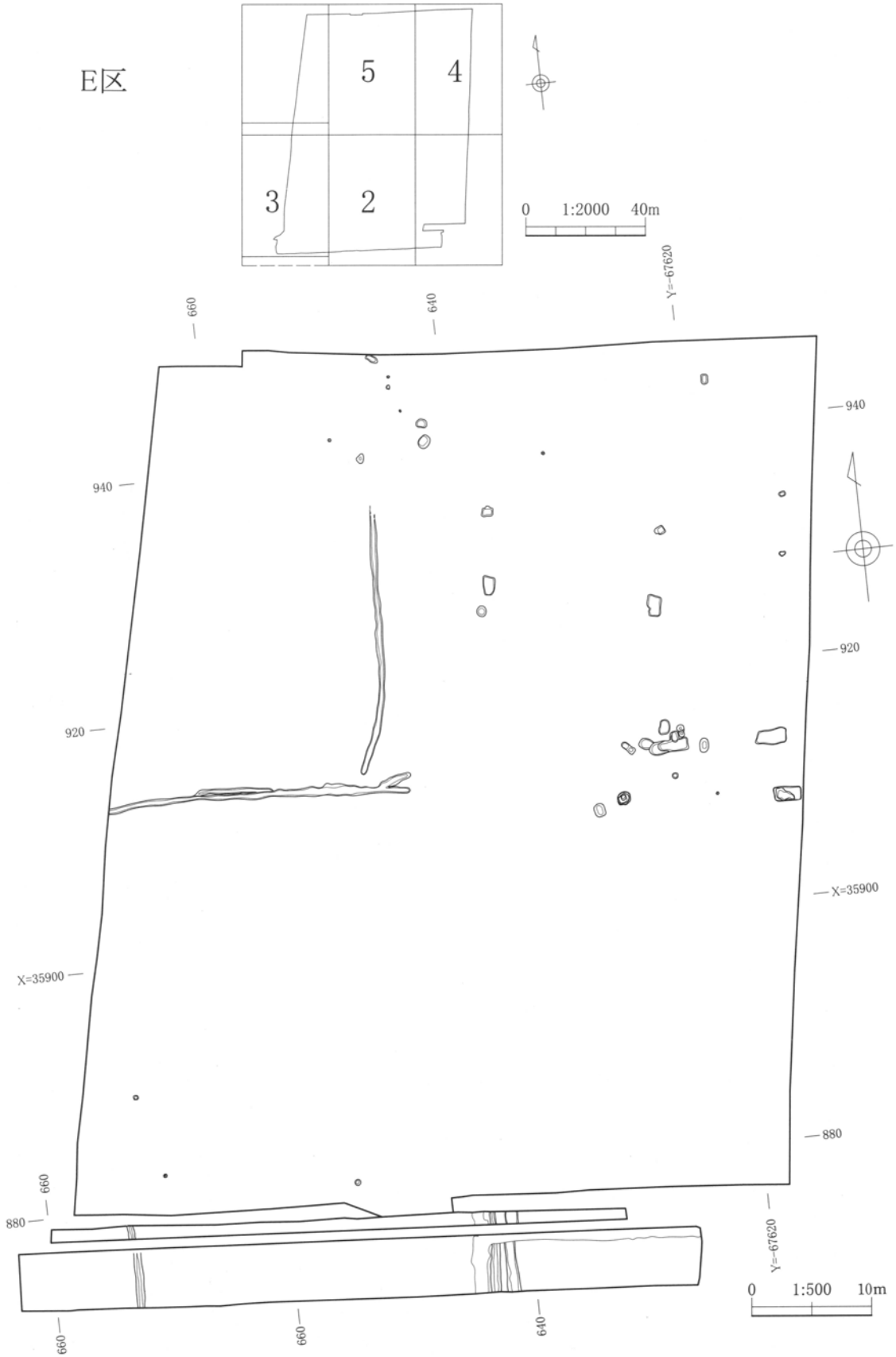


第217図 D区 図割-2

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

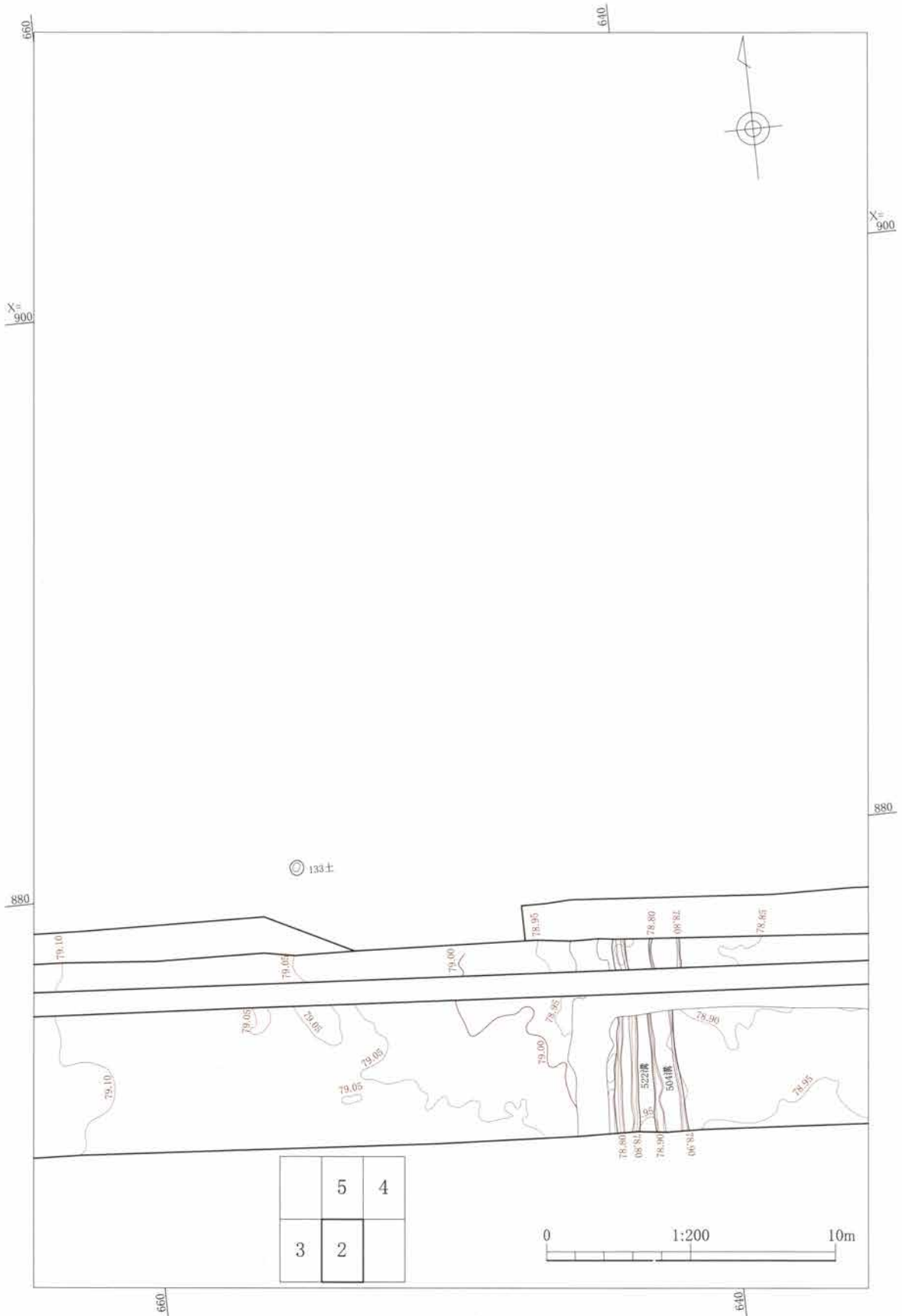


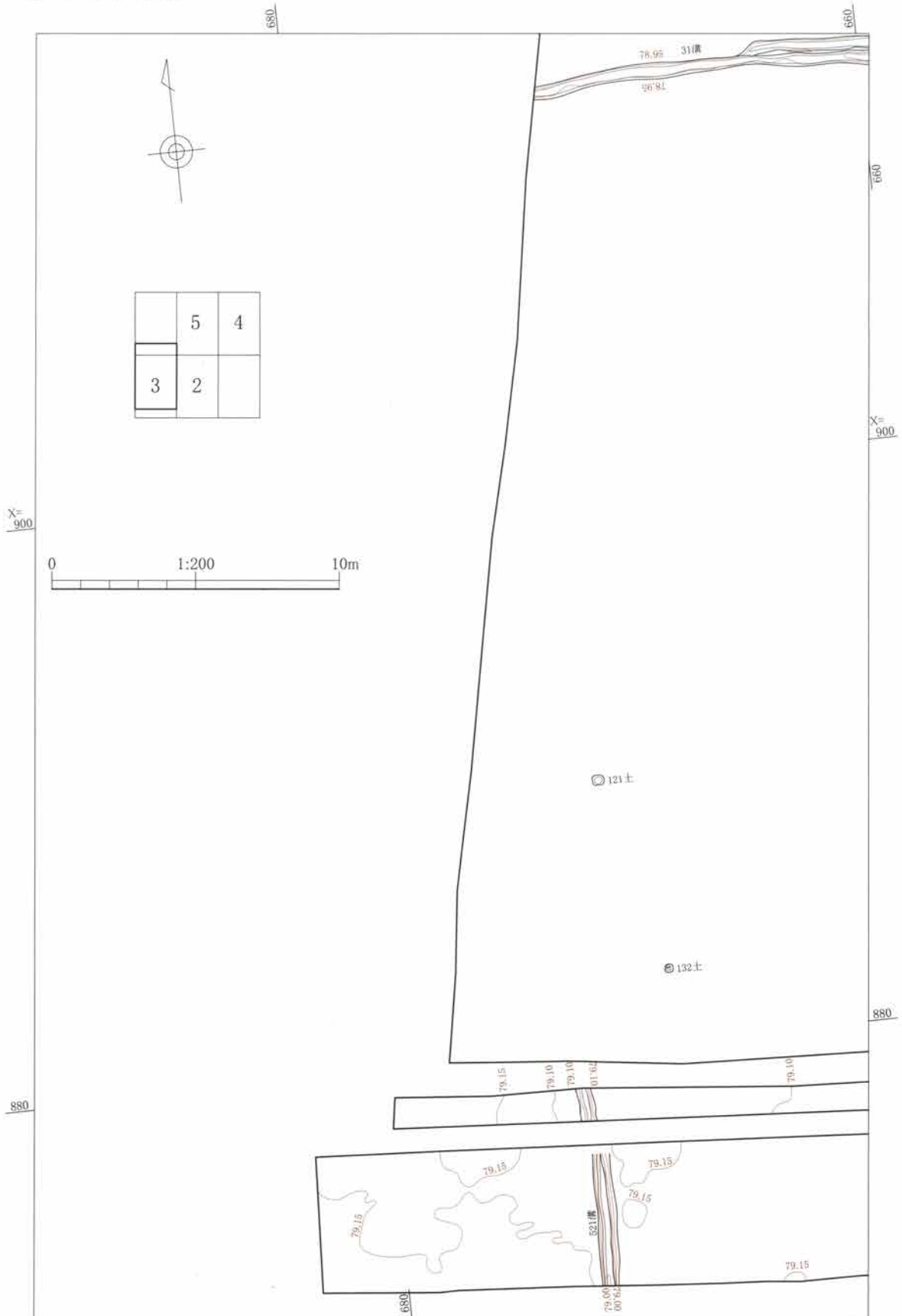
第218図 D区 図割- 4



第219図 中・近世面 E区全体図・割図

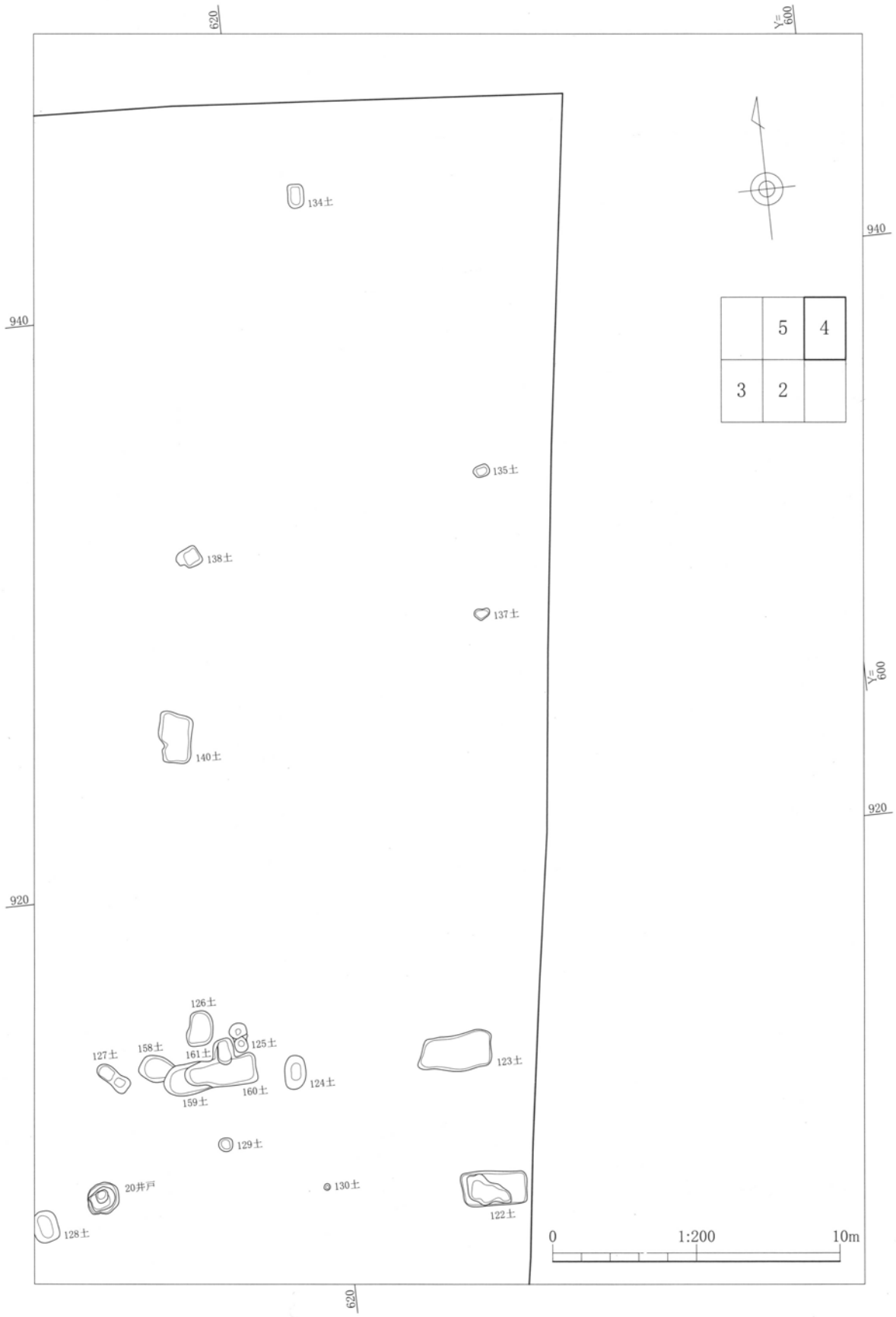
2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



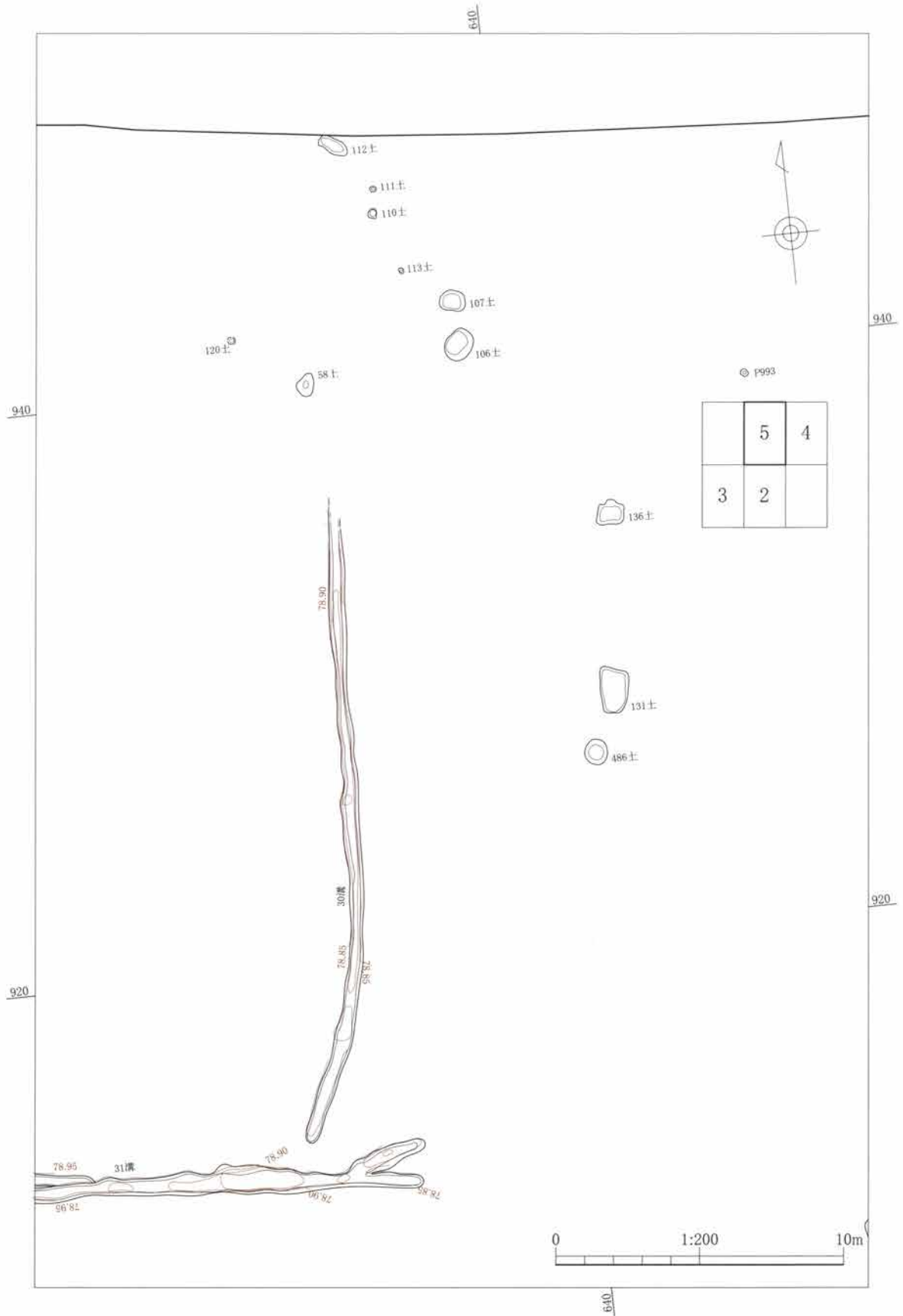


第221図 E区 図割-3

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



第222図 E区 図割-4

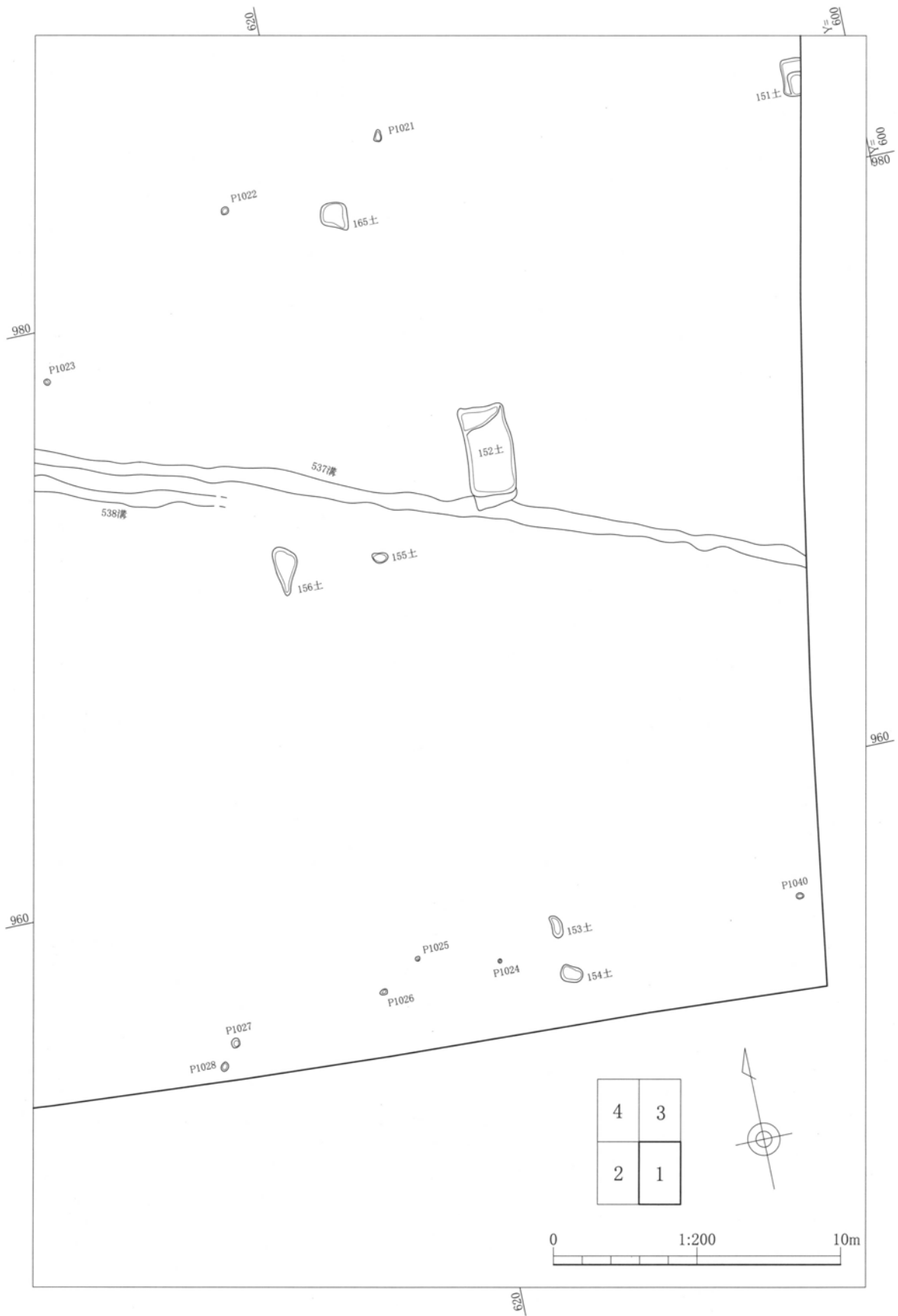


第223図 E区 図割-5

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

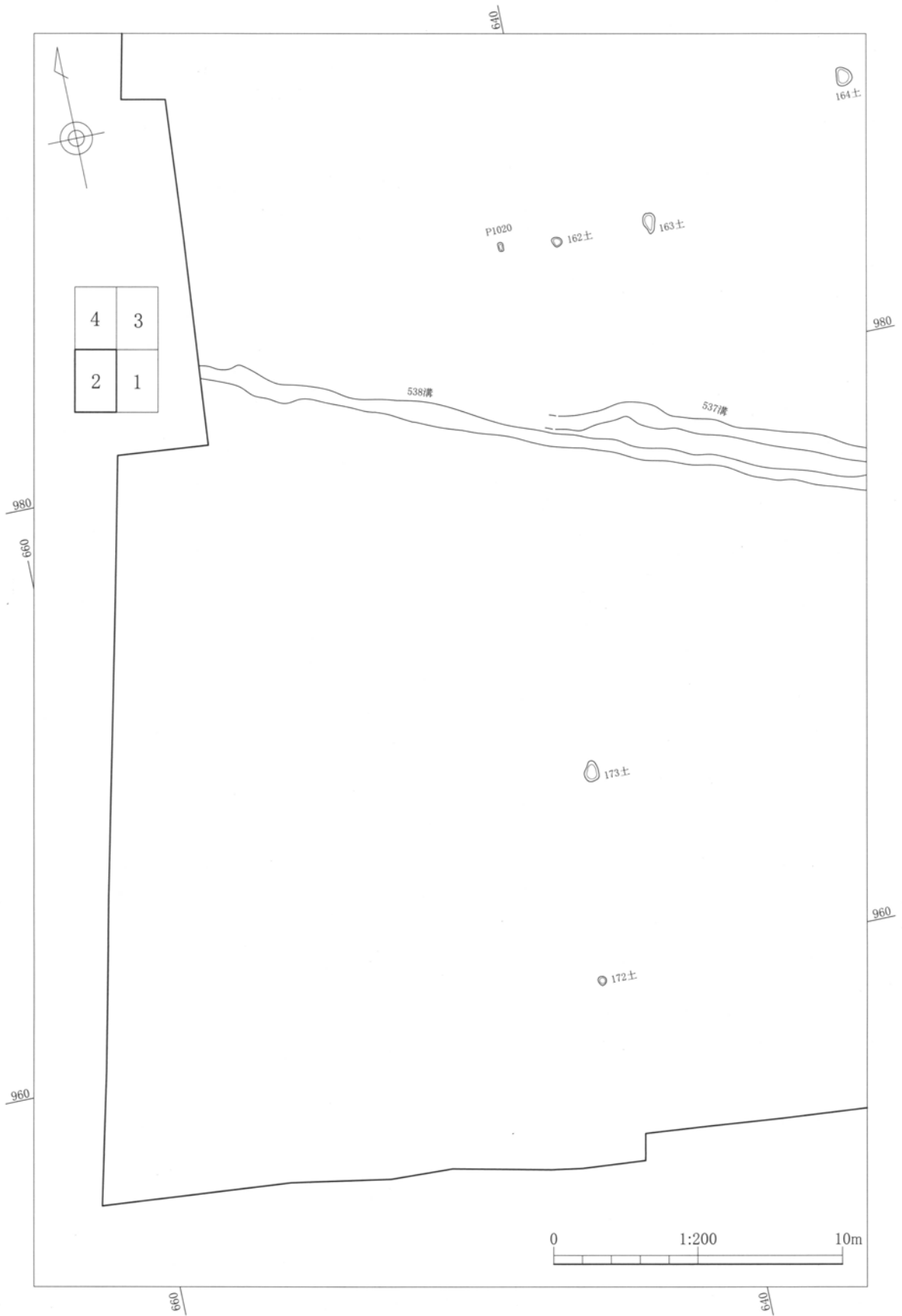


第224図 中・近世面 F区全体図・割図

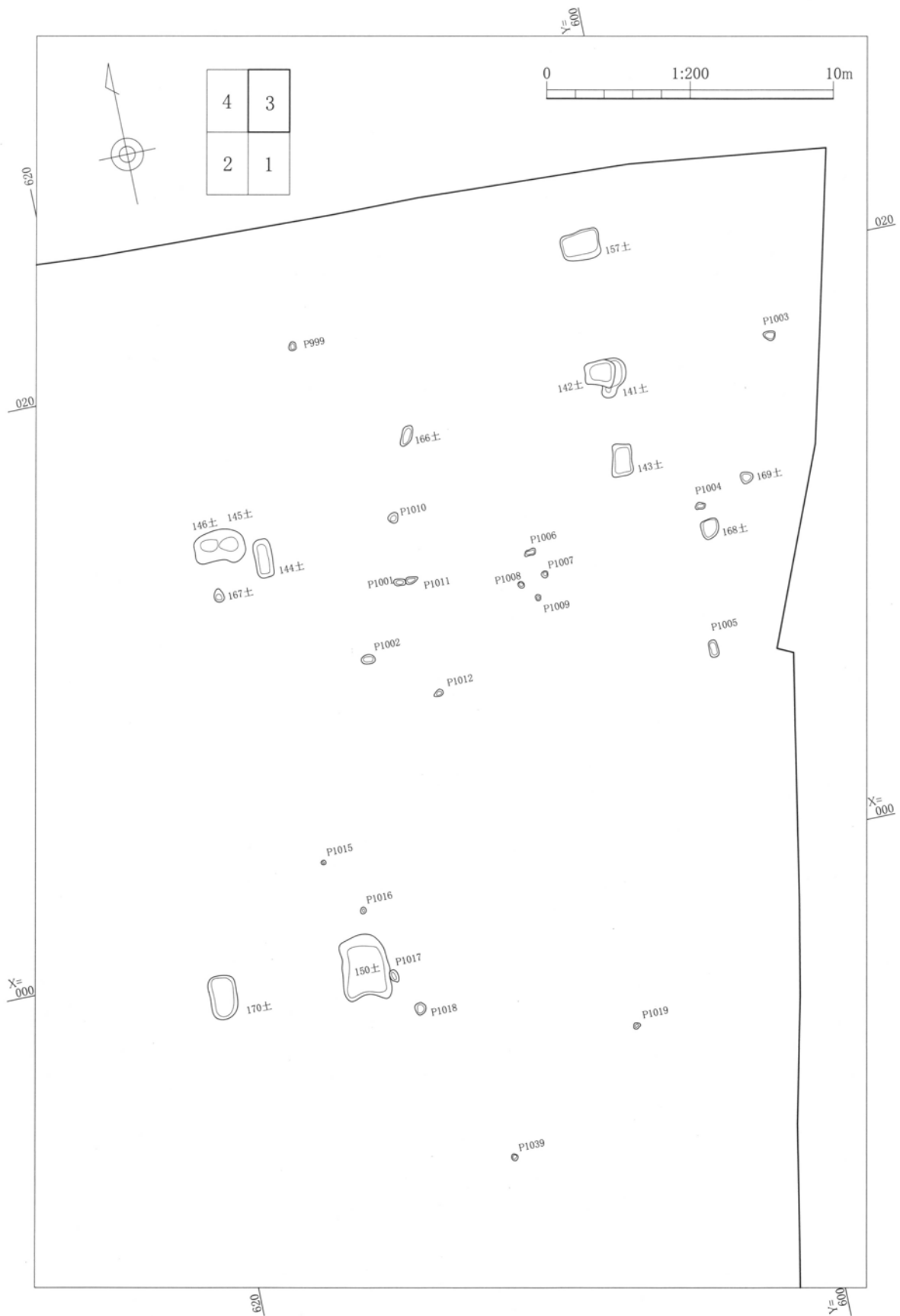


第225図 F区 図割-1

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

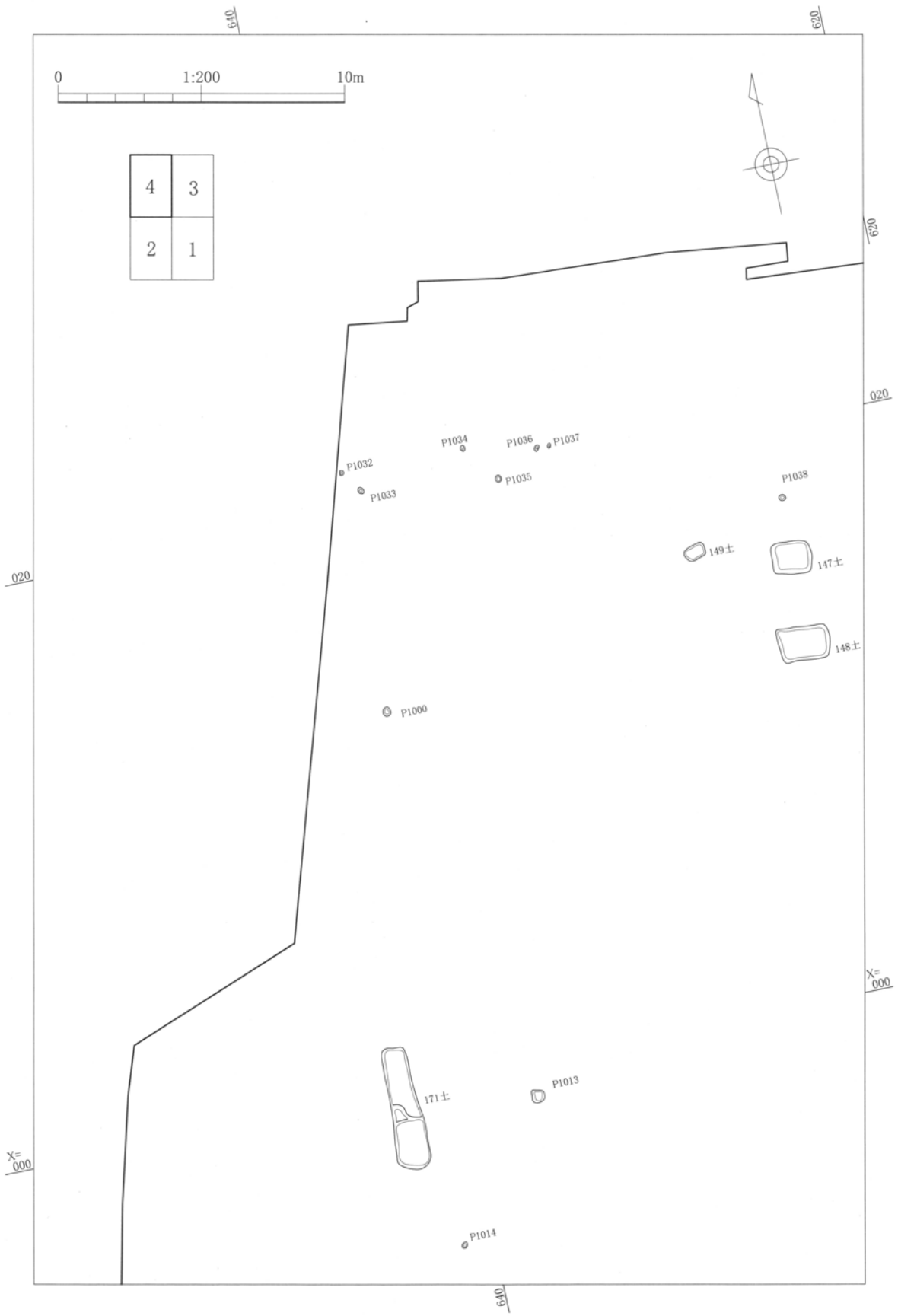


第226図 F区 図割-2



第227図 F区 図割-3

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）



第228図 F区 図割-4

(1) 溝

概要

中世面から検出できた溝は、全部で221条である。屋敷跡や水田に伴うと考えられる溝である。地形との関係から溝の水の流れは、大まかには北西から南東方向に流下するものが多い。これは、当地域を挟むように流れている利根川と井野川の両河川が、ともに北西から南東方向に流下していることと関係する。遺跡内の微細な地形の起伏や、また区画に影響されて、異なる流れを示す溝も検出されているが、この地域を理解する上では、やはり大きくは北西から南東へ地形が傾斜していることを意識して考えておくことが必要であろう。

また、B区の北半部には、溝や井戸・土坑・ピット群が集中している。一般的に用水路は、台地縁辺部を通ると考えられることや、水田域に土坑や井戸はつくられないと考えられること、さらにB区北東端では、畠の痕跡と考えられるサク状遺構（13耕作痕跡）が検出されていることから、B区北半部は畠として利用されていた可能性が高い。古墳時代においては水田跡が検出されているので、その後の利根川の氾濫などにより、この区域が微高地化したと思われる。その影響で、中世においては畠として利用されていたのであろう。B区北半部から西20mほどには、屋敷跡が検出されている。つまり、B区北半部分は、屋敷跡と同じ微高地の縁辺部分であり、中世では畠地として利用されていた、とする理解が自然であろう。さらに言えば、想像の域を出ないが、1,600年代の江原源左衛門重久を中心とする、天狗岩用水から引水した代官堀の掘削によって、水田化された地域の一つである可能性も考えられる。

以下、各調査区毎に報告する。

A-1区の溝

188号溝（第230図、PL-43）

位置 (A-1区)530・535—670、540・545—665・670、(A-2区)555—655、560—650・655、565・570—645・650グリッド 走向 北東→南西 規模 幅0.14～0.40m、深さ0.02～0.06m、調査長48.44m(A-1・2区総合した数値) 形状 なべ底の断面を呈する。 調査所見 A-1・A-2区にまたがり、A-1区の北東部、A-2区の南東部に位置する。水田に伴う水路と考えられるが、詳細は不明。

遺物 なし

204号溝（第231図、PL-43）

位置 525・530—685・690、525—695グリッド 走向 西→東 規模 幅0.55～0.72m、深さ0.02～0.07m、調査長11.50m 形状 不定形な断面を呈する。 調査所見 A-1区の北西部に位置する、東西方向の溝である。 遺物 なし

205号溝（第231図、PL-43）

位置 520・525—695グリッド 走向 北→南 規模 幅0.49～0.52m、深さ0.04～0.06m、調査長6.95

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

m 形状 不定形な断面を呈する。 調査所見 A-1区の北西部に位置する、南北方向の溝である。316土坑に上から切られており、316土坑よりも古い。 遺物 なし

206号溝（第232・233図、PL-43）

位置 510～525～675グリッド 走向 北→南 規模 幅0.38～0.67m、深さ0.09～0.16m、調査長15.62m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の中央部に位置する、南北方向の溝である。土層断面から、209溝と同時期の溝と思われる。 遺物 なし

207号溝（第231図、PL-43）

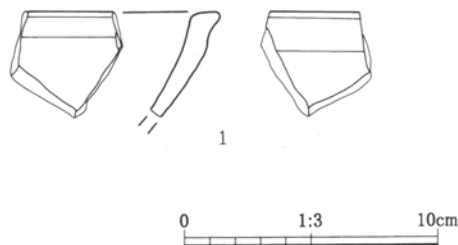
位置 530～540～685グリッド 走向 北→南 規模 幅0.65～0.90m、深さ0.07～0.14m、調査長8.24m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の北中央部に位置する、南北方向の溝である。318土坑・7井戸によって、上から切られている。 遺物 なし

208号溝（第230図、PL-43）

位置 530～660・665、535～545～660グリッド 走向 北→南 規模 幅0.29～0.56m、深さ0.02～0.05m、調査長18.38m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の北中央部に位置する、南北方向の溝である。水田に伴う溝と考えられるが、詳細は不明。 遺物 なし

209号溝（第229・232・233図、PL-44）

位置 525～660～680グリッド 走向 西→東
規模 幅0.92～1.34m、深さ0.13～0.21m、調査長17.50m 形状 丸底状の断面を呈する。
調査所見 A-1区の中央部やや北に位置する、東西方向の溝である。206溝と同時期の所産と思われる。 遺物 1は軟質陶器（器種不明）の口縁部片。



第229図 209号溝出土遺物

210号溝（第232・233図、PL-44）

位置 510～660～665グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.32～0.43m、深さ0.02～0.04m、調査長5.60m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の中央部に位置する、東西方向の溝である。水田に伴う小溝と考えられる。 遺物 なし

211号溝（第234・235図、PL-44）

位置 500～645・650、500・505～655・660グリッド 走向 西→東 規模 幅0.24～0.33m、深さ0.02～0.04m、調査長16.14m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の中央部に位置する、東西方向の溝である。225溝との詳細な新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の所産と考えられよう。 遺物 なし

第2章 遺構と遺物

212号溝 (第234・235図、PL-44)

位置 500—630・635グリッド 走向 西→東 規模 幅0.13～0.39m、深さ0.02～0.07m、調査長5.70m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の中央部やや東に位置する、東西方向の溝である。211溝と同じ遺構である可能性が考えられる。 遺物 なし

214号溝 (第234図、PL-44)

位置 480～500—635、495・500—640～660グリッド 走向 西→東/北→南 規模 幅1.40～3.14m、深さ0.05～0.20m、調査長42.10m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の中央部やや南に位置する溝である。北から流下してくる225溝と、同じ溝である可能性も考えられるが、詳細は不明。 遺物 なし

215号溝 (第234・235図、PL-45)

位置 495—645・650グリッド 走向 西→東 規模 幅0.34～0.58m、深さ0.03～0.09m、調査長3.50m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 規模の小さな溝である。214・216溝とつながる可能性も考えている。 遺物 なし

216号溝 (第234図、PL-44)

位置 480～495—635・640グリッド 走向 西北→南 規模 幅0.17～0.45m、深さ0.02～0.03m、調査長14.78m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の南東部に位置する、南北方向の溝である。 遺物 なし

219号溝 (第236図、PL-45)

位置 475—620・625グリッド 走向 西→北東 規模 幅0.35～0.60m、深さ0.03～0.04m、調査長7.88m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の南東部に位置する、東西方向の溝である。 遺物 なし

220号溝 (第236図、PL-45)

位置 475—620・625グリッド 走向 西→北東 規模 幅0.22～0.85m、深さ0.02～0.08m、調査長8.24m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の南東部に位置する、東西方向の溝である。 遺物 なし

225号溝 (第232・233図、PL-45)

位置 500～520—660グリッド 走向 北→南 規模 幅0.30～0.78m、深さ0.02～0.13m、調査長22.46m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の中央部に位置する、南北方向の溝である。211・214溝との新旧関係不明。214溝と同じ溝である可能性も考えられる。 遺物 なし



- | | | | |
|--|-----------------|------------|--|
| | SA 78.70 | SA' | 185号溝 S A
1 にぶい黄褐色土 As-Bを多量に含む。酸化鉄分の斑点あり。
2 黒褐色土 粘性あり。As-Bを僅かに含む。 |
| | SB 78.70 | SB' | 187号溝 S B
1 黒褐色土 粘性弱い。 |
| | SC 78.70 | SC' | 208号溝 S C
1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。 |
| | SD 78.70 | SD' | 226号溝 S D
1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。 |
| | EA 78.60 | EA' | EB 78.70 |
| | EC 78.70 | EC' | ED 78.80 |
| | ED 78.80 | ED' | |

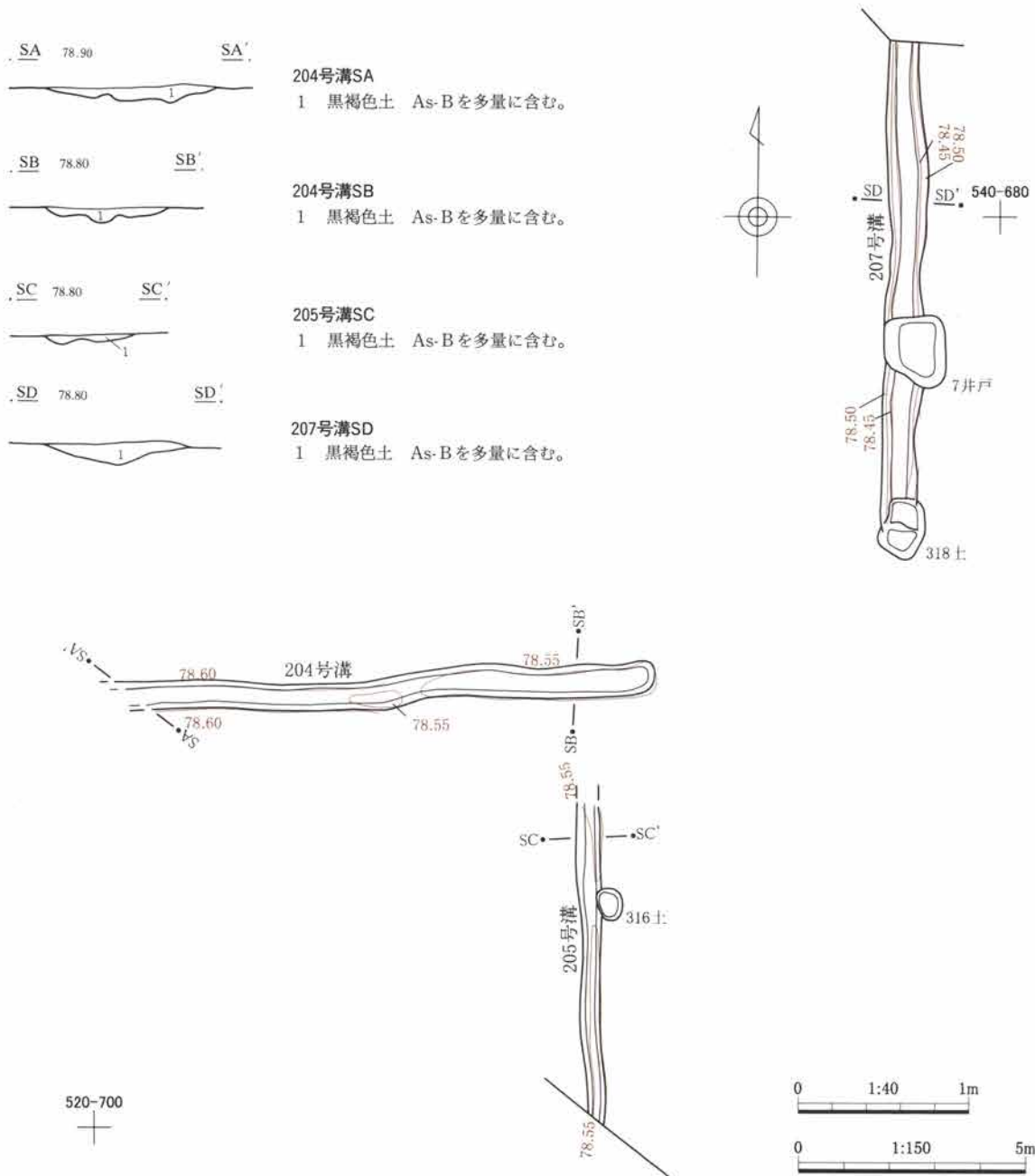
第230図 185~189・208・226号溝実測図

226号溝 (第230図)

位置 530・535—655、540—650・655グリッド 走向 北→南 規模 幅0.22~0.36m、深さ0.01~0.03m、調査長11.36m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の北東部に位置する、南北方向の溝である。 遺物 なし

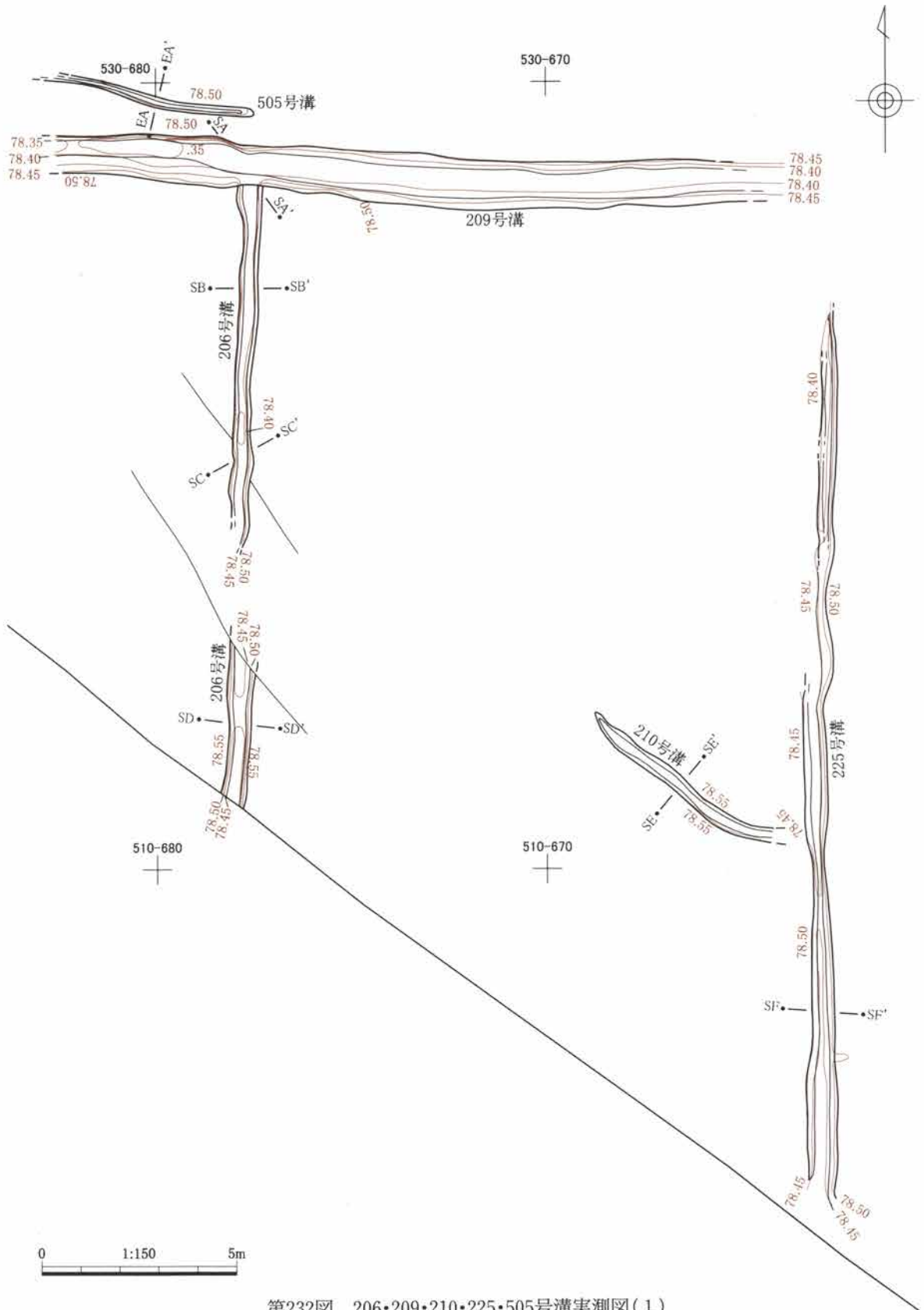
505号溝 (第232・233図)

位置 525・530—675・680グリッド 走向 西→東 規模 幅0.17~0.26m、深さ0.01~0.02m、調査長5.10m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の中央部やや西に位置する、東西方向の溝である。 遺物 なし



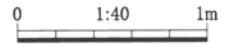
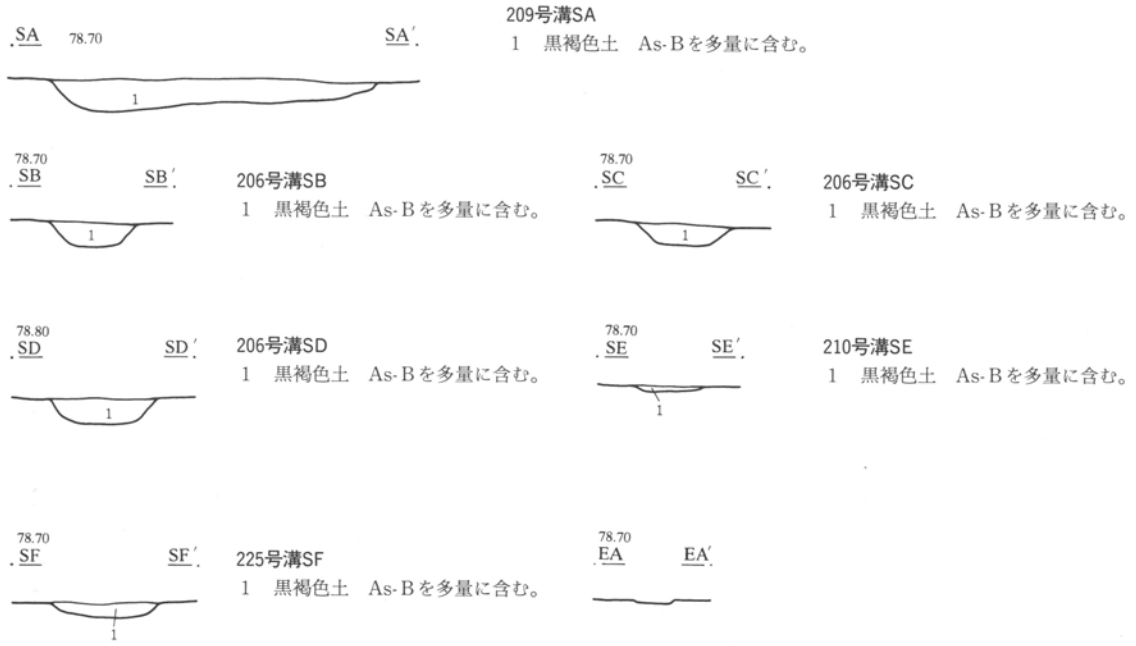
第231図 204・205・207号溝実測図

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）



第232図 206・209・210・225・505号溝実測図(1)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

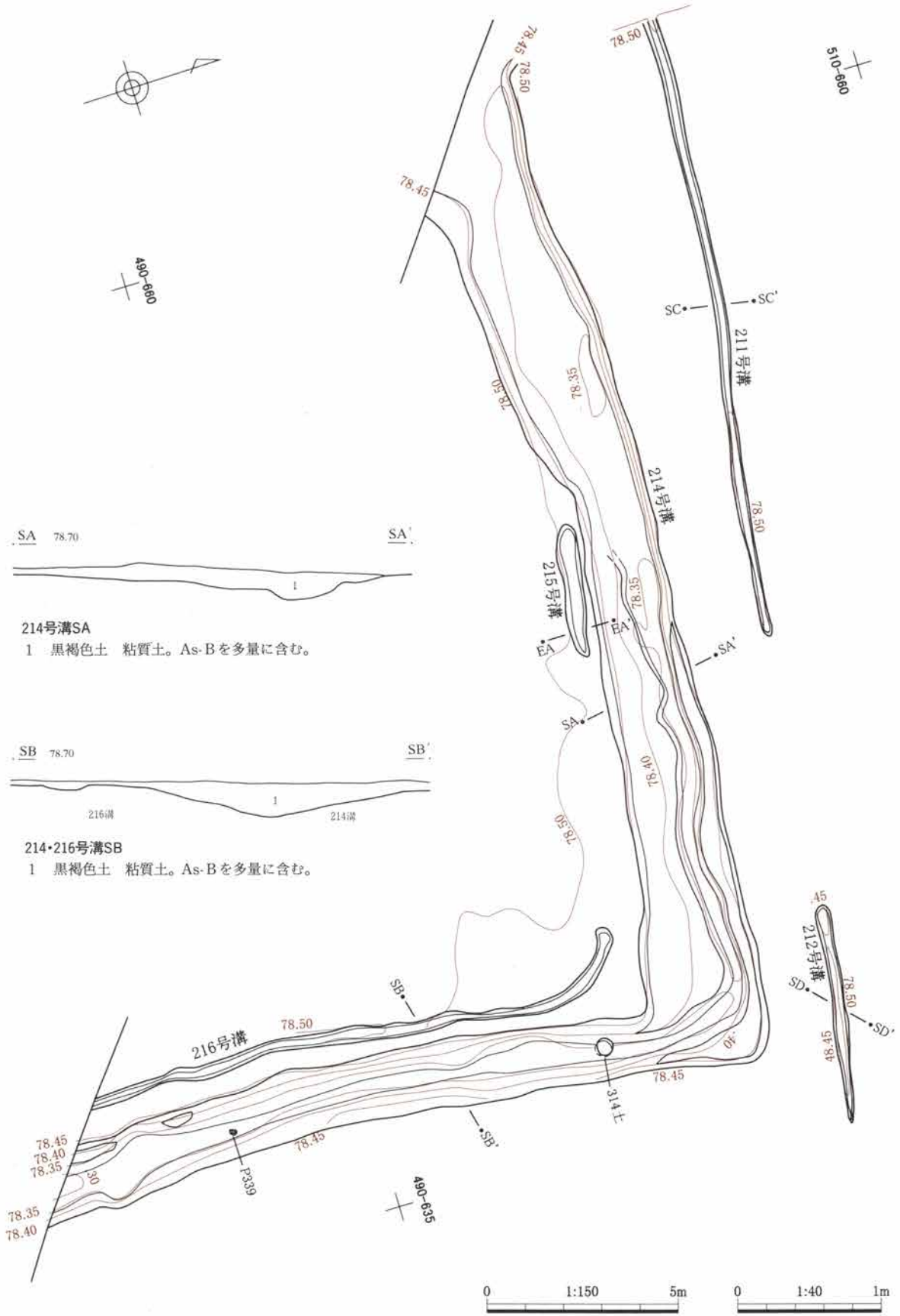


第233図 206・209・210・225・505号溝実測図(2)

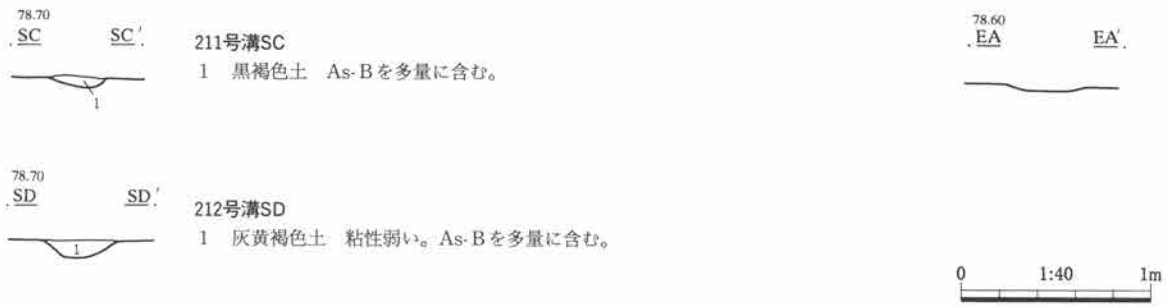


作業風景

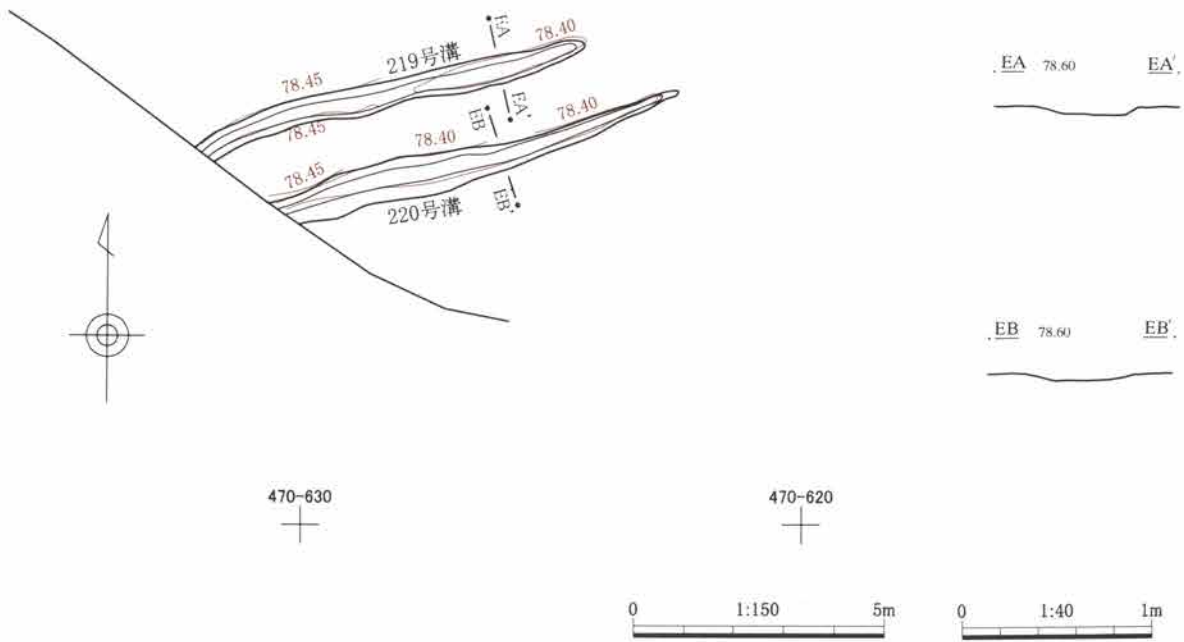
2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



第234図 211・212・214～216号溝実測図(1)



第235図 211・212・215号溝実測図(2)



第236図 219・220号溝実測図

A-2区の溝

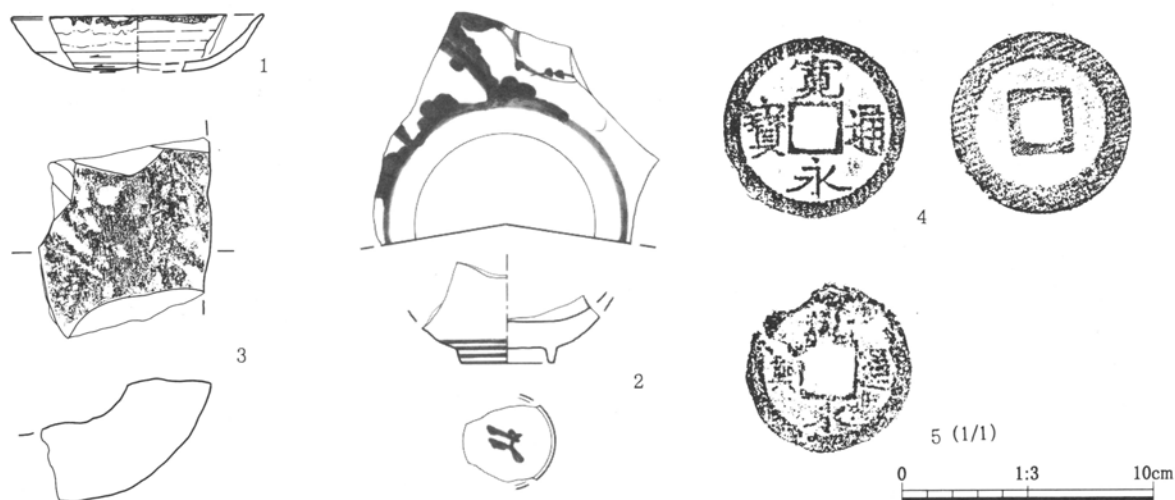
109号溝 (第237・238図、PL-45・46)

位置 635・640—710・715、645—660—700、595—620—715グリッド 走向 北→南

規模 幅0.80～1.30m、深さ0.11～0.30m、調査長65.51m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 A-2～B区にまたがり、西端部を南北に走る溝である。110・114・115溝との新旧関係不明。

遺物に寛永通寶があることから、江戸時代前半期の時期が想定される。遺物 1は灯明皿の口～底部破片。口縁部煤付着。2は磁器碗の体～底部破片。雪輪梅樹文、底部に崩大明年製銘。波佐見産で、18世紀後半。3は石臼のはんぎり部の破片。材質はデイサイト。4は「寛永通寶」で、径2.4cm。5は「□永通寶」と読み、寛永通寶と考えられる。摩耗が著しく、径は2.25cm。その他、土師器、須恵器、陶器、埴輪の破片が出土している。



第237図 109号溝出土遺物

167号溝 (第239図、PL-46)

位置 615・620—645、620—650～660グリッド 走向 西→東 規模 幅0.26～0.62m、深さ0.01～0.04m、調査長16.24m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の北東部に位置する、東西方向の溝である。 遺物 なし

168号溝 (第239図)

位置 600—650、605—650・655、610—660、615—660・665グリッド 走向 西北→南東 規模 幅0.39～0.68m、深さ0.02～0.03m、調査長18.84m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の北東部に位置する溝である。182溝との新旧関係は不明。 遺物 なし

181号溝 (第239図、PL-46)

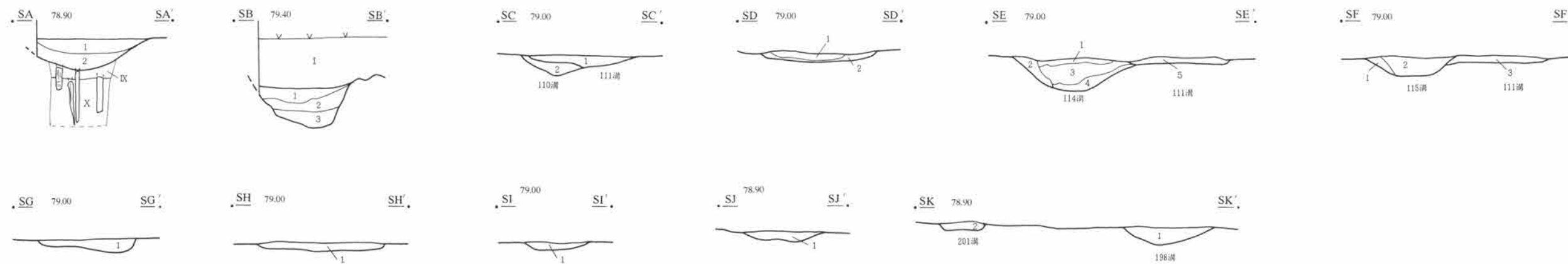
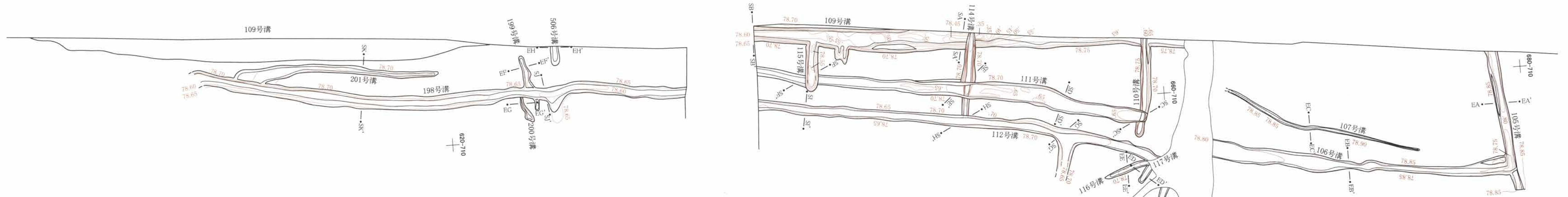
位置 600・605—670、605—675～710グリッド 走向 西→東 規模 幅0.18～0.63m、深さ0.01～0.06m、調査長42.60m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の中央部に位置する、東西方向の溝である。274土坑より新しい溝である。198溝との新旧関係は不明。 遺物 なし

182号溝 (第239図、PL-46)

位置 600—650～685、600・605—690～715グリッド 走向 西→東 規模 幅0.18～0.72m、深さ0.01～0.07m、調査長64.82m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の中央部に位置する、東西方向の溝である。 遺物 なし

183号溝 (第239図、PL-46・47)

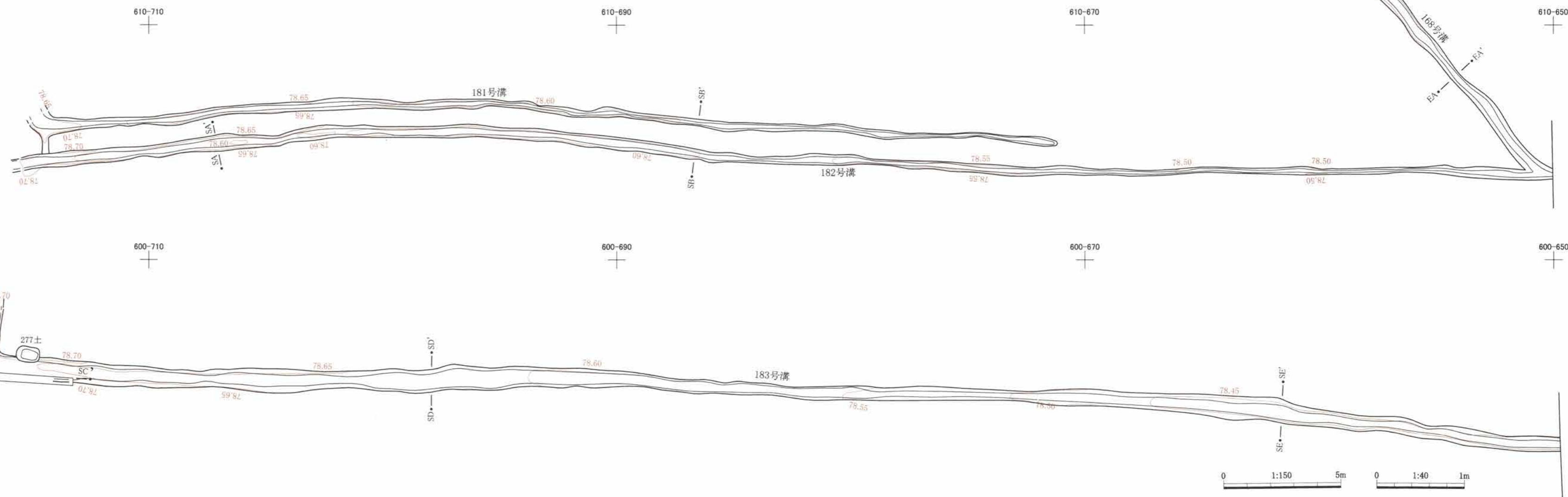
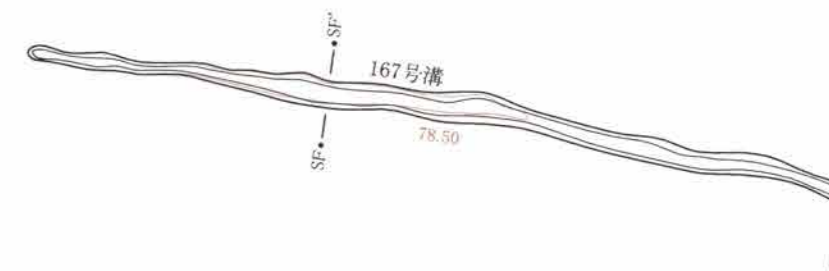
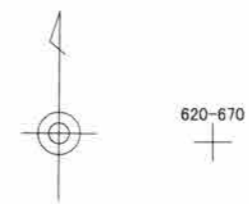
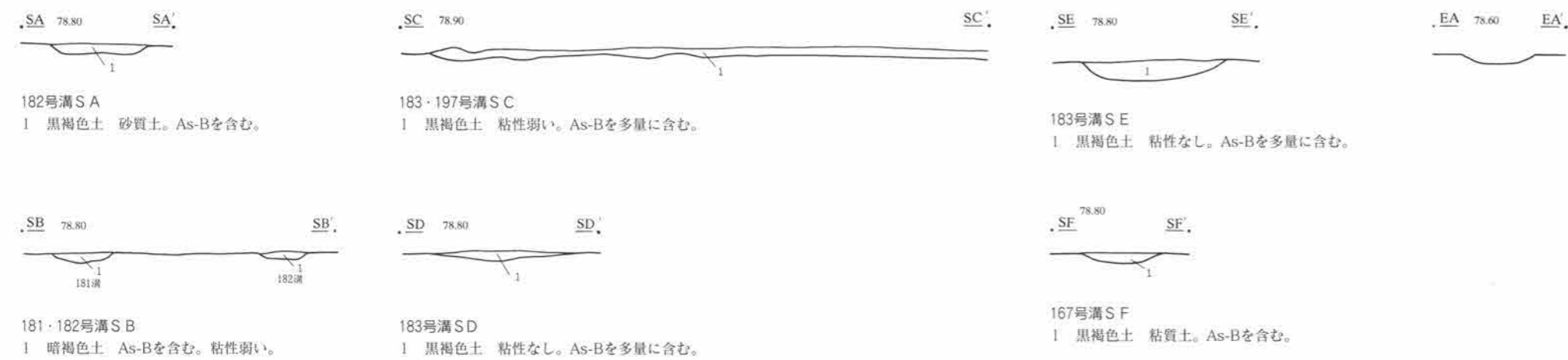
位置 590—645～680、590・595—685～715グリッド 走向 西→東 規模 幅0.42～1.05m、深さ0.01～0.09m、調査長67.14m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の中央部に位置する、東西方向の溝である。277土坑より新しい溝である。197溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし



- 109号溝 S A
 1 褐灰色土 粘性。As-Bを含む。
 2 褐灰色土 粘性あり。酸化鉄分斑状を含む。
- 109号溝 S B
 1 褐灰色土 粘性やや弱い。酸化鉄分斑点状にあり。
 2 褐灰色土 粘性あり。酸化鉄分斑点状にあり。
 3 褐灰色土 粘性あり。FA粒を含む。
- 110・111号溝 S C
 1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。
 2 灰黄褐色土 FAブロックを含む。
- 111号溝 S D
 1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
 2 灰褐色土 粘性強い。酸化鉄分の斑点あり。
- 111・114号溝 S E
 1 灰黄色土 粘性ややあり。FA粒を含む。
 2 灰黄褐色土 粘性あり。
 3 灰黄色土 粘性弱い。As-B、FA粒を含む。
 4 黒褐色土 粘性弱い。As-B、FA粒を含む。
 5 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。
- 111・115号溝 S F
 1 黒褐色土 黒褐色の粘質土主体。As-Bを含む。
 2 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。
 3 黒褐色土 粘性やや弱い。As-Bを含む。
- 112号溝 S G
 1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 112号溝 S H
 1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 112号溝 S I
 1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 198号溝 S J
 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。粘性弱い。
- 198・201号溝 S K
 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。粘性弱い。
 2 暗褐色土 As-Bを多量に含む。



第238図 105~107・109~112・114~119・198~201・506号溝実測図



第239図 167・168・181～183・197号溝実測図

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

185号溝（第230図、PL-47）

位置 575—645～655グリッド 走向 西→東 規模 幅0.39～0.95m、深さ0.02～0.14m、調査長31.28m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の中央部やや南に位置する、東西方向の溝である。275土坑より新しい溝である。194溝と同じ溝である可能性がある。 遺物 なし

186号溝（第230図、PL-47）

位置 580—645～680グリッド 走向 西→東 規模 幅0.28～0.71m、深さ0.03～0.11m、調査長11.36m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の南東部に位置する、東西方向の溝である。 遺物 なし

187号溝（第230図、PL-47）

位置 560～575—660グリッド 走向 北→南 規模 幅0.58～1.00m、深さ0.01～0.04m、調査長17.96m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の南端部に位置する、南北方向の溝である。P332より新しい溝である。 遺物 なし

188号溝（第230図、PL-43）

A-1区の溝参照（P-244）。

189号溝（第230図、PL-47）

位置 565～575—680グリッド 走向 北→南 規模 幅0.64～0.89m、深さ0.09～0.13m、調査長13.46m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の中央南端部に位置する、南北方向の溝である。285土坑より古く、286土坑より新しい溝である。 遺物 なし

190号溝（第240図、PL-48）

位置 560～575—705グリッド 走向 北→南 規模 幅0.54～1.17m、深さ0.03～0.09m、調査長15.82m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の南西部に位置する、南北方向の溝である。193溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

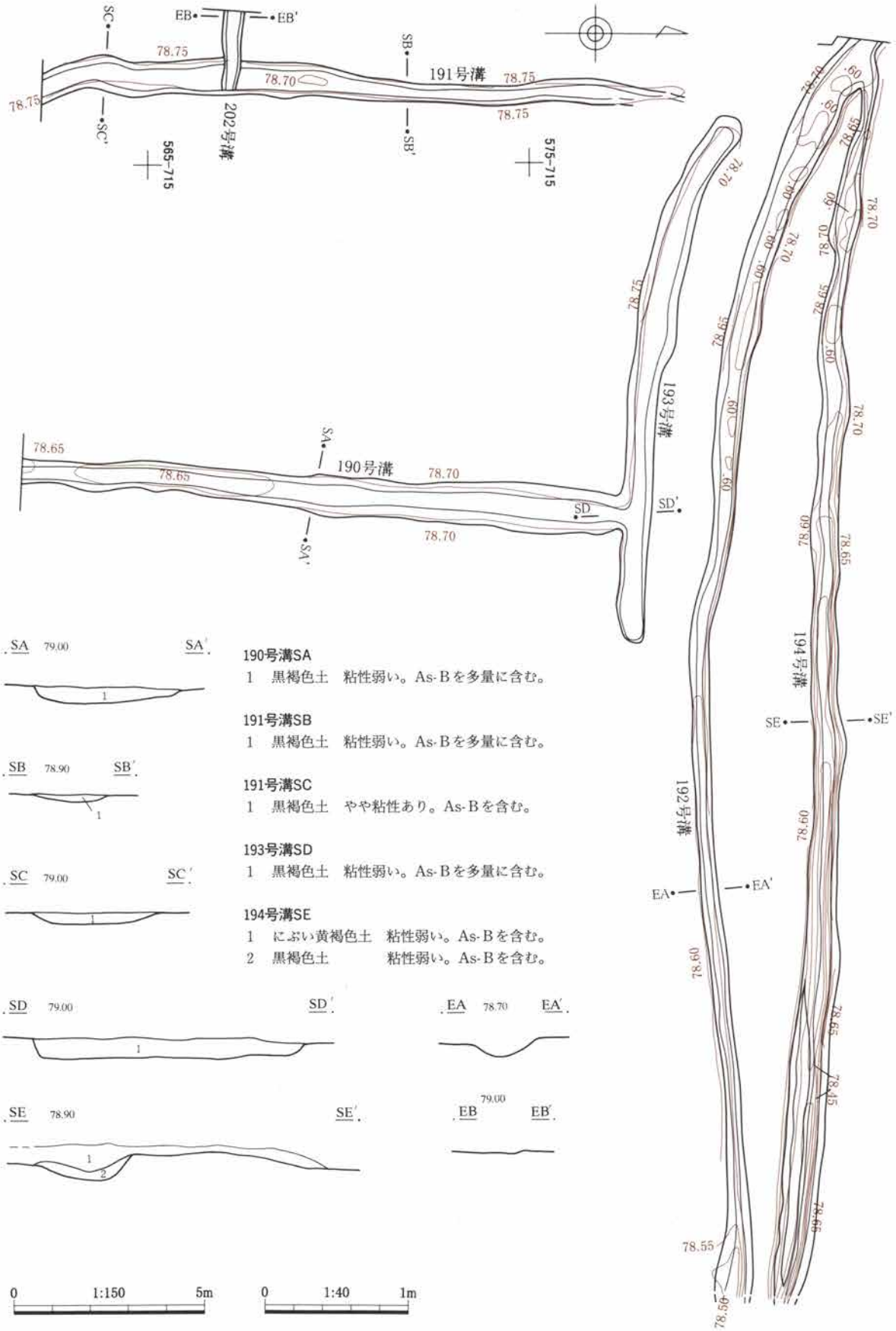
191号溝（第240図、PL-48）

位置 560～575—715グリッド 走向 北→南 規模 幅0.48～0.97m、深さ0.02～0.07m、調査長15.84m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の南西端部に位置する、南北方向の溝である。202溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

192号溝（第240図、PL-48）

位置 575・580—685～715グリッド 走向 西→東 規模 幅0.35～1.10m、深さ0.05～0.19m、調査長33.32m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の中央部やや南に位置する、東西方向の溝である。194溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

2. 中・近世面 (鎌倉時代~近世)



SA 79.00 SA'



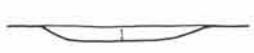
190号溝SA
1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。

SB 78.90 SB'



191号溝SB
1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。

SC 79.00 SC'



191号溝SC
1 黒褐色土 やや粘性あり。As-Bを含む。

SD 79.00 SD'



193号溝SD
1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。

SE 78.90 SE'



194号溝SE
1 におい黄褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
2 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。

EA 78.70 EA'



EB 79.00 EB'



第240図 190~194・202号溝実測図

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

193号溝（第240図、PL-48）

位置 575—700・705、575・580—710・715グリッド 走向 西→東 規模 幅0.68～0.98m、深さ0.03～0.07m、調査長13.88m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の南西部に位置する、東西方向の溝である。190溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。

遺物 なし

194号溝（第240図、PL-48）

位置 580—685～715グリッド 走向 西→東 規模 幅0.26～1.00m、深さ0.06～0.23m、調査長31.84m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の中央部やや南に位置する、東西方向の溝である。275土坑より新しい溝である。192溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。

遺物 なし

197号溝（第239図、PL-49）

位置 595—715グリッド 走向 北→南 規模 幅0.42m、深さ0.03m、調査長2.80m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の中央部西端に位置する、南北方向の溝である。183溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

198号溝（第238図、PL-49）

位置 600～630—715グリッド 走向 北→南 規模 幅0.54～0.93m、深さ0.05～0.17m、調査長29.10m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の西端部に位置する、南北方向の溝である。274土坑より新しい溝である。181・182・199・200・201溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

199号溝（第238図、PL-49）

位置 620—715グリッド 走向 西→東 規模 幅0.28～0.47m、深さ0.01m、調査長1.80m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の北西部に位置する、東西方向の溝である。198溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

200号溝（第238図、PL-49）

位置 620—715グリッド 走向 東→西 規模 幅0.14～0.42m、深さ0.06m、調査長1.55m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の北西部に位置する、東西方向の溝である。198溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

201号溝（第238図、PL-49）

位置 605～615—715グリッド 走向 北→南 規模 幅0.28～0.75m、深さ0.02～0.04m、調査長10.88m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の西部に位置する、南北方向の溝である。198溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

第2章 遺構と遺物

202号溝 (第240図、PL-49)

位置 565—715グリッド 走向 西→東 規模 幅0.53m、深さ0.02m、調査長1.74m

形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の南西部に位置する、東西方向の溝である。191溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

506号溝 (第238図)

位置 625—715グリッド 走向 西→東 規模 幅0.48m、深さ0.13～0.16m、調査長1.10m

形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区の北西端に位置する、東西方向の溝である。 遺物 なし

A-3区の溝

247号溝 (第241・242図、PL-50)

位置 630—745～775グリッド 走向 西→東 規模 幅0.51～0.80m、深さ0.22～0.30m、調査長34.40m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の中央部やや東に位置する、東西方向の溝である。330土坑より新しい溝である。248溝よりは新しい溝である。249・250・251溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

248号溝 (第243図、PL-50)

位置 625—770・775、630—775・780、635—780、640—775、645・650—770・775、655—770グリッド 走向 北→南 規模 幅0.21～0.46m、深さ0.03～0.08m、調査長41.22m

形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の中央部に位置する、南北方向の溝である。大きくは北から南へ流下するが、はじめやや南西よりに流下した後、ほぼ直角に曲がって東南方向に流下する。329・344・345・346土坑より新しい溝である。247溝より新しいことは確認できたが、256・257・271・272溝との新旧関係は不明である。しかし、全体的にはほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

249号溝 (第243図、PL-50)

位置 630・635—765、640～650—760・765、655—765グリッド 走向 北→南

規模 幅0.14～0.44m、深さ0.01～0.05m、調査長28.09m 形状 なべ底状の断面を呈する。

調査所見 A-3区の中央部やや東寄りに位置する、南北方向の溝である。247・256・257・271溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

250号溝 (第243図、PL-50)

位置 625～635—755、640～655—755グリッド 走向 北→南 規模 幅0.18～0.55m、深さ0.01～0.04m、調査長28.60m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の中央東寄りに位置する、南北方向の溝である。247・256・257溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。

遺物 なし

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

251号溝（第241・242図、PL-51）

位置 615・620—765～775、620—755・760、625—740～760、625—775～780、630—780～790、635—785・790、640—795、645—795・800、650—800・805グリッド 走向 北西→東

規模 幅0.64～1.38m、深さ0.10～0.36m、調査長77.70m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 A-3区の中央部に位置する。はじめ北西から南東方向に流下するが、その後東北東方向へ流路を
変ずる。353土坑より新しい溝である。278溝よりは新しいと考えられるが、247溝との新旧関係は不明である。
しかし、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

256号溝（第241・242図、PL-51）

位置 640—740～750、640・645—755～765、645—770～790、640・645—795グリッド

走向 西→東 規模 幅0.80～1.22m、深さ0.22～0.36m、調査長54.92m

形状 段堀状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の中央部に位置する、東西方向の溝である。340土坑
より新しい溝であるが、476土坑との新旧関係は不明である。248・249・250溝との新旧関係は不明である。

遺物 なし

257号溝（第241・242図、PL-52）

位置 650—740～800グリッド 走向 西→東 規模 幅0.60～0.80m、深さ0.22～0.34m、調査長
62.58m 形状 段堀状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の中央部に位置する、東西方向の溝であ
る。248溝より新しい溝であるが、249・250溝との新旧関係は不明である。 遺物 なし

258号溝（第244図、PL-52・53）

位置 655—740・745、655・660—750～765、655—770～780グリッド 走向 東→西

規模 幅0.30～0.86m、深さ0.17～0.49m、調査長44.26m 形状 台形状の断面を呈する。

調査所見 A-3区の中央部やや北に位置する、東西方向の溝である。336土坑より古い溝である。土層断面
から、271・272溝より古い溝であると考えられる。 遺物 なし

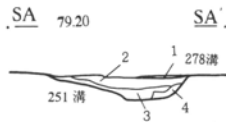
261号溝（第247～250図、PL-54）

位置 665—740～765グリッド 走向 西→東 規模 幅0.32～0.75m、深さ0.02～0.18m、調査長
24.78m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の中央部東寄りに位置する、東西方向の
溝である。屋敷跡に伴う溝かは不明である。 遺物 なし

262号溝（第247～250図、PL-54）

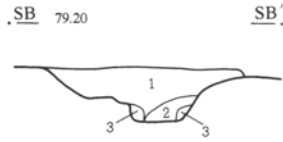
位置 665—740～760グリッド 走向 西→東 規模 幅0.48～0.67m、深さ0.22～0.32m、調査長
24.68m 形状 段堀状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北東部に位置する、東西方向の溝であ
る。屋敷跡に伴う溝かは不明である。 遺物 馬歯出土（P-1,016参照）。

第2章 遺構と遺物



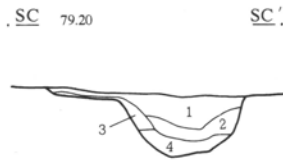
251・278号溝SA

- 1 にぶい黄褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 2 褐灰色土 粘性弱い。As-B、FA粒を含む。
- 3 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 4 黒褐色土 砂質土。FA粒を含む。



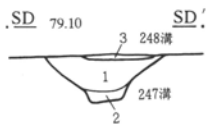
251号溝SB

- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 2 褐灰色土 粘性弱い。FAブロック、As-Bを含む。
- 3 黒色土 粘質土。



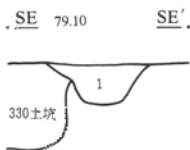
251号溝SC

- 1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。
- 2 にぶい黄褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。FA粒を含む。
- 3 灰黄褐色土 粘質土ブロックとFAブロックを含む。
- 4 褐灰色土 粘質土主体。FA粒を含む。



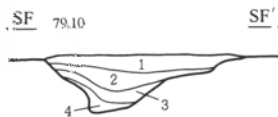
247・248号溝SD

- 1 褐灰色土 As-Bを多量に含む。しまりなし。僅かにFA粒を含む。
- 2 黒褐色土 砂層。
- 3 灰褐色土 As-Bを多量に含む。FAブロックを含む。



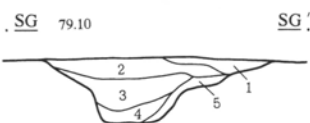
247号溝SE

- 1 灰黄褐色土 As-Bを多量に含む。



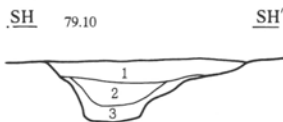
256号溝SF

- 1 黒褐色土 As-B。白色鈹粒を多量に含む。
- 2 黒褐色土 白色鈹粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 As-B。粘性なし。
- 4 黒褐色土 3層主体に褐灰色粘土、FAを含む。やや粘性あり。



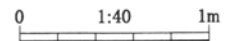
256号溝SG

- 1 にぶい黄褐色土 As-B。粘性なし。白色極粒子を多量に含む。
- 2 黒褐色土 As-B。白色鈹粒を多量に含む。
- 3 黒褐色土 2層に近似。白色鈹粒を少量含む。
- 4 黒褐色土 粘性のないAs-B混土。FAブロック含む。やや粘性あり。
- 5 黒褐色土 As-B。粘性なし。FAブロック少量含む。

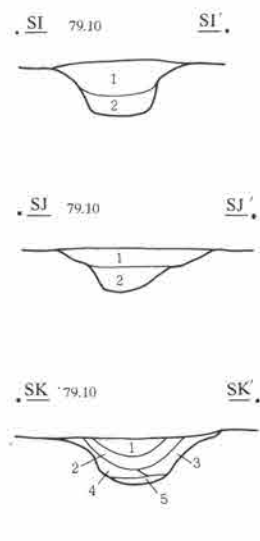
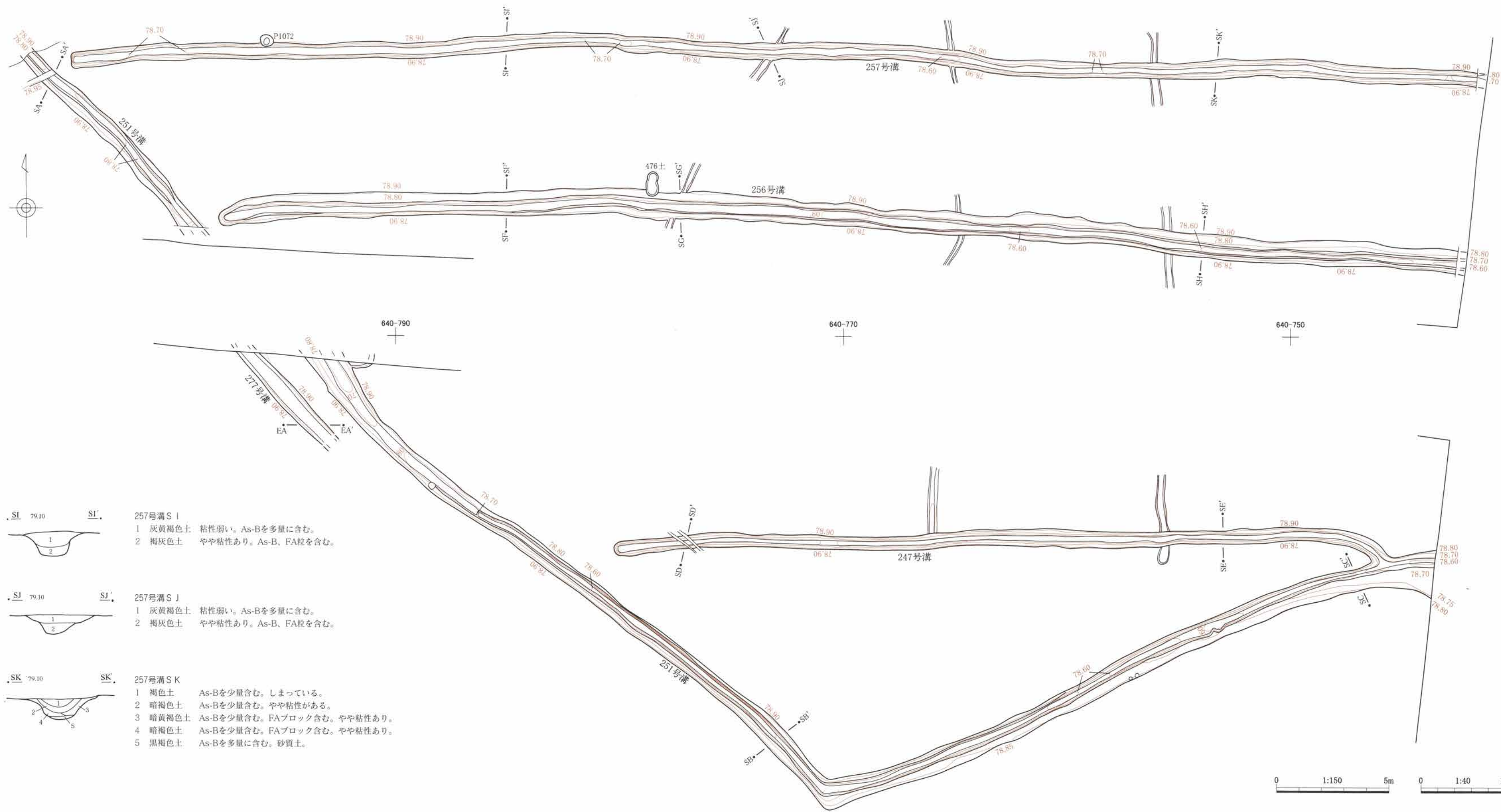


256号溝SH

- 1 黒褐色土 As-B。白色鈹粒を多量に含む。
- 2 黒褐色土 1層に近似。白色鈹粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 As-B中に褐灰色粘質土ブロック含む。FA粒を含む。

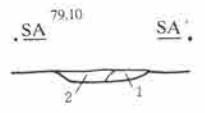
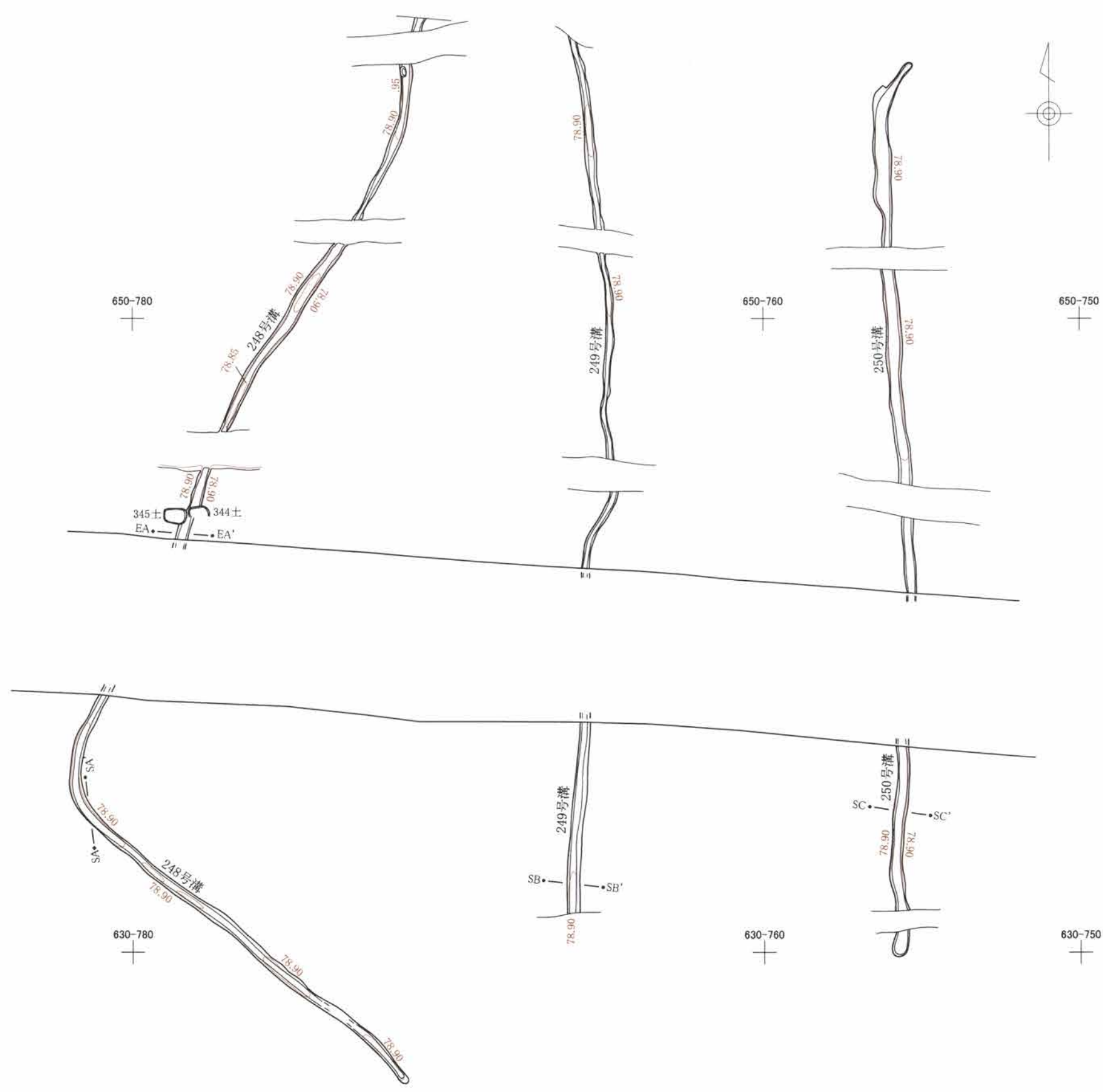


第241図 247・251・256・257・277号溝実測図(1)

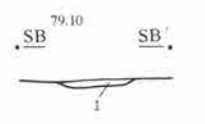


- 257号溝 S I
- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。
 - 2 褐灰色土 やや粘性あり。As-B、FA粒を含む。
- 257号溝 S J
- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。
 - 2 褐灰色土 やや粘性あり。As-B、FA粒を含む。
- 257号溝 S K
- 1 褐色土 As-Bを少量含む。しまっている。
 - 2 暗褐色土 As-Bを少量含む。やや粘性がある。
 - 3 暗黄褐色土 As-Bを少量含む。FAブロック含む。やや粘性あり。
 - 4 暗褐色土 As-Bを少量含む。FAブロック含む。やや粘性あり。
 - 5 黒褐色土 As-Bを多量に含む。砂質土。

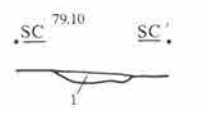
第242図 247・251・256・257・277号溝実測図(2)



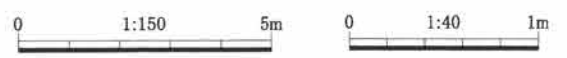
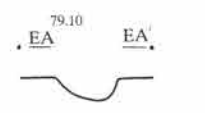
248号溝 S A
 1 褐灰色土 褐灰色粘質土主体。FAブロック含む。
 2 灰黄褐色土 As-B混土。FA粒を含む。



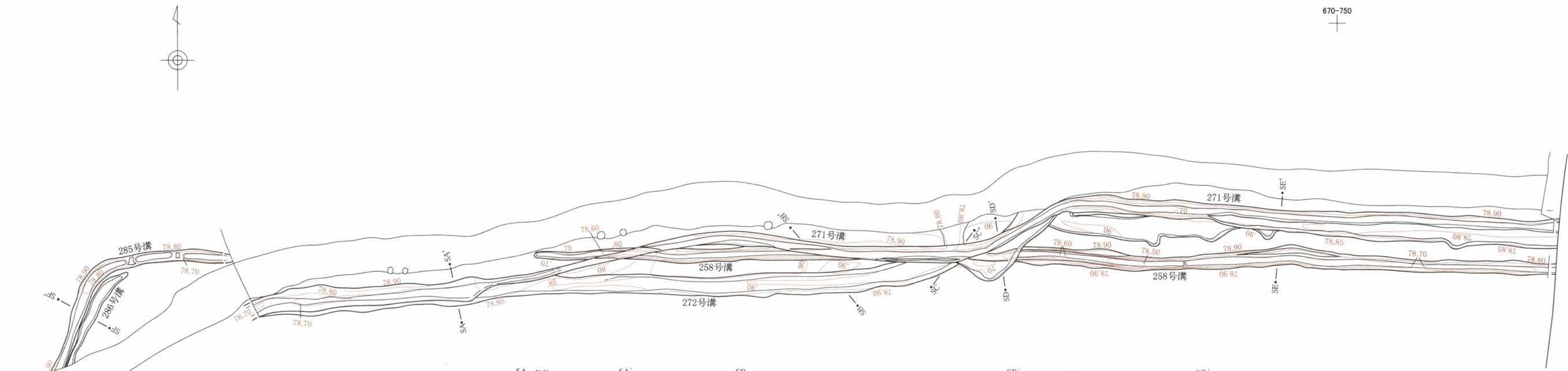
249号溝 S B
 1 灰黄褐色土 As-Bを多量に含む。FAブロック含む。



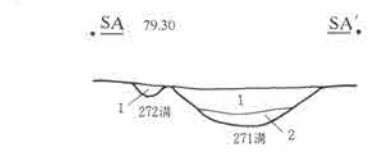
250号溝 S C
 1 黒褐色土 As-B混土。粘性弱い。



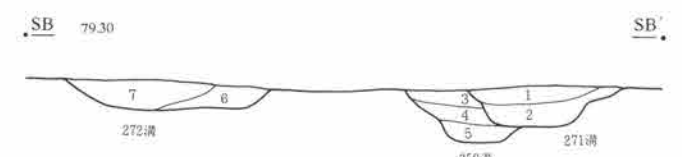
第243図 248～250号溝実測図



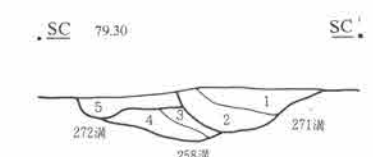
650-790



- 271・272号溝 S A
- 1 褐灰色土 粘性弱い。砂質土主体にFA粒、As-Bを含む。
 - 2 黒褐色土 砂質土。

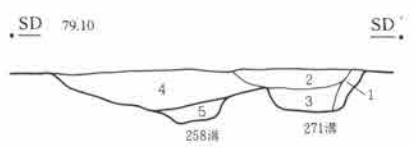


- 258・271・272号溝 S B
- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。FA粒を多量に含む。
 - 2 褐灰色土 粘性弱い。As-B、FAブロックを含む。
 - 3 褐灰色土 粘性弱い。As-Bを斑状に含む。
 - 4 灰黄褐色土 粘性弱い。FAブロックを含む。
 - 5 灰黄褐色土 FAブロックと黒褐色粘質土の混土。
 - 6 灰黄褐色土 粘性あり。FAブロックを含む。
 - 7 灰黄褐色土 粘性弱い。As-B、FA粒を含む。

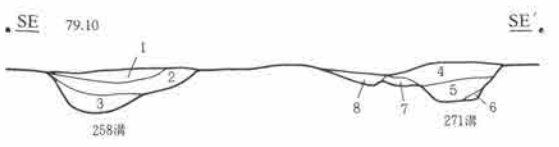


- 258・271・272号溝 S C
- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。As-B、FAブロックを含む。
 - 2 褐灰色土 粘性弱い。As-Bを含む。
 - 3 褐灰色土 粘性あり。As-B、FAブロックを含む。
 - 4 黒褐色土 粘性強い。黒褐色粘質土主体にFAブロックを含む。
 - 5 褐灰色土 粘性弱い。FAブロックを含む。

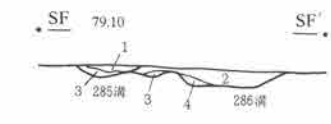
650-750



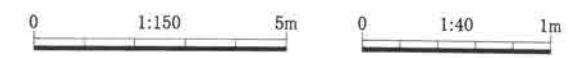
- 258・271号溝 S D
- 1 褐灰色土 粘性あり。As-B、FA粒を僅かに含む。
 - 2 灰黄褐色土 粘性弱い。As-B、FAブロックを含む。
 - 3 灰黄褐色土 粘性弱い。As-B、FA粒を含む。
 - 4 336号土坑埋土
 - 5 黒褐色土 粘性あり。黒褐色土主体にFAブロックを含む。



- 258・271号溝 S E
- 1 褐灰色土 粘性弱い。As-Bを含む。
 - 2 灰黄褐色土 粘性弱い。As-B、FA粒を含む。
 - 3 にぶい黄褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
 - 4 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
 - 5 黒褐色土 粘性弱い。砂質土含む。FA粒、As-Bを含む。
 - 6 褐灰色土 粘性弱い。砂質土。FAブロックを含む。
 - 7 褐灰色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。
 - 8 黒褐色土 黒色粘質土ブロックを含む。



- 285・286号溝 S F
- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。FA粒を含む。
 - 2 黒褐色土 粘性弱い。FA粒、As-Bを含む。
 - 3 黒色土 粘質土主体にFA粒、As-Bを含む。
 - 4 褐灰色土 粘性なし。砂質土。



第244図 258・271・272・285・286号溝実測図

263号溝（第247～250図、PL-54）

位置 670—765、670・675—750・760、675—735～745グリッド 走向 西→東

規模 幅0.53～1.00m、深さ0.09～0.18m、調査長27.64m 形状 丸底状の断面を呈する。

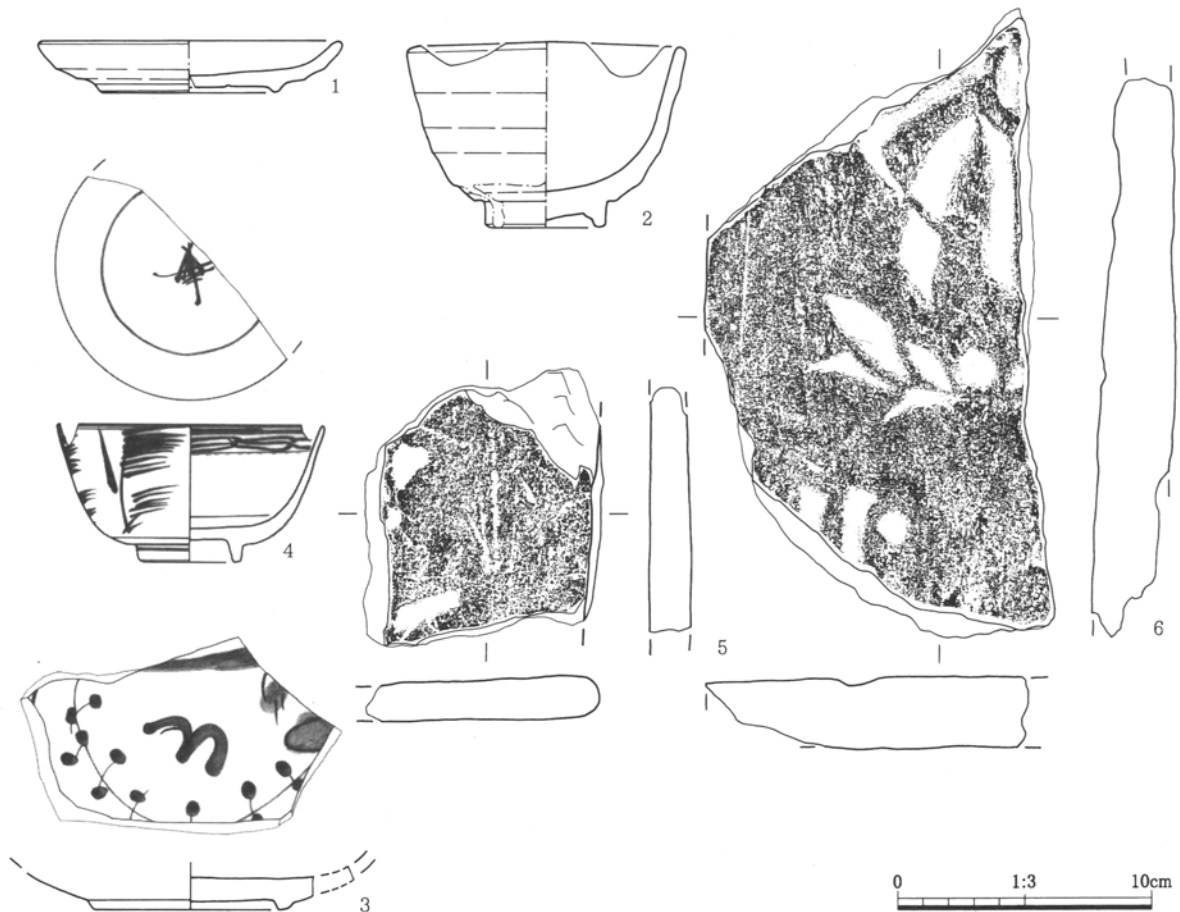
調査所見 A-3区の北東部に位置する、東西方向の溝である。266・289溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。屋敷跡に伴う溝かは、不明である。 遺物 馬歯出土（P-1,016参照）。

264号溝（第245・247～250・252図、PL-54・55）

位置 660・665—740～780、660—785～795、665・670—765、665～675—795・800、700・705—780・785グリッド 走向 北→南／西→東 規模 幅1.58～3.72m、深さ0.63～0.99m、調査長86.62m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 A-3区の北部に位置する、屋敷跡に伴う溝である。中世の屋敷跡における、西側・南側の周堀と考えられる。A-3区の北端部でも、屋敷跡の北側の周堀が検出されており、屋敷の規模が想像できる。289・338溝より古い溝である。275・281・290・339・343・496溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。

遺物 1は陶器皿口縁～底部片1/3。口径12.0cm、底径7.0cm、器高2.1cm。長石釉施釉。瀬戸・美濃産で、17世紀。2は天目茶碗の口縁～底部破片。飴釉を施す。瀬戸・美濃産（平野窯・尾呂窯系）で、18世紀中以前。3は磁器皿の底部片。底径7.6cm。染付。肥前産で、17世紀。4は磁器碗1/2。見込に「寿」くずしがあり、外面に葦文あり。瀬戸・美濃産で、時期は近代。5・6は板碑の破片。材質は緑色片岩。馬歯出土（P-1,016参照）。



第245図 264号溝出土遺物

第2章 遺構と遺物

265号溝 (第246～250図、PL-56)

位置 675—740～750グリッド **走向** 西→東 **規模** 幅0.19～0.50m、深さ0.02～0.06m、調査長9.10m **形状** なべ底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の北東部に位置する、東西方向の溝である。266溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 **遺物** 1は陶器焙烙の口～底部破片。内壁に段を持ち、古い特徴を残す。江戸時代前半。



第246図 265号溝出土遺物

266号溝 (第247～250図、PL-56)

位置 675・670—740・745、675・680—750グリッド **走向** 北→南 **規模** 幅0.22～0.48m、深さ0.01～0.09m、調査長14.27m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の北東部に位置する、南北方向の溝である。263・265溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 **遺物** なし

267号溝 (第247～250図、PL-56)

位置 680—750グリッド **走向** 北→南 **規模** 幅0.20～0.40m、深さ0.06m、調査長2.96m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の北東端部に位置する、南北方向の溝である。 **遺物** なし

268号溝 (第247～250図、PL-56)

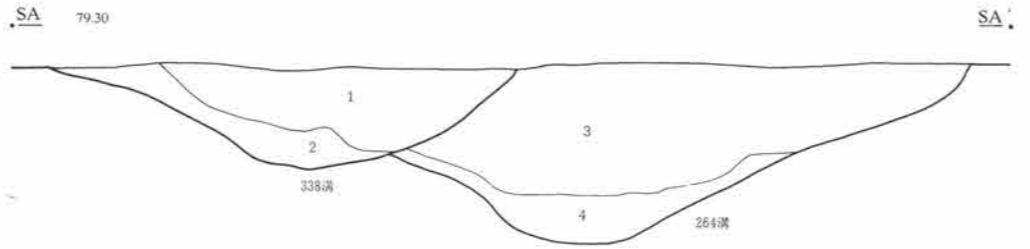
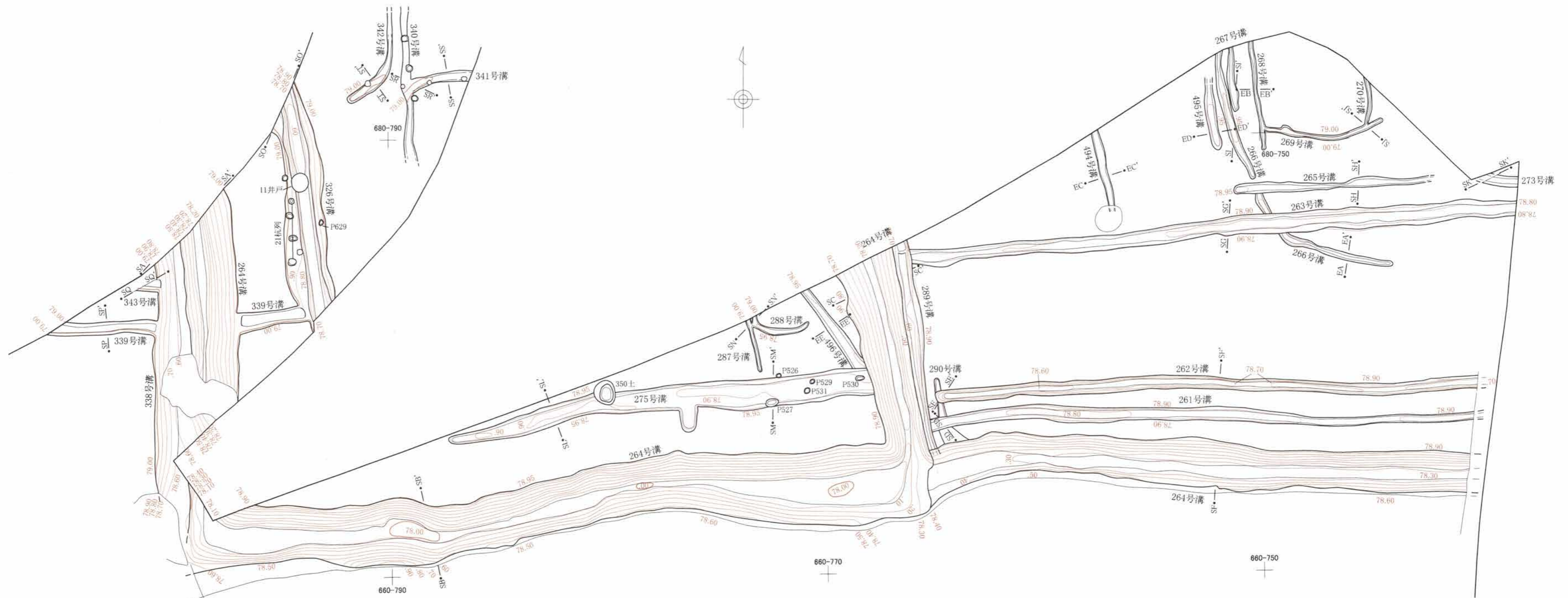
位置 675・680—745・750グリッド **走向** 北→南 **規模** 幅0.18～0.24m、深さ0.01～0.03m、調査長5.03m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の北東部に位置する、南北方向の溝である。269溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 **遺物** なし

269号溝 (第247～250図、PL-56)

位置 675・680—740・745グリッド **走向** 西→東 **規模** 幅0.16～0.26m、深さ0.09～0.13m、調査長5.56m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の北東部に位置する、東西方向の溝である。268溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 **遺物** なし

270号溝 (第247～250図、PL-56)

位置 680—740・745グリッド **走向** 北→南 **規模** 幅0.18m、深さ0.05m、調査長2.04m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の北東端部に位置する、南北方向の溝である。269溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 **遺物** なし

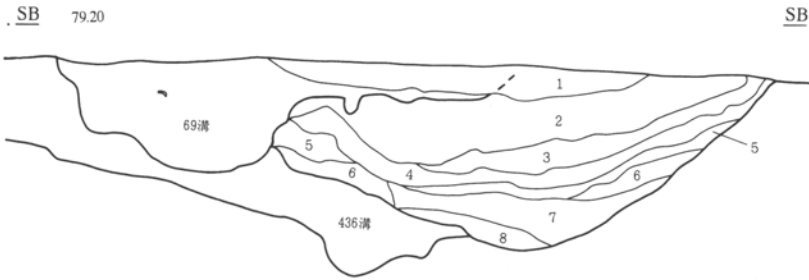


- 264・338号溝 SA
- 1 褐灰色土 FAブロック、As-Bを少量含む。粘性あり。
 - 2 黒褐色土 粘性強い。
 - 3 褐灰色土 粘性なし。As-B混土。FAブロックを含む。粘質黒色土ブロックを少量含む。
 - 4 褐灰色土 粘性あり。



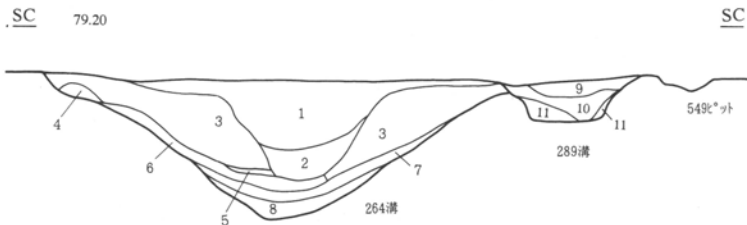
第247図 261~270・273・275・287~290・326・338・339・340~343・494~496号溝実測図(1)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



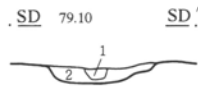
264号溝SB

- 1 灰褐色土 鉄分を斑点状に含む。白色鉍粒を含む。
- 2 灰褐色土 1層よりもやや酸化している。やや砂層。FAブロックを含む。
- 3 灰褐色土 1層よりもやや酸化している。ややシルト質。FAブロックを含む。
- 4 灰褐色土 シルト質土、砂質土、FAブロックを含む。
- 5 灰褐色土 4層より灰色濃い。FAブロックを含む。
- 6 灰褐色土 砂質土。周辺土のAs-Cも含む。
- 7 暗灰色土 シルト質土。溝底面に近い部分での自然堆積土。
- 8 暗灰色土 6・7層の混土。



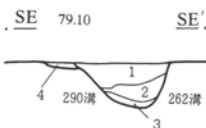
264・289号溝、549号ピットSC

- 1 褐色土 白色鉍粒を僅かに含む。しまりあり。やや砂質。
- 2 褐色土 白色鉍粒を僅かに含む。しまりあり。粘性あり。
- 3 黒褐色土 FAブロックと黒色土ブロックを少量含む。
- 4 褐色土 白色鉍粒を含む。しまりあり。鉄分斑状にあり。
- 5 褐色土 腐植土。食物繊維を含む。粘性強い。
- 6 黒褐色土 やや粘性あり。鉄分斑状にあり。FAブロックを少量含む。
- 7 黒褐色土 やや粘性あり。鉄分斑状にあり。FAブロックを含む。
- 8 褐色土 砂質土。食物繊維を含む。
- 9 灰黄褐色土 As-B、黄褐色土を含む。しまり弱い。
- 10 褐灰色土 As-Bを僅かに含む。粘質土。
- 11 褐灰色土 褐灰色土にFAを含む。FAは壁の土が落ちたもの。しまりややある粘質土。



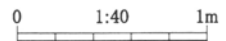
261号溝SD

- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 2 黒褐色土 粘性弱い。As-B、FA粒を含む。



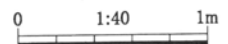
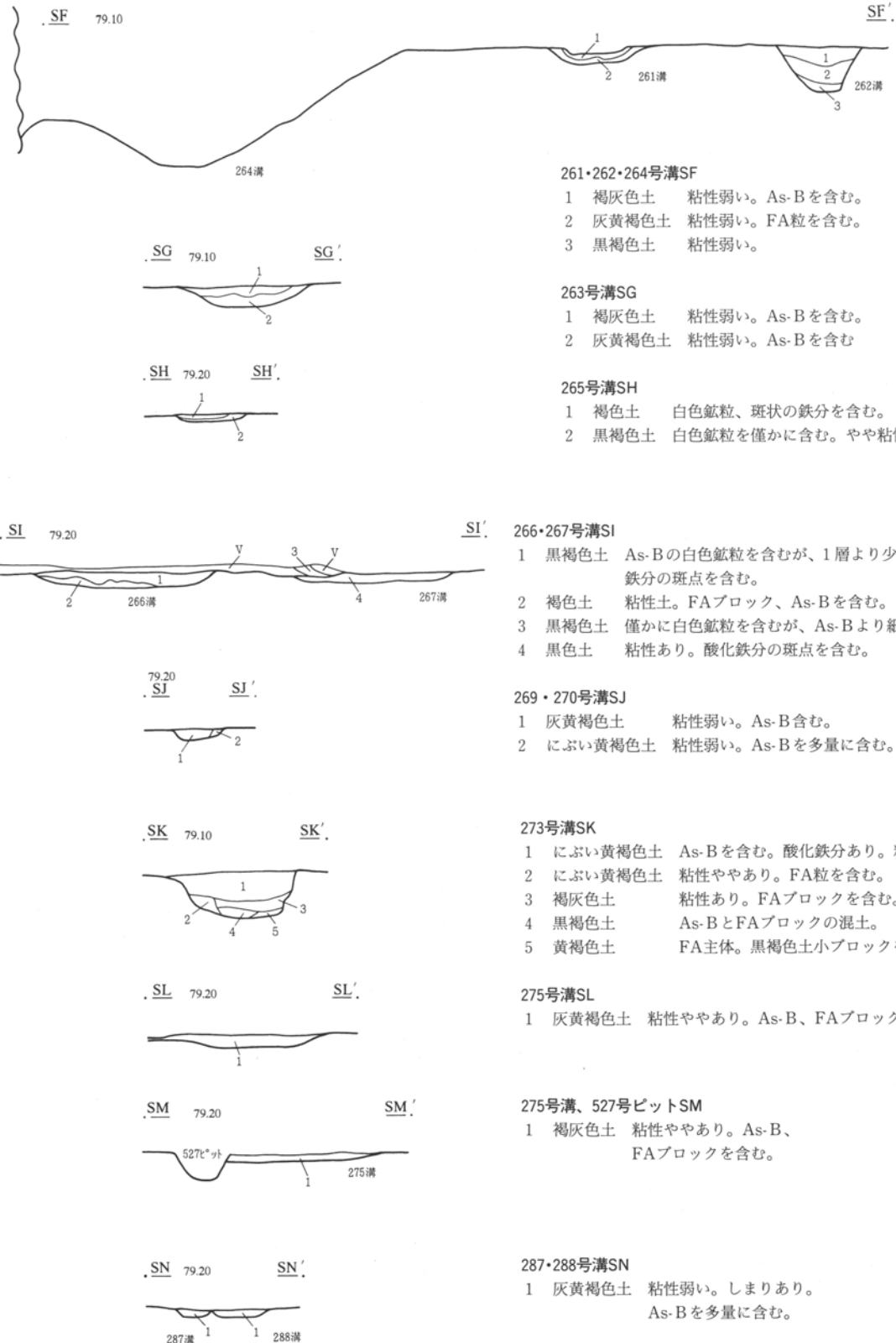
262・290号溝SE

- 1 褐灰色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 2 灰黄褐色土 粘性弱い。FA粒を含む。
- 3 黒褐色土 粘性弱い。
- 4 褐灰色土 As-Bを含む。

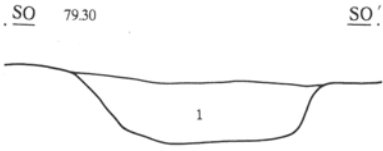


第248図 261～270・273・275・287～290・326・338・339・340～343・494～496号溝実測図(2)

第2章 遺構と遺物



第249図 261～270・273・275・287～290・326・338・339・340～343・494～496号溝実測図(3)



326号溝SO
1 暗褐色土 As-B混土。FAブロックを多量に含む。
粘性なし。

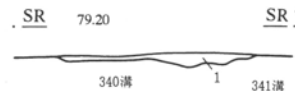
2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



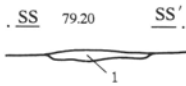
339号溝SP
1 明褐色土 As-A下耕作痕の耕作土。粘性なし。
2 にぶい黄褐色土 As-B混土、明黄褐色土ブロック含む。粘性なし。



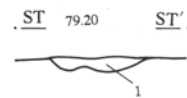
343号溝SQ
1 にぶい黄褐色土 As-B混土に明黄褐色土をブロック状に含む。
粘性なし。



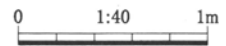
340・341号溝SR
1 にぶい黄褐色土 As-B混土。明黄褐色土をブロック状に含む。
粘性なし。



341号溝SS
1 にぶい黄褐色土 As-B混土。明黄褐色土をブロック状に含む。
粘性なし。



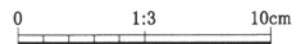
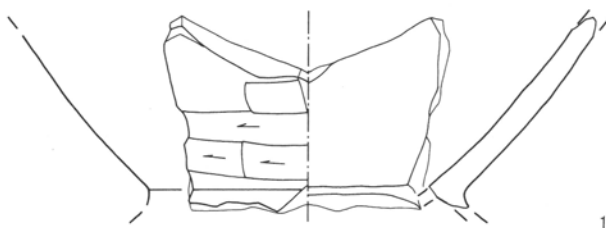
342号溝ST
1 にぶい黄褐色土 As-B混土。明黄褐色土をブロック状に含む。
粘性なし。



第250図 261～270・273・275・287～290・326・338・339・340～343・494～496号溝実測図(4)

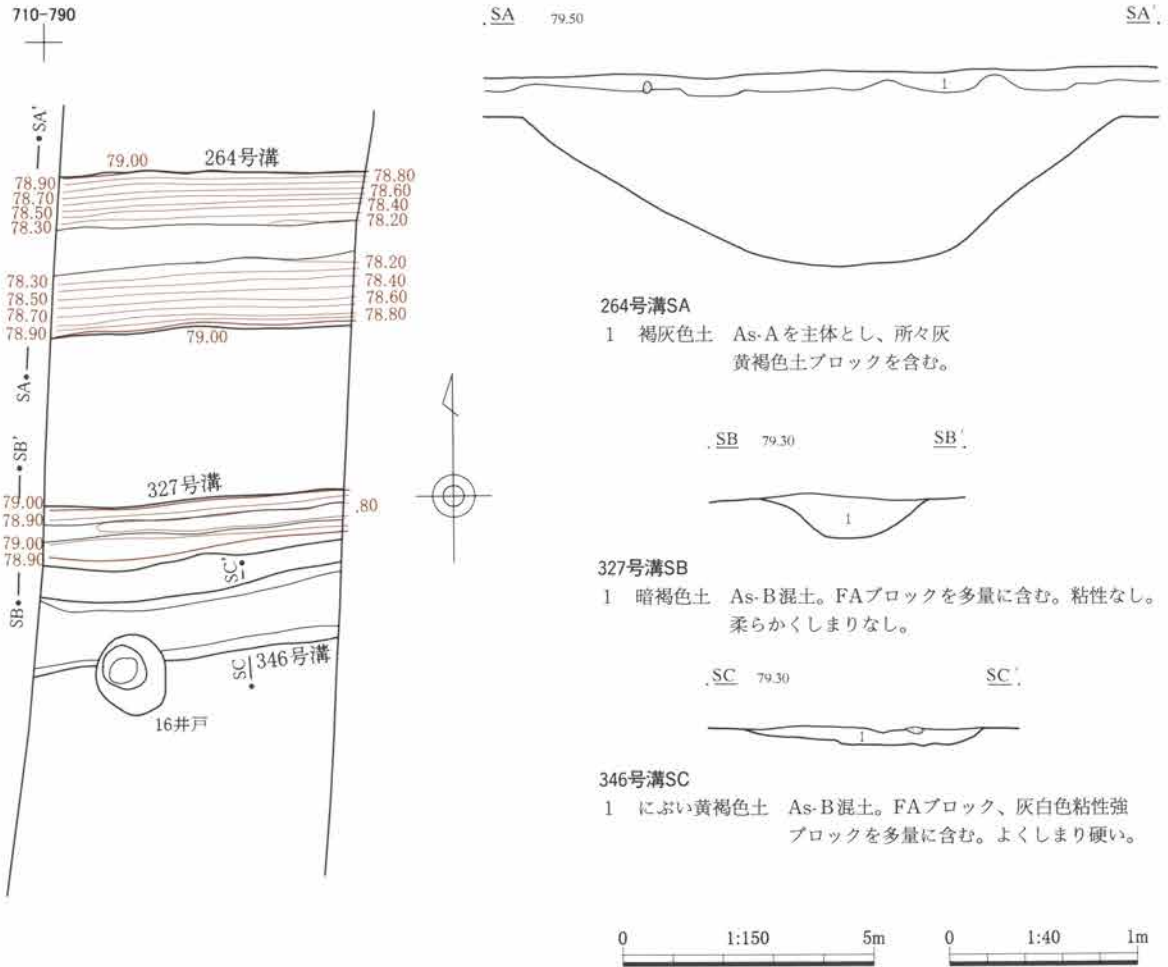
271号溝 (第244・251図、PL-52・53)

位置 660-740～765、655・660-770～795グリッド 走向 西→東 規模 幅0.50～1.82m、深さ0.07～0.32m、調査長57.18m 形状 段堀状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の中央部やや北に位置する、東西方向の溝である。258・272溝よりは古い時期の所産である。248溝との新旧関係は不明である。土層断面より、336土坑よりは新しいと考えられる。 遺物 1は焼締陶器播鉢の体～底部破片。産地は知多諸窯で、13～14世紀。



第251図 271号溝出土遺物

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



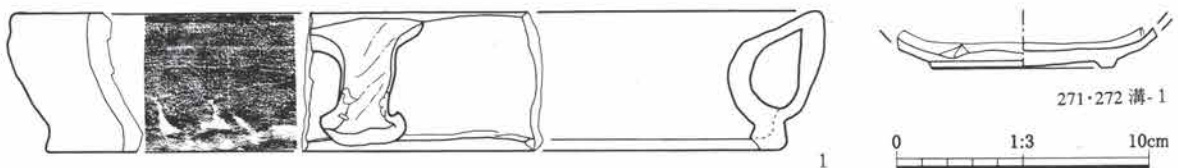
第252図 264・327・346号溝実測図

272号溝 (第244・253・254図、PL-53)

位置 655-765~795グリッド 走向 北→南/西→東 規模 幅0.68~1.02m、深さ0.07~0.17m、調査長32.12m 形状 段堀状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の中央部に位置する、東西方向の溝である。248溝・336土坑との新旧関係は不明であるが、271溝よりは新しい時期の所産と考えられる。

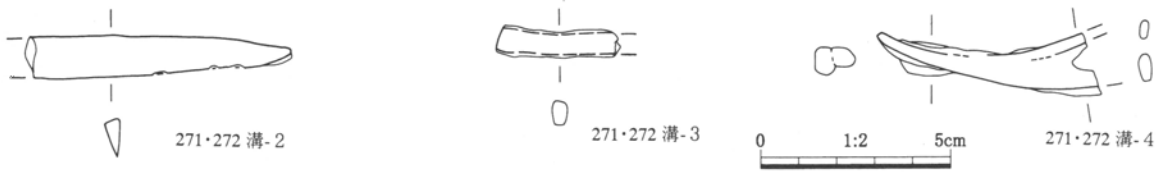
遺物 1は焙烙の口縁～底部破片。内耳が底面につかず、古い特徴を残す。江戸時代前半か。

【271・272溝の遺物】 1は陶器皿の底部片。底径7.2cm。長石釉を施釉。産地は瀬戸・美濃で、16世紀後半。2～4は鉄器。2は片刃の刀子か。残長7.1cm。3・4は用途不明。4は2個体が、接合している可能性が考えられる。



第253図 272・271/272号溝出土遺物(1)

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）



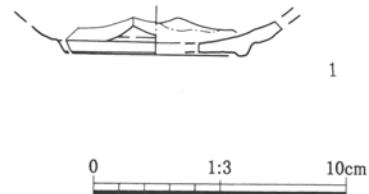
第254図 272・271/272号溝出土遺物(2)

273号溝（第247～250図、PL-57）

位置 675—535グリッド 走向 西→東 規模 幅0.50m、深さ0.28m、調査長1.30m
 形状 段堀状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北東端部に位置する、東西方向の溝である。
 遺物 なし

275号溝（第247～250・255図、PL-57）

位置 665—765～785グリッド 走向 西→東
 規模 幅0.44～1.40m、深さ0.05～0.10m、調査長19.52m
 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の中央北よりに位置する、東西方向の溝である。264溝より新しく、527・531ピットより古い時期の所産である。264溝との新旧関係は不明である。 遺物 1は陶器皿の底部片。底径7.2cm。目痕が残り、緑釉流し。美濃産で、17世紀。



第255図 275号溝出土遺物

277号溝（第241・242図）

位置 635—790・795グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.96m、深さ0.02～0.06m、調査長5.25m
 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の中央部やや西側に位置する溝である。方向性から、251・281溝との関係が予想されるが、詳細は不明である。 遺物 なし

278号溝（第257・258図、PL-57）

位置 645・650—805・810グリッド 走向 西→東 規模 幅0.22～0.75m、深さ0.01～0.11m、調査長6.20m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の中央西寄りに位置する、東西方向の溝である。251・279・281より新しい時期の所産と考えられる。 遺物 なし

279号溝（第257・258図、PL-57）

位置 640・645—805・810グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.24～0.32m、深さ0.03～0.08m、調査長5.50m
 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の中央西寄りに位置する溝である。278溝より古く、348土坑とは新旧不明である。 遺物 なし

280号溝（第257・258図、PL-57）

位置 645・650—810～830グリッド 走向 西→東 規模 幅0.70～1.73m、深さ0.06～0.31m、調査長20.92m
 形状 段堀状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の西部に位置する、東西方向の溝であ

る。 遺物 なし

281号溝 (第257・258図、PL-57・58)

位置 640・645—800・805、650—805～820、655—805～830グリッド 走向 西→東

規模 幅1.96～2.44m、深さ0.08～0.17m、調査長42.38m 形状 段堀状の断面を呈する。

調査所見 A-3区の西部に位置する、東西方向の溝である。347・349土坑、619ピット、278溝より古い時期の所産と考えられる。 遺物 なし

282号溝 (第257・258図、PL-58)

位置 650・655—805～815、655・660—820～830グリッド 走向 西→南東

規模 幅0.40～0.75m、深さ0.04～0.10m、調査長32.00m 形状 なべ底状の断面を呈する。

調査所見 A-3区の北西部に位置する、東西方向の溝である。283溝より新しい時期の所産である。

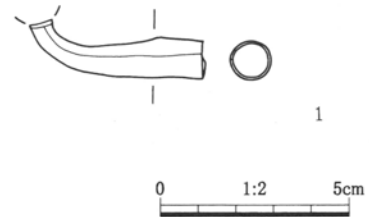
遺物 なし

283号溝 (第256～258図、PL-58)

位置 655—810・815、655・660—820～830グリッド 走向

西→南東 規模 幅0.80m、深さ0.05～0.08m、調査長20.16m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 A-3区の北西部に位置する、東西方向の溝である。282溝より古い時期の所産である。 遺物 1は煙管の雁首。長さ4.6cm、太さ1.0cm。その他、須恵器、軟質陶器の破片が出土している。



第256図 283号溝出土遺物

285号溝 (第244図、PL-58)

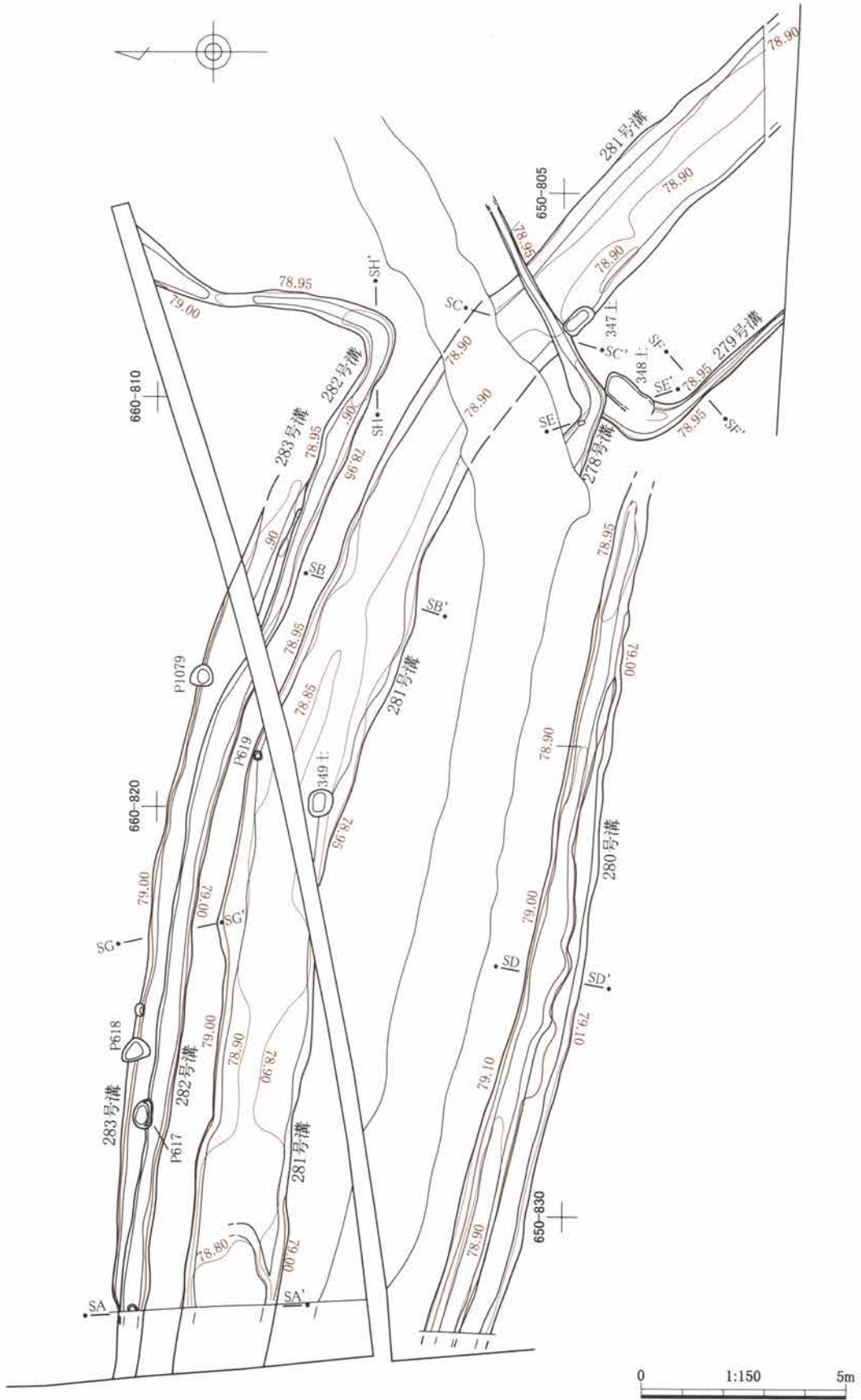
位置 655—795～800、650・655—805グリッド 走向 東→西/北→南西 規模 幅0.36～0.65m、深さ0.06～0.23m、調査長10.02m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 北西部に位置する溝である。286溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の所産であろう。 遺物 なし

286号溝 (第244図、PL-58)

位置 650・655—800グリッド 走向 北東→南 規模 幅0.22～0.52m、深さ0.03～0.09m、調査長4.48m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北西部に位置する、南北方向の溝である。285溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

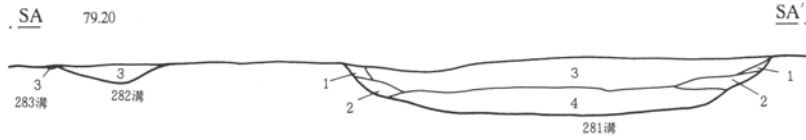
287号溝 (第247～250図、PL-58)

位置 665・670—770グリッド 走向 北→南 規模 幅0.16～0.24m、深さ0.01～0.11m、調査長2.46m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北部に位置する、南北方向の溝である。288溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。屋敷跡に伴う溝であった可能性が考えられる。 遺物 なし



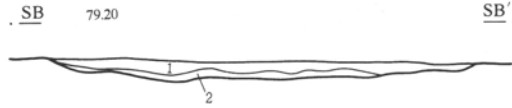
第257図 278～283号溝実測図(1)

第2章 遺構と遺物



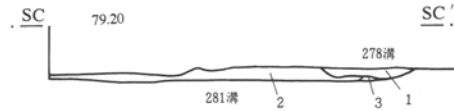
281・282・283号溝SA

- 1 暗褐色土 粘性あり。酸化鉄分を含む。
- 2 黄褐色土 FA粒を含む。
- 3 暗褐色土 As-Bを多量に含む。粘性弱い。
- 4 黒褐色土 黒褐色シルト質土。粘性あり。As-Cを含む。



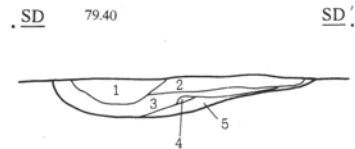
281号溝SB

- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。
- 2 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。



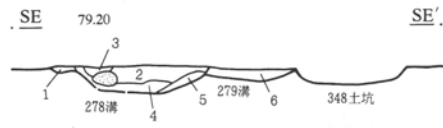
278・281号溝SC

- 1 As-B堆積土
- 2 にぶい黄褐色土 粘性弱い。As-Bを僅かに含む。
- 3 黄褐色土 2層に比べてややしまりあり。As-Bを若干含む。



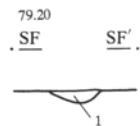
280号溝SD

- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。FAブロック、As-Bを含む。
- 2 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 3 褐色土 粘性あり。As-B、FA粒を含む。
- 4 にぶい黄褐色土 粘性あり。FA粒を含む。
- 5 にぶい黄褐色土 粘性あり。FAブロック、砂質土を含む。



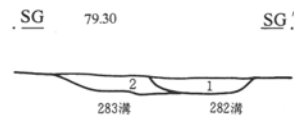
278・279号溝、348号土坑SE

- 1 にぶい黄褐色土 粘性弱い。As-Bを僅かに含む。
- 2 黄褐色土 1層に比べてややしまりあり。As-Bを若干含む。
- 3 にぶい黄褐色土 1層に近似。FAブロックを僅かに含む。
- 4 にぶい黄褐色土 1層に比べAs-Bを多量に含む。
- 5 にぶい黄褐色土 しまり・粘性弱い。
- 6 黄褐色土 しまり・粘性弱い。



279号溝SF

- 1 にぶい黄褐色土 しまり・粘性弱い。As-Bを僅かに含む。



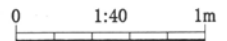
282・283号溝SG

- 1 暗褐色土 As-Bを多量に含む。粘性弱い。
- 2 暗褐色土 As-Bを少量含む。As-B下水田黒色土ブロックを含む。粘性弱い。



282号溝SH

- 1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 2 灰黄褐色土 粘性あり。FAブロック、As-Bを含む。



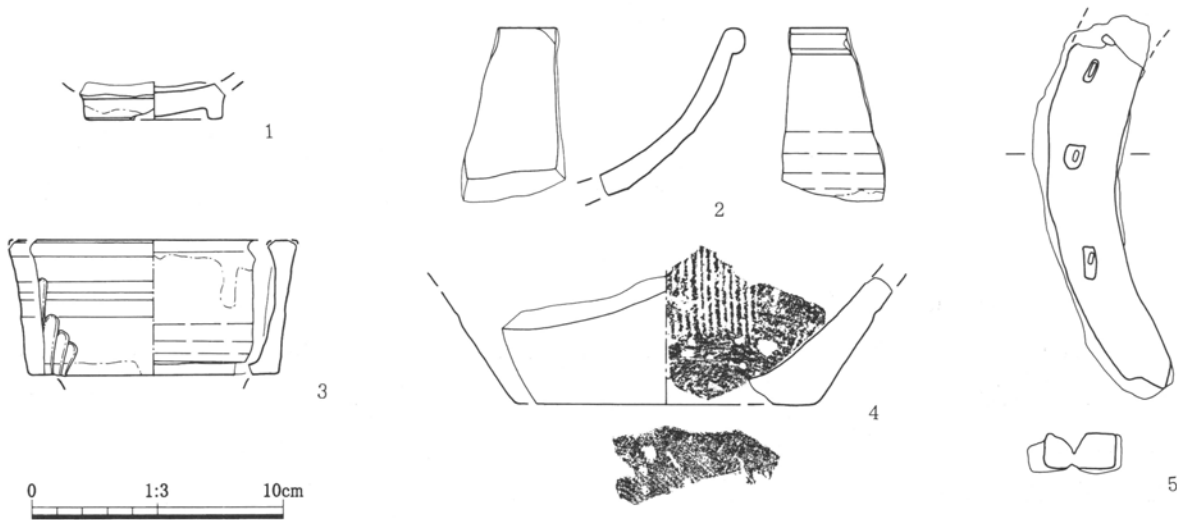
第258図 278～283号溝実測図(2)

288号溝（第247～250図、PL-58）

位置 670～770グリッド 走向 北→南/西→東 規模 幅0.18～0.31m、深さ0.03～0.06m、調査長2.94m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北部に位置する、南北方向の溝である。287溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。屋敷跡に伴う溝であった可能性が考えられる。 遺物 なし

289号溝（第247～250・259図、PL-59）

位置 665～670～760・765グリッド 走向 北→南 規模 幅0.37～0.78m、深さ0.10～0.20m、調査長9.45m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北部に位置する、南北方向の溝である。261・263溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。264溝よりは、新しい時期の所産と考えられる。 遺物 1は陶器碗の底部片。底径5.4cm。飴釉施釉。瀬戸・美濃産で、18世紀前～中。2は陶器鉢の口縁片。口縁部に重ね焼き痕が見られる。鉄泥。産地は肥前か。3は陶器香炉の口縁～底部片。口径11.4cm、底径9.8cm、器高5.3cm。飴釉施釉し、外面に菊文を施す。口縁部両端に、剥離痕が連続して見られる。瀬戸・美濃産で、18世紀前～中。4は播鉢（陶器）の底部片。内面播り目摩滅。産地は瀬戸・美濃。5は蹄鉄。長さ10.1cm。



第259図 289号溝出土遺物

290号溝（第247～250図、PL-60）

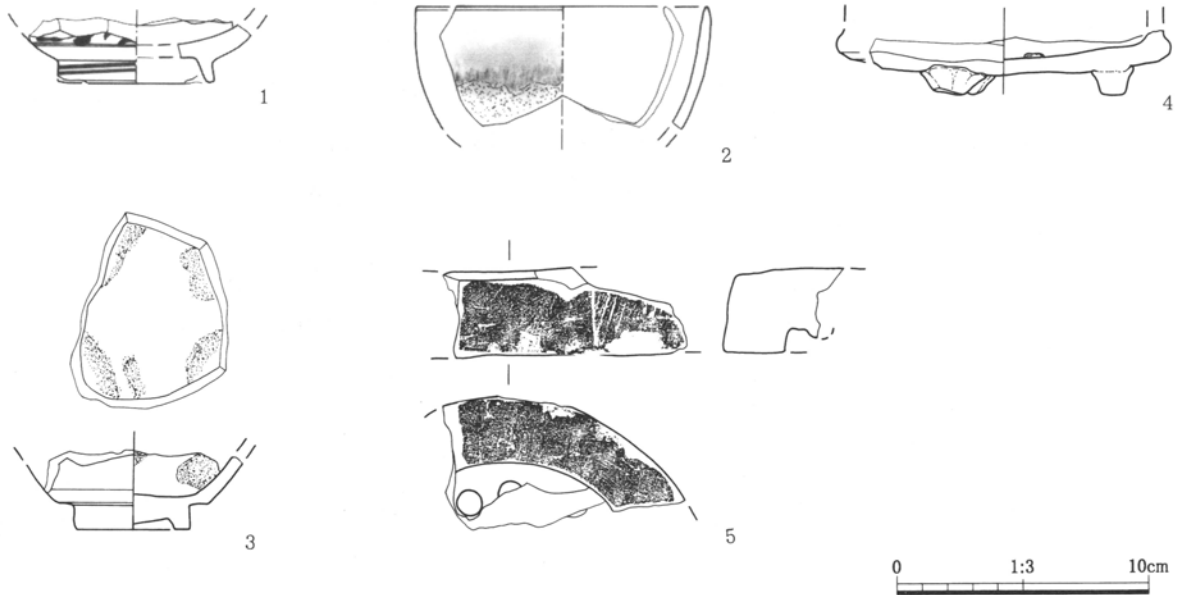
位置 665～760グリッド 走向 西→東 規模 幅0.27～0.85m、深さ0.03～0.13m、調査長2.92m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区北半部の北寄りに位置する、南北方向の溝である。 遺物 なし

326号溝（第247～250・260図、PL-59）

位置 670～680～790・795グリッド 走向 北→南 規模 幅1.60～1.95m、深さ0.40～0.48m、調査長9.84m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北端部に位置する、南北方向の溝である。10・11井戸との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の所産であろう。屋敷跡に伴う溝であろう。

第2章 遺構と遺物

遺物 1は陶器碗の底部片。底径6.2cm。陶胎染付。産地は肥前で、17世紀末～18世紀前半。2は陶器碗の口縁～体部破片。内外面飴釉を施釉。産地は瀬戸・美濃で、18世紀中以前。3は天目茶碗の体～底部破片。窯変を意識してか、灰釉流し。付高台。産地は瀬戸・美濃で、17世紀中。4は陶器香炉の底部片。底径9.8cm。内外面飴釉を施釉し、底部釉なし。三脚の付高台。見込に3つ目痕あり。産地は瀬戸・美濃で、17世紀後半～18世紀前半。5は軒丸瓦。近世か。

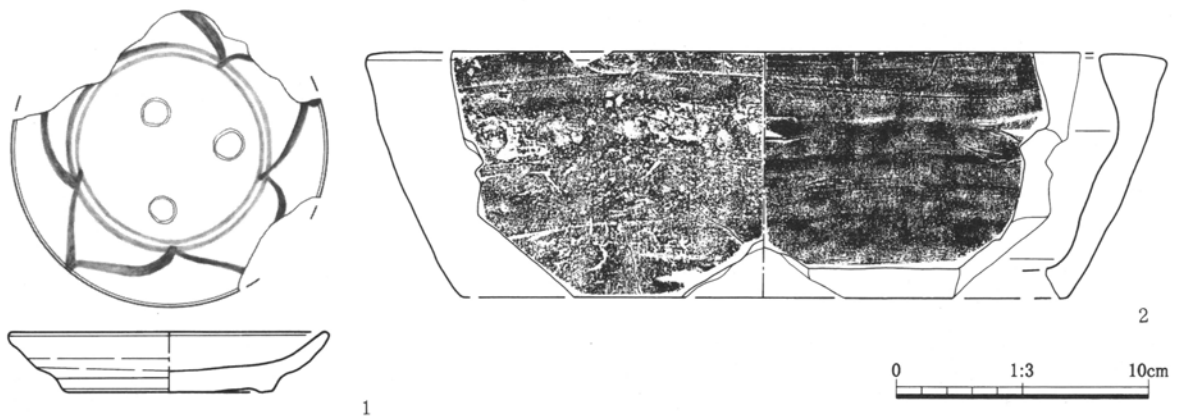


第260図 326号溝出土遺物

327号溝 (第252・261図、PL-60)

位置 695・700—780・785グリッド **走向** 西→東 **規模** 幅0.10～0.12m、深さ0.26～0.31m、調査長5.80m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の北端部に位置する、東西方向の溝である。346溝より古い時期の所産であるが、屋敷跡に伴う同時代の溝であろう。

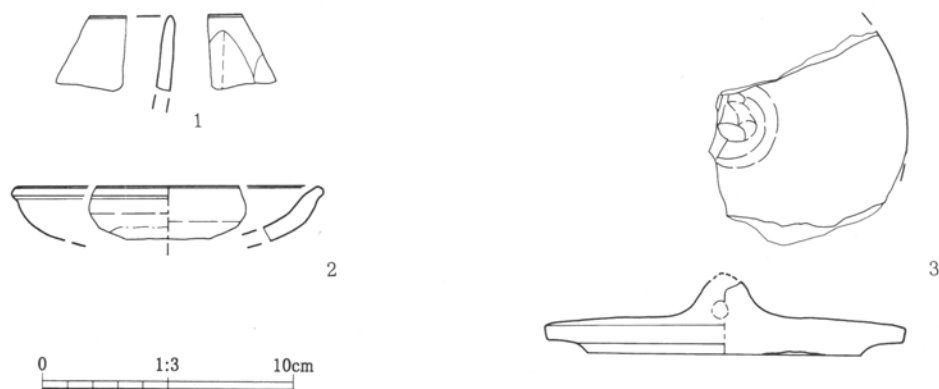
遺物 1は磁器皿2/3。口径12.6cm、底径8.2cm、器高2.4cm。内面に花文、見込に目痕3つ残る。灰釉施釉。産地は瀬戸・美濃で、17世紀中。2は軟質陶器の鉢。口縁～底部破片。口径31.6cm、底径24.0cm、器高9.6cm。



第261図 327号溝出土遺物

329号溝（第262・265図、PL-60）

位置 585～600—770グリッド **走向** 北→南 **規模** 幅0.45～0.84m、深さ0.07～0.15m、調査長17.97m **形状** なべ底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の南部に位置する、南北方向の溝である。332・337溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。330溝よりは新しい時期の所産である。 **遺物** 1は青磁碗の口縁部破片。外面に鑄連弁文。中国龍泉窯系で、13世紀中～後半。2は陶器皿の口縁～体部破片。口径12.4cm。長石釉施釉、底面釉なし。瀬戸・美濃産で、17世紀。3は軟質陶器の蓋。口径14.2cm、器高3.0cm。内面に砂付着。その他、土師器片が出土している。



第262図 329号溝出土遺物

331号溝（第265図、PL-61）

位置 585～600—770グリッド **走向** 北→南 **規模** 幅0.26～0.44m、深さ0.02～0.16m、調査長14.84m **形状** なべ底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の南部に位置する、南北方向の溝である。331溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 **遺物** なし

332号溝（第265図、PL-61）

位置 605—745～755、600—760～770グリッド **走向** 西→東 **規模** 幅0.22～0.52m、深さ0.02～0.05m、調査長23.88m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の南部に位置する、東西方向の溝である。329溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。

遺物 なし

333号溝（第266・267図、PL-61・62）

位置 585—745・750グリッド **走向** 西→東 **規模** 幅1.00m、深さ0.05～0.16m、調査長6.06m **形状** 断面不定形 **調査所見** A-3区の南端部に位置する、東西方向の溝である。337溝より新しい時期の所産である。 **遺物** なし

334号溝（第263・266・267図、PL-62）

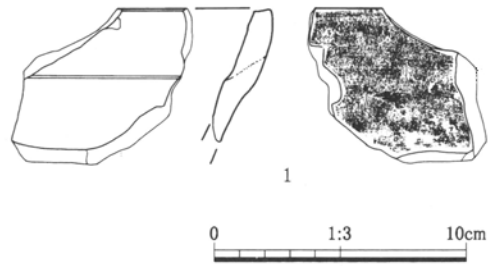
位置 580・585—745・750グリッド **走向** 東→西／北→南東 **規模** 幅0.41～0.90m、深さ0.05～0.15m、調査長6.44m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の南端部に位置する溝である。345溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。

第2章 遺構と遺物

遺物 1は焙烙の口縁～体部破片。内面中位に段があり、古い特徴を残す。江戸時代前半か。

335号溝 (第266・267図、PL-62)

位置 575・580—745～755グリッド 走向 西→東／南東 規模 幅0.45～0.80m、深さ0.06～0.21m、調査長11.96m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の南端部に位置する溝である。336溝との新旧関係は不明である。 遺物 なし



第263図 334号溝出土遺物

336号溝 (第266・267図、PL-62)

位置 580—745・750グリッド 走向 西→南東 規模 幅0.18～0.34m、深さ0.04～0.08m、調査長1.74m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の南端部に位置する溝である。335溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 馬歯出土 (P-1,016参照)。

337号溝 (第266・267図、PL-61・62)

位置 585—745～770グリッド 走向 西→東 規模 幅0.43～2.25m、深さ0.06～0.27m、調査長23.70m 形状 断面不定形 調査所見 A-3区の南端部に位置する、東西方向の溝である。333溝より古い時期の所産である。 遺物 なし

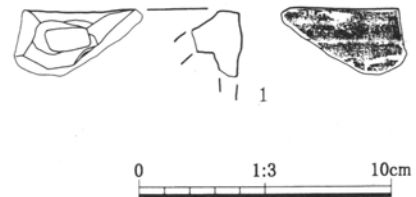
338号溝 (第247～250図、PL-63)

位置 660～675—795・800グリッド 走向 北→南 規模 幅1.70+m、深さ0.49～0.54m、調査長9.20m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北端部に位置する、南北方向の溝である。339溝より古い時期の所産と考えられる。また、264・343溝よりは、新しい時期の所産と考えられる。 遺物 なし

339号溝 (第247～250・264図、PL-63)

位置 670—790～805グリッド 走向 西→東 規模 幅0.48～0.96m、深さ0.06～0.11m、調査長11.30m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北端部に位置する、東西方向の溝である。338溝より新しい時期の所産である。

遺物 1は焙烙の体部片。内耳部あり。

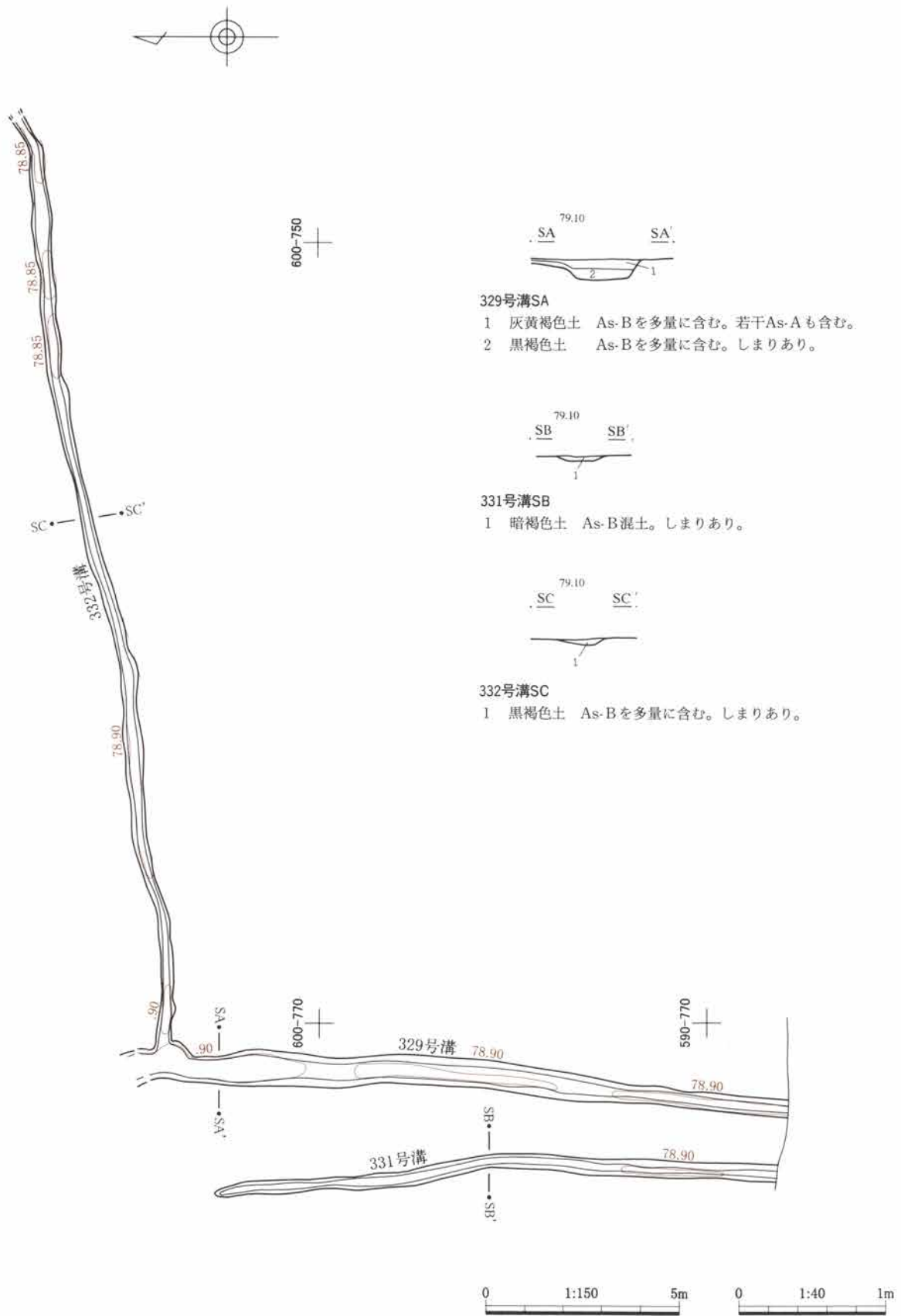


第264図 339号溝出土遺物

340号溝 (第247～250図、PL-63)

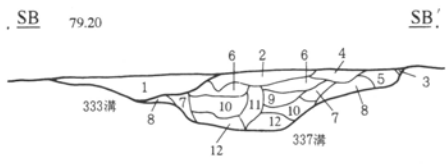
位置 675～685—785グリッド 走向 北→南 規模 幅0.30～0.50m、深さ0.02m、調査長7.30m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北端部に位置する、南北溝である。8掘立柱建物より、古い時期の所産である。341溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。

遺物 なし



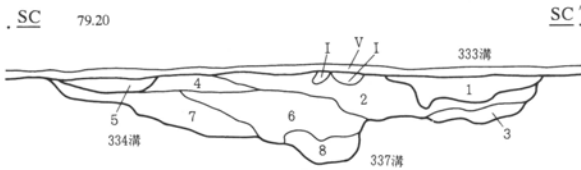
第265図 329・331・332号溝実測図

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



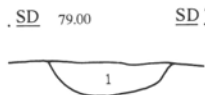
333・337号溝SB

- | | |
|------------|-----------------------------------|
| 1 灰褐色土 | As-Bを多量に含む。しまりあり。 |
| 2 灰褐色土 | 1層に近似。As-Bを少量含む。 |
| 3 灰褐色土 | 1層に近似。色調やや明るい。 |
| 4 灰黄褐色土 | 黄褐色土ブロックを含む。 |
| 5 灰黄褐色土 | 4層に近似。黄褐色土を多量に含む。 |
| 6 褐灰色土 | ややしまりのあるシルト質土。白色鉱粒、黄褐色土を若干含む。 |
| 7 褐灰色土 | やや粘性のある土。黒色土ブロックを含む。 |
| 8 黒色土 | 台地部分に見えてくる土。鉄分を含む。 |
| 9 にぶい黄褐色土 | 砂質土。12層の土、黒褐色土が部分的に含む。粘質土ブロックを含む。 |
| 10 にぶい黄褐色土 | 黄褐色土を含むシルト質土。 |
| 11 にぶい黄褐色土 | しまり弱い。 |
| 12 褐灰色土 | 粘性あり。鉄分を若干含む。 |



333・334・337号溝SC

- | | |
|-----------|-------------------------------------|
| 1 灰褐色土 | As-Bを多量に含む。しまりなし。 |
| 2 明黄褐色土 | 砂質土。部分的に灰黄褐色土の砂質土となる。 |
| 3 明黄褐色土 | 小礫を含む。 |
| 4 灰黄褐色土 | As-Bと思われる白色鉱粒を若干含む。しまりあり。黄褐色土は含まない。 |
| 5 灰褐色土 | 1層に近似。 |
| 6 にぶい黄褐色土 | 砂質土。黒褐色土を部分的に含む。粘質土を含む。 |
| 7 にぶい黄褐色土 | 黄褐色土を含むシルト質土。 |
| 8 褐灰色土 | 粘性あり。鉄分を若干含む。 |



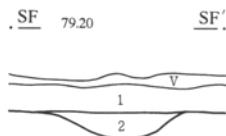
334号溝SD

- | | |
|-------|----------------|
| 1 褐色土 | As-Bを含む。しまりあり。 |
|-------|----------------|



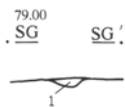
335号溝SE

- | | |
|---------|--------------------------|
| 1 灰黄褐色土 | As-Bを若干含む。しまりあり。黄褐色土を含む。 |
|---------|--------------------------|



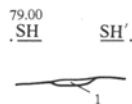
335号溝SF

- | | |
|---------|------------------|
| 1 灰黄褐色土 | As-Bを若干含む。しまりあり。 |
| 2 灰黄褐色土 | 1層に近似。やや黒味おびる。 |



336号溝SG

- | | |
|---------|--------|
| 1 灰黄褐色土 | しまり弱い。 |
|---------|--------|



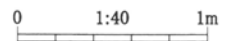
345号溝SH

- | | |
|---------|--------|
| 1 灰黄褐色土 | しまり弱い。 |
|---------|--------|



533号溝SI

- | | |
|-------|----------------|
| 1 褐色土 | As-Bを含む。しまりあり。 |
|-------|----------------|



第267図 333～337・345・533号溝実測図(2)

第2章 遺構と遺物

341号溝 (第247～250図、PL-63)

位置 680—785グリッド 走向 西→東 規模 幅0.40～0.55m、深さ0.03m、調査長2.64m

形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北端部に位置する、東西方向の溝である。340溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

342号溝 (第247～250図、PL-63)

位置 680—785・790グリッド 走向 北→南/南西 規模 幅0.21～0.50m、深さ0.02m、調査長4.62m

形状 不定形な断面を呈する。 調査所見 A-3区の北端部に位置する溝である。5柵列より古い時期と考えられ、また8掘立柱建物との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の所産であろう。

遺物 なし

343号溝 (第247～250図、PL-63)

位置 670—800グリッド 走向 西→東 規模 幅1m、深さ0.06m、調査長0.60m

形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の北部に位置する、東西方向の溝である。338溝より古い時期の所産である。 遺物 なし

345号溝 (第266・267図、PL-62)

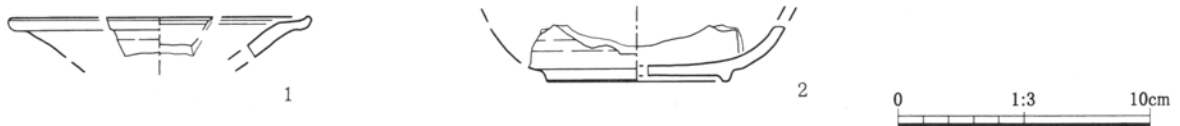
位置 580—745グリッド 走向 北→南 規模 幅0.18～0.33m、深さ0.02～0.03m、調査長1.30m

形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の南端部に位置する、南北方向の溝である。334溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

346号溝 (第252・268図、PL-63)

位置 695—780～790グリッド 走向 西→東 規模 幅1.31m、深さ0.05～0.09m、調査長6.07m

形状 不定形な断面を呈する。 調査所見 A-3区の北端部に位置する、東西方向の溝である。16井戸より古い時期の所産である。 遺物 1は陶器皿の口縁～体部破片。口径12.0cm。灰釉を施す。瀬戸・美濃産で、16世紀代。2は陶器皿の体～底部破片。底径7.2cm。緑釉流し。産地は瀬戸・美濃で、17世紀中以前。その他、土師器片3点、須恵器片1点、陶器片1点が出土している。



第268図 346号溝出土遺物

380号溝 (第270～272図、PL-64)

位置 655・660—865グリッド 走向 北→南 規模 幅0.20m、深さ0.10m、調査長2.30m

形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の西端部に位置する、南北方向の溝である。385溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。382溝よりは新しい時期の所産である。

遺物 なし

381号溝（第270～272図、PL-64）

位置 660—865グリッド 走向 北→南 規模 幅0.78～1.00m、深さ0.18～0.24m、調査長3.68m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の西端部に位置する、南北方向の溝である。382・383
 溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

382号溝（第270～272図、PL-64）

位置 655—845・850、655・660—855～865グリッド 走向 西→東 規模 幅0.90～1.50m、深さ
 0.25～0.34m、調査長16.50m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の西端部に位置す
 る、東西方向の溝である。381溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。380溝よりは、古
 い時期の所産である。384・385溝よりは、新しい時期の所産と考えられる。 遺物 なし

383号溝（第270～272図、PL-65）

位置 660—850～870グリッド 走向 西→東 規模 幅0.94+m、深さ0.24～0.50m、調査長19.54m
 形状 全ての形状がわからないため不明。 調査所見 A-3区の西端部に位置する、東西方向の溝である。
 381溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 遺物 なし

384号溝（第270～272図、PL-64）

位置 650～660—845グリッド 走向 北→南 規模 幅1.00～1.25m、深さ0.36～0.46m、調査長6.80
 m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の西端部に位置する、南北方向の溝である。382
 溝より古い時期の所産と考えられる。 遺物 なし

385号溝（第270～272図、PL-64）

位置 655—850・855、655・660—860・865グリッド 走向 西→東 規模 幅0.21～0.48m、深さ
 0.03～0.07m、調査長12.66m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の西端部に位置す
 る、東西方向の溝である。380溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。382溝よりは、古
 い時期の所産と考えられる。 遺物 なし

412号溝（第273図、PL-65）

位置 635・640—825・830グリッド 走向 南西→北東 規模 幅0.58～0.73m、深さ0.08～0.14m、
 調査長3.70m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区の西部に位置する溝である。耕作
 に伴う溝と考えられる。 遺物 なし

413号溝（第269・273・274

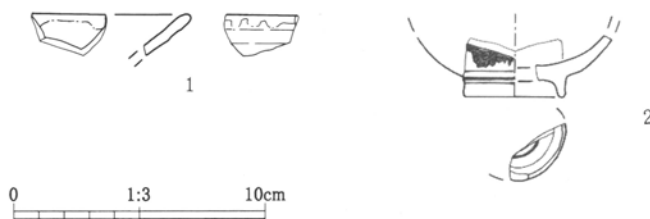
図、PL-65） 位置

630～640—815～830グリッ

ド 走向 南西→北東

規模 幅3.25m、深さ0.04

～0.19m、調査長8.50m



第269図 413号溝出土遺物

第2章 遺構と遺物

形状 なべ底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の西部に位置する溝である。414溝よりも新しい時期の所産と考えられるが、ほぼ同時期の溝であろう。 **遺物** 1は陶器皿の口縁片。瀬戸・美濃産で、15世紀末～16世紀初。2は磁器碗の体～底部破片。内外面貫入あり。染付、コンニャク版使用。産地は肥前系で、18世紀。その他、土師器、須恵器、陶器等の破片が出土している。

415号溝 (第273図、PL-65)

位置 620-815・820、625-820・825、630-825グリッド **走向** 北西→南東 **規模** 幅0.45m、深さ0.03~0.08m、調査長11.00m **形状** なべ底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の西部に位置する溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 **遺物** なし

494号溝 (第247~250図)

位置 675・680-755グリッド **走向** 北→南 **規模** 幅0.28~0.44m、深さ0.02m、調査長3.50m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の北部に位置する溝である。6井戸との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の所産であろう。屋敷跡に伴う溝の可能性が考えられる。 **遺物** なし

495号溝 (第247~250図、PL-56)

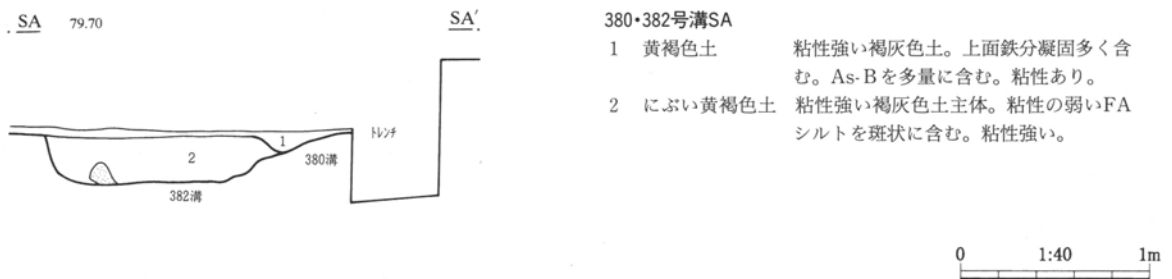
位置 675・680-750グリッド **走向** 北→南 **規模** 幅0.32~0.50m、深さ0.04~0.07m、調査長3.08m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の北部に位置する、南北方向の溝である。屋敷跡に伴う溝の可能性が考えられる。 **遺物** なし

496号溝 (第247~250図、PL-65)

位置 670-765・770、665-765グリッド **走向** 北西→南東 **規模** 幅0.42~0.60m、深さ0.02~0.04m、調査長4.41m **形状** なべ底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の北部に位置する溝である。264・275溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝であろう。 **遺物** なし

533号溝 (第266・267図)

位置 585・590-745~770グリッド **走向** 北西→南東 **規模** 幅1.88~3.70m、深さ0.03~0.08m、調査長21.89m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** A-3区の南端部に位置する溝である。329・337溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の溝と思われる。 **遺物** なし



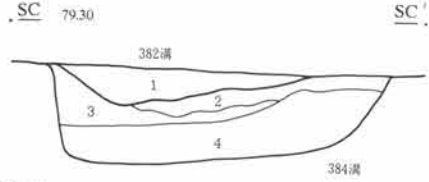
第270図 380~385号溝実測図(1)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



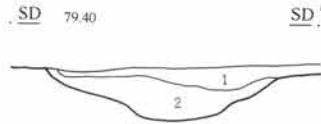
382・385号溝SB

- | | |
|-----------|--------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 黒色鉱物粒を含む。 |
| 2 黄褐色土 | 粘性強い褐灰色土。粘性弱いFAシルト主体。軽石を多量に含む。 |
| 3 にぶい黄褐色土 | 粘性強い褐灰色土。粘性弱いFAシルトを斑状に含む。粘性強い。 |



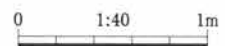
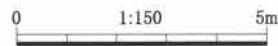
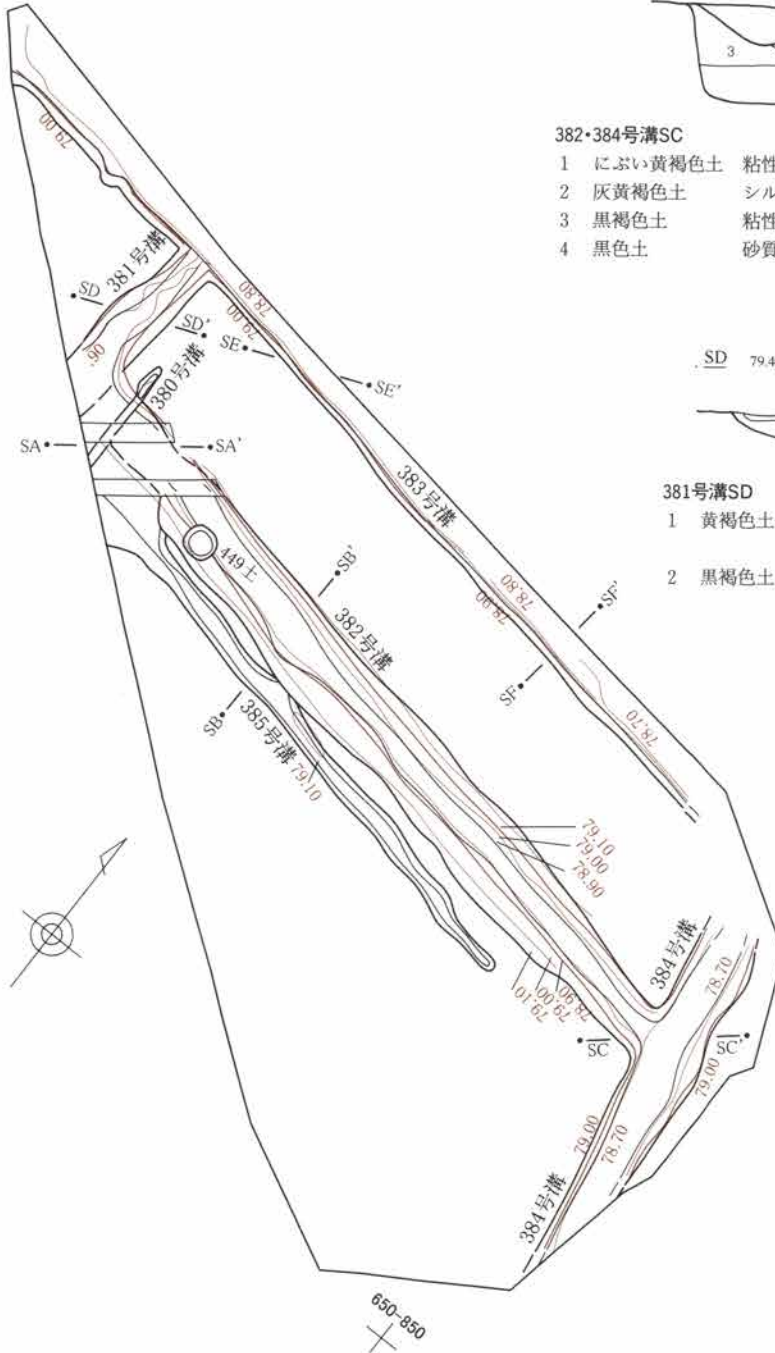
382・384号溝SC

- | | |
|-----------|------------------------|
| 1 にぶい黄褐色土 | 粘性強い。FAシルトを斑状に含む。粘性強い。 |
| 2 灰黄褐色土 | シルト質で、しまりなし。粘性なし。 |
| 3 黒褐色土 | 粘性強い。As-Bを多量に含む。粘性弱い。 |
| 4 黒色土 | 砂質。As-B混土にFAブロックを少量含む。 |



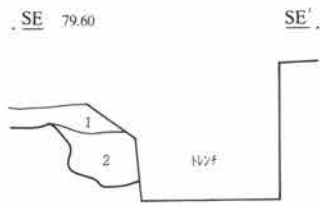
381号溝SD

- | | |
|--------|---------------------------|
| 1 黄褐色土 | 粘性強い褐灰色土、鉄分多く含む。軽石を多量に含む。 |
| 2 黒褐色土 | 粘性強い。鉄分多く含む。 |



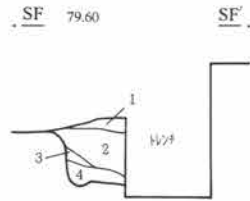
第271図 380～385号溝実測図(2)

第2章 遺構と遺物



383号溝SE

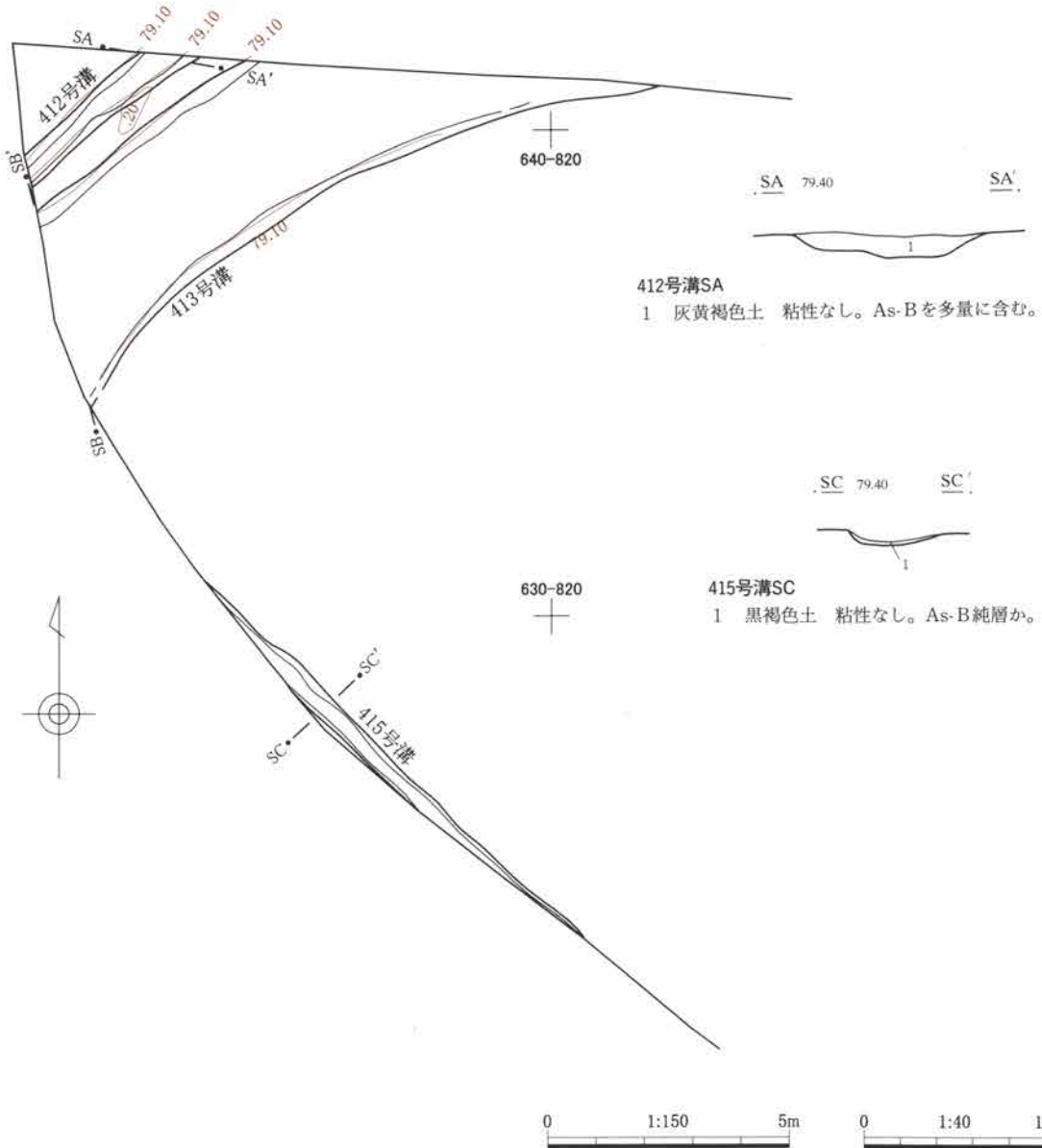
- 1 黄褐色土 粘性強い褐灰色土。上面鉄分凝固多く含む土主体。軽石を多量に含む。
- 2 黒色土 粘性なし。砂質。As-B混土にFAブロックを少量含む。



383号溝SF

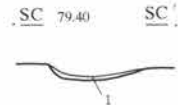
- 1 黄褐色土 粘性強い。鉄分凝固多く含む。軽石を多量に含む。
- 2 黒色土 砂質。As-B混土にFAブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 FA主体。As-Bを多量に含む。粘性弱い。
- 4 黒褐色土 粘性強い。As-Bを多量に含む。

第272図 380～385号溝実測図(3)



412号溝SA

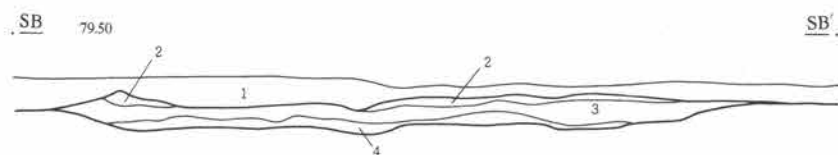
- 1 灰黄褐色土 粘性なし。As-Bを多量に含む。



415号溝SC

- 1 黒褐色土 粘性なし。As-B純層か。

第273図 412・413・415号溝実測図(1)



413号溝SB

- 1 にぶい黄褐色土 粘性なし。As-Aを含む。
- 2 にぶい黄褐色土 粘質土。As-Aを含む。
- 3 灰黄褐色土 粘性なし。As-Bを多量に含む。
- 4 にぶい黄褐色土 3層に近似。壁の崩落か。FAブロック多い。



第274図 413号溝実測図(2)

Aランプの溝

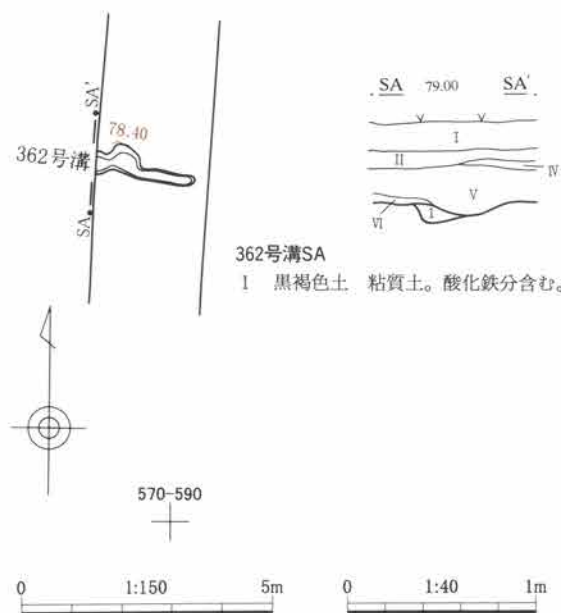
362号溝（第275図、PL-66）

位置 575—585・590グリッド

走向 西→東 規模 幅0.20～0.44m、深さ0.01～0.08m、調査長2.00m

形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 Aランプの中央部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。遺物 なし



第275図 362号溝実測図

366号溝（第276図、PL-66）

位置 690—580グリッド 走向 西→東 規模 幅1.49m、深さ0.45～0.48m、調査長2.14m

形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 Aランプの北端部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。遺物 なし

367号溝（第276図、PL-66）

位置 695—580グリッド 走向 西→東 規模 幅0.57m、深さ0.22～0.28m、調査長2.10m

形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 Aランプの北端部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。遺物 なし

368号溝（第276図、PL-66）

位置 695—580グリッド 走向 西→東 規模 幅0.59m、深さ0.19～0.26m、調査長2.07m

形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 Aランプの北端部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。遺物 なし

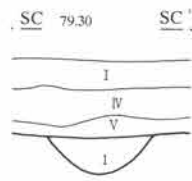
第2章 遺構と遺物

534号溝 (第277図、PL-66)

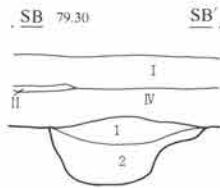
位置 645・650—585グリッド 走向 北→南 規模 幅0.64+m、深さ0.01~0.06m、調査長8.00m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 Aランプの北部に位置する溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし

535号溝 (第277図、PL-66)

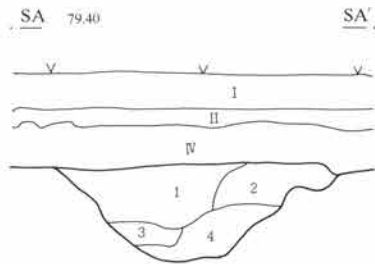
位置 660—585グリッド 走向 西→東 規模 幅1.47~2.38m、深さ0.04m、調査長2.28m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 Aランプの北端部に位置する溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし



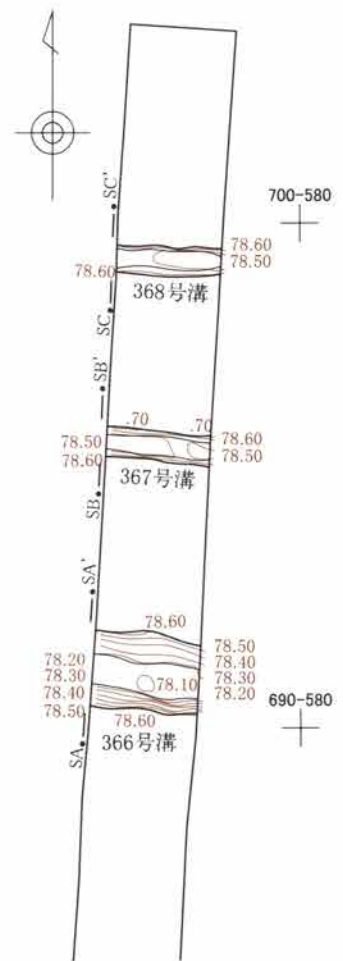
368号溝SC
 1 灰黄褐色土 粘性弱い。As-B、FAブロックを含む。



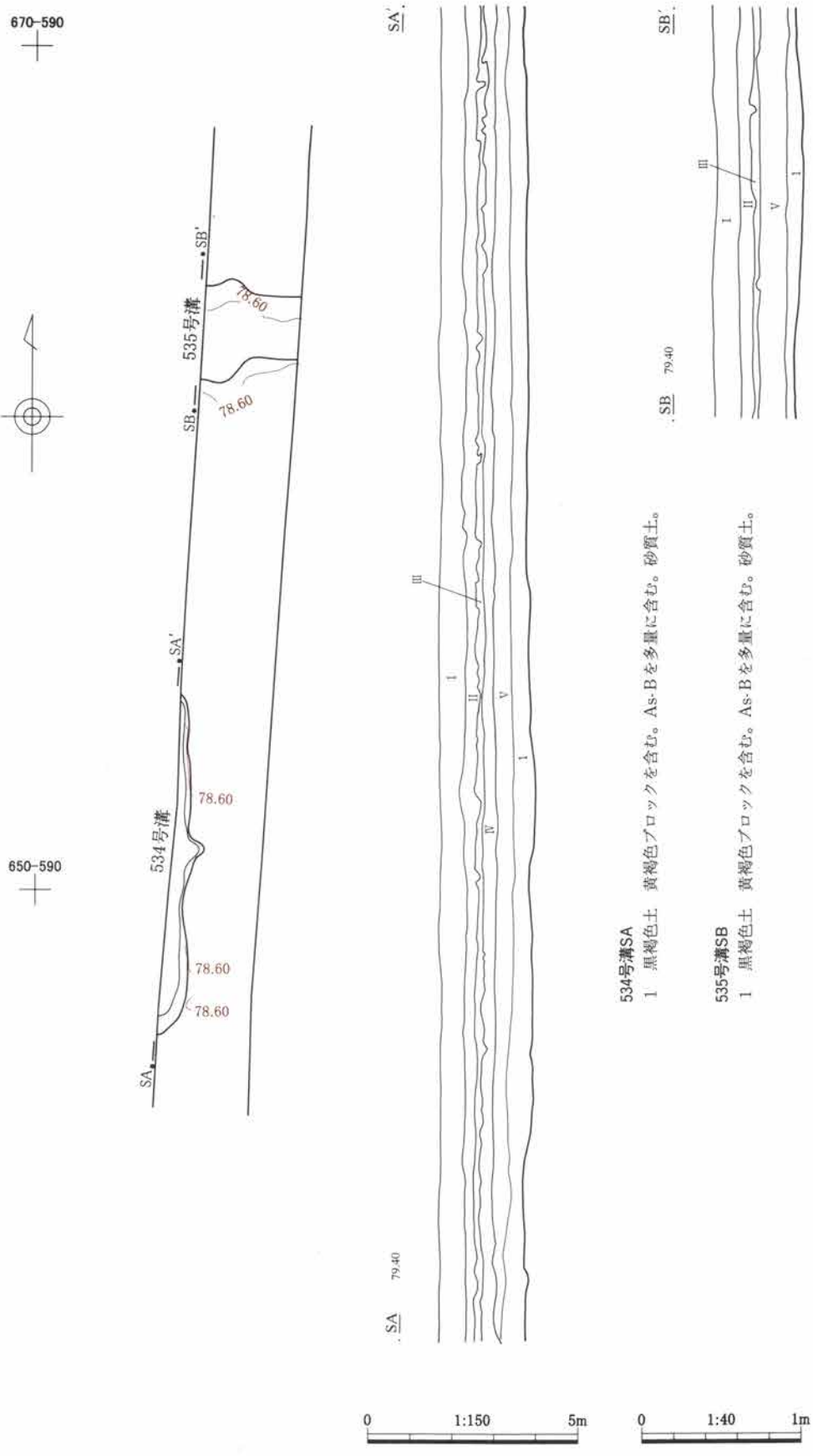
367号溝SB
 1 褐灰色土 粘性あり。As-Bを含む。
 2 褐灰色土 FAブロックを含む。粘性あり。As-Bを僅かに含む。



366号溝SA
 1 褐灰色土 粘質土。As-Bを含む。酸化鉄分の斑点あり。
 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。
 3 褐灰色土 砂質土。
 4 褐灰色土 シルト質土。鉄分の斑点あり。



第276図 366~368号溝実測図



- 534号溝SA
 1 黒褐色土 黄褐色ブロックを含む。As・Bを多量に含む。砂質土。
- 535号溝SB
 1 黒褐色土 黄褐色ブロックを含む。As・Bを多量に含む。砂質土。

第277図 534・535号溝実測図

B区の溝

71号溝 (第279～282図、PL-67)

位置 700・705—695グリッド 走向 北→南 規模 幅0.72～0.91m、深さ0.03～0.08m、調査長5.34m
形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 B区の北西端に位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。73・74溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の所産と考えられる。
遺物 なし

72号溝 (第279～282図、PL-67)

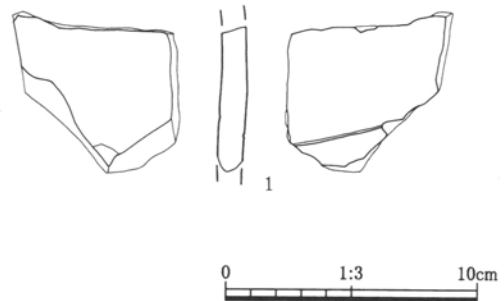
位置 700・705—695グリッド 走向 北→南 規模 幅0.21～0.36m、深さ0.02～0.05m、調査長3.95m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北西端に位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし

73号溝 (第279～282図、PL-67)

位置 700—695～705グリッド 走向 西→東 規模 幅0.25～0.63m、深さ0.05m、調査長8.40m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北端部に位置する溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし

74号溝 (第278～282図、PL-67)

位置 680・700—705、695—705グリッド 走向 西→東
規模 幅0.34～0.90m、深さ0.05～0.13m、調査長30.07m
形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 B区の北端部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。71・81・143・144・145溝、且つ211土坑との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の所産と考えられる。74溝は、81・145溝へ分岐する。 遺物 1は陶器(器種不明)の体部片。外面灰釉施釉。常滑か。



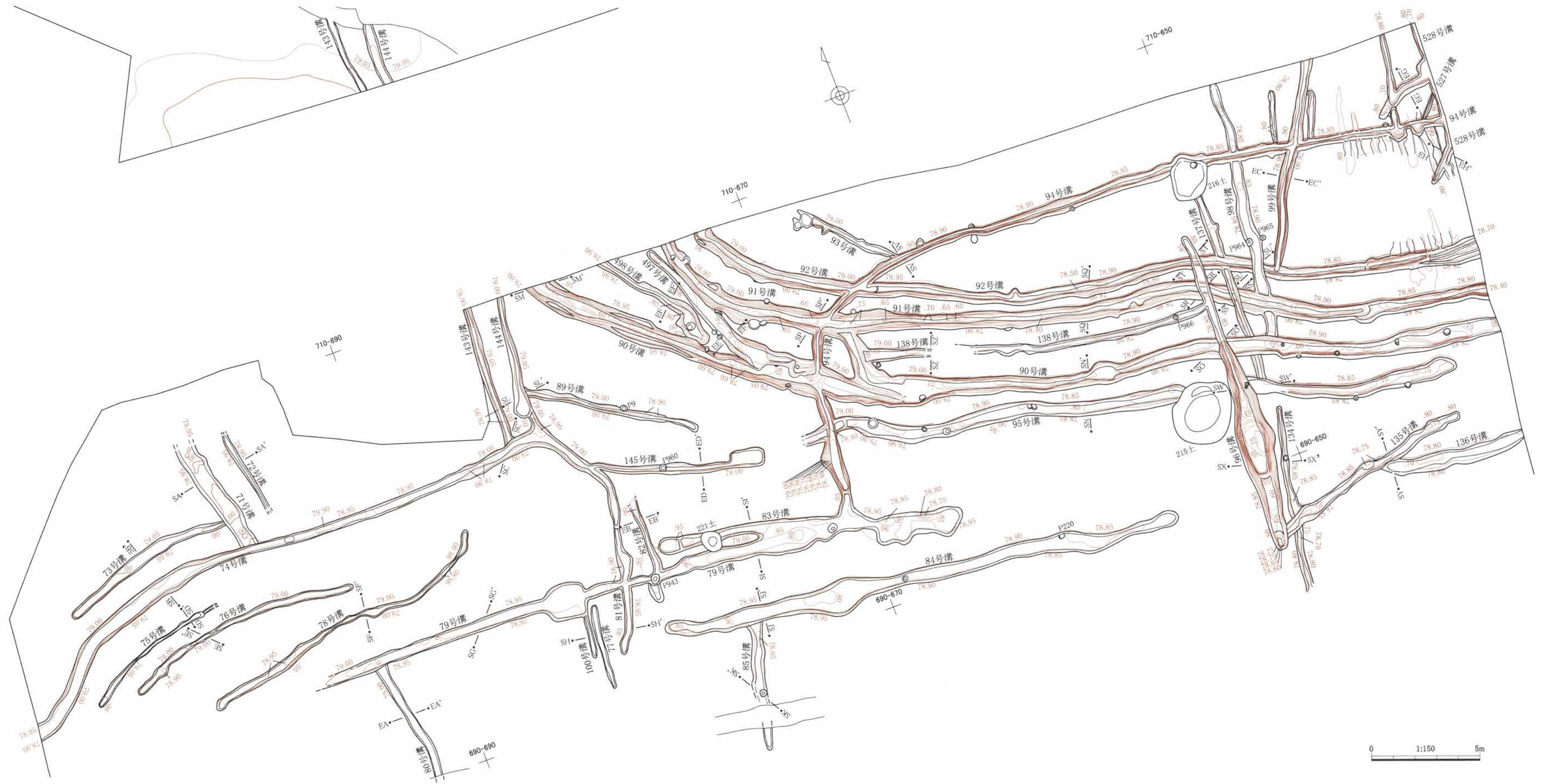
第278図 74号溝出土遺物

75号溝 (第279～282図、PL-67)

位置 695—705、700—695・700グリッド 走向 西→東 規模 幅0.12～0.32m、深さ0.02～0.04m、調査長6.44m
形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 B区の北西部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし

76号溝 (第279～282図、PL-67)

位置 695・700—690～700グリッド 走向 西→東 規模 幅0.18～0.50m、深さ0.07～0.10m、調査長11.18m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北西部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし



第279图 71~85•89~96•98~100•134~138•143~145•497•498•527•528号沟实测图(1)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



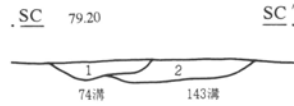
71・72号溝SA

- 1 暗褐色土 As-Bを多量に含む。FAブロックを含む。
- 2 暗褐色土 As-Bを含む。
- 3 暗褐色土 粘性あり。酸化鉄分を含む。



73・74号溝SB

- 1 褐灰色土 As-A、酸化鉄分を含む。
- 2 暗灰褐色土 粘性あり。鉄分を含む。



74・143号溝SC

- 1 黒褐色土 粘性あり。白色鈹粒を含む。
- 2 灰黄褐色土 粘性あり。白色鈹粒を含む。



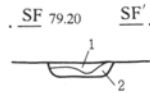
75号溝SD

- 1 褐灰色土 As-A、酸化鉄分を含む。



76号溝SE

- 1 暗褐色土 As-Bを多量に含む。



78号溝SF

- 1 褐灰色土 As-A、酸化鉄分を含む。
- 2 暗灰褐色土 粘性あり。鉄分を含む。



79号溝SG

- 1 暗褐色土 FA粒、褐灰色土粒を斑状に含む。
- 2 暗褐色土 As-Bを含む。



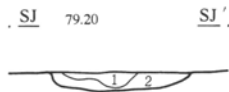
77・81・100号溝SH

- 1 黒褐色土 As-B混土。
- 2 灰黄褐色土 As-B混土。やや粘性あり。



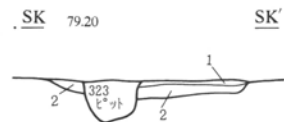
83号溝SI

- 1 暗褐色土 As-Bを多量に含む。



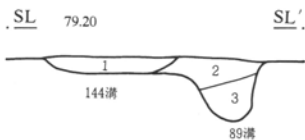
84号溝SJ

- 1 褐灰色土 酸化鉄分あり。As-Aを含む。
- 2 暗褐色土 粘性のある暗褐色土にFA粒を斑状に含む。



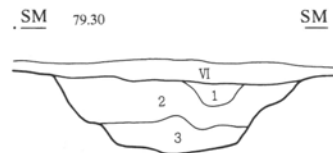
85号溝、323号ピットSK

- 1 黄褐色土 As-Bを僅かに含む。
- 2 灰黄褐色土 As-Bを僅かに含む。



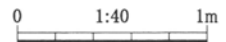
89・144号溝SL

- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。FAブロックを含む。
- 2 黒褐色土 粘性弱い。As-B、FAブロックを含む。
- 3 褐灰色土 粘性ややあり。FAブロックを含む。



90号溝SM

- 1 黒褐色土 粘性やや弱い。白色鈹粒を含む。
- 2 褐灰色土 粘性あり。軽石を含む。
- 3 灰黄褐色土 粘性弱い。FAブロックを含む。



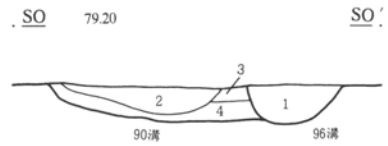
第280図 71～85・89～96・98～100・134～138・143～145・497・498・527・528号溝実測図(2)

第2章 遺構と遺物



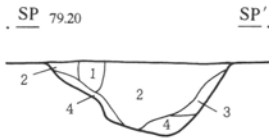
90・95号溝SN

- 1 暗灰褐色土 粘性あり。FA粒を含む。
- 2 暗灰褐色土 粘性あり。白色軽石、砂粒を含む。
- 3 暗灰褐色土 2層に近似。赤褐色砂質土を多量に含む。



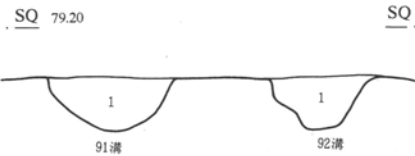
96・90号溝SO

- 1 暗褐色土 As-Bを含む。
- 2 暗灰褐色土 粘性あり。白色鈹粒、砂粒を含む。
- 3 黄褐色土 FA粒に白色鈹粒を含む。
- 4 暗灰褐色土 2層に近似。砂粒を含む。



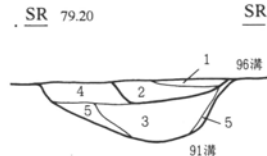
91号溝SP

- 1 暗褐色土 As-Bを多量に含む。
- 2 暗灰褐色土 粘性あり。白色鈹粒、砂粒を含む。
- 3 暗灰褐色土 2層に近似。白色鈹粒、砂粒を含まない。
- 4 暗灰褐色土 3層の鉄分凝固。



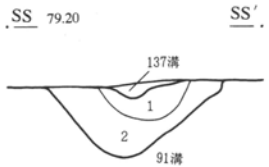
91・92号溝SQ

- 1 暗灰褐色土 粘性あり。白色鈹粒、砂粒を含む。



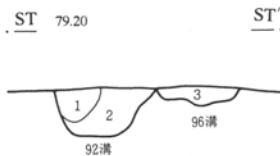
91・96号溝SR

- 1 暗褐色土 As-Bを多量に含む。
- 2 暗灰褐色土 粘性あり。白色鈹粒、砂粒含む。
- 3 暗灰褐色土 2層に近似。白色鈹粒を含まない。
- 4 暗褐色土 粘性あり。鉄分含む。
- 5 黄褐色土 FA粒を含む。



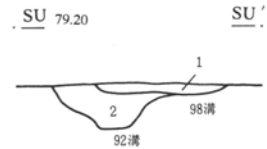
91・137号溝SS

- 1 褐灰色土 粘性あり。FAブロックを含む。
- 2 灰黄褐色土 粘性やや弱い。FAブロックを含む。



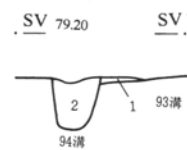
92・96号溝ST

- 1 黒褐色土 As-B混土。砂質土。
- 2 褐灰色土 砂質土。酸化鉄分が斑状に含む。
- 3 黒褐色土 FA粒・As-Bを含む。



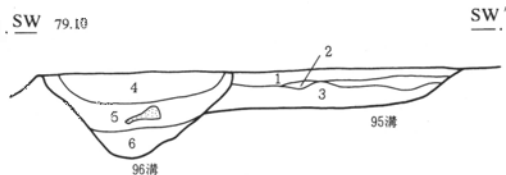
92・98号溝SU

- 1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 2 褐灰色土 粘性強い。白色鈹粒、FAブロックを含む。



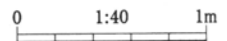
93・94号溝SV

- 1 黒褐色土 As-Bを僅かに含む。
- 2 褐灰色土 砂質土を主体に砂質土・FA小ブロックを含む。



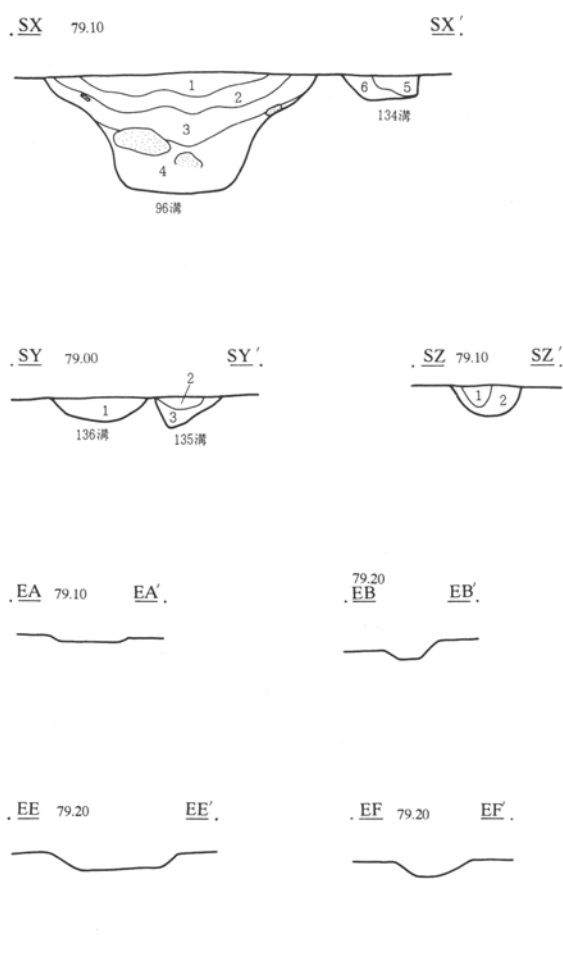
95・96号溝SW

- 1 褐灰色土 やや粘性あり。As-B、FAブロックを含む。
- 2 褐色土 粘性弱い。FAを主体。
- 3 灰黄褐色土 粘性あり。白色鈹粒を斑点状に含む。
- 4 暗褐色土 粘性ややあり。軽石を含む。
- 5 黒褐色土 粘性弱い。FA粒を含む。
- 6 褐灰色土 粘性ややあり。FAブロックを含む。



第281図 71~85・89~96・98~100・134~138・143~145・497・498・527・528号溝実測図(3)

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）



96・134号溝SX

- 1 灰黄褐色土 やや粘性あり。軽石を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 やや粘性あり。白色鉱粒を含む。
- 3 褐灰色土 砂質土。FAブロックを含む。
- 4 黒褐色土 やや粘性あり。FAブロックを含む。
- 5 黒褐色土 粘性弱い。As-B、FA粒を含む。
- 6 褐灰色土 粘性弱い。FA粒を多量に含む。

135・136号溝SY

- 1 黒褐色土 粘性弱い。As-B、FAブロックを含む。
- 2 褐灰色土 やや粘性弱い。FAブロックを多量に含む。
- 3 褐灰色土 粘性弱い。FAブロックを含む。

138号溝SZ

- 1 黒褐色土 粘性弱い。As-B含む。
- 2 褐灰色土 FAブロックを多量に含む。

第282図 71～85・89～96・98～100・134～138・143～145・497・498・527・528号溝実測図(4)

77号溝 (第279～282図、PL-68)

位置 690—680グリッド 走向 北→南 規模 幅0.18～0.32m、深さ0.01～0.04m、調査長3.94m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北よりに位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし

78号溝 (第279～282図、PL-67)

位置 695・700—685～700グリッド 走向 西→北東 規模 幅0.14～0.48m、深さ0.09～0.12m、調査長14.48m
 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 B区の北端部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし

79号溝 (第279～282図、PL-68)

位置 690・695—665～695グリッド 走向 西→東 規模 幅0.34～0.78m、深さ0.06～0.22m、調査長30.27m
 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 B区の北端部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。80・81・82・83・94・100溝との新旧関係不明であるが、ほぼ同時期の所産と考えられる。 遺物 なし

第2章 遺構と遺物

80号溝 (第279~282図、PL-68)

位置 690—690グリッド 走向 北→南 規模 幅0.35~0.62m、深さ0.01~0.03m、調査長5.68m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北西部に位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。79・86溝との新旧関係不明であるが、ほぼ同時期の所産であろう。
遺物 なし

81号溝 (第279~282図、PL-68)

位置 690・695—680グリッド 走向 北→南西 規模 幅0.26~0.70m、深さ0.06~0.12m、調査長8.92m
形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 B区の中央部やや北よりに位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。145溝との新旧関係不明であるが、ほぼ同時期の所産であろう。
遺物 なし

82号溝 (第279~282図、PL-68)

位置 690・695—675・680グリッド 走向 北→南 規模 幅0.26~0.48m、深さ0.06~0.10m、調査長4.88m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の中央部やや北よりに位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。79溝との新旧関係不明であるが、ほぼ同時期の所産と考えられる。
遺物 なし

83号溝 (第279~282図、PL-68)

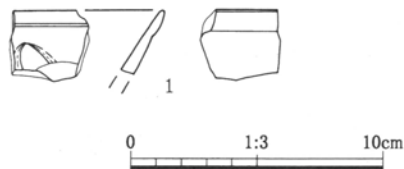
位置 695—670・675グリッド 走向 西→東 規模 幅0.48~0.73m、深さ0.07~0.09m、調査長8.18m
形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 B区の中央部やや北よりに位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。221土坑より、古い時期の所産と考えられる。
遺物 なし

84号溝 (第279~283図、PL-69)

位置 685—655、685・690—660、690—665~675グリッド
規模 幅0.42~1.53m、深さ0.01~0.13m、調査長23.98m
調査所見 B区の中央部やや北よりに位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。85溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の所産と考えられる。
遺物 1は青磁碗の口縁片。内外面に貫入あり。外面無文。内面鎊連弁文あり。

走向 西→東

形状 台形状の断面を呈する。



第283図 84号溝出土遺物

85号溝 (第279~282図、PL-69)

位置 685・690—675グリッド 走向 北→南西 規模 幅0.36~0.60m、深さ0.02~0.10m、調査長5.84m
形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 B区の中央部やや北よりに位置する、南北方向の溝である。84溝との新旧関係不明であるが、ほぼ同時期の所産と考えられる。
遺物 なし

86号溝 (第290～292図、PL-69)

位置 680・685—660・685、685・690—690～705グリッド 走向 西→東

規模 幅0.30～1.08m、深さ0.02～0.20m、調査長45.88m 形状 台形状の断面を呈する。

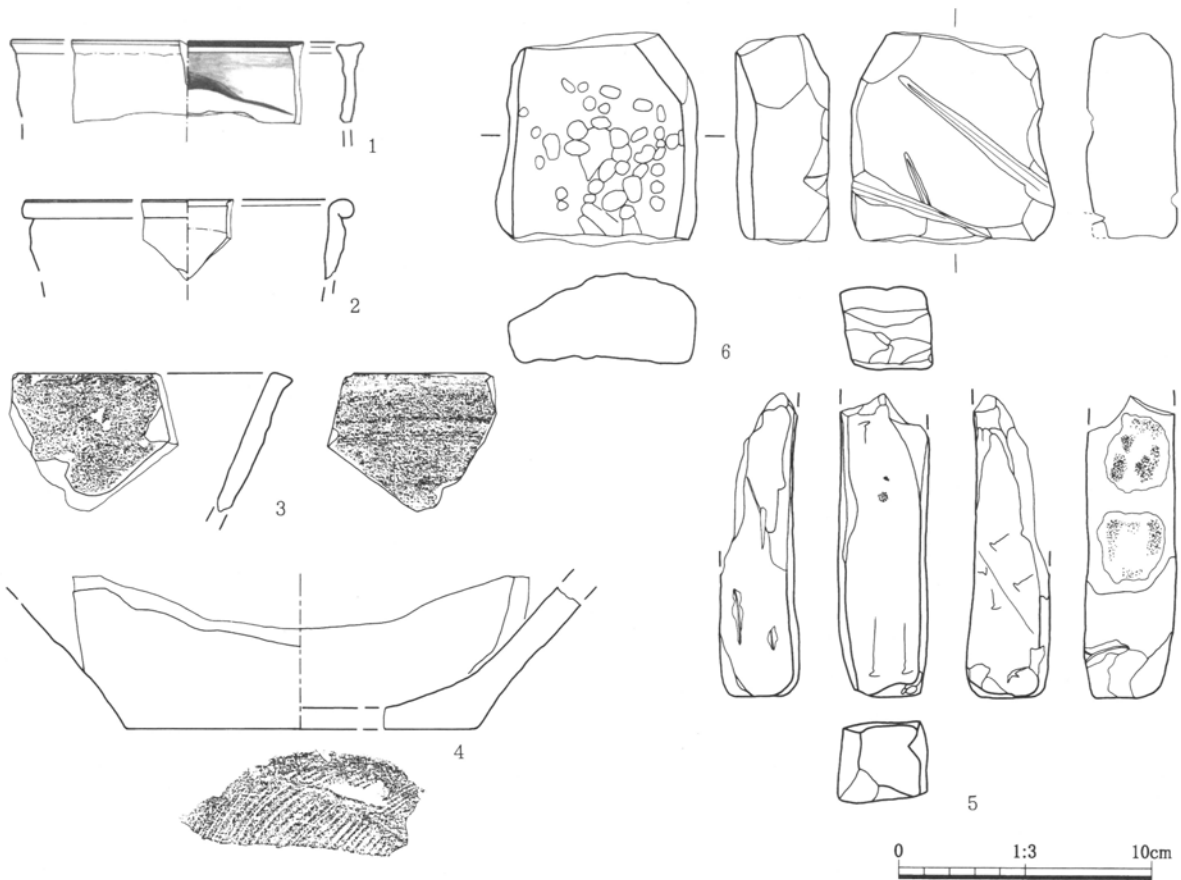
調査所見 B区の中央部やや北よりに位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。80・85溝との新旧関係不明。 遺物 なし

87号溝 (第284・290～292図、PL-69・70)

位置 680—645、675・680—650～665、680—670～685、680・685—690・695、660・680—700グリッド

走向 東→西/北→南 規模 幅0.47～2.69m、深さ0.07～0.29m、調査長84.66m

形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の中央部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。古い104溝を新しく作り直したのが、87溝であろう。その他の接している溝群との細かな新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の所産と考えられる。また、断面観察によると、224土坑に切られており、224土坑より古い時期の溝と思われる。上面からの溝に切られていて確証はないが、規模などから112溝との関連も考えておく必要がある。 遺物 1は陶器(器種不明)の口縁片。轆轤成形、外面鉄釉、内面拭き取りで、掛分け釉。瀬戸・美濃産で、18世紀前～中。2は陶器小型甕の口縁片。口縁部に鉄釉。産地は瀬戸・美濃。3は内耳鍋(軟質陶器)の口縁片。轆轤成形。口縁部面取り。4は播鉢(軟質陶器)の底部片。外面に指頭痕残る。内面摩耗。中世。5・6は砥石。5は流紋岩、6は転用砥石で、牛伏砂岩。その他、土師器・須恵器の破片が出土している。



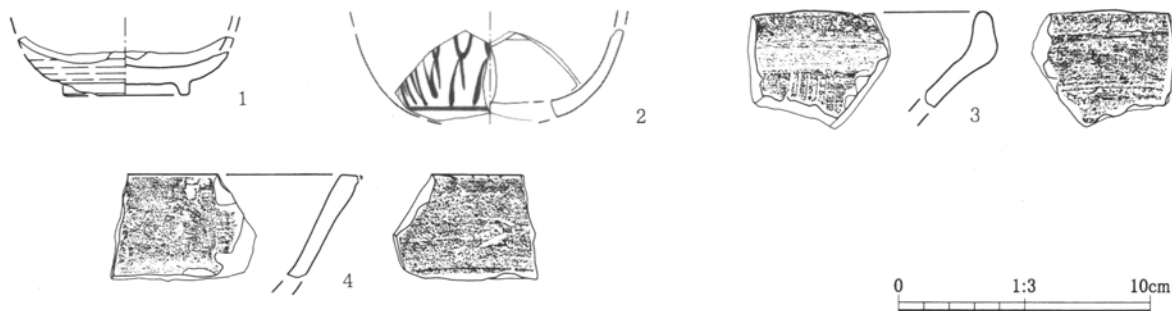
第284図 87号溝出土遺物

88号溝 (第285・290～292図、PL-69・70)

位置 675—665～675、675・680—680～695グリッド 走向 西→東

規模 幅0.48～1.22m、深さ0.06～0.25m、調査長33.24m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 B区の中央部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。102溝との新旧関係不明である。遺物 1は陶器碗の体～底部破片。底径5.0cm。外面鉄釉、内面灰釉の掛分け釉。瀬戸・美濃産で、18世紀前～中。2は陶器碗の体部片。外面網目文様。肥前産で、18世紀。3は播鉢の口縁片。焼き締め。丹波産。4は内耳鍋の口縁片。轆轤成形。



第285図 88号溝出土遺物

89号溝 (第279～282図、PL-70)

位置 700—675・680グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.27～0.48m、深さ0.10m、調査長8.10m

形状 丸底状の断面を呈する。調査所見 B区の中央北端部に位置する溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。144溝よりは古い時期の所産と考えられるが、219土坑との新旧関係は不明である。

遺物 なし

90号溝 (第279～282図、PL-71・72・80)

位置 690・695—635～650、695—655、695—660、695・700—665・670グリッド

走向 北西→南東 規模 幅0.62～1.40m、深さ0.17～0.57m、調査長44.60m

形状 丸底状の断面を呈する。調査所見 B区の北端部に位置する、ほぼ東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。平行して流れる、91・92・93・97・98溝との新旧関係は不明であるが、ほぼ同時期の使用された溝群であろう。洪水や大水などで埋没するたびに、新たに掘削された溝の一つと考えるのが自然であろう。遺物 なし

91号溝 (第279～282・286図、PL-71・72・80)

位置 690・695—635～645、695—650、695・700—655～665、700・705—670グリッド

走向 北西→南東 規模 幅0.54～1.16m、深さ0.25～0.38m、調査長39.00m

形状 丸底状の断面を呈する。調査所見 B区の北端部に位置する溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。96・137溝より古い時期の所産であるが、その他の接している溝群との新旧関係は不明である。90溝と同様に、洪水や大水などで埋没するたびに、新たに掘削された溝の一つと考えるのが自然であろうか。

遺物 1は「景德元寶」で、鑄造年代は北宋1,004年。遺存状況良好。



第286図 91号溝出土遺物

92号溝（第279～282図、PL-71～73）

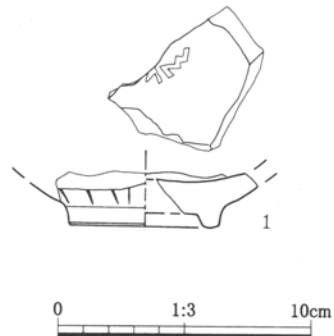
位置 695—635～645、695・700—650～660、700・705—665～670グリッド 走向 北西→南東
 規模 幅0.44～1.00m、深さ0.12～0.37m、調査長36.52m 形状 段堀状の断面を呈する。
 調査所見 B区の北端部に位置する、ほぼ東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。90・91溝と同じ性格と考えられる。 遺物 なし

93号溝（第279～282図、PL-71・73）

位置 705—660・665グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.22～0.47m、深さ0.04～0.11m、調査長4.48m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北端部に位置する溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。90・91・92・93溝と同じ性格の遺構と考えられる。 遺物 なし

94号溝（第279～282・287図、PL-71・73）

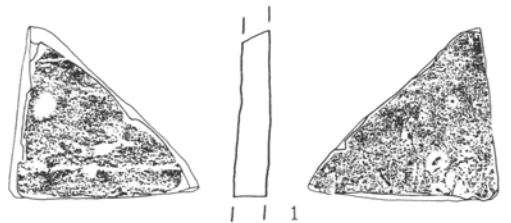
位置 700—635～655、700・705—660・665、695—665・670グリッド 走向 南→北／西→東 規模 幅0.32～0.67m、深さ0.17～0.34m、調査長39.32m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北端部に位置する溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。走向が南から北へ流下すると考えたが、詳細な性格は不明である。 遺物 1は青磁碗の底部片。底径6.0cm。外面連弁文、見込印花。産地は中国龍泉窯系で、13中～14世紀。



第287図 94号溝出土遺物

95号溝（第279～282・288図、PL-71・73）

位置 690—640～650、690・695—655、695—660～670グリッド 走向 北西→南東
 規模 幅0.54～0.82m、深さ0.09～0.22m、調査長30.22m 形状 丸底状の断面を呈する。
 調査所見 B区の北端部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。90・91・92・93溝と同じ性格の遺構と考えられる。
 遺物 1は陶器甕の体部片。外面鉄釉を施す。



第288図 95号溝出土遺物

第2章 遺構と遺物

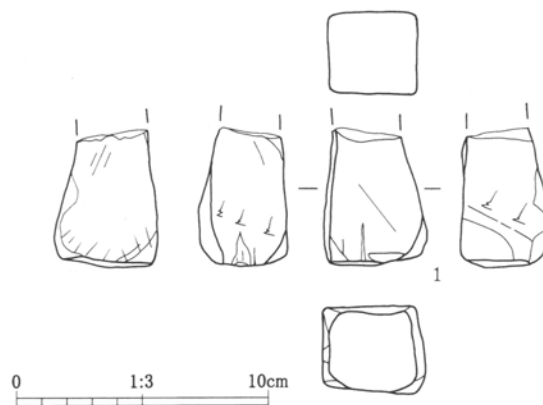
96号溝 (第279～282図、PL-74)

位置 685～700—650グリッド 走向 北→南

規模 幅0.34～1.06m、深さ0.08～0.39m、調査長15.17m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 B区の北端部に位置する、ほぼ南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。90・91・92・93・95溝等と同じ性格の遺構と考えられ、洪水や大水などで埋没するたびに、新たに掘削された溝の一つと考えるのが自然であろうか。

遺物 1は砥石。材は砥沢石。



第289図 96号溝出土遺物

98号溝 (第279～282図、PL-73・74)

位置 695～705—645グリッド 走向 北→南 規模 幅0.32～0.70m、深さ0.07～0.16m、調査長11.80m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 B区の東北端部に位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。134溝と同一の溝である可能性もある。92溝より新しい時期の所産であるが、その他の溝との新旧関係は不明。 遺物 なし

99号溝 (第279～282図、PL-74)

位置 695—645、700—640・645、705—640グリッド 走向 北東→南西 規模 幅0.30～0.65m、深さ0.14～0.29m、調査長9.68m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 B区の北東端に位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。91・94溝との新旧関係は不明である。 遺物 なし

100号溝 (第279～282図、PL-68)

位置 690—680グリッド 走向 北→南 規模 幅0.18～0.26m、深さ0.01～0.02m、調査長2.00m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 B区の北端部に位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。規模が小さく、79溝との新旧関係、性格の詳細は不明。 遺物 なし

101号溝 (第290～292図、PL-74)

位置 660—670・675、665～675—670グリッド 走向 北→南 規模 幅0.32～0.78m、深さ0.05～0.13m、調査長18.40m 形状 丸底状の断面を呈する。

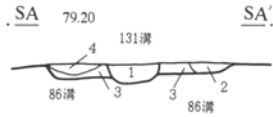
調査所見 B区の中央部に位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。87溝から分岐して、南へ流下する。87溝との新旧関係は不明であるが、同時期の溝である可能性が高い。 遺物 なし

102号溝 (第290～292図、PL-74)

位置 655～675—675グリッド 走向 北→南 規模 幅0.34～1.02m、深さ0.04～0.13m、調査長22.57m 形状 丸底状の断面を呈する。

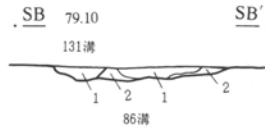
調査所見 B区中央部に位置する、南北方向の溝である。88溝との新旧関係は不明である。222土坑よりは新しい時期の所産と考えられる。 遺物 なし

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



86・131号溝SA

- 1 暗褐色土 As-Bを多量に含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり。As-Bを多量に含む。酸化鉄分斑状にあり。
- 3 暗褐色土 粘性あり。酸化鉄分斑状にあり。
- 4 黄褐色土 FA粒含む。



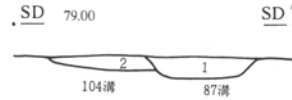
86・131号溝SB

- 1 黒色土 As-B混土。粘性弱い。
- 2 黒褐色土 As-Bを含む。粘性あり。



131号溝SC

- 1 褐灰色土 粘性強い。酸化鉄分斑状にあり。
- 2 褐灰色土 粘性強い。FA粒を含む。
- 3 にぶい黄褐色土 粘性弱い。



87・104号溝SD

- 1 黒褐色土 FAブロックを含む。粘性弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 粘性弱い。FA粒を僅かに含む。



87号溝SE

- 1 褐灰色土 粘性あり。FA粒、白色鈳粒を含む。
- 2 黒褐色土 FA粒、白色鈳粒を含む。
- 3 褐灰色土 As-Bを多量に含む。粘性弱い。
- 4 黄褐色土 粘性あり。FA粒を斑点状に含む。



87号溝SF

- 1 褐灰色土 粘性ややあり。FAブロックを含む。



88号溝SG

- 1 黄褐色土 粘性あり。白色鈳粒を含む。酸化鉄分の斑点あり。
- 2 褐灰色土 粘性あり。FAブロックを含む。



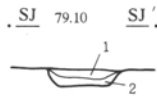
88号溝SH

- 1 褐灰色土 FAブロックを多量に含む。



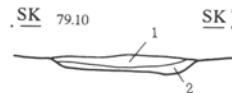
101・102号溝SI

- 1 灰黄褐色土 粘性あり。白色鈳粒を含む。
- 2 黒褐色土 粘性あり。FA粒、白色鈳粒を含む。
- 3 黒褐色土 粘性あり。FA粒を含む。



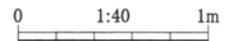
103号溝SJ

- 1 暗褐色土 As-Bを含む。
- 2 暗褐色土 As-B、FA粒を含む。



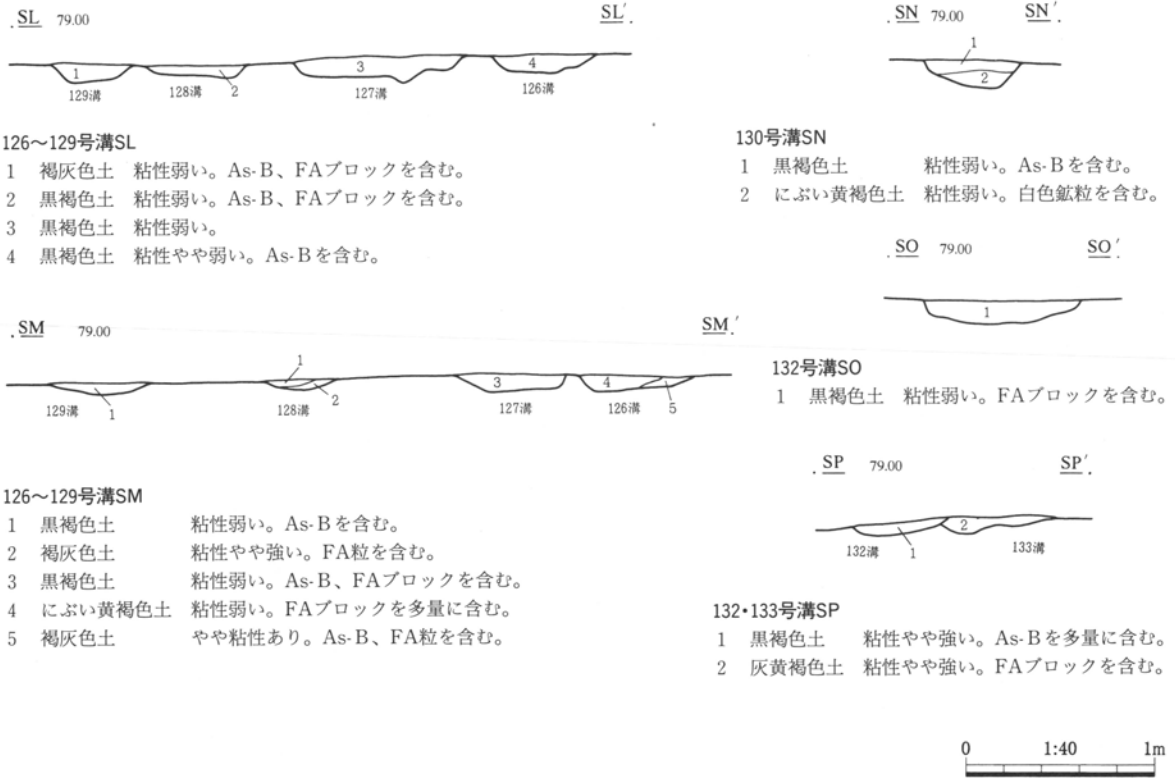
104号溝SK

- 1 にぶい黄褐色土 FA粒を含む。粘性弱い。
- 2 黒褐色土 粘性あり。白色鈳粒を僅かに含む。



第291図 86～88・101～104・126～133号溝実測図(2)

第2章 遺構と遺物



126～129号溝SL

- 1 褐灰色土 粘性弱い。As-B、FAブロックを含む。
- 2 黒褐色土 粘性弱い。As-B、FAブロックを含む。
- 3 黒褐色土 粘性弱い。
- 4 黒褐色土 粘性やや弱い。As-Bを含む。

130号溝SN

- 1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 2 におい黄褐色土 粘性弱い。白色鈳粒を含む。

126～129号溝SM

- 1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 2 褐灰色土 粘性やや強い。FA粒を含む。
- 3 黒褐色土 粘性弱い。As-B、FAブロックを含む。
- 4 におい黄褐色土 粘性弱い。FAブロックを多量に含む。
- 5 褐灰色土 やや粘性あり。As-B、FA粒を含む。

132号溝SO

- 1 黒褐色土 粘性弱い。FAブロックを含む。

132・133号溝SP

- 1 黒褐色土 粘性やや強い。As-Bを多量に含む。
- 2 灰黄褐色土 粘性やや強い。FAブロックを含む。

第292図 86～88・101～104・126～133号溝実測図(3)

103号溝 (第290～292図、PL-75)

位置 680—665—680グリッド 走向 西→東 規模 幅0.24～0.78m、深さ0.04～0.11m、調査長15.75m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の中央部やや北よりに位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし

104号溝 (第290～292図、PL-75)

位置 665～675—700、680・685—705・710グリッド 走向 北西→南 規模 幅0.33～0.87m、深さ0.04～0.08m、調査長22.42m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 B区の西寄りに位置する溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。87溝よりも古い時期の所産と考えられる。 遺物 なし

105号溝 (第238図、PL-75)

位置 675—700～710グリッド 走向 東→西 規模 幅0.42～0.67m、深さ0.04～0.11m、調査長7.83m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の西端に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。87・106溝との新旧関係不明。106溝に合流する。 遺物 なし

106号溝 (第238図、PL-75)

位置 660—705、665～675—700・705グリッド 走向 北→南 規模 幅0.32～1.10m、深さ0.03～0.09m、調査長16.72m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の西端に位置する、南北方向

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。105溝との新旧関係は不明。形状から、南部の111溝と同一の溝である可能性が考えられる。 遺物 なし

107号溝（第238図、PL-75）

位置 660～670—705グリッド 走向 北→南西 規模 幅0.12～0.36m、深さ0.02～0.03m、調査長11.36m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の西端に位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし

110号溝（第238図、PL-75）

位置 655—705・710グリッド 走向 西→東 規模 幅0.46～0.56m、深さ0.20～0.23m、調査長5.10m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の西端やや南寄りに位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。109溝との新旧関係不明。111溝よりは古い時期の所産と思われる。 遺物 なし

111号溝（第238図、PL-76）

位置 650・655—705・710グリッド 走向 北→南 規模 幅0.52～1.15m、深さ0.02～0.10m、調査長21.74m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の南西端部に位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。110・114溝より新しく、115溝よりは古い時期の所産である。 遺物 なし

112号溝（第238図、PL-76・77）

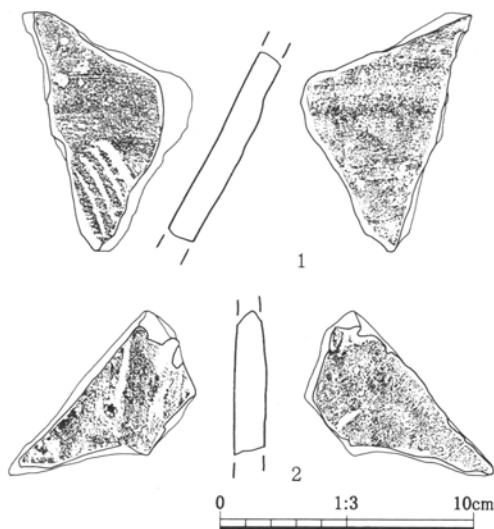
位置 635—710、640・645—705・710、650・655—705グリッド 走向 北→南
規模 幅0.48～0.74m、深さ0.05～0.11m、調査長22.72m 形状 丸底状の断面を呈する。
調査所見 B区の南西端に位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。114溝より新しい時期の所産である。113溝と、ほぼ同時期の溝であろう。
遺物 なし

113号溝（第293・294図、PL-77・78）

位置 640—645、640・645—650～675、645・650—680、650—685～705、グリッド 走向 西→東
規模 幅0.20～1.15m、深さ0.03～0.12m、調査長63.02m
形状 段堀状の断面を呈する。

調査所見 B区の南部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。112・119・121溝との新旧関係不明。230土坑より新しい時期の所産と考えられる。

遺物 1は播鉢の体部片で、中世後半。2は陶器大甕の体部片で、外面に鉄釉を施す。95溝-2の陶器と同質のものである。



第293図 113号溝出土遺物

第2章 遺構と遺物

114号溝 (第238図、PL-76)

位置 645—705・710グリッド 走向 西→東 規模 幅0.31～0.80m、深さ0.08～0.33m、調査長4.70m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の西南よりに位置する、東西方向の溝である。109溝との新旧関係は不明であるが、111・112溝より古い時期の所産である。 遺物 なし

115号溝 (第238図、PL-76)

位置 640—710グリッド 走向 西→東 規模 幅0.70m、深さ0.18m、調査長2.60m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の南西端に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。111溝よりも新しい時期の所産である。 遺物 なし

116号溝 (第238図、PL-77)

位置 655—705グリッド 走向 北→南東 規模 幅0.36m、深さ0.02～0.04m、調査長2.58m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の南西部に位置する小溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし

117号溝 (第238図、PL-77)

位置 655—705グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.36m、深さ0.07m、調査長1.10m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区南西部に位置する小溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし

118号溝 (第238図、PL-77)

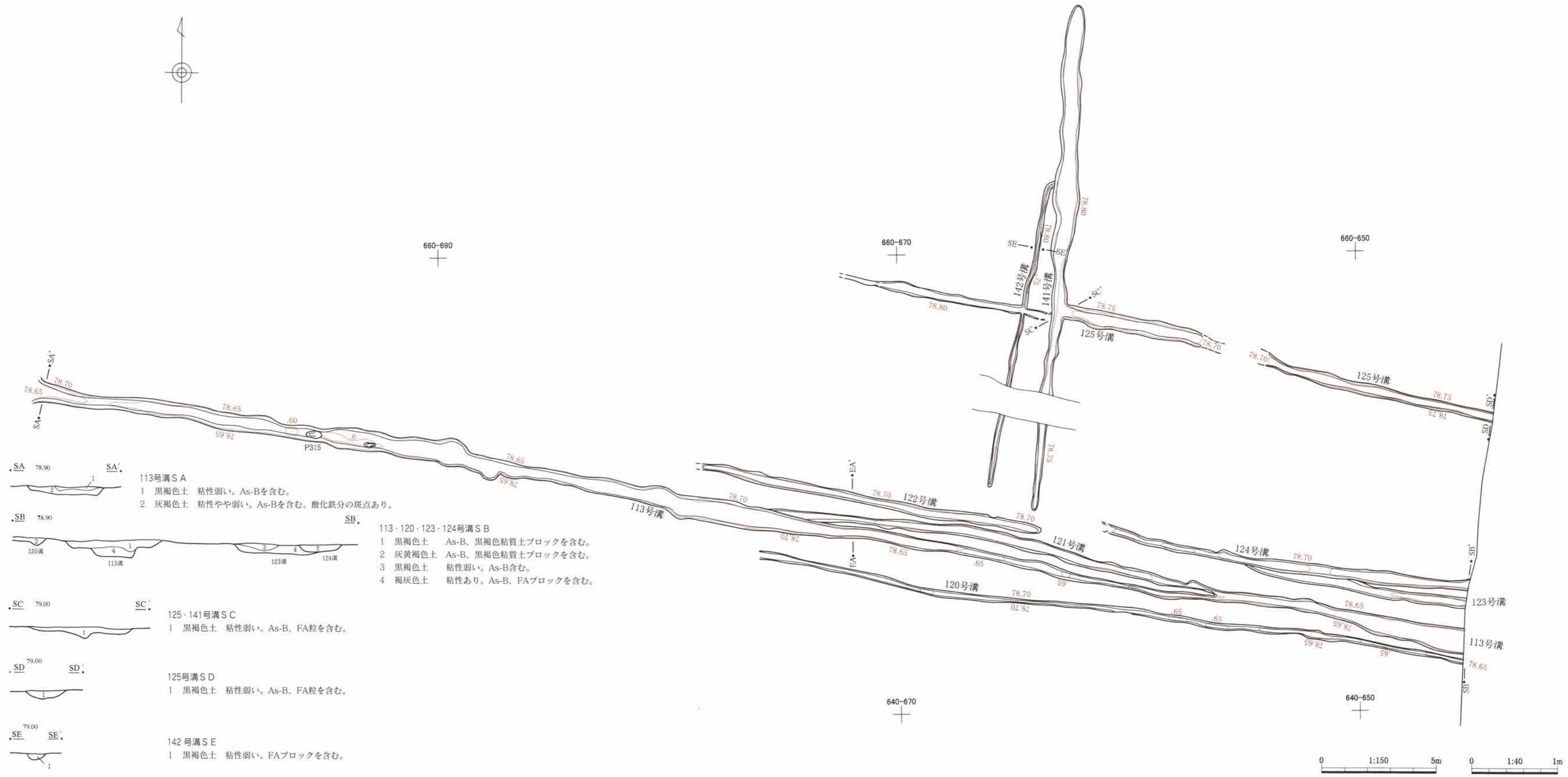
位置 655—700グリッド 走向 西北→南東 規模 幅0.30m、深さ0.05～0.06m、調査長3.60m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区南西部に位置する小溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし

119号溝 (第238図、PL-77)

位置 645・650—685・690、650・655—695、655—700グリッド 走向 北西→南東
規模 幅0.20～0.40m、深さ0.02～0.04m、調査長20.34m 形状 丸底状の断面を呈する。
調査所見 B区の南西部に位置する小溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。
遺物 なし

120号溝 (第294図、PL-78)

位置 640—645～660、640・645—665、645—670・675グリッド 走向 西→東
規模 幅0.15～0.42m、深さ0.01～0.08m、調査長30.57m 形状 丸底状の断面を呈する。
調査所見 B区の南部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。236・237土坑より古い時期の所産である。 遺物 なし



SA 78.90 SA'

113号溝 S A
 1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
 2 灰褐色土 粘性やや弱い。As-Bを含む。酸化鉄分の斑点あり。

SB 78.90 SB'

113・120・123・124号溝 S B
 1 黒褐色土 As-B、黒褐色粘質土ブロックを含む。
 2 灰黄褐色土 As-B、黒褐色粘質土ブロックを含む。
 3 黒褐色土 粘性弱い。As-B含む。
 4 褐灰色土 粘性あり。As-B、FAブロックを含む。

SC 79.00 SC'

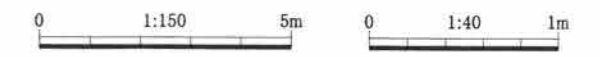
125・141号溝 S C
 1 黒褐色土 粘性弱い。As-B、FA粒を含む。

SD 79.00 SD'

125号溝 S D
 1 黒褐色土 粘性弱い。As-B、FA粒を含む。

SE 79.00 SE'

142号溝 S E
 1 黒褐色土 粘性弱い。FAブロックを含む。



第294図 133・120～125・141・142号溝実測図(1)

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

121号溝（第294図、PL-78）

位置 645—655～675グリッド 走向 西→東 規模 幅0.20～0.55m、深さ0.04～0.08m、調査長19.30m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の南部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。113溝との新旧関係は不明。 遺物 なし

122号溝（第294図、PL-78）

位置 645—660・655、645・650—670・675グリッド 走向 西→東 規模 幅0.24～0.48m、深さ0.03～0.05m、調査長14.72m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の南部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。 遺物 なし

123号溝（第294図、PL-78）

位置 640・645—645、645—650グリッド 走向 西→東 規模 幅0.35～0.48m、深さ0.01～0.04m、調査長9.46m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の南部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。124溝より新しい時期の所産である。 遺物 なし

124号溝（第294図、PL-78）

位置 645—645～660グリッド 走向 西→東 規模 幅0.28～0.62m、深さ0.02～0.06m、調査長15.60m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の南部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。123溝より古い時期の所産である。 遺物 なし

125号溝（第294図、PL-78）

位置 650—640・645、650—655、655—655～670グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.28～0.80m、深さ0.06～0.11m、調査長28.74m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の東南部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。126溝よりも古い時期の所産と考えられるが、127・128・129・141・142溝との新旧関係不明。しかし、ほぼ同時期の所産と考えたい。 遺物 なし

126号溝（第290～292図、PL-79）

位置 650～670—650グリッド 走向 北→南 規模 幅0.34～0.66m、深さ0.07～0.14m、調査長17.52m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の中央部やや東寄りに位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。125溝より、若干新しいと考えられるが、ほぼ同時期の所産と考えられる。 遺物 なし

127号溝（第290～292図、PL-79）

位置 650～680—650グリッド 走向 北→南 規模 幅0.25～0.86m、深さ0.04～0.29m、調査長27.04m 形状 段堀状の断面を呈する。 調査所見 B区の中央部東寄りに位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。125・130・131・132溝との新旧関係は不明である。 遺物 なし

第2章 遺構と遺物

128号溝 (第290～292図、PL-79)

位置 650・655—655、660・665—650・655、670—650グリッド 走向 北→南

規模 幅0.25～0.54m、深さ0.06～0.09m、調査長20.90m 形状 台形状の断面を呈する。

調査所見 B区の中央部東寄りに位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。125・130・131溝との新旧関係は不明である。 遺物 なし

129号溝 (第290～292図、PL-79)

位置 650～660—655、665・670—650・655グリッド 走向 北→南

規模 幅0.32～0.62m、深さ0.03～0.08m、調査長17.42m 形状 台形状の断面を呈する。

調査所見 B区の中央部やや東寄りに位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。125・130溝との新旧関係は不明。 遺物 なし

130号溝 (第290～292図、PL-79)

位置 665・670—645、670—650・655グリッド 走向 西→東 規模 幅0.37～0.73m、深さ0.07～0.13m、調査長12.10m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の中央部やや東寄りに位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。127・128・129・131溝との新旧関係は不明であるが、状況からほぼ同時期の所産であろう。 遺物 なし

131号溝 (第290～292図、PL-79)

位置 665—645・650、670—650・655、675—655・660、680—670、680・685—660・665、685—680グリッド 走向 西→南東 規模 幅0.20～0.70m、深さ0.04～0.07m、調査長60.13m

形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 B区の中央部やや北よりに位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。86溝と同じ流路をとりながら東へ流下し、その後南東へ分岐していく。86溝より新しい時期の所産と考えられる。87・127・128・130溝とは新旧不明である。 遺物 なし

132号溝 (第290～292図、PL-79・80)

位置 670・675—645・650、680—650グリッド 走向 西→東 規模 幅0.46～0.60m、深さ0.02～0.13m、調査長15.00m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の中央部やや東寄りに位置する小溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。87溝から分岐して、南東へ流下する。87・127溝は、ほぼ同時期の溝と考えられる。133溝よりは、新しい時期の所産であろう。 遺物 なし

133号溝 (第290～292図、PL-80)

位置 675—640・645グリッド 走向 東→西 規模 幅0.36～0.67m、深さ0.03～0.09m、調査長7.04m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の東端に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。132溝・482土坑より古い時期の所産と考えられる。 遺物 なし

134号溝 (第279～282図、PL-80)

位置 680～690—650グリッド 走向 北→南 規模 幅0.21～0.48m、深さ0.09～0.19m、調査長8.50

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 B区の北端部に位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。87溝との新旧関係は不明であるが、135溝より古い時期の所産と考えられる。
遺物 なし

135号溝（第279～282図、PL-80）

位置 685—640～650グリッド 走向 西→東 規模 幅0.36～0.58m、深さ0.03～0.16m、調査長8.63m
m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北東部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。134溝よりも新しい時期の所産である。136溝との新旧関係は不明。
遺物 なし

136号溝（第279～282図、PL-80）

位置 685—640・645グリッド 走向 西→東 規模 幅0.43～0.81m、深さ0.17～0.23m、調査長6.30m
m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北東部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。135溝との新旧関係は不明である。 遺物 なし

137号溝（第279～282図、PL-74）

位置 690・695—650、700—645・650グリッド 走向 北→南 規模 幅0.32～0.48m、深さ0.11～0.17m、調査長8.84m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北東部に位置する、南北方向の溝である。耕作に伴う溝と考えられる。90・92・95溝との新旧関係不明。91溝よりは新しく、216土坑よりは古い時期の所産である。 遺物 なし

138号溝（第279～282図、PL-80）

位置 695—650・655、695・700—660・665グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.32～0.57m、深さ0.05～0.11m、調査長15.78m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北端部に位置する、東西方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。91・96溝との新旧関係不明。
遺物 なし

141号溝（第294図、PL-78・81）

位置 645～670—660グリッド 走向 北→南 規模 幅0.24～1.18m、深さ0.02～0.06m、調査長22.20m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の中央やや東寄りに位置する、南北方向の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。125溝とほぼ同時期の所産と考えられる。
遺物 なし

142号溝（第294図、PL-81）

位置 645～655—660・665、660—660グリッド 走向 北→南 規模 幅0.13～0.29m、深さ0.01～0.09m、調査長13.54m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の中央やや東寄りに位置する、南北の溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。125溝との新旧関係不明。 遺物 なし

第2章 遺構と遺物

143号溝 (第279～282図、PL-81)

位置 720—680、725—680・685、700・705—680グリッド 走向 北→南

規模 幅0.24～0.46m、深さ0.04～0.14m、調査長6.40m(B区)、6.74m(C区)

形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北端部に位置する、南北方向の溝である。道路を挟んで、C区から南へ流下してくる溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。74溝より古い時期の所産と考えられる。 遺物 なし

144号溝 (第279～282図、PL-81)

位置 720—680、700・705—680グリッド 走向 北→南 規模 幅0.26～0.55m、深さ0.04～0.11m、

調査長6.24m(B区)、2.90m(C区) 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北端部に位置

する、南北方向の溝である。道路を挟んで、C区から南へ流下してくる溝である。水田耕作に伴う溝と考えられる。89溝より新しい時期の所産と考えられる。 遺物 なし

145号溝 (第279～282図、PL-81)

位置 695—675、700—680グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.30～0.54m、深さ0.07～0.12m、

調査長6.18m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北端部に位置する、東西方向の溝で

ある。水田耕作に伴う溝と考えられる。81溝との新旧関係不明。 遺物 なし

497号溝 (第279～282図、PL-71)

位置 700—665・670、705—670グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.36～0.84m、深さ0.06～0.15

m、調査長9.00m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 B区の北端部に位置する、東西方向の

溝である。水田に伴う溝と考えられる。90・91・92溝との新旧関係不明。 遺物 なし

498号溝 (第279～282図、PL-71)

位置 700・705—670・675グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.31～0.60m、深さ0.07～0.19m、

調査長5.76m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 B区の北端部に位置する、東西方向の溝で

ある。水田耕作に伴う溝と考えられる。90溝との新旧関係不明。 遺物 なし

527号溝 (第279～282図)

位置 700—635・640グリッド 走向 西→東 規模 幅0.47m、深さ0.11～0.20m、調査長3.00m

形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北東端に位置する、東西方向の溝である。528溝との新

旧関係不明。 遺物 なし

528号溝 (第279～282図)

位置 695—705—635グリッド 走向 北→南 規模 幅0.23～0.40m、深さ0.11～0.19m、調査長7.91

m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 B区の北東端に位置する、南北方向の溝である。94・

527溝との新旧関係不明。13耕作痕より新しい時期の溝であろう。 遺物 なし

C区の溝

1号溝（第297・298図、PL-82）

位置 745—640・645、750—645・650、755—655・660グリッド 走向 北西→南東
 規模 幅0.65～0.90m、深さ0.05～0.15m、調査長21.98m 形状 なべ底状の断面を呈する。
 調査所見 C区の中央やや東寄りに位置する溝である。2溝との新旧関係不明。 遺物 なし

2号溝（第297・298図、PL-82）

位置 755—655・660、760—660、765・770—655・660グリッド 走向 北→南
 規模 幅0.66～2.20m、深さ0.03～0.11m、調査長19.98m 形状 なべ底状の断面を呈する。
 調査所見 C区の中央部に位置する、南北方向の溝である。1溝との新旧関係不明。 遺物 なし

3号溝（第300図、PL-82・83）

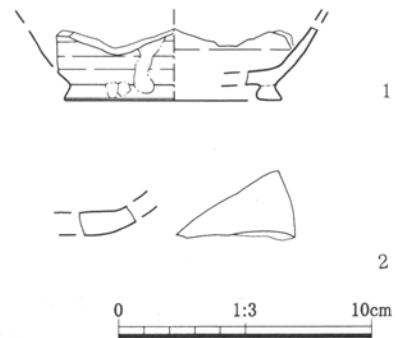
位置 725—635～655、725・730—660～690グリッド 走向 西→東 規模 幅0.80～1.63m、深さ
 0.27～0.52m、調査長59.96m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 C区の南部に位置する、東
 西方向の溝である。6・7溝との新旧関係不明。 遺物 なし

4号溝（第300図）

位置 715～725—655・660グリッド 走向 東→西/北→南 規模 幅0.55～1.43m、深さ0.02～0.15
 m、調査長10.60m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 C区の南端部に位置する溝である。
 不規則な流路を呈しており、水田区画に沿った水みち的な性格が予想される。 遺物 なし

5号溝（第295・300図、PL-82・83）

位置 725—665～680グリッド 走向 西→東
 規模 幅0.37～0.57m、深さ0.06～0.17m、調査長16.16m
 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 C区の南端部
 に位置する、東西方向の溝である。6溝・425土坑より古い時
 期の所産である。 遺物 1は灰釉陶器瓶の体～底部破片。
 底径8.6cm。外面釉葉が流れている。東美濃産で、平安時代。
 2は中国青磁の体部片。胎土は白色、黒色粒子を含有する。
 龍泉窯系で、中世段階。



第295図 5号溝出土遺物

6号溝（第300図、PL-82・83）

位置 720—665・670、720・725—675～685グリッド 走向 北東→南東/西→東
 規模 幅0.26～0.90m、深さ0.02～0.14m、調査長23.26m 形状 丸底状の断面を呈する。
 調査所見 C区の南端部に位置する、ほぼ東西方向の溝である。不規則な流路を呈しており、水田区画内の
 水みち的な性格が予想される。143溝より新しいが、3・7溝との新旧は不明である。 遺物 なし

7号溝 (第300図、PL-82・83)

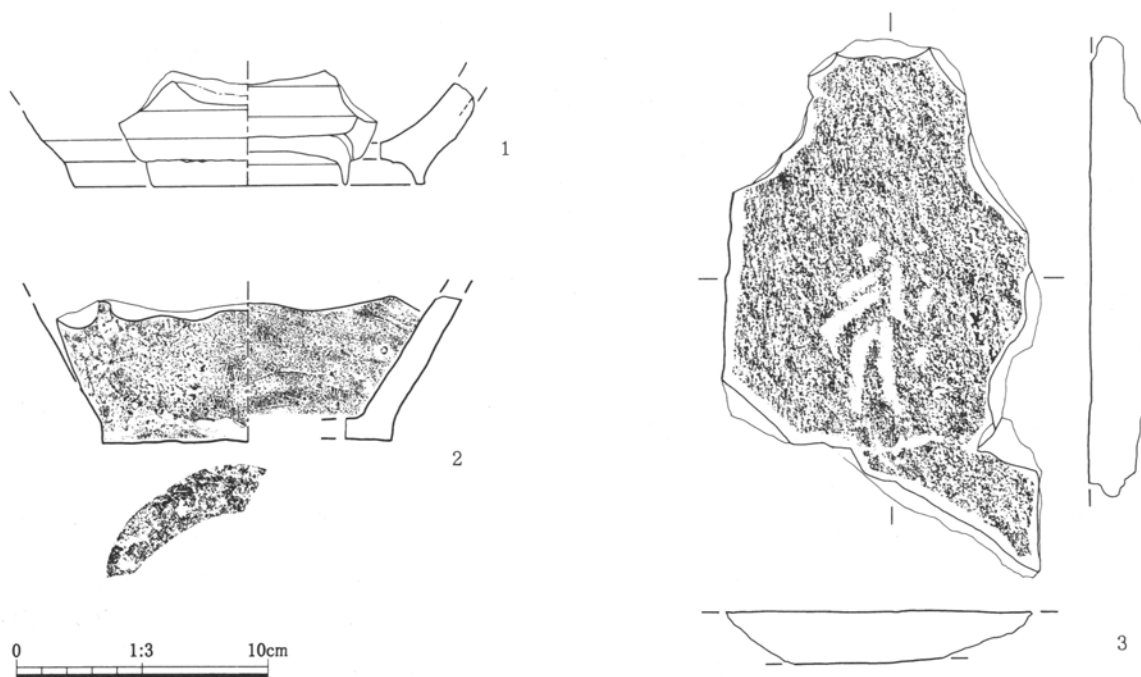
位置 720—665～685、725—680・685グリッド 走向 北東→南・南東 規模 幅0.22～1.19m、深さ0.01～0.09m、調査長25.82m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 C区の南端部に位置する溝である。途中で分岐する不規則な流路を呈する。 遺物 なし

8号溝 (第297・298図、PL-83～85)

位置 735—635、740—635～645、745—645・650、750—650～660、755—660・665、760—665・670、765—670・675、770—670～680、775—675～685、780・785—685・690、790—690グリッド
走向 北西→南東 規模 幅0.77～1.40m、深さ0.07～0.36m、調査長84.00m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 C区の中央部を、北西から南東へ流下する溝である。9溝よりも新しい時期の所産と考えられる。底部から溝を掘った時のものと思われる、工具痕が連続して検出できた。上幅10～20cmほどで、下幅は若干小さくなる。手鋤・鋤のような工具痕か。 遺物 馬歯出土 (P-1,016参照)。

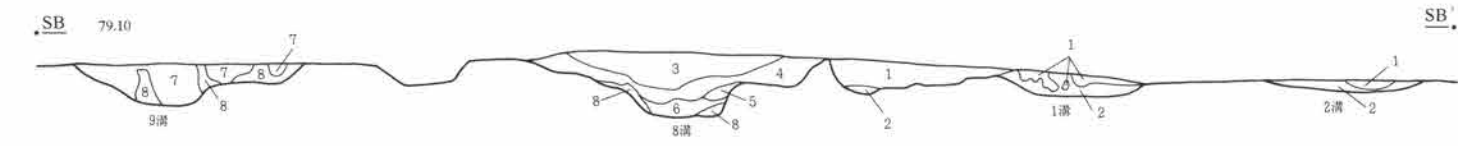
9号溝 (第296～298図、PL-83～85)

位置 730—635、735—635・640、740—640～650、745—650～660、750—655～665、760—665・670、765—670・675、770—675～685、775—680・685、780—685・690、785・790—690グリッド
走向 北西→南東 規模 幅0.53～1.62m、深さ0.07～0.33m、調査長82.48m
形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 C区の中央部を、北西から南東へ流下する。直線的な流路から、用水路としての機能が考えられる。埋土の堆積状況から、8溝より古い時期の所産と考えられる。
遺物 1は焼締陶器の片口鉢の底部片。底径14.0cm。轆轤目が残り、内面一部に自然釉あり。産地は知多で、13世紀代か。2は焼締陶器壺の底部片。底径11.4cm。産地は知多で、中世。3は板碑。緑色片岩。梵字キリクが刻まれている。



第296図 9号溝出土遺物

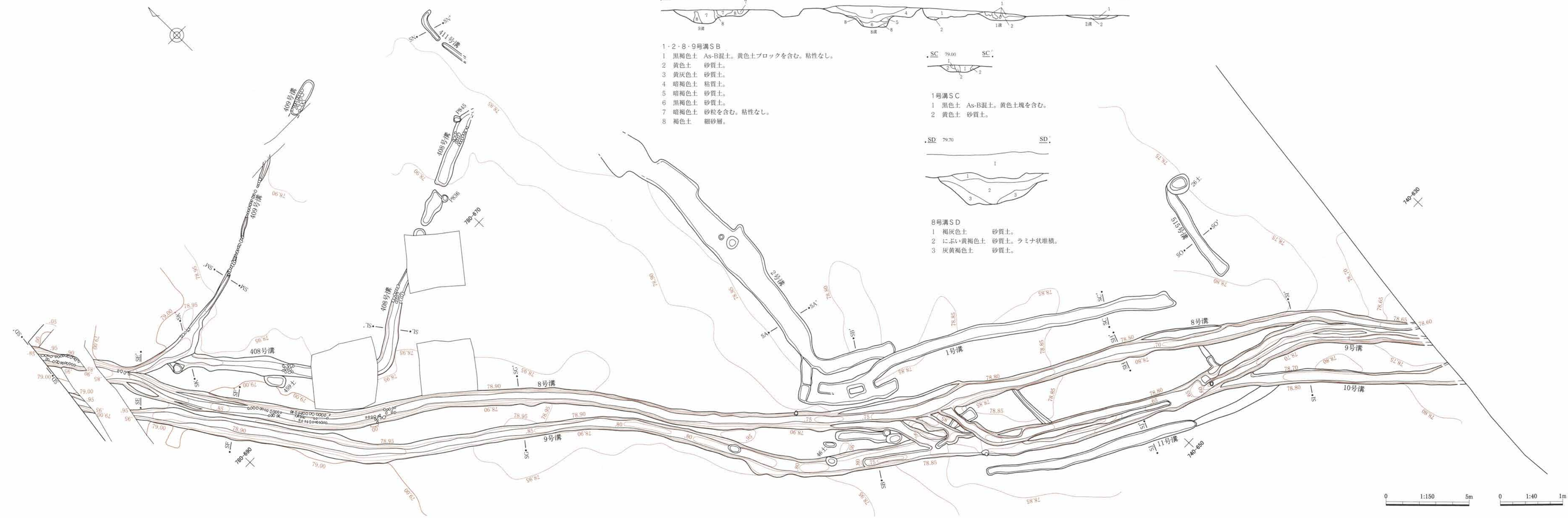
2号溝 SA
 1 黒褐色土 As-Bを少量含む。粘性なし。
 2 黄色土 砂質土。



1・2・8・9号溝 SB
 1 黒褐色土 As-B混土。黄色土ブロックを含む。粘性なし。
 2 黄色土 砂質土。
 3 黄灰色土 砂質土。
 4 暗褐色土 粘質土。
 5 暗褐色土 砂質土。
 6 黒褐色土 砂質土。
 7 暗褐色土 砂粒を含む。粘性なし。
 8 褐色土 細砂層。

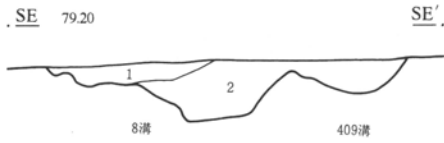
1号溝 SC
 1 黒色土 As-B混土。黄色土塊を含む。
 2 黄色土 砂質土。

8号溝 SD
 1 褐灰色土 砂質土。
 2 にぶい黄褐色土 砂質土。ラミナ状堆積。
 3 灰黄褐色土 砂質土。



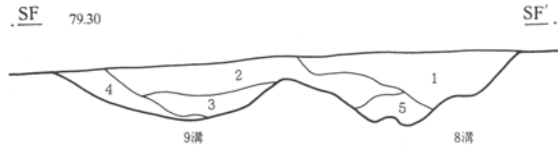
第297図 1・2・8～11・408・409・411・515号溝実測図(1)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



8・409号溝SE

- 1 褐灰色土 砂質土。
- 2 褐灰色土 砂質土。ラミナ状堆積。



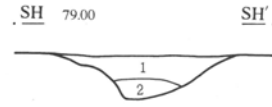
8・9号溝SF

- 1 灰黄褐色土 砂質土。ラミナ状堆積。
- 2 褐灰色土 やや粘性あり。As-Bを若干含む。
- 3 褐灰色土 やや粘性あり。黄褐色小ブロックを含む。
- 4 黄褐色土 砂質土。褐灰色小ブロックを含む。
- 5 褐灰色土 砂質土。ラミナ状堆積。



8・9号溝SG

- 1 褐灰色土 やや粘性あり。黄褐色小ブロックを含む。
- 2 灰黄褐色土 砂質土。
- 3 褐灰色土 砂質土。



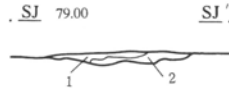
8号溝SH

- 1 褐灰色土 粘性なし。
- 2 黒褐色土 砂質土。



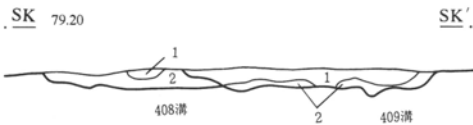
8・9・10号溝SI

- 1 暗褐色土 砂粒を含む。
- 2 褐色土 砂質土。
- 3 褐灰色土 軽石を含む。粘性なし。



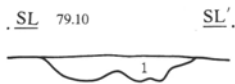
11号溝SJ

- 1 黒褐色土 粘性なし。砂質土を含む。
- 2 褐色土 細砂層。



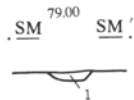
408・409号溝SK

- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。黄褐色土ブロックを含む。
- 2 黄褐色土 灰黄褐色土ブロックを含む。



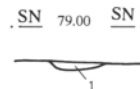
408号溝SL

- 1 黒褐色土 黄褐色土ブロックを含む。粘性弱い。



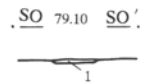
409号溝SM

- 1 黒褐色土 黄褐色土ブロックを含む。粘性弱い。



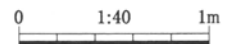
411号溝SN

- 1 灰黄褐色土 砂質土。黄褐色ブロックを含む。



515号溝SO

- 1 黄褐色土 砂質土。



第298図 1・2・8～11・408・409・411・515号溝実測図(2)

第2章 遺構と遺物

10号溝 (第297・298図、PL-84・85)

位置 730・735—635～645、740—640・645グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.66～1.25m、深さ0.14～0.20m、調査長13.00m 形状 台形状の断面を呈する。 調査所見 C区の東南部に位置する溝である。9溝から分岐しており、同時期の所産と思われる。 遺物 なし

11号溝 (第297・298図、PL-84・86)

位置 740—645～655、745—655グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.45～0.76m、深さ0.03～0.09m、調査長12.90m 形状 不定形な形状を呈する。 調査所見 C区の南東部に位置する溝である。9溝と平行して、南東へ流下している。9溝と同じ性格を持つ溝であろう。 遺物 なし

12号溝 (第300図、PL-84・86)

位置 735—640～650、740—650グリッド 走向 北西→南東 規模 幅0.35～0.84m、深さ0.01～0.10m、調査長12.15m 形状 不定形な断面を呈する。 調査所見 C区の南東部に位置する溝である。9・10・11溝と平行するように、南東へ流下しており、一連の同じ性格を持つ溝である。

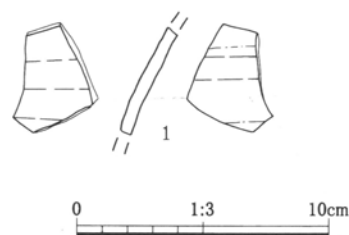
遺物 なし

13号溝 (第299・300図、PL-84)

位置 730～740—655グリッド 走向 北東→南東/北→南 規模 幅0.40～0.72m、深さ0.02～0.11m、調査長10.84m 形状 なべ底状の断面を呈する。

調査所見 C区の南部に位置する、不規則な流路を呈しており、水田区画内の水みち的な性格が予想される。

遺物 1は灰釉陶器瓶類の体部片。



第299図 13号溝出土遺物

14号溝 (第301図、PL-86)

位置 760—670・675、755—675・680、760—680・685、765—685・690、770—690グリッド

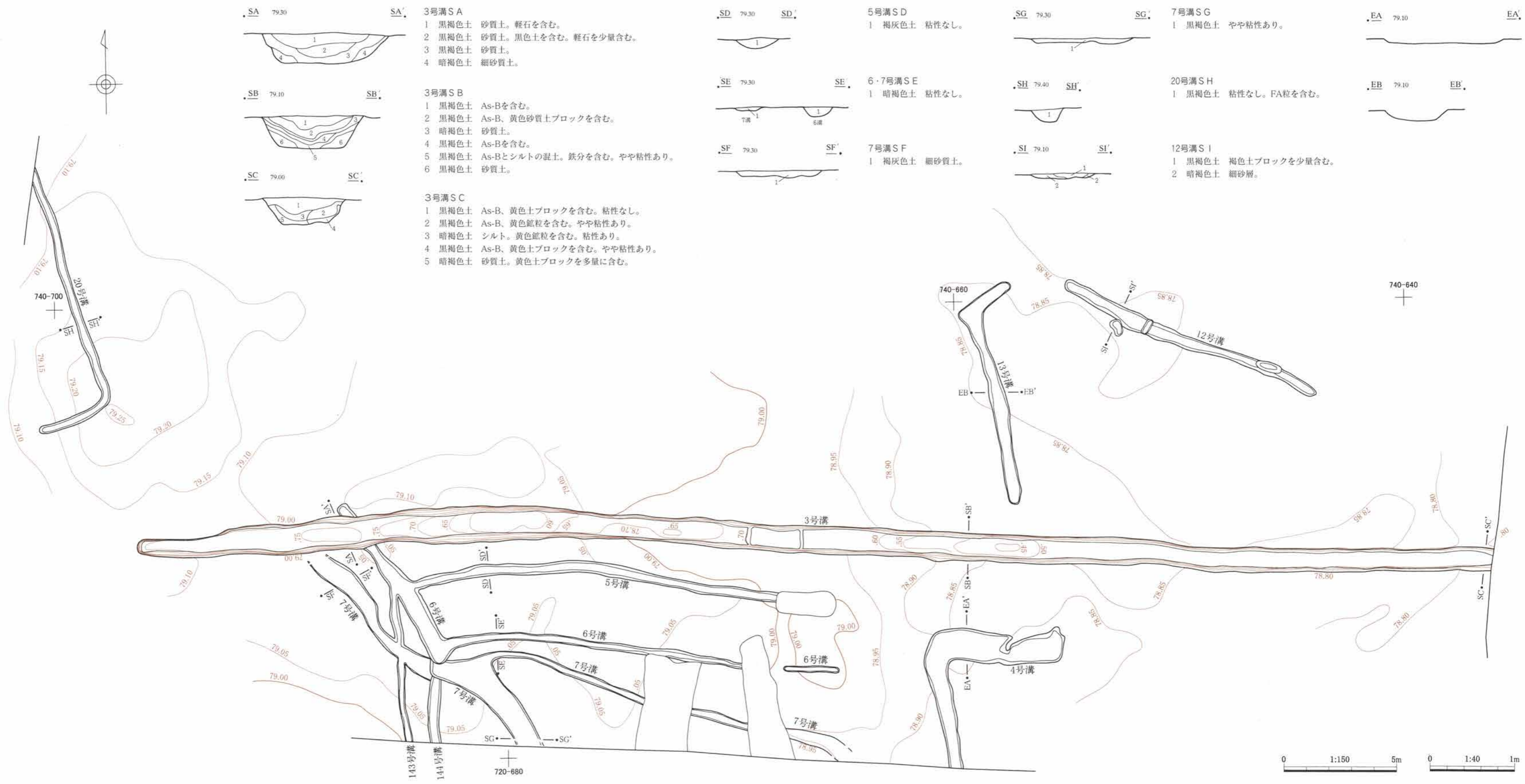
走向 北西→南/北東 規模 幅0.34～1.30m、深さ0.04～0.13m、調査長26.06m

形状 不定形な断面を呈する。 調査所見 C区の中央西端部に位置する溝である。不規則な流路を呈しており、水田区画に沿った水みち的な性格が予想される。 遺物 なし

15号溝 (第302・303図、PL-86)

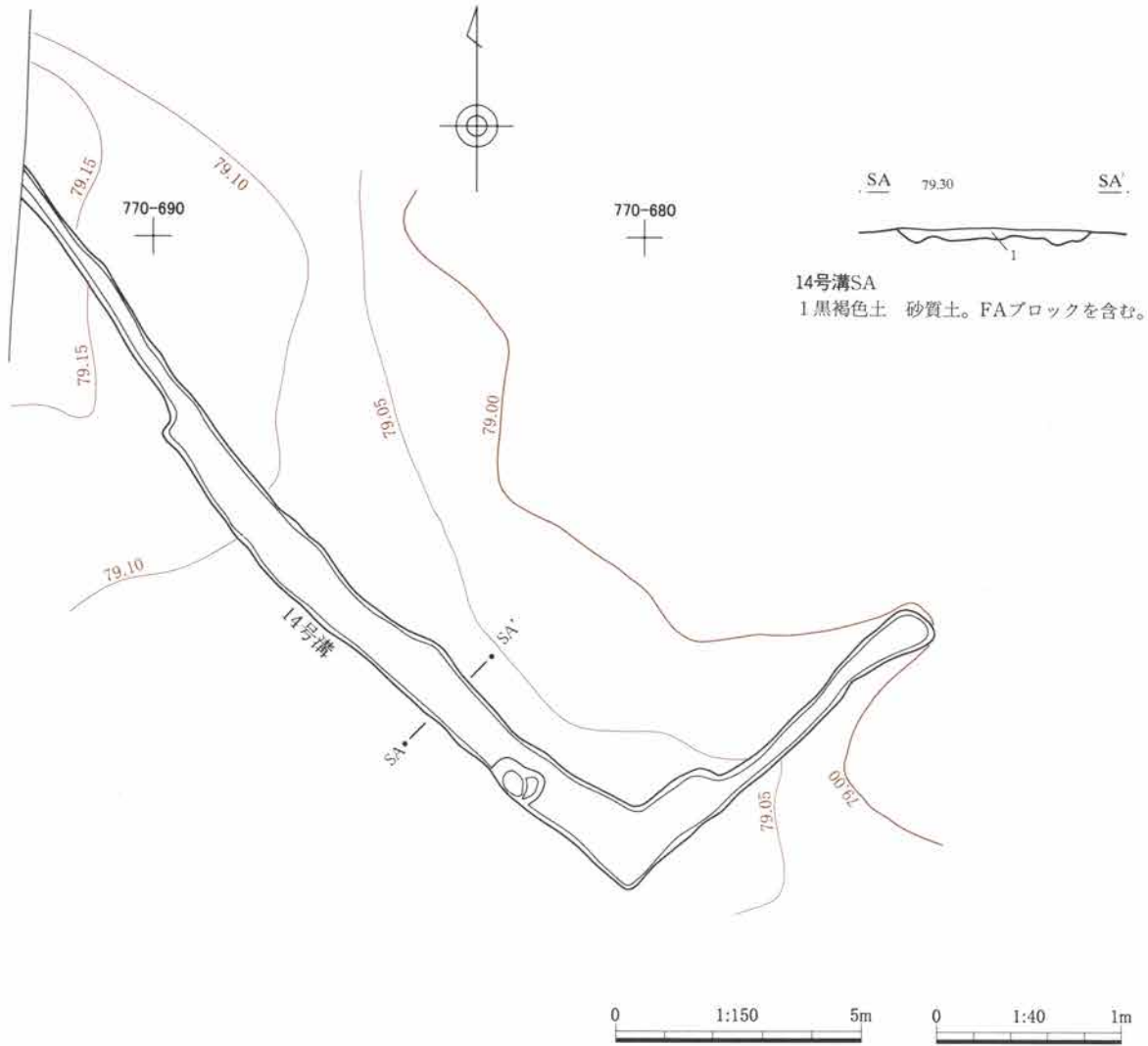
位置 740—675～690、745—675・680、745—690・695、750—680・685・695、755—680～695、760—685～695グリッド 走向 不定形な四角を呈する。 規模 幅0.73～1.34m、深さ0.01～0.10m、調査長59.98m

形状 不定形な断面を呈する。 調査所見 C区の西端部に位置する、循環するような溝である。不規則な流路を呈し、水田区画に沿った水みち的な性格が予想される。 遺物 なし



第300図 3～7・12・13・20・143・144号溝実測図

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）



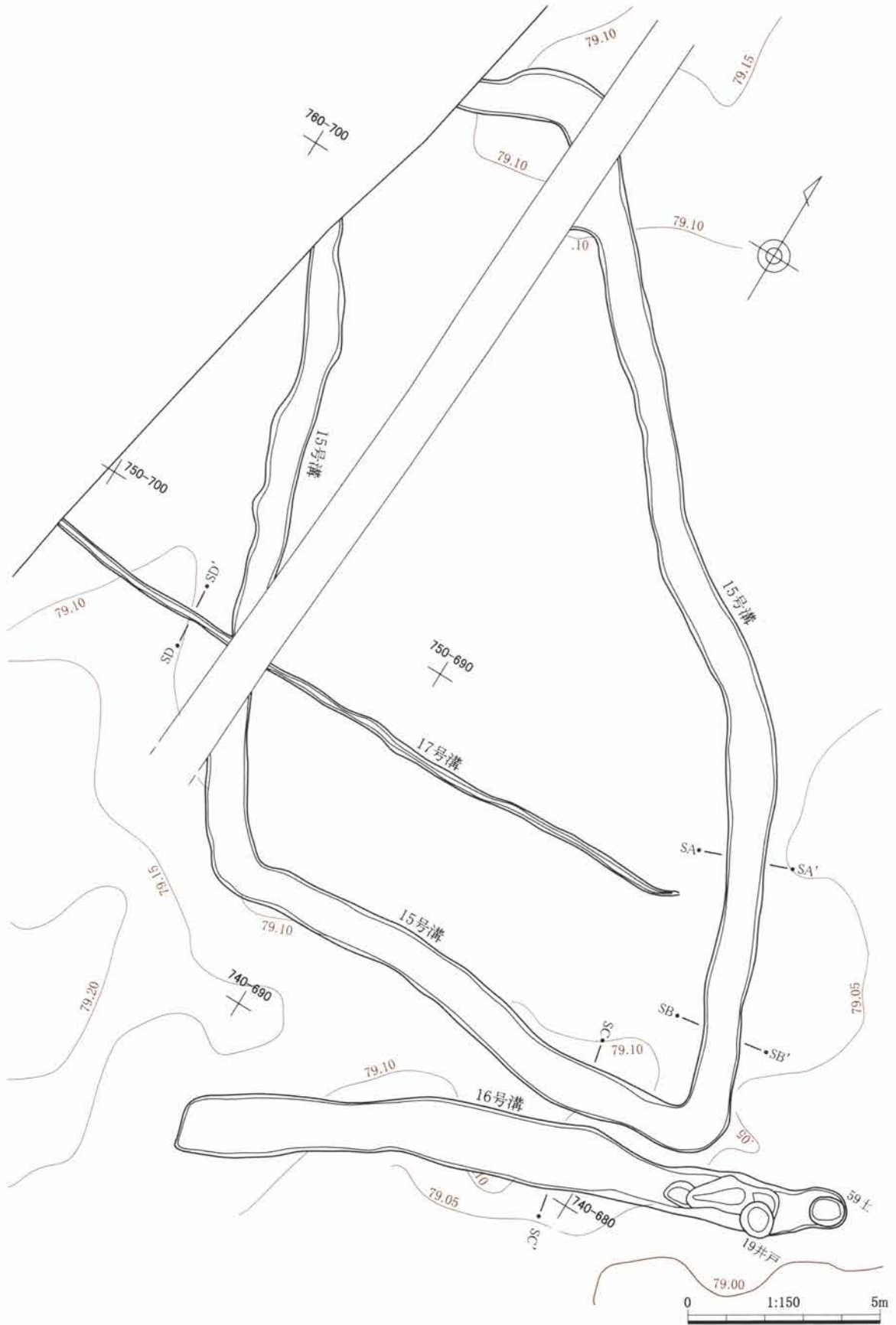
第301図 14号溝実測図

16号溝（第302・303図、PL-86・87）

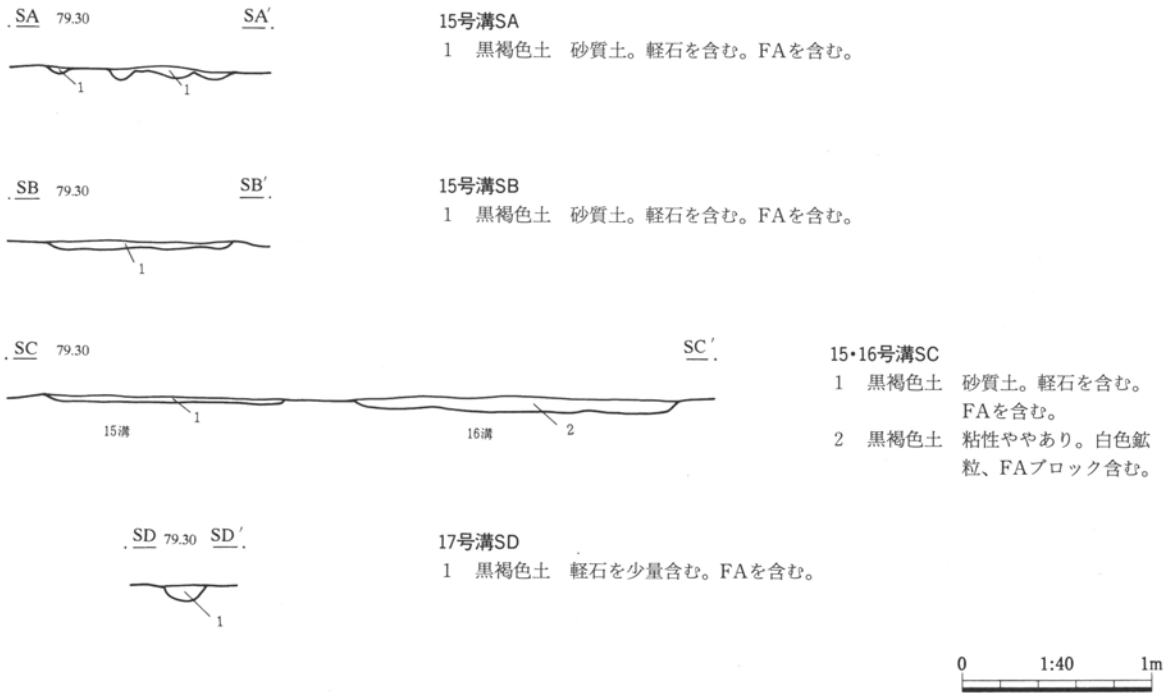
位置 740—670～685、735—680・685グリッド 走向 北東→南西 規模 幅0.98～1.74m、深さ0.05～0.11m、調査長17.44m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 C区の南西部に位置する溝である。59土坑・19井戸との新旧関係不明。 遺物 なし

17号溝（第302・303図、PL-86・87）

位置 745—680～700グリッド 走向 西→東 規模 幅0.17～0.29m、深さ0.04～0.14m、調査長18.70m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 C区の西端部に位置する、東西方向の溝である。45土坑・15溝との新旧関係は不明。 遺物 なし



第302図 15~17号溝実測図(1)



第303図 15～17号溝実測図(2)

20号溝（第300図、PL-86）

位置 730—695・700、735—695、740—695・700、745—700グリッド

走向 北西→南／西 規模 幅0.34～0.46m、深さ0.05～0.31m、調査長13.48m

形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 C区の南西端に位置する溝である。不規則な流路を呈しており、水田区画に沿って、臨時に造成された水回しのための、水みち的な性格が予想される。

遺物 なし

143・144号溝（第300図、PL-82）

B区北端部まで連続しており、B区の報告参照。

408号溝（第297・298図、PL-83・87・88）

位置 780・785—655、780—670・675、775—675・680、780—680・685、785—685・690グリッド

走向 北西→南／東北 規模 幅0.47～1.20m、深さ0.01～0.10m、調査長31.75m

形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 C区の北西端に位置する溝である。不規則な流路を呈し、ほぼ直角に曲がる部分も見られることから、水田区画に沿った水みち的な性格が予想される。409溝より古い時期の所産と考えられる。溝底面に連続した工具痕が検出されている。溝の造成・修復を行った際の、痕跡と思われる。 遺物 なし

第2章 遺構と遺物

409号溝 (第297・298図、PL-83・84・87・88)

位置 785・790—675・680、785—985、790—670グリッド 走向 西→北東

規模 幅0.13～1.30m、深さ0.04～0.09m、調査長17.51m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 C区の北端部に位置する、東西方向の溝である。8・408溝とほぼ同時期の所産と考えられる。溝底面に連続した工具痕が検出されている。造成・修復を行った痕跡と思われる。 遺物 なし

411号溝 (第297・298図、PL-87・88)

位置 785・790—660グリッド 走向 北→南 規模 幅0.27～0.36m、深さ0.03～0.05m、調査長3.94m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 C区の北端部に位置する、南北方向の溝である。

遺物 なし

515号溝 (第297・298図)

位置 745・750—635・640グリッド 走向 北→南 規模 幅0.54～0.88m、深さ0.04～0.10m、調査長6.38m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 C区の東端部に位置する、南北方向の溝である。26土坑との新旧関係は不明。 遺物 なし

D区の溝

500号溝 (第304図)

位置 800—645～655グリッド 走向 西→東 規模 幅0.33～0.53m、深さ0.05～0.10m、調査長12.88m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 D区の南端部に位置する、東西方向の溝である。 遺物 なし

502号溝 (第304図)

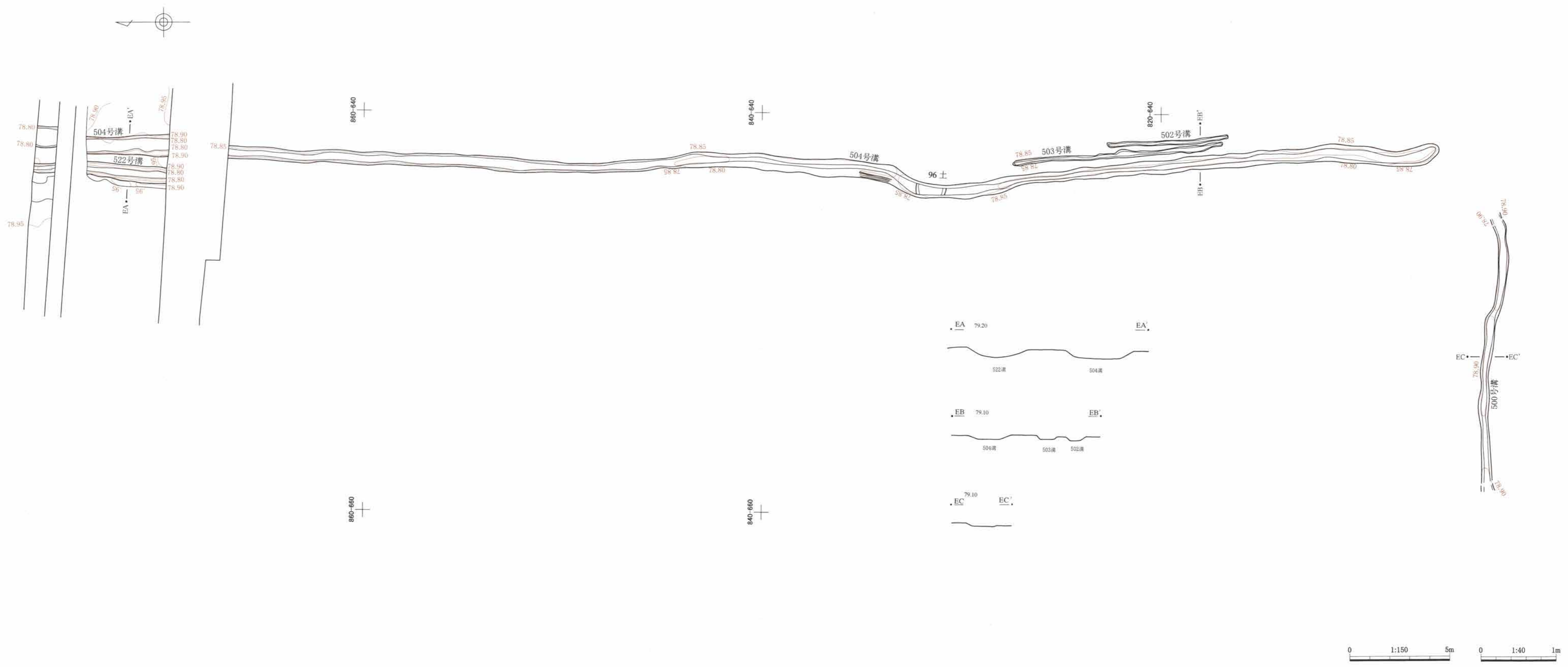
位置 815～820—640グリッド 走向 北→南 規模 幅0.18～0.25m、深さ0.02～0.04m、調査長6.15m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 D区の中央部やや東寄りに位置する、南北方向の溝である。規模が小さく、503・504溝と同じ性格を持つものであろう。 遺物 なし

503号溝 (第304図)

位置 815～825—640グリッド 走向 北→南 規模 幅0.18～0.40m、深さ0.01～0.09m、調査長10.62m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 D区の中央部やや東寄りに位置する、南北方向の溝である。502・504溝と同じ性格の所産であろう。 遺物 なし

504号溝 (第304図)

位置 805～875—640グリッド 走向 北→南 規模 幅0.42～1.08m、深さ0.01～0.14m、調査長61.48m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 D区の中央部やや東寄りを、南へ流下する溝である。D・E区間の道路部分から継続しており、小規模な用水路としての性格が想定できる。96土坑よりも、新しい時期の所産であろう。 遺物 なし

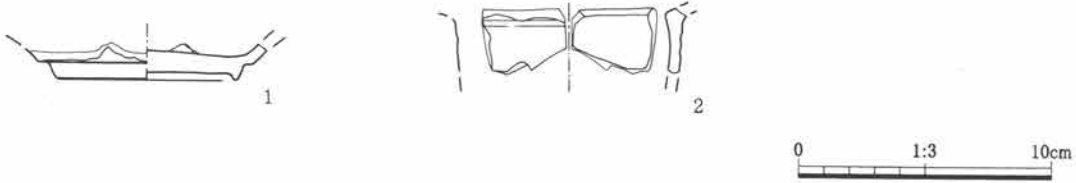


第304图 500•502~504•522号沟实测图

E区の溝

30号溝（第305・307図、PL-88）

位置 910～935—645グリッド **走向** 北→南 **規模** 幅0.32～0.61m、深さ0.01～0.15m、調査長23.00m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** E区の中央やや北西に位置する、南北方向の溝である。 **遺物** 1は灰釉陶器の皿。削り出し高台。産地は瀬戸・美濃で、17世紀。2は陶器で器形不明。口縁片。飴釉を施す。産地は瀬戸・美濃で、18世紀。その他、土師器片8点が出土している。



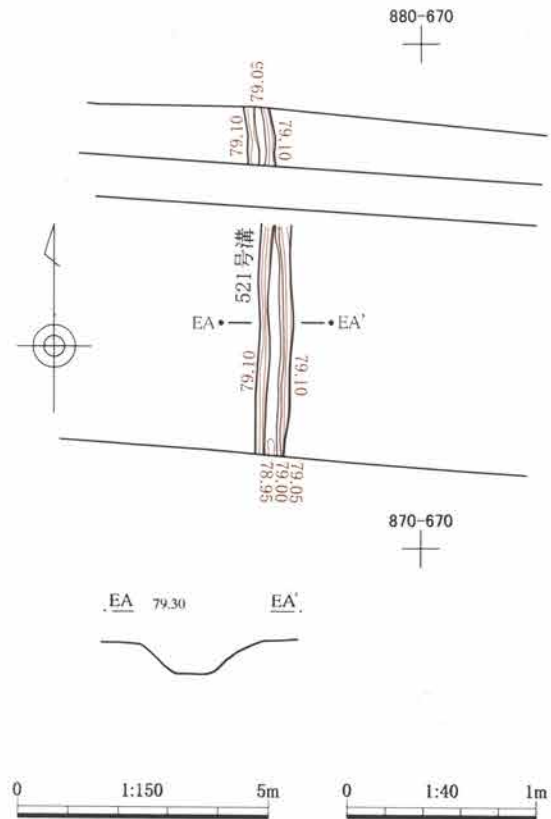
第305図 30号溝出土遺物

31号溝（第307図、PL-89）

位置 910—645～670グリッド **走向** 西→東 **規模** 幅0.42～0.99m、深さ0.01～0.20m、調査長25.00m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** E区の中央西部に位置する、東西方向の溝である。 **遺物** なし

521号溝（第306図）

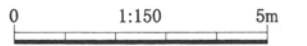
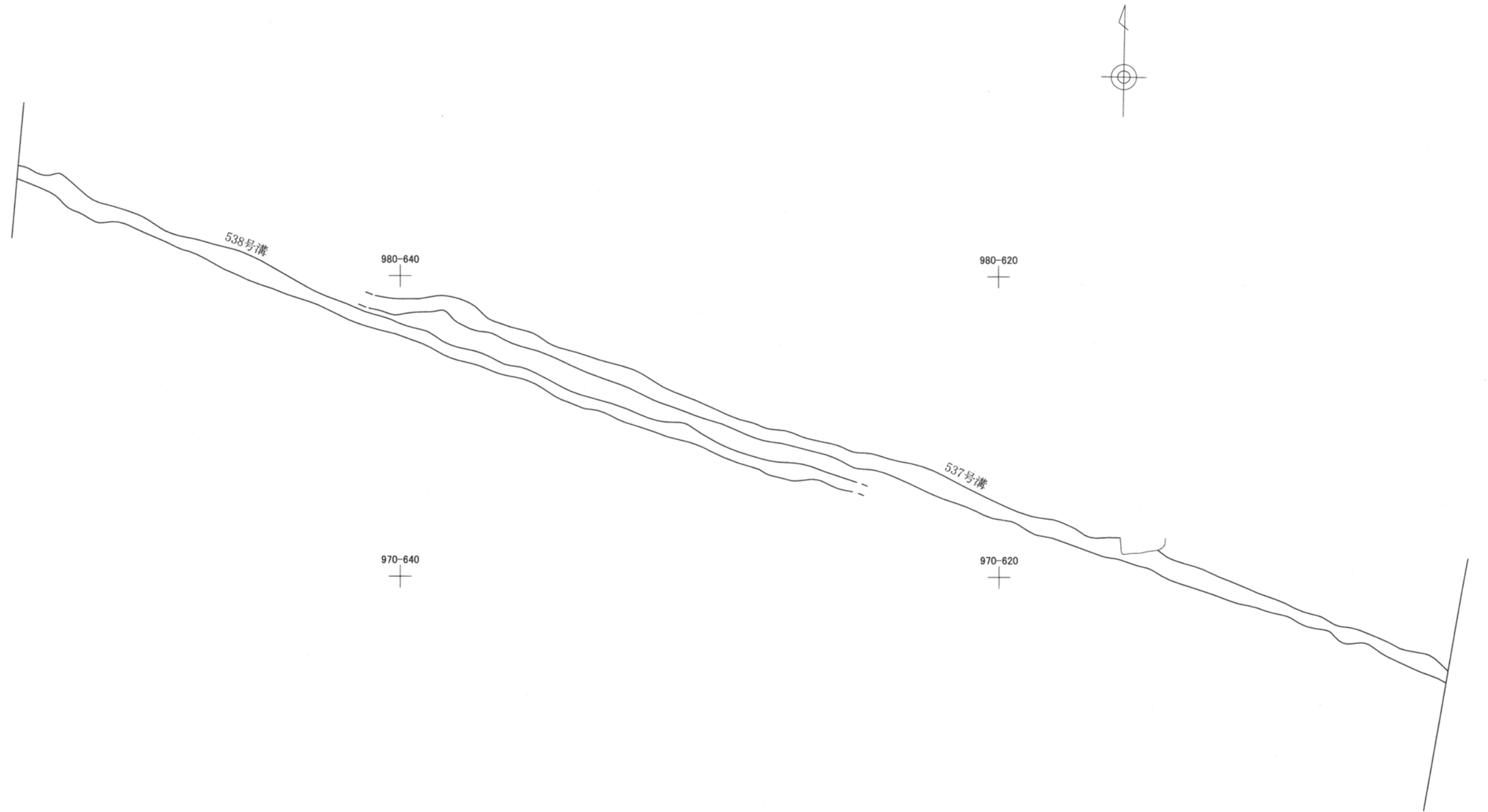
位置 870・875—670グリッド **走向** 北→南 **規模** 幅0.66m、深さ0.12～0.21m、調査長6.93m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** E区の中央やや北西に位置する、南北方向の溝である。しっかりとした斜面をもっており、用水路であったことが窺われる。 **遺物** なし



第306図 521号溝実測図

522号溝（第304図）

位置 865～875—640グリッド **走向** 北→南 **規模** 幅0.40～0.90m、深さ0.05～0.16m、調査長6.70m **形状** 丸底状の断面を呈する。 **調査所見** E区の南端の道路部分に位置する、南北方向の溝である。 **遺物** なし



第308图 537·538号沟实测图

F区の溝

537号溝（第308図）

位置 965—605・610、975—625～640、970—610～625グリッド 走向 北西→南東

規模 幅0.20～0.35m、深さ0.01～0.05m、調査長15.06m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 F区の中央やや南よりに位置する、東西方向の溝である。152土坑との新旧関係は不明。この溝は、538溝と同様に明治時代まで地境として存在していた。 遺物 なし

538号溝（第308図）

位置 970—625・630、975・980—640・645、975—630・635グリッド 走向 北西→南東

規模 幅0.18～0.35m、深さ0.01～0.06m、調査長19.17m 形状 丸底状の断面を呈する。

調査所見 537溝と同じ性格の溝であり、新旧は不明であるが、掘り返しに伴い若干位置がずれたものである。明治に至るまで、地境として存在していた。 遺物 なし

(2) 耕作痕

概要

中世・近代前半における上滝地区は、代官堀（現 滝川）がつくられる前後の時代と考えられる。当該地域における土地利用状況を復元するために、当遺跡の発掘は、重要な手がかりとなる。まず、大きな見方として、井戸・土坑・ピットが集中するB区の北半・C・E区は微高地と考えられ、畠として利用されていた可能性が考えられる。他の調査区は、水田として利用されていたのであろう。

検出された耕作痕は、畠跡として考えている。その理由は、①耕作痕の検出された地区の標高が若干高い、②井戸・土坑・ピットが集中して検出される、③検出された溝群は、畠の畝間の可能性が高い、という三つの理由からである。当然、検出面が当時の、二毛作における水田としても機能していた可能性も考えておく必要がある。しかし、上記の三つの状況を加味して考えると、畠として考えておくことが無難であろう。

中・近世面では、B・C区から、計3耕作痕が検出できた。以下、区順に報告する。

13号耕作痕—B区—（第309図、PL-90）

位置 690～700—635・640グリッド サクの走向 N—10°—E 全体規模 長さ11.45m、幅5.32m

サク規模 長さ1.02～8.40m、幅0.18～0.50m、深さ0.02～0.16m 工具痕の幅 なし

調査所見 B区北東隅で検出された、サク状の遺構である。10列のサクが検出された。As-B軽石降下以後の、耕作痕である。工具痕は、検出されなかった。 遺物 なし

17号耕作痕—C区—（第310図、PL-90）

位置 740—660～680、750～760—670～690グリッド サクの走向 N—52°—E

全体規模 長さ10.87m、幅14.72m

サク規模 長さ0.60～7.30m、幅0.06～0.16m、深さ0～0.05m 工具痕の幅 なし

第2章 遺構と遺物

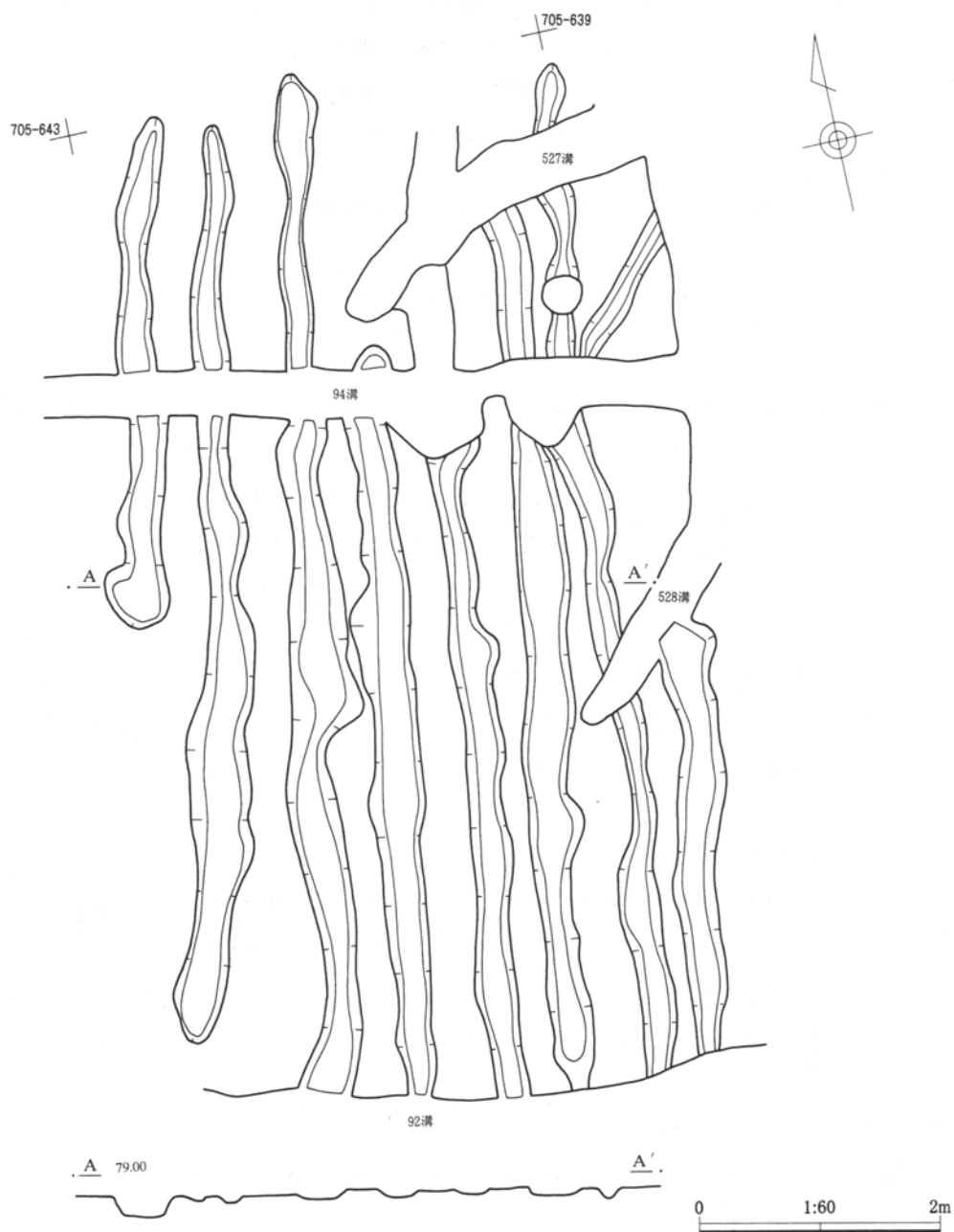
調査所見 C区中央西寄りで検出された、サク状の遺構である。31本のサクが検出された。As-B軽石降下後の、耕作痕である。 遺物 なし

18号耕作痕—C区—(第310図、PL-90)

位置 730~740—675グリッド サクの走向 N-5°-W 全体規模 長さ8.72m、幅3.23m

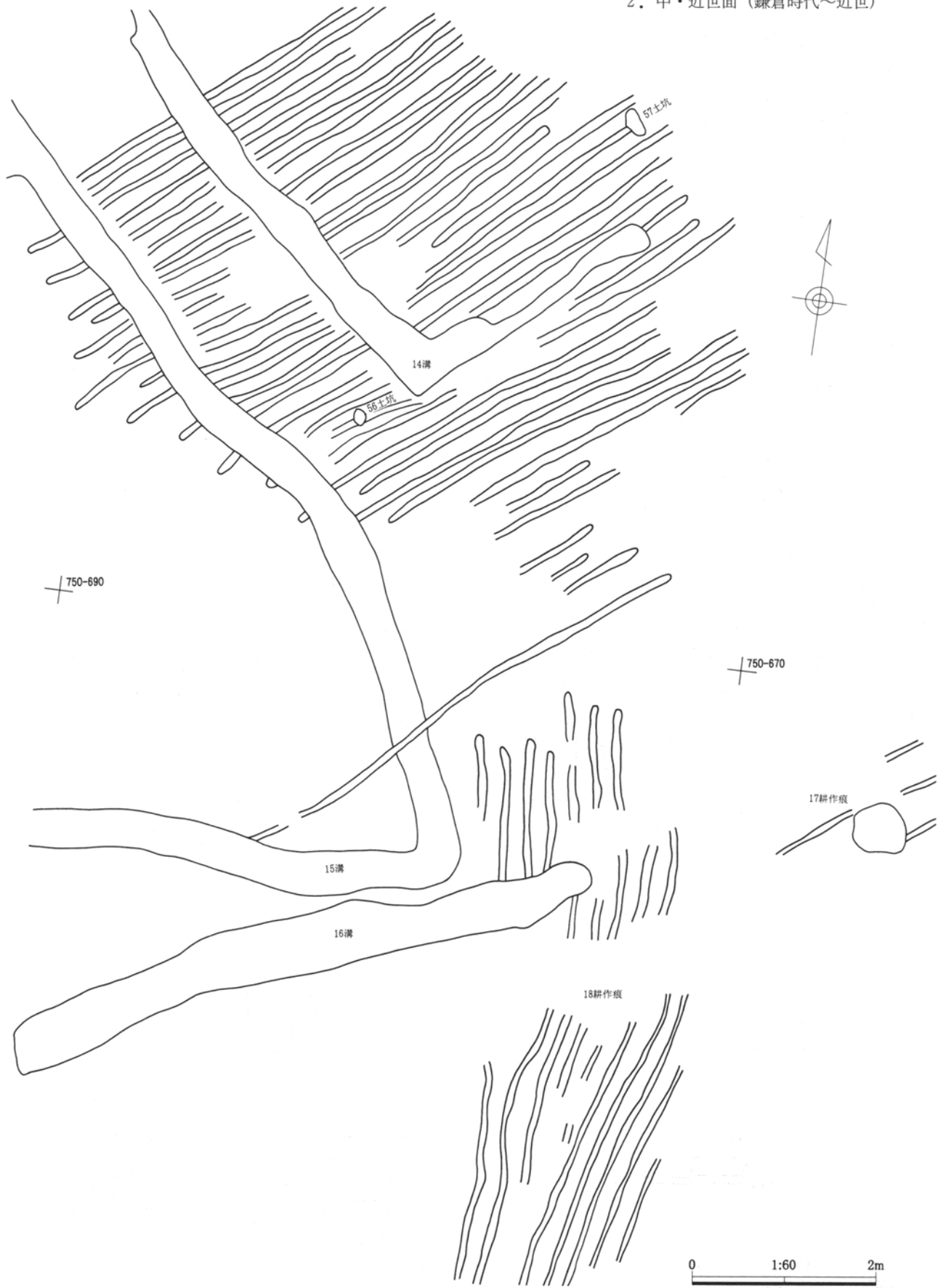
サク規模 長さ0.28~4.72m、幅0.05~0.11m、深さ0~0.03m 工具痕の幅 なし

調査所見 C区中央西南寄りで検出された、サク状の遺構である。13本のサクが検出された。As-B軽石降下後の、耕作痕である。 遺物 なし



第309図 13号耕作痕実測図

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



第310図 17・18号耕作痕実測図

(3) 土 坑

概 要 (第313～349図、PL-92～141)

土坑は、A-1～F区の全ての調査区から検出され、計264基が検出された。土坑の性格については、慎重を期さねばならないが、そのほとんどが、水田にともなうものではないと考えたい。取水口の付近にあるものは、取水施設に伴うものとの理解も可能であるが、断定はできない。

土坑の検出が多いのは、A-3区の館跡周辺、B区北半、C区東半の地域である。この周辺は、中世においては微高地と考えられ、そこに土坑が数多くつくられたものと考えられる。また、216土坑からは馬歯が出土しているが、馬歯は一括して報告書の最後に掲載した。

以下、A～F区の順に報告する。

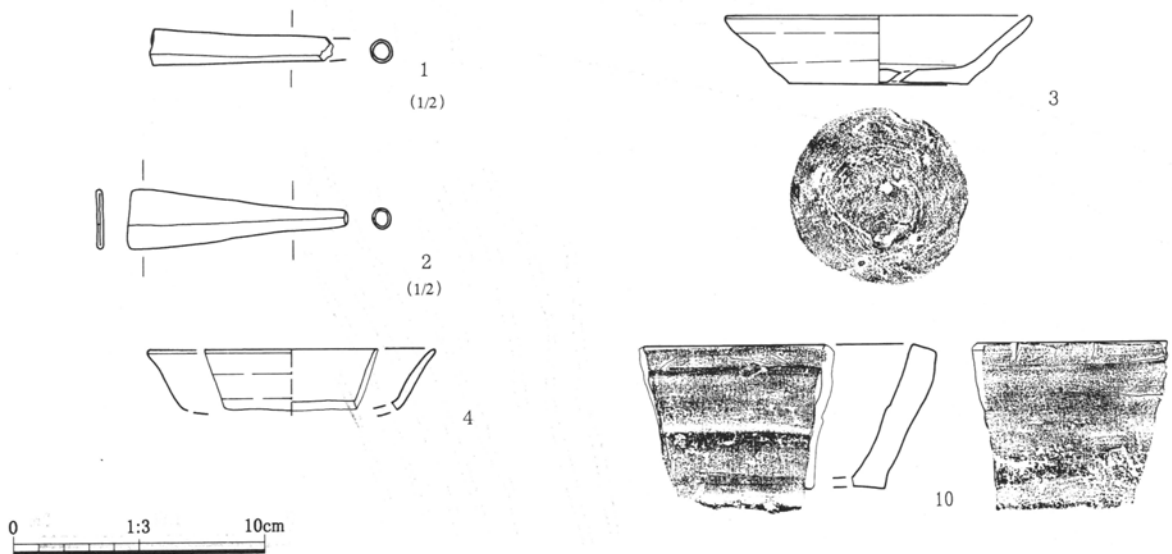
土坑出土遺物 (第311・312図、PL-91)

1・2は332土坑から出土した煙管の吸口。1は残長4.9cm、径0.5～0.95cm。2は残長5.85cm、径0.45～1.60cm。

3は349土坑から出土したカワラケ。口径12.1cm、底径7.0cm、器高2.7cm。左回転の轆轤成形。底部回転糸切り痕。底部から口縁部にかけては、直線的に外にひらく。底部中央、斜めに円形の穴を穿っている。

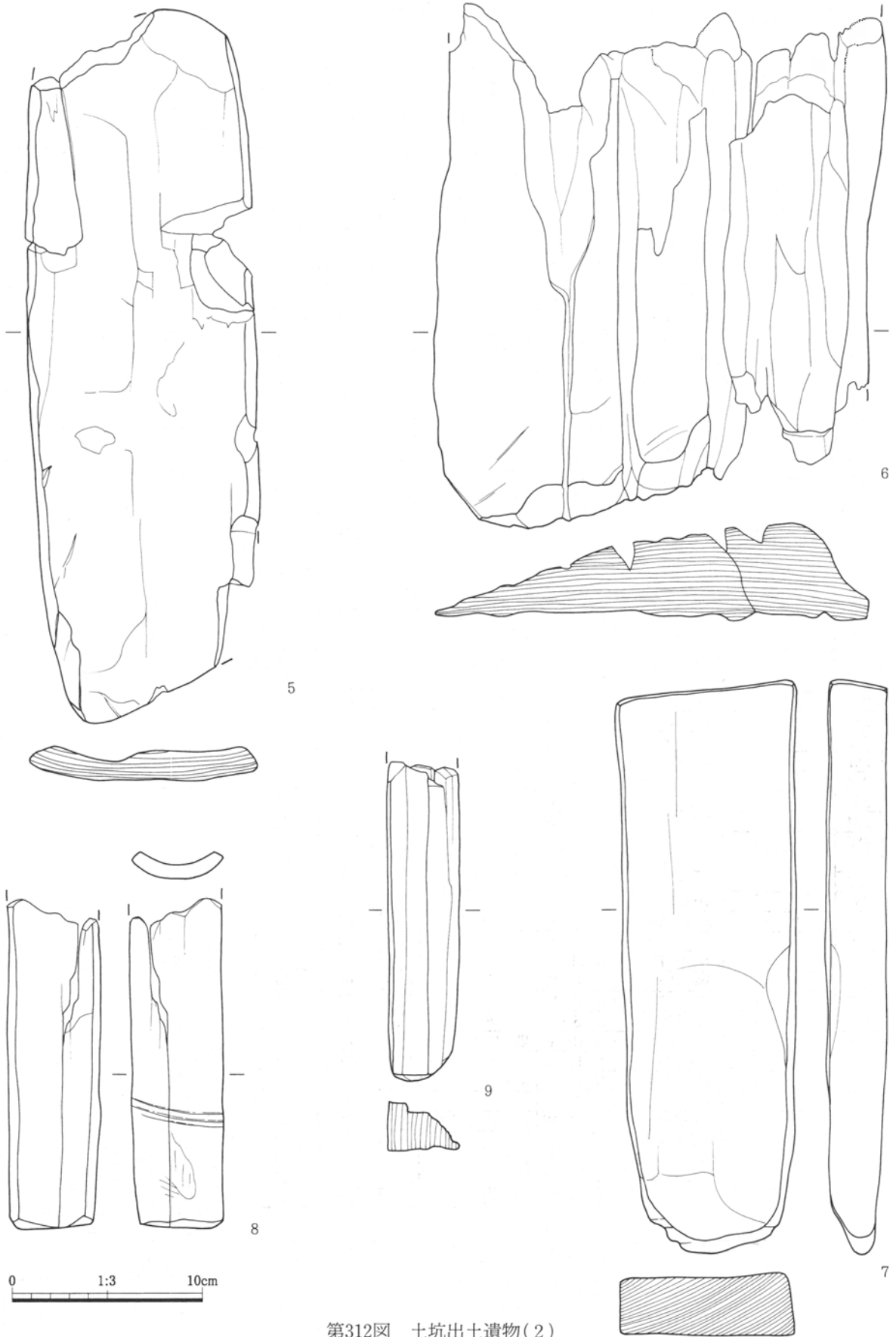
4は215土坑から出土した白磁皿の口縁～底部片。口径11.4cm、口禿。13世紀中～14世紀前半。5～9は木製品。5はクリの加工木で、長さ37.2cm・幅12.0cm・厚さ1.6cm。6はモミ属の割材で、長さ27.3cm・幅27.6cm・厚さ4.9cm。7はケヤキの板材で、長さ29.9cm・幅3.0cm・厚さ9.0cm。8は竹の割材で、端部は面取りされている。長さ17.2・幅4.7cm・厚さ0.7cm。9はモミ属の加工木で、長さ16.6cm・幅3.8cm・厚さ2.6cm。

10は59土坑から出土した、焙烙（軟質陶器）の口縁～底部片。内壁中位に段を持ち、古い特徴を残す。



第311図 土坑出土遺物(1)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



第312図 土坑出土遺物(2)

土坑一覧表

土坑 番号	調査区	位 置(グリッド)	長軸方向	平面形状	規 模(cm)			遺物 番号	備 考
					長軸	短軸	深さ		
301	A-1	530-695	N-90°-E	楕 円 形	94	68	41		
302	〃	540-645	N	〃	134	78	21		
303	〃	540・545-645	N-73°-E	隅丸長方形	78	59	10		
304	〃	530-695	N-89°-E	隅丸方形	57	41	11		
311	〃	530-690・695	N-79°-E	楕 円 形	80	37	22		
312	〃	480・485-620・625	N-47°-E	円 形	58	50	18		
313	〃	530-690	N-88°-E	楕 円 形	92	54	16		
314	〃	495-635	N-90°-E	円 形	44	43	30		
315	〃	530・535-685	N-87°-W	楕 円 形	78	60	25		
316	〃	520・525-685	N-22°-W	〃	72	54	51		225溝より新しい
317	〃	530-695	N	円 形	54	54	11		209溝より新しい
318	〃	530-680	N-10°-E	隅丸長方形	130	99	43		207溝より古い
321	〃	470-615	N-84°-W	不 明	40	22+	24+		
262	A-2	620・625-675・680	N-85°-W	隅丸長方形	386	87	31		
263	〃	620-680	N	〃	199	106	48		
264	〃	620-690	N	〃	253	127	48		
265	〃	625-700・705	N-54°-E	〃	134	64	18		
266	〃	595-685	N-6°-W	〃	190	93	54		
267	〃	600-675・680	N-88°-W	〃	412	86	30		
268	〃	610-710	N-83°-W	楕 円 形	128	80	27		
269	〃	610-680・685	N-90°-W	隅丸長方形	310	105	50		
270	〃	600-695・700	N	〃	201	145	60		
271	〃	605-710	N-82°-W	〃	111	91	25		
272	〃	600-690	N-23°-W	〃	100	81	15		
273	〃	600-700	N-7°-E	〃	75	45	11		
274	〃	605-710	N-38°-E	円 形	96	86	23		181・198溝より古い
275	〃	580-670	N-34°-E	楕 円 形	100	67	20		185溝より古い
276	〃	590-690・695	N-35°-E	隅丸長方形	94	46	8		
277	〃	595-710・715	N-79°-E	〃	102	65	41		183溝より新しい
278	〃	585-675	N-30°-E	不 整 形	87	59	22		184溝より古い
279	〃	565-705	N-61°-W	楕 円 形	55	45	18		
280	〃	590-700	N-11°-E	隅丸方形	83	75	39		
281	〃	620-685	N-85°-W	円 形	73	68	26		
282	〃	590-675・680	N-87°-E	不 整 形	280	192	39		
283	〃	585-680	N-6°-W	楕 円 形	46	34	13		
284	〃	585-680	N-85°-W	〃	69	48	22		
285	〃	560・565-680	N	隅丸長方形	160	141	54		189溝より新しい
286	〃	575-680	N-2°-E	隅丸方形	124	94	39		189溝より古い
287	〃	575-680	N-7°-W	隅丸長方形	68	55	33		189溝より新しい
288	〃	575・580-680	N	〃	133	76	30		
289	〃	575・580-695	N-85°-E	楕 円 形	79	52	29		
290	〃	575・580-700	N-85°-E	〃	101	52	35		
305	〃	580-705・710	N-71°-W	不 明	120	94+	10		146溝に切られている
306	〃	580-705	N-85°-W	楕 円 形	113	61	36		
307	〃	610-705	N-35°-W	〃	74	60	34		
308	〃	600-710	N-5°-E	〃	122	50	37		
309	〃	600-710・715	N-10°-E	隅丸方形	81	81	41		
310	〃	580-680	N-41°-E	不 整 形	140	122	34		146溝に切られている
329	A-3	630-780	N-6°-W	隅丸長方形	364	93	60		248溝より古い
330	〃	625・630-750	N	〃	213	85	50		247溝より古い
331	〃	630-780	N-53°-W	楕 円 形	151	38	29		
332	〃	620-740・750	N-43°-E	円 形	89	88	40	1・2	
333	〃	620・625-760	N-3°-W	隅丸長方形	142	83	63		人為的埋没か
334	〃	630・635-750	N-5°-E	不 明	172+	120	22		人為的埋没か
335	〃	675-750	N-10°-W	楕 円 形	72	59	39		
336	〃	655・660-760・765	N-50°-E	不 整 形	472	157	21		271溝より古く、258溝より新しい。 馬歯出土(P-1,016参照)
337	〃	650-775	N-44°-E	円 形	95	86	17		
338	〃	645・650-775・780	N-13°-W	隅丸長方形	168	94	28		人為的埋没か
339	〃	640-765	N-85°-W	楕 円 形	98	74+	16		
340	〃	645-775・780	N-9°-W	隅丸長方形	152+	88	40		256溝より古い
341	〃	655-760	N-89°-W	〃	167	137	63		

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

土坑 番号	調査区	位 置(グリッド)	長軸方向	平面形状	規 模(cm)			遺物 番号	備 考
					長軸	短軸	深さ		
342	A-3	645・650-785	N-16°-E	隅丸長方形	239	43	22		
343	〃	645-790・795	N-63°-W	楕 円 形	82	50	12		
344	〃	640-775	N-87°-E	〃	64	32	11		248溝・345土坑より古い
345	〃	640-775	N-86°-W	隅丸長方形	74	46	37		344土坑より新しい
346	〃	640-775	N-85°-W	不 明	236	56	53		248溝より古い
347	〃	645・650-805	N-44°-W	隅丸長方形	82	43	41		281溝より古い
348	〃	645-805・810	N-42°-E	〃	135	59	9		279溝との新旧不明
349	〃	655-815・820	N-63°-W	楕 円 形	74	61	35	3	281溝より新しい
350	〃	665-775・780	N-81°-W	〃	109	95	42		275溝より新しい
351	〃	665-780	N-89°-W	隅丸長方形	119	62	5		
353	〃	625・630-775	N-13°-W	〃	281	95	39		247溝との新旧不明
387	〃	595・600-760	N-88°-E	楕 円 形	168	94	23		
388	〃	605-755	N-33°-E	円 形	67	62	28		
389	〃	605-755	N-76°-E	楕 円 形	52	22	10		
390	〃	590・595-745	N-84°-E	〃	83	36	30		炭化物層あり
391	〃	580-755	N-5°-W	不 整 形	130	84	10		
392	〃	580-745	N-27°-E	楕 円 形	83	28	5		345溝の一部か
396	〃	590・595-760	N-16°-W	〃	154	100	44		
407	〃	595-745	N-16°-E	〃	136	91	43		
449	〃	655・660-860	N-15°-E	円 形	70	70	42		382溝より古い
476	〃	645-775	N-11°-W	隅丸長方形	152+	88	31		256溝と新旧不明
479	〃	595-745	N-3°-E	不 明	165	55	14		
399	Aランプ	525-590	N-14°-E	隅丸長方形	136	75	42		
400	〃	520・525-590	N-3°-W	〃	124	52	20		
401	〃	520-590	N-4°-E	円 形	75	66+	36		
402	〃	510-590・595	N-3°-E	〃	79	79	13		
403	〃	505-590	N-4°-W	〃	102	93	19		
404	〃	500-590・595	N-15°-E	不 整 形	159	72	18		
405	〃	500-595	N-7°-E	隅丸方形か	193	72+	45		
406	〃	505・510-590・595	N-3°-E	円 形 か	164	121+	42		
408	〃	570-585・590	N-74°-W	不 整 形	129+	101	44		
409	〃	595・600-585	N-74°-W	楕円形か	116	54	8		
410	〃	605-585	N-2°-W	楕 円 形	83	57	13		
411	〃	600・605-585	N-3°-E	不 明	270	47	9		74溝との新旧不明
413	〃	665-580	N-60°-W	楕 円 形	132	16	8		
414	〃	665-580	N-2°-E	円 形	82	60+	8		
415	〃	665・670-580	N-11°-W	楕 円 形	90	27	11		
431	〃	665・670-580	N-11°-W	楕円形か	128	33	9		耕作痕の可能性もある
438	〃	505-590	N-6°-E	不 明	82	23+	20		
211	B	700-690	N-16°-E	楕 円 形	181	129	77		74溝との新旧不明
213	〃	700-685	N-75°-E	円 形	68	64+	20		74溝より古い
214	〃	690-655・660	N-25°-W	〃	306	303	94		225土坑より新しい。人為的埋没
215	〃	690-650	N-55°-E	〃	314	287	142	4~9	95溝より古い
216	〃	700-645・650	N-4°-E	不 整 形	199	167	37		97溝より古く、137溝より新しい。 馬歯出土(P-1,016参照)
217	〃	700-650	N-78°-E	隅丸長方形	130	92	18		
218	〃	695-670	N-73°-W	〃	158	84	12		219土坑より新しい。89溝との新旧不明
219	〃	695・700-670・675	N-25°-W	〃	487	327	12		218土坑より古い。89溝との新旧不明
220	〃	680・685-665・670	N-10°-W	不 整 形	270	201	13		86溝より古く、131溝より新しい
221	〃	695-675	N	円 形	101	84	70		79・83溝より新しい
222	〃	675-670・675	N-76°-E	楕 円 形	290	186	17		102溝より古い
223	〃	695・700-640	N-37°-W	〃	104	70	15		
224	〃	675-655・660	N-7°-W	円 形	96	93	71		87溝より新しい
225	〃	690-660	N-83°-E	楕 円 形	230	174	72		214土坑より古い
226	〃	685・690-650	N-3°-E	円 形	93	88	75		96溝より古い
227	〃	670・675-655	N-90°-E	楕 円 形	100	79	44		
228	〃	670-660	N-16°-W	〃	114	88	36		
229	〃	665・670-680	N-7°-E	隅丸長方形	165	126	22		
230	〃	645・650-680	N-7°-E	〃	209	86	40		113溝より古い
231	〃	645・650-690	N-82°-W	〃	199	107	39		
232	〃	640-685	N-11°-E	〃	225	112	48		
233	〃	640-680・685	N-12°-E	〃	226	98	49		
234	〃	650-700・705	N-80°-E	〃	270	94	69		
235	〃	645-705	N-3°-E	〃	205	91	39		
236	〃	645-675	N-11°-E	〃	305	170	83		120溝より新しい

第2章 遺構と遺物

土坑 番号	調査区	位 置(グリッド)	長軸方向	平面形状	規 模(cm)			遺物 番号	備 考
					長軸	短軸	深さ		
237	B	640-655・660	N-7°-E	楕円形	202	109	56		120溝より新しい
238	〃	640-655	N-72°-W	〃	116	102	34		
239	〃	655-650	N-80°-W	円形	140	138	95		
481	〃	660-650	N-84°-E	楕円形	140	95	12		
482	〃	675-640	N-41°-W	〃	107	54	13		133溝より新しい
483	〃	680-650	N-90°-E	〃	78	68	10		87・132溝との新旧不明
1	C	775・780-655	N-38°-W	円形	92	82	43		
2	〃	720・725-640・645	N-9°-E	隅丸長方形	177	100	45		
3	〃	720-645	N-6°-E	円形	120	106	12		
5	〃	740-635	N-70°-W	楕円形	36	24	9		
6	〃	740-635	N-69°-W	〃	22	18	4		
7	〃	740-635	N-18°-E	〃	34	24	6		
8	〃	740-640	N-53°-E	〃	56	42	30		
9	〃	740・745-635	N-63°-W	〃	32	27	10		
10	〃	740・745-635	N-14°-W	〃	44	25	9		
11	〃	745-635	N-19°-W	円形	37	32	10		
12	〃	745-635	N-32°-W	〃	20	20	4		
13	〃	745-635	N-20°-W	〃	32	28	7		
14	〃	745-635	N-4°-W	楕円形	20	15	6		
15	〃	745-635	N-12°-W	円形	18	16	7		
16	〃	745-635	N-7°-W	〃	21	17	10		
17	〃	740・745-635	N-37°-W	〃	18	17	4		
18	〃	745-635	N-57°-W	楕円形	80	57	20		
19	〃	745-635	N-50°-E	円形	24	22	9		
20	〃	745-635	N-12°-E	楕円形	34	22	16		
21	〃	750-635	N-21°-W	〃	40	34	15		
22	〃	745-635	N-13°-W	円形	30	30	5		
23	〃	750-635	N-21°-W	〃	35	30	6		
24	〃	750-635	N-3°-E	楕円形	37	29	12		
25	〃	750-635	N-17°-E	〃	45	31	10		
26	〃	750-635	N-65°-W	〃	140	111	73		515溝より新しい
27	〃	750-635	N-11°-E	円形	30	25	6		
28	〃	750・755-635	N-13°-W	楕円形	59	39	23		
29	〃	750-635	N-14°-E	〃	30	20	14		
30	〃	755-635	N-51°-W	円形	19	17	8		
31	〃	755-635	N-15°-E	楕円形	47	35	11		
32	〃	755-635	N-4°-W	円形	51	44	10		
33	〃	750-640	N-30°-E	〃	32	25	6		
34	〃	750-640	N-26°-W	〃	54	49	10		
35	〃	745-640	N-65°-W	楕円形	49	36	6		
36	〃	745-640	N-77°-E	隅丸方形	66	45	8		
37	〃	745-640	N-6°-E	楕円形	37	30	12		
38	〃	720-635	N-14°-W	〃	41	32	15		
39	〃	720-655	N-82°-W	〃	33	28	19		
41	〃	730-665	N-86°-E	隅丸長方形	215	117	51		
42	〃	725-665	N-87°-E	〃	262	99	35		5溝と同時期か
43	〃	755-655	N-77°-W	円形	75	70	20		
44	〃	750-660	N-31°-E	隅丸長方形	125	85	34		
45	〃	745-680	N-42°-W	円形	29	29	19		17溝との新旧不明
46	〃	750・755-665	N-29°-W	楕円形	66	54	26		9溝より新しい
47	〃	750-665	N-36°-W	〃	80	33	16		
48	〃	745-670	N-18°-E	円形	50	46	23		
49	〃	745-670	N-25°-E	〃	24	22	22		
50	〃	745・750-670	N-63°-W	〃	23	18	16		
51	〃	745-675	N-8°-W	〃	19	19	16		
52	〃	745-675	N-1°-W	楕円形	29	20	8		
53	〃	755・760-670	N-30°-W	円形	42	40	22		
54	〃	750-675	N-68°-E	楕円形	111	39	21		
55	〃	750-675	N-58°-E	〃	166	60	25		
56	〃	755-680	N-18°-W	〃	50	38	30		17耕作痕より新しい
57	〃	765-670・675	N-38°-W	〃	85	40	14		〃
59	〃	740-670	N-49°-E	〃	90	76	44	10	16溝との新旧不明
61	〃	765-640	N-90°-E	〃	206	123	20		
70	〃	770-640	N-14°-W	〃	54	34	27		

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

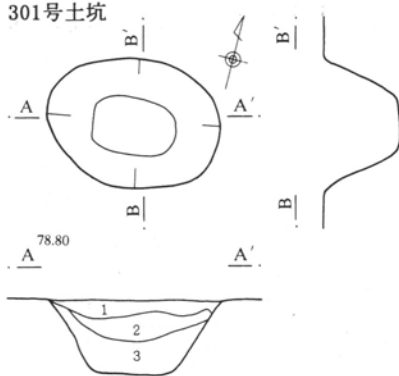
土坑 番号	調査区	位 置(グリッド)	長軸方向	平面形状	規 模(cm)			遺物 番号	備 考
					長軸	短軸	深さ		
71	C	765-645	N-75°-W	楕 円 形	55	44	26		
72	〃	765-650	N-45°-E	円 形	47	43	19		
73	〃	765-650・655	N-53°-W	楕 円 形	74	64	22		
74	〃	760-650	N-43°-W	円 形	36	30	10		
75	〃	760-655	N-55°-W	楕 円 形	50	27	16		
76	〃	775-655	N-62°-W	円 形	56	50	48		
77	〃	775-655	N-59°-W	隅丸長方形	62	43	14		
79	〃	780-650	N-26°-W	楕 円 形	31	25	19		
83	〃	775-650	N-17°-E	〃	56	40	10		
84	〃	775-650	N-57°-W	〃	60	50	23		
85	〃	775-645	N-45°-W	〃	88	72	16		
86	〃	775-645	N-52°-W	〃	43	34	8		
94	〃	760・765-640	N-25°-E	〃	72	51	26		
452	〃	790・795-690	N-17°-W	不 明	133+	86	16		
453	〃	790-680	N-46°-W	〃	80+	56	26		
456	〃	790-660	N-17°-W	楕 円 形	93	70	45		
457	〃	775-685	N-76°-W	〃	94	50	5		
458	〃	770-680	N-10°-E	不 明	62+	62	48		
459	〃	780-680・685	N-33°-W	隅丸長方形	130	64+	7		
485	〃	755・760-640	N-80°-W	不 整 形	75	36	28		
487	〃	720-670	N-7°-E	隅丸長方形	416+	216	15		
488	〃	720-665	N-11°-W	〃	542+	91	14		
95	D	855-620	N-3°-E	〃	166	119	90		
96	〃	830-640	N-2°-E	〃	160	120	88		504溝より古い。小礫13個出土
97	〃	825-665	N-7°-W	〃	145	132	97		小礫5個出土
58	E	935・940-645	N-25°-E	不 整 形	82	61	20		114土坑より新しい
121	〃	885-670	N-3°-E	円 形	40	40	20		
122	〃	905-610・615	N-87°-E	隅丸長方形	231	123	41		
123	〃	910-610・615	N-87°-E	〃	267	136	54		
124	〃	910-620	N-4°-E	楕 円 形	121	77	34		小礫4個出土
125	〃	〃	N-8°-W	〃	99	60	21		
126	〃	910・915-620	N-8°-E	隅丸長方形	109	91	27		
127	〃	910-625	N-42°-W	〃	125	51	37		
129	〃	910-620	N-2°-W	楕 円 形	52	40	11		
130	〃	905-620	N-12°-E	円 形	21	18	18		
132	〃	880-665	N	楕 円 形	38	26	46		
133	〃	880-650	N	円 形	45	41	31		
134	〃	940-615	N-5°-E	隅丸長方形	71	56	45		
135	〃	930-610	N-88°-E	楕 円 形	53	34	15		
137	〃	925-610	N-50°-E	〃	53	43	14		
138	〃	930-620	N-60°-E	隅 丸 方 形	73	62	48		
140	〃	920・925-620	N-6°-E	隅丸長方形	158	107	26		
158	〃	910-625	N-70°-W	楕 円 形	97+	90	22		
159	〃	910-620・625	N-85°-E	隅丸長方形	164	105	36		158・160土坑より新しい
160	〃	910-620	N-85°-E	〃	244	100	42		159土坑より古、161土坑より新しい
161	〃	〃	N-3°-W	楕 円 形	92	73	42		160土坑より古い
141	F	015-600	N-2°-E	隅丸長方形	104+	89	21		142土坑より新しい
142	〃	015-600	N-25°-E	不 整 形	136	38+	53		141土坑より古い
143	〃	010-600	N-9°-E	隅丸長方形	110	68	29		
144	〃	010-600	N-2°-E	楕 円 形	134	62	33		
145	〃	010-615	N-12°-E	〃	112	93+	53		
146	〃	010-615	N-3°-E	隅 丸 方 形	100	96	41		
147	〃	010・015-620・625	N-80°-W	隅丸長方形	142	112	34		
148	〃	010-620・625	N-85°-W	〃	184	115	32		
149	〃	015-625	N-70°-E	〃	71	49	14		
150	〃	985・995-590・595	N-2°-E	不 整 形	210	160	50		
151	〃	980-600	N-3°-E	隅丸長方形	129	66+	38		
152	〃	970-610・615	N	〃	342	164	39		
153	〃	955-615	N-1°-W	楕 円 形	75	35	15		
154	〃	950-615	N-65°-W	隅丸長方形	76	52	22		
155	〃	965・970-615	N-81°-W	楕 円 形	55	35	12		
156	〃	965・970-620	N-7°-W	不 整 形	164	80	13		
157	〃	020-600	N	隅丸長方形	134	101	29		
162	〃	985-635	N-79°-W	円 形	36	32	10		

第2章 遺構と遺物

土坑番号	調査区	位置(グリッド)	長軸方向	平面形状	規模(cm)			遺物番号	備考
					長軸	短軸	深さ		
163	F	980・985-635	N	不整形	69	40	13		
164	〃	985-625	N-9°-E	〃	61	52	16		
165	〃	980-615	N-67°-W	〃	95	87	19		
166	〃	015-605	N-27°-E	楕円形	76	36	11		
167	〃	010-615	N	〃	46	35	22		
168	〃	010-595	N-16°-E	隅丸方形	69	59	7		
169	〃	010-595	N-34°-W	円形	42	41	10		
170	〃	995-615	N-6°-E	隅丸長方形	154	96	44		
171	〃	995・000-640	N-2°-E	〃	428	109	53		
172	〃	955-640	N-6°-W	円形	30	26	16		
173	〃	965-640	N-4°-E	楕円形	69	50	15		

A-1区

301号土坑



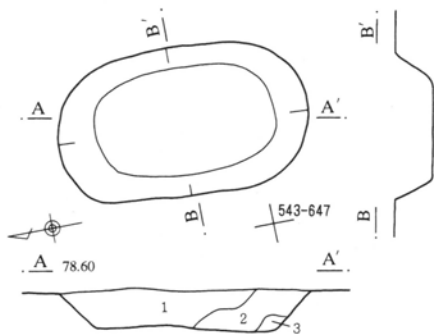
301号土坑

- 1 明褐色土 As-B混土。
- 2 暗褐色土 As-Bを含む。
- 3 黒色土 As-Bを少量含む。

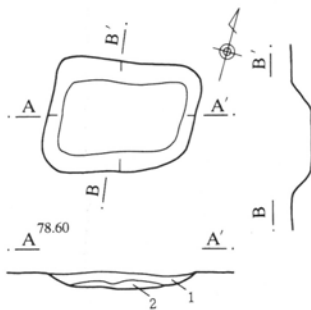
302号土坑

- 1 暗褐色土 As-B混土。FAブロック含む。
- 2 暗褐色土 As-Bを含む。
- 3 暗褐色土 1層に近似。やや黒み強い。

302号土坑



303号土坑



303号土坑

- 1 明褐色土 As-B混土。全体的に白色が強い。
- 2 褐色土 As-B混土。しまりあり。粘性強い。

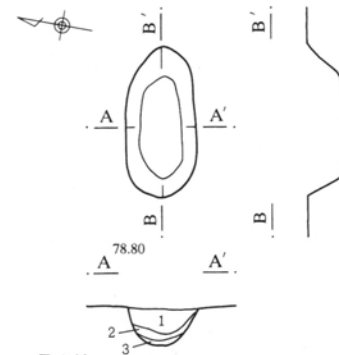
304号土坑



304号土坑

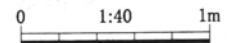
- 1 明褐色土 As-B混土。しまり強い。
- 2 黒色土 As-Bを僅かに含む。粘性あり。
- 3 黄褐色土 As-Bを含む。しまり弱い。

311号土坑



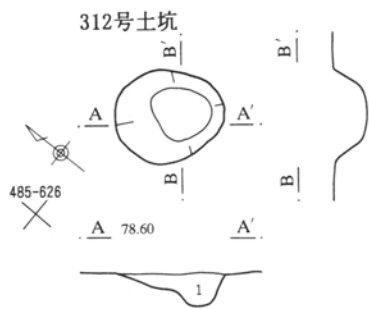
311号土坑

- 1 明褐色土 As-B混土。しまり強い。
- 2 黒色土 As-Bを含む。粘性あり。
- 3 褐色土 FAブロックを多量に含む。



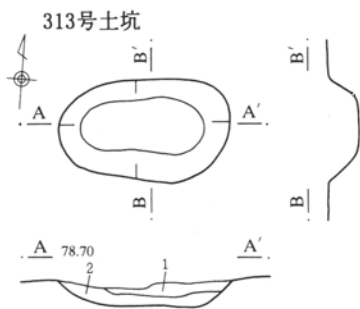
第313図 土坑実測図(1)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



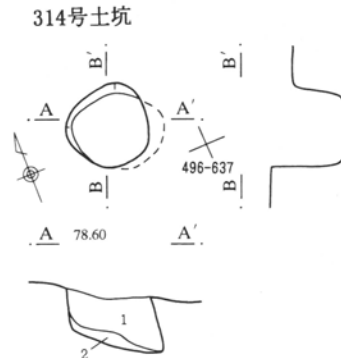
312号土坑

1 明褐色土 As-B混土。
しまり強く固い。



313号土坑

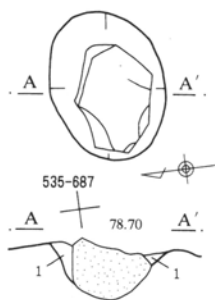
1 暗褐色土 As-B混土。しまり強く固い。
白色土ブロックを僅かに含む。
FAブロックを含む。
2 黄褐色土 As-B・FAブロックを多量に含む。



314号土坑

1 黒灰褐色土 As-B混土。粘性あり。
FA粒を僅かに含む。
2 黄褐色土 FA粒・As-Bを含む。

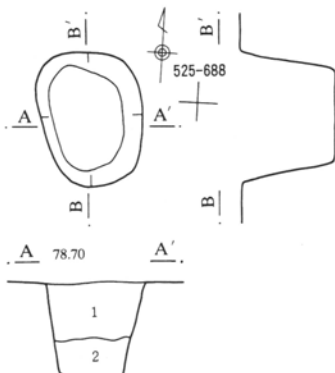
315号土坑



315号土坑

1 明黄褐色土 As-B混土。しまり強く
固い。FAを多量に含む。
黒色土ブロックを含む。

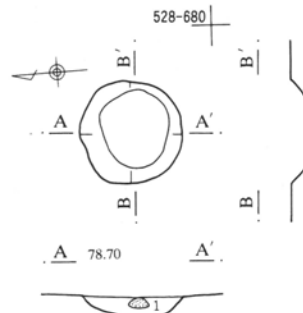
316号土坑



316号土坑

1 明褐色土 しまり強く固い。
黒色土ブロック若干含む。
2 黄褐色土 FAと黒褐色土の混土。
As-Bを僅かに含む。

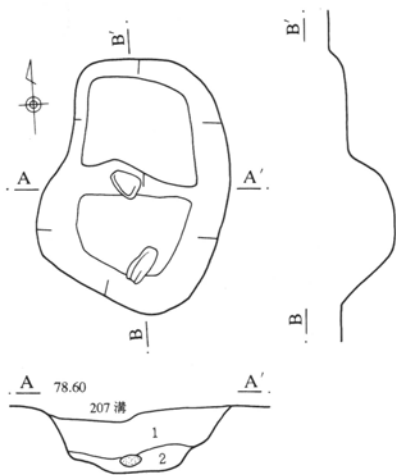
317号土坑



317号土坑

1 黒褐色土 As-B混土。
褐色粘質土ブロックを含む。

318号土坑



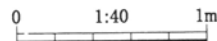
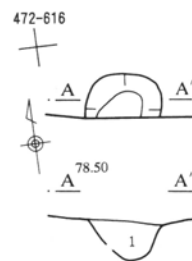
318号土坑

1 明褐色土 As-B混土。しまり強く固い。黒
色土・黄褐色土ブロックを含む。
2 明褐色土 1層に比べてやや黒色強い。

321号土坑

1 黒褐色土 黒褐色土主体に、As-Bを多量
に含む。粘性弱い。

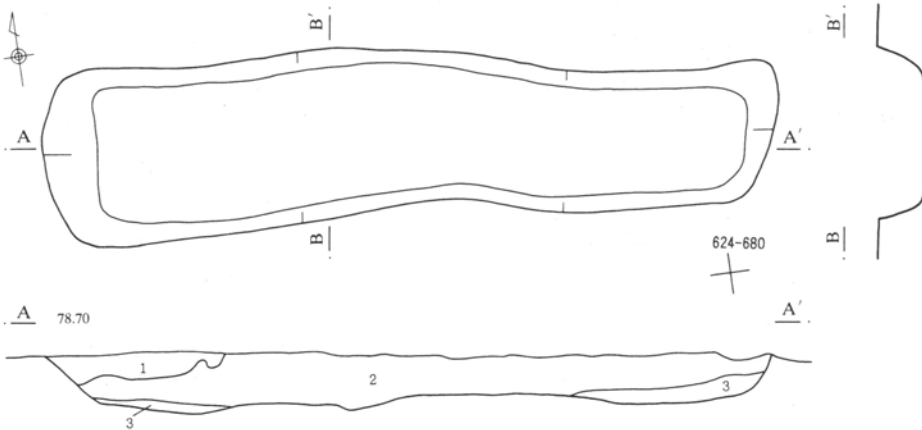
321号土坑



第314図 土坑実測図(2)

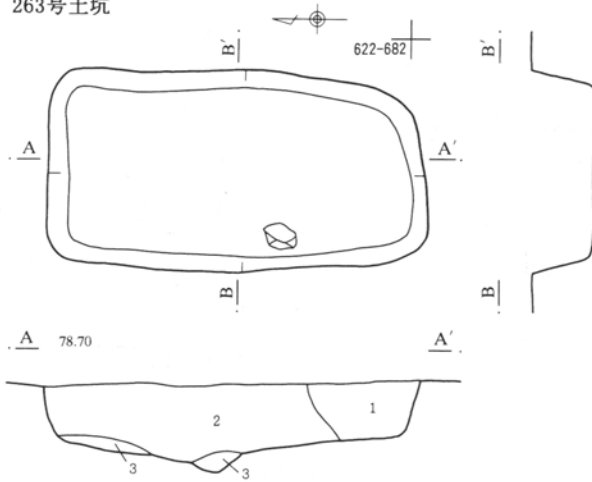
第2章 遺構と遺物

A-2区
262号土坑



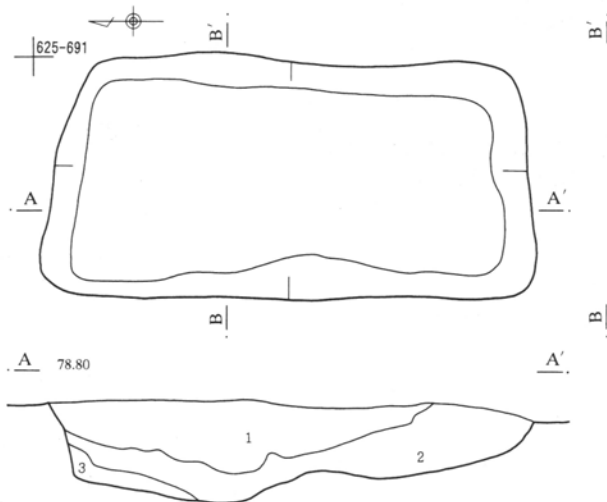
- 262号土坑
- 1 明褐色土
As-B混土。しまり強く固い。
 - 2 灰黄褐色土
FA混黒色土・FA粘質土・1層ブロック斑状に含む。
 - 3 灰黄褐色土
2層ブロックを斑状に含む。As-Bを多量に含む。

263号土坑



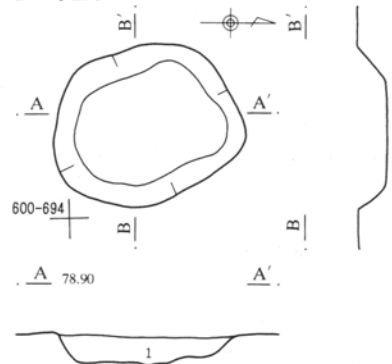
- 263号土坑
- 1 黒色土 As-B混土ブロック。黒色土、FAブロックを斑状に含む。黒色土ブロック多い。
 - 2 黒色土 As-B混土ブロック。黒色土、FAブロックを斑状に含む。As-B混土ブロック多い。
 - 3 黒色土 2層のブロックを小さく、As-Bを多量に含む。

264号土坑

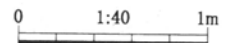


- 264号土坑
- 1 明褐色土 As-B混土。しまり強く固い。
 - 2 灰黄褐色土 FA混黒色土、FA粘質土ブロックを斑状に含む。
 - 3 灰黄褐色土 2層ブロックを斑状に含む。As-Bを多量に含む。

272号土坑



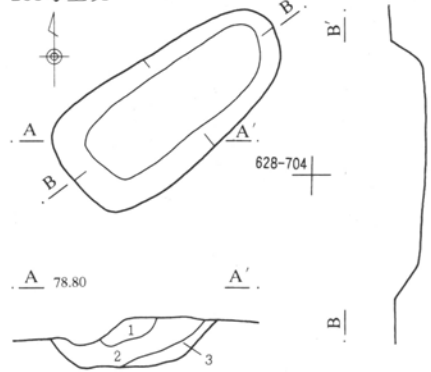
- 272号土坑
- 1 にぶい黄褐色土 As-B混土。粘性強い。



第315図 土坑実測図(3)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

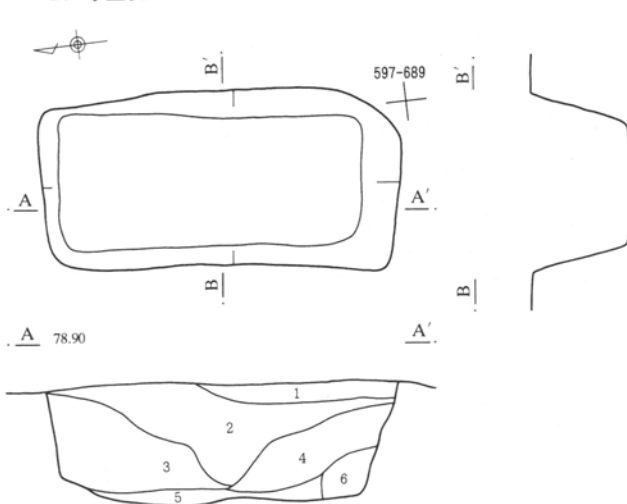
265号土坑



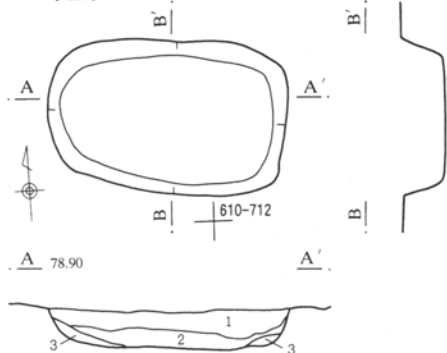
265号土坑

- 1 明褐色土 As-B混土。しまり強く固い。
- 2 灰黄褐色土 FA混土、1層ブロックを斑状に含む。
- 3 灰黄褐色土 2層ブロック、As-Bを多量に含む。

266号土坑



268号土坑



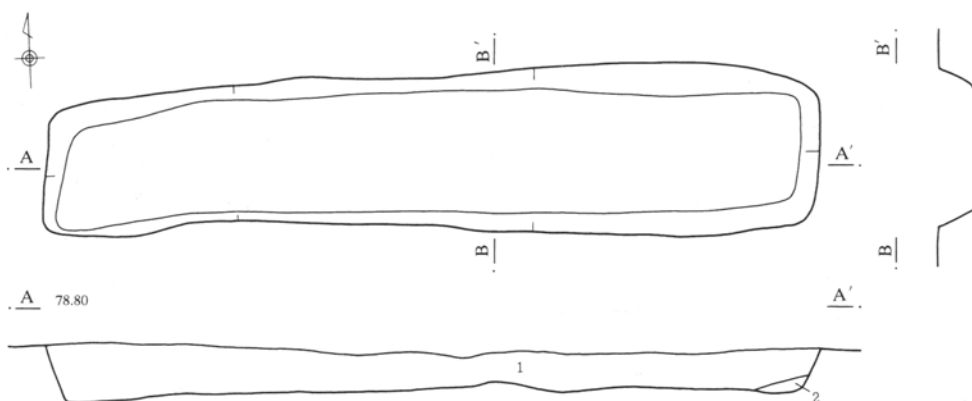
268号土坑

- 1 明褐色土 As-B含む。しまり強く固い。
- 2 明褐色土 As-Bを多量に含む。
- 3 灰褐色土 FA混土。

266号土坑

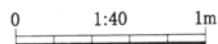
- 1 明褐色土 As-B混土。しまり強く固い。
- 2 灰褐色土 FA混土、1層ブロックを斑状に含む。
- 3 暗明褐色土 FA、灰白色粘質土ブロックを含む。
- 4 暗明褐色土 3層に同様であるが、灰白色粘質土ブロックが多い。
- 5 灰白色土 灰白色粘質土に1層砂状土を僅かに含む。
- 6 灰黄褐色土 壁の崩落土。

267号土坑



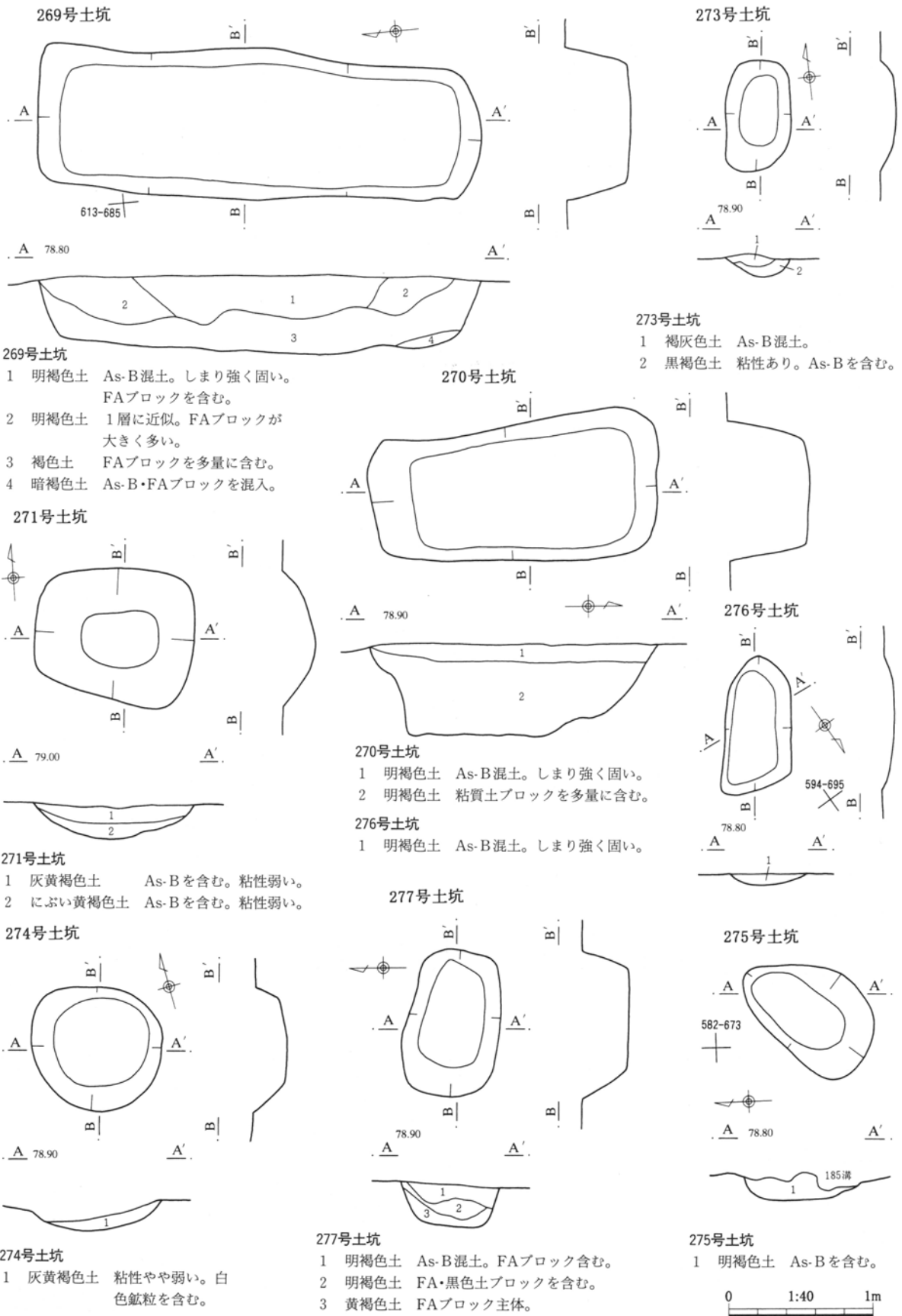
267号土坑

- 1 明褐色土 As-B混土。しまり強く固い。黒色土・FAブロックを含む。
- 2 明褐色土 FAブロックを含む。



第316図 土坑実測図(4)

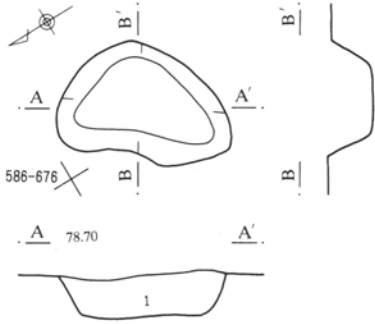
第2章 遺構と遺物



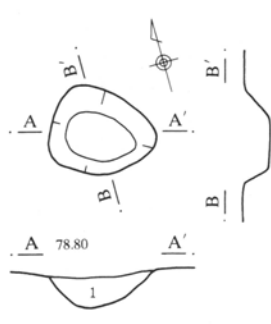
第317図 土坑実測図(5)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

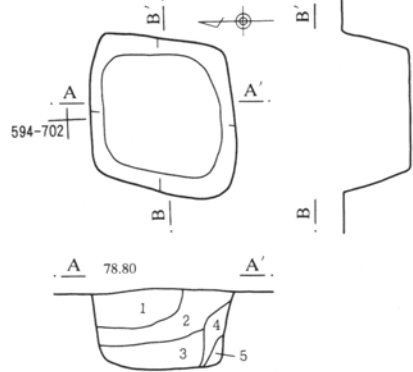
278号土坑



279号土坑



280号土坑



278号土坑

1 明褐色土 As-B・FAブロック含む。

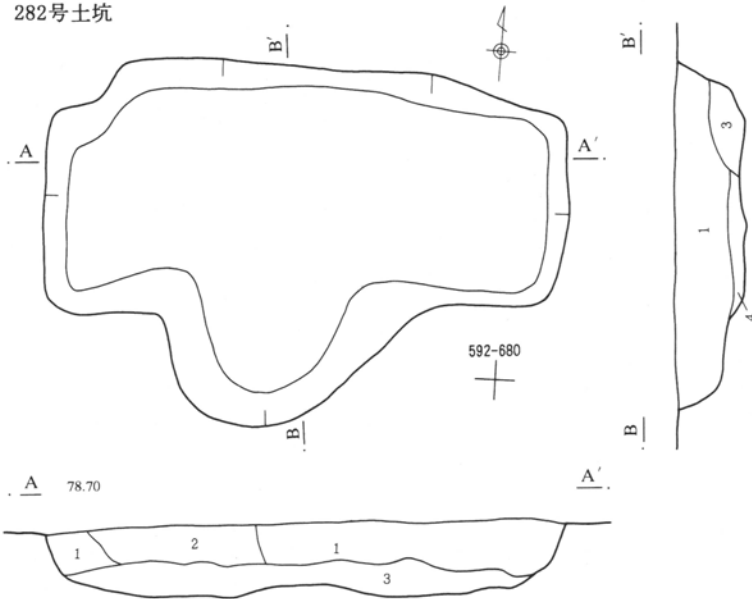
279号土坑

1 明褐色土 As-B混土。しまり強い。

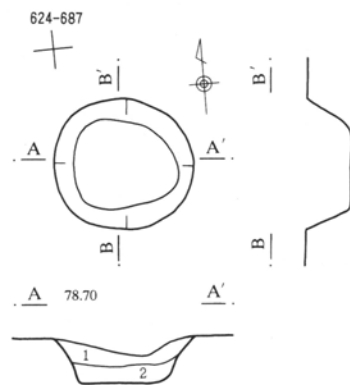
280号土坑

- 1 明褐色土 As-B混土。しまり強い。FAブロックを含む。
- 2 明褐色土 FA・黒色土ブロックを含む。
- 3 明褐色土 As-B混土。しまり弱い。
- 4 明褐色土 黄褐色ブロックを多量に含む。
- 5 明褐色土 3層に近似。僅かに粘性あり。

282号土坑



281号土坑



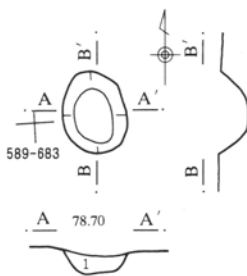
282号土坑

- 1 明褐色土 As-B混土。しまり強い。FA・黒色土ブロックを含む。
- 2 明褐色土 As-B混土。しまりない。FA・黒色土ブロックを含む。
- 3 黄灰褐色土 粘質土。黒色土ブロックを斑状に含む。
- 4 明褐色土 1層に近似。しまりなく砂質。

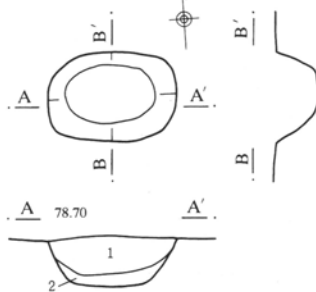
281号土坑

- 1 明褐色土 As-B混土。しまり強く固い。
- 2 黒褐色土 黒色土粒・FAを含む粘性のあるシルト質土の混土。

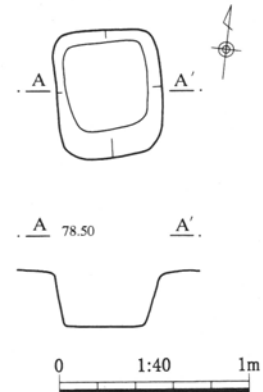
283号土坑



284号土坑



287号土坑

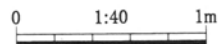


283号土坑

1 明褐色土 As-B混土。しまり強く固い。

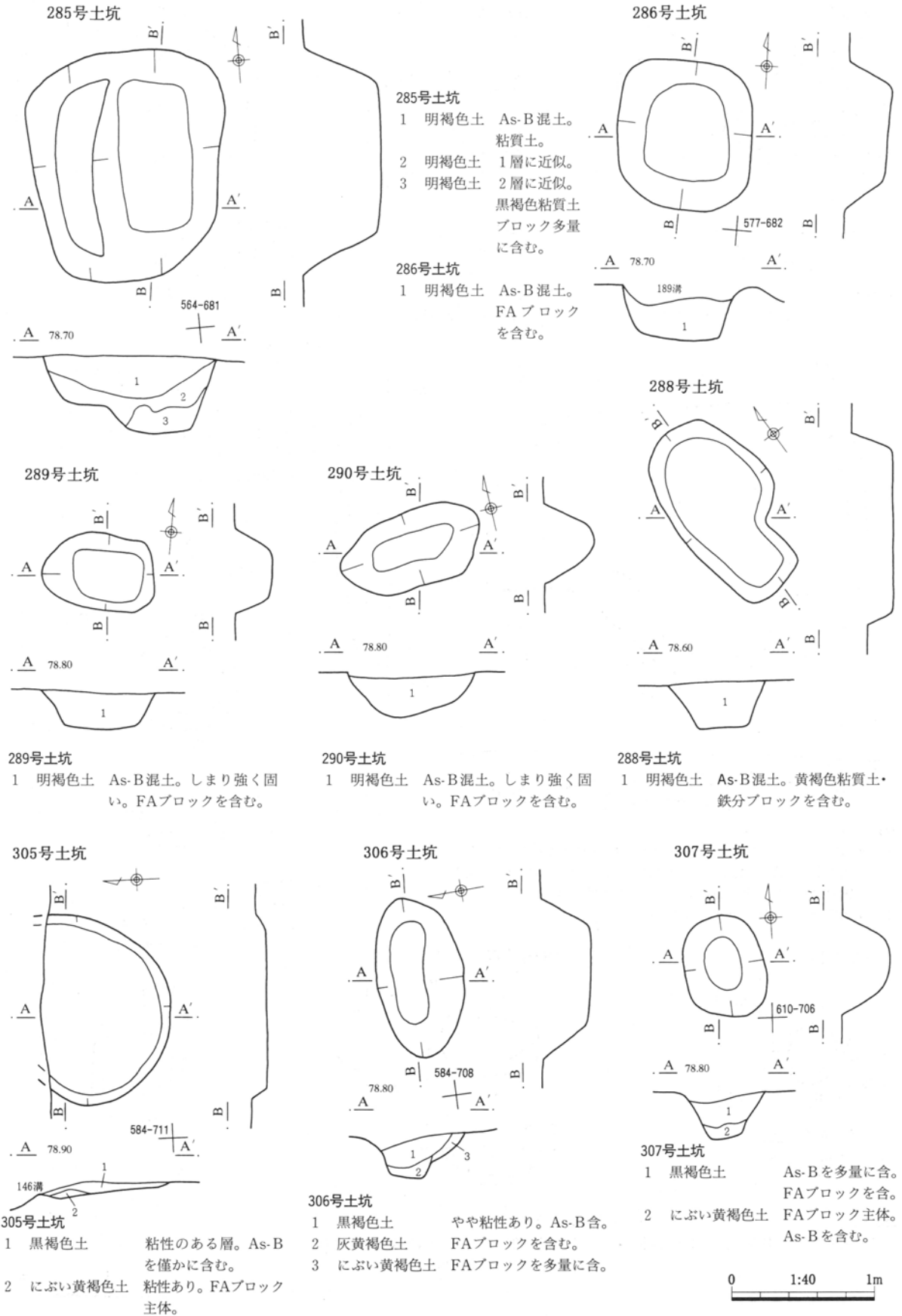
284号土坑

- 1 明褐色土 As-B・FAブロックを含む。
- 2 明褐色土 砂質土。



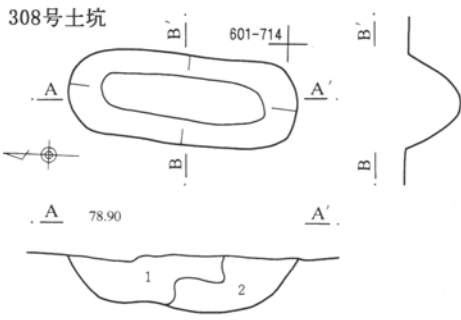
第318図 土坑実測図(6)

第2章 遺構と遺物

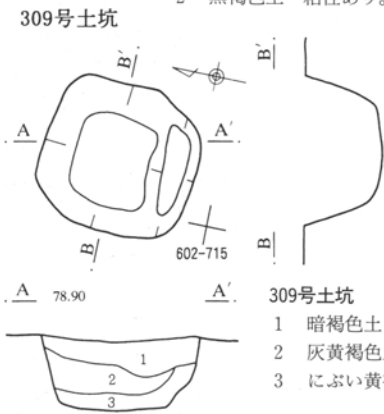


第319図 土坑実測図(7)

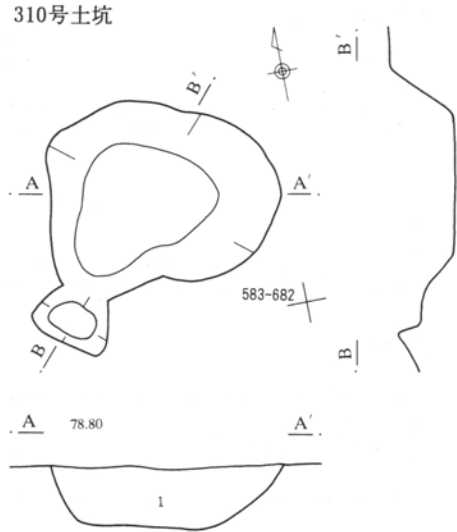
2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



- 308号土坑
 1 暗褐色土 As-Bを混土。FAブロックを含む。
 2 黒褐色土 粘性あり。As-BとFAブロックを含む。

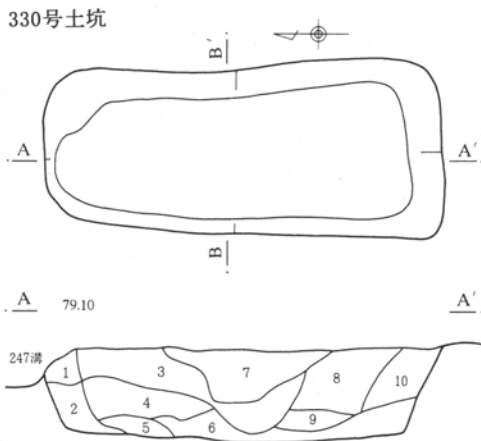


- 309号土坑
 1 暗褐色土 As-BとFAブロックの混土。
 2 灰黄褐色土 FAブロック主体。As-Bを含む。
 3 にぶい黄褐色土 1層に近似。

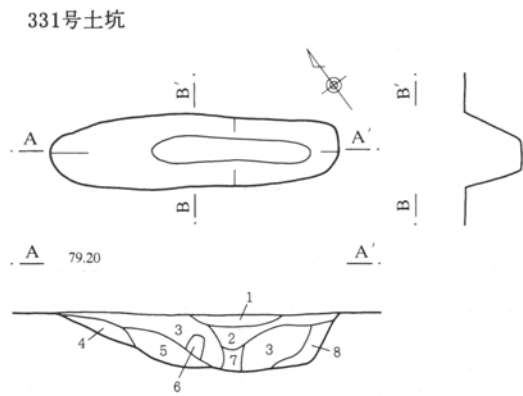


- 310号土坑
 1 にぶい黄褐色土 粘性弱い。As-BとFAブロックを含む。

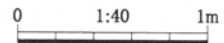
A-3区



- 330号土坑
 1 灰白色土 灰白色粘質土・黒褐色粘質土・FAブロックの混土。
 2 褐灰色土 粘性弱い。FAブロック含む。
 3 灰黄褐色土 黒褐色土、FA・灰白色ブロックの混土。
 4 灰黄褐色土 FA・黒褐色土ブロックを含む。
 5 黒褐色土 砂質土。
 6 灰白色土 灰白色粘質土主体。FAブロックを含む。
 7 黒褐色土 As-Bを多量に含む。FAブロックを含む。
 8 黒褐色土 7層とFA・灰白色ブロックの混土。
 9 褐灰色土 FAブロックを若干含む。As-Bも含む。
 10 黒褐色土 黒褐色粘質土・FA・褐灰色土ブロックの混土。



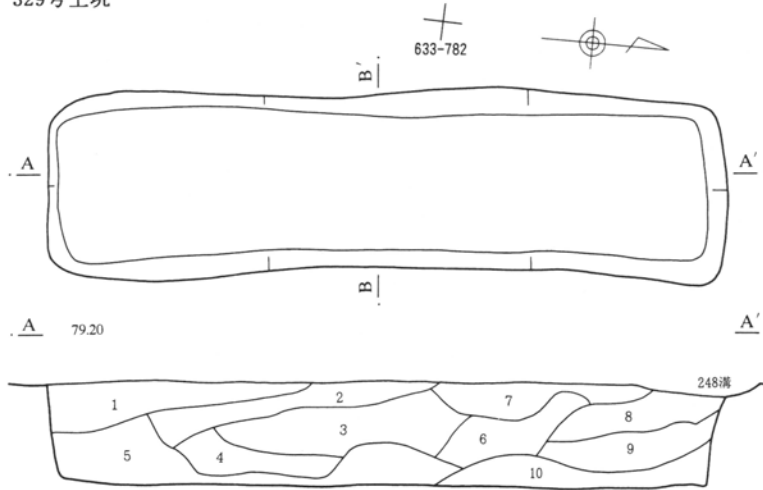
- 331号土坑
 1 褐灰色土 As-B混土。粘性弱い。FA粒を含む。
 2 褐灰色土 粘性弱い。As-B混土。
 3 褐灰色土 粘性弱い。As-B混土。FAブロックを含む。
 4 明黄褐色土 FAブロック。
 5 黒色土 FAブロックを含む。
 6 灰黄褐色土 As-B混土。
 7 褐灰色土 As-B混土。粘性弱い。FAブロックを含む。
 8 黒褐色土 粘性弱い。As-B混土。



第320図 土坑実測図(8)

第2章 遺構と遺物

329号土坑



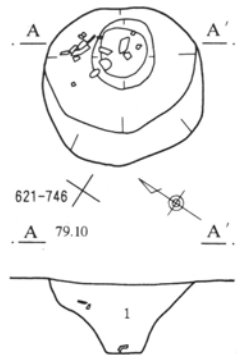
329号土坑

- 1 灰黄褐色土 As-B混土。FAブロックを含む。
- 2 褐灰色土 FA・黒色粘質土ブロックを含む。
- 3 褐灰色土 FA・黒色粘質土ブロックを含む。
- 4 褐灰色土 3層に近似。黒色粘質土ブロックを多量に含む。
- 5 褐灰色土 FA・黒褐色土ブロックを含む。
- 6 褐灰色土 褐灰色粘質土・FA・黒色粘質土ブロックの混土。
- 7 褐灰色土 FAブロックを含む。
- 8 褐灰色土 FAブロックを多量に含む。
- 9 灰黄褐色土 黒褐色粘質土・FAブロック・褐灰粘質土の混土。
- 10 黒褐色土 FAブロックを含む。

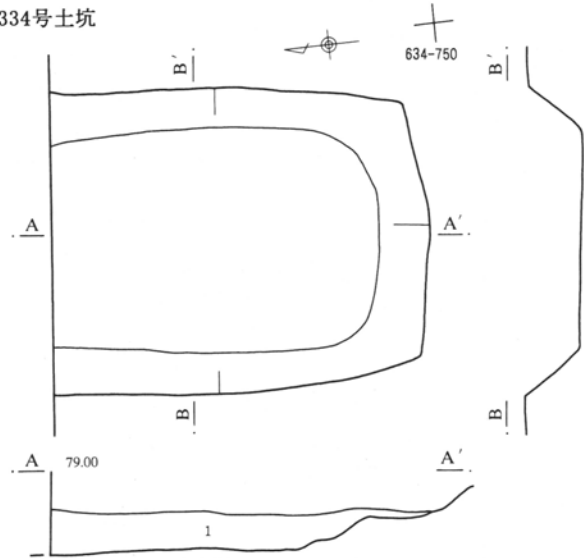
332号土坑

- 1 褐灰色土
As-B混土。砂質土を
主体とする。

332号土坑



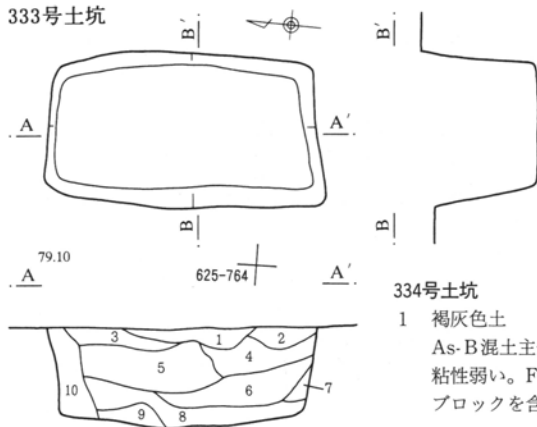
334号土坑



334号土坑

- 1 褐灰色土
As-B混土主体。
粘性弱い。FA
ブロックを含む。

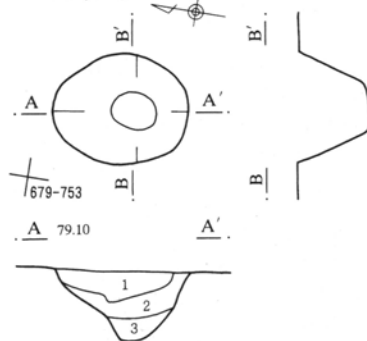
333号土坑



333号土坑

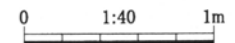
- 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。
- 2 黄褐色土 As-Bを多量に含む。FA・灰色粘質土ブロックを含む。しまりなし。
- 3 黒色土 黒色・灰色粘質土・FA粒の混土。しまり弱い。
- 4 黒色土 黒色土ブロック、灰色粘質土を含む。
- 5 灰色土 灰色粘質土・黒色土ブロックを含む。
- 6 黄褐色土 黒色・FAブロックを含む。
- 7 灰色土 灰色粘質土。
- 8 黒色土 黒色土ブロック主体。FAブロックを含む。
- 9 黒色土 黒色砂質土。
- 10 黒色土 多量のAs-BとFAブロックを含む。

335号土坑

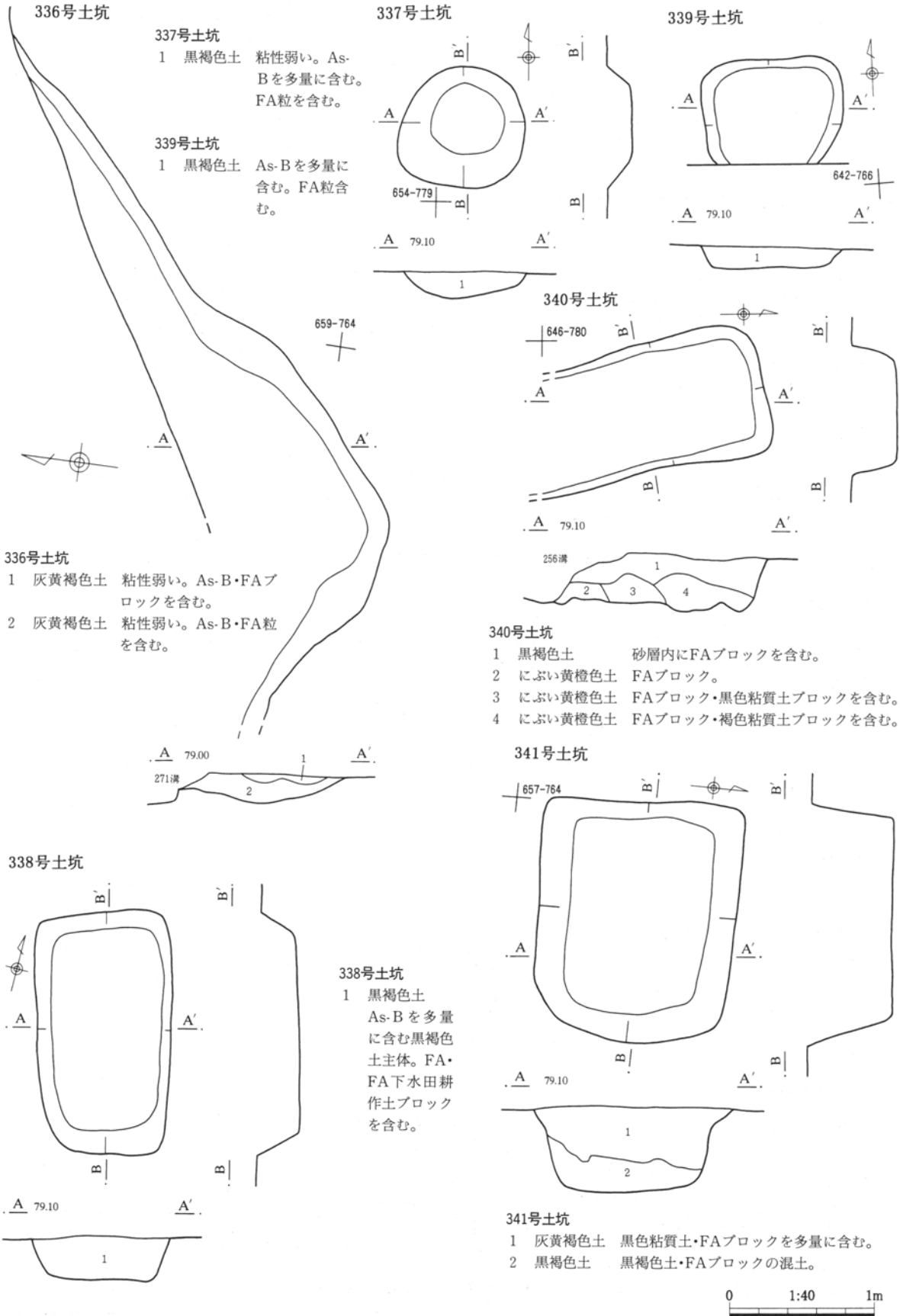


335号土坑

- 1 にぶい黄褐色土
粘性あり。As-B、
FA粒を含む。
- 2 褐灰色土
粘性あり。FAブ
ロックを含む。
- 3 灰黄褐色土
粘性あり。FAブ
ロックを含む。

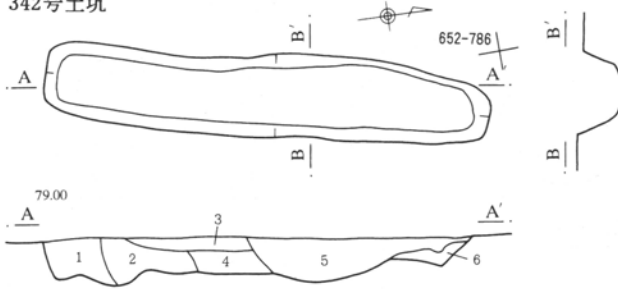


第321図 土坑実測図(9)



第322図 土坑実測図(10)

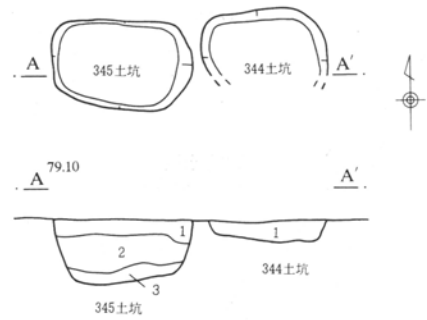
342号土坑



342号土坑

- 1 暗褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。
- 2 褐灰色土 粘性弱い。酸化鉄分の斑点あり。
- 3 褐灰色土 粘性弱い。As-Bを斑状に含む。
- 4 褐灰色土 粘性弱い。As-B・FA粒を含む。
- 5 褐灰色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 6 黄褐色土 粘性弱い。As-B・FAブロックの混土。

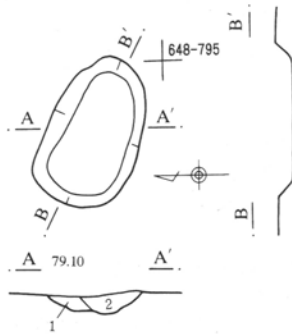
344・345号土坑



344・345号土坑

- 1 黒褐色土 粘性弱い。As-B混土。FAブロックを含む。
- 2 灰黄褐色土 粘性弱い。1層と白色粘質土ブロックの混土。
- 3 黒褐色土 粘性弱い。As-B混土。FAブロックを含む。

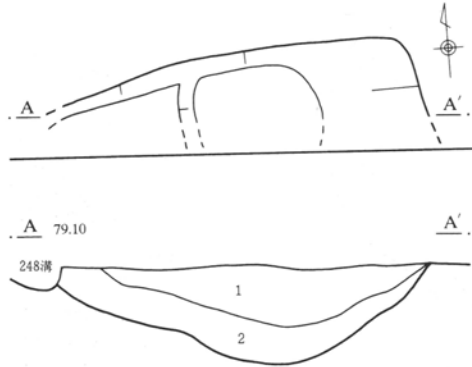
343号土坑



343号土坑

- 1 褐灰色土 FA粒を含む。粘性あり。
- 2 褐灰色土 1層に近似。黒褐色粘質土ブロック含む。

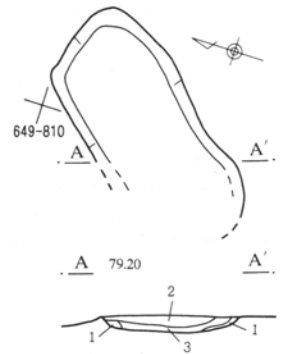
346号土坑



346号土坑

- 1 褐灰色土 As-B混土、FA・灰白粘質土ブロックの混土。
- 2 灰黄褐色土 灰白粘質土ブロックが多い。

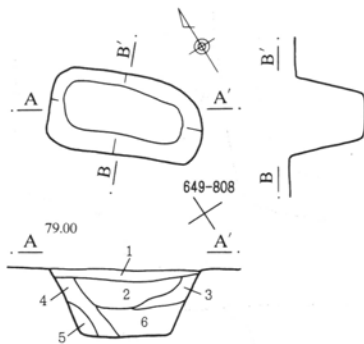
348号土坑



348号土坑

- 1 褐色土 多量のAs-Bを含む。
- 2 黄褐色土 しまりあり。As-Bを含む。
- 3 にぶい黄褐色土 しまりあり。As-Bを含む。

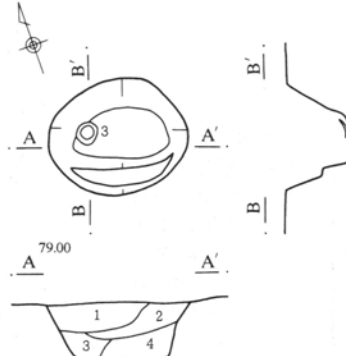
347号土坑



347号土坑

- 1 褐灰色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。
- 2 灰黄褐色土 粘性弱い。As-B・FA粒を含む。
- 3 にぶい黄褐色土 粘性弱い。FAブロックを多量に含む。
- 4 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。
- 5 灰黄褐色土 粘性あり。As-B・FA粒を含む。
- 6 黒褐色土 FAブロックを含む。

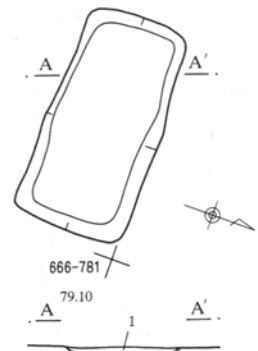
349号土坑



349号土坑

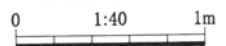
- 1 灰黄褐色土 As-B・FA粒を含む。粘性弱い。
- 2 黒褐色土 As-Bを多量に含む。
- 3 黒褐色土 やや粘性あり。As-B・FA粒を含む。
- 4 黒褐色土 粘性あり。As-B・FA粒含む。

351号土坑



351号土坑

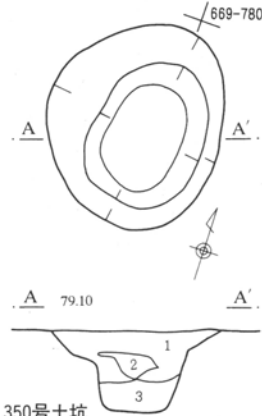
- 1 灰黄褐色土 粘性ややあり。As-B・FAブロックを含む。



第323図 土坑実測図(11)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

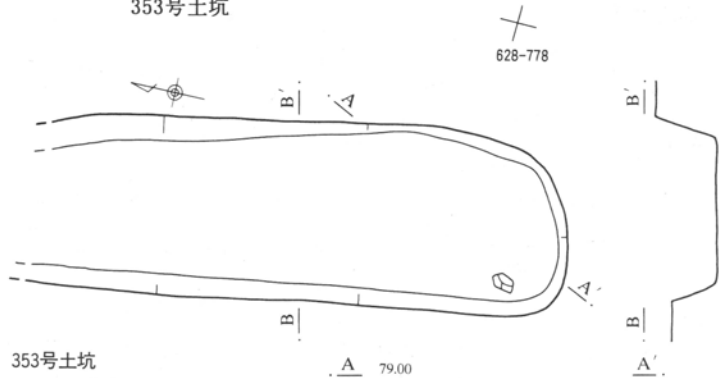
350号土坑



350号土坑

- 1 灰黄褐色土 FA粒含む。
- 2 にぶい黄褐色土 FAブロック多量に含む。
- 3 灰黄褐色土 FAブロック含む。

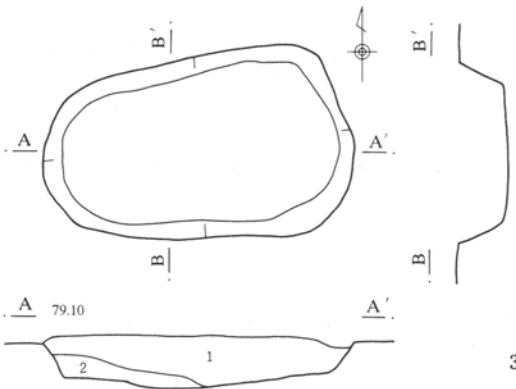
353号土坑



353号土坑

- 1 灰黄褐色土
FAブロック・As-Bを含む。
- 2 褐灰色土
粘性弱い。FA・黒色粘質土
ブロック・As-Bを含む。

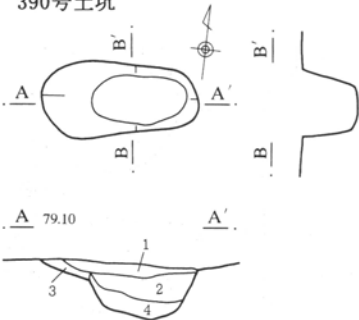
387号土坑



387号土坑

- 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。しまりあり。
黄褐・灰黄褐色土ブロック含む。
- 2 黒褐色土 1層に近似。色調やや暗い。

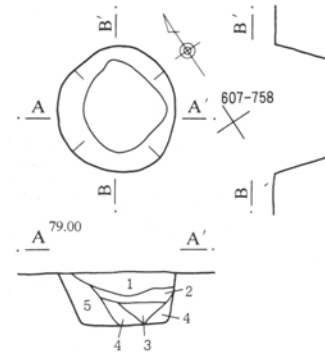
390号土坑



390号土坑

- 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。
- 2 灰黄褐色土 As-Bを多量に含む。しまりあり。
- 3 灰黄褐色土 As-Bを多量に含む。上面に炭層が見える。
- 4 黒褐色土 地山層に近似。しまりなし。鉄分含む。上層に灰層が見える。

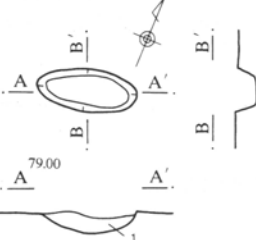
388号土坑



388号土坑

- 1 褐灰色土
As-Bを多量に含む。しまりあり。黄色土が混入。
- 2 褐灰色土
As-Bを少量含む。
- 3 黒褐色土
しまりあり。
- 4 にぶい黄褐色土
壁土が崩れたもの。
- 5 黄褐色土
黄褐色ブロックを含む。

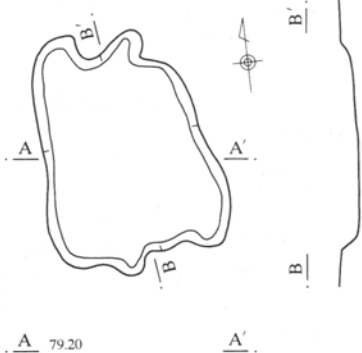
389号土坑



389号土坑

- 1 暗褐色土 As-Bを多量に含む。
しまりあり。

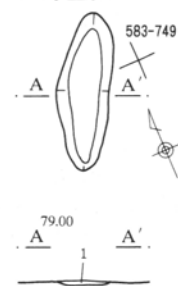
391号土坑



391号土坑

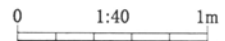
- 1 暗褐色土 As-Bを多量に含む。

392号土坑



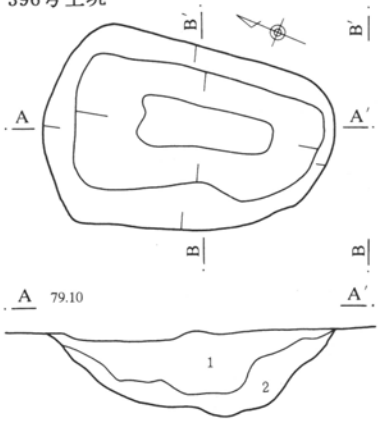
392号土坑

- 1 褐色土 しまりあり。

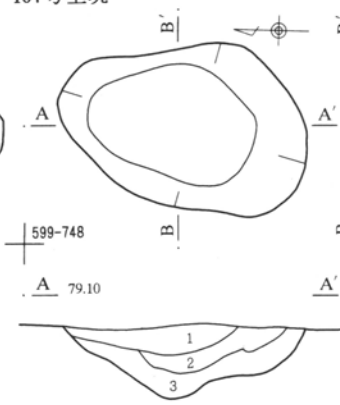


第324図 土坑実測図(12)

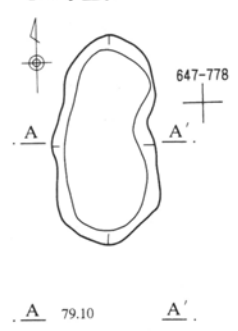
396号土坑



407号土坑



476号土坑



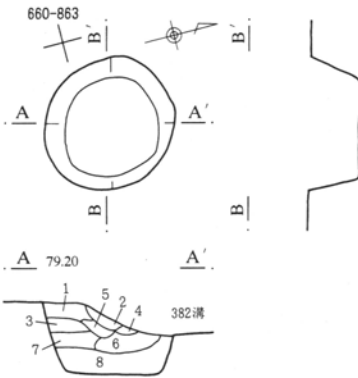
396号土坑

- 1 黒褐色土 褐灰色土・As-Bを多量に含む。
- 2 黒褐色土 As-Bを多量に含む。しまりなし。

407号土坑

- 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。灰褐色土ブロックを多量に含む。
- 2 黒色土 As-Bを多量に含む。
- 3 黒色土 As-Bを多量に含む。灰褐色土ブロックを含む。

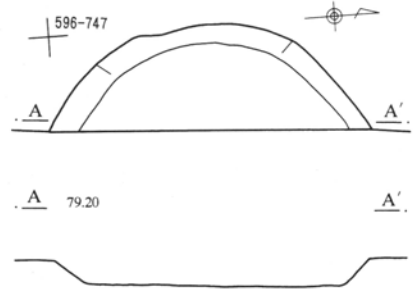
449号土坑



449号土坑

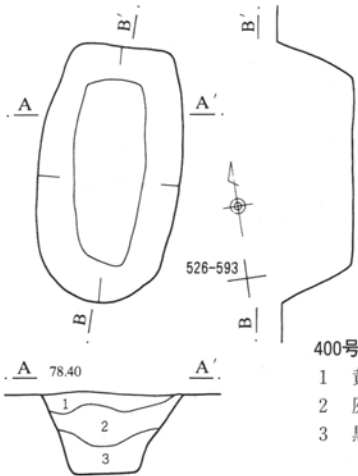
- 1 褐色土 As-Bを少量含む砂質土。
- 2 灰黄褐色土 灰黄褐色粘性ブロック土。
- 3 灰黄褐色土 灰黄褐色粘性ブロック土。
- 4 灰黄褐色土 灰黄褐色粘性ブロック土。ややAs-Bを含む。
- 5 灰白色土 粘質土。黒色ブロックを含む。
- 6 灰白色土 粘質土。酸化鉄を含む。
- 7 黒褐色土 As-B混土。やや白色粘質土を含む。
- 8 暗褐色土 黄灰色粘土ブロック主体。

479号土坑



Aランプ

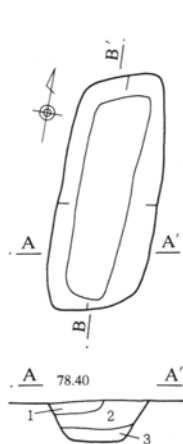
399号土坑



399号土坑

- 1 黒色土 FAブロックを含む。
- 2 黒褐色土 粘質土小ブロックを含む。As-Bを含む。
- 3 灰黄褐色土 砂質土。As-Bを多量に含む。

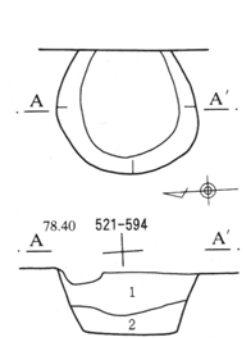
400号土坑



400号土坑

- 1 黄褐色土 As-B含む。
- 2 灰黄褐色土 As-B多量に含む。
- 3 黒褐色土 粘性あり。As-B含む。

401号土坑



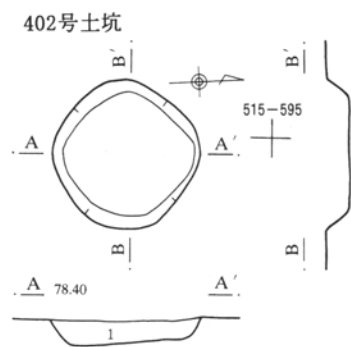
401号土坑

- 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。砂質土。
- 2 黒褐色土 粘質土。As-Bをブロック状に含む。

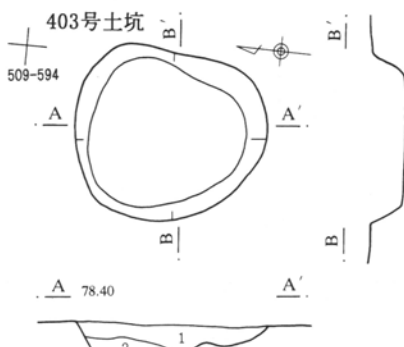
0 1:40 1m

第325図 土坑実測図(13)

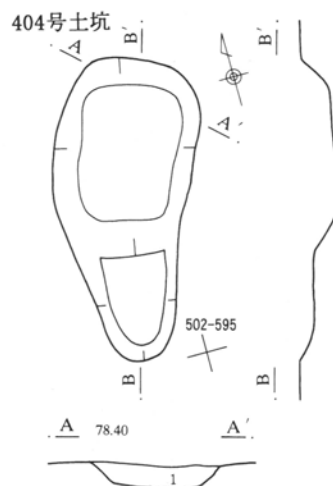
2. 中・近世面 (鎌倉時代~近世)



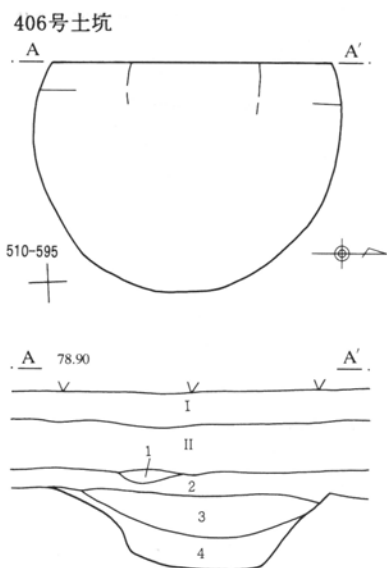
402号土坑
1 灰黄褐色土 As-Bを含む。砂質土。



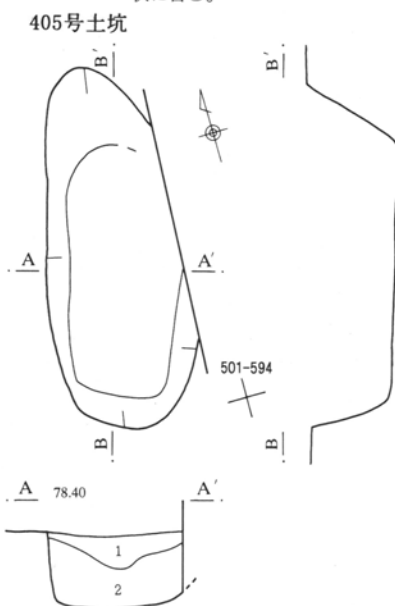
403号土坑
1 灰黄褐色土 As-Bを多量に含む。砂質土。
2 黒褐色土 粘質土主体。As-Bをブロック状に含む。



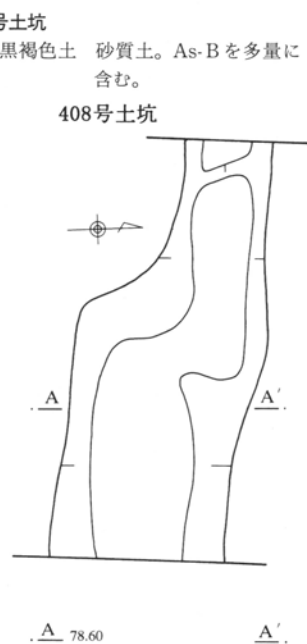
404号土坑
1 黒褐色土 砂質土。As-Bを多量に含む。



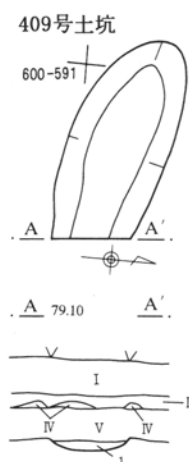
406号土坑
1 褐灰色土 As-A主体。粘性弱い。
2 にぶい黄褐色土 As-Bを多量に含む。
3 黒褐色土 As-Bを多量に含む。褐灰色粘質土ブロックを含む。
4 黒褐色土 As-B多量に含む。砂質土。



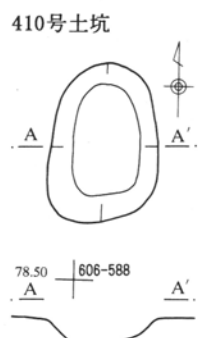
405号土坑
1 灰黄褐色土 砂質土。As-B多量に含む。黒褐色土ブロック含む。
2 褐灰色土 黒褐色・褐灰色土ブロック、As-Bの混土。



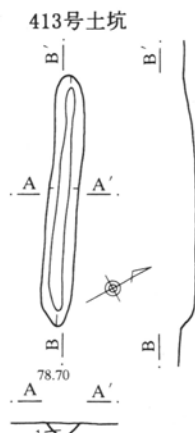
408号土坑
1 褐灰色土 黒褐色砂質土・FAブロックの混土。
2 褐灰色土 FA・黒褐色砂質土小ブロック含む。
3 黒褐色土 砂質土。As-Bを含む。
4 灰黄褐色土 粘質土。As-Bを含む。



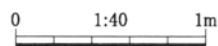
409号土坑
1 黒褐色土 As-B混土。



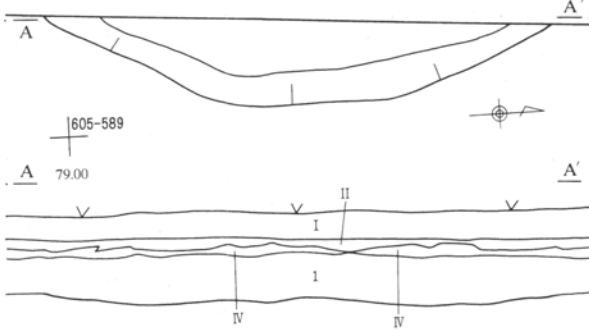
410号土坑
1 にぶい黄褐色土 粘性弱い。砂質土。



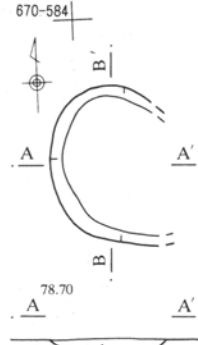
第326図 土坑実測図(14)



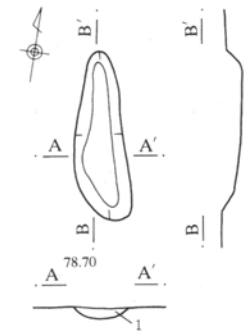
411号土坑



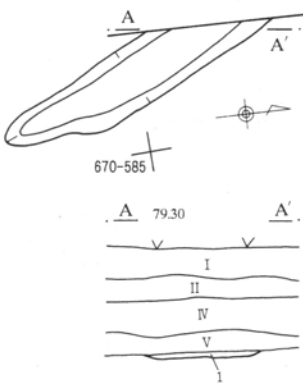
414号土坑



415号土坑



431号土坑



411号土坑

1 灰黄褐色土
粘性やや弱い。
As-Bを多量に含む。

431号土坑

1 褐灰色土
粘性弱い。砂質土。

438号土坑

1 褐灰色土 粘性あり。As-A含む。
2 褐灰色土 As-A主体。粘性弱い。
3 にぶい黄褐色土 粘性あり。As-Bを含む。
4 黒褐色土 As-Bを含む。
5 褐灰色土 砂質土。As-Bを多量に含む。
6 黒褐色土 砂質土。As-Bを多量に含む。

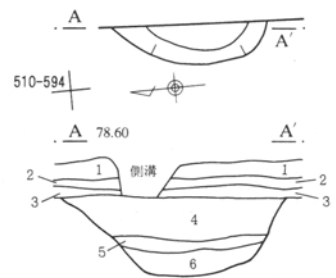
414号土坑

1 にぶい黄褐色土
粘性弱い。砂質土。

415号土坑

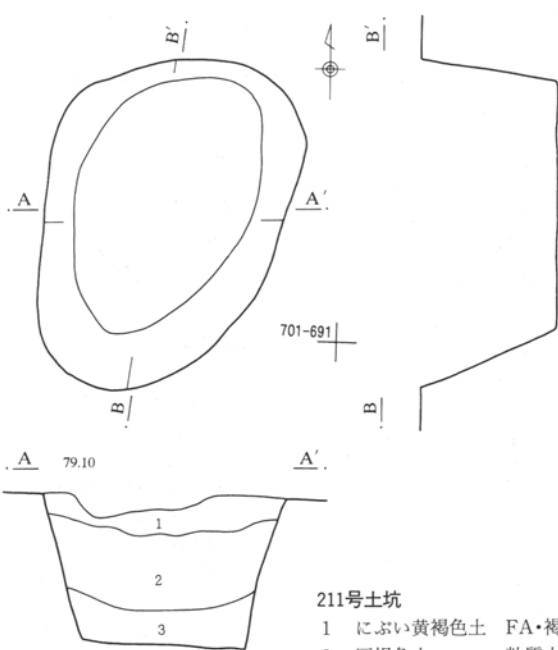
1 にぶい黄褐色土
粘性弱い。砂質土。

438号土坑



B区

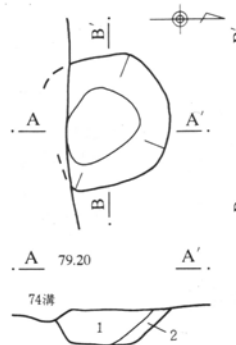
211号土坑



211号土坑

1 にぶい黄褐色土 FA・褐灰色土ブロックの混土。粘性あり。
2 灰褐色土 粘質土。FAブロックを含む。
3 灰黄褐色土 粘質土。FAブロックを含む。

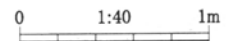
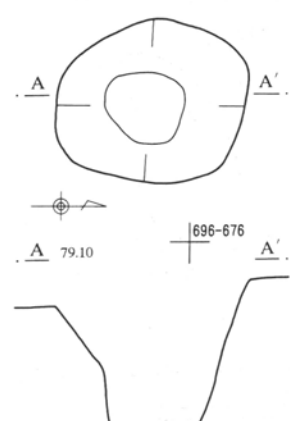
213号土坑



213号土坑

1 黒褐色土
砂質土。As-B混土。
2 灰黄褐色土
砂質土。As-Bを少量
含む。

221号土坑



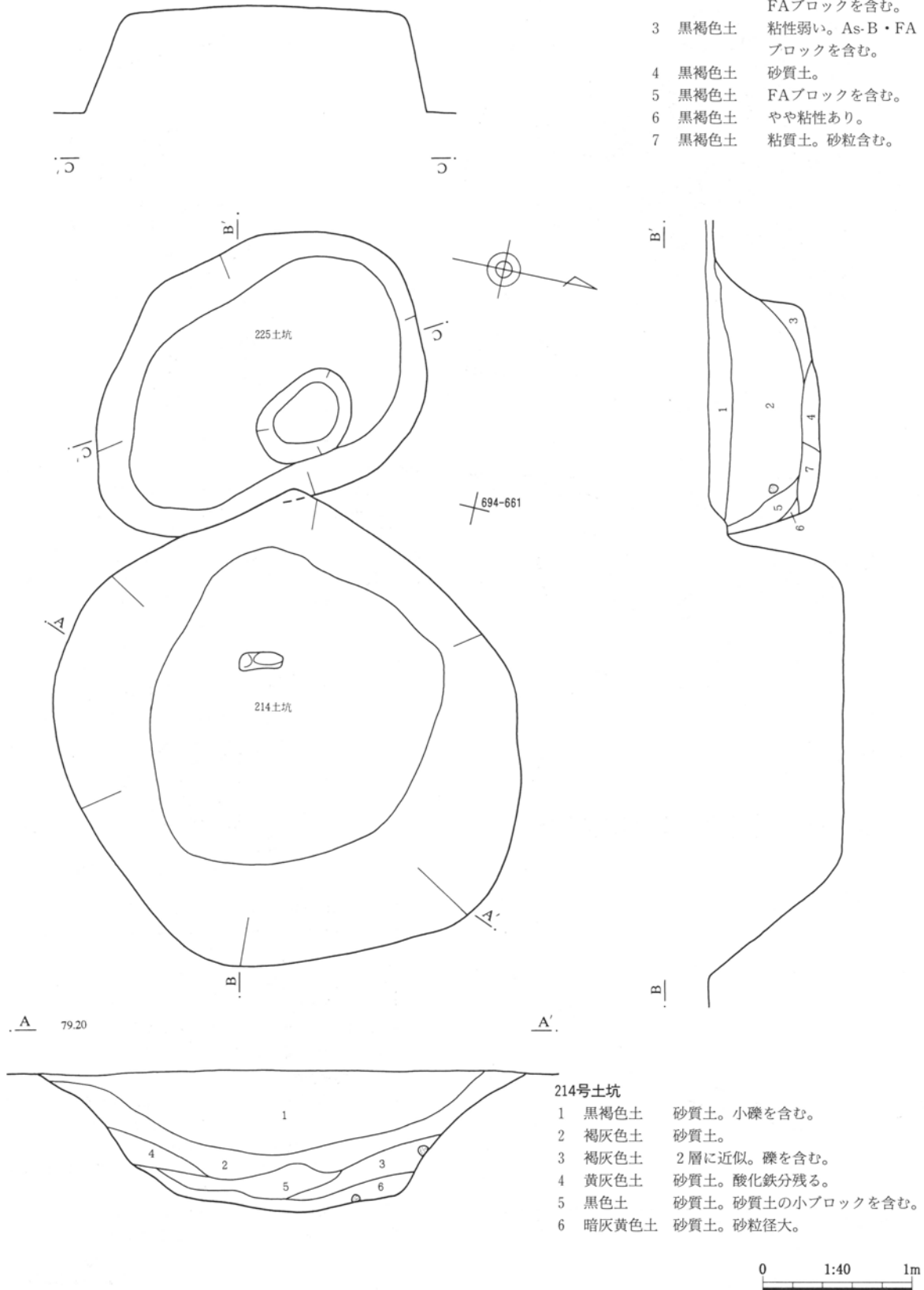
第327図 土坑実測図(15)

214・225号土坑

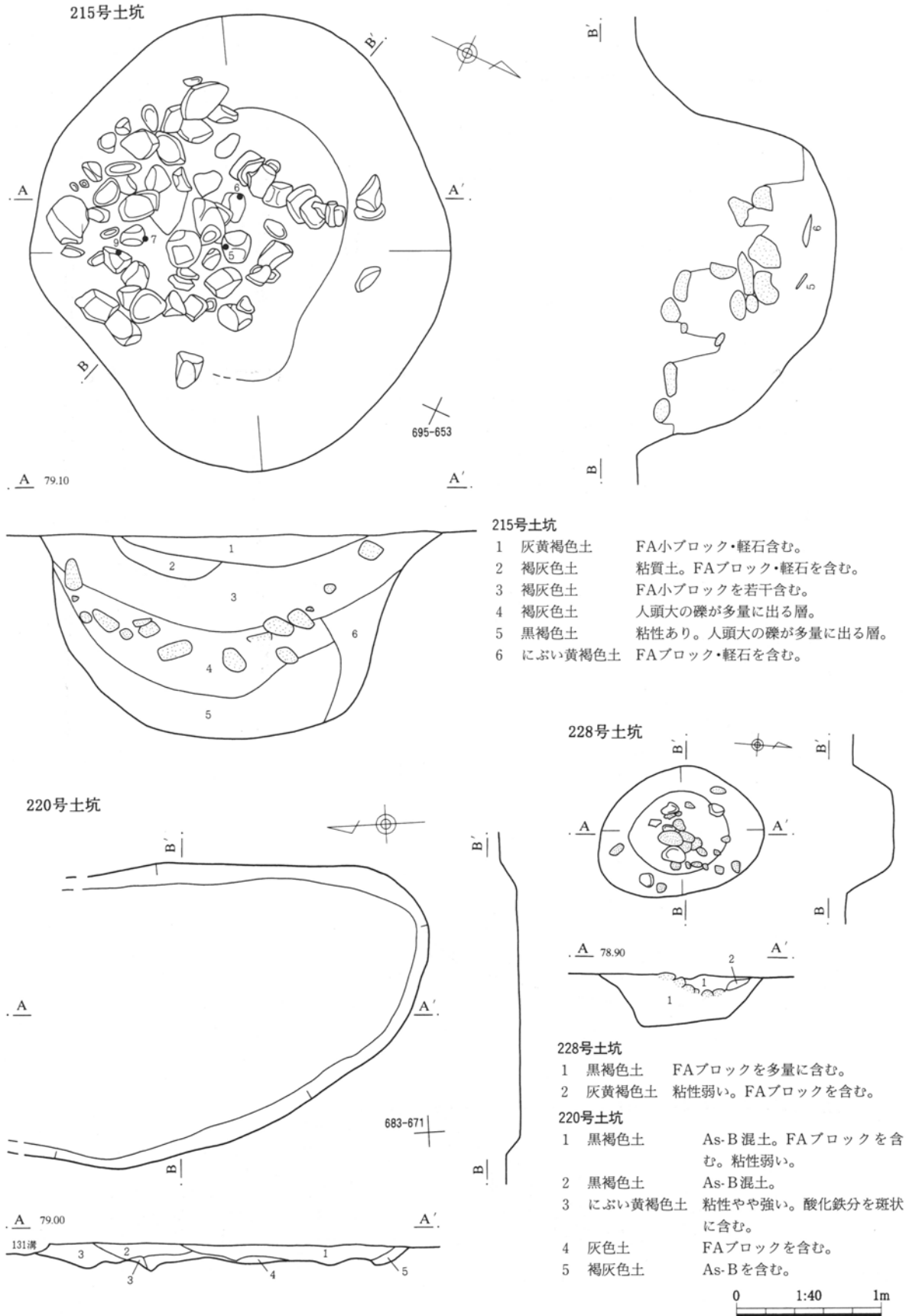
2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

225号土坑

- 1 灰黄褐色土 As-B混土。粘性弱い。
- 2 黒色土 粘性弱い。As-B混土。FAブロックを含む。
- 3 黒褐色土 粘性弱い。As-B・FAブロックを含む。
- 4 黒褐色土 砂質土。
- 5 黒褐色土 FAブロックを含む。
- 6 黒褐色土 やや粘性あり。
- 7 黒褐色土 粘質土。砂粒含む。



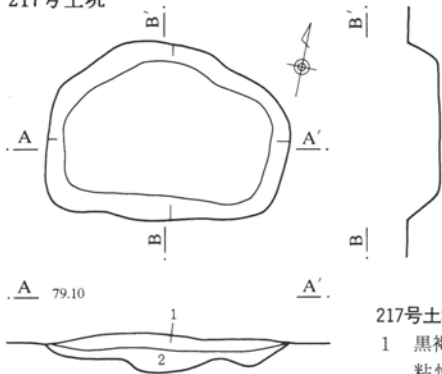
第328図 土坑実測図(16)



第329図 土坑実測図(17)

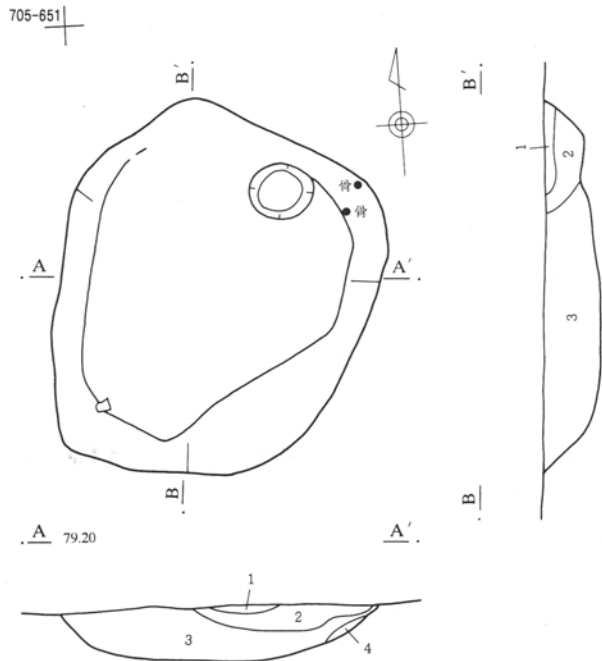
2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

217号土坑



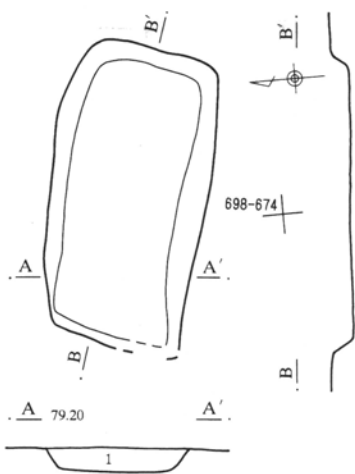
- 217号土坑
- 1 黒褐色土
粘性弱い。酸化鉄分の斑点有。
 - 2 黒褐色土
粘性弱い。FAブロックを含む。

216号土坑



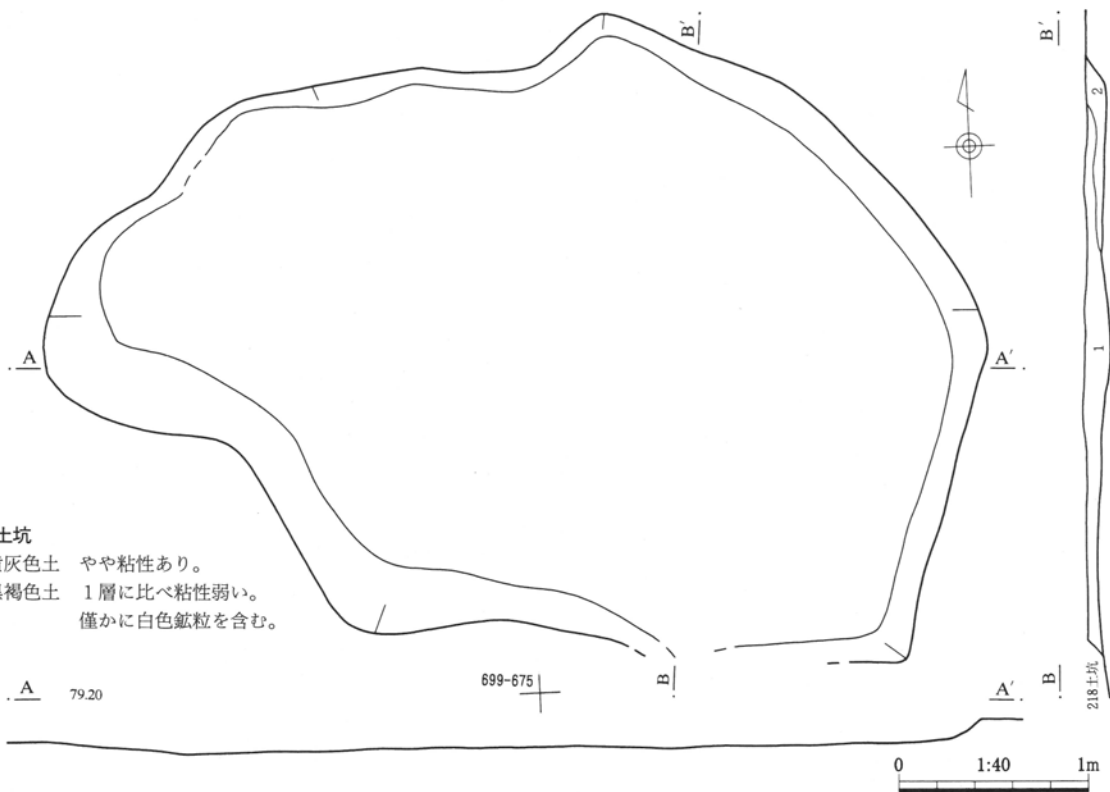
- 216号土坑
- 1 褐灰色土 砂質土。
 - 2 褐灰色土 FAブロックを含む。
 - 3 灰黄褐色土 FAブロックを多量に含む。
 - 4 にぶい黄褐色土 FA主体。褐灰色土を少量含む。

218号土坑



- 218号土坑
- 1 黒褐色土
軽石を斑点状に含む。粘性弱い。

219号土坑

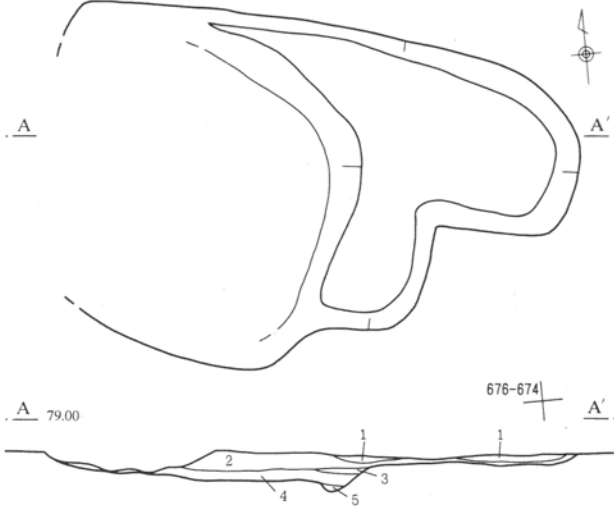


- 219号土坑
- 1 黄灰色土 やや粘性あり。
 - 2 黒褐色土 1層に比べ粘性弱い。僅かに白色鉄粒を含む。

0 1:40 1m

第330図 土坑実測図(18)

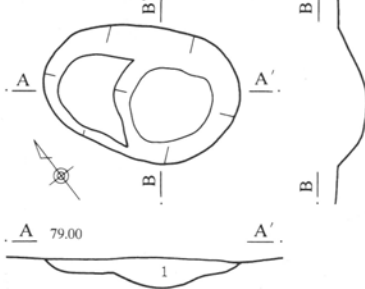
222号土坑



222号土坑

- 1 黒褐色土 粘性弱い。As-B・FA粒を含む。
- 2 暗褐色土 FAブロックを含む。
- 3 黒褐色土 粘性強い。FAブロックを含む。
- 4 暗褐色土 As-B・FAブロックを含む。
- 5 暗褐色土 As-Bを僅かに含む。

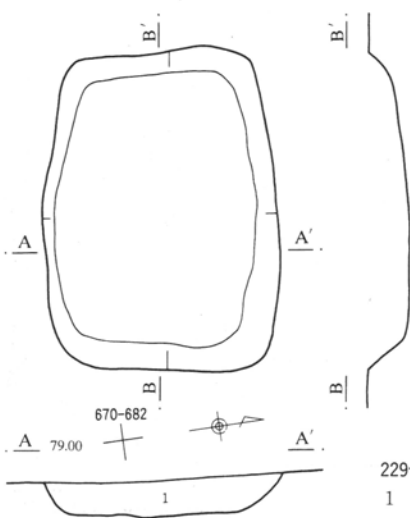
223号土坑



223号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 粘性弱い。酸化鉄分斑状にあり。

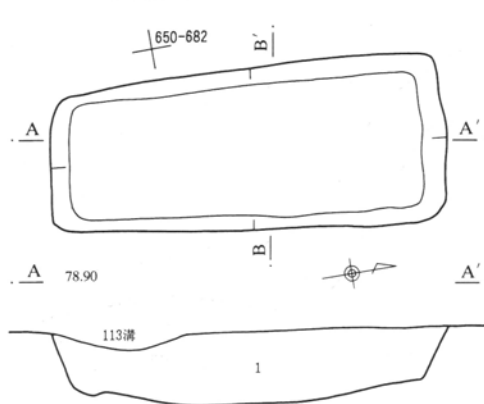
229号土坑



226号土坑

- 1 黒褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 2 暗褐色土 粘性弱い。FAブロックを若干含む。

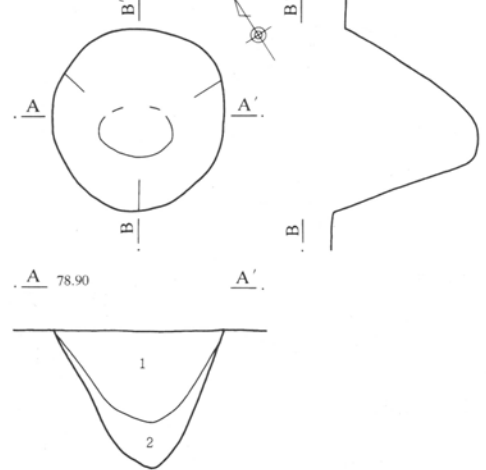
230号土坑



229号土坑

- 1 黒褐色土 FAブロックを多量に含む。

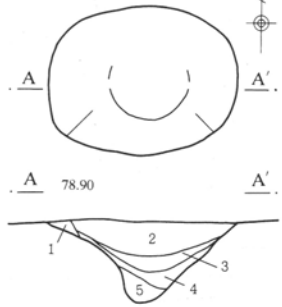
224号土坑



224号土坑

- 1 褐灰色土 黒褐色土とFAブロックの混土。
- 2 灰黄褐色土 やや粘性あり。

227号土坑

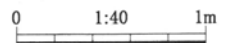


227号土坑

- 1 灰黄褐色土 粘性なし。FAブロックを含。
- 2 褐灰色土 粘性弱い。FAブロックを含む。
- 3 褐灰色土 粘性あり。FAブロックを含む。
- 4 にぶい黄褐色土 粘性弱い。
- 5 褐灰色土 粘質土主体。FAブロックを含む。

230号土坑

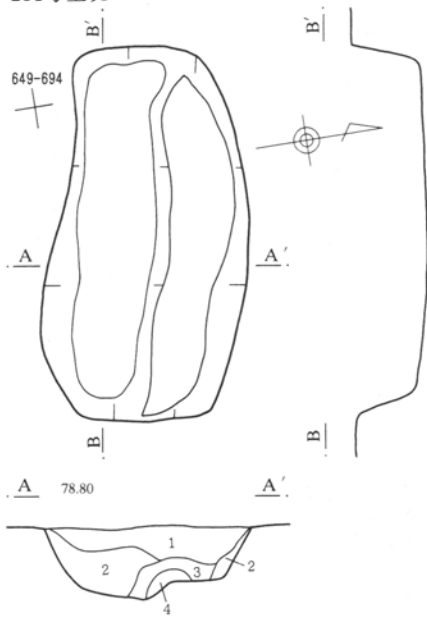
- 1 褐色土 FA・As-Bを含む。しまりあり。



第331図 土坑実測図(19)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

231号土坑



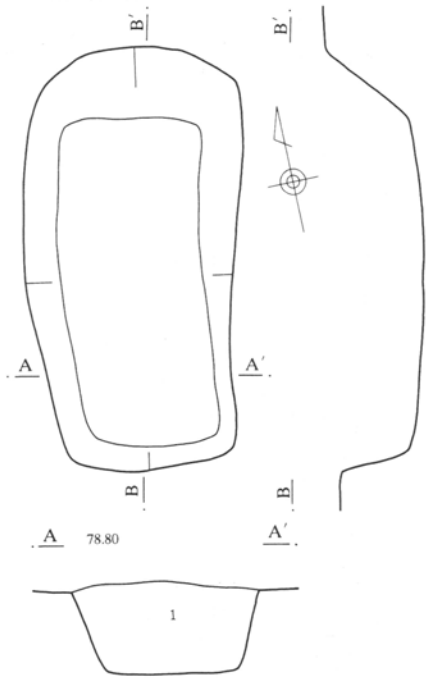
231号土坑

- 1 灰褐色土 As-B・FAブロックを含む。
- 2 褐色土 As-B含む。
- 3 黒色土 As-B混土。黒色土粒を含む。
- 4 黒色土 粘性強い。

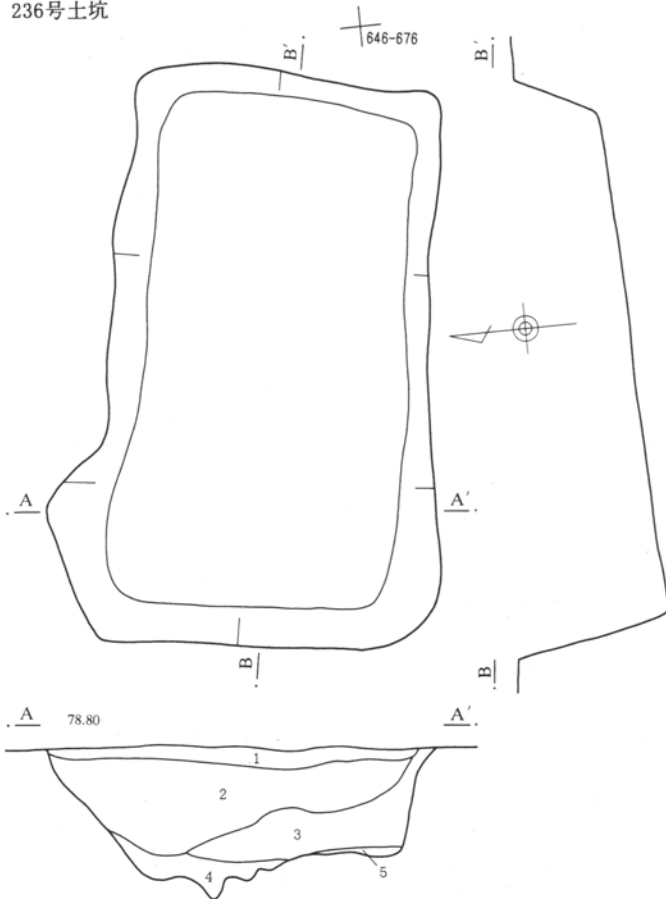
232号土坑

- 1 暗褐色土 上位As-Bを多量に含む。下位はFAブロック主体でAs-B含む。

232号土坑



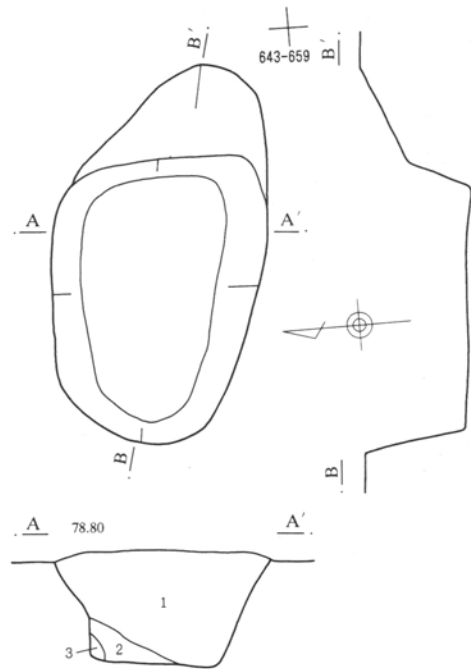
236号土坑



236号土坑

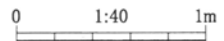
- 1 灰褐色土 FAブロック・As-Bを含む。
- 2 褐色土 FA・黒色土ブロック・As-Bを含む。しまりあり。
- 3 褐色土 FA・As-Bを含む。
- 4 褐色土 3層に近似。砂礫多い。
- 5 灰褐色土 シルト質土。As-B少量含む。

237号土坑



237号土坑

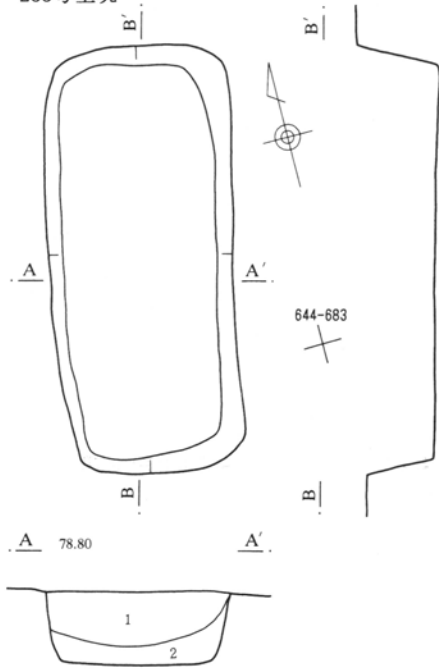
- 1 灰褐色土 やや砂質。FAブロック・As-Bを含む。
- 2 灰褐色土 やや粘性あり。FA・黒色土ブロックを少量含む。
- 3 褐色土 僅かに砂粒を含む。



第332図 土坑実測図(20)

第2章 遺構と遺物

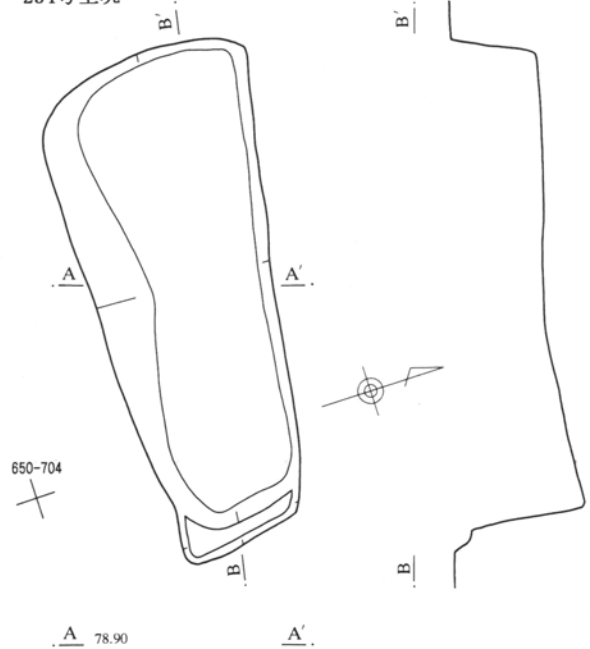
233号土坑



233号土坑

- 1 暗褐色土 FAブロック・As-Bを多量含む。
- 2 暗黄褐色土 FA主体。僅かにAs-Bを含む。

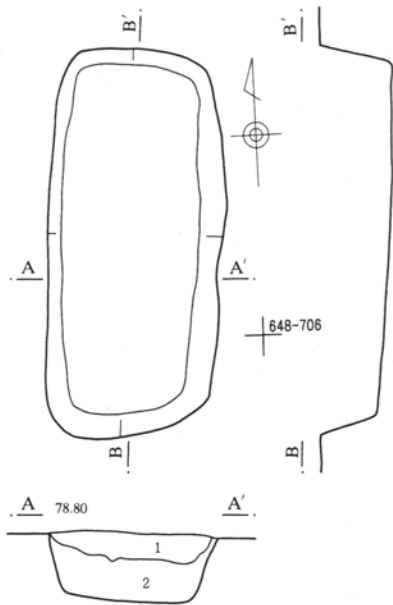
234号土坑



234号土坑

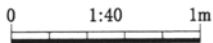
- 1 灰褐色土 As-B・FA粒含む。しまりあり。

235号土坑

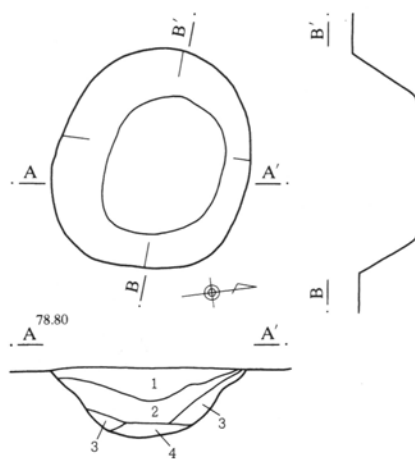


235号土坑

- 1 灰褐色土 As-B・FAブロックを含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 FAブロック・As-Bを含む。



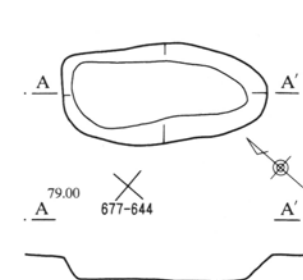
238号土坑



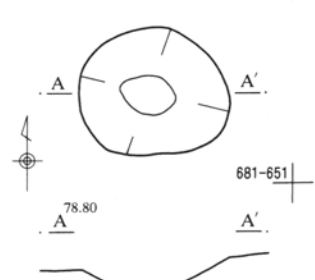
238号土坑

- 1 灰褐色土 As-B、FAブロックを含む。
- 2 黒褐色土 粘質土。As-B・FAを含む。
- 3 灰褐色土 砂質土。FAを含む。
- 4 褐色土 僅かに砂粒含む。

482号土坑



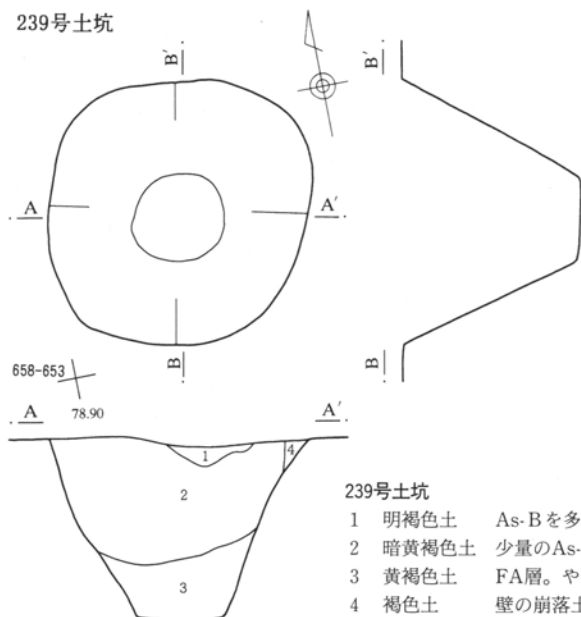
483号土坑



第333図 土坑実測図(21)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

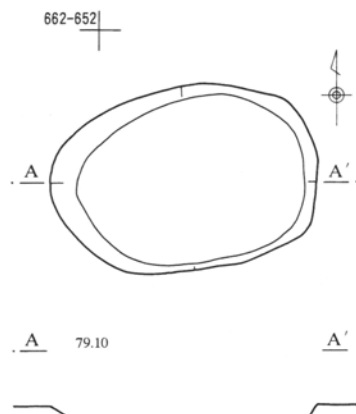
239号土坑



239号土坑

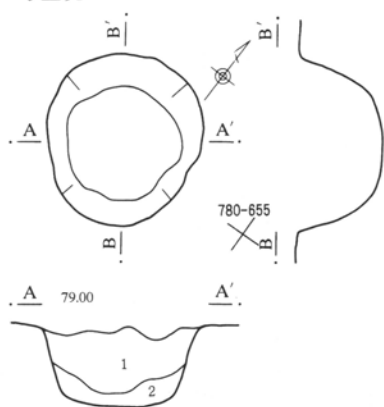
- 1 明褐色土 As-Bを多量に含む。
- 2 暗黄褐色土 少量のAs-BとFAブロックの混土。
- 3 黄褐色土 FA層。やや粘性あり。
- 4 褐色土 壁の崩落土。

481号土坑



C区

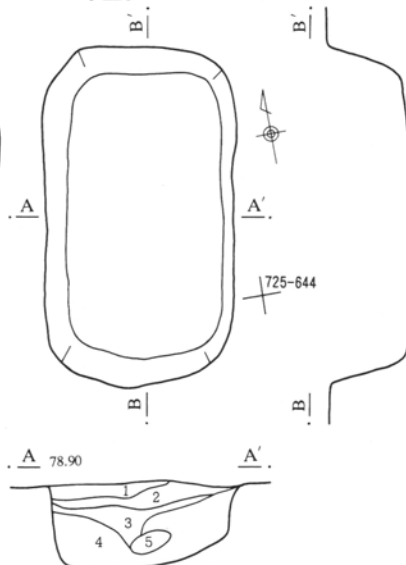
1号土坑



1号土坑

- 1 黒色土 As-Bを含む。
- 2 暗褐色土 FA粒・As-Bを含む。

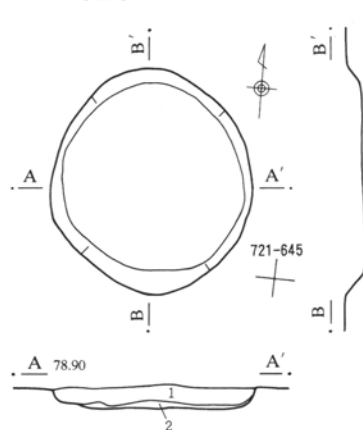
2号土坑



2号土坑

- 1 黒褐色土 As-B混土。
- 2 黒褐色土 As-B混土。砂質土。
- 3 黒褐色土 As-B、黒色土粒を含む。
- 4 明褐色土 As-B混土。砂質土。
- 5 黄灰色土 砂質土。

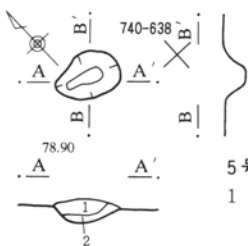
3号土坑



3号土坑

- 1 黒褐色土 As-B、鉄分を含む。
- 2 黄色土 FA粒多量に含む。

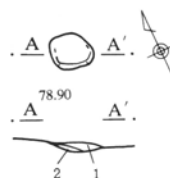
5号土坑



5号土坑

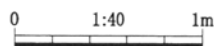
- 1 黒褐色土 As-B、FAブロックを含む。粘性なし。
- 2 黄色土 FA粒多量に含む。粘性なし。

6号土坑

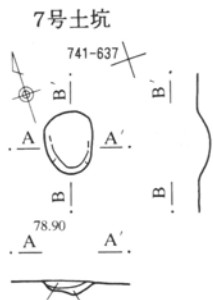


6号土坑

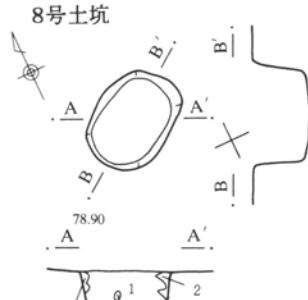
- 1 黒褐色土 As-Bを含む。
- 2 黄色土 FA粒多量に含む。



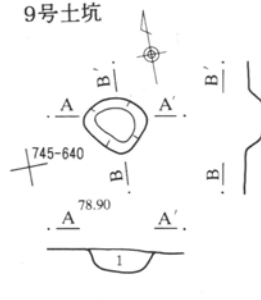
第334図 土坑実測図(22)



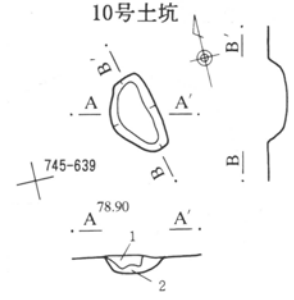
- 7号土坑
- 1 黒褐色土
As-B、FAブロックを含む。粘性なし。
 - 2 黄色土
FA粒を多量に含む。粘性なし。



- 8号土坑
- 1 黒褐色土 As-B・鉄分・FAブロックを含む。
 - 2 黄色土 FA粒含む。



- 9号土坑
- 1 黒褐色土 As-B・FAブロック・白色鉄粒を含む。



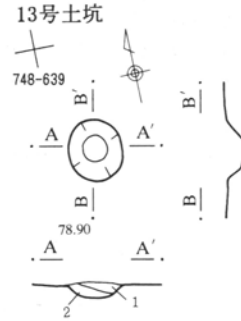
- 10号土坑
- 1 黒褐色土
FAブロックを含む。粘性なし。砂質土。
 - 2 黄色土
FA粒多量に含む。粘性なし。



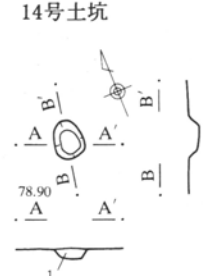
- 11号土坑
- 1 黒褐色土
As-B・FAブロックを含む。
 - 2 黄色土
FA粒を含む。



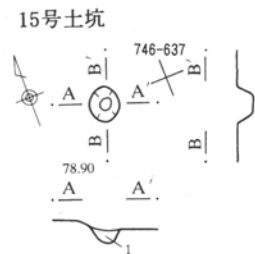
- 12号土坑
- 1 黒褐色土
砂質土。FAブロックを含む。
 - 2 黄色土
FA粒を含む。



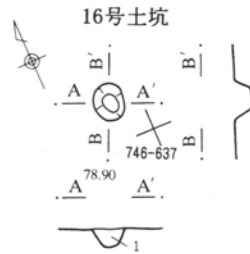
- 13号土坑
- 1 黒褐色土 As-Bを含む。
 - 2 黄色土 FA粒含む。



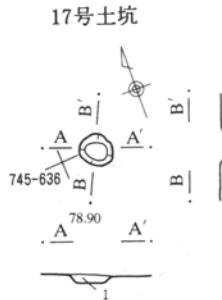
- 14号土坑
- 1 黒褐色土 砂質土。黄色土を多量に含む。



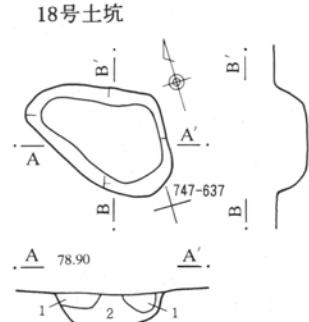
- 15号土坑
- 1 黒褐色土
砂質土。FAブロックを含む。



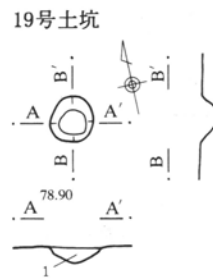
- 16号土坑
- 1 黒褐色土
砂質土。FA粒含む。



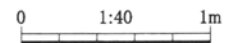
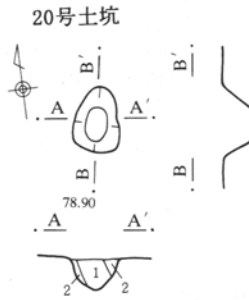
- 17号土坑
- 1 黒褐色土
砂質土。FA粒含む。



- 18号土坑
- 1 黒褐色土 砂質土。FAブロックを含む。
 - 2 黄色土 FA粒多量に含む。粘性なし。

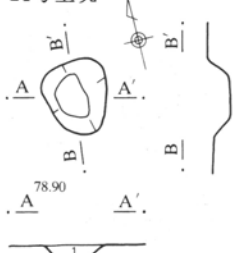


- 19号土坑
- 1 黒褐色土
砂質土。FA小ブロックを含む。
- 20号土坑
- 1 黒褐色土
砂質土。FAブロックを含む。
 - 2 黄色土
FA粒多量に含む。粘性なし。



第335図 土坑実測図(23)

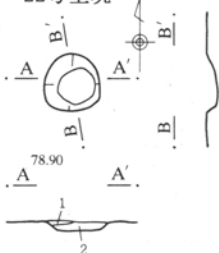
21号土坑



21号土坑

- 1 黒褐色土 砂質土。FAブロックを含む。

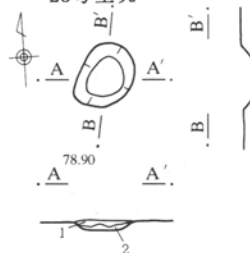
22号土坑



22号土坑

- 1 黒褐色土 砂質土。粘性なし。
2 黄色土 FA多量を含む。粘性なし。

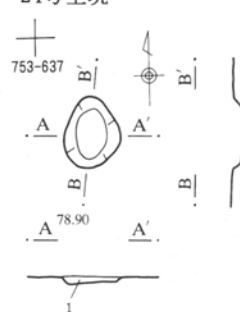
23号土坑



23号土坑

- 1 黒褐色土 砂質土。FAブロック含む。
2 黄色土 FA粒多量を含む。粘性なし。

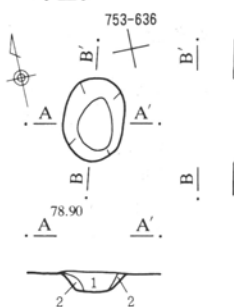
24号土坑



24号土坑

- 1 黒褐色土 砂質土。FA粒を含む。

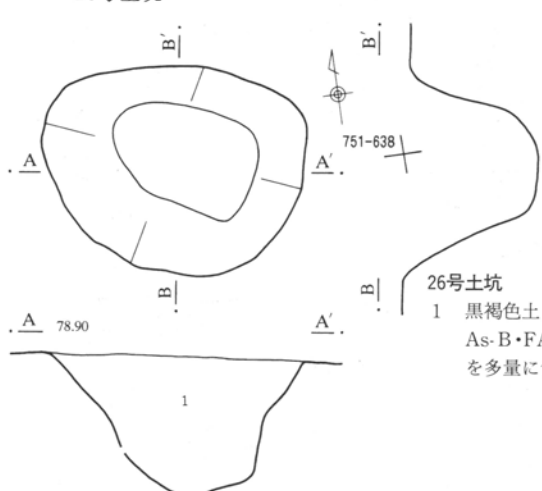
25号土坑



25号土坑

- 1 黒褐色土 粘性なし。FAブロック含む。
2 黄色土 FA粒多量を含む。粘性なし。

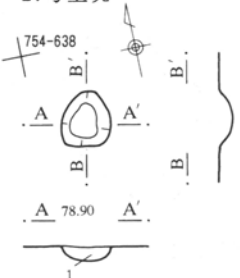
26号土坑



26号土坑

- 1 黒褐色土 As-B・FAブロックを多量を含む。

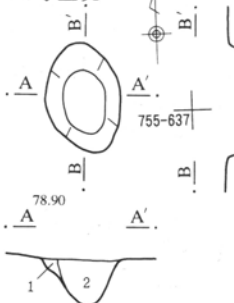
27号土坑



27号土坑

- 1 黒褐色土 砂質土。FAブロックを含む。

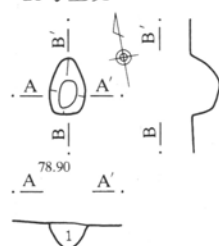
28号土坑



28号土坑

- 1 黒褐色土 砂質土。FAブロックを含む。
2 黄色土 FA粒多量を含む。粘性なし。

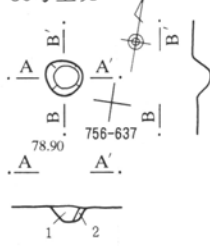
29号土坑



29号土坑

- 1 黒褐色土 砂質土。FAブロックを含む。

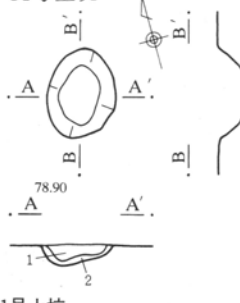
30号土坑



30号土坑

- 1 黒褐色土 砂質土。FAブロックを含む。
2 黄色土 FA粒多量を含む。粘性なし。

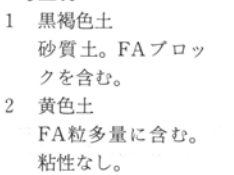
31号土坑



31号土坑

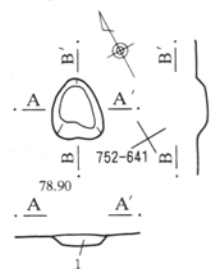
- 1 黒褐色土 砂質土。As-B少量含む。FAブロックを含む。
2 黄色土 FA粒多量を含む。

32号土坑



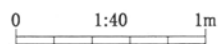
- 1 黒褐色土 砂質土。FAブロックを含む。
2 黄色土 FA粒多量を含む。粘性なし。

33号土坑



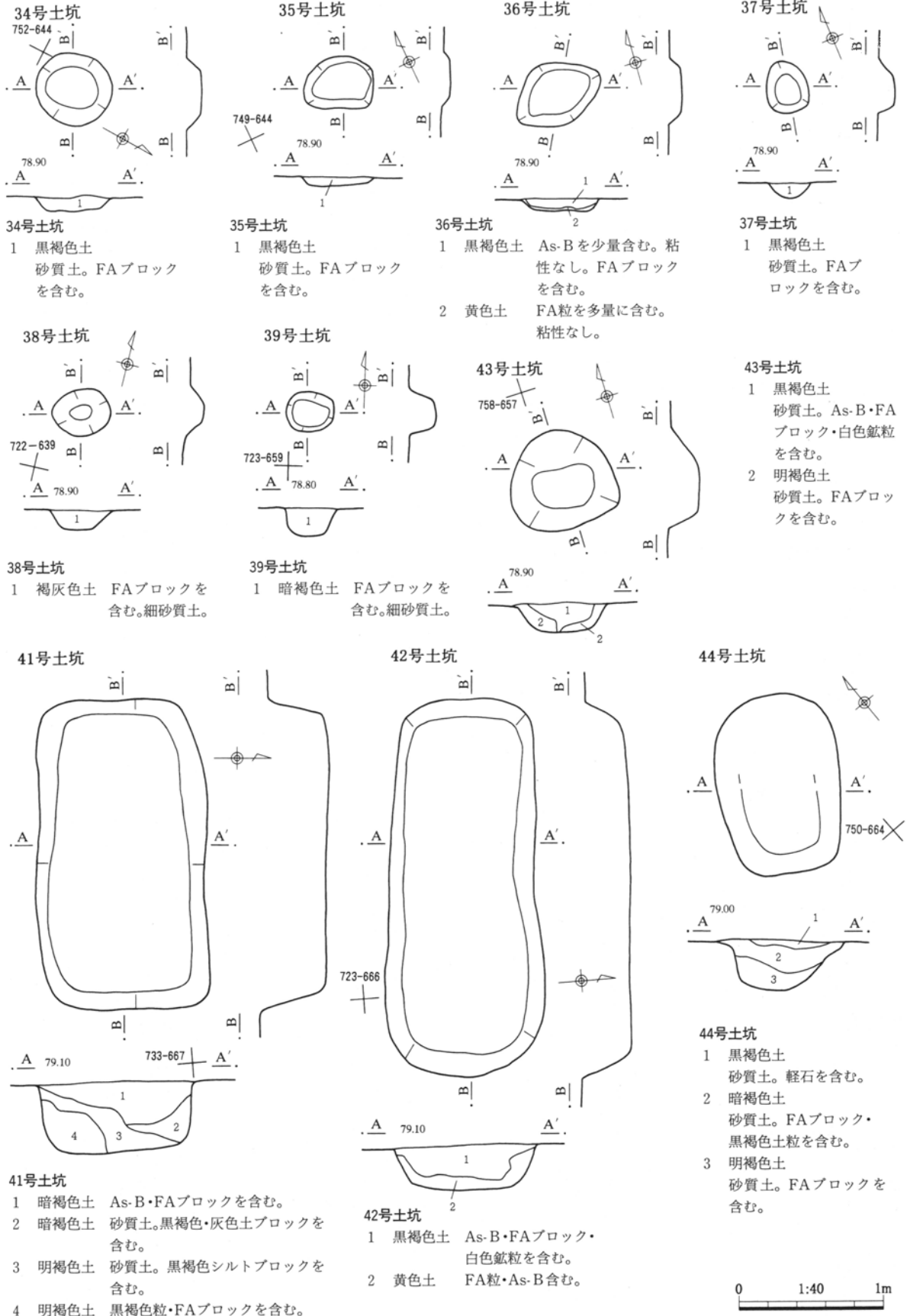
33号土坑

- 1 黒褐色土 砂質土。粘性なし。FA小ブロックを含む。

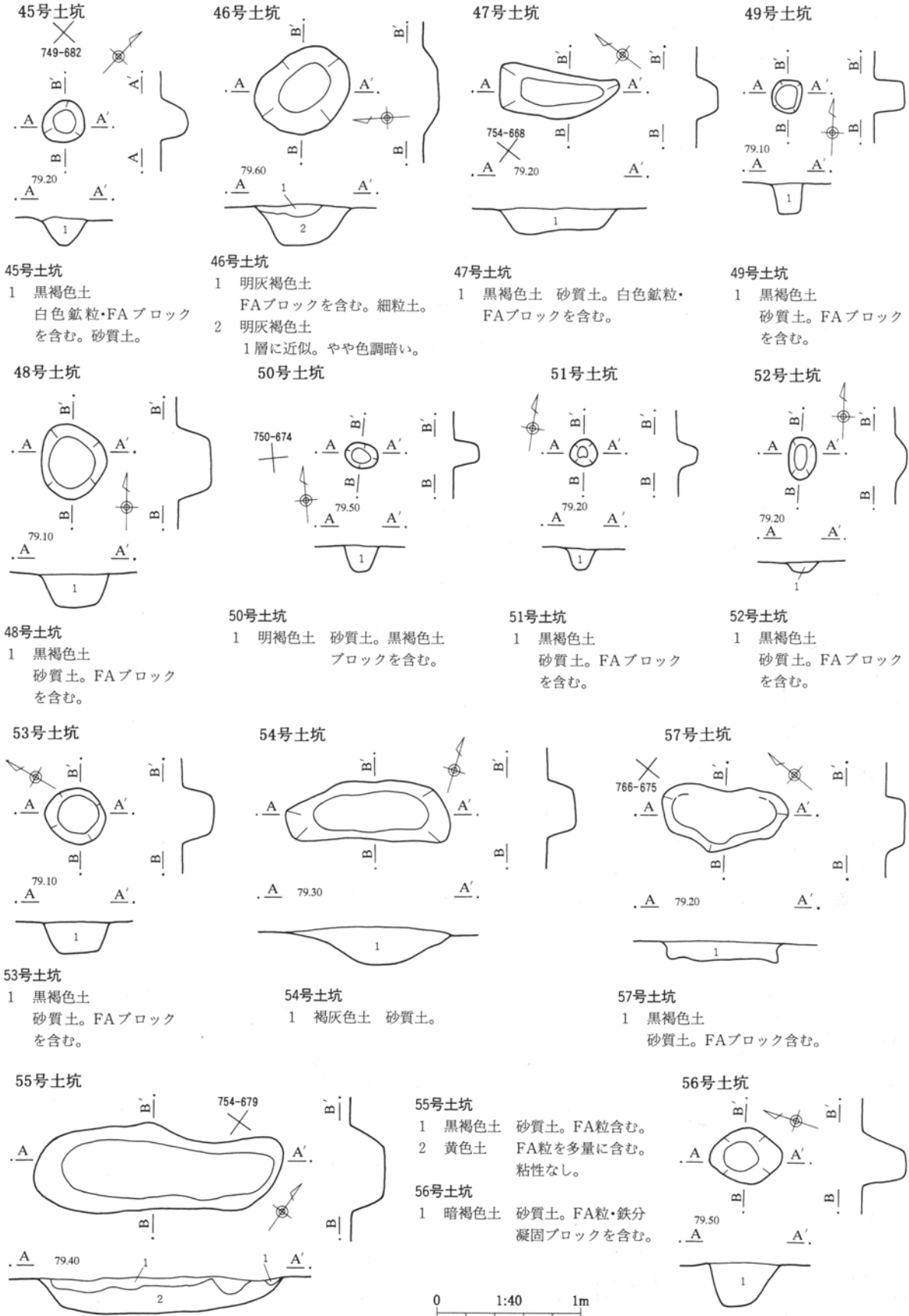


第336図 土坑実測図(24)

第2章 遺構と遺物

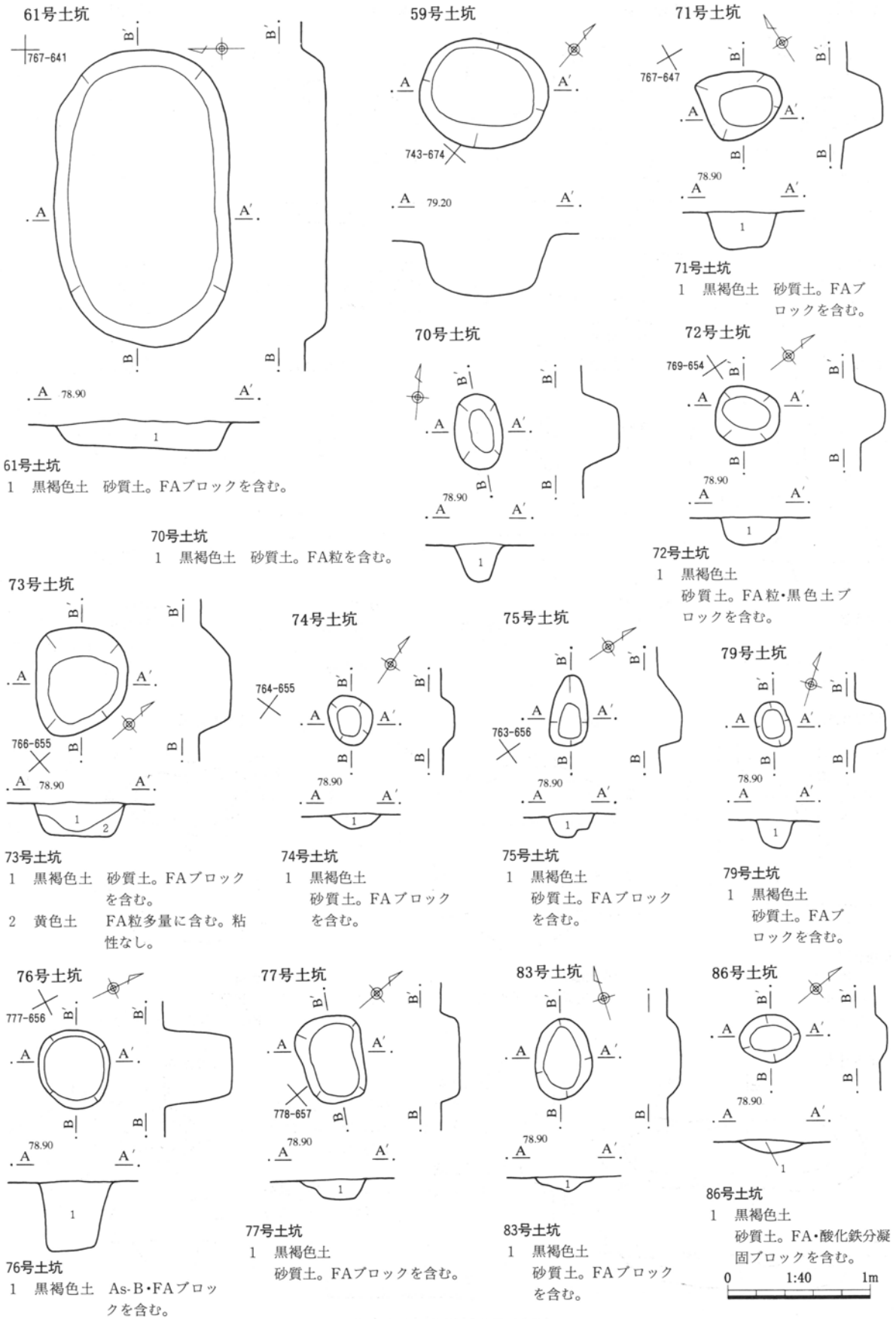


第337図 土坑実測図(25)



第338図 土坑実測図(26)

第2章 遺構と遺物



第339図 土坑実測図(27)